野内遺跡（のうちいせき）Ｃ地区

（第２分冊）

２０１２

岐阜県文化財保護センター

目　次　（第２分冊）

第３章　調査の成果（承前）…… 1
　第４節　遺物（承前）…… 1
第４章　自然科学分析…… 93
　第１節　花粉化石群集の分析…… 93
　第２節　プラント・オパール分析…… 98
　第３節　掘立柱建物跡柱根の放射性炭素年代測定…… 101
　第４節　金属器類の成分分析…… 104
　第５節　木器類の樹種同定…… 108
第５章　総括…… 116
　第１節　野内遺跡Ｃ地区で出土した木器類について…… 116
　第２節　野内遺跡Ｃ地区検出遺構の消長について…… 146
　第３節　野内遺跡とその周辺区域における土地利用の変遷について…… 149
参考文献
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第229図　６セ・15タグリッドの花粉化石分布図…… 96
第230図　６セ・15タグリッドのプラント・オパール分布図
…… 99
第231図　放射性炭素年代測定暦年較正結果……103
第232図　金属器類の成分分析位置……104
第233図　銅鏃の成分……105
第234図　耳環の成分……106
第235図　銅鈴の成分……107
第236図　木器類主要器種の出土地点分布（１）……124
第237図　木器類主要器種の出土地点分布（２）……125
第238図　野内遺跡Ｃ地区の遺構の消長……147
第239図　野内遺跡周辺の主要遺跡……150
第240図　野内遺跡・ウバガ平遺跡・三枝城跡の立地……151
第241図　野内遺跡各地区の古代の遺構……154
第242図　ウバガ平遺跡・三枝城跡の古代の遺構……155

表目次

第39表　出土地点別遺物破片数一覧表（１）……1
第40表　出土地点別遺物破片数一覧表（２）……2
第41表　出土地点別遺物破片数一覧表（３）……3
第42表　出土地点別遺物破片数一覧表（４）……4
第43表　出土地点別遺物破片数一覧表（５）……5
第44表　出土地点別遺物破片数一覧表（６）……6
第45表　出土地点別遺物破片数一覧表（７）……7
第46表　出土地点別遺物破片数一覧表（８）……8
第47表　出土地点別遺物破片数一覧表（９）……9
第48表　出土地点別遺物破片数一覧表（10）…… 10
第49表　出土地点別遺物破片数一覧表（11）…… 11
第50表　出土地点別遺物破片数一覧表（12）…… 12
第51表　出土地点別遺物破片数一覧表（13）…… 13
第52表　出土地点別遺物破片数一覧表（14）…… 14
第53表　遺物観察表（１）…… 15
第54表　遺物観察表（２）…… 16
第55表　遺物観察表（３）…… 17
第56表　遺物観察表（４）…… 18
第57表　遺物観察表（５）…… 19
第58表　遺物観察表（６）…… 20
第59表　遺物観察表（７）…… 21
第60表　遺物観察表（８）…… 22
第61表　遺物観察表（９）…… 23
第62表　遺物観察表（10）…… 24
第63表　遺物観察表（11）…… 25
第64表　遺物観察表（12）…… 26
第65表　遺物観察表（13）…… 27
第66表　遺物観察表（14）…… 28
第67表　遺物観察表（15）…… 29
第68表　遺物観察表（16）…… 30
第69表　遺物観察表（17）…… 31
第70表　遺物観察表（18）…… 32
第71表　遺物観察表（19）…… 33
第72表　遺物観察表（20）…… 34
第73表　遺物観察表（21）…… 35
第74表　遺物観察表（22）…… 36
第75表　遺物観察表（23）…… 37
第76表　遺物観察表（24）…… 38
第77表　遺物観察表（25）…… 39
第78表　遺物観察表（26）…… 40
第79表　遺物観察表（27）…… 41
第80表　遺物観察表（28）…… 42
第81表　遺物観察表（29）…… 43
第82表　遺物観察表（30）…… 44

第83表　遺物観察表（31）…… 45
第84表　遺物観察表（32）…… 46
第85表　遺物観察表（33）…… 47
第86表　遺物観察表（34）…… 48
第87表　遺物観察表（35）…… 49
第88表　遺物観察表（36）…… 50
第89表　遺物観察表（37）…… 51
第90表　遺物観察表（38）…… 52
第91表　遺物観察表（39）…… 53
第92表　遺物観察表（40）…… 54
第93表　遺物観察表（41）…… 55
第94表　遺物観察表（42）…… 56
第95表　遺物観察表（43）…… 57
第96表　遺物観察表（44）…… 58
第97表　遺物観察表（45）…… 59
第98表　遺物観察表（46）…… 60
第99表　遺物観察表（47）…… 61
第100表 遺物観察表（48）…… 62
第101表 遺物観察表（49）…… 63
第102表 遺物観察表（50）…… 64
第103表 遺物観察表（51）…… 65
第104表 遺物観察表（52）…… 66
第105表 遺物観察表（53）…… 67
第106表 遺物観察表（54）…… 68
第107表 遺物観察表（55）…… 69
第108表 遺物観察表（56）…… 70
第109表 遺物観察表（57）…… 71
第110表 遺物観察表（58）…… 72
第111表 遺物観察表（59）…… 73
第112表 遺物観察表（60）…… 74
第113表 遺物観察表（61）…… 75
第114表 遺物観察表（62）…… 76
第115表 遺物観察表（63）…… 77
第116表 遺物観察表（64）…… 78
第117表 遺物観察表（65）…… 79
第118表 遺物観察表（66）…… 80
第119表 遺物観察表（67）…… 81
第120表 遺物観察表（68）…… 82
第121表 遺物観察表（69）…… 83
第122表 遺物観察表（70）…… 84
第123表 遺物観察表（71）…… 85
第124表 遺物観察表（72）…… 86
第125表 遺物観察表（73）…… 87
第126表 遺物観察表（74）…… 88
第127表 遺物観察表（75）…… 89
第128表 遺物観察表（76）…… 90
第129表 遺物観察表（77）…… 91
第130表 遺物観察表（78）…… 92
第131表 花粉化石産出一覧…… 95
第132表 試料１ｇ当たりのプラント・オパール個数…… 99
第133表 放射性炭素年代測定試料及び処理……102
第134表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果……102
第135表 金属器類の成分分析試料一覧……105
第136表 金属器類の成分分析結果一覧……105
第137表 木器類各器種の出土地点……116
第138表 木器類各器種の樹種選択……119
第139表 木器類各器種の木取り……122
第140表 県内遺跡での下駄の出土例……129
第141表 木器類の属性一覧（１）……134
第142表 木器類の属性一覧（２）……135
第143表 木器類の属性一覧（３）……136
第144表 木器類の属性一覧（４）……137
第145表 木器類の属性一覧（５）……138
第146表 木器類の属性一覧（６）……139
第147表 木器類の属性一覧（７）……140
第148表 木器類の属性一覧（８）……141
第149表 木器類の属性一覧（９）……142
第150表 木器類の属性一覧（10）……143
第151表 木器類の属性一覧（11）……144
第152表 木器類の属性一覧（12）……145

写真図版目次

図版１　遺跡遠景
図版２　調査前状況
図版３　発掘区全景（１）
図版４　発掘区全景（２）
図版５　発掘区全景（３）
図版６　発掘区全景（４）
図版７　竪穴住居跡（１）
図版８　竪穴住居跡（２）
図版９　竪穴住居跡（３）
図版10　柵跡（１）
図版11　柵跡（２）
図版12　掘立柱建物跡（１）
図版13　掘立柱建物跡（２）
図版14　掘立柱建物跡（３）
図版15　掘立柱建物跡（４）
図版16　掘立柱建物跡（５）
図版17　掘立柱建物跡（６）
図版18　掘立柱建物跡（７）
図版19　掘立柱建物跡（８）
図版20　水田跡（１）
図版21　水田跡（２）
図版22　水田跡（３）
図版23　水田跡（４）
図版24　水田跡（５）
図版25　水田跡（６）
図版26　水田跡（７）
図版27　水田跡（８）
図版28　水田跡（９）
図版29　水田跡（10）
図版30　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（１）
図版31　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（２）
図版32　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（３）
図版33　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（４）
図版34　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（５）
図版35　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（６）
図版36　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（７）
図版37　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（８）、溝状遺構（１）
図版38　溝状遺構（２）
図版39　溝状遺構（３）
図版40　自然流路に付属する溝状遺構（１）
図版41　自然流路に付属する溝状遺構（２）
図版42　自然流路に付属する溝状遺構（３）
図版43　自然流路に付属する溝状遺構（４）
図版44　自然流路に付属する溝状遺構（５）
図版45　自然流路に付属する溝状遺構（６）、水制遺構（１）
図版46　水制遺構（２）、遺物集積、土坑（１）
図版47　土坑（２）
図版48　土坑（３）、作業風景、遺物出土状況（１）
図版49　遺物出土状況（２）
図版50　遺物出土状況（３）
図版51　遺物出土状況（４）
図版52　遺物出土状況（５）
図版53　調査後状況
図版54　縄文土器・弥生土器（１）
図版55　縄文土器・弥生土器（２）
図版56　弥生土器・弥生土器ないし土師器、土師器（１）
図版57　土師器（２）
図版58　土師器（３）
図版59　土師器（４）
図版60　須恵器（１）
図版61　須恵器（２）
図版62　須恵器（３）
図版63　須恵器（４）
図版64　須恵器（５）
図版65　須恵器（６）
図版66　須恵器（７）
図版67　須恵器（８）
図版68　須恵器（９）
図版69　灰釉陶器（１）

図版70　灰釉陶器（２）
図版71　灰釉陶器（３）、土錘・陶錘
図版72　転用硯
図版73　墨書土器・ヘラ書き土器（１）
図版74　墨書土器・ヘラ書き土器（２）
図版75　墨書土器・ヘラ書き土器（３）
図版76　墨書土器・ヘラ書き土器（４）
図版77　墨書土器・ヘラ書き土器（５）
図版78　墨書土器・ヘラ書き土器（６）
図版79　墨書土器・ヘラ書き土器（７）、緑釉陶器・土師質土器・山茶碗
図版80　緑釉陶器・輸入磁器・珠洲焼
図版81　常滑焼・古瀬戸系施釉陶器・近世陶磁器・土師質土器・山茶碗
図版82　鍬（１）
図版83　鍬（２）
図版84　鍬（３）
図版85　鍬（４）
図版86　泥除け
図版87　えぶり・田下駄・刳物容器
図版88　挽物容器
図版89　楕円形曲物容器
図版90　円形曲物容器（１）
図版91　円形曲物容器（２）
図版92　円形曲物容器（３）
図版93　円形曲物容器（４）
図版94　円形曲物容器（５）、曲物側板
図版95　組物容器・柄杓・斎串・陽物形
図版96　鳥形・馬形
図版97　椅子、下駄（１）
図版98　下駄（２）
図版99　櫛・紡錘車・栓・木簡・杓子、箸（１）
図版100 箸（２）
図版101 火付け木
図版102 模造品・串状木製品・へら状木製品、板状木製品（１）
図版103 板状木製品（２）、棒状木製品
図版104 建築部材（１）
図版105 建築部材（２）
図版106 建築部材（３）
図版107 建築部材（４）
図版108 建築部材（５）
図版109 建築部材（６）
図版110 建築部材（７）
図版111 土木部材
図版112 器具部材（１）
図版113 器具部材（２）
図版114 器具部材（３）
図版115 器具部材（４）
図版116 器具部材（５）
図版117 端材（１）
図版118 端材（２）、割板・割板残材、磨製石鏃・石包丁
図版119 石鏃・石錐・石匙・楔形石器・垂飾・スクレイパー・石錘・紡錘車・異形石棒・不明石製品
図版120 打製石斧
図版121 砥石・磨製石斧・石冠・磨石
図版122 耳環・銅鏃・銅鈴・小柄・古銭、鼈甲製品、匣鉢、羽口・鉄滓、古代瓦
図版123 花粉化石
図版124 プラント・オパール
図版125 平成17年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真
図版126 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（１）
図版127 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（２）
図版128 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（３）
図版129 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（４）
図版130 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（５）
図版131 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（６）
図版132 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（７）
図版133 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（８）
図版134 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（９）
図版135 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（10）
図版136 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（11）
図版137 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（12）
図版138 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（13）

図版139 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (14)
図版140 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (15)
図版141 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (16)
図版142 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (17)
図版143 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (18)
図版144 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (19)
図版145 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (20)
図版146 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (21)
図版147 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (22)
図版148 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (23)
図版149 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (24)
図版150 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (25)
図版151 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (26)
図版152 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (27)
図版153 平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真 (28)
図版154 平成21年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（１）
図版155 平成21年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（２）
図版156 平成21年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（３）
図版157 平成21年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（４）
図版158 平成21年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（５）

第39表　出土地点別遺物破片数一覧表（１）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																								合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類	木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
11SP	－	－								1																	1
25SP	－	－								1																	1
29SK	－	－					4	1		2	1																8
31SP	－	－																				1					1
39SP	－	－					1																				1
41SP	－	－			1																						1
43SP	－	－			1						1																2
50SP	－	－																				3					3
56SK	－	－					10	1		1					2							3					17
57SP	－	－					1																				1
58SK	－	－					1			3																	4
60SK	－	－						1		2									1								4
63SP	－	－						1		1																	2
65SK	－	－						2																			2
70SD	－	－				30	14	15		4	3											12					78
97SP	－	－			2																						2
106SP	－	－			1																						1
141SP	－	－																					1				1
145SP	－	－					1																				1
152SP	－	－						1			1																2
153SK	－	－						1																			1
154SP	－	－				1																					1
158SP	－	－			1																						1
160SP	－	－					1																				1
167SP	－	－						1																			1
168SK	－	－					2	3																			5
172SK	－	－					3																				3
180SK	－	－			1		1																				2
182SX	－	U																				1					1
		－			1	11	66	19		31	1																129
192SD	－	U																				1					1
		－					41	7		14	1									3		1					67
193SP	－	－					4																				4
196SD	－	－			1		26	29		2																	58
198P	－	－						1																			1
205SP	－	－					1																				1
206SP	－	－					2																				2
207SD	－	－						1																			1
212SP	－	－					2																				2
213SK	－	－			2		2	1														7					12
222P	－	－																				2					2
223P	－	2																				1					1
		－					2			1																	3
232SK	－	－						1																			1
234SD	－	－																				1					1
237SP	－	－					1																				1
238P	－	－																				1					1
239P	－	1			1																	1					2
241P	－	－																				5					5
242SP	－	－					1	1															1				3
247SP	－	－					2	1														31					34
299SP	－	1																				1					1
301SP	－	－																				1					1
310SM	－	U																				32					32
		－			78	14	464	235	1	189	9				2	2		4				145	2			2	1,147
310SM～384ST	－	断ち割り					6	7		7	1											19					40
311SD	－	M																				18					18
		U																				24					24
		－			22	1	389	67		139	3			1	7	2		2				827	1				1,461
311SD～386ST	－	Ⅲ（断ち割り）																				30					30
311SD～391ST	－	Ⅲ（断ち割り）																				3					3
311SD～392ST	－	Ⅲ（断ち割り）						1	1													83					85
		断ち割り						54																			54
311SD～393ST	－	Ⅲ（断ち割り）			3		3				1											75					82
312SP	－	－					1																				1
315SK	－	－						1																			1
317SP	－	－			1																						1
318SP	－	U																				1					1
		－								1																	1
320SM	－	－					1	1																			2
321SD	－	M																				79					79
		U																				43					43
		－			9	11	191	52		9	2		1							1		281	2				559
323SD	－	M																				1					1
		－			1		1	1														2					5

第40表　出土地点別遺物破片数一覧表（２）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																									合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類	木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘																
324SD	－	1			41	1	302	63		9													122					538
		2	3		18	5	58	13		2													39					138
		U					40	10		7	2												17					76
		護岸			20	6	148	38		2													383					597
		－			8		38	16		1			8										25	2			1	99
327ST～386ST	－	Ⅲ（断ち割り）					2	1															11					14
330SD	－	U																					3					3
		－			1		13	2																				16
335SK	－	－			8																							8
338SP	－	－					3																					3
339SK	－	－				11	121	62	2	20	1												65			1		283
		M																					5					5
		U																					1					1
		L																					2					2
343SK	－	－					6																					6
345SP	－	－					1																					1
346P	－	1																					1					1
348SD	－	－	2		24		17	7		1													17	1				69
352P	－	1																					1					1
354P	－	－					1																					1
361SD	－	－			53		70	5	1														44	1				174
364SD	－	－			2		23	2		8	1												27					63
365SW	－	－			4		28	11		11								1					29					84
366SD	－	1			6		29	7	1	9													2					54
367SD	－	－			88	24	775	204	6	128	12			1				1		1			173	2		4	3	1,422
368SD	－	－			9	1	55	24		31	4				2								19					145
372SD	－	－			44	19	157	55	1	32	6	1			1								72	3			5	396
373SD	－	－			25		79	37		19	2												22					184
374SD	－	－			8		1																1	1				11
375SP	－	－					1																					1
376P	－	－					1																					1
379SP	－	－					2																					2
381SP	－	－					1																					1
383SK	－	－						1																				1
384ST	－	断ち割り																					11					11
385ST	－	断ち割り																					2					2
385ST～389ST	－	断ち割り					1																10					11
388ST	－	断ち割り						1																				1
388ST～390ST	－	断ち割り						1															1					2
390ST～391ST	－	断ち割り			1																		5					6
390ST～395ST	－	Ⅲ（断ち割り）			1			1															5					7
391ST～395ST	－	Ⅲ（断ち割り）					1	1															1					3
391ST～392ST、395ST～396ST	－	Ⅲ（断ち割り）			2		3	5		3													54					67
392ST～396ST	－	Ⅲ（断ち割り）																					22					22
392ST～393ST、397ST～398ST	－	Ⅲ（断ち割り）			1																		37					38
393ST～398ST	－	断ち割り			2																							2
394ST～388ST	－	断ち割り			1		9	1		2													18					31
396ST～400ST	－	Ⅲ（断ち割り）					3	1															35					39
		断ち割り						2			1																	3
397ST～398ST	－	Ⅲ（断ち割り）			1		1	1															11					14
398ST～402ST	－	Ⅲ（断ち割り）						1		1													13					15
404SP	－	－																					1					1
1005SK	－	－			1																							1
1006SK	－	－					1																					1
1019NW	－	－																					4					4
1057SD	－	－			4																		3	1				8
1058SP	－	－				1																						1
1059SP	－	－			1																							1
1061SD	－	－		3	87	22	584	222	15	272	11	1				5	1	2				1	1,424	2	1	3	1	2,657
1066NW	－	－																					5					5
1067NR	－	－		1	496	3	1	1															818	40				1,360
1070NW	－	－																					3					3
1071SD	－	－			28																		238					266
1074SU	－	－					9																69					78
1075ST	－	－			1																							1
1077ST	－	断ち割り																					15					15
1079ST	－	－			3																		3					6
1080ST	－	－			4																							4
1085ST	－	－			2																		3	1				6
1202SK	－	－			1															1								2
1219SD	－	－			3		14	5		6										2			29	1				60
1220SB	－	－			79	459																						538
1221SK	－	－			2																		1					3
1223SK	－	－			1																							1
1229SK	－	－								1																		1
1231SK	－	－					1	1		3																		5
1232SB	－	－			18																							18
1239SK	－	－			1																			1				2
1242SP	－	－			1																							1

第41表　出土地点別遺物破片数一覧表（３）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類						
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
1243SK	－	－			2		10	6		19	2								1		1	7					48
1244SD	－	－			10																		2				12
1245SD	－	－			2		10	1		6												2					21
1250SM	－	－			509		660	183		392	16				4	5	1					87	11		2		1,870
1251SK	－	－			2																						2
1252ST	－	覆土			218		260	67		125	10					3	1		1	1		2	239	1				928
1252ST～1253ST	－	断ち割り			22		7			3																	32
1252ST～1254ST	－	断ち割り			5																						5
1252ST～1255ST	－	断ち割り			59	1	79	27		63	3											205	1		1		439
1252ST～1256ST	－	断ち割り			19		1	1	3													3					27
1253ST	－	断ち割り			4					1																	5
		覆土	240		307	1	374	166		244	11				5	4	2		2	1			584	4	1	1	1	1,948
1253ST～1255ST	－	断ち割り			43		36	20		42	1		1			1							116	2				262
1253ST～1256ST	－	断ち割り			17		31	19		26	3												70					166
1254ST	－	覆土			76	1	45	17	1	21													75	1				237
1254ST～1255ST	－	断ち割り			6		7	4		3													21					41
1255ST	－	覆土			238	4	1,047	324	1	523	40	1	1		5	15	4						1,169	16		10	3	3,401
1256ST	－	断ち割り			5		12	2		4													2					25
		覆土			27		32	6		31	4	1											63					164
1257D	－	－			1																						1
1258SK	－	－			2		8			7						1							6	1				25
1259SK	－	－																		1							1
1270SK	－	－				3	1			1													2					7
1276SP	－	－			12																						12
1278SP	－	－			3																						3
1279SP	－	－			2																						2
1283SK	－	－			1		2															13					16
1286SD	－	－			4		7	4		3																	18
1293SD	－	－	2		43	125	46	6		1	1									1			3	4				232
1302SK	－	－					3			3																	6
1303SK	－	－			2	4	33	3		8														1				51
1305SD	－	－			21		55	10		23	3				1		1						10	1		1		126
1309SD	－	－			15		42	9		20	2												1					89
1310SD	－	－			66	3	62	19		15							1						3	1		1		171
1311SD	－	－		1	271	2	64	13		18	5													7		1		382
1315SD	－	－			32																							32
２キ	NW	Ⅱ					1																					1
		－																						1				1
	SE	－					2	3		2										3			1					11
	SW	Ⅱ						2		1																		3
２ク	NE	－								1										1								2
	SW	Ⅱ					5	1		1													1					8
		－					4	5		3															1			13
２ケ	NW	－					1																4					5
３オ	SW	－					1	2		1	1									1		1						7
３カ	NE	Ⅱ					6	1		1					1				1	3	1							14
	NW	Ⅱ					1	1		1																		3
	SW	Ⅱ						1			1																	2
３キ	NE	Ⅱ																					1					1
	NW	Ⅱ								1																		1
	SE	Ⅱ						3		4	1																	8
		Ⅲ					2	3		1										1								7
	SW	Ⅱ					28	20		19	2																	69
		Ⅲ						1																				1
３ク	NE	Ⅱ			2		4			1													2					9
		Ⅲ																		1								1
	NW	Ⅱ					6	1																				7
	SW	Ⅱ			2		1			1										1								5
３ケ	NE	Ⅱ			1		1	2															1					5
		－					3			1																		4
	NW	Ⅱ			1		2			1											1			1				6
		Ⅲ			17		6	1		1	1													1				27
	SW	Ⅲ			6		7	1															2					16
３コ	NW	－					1																					1
４カ	NE	Ⅱ					1													1								2
	NW	－					6	12		4							1			1	1							25
	SE	Ⅱ					2																					2
		Ⅲ																	1									1
	SW	Ⅱ					1			2													1					4
４キ	NE	Ⅱ					1			1																		2
	NW	Ⅱ					1																					1
	SE	Ⅱ			1		50	13		5	3																	72
		Ⅲ					1																					1
	SW	Ⅱ					6	3		1					1						1							12
		Ⅲ						1		2																		3
	－	Ⅱ						1																				1

第42表　出土地点別遺物破片数一覧表（４）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類						
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
４ク	NE	Ⅱ			2		1	3																			6
	NW	Ⅱ			2		14	4														1					21
		Ⅲ			9		33	3		2	5											3					55
	SE	Ⅱ			2		15	6		2																	25
		Ⅲ					6	2		2	2											1					13
	SW	Ⅱ			7		40	16		18	2		1									1					85
		Ⅲ			8		37	3		11	3											12					74
４ケ	NE	Ⅲ			21	7	41	6		6	2											3					86
	NW	Ⅱ			18		34	8		6	1											2					69
		Ⅲ			10		44	10		2												2	3				71
	SE	Ⅱ			5		9															1					15
		Ⅲ					3			3	1																7
	SW	Ⅱ			10		50	56		4	2											12		1			135
		Ⅲ			16		13	19		2												14	3				67
４コ	NE	Ⅱ			1		1	1														3					6
		Ⅲ			1		2	3														3	1				10
	NW	Ⅱ			6		29	6		4	2											44					91
		Ⅲ			5		29	11		5												30					80
		－					1																				1
	SE	Ⅲ																				27					27
	SW	Ⅱ			3		10	2		3	1											184	1				204
		Ⅲ			8		3	1			1											38					51
４サ	NW	Ⅱ			1		3															35					39
	SW	－																				1					1
５カ	NE	－						2		1										1							4
	SE	Ⅱ					2																				2
		－					15	5		3	1						1			4							29
	SW	－					19	12		14	2									3		1	1				52
５キ	NE	Ⅱ					1																				1
	NW	Ⅱ					1																				1
		Ⅲ					5			2																	7
		－																				1					1
	SE	Ⅱ			1																						1
	SW	Ⅲ								1																	1
５ク	NE	Ⅱ						2		1	1																4
		Ⅲ			2		1	1																			4
	NW	Ⅲ			1		2	1																			4
	SE	Ⅱ					3			2	1											2	1				9
		Ⅲ			5		23	4		6													1				39
	SW	Ⅲ			1		2									1						1					5
５ケ	NE	Ⅱ			2	1	115	29		9	6											29					191
		Ⅲ			5		66	12		17												16					116
	NW	Ⅱ					36	6		2												6	1				51
		Ⅲ			9	2	81	27	1	18	2											150			1		291
		－				2	23	14		6																	45
	SE	Ⅱ			48	1	236	121	1	30	9											121					567
		Ⅲ	1		43	1	104	125		7	2											73	1				357
		－						4																			4
	SW	Ⅱ			16	2	208	61		37	7							1				124	1				457
		Ⅲ			5		86	23		19	3											182			1		319
		U																				1					1
		暗渠内																				3					3
５コ	NE	Ⅱ			11		47	19		11	7				1							211	1				308
		Ⅲ			1		9	2							1							127					140
		暗渠内																								1	1
		－					1															4					5
	NW	Ⅱ			3		89	23		36	3											255					409
		Ⅲ					4															44					48
	SE	Ⅱ			2		20	8		5												80					115
		Ⅲ					1	6		1												17					25
	SW	Ⅱ			4		37	4		17	1				1							225	2				291
		Ⅲ																				2					2
５サ	NE	Ⅱ			2		11	6		6										1		123		1			150
		Ⅲ					1															10					11
	NW	Ⅱ	1		1		34	2		11					1							174					224
		Ⅲ					4	1														3					8
		攪乱					1																				1
	SE	Ⅱ			1		12	3														46					62
		Ⅲ																				8					8
		－																				1					1
	SW	Ⅱ	1		1		26	9		12	1									1	1	113					165
		Ⅲ					1	1														13					15
５シ	NE	Ⅱ			1		2	2														12					17
		Ⅲ					2															15					17
	NW	Ⅱ			5		35	21		19	5											189	1				275
		Ⅲ					1	8			1											22					32
		－								1												1					2
	SE	－					2																				2
	SW	Ⅱ			5		4	4		1										1		43					58
		Ⅲ						6			1																7
６カ	SE	－			1		16	7		7	2											2					35

第43表　出土地点別遺物破片数一覧表（５）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類					
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
６キ	NE	Ⅲ					2			4	1												1				8
		−					5	5		1												1					12
	NW	−					4	1		3										1		1					10
	SE	Ⅲ			2		12	8		19	1									1		22					65
	SW	Ⅲ			1		3	1		6	1									1		6				1	20
６ク	NW	Ⅱ					1	1		4	1											2					9
	SE	Ⅱ					1	3		2						1							1				8
		攪乱					9	1												1							11
６ケ	NE	Ⅲ			2		38	4														6					50
		−					7	3														1					11
	NW	Ⅱ					3		1		1																5
		Ⅲ					1																				1
	SE	Ⅱ			2		213	34		81	8				1	1						407	1				748
		Ⅲ				1	14	5		4	4		1		1							9		1			40
	SW	Ⅱ			1		57	17		28	5											257					365
		Ⅲ			3		5	1		9												19					37
		−																				1					1
６コ	NE	Ⅱ			2		114	13	1	37	7						1					173					348
		Ⅲ						2		1												33					36
	NW	Ⅱ			2		130	46		52	11				1	3				3		375	1				624
		Ⅲ								1						1											2
	SE	Ⅱ			4		23	5		19	2											80	2				135
		Ⅲ					1															9					10
	SW	Ⅱ			11	1	89	15		40	5				1	5						275	2	1			445
		Ⅲ			1		5	1												1		38					46
６サ	NE	Ⅱ			8		55	10		30	4											212					319
		Ⅲ					1															6					7
	NW	Ⅱ			5		42	8		17	2					1						119					194
		Ⅲ																				1					1
	SE	Ⅱ			2		37	7		18	2			1	1	2				7		360					438
		Ⅲ					5															15					20
	SW	Ⅱ			6	1	24	10		9	1				1				4	2	2	149					209
６シ	NE	Ⅱ			7		24	9		7												265			1		313
		Ⅲ																				7					7
	NW	Ⅱ			3		23	4		13	1									1	1	417		2			465
		Ⅲ					1	14														19					34
	SE	Ⅱ			6	1	8	1	1	7	2					2				2		229					259
		Ⅲ					2			1												7					10
	SW	Ⅱ			7		12	7		7	1						1			1	1	236	1				274
		Ⅲ			1																	56					57
６ス	NE	Ⅱ			2		5	6			1				1							67	1				83
	NW	Ⅱ			3		6	5		2	1			1						2	3	127		1			151
		Ⅲ																				15					15
		−			1																	3					4
	SW	Ⅱ			2		4	1		4										4	1	112	1				129
		Ⅲ	1																			11					12
６セ	NW	−						1																			1
７キ	NE	−						1		1																	2
	SE	−								1										2							3
	SW	−					1	1		3												1					6
７ク	SE	Ⅱ					5																				5
７ケ	NE	Ⅱ			1																						1
		Ⅲ								1												1					2
	SE	Ⅱ					5	8		1	1																15
		Ⅲ			1		8	1		3	2											18					33
	SW	Ⅱ																				38					38
		Ⅲ			1		12	3		5											1	9					31
７コ	NE	Ⅱ			1		117	37		52	18				1	1					1	2	271					501
		Ⅲ					3	2															1					6
		−																					112					112
	NW	Ⅱ			6		81	32		24	6					2				1			107	1				260
		Ⅲ					3	2															9					14
	SE	Ⅱ			6		60	24		39	5				2							1	714		2			853
		Ⅲ			1		17	4		15													1					38
		−																					1					1
	SW	Ⅱ			15	2	143	85		67	6			1		6				1			1,230	1			1	1,558
		Ⅲ			2		5		1	2													32					42
		−																					3					3
７サ	NE	Ⅱ			14		66	12		28	1				1								437	1				560
		Ⅲ			3			1															1					5
		−						1																				1
	NW	Ⅱ			8		65	29	1	27	2				1	1	2						634		1			771
		Ⅲ						1															17					18
	SE	Ⅱ			7		38	11		17	1												78	1				153
		Ⅲ																					3					3
	SW	Ⅱ			9		32	9		21					1					1		1	139					213
		Ⅲ			1			1																				2

第44表　出土地点別遺物破片数一覧表（６）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類						
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
7シ	NE	Ⅱ			3		34	6		10	2					1	1			2	3		335					397
		Ⅲ					1	1		1													3					6
		－																					1					1
	NW	Ⅱ			2		19	9		19	1												161					211
		Ⅲ																					1					1
		－																					1					1
	SE	Ⅱ			7		15	8		8	1					1					1		115					156
		Ⅲ																					15					15
		－																					1					1
	SW	Ⅱ			6		15	5		7													179					212
		Ⅲ					2																11					13
7ス	NE	Ⅱ			2		17	2		10													138					169
		Ⅲ																					20					20
		－								1																		1
	NW	Ⅱ					10	2		7												1	40					60
		Ⅲ					1			1											1		27	1				31
	SE	Ⅱ			12	3	12	3		8									1	1	1		47	2	1			91
		Ⅲ						4															70					74
	SW	Ⅱ			6		7	5		14	2			3		1							139					177
		Ⅲ																					11					11
7セ	NE	Ⅱ			4		14			8											1		29					56
	NW	Ⅱ			8	7	5	3		1	1												32			1		58
	SE	Ⅱ					1																					1
	SW	Ⅱ			1																		20					21
		Ⅲ			1		2																					3
8ク	SE	－					1	1															1					3
	SW	－			1		4	1		2																		8
8ケ	NW	Ⅲ						1																				1
	SE	Ⅲ			2		1	2															1	1				7
	SW	Ⅱ					1	1		1																		3
		Ⅲ					1			2																		3
8コ	SE	Ⅱ			3	1	135	86	2	72	15				1	2				4			71	1				393
		Ⅲ			11		48	11		20																		90
		－																					1					1
	NE	Ⅱ			4		18	6		9													3					40
		Ⅲ			3		12	6	1	6													4					32
	NW	Ⅱ					2			1																		3
		Ⅲ								1																		1
	SW	Ⅱ			3		61	19		14	3																	100
		Ⅲ			3		6																3					12
8サ	NE	Ⅱ			3	1	136	52		69	4					5				4		1	486	1				762
		Ⅲ			1		16	5		1	1												11					35
	NW	Ⅱ			4		86	40		32	6				1	4					2	1	137			4		317
		Ⅲ					13	9		14	2												8					46
	SE	Ⅱ			9		58	18		41	3					1				2			100	1				233
		Ⅲ								5																		5
		－																					1					1
	SW	Ⅱ			9		254	102	1	148	23	1			1	5		1		1		5	330	1			1	883
8シ	NE	Ⅱ			17		48	22	1	24	5					1				2			157	1				278
		Ⅲ			3		3																15					21
	NW	Ⅱ			5		84	53		70	4					3							227				1	447
		Ⅲ					1	1								1												3
	SE	Ⅱ			9		24	11		11	2					1				1			127					186
		Ⅲ			1		9	10		7	1					2							18					48
	SW	Ⅱ			15		52	22	1	27	6					2							72	2		2		201
		Ⅲ			2					1													8					11
8ス	NE	Ⅱ			6		21	8		17	1												40					93
		Ⅲ			1		2																8					11
	NW	Ⅱ			3		29	7		12	1									1			88		1			142
		Ⅲ																					24					24
		攪乱																		1								1
	SE	Ⅱ			1																		2					3
	SW	Ⅱ			7		5	1		2													24					39
		Ⅲ						1																				1
		攪乱			2		3													2								7
8セ	NE	Ⅱ			1																		1					2
	NW	Ⅱ			15																		1					16
		Ⅲ			21																							21
	SE	Ⅱ			1																		1					2
	SW	Ⅱ			1																							1
9ケ	NE	－					3																					3
	SE	Ⅲ					1																					1
		－					1	1		5																		7
	SW	－						3		3																		6
9コ	NE	Ⅱ					1																					1
	NW	Ⅱ					1			1																		2
	SE	Ⅱ			9		10	5		1																		25
		Ⅲ					1																					1
	SW	Ⅱ			1			1									1			1								4

第45表　出土地点別遺物破片数一覧表（７）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																		木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類					
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘														
９サ	NE	Ⅱ			7		96	53		62	9					3				1			40	1				272
	NW	Ⅱ			2		15	5		9																		31
		Ⅲ																				1						1
	SE	Ⅱ			5		96	58		42	4												26	1	1	1		234
		Ⅲ					6	1																				7
		－																					6					6
	SW	Ⅱ					19	8		6																		33
		－					1			1																		2
９シ	NE	Ⅱ			2		180	80		92	11		1		1	8			1	2		1	122					501
		Ⅲ					2			1																		3
	NW	Ⅰ			6		10	5		5																		26
		Ⅱ						1		1																		2
		Ⅲ					5			1																		6
		－					2	1		3										2	1							9
	SE	Ⅱ			9		71	20	1	42	4				1	1							46					195
	SW	Ⅰ																							1			1
		Ⅲ			6		42	11		17	3				2								67	1				149
		－					4	2																				6
９ス	NE	Ⅱ			7		9	6	1	11	1												10					45
		Ⅲ			4		1			1																		6
		－									1																	1
	NW	Ⅲ			6		37	3		16	3												51					116
	SE	Ⅱ			7		5			1													20					33
		Ⅲ			13		2	1		1												1	2					20
	SW	Ⅱ			3			1															1					5
		Ⅲ			6		4	2		3													8					23
		－					1																					1
９セ	NE	Ⅱ			7		3			1													3					14
		Ⅲ			2			1																				3
	NW	Ⅱ			25		1	8			2												1					37
		Ⅲ			2																	3						5
	SE	Ⅱ			7		1																					8
		Ⅲ			5																							5
	SW	Ⅱ			1																							1
９ソ	NE	Ⅱ			4																		5					9
		Ⅲ																						1				1
	NW	Ⅱ			1																		1					2
		Ⅲ			5																							5
10サ	NE	Ⅰ			3			1		2													1					7
		KDT			1																							1
		－					3	2		1					1													7
	NW	Ⅰ					1																					1
	SE	Ⅰ			11		2	1																				14
		Ⅲ			2																							2
	SW	Ⅰ			2		3			1																		6
		Ⅲ					1																					1
10シ	NE	Ⅰ			24		17	5		11	2																	59
		Ⅲ			5		16			2													2					25
		KDT					2			1																		3
	NW	Ⅰ			11		9			1						1												22
		Ⅱ								3											1							4
		Ⅲ			2																							2
		KDT								1																		1
	SE	Ⅰ			6		17	4		8					1	1							4					41
		Ⅲ			1		9	13		26					1	1	3			1			23					78
		KDT						1		1							1						1					4
	SW	Ⅰ			1		4	2		9													1					17
		Ⅱ			1		2																					3
		Ⅲ			7		13	3		15																		38
		KDT			6		5	2																				13
10ス	NE	Ⅲ			3		49	10		29	2					2							69					164
		KDT			1		2	1		8													1					13
	NW	Ⅰ			7		11	5		19	1					1							8	3				55
		Ⅲ			5		28	7		35	1				1								28					105
		KDT			2		4			7																		13
	SE	－					1																					1
		Ⅲ			3		9			7													18					37
	SW	Ⅲ			13		17	4		13	3												32		1			83
		－								1																		1
10セ	NE	Ⅱ			7		5			2													2					16
		Ⅲ			7		1	2															1					11
	NW	Ⅱ			3																							3
		－								4																		4
	SE	Ⅱ			6		1			1													1					9
		Ⅲ			1																							1
		YH			2																		3					5
	SW	Ⅱ			10		1																					11
		Ⅲ			6																		2					8
		YH			18																		1					19
		YT			3																							3
		－																					1					1

第46表　出土地点別遺物破片数一覧表（８）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類						
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
10ソ	NE	Ⅱ			19																						19
		Ⅲ			17																	3					20
		YT			16																						16
		－			8																	8					16
	NW	Ⅲ			12																	10					22
		YH			13																						13
		YT			1																	2					3
		－																				1					1
	SE	Ⅱ			1																						1
		Ⅲ			5																						5
		－			7																	1					8
	SW	Ⅱ			3																	7					10
		Ⅲ			1																						1
11シ	NE	Ⅰ			1		6	1		1													1				10
		Ⅲ			2			1		3																	6
	NW	Ⅰ			6		7	1		3												1					18
		－			1																						1
	SE	Ⅰ			3		3			1																	7
		Ⅱ																						1			1
		Ⅲ			5					2																	7
		KDT			2			1		1																	4
	SW	Ⅰ			2																						2
	－	Ⅱ			1			1																			2
11ス	NE	Ⅰ			5		19	5		10											1						40
		Ⅱ					2	2		4																	8
		Ⅲ			9		8	1		5																	23
		KDT			33		18	4		18		1															74
	NW	Ⅰ			20		3																				23
		Ⅱ								1																	1
		Ⅲ			7		21	16		10	3											46					103
	SE	Ⅰ					4	4																			8
		Ⅲ			2		31	16		10						1	1					29					90
		KDT			1			1																			2
	SW	Ⅰ			6		8	1		6						1											22
		Ⅱ						5		2	1																8
		Ⅲ			2		11	4		11												19	1				48
		KDT			4		6	2		4																	16
11セ	NE	Ⅲ			2		7	3		3	2											4					21
	NW	Ⅰ			2		2	1		3												6			1		15
		Ⅲ			2		16	5		7												21					51
		KDT					2			2																	4
		－					1			1																	2
	SE	Ⅱ			7																						7
		Ⅲ			1																						1
		YH			29																						29
	SW	Ⅱ		1	9					2																	12
		YH			45		1															5	1				52
		YT			2																						2
		－					1																				1
	－	－			24		1	1																			26
11ソ	NE	Ⅱ			13																	1	1				15
		Ⅲ			7			1															1				9
		YH			22																	1	1				24
		YT			2																						2
		－			10																	3					13
	NW	Ⅱ			43		1														1	1					46
		Ⅲ			25																	4	1				30
		YH			80																	10	2				92
		YT			3																	8					11
		－																				1					1
	SE	Ⅱ			2		2			2												10					16
		Ⅲ			21																	24					45
		YT			3																	2					5
	SW	Ⅱ					1														1						2
		Ⅲ			28		7	2														31					68
		YH			18																	4	1				23
		YT			4																	5					9
		－			2																	8					10
11タ	NW	Ⅲ			7																	2					9
12シ	NE	Ⅰ					1																				1
	SE	Ⅰ			2		3																				5
		－			2						2																4
	SW	Ⅰ			1		1																				2

第47表　出土地点別遺物破片数一覧表（９）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類						
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
12ス	NE	Ⅰ			10																			1			11
		Ⅱ		3	31		2																				36
		Ⅲ								1																	1
	NW	Ⅰ			1		1			1																	3
		Ⅱ						1																			1
	SE	Ⅰ		1	36	4	6	2		2												6					57
		Ⅱ			7																						7
		Ⅲ			14		10	3		2												2	1				32
		KDT			3		2			1												2					8
		−				2																					2
	SW	Ⅰ								1	1												1				3
		Ⅱ			4															1							5
12セ	NE	Ⅰ			1		6															2					9
		Ⅲ			2		1															1					4
		KDT					5			3																	8
	NW	Ⅰ					1															1					2
		KDT			6		1			3																	10
	SE	Ⅰ					1																				1
		Ⅱ			2		1																				3
		Ⅲ			4																						4
		YH			36																		6				42
	SW	Ⅰ			6		4	5		2	1											4	1				23
		Ⅱ			3																						3
		KDT			41		37	13		7												1					99
		−								3																	3
12ソ	NE	Ⅱ			25		1																				26
		Ⅲ			18		1															3	1				23
		YH		2	615	11																41	21	1			691
		YT																				1					1
	NW	Ⅱ			61		1																				62
		Ⅲ			10																	2	1				13
		YH		1	242			1														30	10				284
	SE	Ⅱ					2																				2
		Ⅲ		2	68	1	1															31					103
		KT																				1					1
		YH			85																	41	2				128
		YT			6																	16					22
		−		1	5																	1					7
	SW	Ⅱ			13																						13
		Ⅲ			13																	23					36
		KT																				1					1
		YH		1	266	1																85	7				360
		YT			2																	6					8
		−			1																	3					4
12タ	NE	Ⅱ					1																				1
		Ⅲ			6																	44					50
		KT					1															1					2
		YT																				2					2
	NW	Ⅱ			1																						1
		Ⅲ			24																	7					31
		YH			7																	8	2				17
		YT																				3					3
	SE	Ⅲ					4	1														1					6
13シ	SE	Ⅲ			8																	1					9
13ス	NE	Ⅰ			3			1																			4
	NW	Ⅰ					2																				2
	SE	Ⅰ			10		1			1													1				13
		Ⅱ			5																						5
	SW	Ⅰ			4																		1				5
		Ⅱ			1		1																				2
		KT			1																						1
13セ	NE	Ⅰ			5																						5
		Ⅱ			4																						4
		KDT						1																1			2
		−			1																						1
	NW	Ⅰ			1			1		1										1			1				5
		Ⅱ						1															1				2
		Ⅲ					1																				1
	SE	Ⅰ			13		39	29		16	4											1					102
		KDT			62		29	12		19							1						4				127
		−					2																				2
	SW	Ⅰ			10		55	30		24	7										1	8	4		1		140
		KDT			11		25	9	1	10												6					62

第48表　出土地点別遺物破片数一覧表（10）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																								
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類	木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘																
13ソ	NE	Ⅱ		1	13																						14
		Ⅲ			2					1																	3
		YH			28																	3	2				33
		YT																				1					1
	NW	Ⅰ					1																				1
		Ⅱ			23	2																					25
		KDT			4		9	7														5					25
		YH		2	164	2																1	3				172
	SE	Ⅱ			22		1																				23
		Ⅲ			2																						2
		YH		1	92																	21	5				119
		YT			4																						4
	SW	Ⅱ		3	59																		2				64
		Ⅲ			5					1																	6
		YH		2	91																	4	18				115
		YT			1																	1					2
13タ	NE	Ⅱ			3																						3
		Ⅲ																				1					1
		KT			1																						1
		YH			1																	2					3
		YT		1	19																	12	1				33
	NW	Ⅱ		1	3																						4
		Ⅲ			4																						4
		YH			54		1															17	2				74
		YT			18																	17	1				36
	SE	YT			5																	5					10
		−			2			2		1																	5
	SW	KT			5																	16					21
		YT		1	13																	13					27
14ス	NE	Ⅰ																		1							1
	SE	Ⅰ			3		1																				4
		Ⅱ			1		1			1																	3
	SW	Ⅰ			10		3	4		2										2							21
14セ	NE	Ⅰ			8																						8
		Ⅱ			5																						5
		Ⅲ			9																						9
	NW	Ⅰ			45		5																1				51
		Ⅱ			16		1																				17
		Ⅲ			3																						3
	SE	Ⅰ			5		4	11												1		3					24
		Ⅱ			11		1																2				14
		KDT			10		9	12		3												1					35
		−			12																		1				13
	SW	Ⅰ			1		5	1																			7
		Ⅱ			76		27	17	2	8																	130
		Ⅲ			64																		1				65
		KDT			12		18	15		9							1					5	3				63
		−			1		1			1																	3
14ソ	NE	Ⅰ					8	3		6						1						3					21
		Ⅱ			18																		1				19
		KDT			38		54	27		21	1											37	4				182
		YH			283																	10	11				304
		−			2		3	4		2																	11
	NW	Ⅰ			3		31	17		8	4											10					73
		KDT	1		88	1	124	72		35	5											72	17				415
	SE	Ⅱ			50																						50
		Ⅲ			5																						5
		YH			89																	7	5				101
		YT			10																	3					13
		−			2																	2					4
	SW	Ⅱ			22																	18					40
		Ⅲ																				1					1
		YH		1	111																	21	8				141
		YT		1	22																	13					36
14タ	NE	Ⅱ			1																						1
		Ⅲ			4		1																2				7
		KT																				13					13
		YH			71																	27	4				102
		YT			14	1																28					43
	NW	Ⅰ			2		13	5		5	1											13					39
		Ⅱ			3		1																				4
		Ⅲ			7					1																	8
		YH		3	33																		1				37
		YT		2	20																	25					47
	SE	KT			1																						1
		YT			20																	11					31
	SW	KT			6																	4	1				11
		YH			12																	8					20
		YT			16																	23	1				40

第49表　出土地点別遺物破片数一覧表（11）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類						
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
14チ	NE	KT			1																	5					6
		−						1																			1
	NW	KT	3																			1					4
		YT																				16					16
		−																				1	1				2
	SE	YT																				1					1
15セ	NE	Ⅰ			26		6	1			1												1				35
		Ⅱ			23		2																				25
		Ⅲ	3		11																		4				18
		−			3					1																	4
	SE	Ⅰ			15		2			4	1												1				23
		Ⅱ			97		15	44	1	9	1	1			1	1							3				173
		Ⅲ	2		66					2																	70
		KDT			8		17	19		4		1										11					60
		−			14		8	6															1				29
	SW	Ⅰ			35		4	2		2																	43
		Ⅲ			70	1	3	7		8	2									1		2	8				102
		KDT			5		13	7		7												2	2				36
		−			6		4	8		1													1				20
15ソ	NE	Ⅰ			1																						1
		KDT			215		173	134		35	5				1					1		95	10	1			670
		−					5	3		1	1												1				11
	NW	Ⅰ			7		12	7		5	2											16					49
		Ⅲ			21		14	5		1												11					52
		KDT			104	2	139	115		28	5					1	4				1	1	37	6		1		444
		YH																						1				1
		−			1			1																			2
	SE	Ⅰ					1	2																			3
		Ⅱ			12																	7					19
		Ⅲ			10																						10
		KDT			32		14	7		3												8					64
		YH			28																	2	1				31
		−			1																						1
	SW	Ⅱ			3					1																	4
		Ⅲ			17		6															4					27
		KDT			26		15	1		4	1											20	1				68
		YT			1																	8					9
15タ	NE	Ⅰ			1		4	3		2												5					15
		Ⅱ			17					2																	19
		YH	1		99																	12	2				114
		YT			56																1	4	1				62
	NW	Ⅱ			11			1														15					27
		KT			2																1	7					10
		YH			38			1														28	3				70
		YT			23		1															4	2				30
		攪乱					1			1												1					3
	SE	Ⅲ			5					1												1					7
		KT			3																	2					5
		YH			4																	26					30
		YT			17																	65					82
	SW	Ⅱ					1															2					3
		Ⅲ			2		1																				3
		KT			6																	5					11
		YH			2																						2
		YT			7		1	1													1	25					35
		−			1																						1
15チ	NE	Ⅱ			1																						1
		Ⅲ																				2					2
		KT			5					1												4					10
		YT			11																	6					17
		−																				8					8
	NW	KT			5																	14	1				20
		YH			3																	2					5
		YT			3																	2	1				6
	SW	KT																				4					4
16セ	SE	Ⅰ			2		1															6					9
		Ⅲ	1		51																		1				53
		KDT	1		22																						23
		YH			61					2													4				67
	SW	Ⅰ					1			1																	2
		KDT		5	169		80	17		5												2	5	1			284
		YH			8	1	4	1		1	2																17

第50表　出土地点別遺物破片数一覧表（12）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類						
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
16ソ	NE	Ⅰ			12		21	16		16	4											15					84
		Ⅲ			67		35	7		2												15	1				127
		KDT	2	1	138	4	81	37		26	7									1	1	33	3		1		335
		KT			6		3	1														26					36
		KTⅡ			2																						2
		YH			76		27	4			1												1				109
	NW	Ⅰ			12		29	20		11												4	3				79
		KDT	2		290		158	42		45	12							1		1	1	70	9		1		632
		KT		7	57		3	1														48	2				118
		KTⅡ			32																	19	3				54
		YH			15		29	9		3												1					57
	SE	Ⅰ			1		13	3							1							3					21
		Ⅲ			31		4															9					44
		KDT			82	1	22	16		20					1							36	1				179
		KT			69	6	8	1		1												55	2				142
		KTⅡ	8	1	49		2	1														11	2				74
	SW	Ⅰ			11		12	4		5	2										1	13					48
		KDT			161	2	106	28		20	7	1				1				1		131	6				464
		KT	75		109		1															54	15				254
		KTⅡ	7	45	79																	6	1				138
16タ	NE	Ⅱ			8		1															1	2				12
		KT			4																1	2	2				9
		YH			7																	8					15
		YT			20																	9	1				30
	NW	Ⅰ			2		4															12					18
		KDT			26		7															20					53
		KT			19		1															32	4				56
		KTⅡ			7																		1				8
		−			1																						1
	SE	Ⅱ			2																		1				3
		KT			3																1	28	1				33
		YH			1																						1
		YT			17		2															16	1				36
		−			2																						2
	SW	Ⅲ			2																						2
		YH			7																						7
		KT			9																2	2					13
		YT			5																						5
		−			2			1		1									1	1							6
16チ	NE	KT			3	1																30					34
		YH			2																						2
		YT																				9					9
	NW	KT			15																	28					43
		YH																				1					1
		YT			3																	1					4
	SE	KT																				11					11
		YT			1																	3					4
	SW	Ⅱ			1																						1
		KT	42		1																	14					57
		YT																				1					1
17ソ	NE	Ⅰ			27		57	9		9	4											4					110
		KDT	3		485	1	266	99		66	10											158	9				1,097
		KT	15		85		2	2														15	19				138
		KTⅡ			1																		1				2
		YH																				3					3
	NW	Ⅰ			20		11	1																			32
		KDT			215	64	48	11		7												58	6				409
		KT																				2					2
		−				64																4					68
	SE	Ⅰ			18		5	2		1												22	1				49
		KDT			110		22	8		4	1	1										68	4				218
		KT	113	9	92		3	1														19	28				265
		KTⅡ	236		295																	6	7				544
	SW	Ⅰ			30		22	7		4												26	1				90
		KDT	6		189	7	87	15		10	4											313	10		1		642
		KT	53	4	47					1												6	9				120
		KTⅡ			26																	2	2				30
17タ	NE	Ⅰ																				4					4
		KDT			32		6	3														46					87
		KT		3	21	2																10	2				38
		KTⅡ	44		6																	11	4				65
	NW	Ⅰ			4		2	1														8					15
		KDT			32		12	1	1	2												73	3		2		126
		KT			13																	31	1				45
		KTⅡ			4		4															3	2				13
	SE	KT			11																1	17	1				30
		YT																				2					2
	SW	KDT			10																	5	2				17
		KT			5																	3					8
		YT			2																						2

第51表　出土地点別遺物破片数一覧表（13）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類						
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
17チ	NE	KT			5																	2	5				12
		YT																				7					7
		–			1																						1
	NW	Ⅱ			1			1															8				10
		KT			8																	1	15	1			25
		YH																				1					1
		YT			2																	3	1				6
	SE	Ⅲ																				1					1
		JH	9																								9
		KT			1																		67				68
		YT			8																						8
	SW	Ⅲ					1																1				2
		KT	1		11																	1	57	1			71
		YT																					9				9
		–																					2				2
17ツ	NE	KT																					2				2
	NW	KT																					4				4
		YT																					1				1
	SW	Ⅱ			1		1			1													8				11
18ソ	SE	Ⅰ	1		52		9	1		1										1			7				72
		KDT			118	1	13	5		2													80	6			225
		–																					1				1
	SW	Ⅰ			18			1		1													1				21
		KDT			30		1	1															3	3			38
18タ	NE	Ⅰ			14		6	1		1	1												14	2			39
		KDT	39		170		24	13		3	1												107	12			369
		KT	3		13		2	4														1	6	1			30
		KTⅡ			3																						3
		YT			1																						1
		–																					4				4
	NW	Ⅰ	3		53		3			1	1												15				76
		JH	8		39		1			2													4				54
		KDT	276	1	37		1			1														4			320
	SE	Ⅱ			6																						6
		KDT			14																		3	2			19
		KT	6		10																	2	13				31
		YT			10																		5				15
	SW	KDT	22							1													2				25
18チ	NE	KT			3																	5	4	4			16
		YT																				1	4				5
		–			1																		1				2
	NW	KDT	10		47	2																	1	3			63
		KT	5		12	3																	7				27
		–	1				1	2																			4
	SE	KT																				1	17				18
		YT																					2				2
	SW	KT	3		11	4	1																20	2			41
18ツ	NE	KT			1																		24				25
	NW	KT																					1				1
	SW	KT																					2				2
19タ	NE	Ⅰ			1		4	1												2							8
	NW	Ⅰ					1																				1
	SE	Ⅰ	1		25		24	16		20	1									3			4	3			97
		KDT			39		289	73		137	11									1		1	1	6			558
	SW	Ⅰ			2		6	3		2																	13
		KDT			4		38	57	16	3																	118
19チ	NE	Ⅰ	1		35		76	20		36	5									2			1	4			180
		KDT	14	29	138	3	93	44		63	6									1			3	5			399
		KT			35		2			7														1			45
	NW	Ⅰ			44		200	45		52	16									27		1	9	6			400
		KDT			51		141	28		60	9												3	4			296
		KT			2																						2
	SE	KDT	1		20																			4			25
		KT			94																		10	16			120
	SW	Ⅰ			6		40	5		18	6												1				76
		KDT			34		13	5		25	5									1			2	2			87
		KT	28		28	17																	17	4			94
19ツ	NE	KT			1																		9				10
	NW	Ⅰ																					13				13
		KT			16		21	8		17													13				75
	SE	KT																					2				2
19テ	NE	KT																					1				1
	NW	KT			1																		3				4
20タ	NE	Ⅰ								1													3				4
	SE	Ⅰ								1													1				2

第52表　出土地点別遺物破片数一覧表（14）

出土地点	グリッド細分	層位	土器類																			木器類	石器類	金属器類	鍛冶関連遺物	その他	合計
			縄文土器	弥生土器	弥生土器ないし土師器	土師器	須恵器			灰釉陶器			緑釉陶器	土師質土器	輸入磁器	山茶碗	珠洲焼	常滑焼	古瀬戸系施釉陶器	近世陶磁器	中世ないし近世陶器	時代不明の土器類						
							食膳具	貯蔵具	特殊器種	碗・皿類	瓶類	陶錘															
20チ	NE	I			16		152	25	1	30	9									8			2	1				244
		KDT			30		237	7		3														2				279
	NW	I			12		32	3																1		1		49
		KDT					5																					5
	SE	I			3		39	12		22	3																	79
		KDT			55		161	32		6	1												3	5				263
		KT			6					1													1					8
	SW	I			2		130	22		43	4														1			202
		KDT			24		122	46		51											1			2				246
20ツ	NE	KT			3																		22	1				26
		KDT			14																		9					23
	NW	I					4			8																		12
		KDT					7	2		4	1													1				15
		KT			13		8	5		14													14	3				57
	SW	I			1																		12					13
		KT																					16					16
20テ	NE	I																					24					24
		KT			4			1		1													13					19
	NW	I					2	1															2					5
		KT						3								2							35					40
	SE	KT								1													1					2
	SW	KT						1															25					26
21チ	NE	I			4		7	1		3										2			1					18
	SE	I			4		48	9		49																		110
		KDT			26		166	62		31	11																	296
	SW	I			1		11	5		10	3									1								31
		KDT			23		106	42		4										1			4					180
21ツ	NE	I			3		27	10		21	1																	62
		KDT			6		13	8		24	9													1				61
		KT			2		12	1		2						1						1	25	2				46
	NW	I			1		21	4		7																		33
		KDT			26		23	8		14		1																72
		KT			74	50	3	3		4													10	1				145
	SE	I					1	1		2						1												5
		KT	1		2		3																29					35
	SW	I					3			1													4					8
		KT			1		2																1					4
21テ	NE	I								1													14					15
		KT			2		2																18					22
	SE	KDT					1	3															1					5
		KT			2		1																17					20
	SW	KT																					1					1
12年度試掘坑1	－	－			1		9	17		12	2				1	1				4								47
12年度試掘坑2	－	－			2		47	43		38	2					1												133
12年度試掘坑3	－	－			5		61	47	3	54			2								4		94	1	1			272
12年度試掘坑4	－	－					21	19		24	4					1				2			510	5				586
12年度試掘坑5	－	－					2	8		6													38					54
12年度試掘坑6	－	－					11	3		2										2			62					80
12年度試掘坑7	－	－			5	9	74	70		50	3					3							22					236
12年度試掘坑8	－	－			24		43	49		50	2				1				1	3		1	61	6				241
12年度試掘坑9	－	－			4		14	9		10			1										51		1			90
12年度試掘坑10	－	－					2	1		7	1					1	1			1								14
12年度試掘坑11	－	－					11	9		4											1		40		2			67
12年度試掘坑12	－	－	2		27	7	17	8		6										6				3				76
12年度試掘坑13	－	－			4		7	6		2										1	1			2				23
12年度試掘坑14	－	－					12	6		10	2																	30
12年度試掘坑15	－	－			2		15	29		20	2					3				28				3				102
12年度試掘坑16	－	－			4		48	21		16	2					1				2								94
12年度試掘坑17	－	－	1		54		27	16		11	6									6				1				122
12年度試掘坑18	－	－		16	6		53	43		23					1		1			33				3		1	1	181
12年度試掘坑19	－	－			3		8	9		2	1									2	1		14				1	41
12年度試掘坑20	－	－					3	3		1													5					12
12年度試掘坑21	－	－			3		13	11		15													57					99
北東耕土撤出区	－	－			9		262	238		183	10			5		6	3			14			32	6	1			769
12年度試掘坑	－	－					1	2					1		8								11					23
13年度試掘坑24	－	－						3		1													30					34
13年度試掘坑25	－	－			4		3	1		1												1	4	1				15
13年度試掘坑26	－	－			1		8	1		7													30					47
13年度試掘坑27	－	－	2		5		7	5		2	1									1			1	1				25
13年度試掘坑28	－	－					2	1															27					30
13年度試掘坑29	－	－					1																11					12
16年度試掘坑	－	－			6		59	44		19	3				1					8	1		21	2				164
18年度試掘坑6	－	－			5		4	10		10																		29
18年度試掘坑7	－	－	6																				1					7
18年度試掘坑11	－	－					1			1																		2
不明	－	－	1		253	2	402	309	3	217	34		1		7	6	3	3		52	16		379	10	2		1	1,701
合計			1,314	157	15,462	1,077	18,572	7,256	76	7,294	770	11	19	13	82	146	38	16	15	322	53	71	28,963	738	32	46	24	82,567

第53表　遺物観察表（１）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1	1220SB	－	土器類	土師器	高坏	15.8	12.6	18.3	第110図図版58	坏部内外面縦方向ヘラミガキ。脚部内面にハケ目、外面縦方向ヘラミガキ。脚柱部と裾部の境に透かし孔４箇所あり。12ｽSEと破片接合。
2	1220SB	－	土器類	土師器	高坏	24.3	13.8	10.8	第110図図版57	坏体部内外面横方向ヘラミガキ、内面は部分的に縦方向ヘラミガキを加える。坏底部内面摩滅、外面縦方向ヘラミガキ。脚柱部内面ナデ・オサエ、外面縦方向ヘラミガキ。脚裾部内外面横ナデ。内外面に赤彩の痕跡が認められる。
3	1220SB	－	土器類	土師器	台付鉢	16.7	8.5	8.0	第110図図版58	体部内面摩滅、外面摩滅するが、横方向ヘラミガキの痕跡あり。体部・脚部境の外面に工具によるとみられる強いオサエ。底部内面ナデ、外面ナデ･オサエ。脚部内外面横ナデ。底部内面平滑化。内外面に部分的に赤彩の痕跡あり。
4	1220SB	－	土器類	土師器	甕	18.4	31.2	5.0	第110図図版57	口縁部内外面横ナデ。頸部から胴部上端にかけての内面に横方向の板ナデ、ただし細かなハケ目を部分的に残す。胴部中央から下端にかけての内面に丁寧な板ナデ、ただし細かなハケ目を部分的に残す。口縁部外面と胴部上端外面に櫛描き波状文(左→右)。頸部外面に櫛描き簾状文(左←右)。胴部外面に細かなハケ目。底部内外面ナデ。胴部下半内面と口頸部から胴部上半にかけての外面に黒色炭化物付着。12ｽSEと破片接合。
5	1220SB	－	土器類	土師器	甕	16.2	26.0	2.6	第110図図版58	口頸部内外面横ナデ。胴部内面丁寧なナデ、外面に縦～斜め方向のハケ目。底部内面ナデ、ただしハケ目を部分的に残す。底部外面ナデ。胴部下半から底部にかけての内面と口頸部・胴部外面に黒色炭化物付着。12ｽSEと破片接合。
6	1220SB	－	土器類	土師器	甕	17.5	22.5	4.0	第110図図版58	口頸部内外面横ナデ、部分的に横方向のハケ目が残る。胴部内面に横方向の細かなハケ目。胴部外面に斜め～横方向のハケ目、ただし大部分摩滅。底部内面に粗いハケ目。底部外面ナデ。
7	1220SB	－	土器類	土師器	甕	18.6	26.0	4.9	第110図図版58	内外面とも摩滅が著しく、底部を除いて器面調整はほとんど読みとれない。胴部内面はナデとみられ、ハケ目をごく一部残す。底部内外面ナデ。口縁部から胴部上端にかけての外面に下向きの縦方向櫛描文。頸部に横方向櫛描文。胴部中央外面に大振りな櫛描き波状文。胴部下端から底部にかけての内面に黒色炭化物付着。12ｽSEと破片接合。
8	1220SB	－	土器類	土師器	甕	－	－	－	第111図図版-	胴部内外面ヘラ削り。
9	1220SB	－	土器類	土師器	鉢？	約16.7	－	－	第111図図版-	体部内面摩滅。体部外面丁寧なナデ。
10	198P (SA1)	－	土器類	須恵器	壺	－	－	－	第111図図版-	胴部内外面回転ナデ。胴部外面に自然釉付着。
11	223P (SH1)	－	土器類	須恵器	不明	約14.0	－	－	第111図図版-	体部内外面回転ナデ。須恵器碗の体部とみられるが、灰釉陶器の可能性もある。
12	223P (SH1)	－	土器類	須恵器	無台碗	－	－	6.0	第111図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。焼成あまく浅黄橙色を呈する。
13	223P (SH1)	2	木器類	部材	建築部材 礎板	(18.5)	(3.0)	(12.1)	第111図図版104	厚い板状であるが、加工痕はあまり残っていない。SH1の223Pの柱痕部下で出土。芯去。クリ。
14	222P (SH1)	－	木器類	部材	建築部材 柱根	(16.1)	(残存6.0)	(残存11.9)	第111図図版104	腐食が著しい。15と同一個体の可能性が高い。芯持？。クリ。
15	222P (SH1)	－	木器類	部材	建築部材 柱根	(14.9)	(残存4.0)	(残存10.9)	第111図図版104	腐食が著しい。14と同一個体の可能性が高いことから、樹種はクリとみられる。芯持？。
16	238P (SH1)	－	木器類	部材	建築部材 柱根	(37.7)	(15.7)	(17.4)	第111図図版104	下端面はわずかしか残っていない。上端はきれいに切断されており、それより上は再利用されたと考えられる。芯持。クリ。
17	239P (SH1)	1	木器類	部材	建築部材 柱根	(33.7)	(17.6)	(18.0)	第111図図版104	下端面に粗い加工痕が認められる。放射性炭素年代測定結果「９世紀初め～10世紀末」。芯持。クリ。
18	241P (SH1)	－	木器類	部材	建築部材 柱根	(22.1)	(残存6.0)	(残存10.9)	第111図図版104	縦に割れた状態である。下端面に粗い加工痕が認められる。19と同一個体の可能性が高い。芯持？。クリ。
19	241P (SH1)	－	木器類	部材	建築部材 柱根	(15.7)	(残存4.2)	(残存7.0)	第111図図版104	下端面に粗い加工痕が認められる。18と同一個体の可能性が高いことから、樹種はクリとみられる。芯持？。
20	346P (SH1)	1	木器類	部材	建築部材 柱根	(61.8)	(18.3)	(17.5)	第112図図版104	下端面に細かな加工痕が認められる。下端付近に工具によって抉られてできた幅広の溝がある。既往の類例から、運搬時に縄をかけるためのものであったと推測する。放射性炭素年代測定結果「８世紀末～９世紀末」。芯持。クリ。
21	352P (SH1)	1	木器類	部材	建築部材 柱根	(52.8)	(13.7)	(16.4)	第112図図版104	下端面に粗い加工痕が多数認められる。また各加工痕内に平行する細かな線状痕が認められる。上端面も切断されてできた面であり、それより上は再利用されたと考えられる。SH1棟持柱の柱根。放射性炭素年代測定結果「７世紀末～９世紀末」。芯持。クリ。

第54表　遺物観察表（２）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
22	354P(SH2)	―	土器類	須恵器	摘み蓋？	約14.0	-	-	第112図図版-	体部内外面回転ナデ。
23	154SP	M	土器類	土師器	甕	11.2	-	-	第112図図版56	全面摩滅。頸部内面に横方向のハケ目。胴部外面に縦方向のハケ目。
24	242SP	―	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存1.3)	(0.4)	(1.2)	第112図図版119	先端を欠く。石材は下呂石。重さ0.4g。
25	299SP	1	木器類	部材	建築部材柱根	(28.4)	(9.5)	(14.6)	第112図図版-	全体に残存状態は良好でない。下端は１方向から斜めに切断されている。芯持。
26	301SP	―	木器類	部材	建築部材柱根	(残存29.6)	(9.5)	(11.6)	第112図図版-	全体に残存状態は良好でなく、加工痕は認められない。芯持。クリ。
27	404SP	―	木器類	部材	建築部材柱根	(29.6)	(7.5)	(8.9)	第112図図版-	下端は３方向から削って先端を尖らせている。芯持。クリ。
28	345SP	U	土器類	須恵器	有台坏	11.2	3.4	6.6	第112図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。胎土粗い。
29	1058SP	―	土器類	土師器	高坏	-	-	-	第112図図版-	底部内面ナデ。脚部内面ナデ。脚部外面に縦方向のハケ目。透かし孔は４箇所。
30	1085ST	断ち割り	石器類	打製石斧		(7.0)	(1.9)	(5.1)	第113図図版120	刃部表面摩滅。表面・裏面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ71.7g。
31	1252ST	覆土	土器類	須恵器	無台碗	-	-	7.2	第113図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。
32	1252ST	覆土	土器類	須恵器	有台碗	-	-	9.0	第113図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
33	1252ST	覆土	土器類	須恵器	有台盤	14.0	3.1	6.9	第113図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。体部内面に自然釉付着。
34	1252ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	8.7	第113図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面平滑化。体部内外面に灰釉。
35	1252ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	7.5	第113図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後オサエ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。体部内面に自然釉付着。
36	1252ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗？	-	-	7.9	第113図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
37	1252ST	覆土	土器類	灰釉陶器	壺	-	-	8.2	第113図図版-	胴部外面下端に工具によるとみられる強い回転ナデ。胴部内面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面に自然釉付着。
38	1252ST	覆土	土器類	山茶碗	碗	-	-	5.7	第113図図版79	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。高台にモミガラ痕。底部内面に重ね焼き痕。体部外面に墨付着。体部内面に自然釉付着。北部系山茶碗。1255STと破片接合。
39	1252ST	覆土	土器類	山茶碗	碗	14.8	5.7	5.6	第113図図版79	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。高台にモミガラ痕。底部内面に重ね焼き痕。体部内面に自然釉付着。北部系山茶碗(明和窯式)。1250SMと破片接合。
40	1252ST	覆土	土器類	珠洲焼	鉢	約27.4	-	-	第113図図版80	体部内外面回転ナデ。
41	1252ST	覆土	土器類	古瀬戸系施釉陶器	卸目付大皿	-	-	-	第113図図版81	体部から底部にかけての内面に卸目。体部外面に灰黄色の灰釉。
42	1252ST	覆土	木器類	器具	串状木製品	(残存9.2)	(0.5)	(2.4)	第113図図版-	上端を欠く。斎串か。板目。ヒノキ。
43	1252ST	覆土	木器類	部材	器具部材	(残存21.8)	(1.3)	(1.7)	第113図図版115	下端を欠く。断面は楕円形を基本とするが、上端部は削って細く仕上げている。芯去。ヒノキ。
44	1253ST	覆土	土器類	縄文土器	深鉢	-	-	1.3	第113図図版55	内外面摩滅。胎土に植物繊維を含む。縄文時代早期の尖底土器。
45	1253ST	覆土	土器類	土師器	甕	-	-	3.4	第113図図版-	内外面摩滅。
46	1253ST	覆土	土器類	須恵器	有台坏	-	-	9.0	第113図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
47	1253ST	覆土	土器類	須恵器	有台坏	-	-	7.4	第113図図版-	底部内外面回転ナデ。底部外面にヘラ書き(記号状ないし絵画状)。
48	1253ST	覆土	土器類	須恵器	無台碗？	-	-	-	第113図図版-	碗の体部破片と推定。体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
49	1253ST	覆土	土器類	須恵器	有台碗	-	-	9.6	第113図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
50	1253ST	覆土	土器類	須恵器	鉢	16.0	-	-	第113図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。

第55表　遺物観察表（３）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
51	1253ST	覆土	土器類	須恵器	壺蓋	10.6	3.6	－	第113図図版65・72	天井部内面回転ナデ。口縁部内面回転ナデ。外面は全面に自然釉付着のため調整不明。内面に墨付着。内面平滑化。転用硯。
52	1253ST	覆土	土器類	須恵器	壺	－	－	8.8	第113図図版－	底部内外面回転ナデ。灰釉陶器瓶の可能性もあるが、外面に明確な施釉が認められないことから須恵器と判断した。
53	1253ST	覆土	土器類	須恵器	壺	－	－	7.9	第113図図版－	底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面に自然釉付着。
54	1253ST	覆土	土器類	須恵器	壺	－	－	8.3	第113図図版－	胴部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。
55	1253ST	覆土	土器類	須恵器	壺？	－	－	11.8	第113図図版－	胴部内外面回転ナデ。
56	1253ST	覆土	土器類	須恵器	平瓶	－	－	－	第113図図版－	平瓶の把手の一部と推定。把手部内外面ヘラ削り。
57	1253ST	覆土	土器類	須恵器	甕	約34.9	－	－	第113図図版－	口頸部内外面回転ナデ。胴部外面に叩き痕が認められるが、形状は不明。堅緻。
58	1253ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	18.0	5.5	8.2	第114図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
59	1253ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	15.4	4.4	8.6	第114図図版71	体部内面回転ナデ。下端を除く体部外面回転ナデ、下端回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内外面に灰釉(漬け掛け)。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
60	1253ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	10.6	3.0	5.6	第114図図版71	内面は施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面ナデ。内面全面と体部外面上半に灰釉。
61	1253ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	約16.4	－	－	第114図図版－	体部内外面回転ナデ。
62	1253ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	16.2	－	－	第114図図版－	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。高台の剥離痕が明瞭に認められる。
63	1253ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.0	第114図図版－	体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
64	1253ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	8.4	第114図図版－	体部外面回転ナデ。底部外面回転ナデ・ナデ。体部内面・底部内面に自然釉付着。
65	1253ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.0	第114図図版－	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。焼成あまく灰黄色を呈する。外面は被熱し黒色を呈する部分が多い。
66	1253ST	覆土	土器類	輸入磁器	白磁碗	－	－	－	第114図図版－	底部外面を除く内外面に白磁釉。
67	1253ST	覆土	土器類	輸入磁器	青磁皿	11.2	－	－	第114図図版80	体部内外面に青緑色の青磁釉。
68	1253ST	覆土	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第114図図版－	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
69	1253ST	覆土	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第114図図版－	体部内外面に青緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
70	1253ST	覆土	土器類	珠洲焼	鉢	－	－	－	第114図図版80	体部内外面回転ナデ。体部内面に擂目。体部内面傷み著しい。
71	1253ST	覆土	土器類	山茶碗	碗	－	－	4.9	第114図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。内外面に部分的に黒色炭化物付着。北部系山茶碗(大畑大洞窯式)。
72	1253ST	覆土	土器類	古瀬戸系施釉陶器	直縁大皿	31.0	－	－	第114図図版81	体部内面上半は施釉のため調整不明、下半回転ナデ。体部外面上半は施釉のため調整不明、下半回転ヘラ削り。体部内外面上半に緑色の灰釉。古瀬戸後期。
73	1253ST	覆土	木器類	器具	形代鳥形	(残存11.0)	(0.7)	(残存2.1)	第114図図版－	右半を欠くとみられるが、大きさや形状から鳥形と推定した。裏面に刃物によるとみられる２条の線状痕が認められる。柾目。アスナロ属。
74	1253ST	覆土	木器類	器具	形代陽物形	(15.5)	(1.5)	(1.7)	第114図図版95	側面と裏面に剥離部分があるものの、ほぼ完形品である。中央から上半にかけて、螺旋状の刻みが施されている。男性の性器を写実的にかたどった形代とみられる。芯去。ヒノキ。
75	1253ST	覆土	木器類	器具	下駄連歯下駄Ａ類	(19.0)	(1.8)	(9.9)	第114図図版97	上端を欠く。台と歯を一木から作る連歯下駄である。貫通孔が上端付近中央・左側縁付近・右側縁付近に１つずつ認められるが、左側縁と右側縁のものは角張っている。裏面は、向かって右側ほど擦り減り方が著しい。柾目。ヒノキ。
76	1253ST	覆土	木器類	器具	箸	(残存9.1)	(0.5)	(0.8)	第114図図版－	上端を欠く。断面は五角形である。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
77	1253ST	覆土	木器類	加工材	端材	(4.7)	(3.3)	(3.4)	第114図図版117	各面いずれも、比較的平滑である。芯去。ヒノキ。

第56表　遺物観察表（４）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
78	1253ST	覆土	木器類	器具	模造品	(18.7)	(0.6)	(2.3)	第114図図版102	三角形の歯が７つ残存するが、本来は９つであったとみられる。中央部に浅い窪みが２箇所認められる。えぶりの模型であろう。柾目。ヒノキ。
79	1253ST	覆土	金属器類	古銭		(2.4)	(0.1)	(2.4)	第114図図版122	銅製。聖宋元宝（北宋、1101年初鋳）。重さ2.5g。
80	1253ST	覆土	石器類	打製石斧		(9.4)	(2.5)	(4.9)	第114図図版120	石材は緑色片岩。重さ114.4g。
81	1253ST	覆土	鍛冶関連遺物	羽口		(残存4.3)	(残存3.0)	(残存1.6)	第114図図版122	先端の一部に鉱滓が付着する。外面被熱変色。重さ33.7g。推定外径8.0cm。
82	1254ST	覆土	土器類	土師器	甕	－	－	2.6	第115図図版-	底部内外面ナデ。
83	1254ST	覆土	土器類	須恵器	返り蓋	約15.4	－	－	第115図図版-	天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
84	1254ST	覆土	土器類	須恵器	摘み蓋	13.0	2.7	－	第115図図版66	天井部内外面ナデ。体部内外面回転ナデ。口縁部内外面に自然釉付着。
85	1254ST	覆土	土器類	須恵器	有台坏	－	－	9.9	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面ヘラ削り(回転を伴わない)。
86	1254ST	覆土	土器類	須恵器	無台碗	－	－	6.8	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面にヘラ書き。
87	1254ST	覆土	土器類	須恵器	不明	14.9	－	－	第115図図版-	脚付盤か有台盤の体部とみられる。体部内外面回転ナデ。焼成あまく灰黄色を呈する。体部内面に墨付着。転用硯。
88	1254ST	覆土	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存9.7)	(0.6)	(残存4.1)	第115図図版-	木釘ないし樹皮紐が抜けたとみられる孔が周縁部に１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
89	1254ST	覆土	石器類	スクレイパー		(5.0)	(1.3)	(3.1)	第115図図版119	石材はチャート。重さ16.3g。
90	1255ST	覆土	土器類	土師器	甕	約16.1	－	－	第115図図版-	内外面摩滅。
91	1255ST	覆土	土器類	土師器	甕？	－	－	5.0	第115図図版-	胴部内外面ナデ。底部内外面ナデ。胴部外面に黒色炭化物付着。
92	1255ST	覆土	土器類	土師器	土錘	(残存1.9)	(1.3)	(1.4)	第115図図版-	外面ナデ。
93	1255ST	覆土	土器類	須恵器	摘み蓋？	14.2	－	－	第115図図版-	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
94	1255ST	覆土	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第115図図版-	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。
95	1255ST	覆土	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第115図図版-	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。天井部内面平滑化。天井部内面の全面に墨付着。また、天井部・体部の外面にも部分的に墨付着。転用硯。
96	1255ST	覆土	土器類	須恵器	摘み蓋？	18.0	－	－	第115図図版-	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
97	1255ST	覆土	土器類	須恵器	摘み蓋？	17.0	－	－	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。
98	1255ST	覆土	土器類	須恵器	有台坏	－	－	8.2	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
99	1255ST	覆土	土器類	須恵器	無台碗	11.6	3.5	7.3	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。内外面平滑化。
100	1255ST	覆土	土器類	須恵器	無台碗	－	－	8.0	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。
101	1255ST	覆土	土器類	須恵器	無台碗	－	－	6.6	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
102	1255ST	覆土	土器類	須恵器	有台碗	18.0	6.7	8.8	第115図図版61	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部内面平滑化。
103	1255ST	覆土	土器類	須恵器	有台碗	－	－	8.9	第115図図版66	底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。底部内面平滑化。
104	1255ST	覆土	土器類	須恵器	有台碗	－	－	7.0	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面に墨書「□」。
105	1255ST	覆土	土器類	須恵器	有台盤	15.0	3.0	8.0	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。
106	1255ST	覆土	土器類	須恵器	有台盤	15.2	2.4	7.9	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。
107	1255ST	覆土	土器類	須恵器	有台盤	－	－	8.6	第115図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
108	1255ST	覆土	土器類	須恵器	壺蓋？	10.0	－	－	第115図図版-	天井部・口縁部内外面回転ナデ。内面に自然釉付着。
109	1255ST	覆土	土器類	須恵器	壺	約14.0	－	－	第115図図版-	口頸部内外面回転ナデ。

第57表　遺物観察表（５）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
110	1255ST	覆土	土器類	須恵器	壺？	－	－	11.0	第115図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
111	1255ST	覆土	土器類	須恵器	鉢	－	－	約15.0	第115図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
112	1255ST	覆土	土器類	須恵器	甕	－	－	16.1	第115図図版-	胴部内面ナデ。胴部外面に平行線状の叩き痕。底部外面ナデ。
113	1255ST	覆土	土器類	須恵器	甕	－	－	15.0	第115図図版-	胴部内面回転ナデ。胴部外面ナデ。底部内面回転ナデ・ナデ・オサエ。底部外面ナデ・オサエ。底部外面を除く内外面に黄土を施し、内面はにぶい橙色、胴部外面は橙色を呈する。
114	1255ST	覆土	土器類	須恵器	陶錘	(3.1)	(3.8)	(4.0)	第115図図版71	外面丁寧なナデ。孔径0.6cm。重さ53.3g。
115	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	12.7	4.0	7.2	第116図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。体部外面に灰釉。体部内面に自然釉付着。
116	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	14.6	4.2	8.0	第116図図版-	体部内外面回転ナデ。体部内面・口縁部外面に自然釉付着。
117	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	10.0	第116図図版-	体部内面回転ナデ。中央部を除く体部外面回転ナデ。体部外面中央部回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り後回転ナデ。底部内面平滑化。体部内面に自然釉付着。
118	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	6.4	第116図図版-	体部内外面回転ナデ。底部外面に墨書「□」。
119	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.2	第116図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
120	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	6.9	第116図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内外面に灰釉。底部外面に墨書「□」。
121	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	6.4	第116図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。体部内面に灰釉(あるいは自然釉か)。底部外面に墨書「□」。
122	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	9.0	第116図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部外面上半・体部内面・底部内面に灰釉。
123	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	8.0	第116図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。体部内面に自然釉付着。
124	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	8.8	第116図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
125	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.4	第116図図版-	体部外面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面・底部内面に自然釉付着。
126	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.3	第116図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
127	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗？	－	－	6.2	第116図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面に重ね焼き痕。
128	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	不明	－	－	7.8	第116図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り・ナデ。10スNWと破片接合。
129	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	皿？	－	－	7.2	第116図図版72	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面に不明瞭ながら墨付着。底部・体部外面に墨付着。転用硯。
130	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	小瓶	4.0	－	－	第116図図版-	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内外面に灰釉。
131	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	長頸瓶	－	－	－	第116図図版-	口頸部内外面回転ナデ。外面に自然釉？付着。
132	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	9.4	第116図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部外面ナデ。胴部外面に灰釉。胴部内面・底部内面に自然釉付着。15ソNWと破片接合。
133	1255ST	覆土	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	13.0	第116図図版-	胴部内面回転ナデ。胴部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。胴部外面に灰釉。
134	1255ST	覆土	土器類	山茶碗	碗	15.0	－	－	第116図図版81	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ナデ後ナデ。体部内外面に墨付着。北部系山茶碗。1252STと破片接合。
135	1255ST	覆土	土器類	山茶碗	小皿	－	－	3.6	第116図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。体部内面に自然釉付着。南部系山茶碗。
136	1255ST	覆土	土器類	山茶碗	碗	15.6	－	－	第116図図版81	体部内外面回転ナデ。内外面に自然釉付着。北部系山茶碗。

第58表　遺物観察表（６）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
137	1255ST	覆土	土器類	山茶碗	鉢	約24.0	－	－	第116図図版81	体部内外面回転ナデ。
138	1255ST	覆土	土器類	山茶碗	鉢	35.0	－	－	第116図図版81	体部内外面回転ナデ。
139	1255ST	覆土	土器類	山茶碗	鉢	約34.0	－	－	第116図図版81	体部内外面回転ナデ。
140	1255ST	覆土	土器類	珠洲焼	鉢	30.0	－	－	第116図図版80	体部内外面回転ナデ。体部内面に擂目(単位10本)。
141	1255ST	覆土	木器類	器具	下駄 連歯下駄 Ｂ類	(17.8)	(2.5)	(9.8)	第116図図版97	全体に腐食が進んでいるが、原形はとどめている。台と歯を一木から作る連歯下駄である。貫通する円孔が、上端中央付近・左側縁付近・右側縁付近に１つずつ認められる。それらは３箇所とも炭化しており、焼け火箸による穿孔とみられる。板目。ヒノキ。
142	1255ST	覆土	木器類	器具	下駄 連歯下駄 Ａ類	(残存12.7)	(2.4)	(残存8.1)	第117図図版-	残存部分は全形の半分に満たないとみられる。右側面と下端が炭化する。台と歯を一木から作る連歯下駄である。貫通する円孔が上端付近に１箇所認められる。表面に圧痕が認められる。柾目。ヒノキ。
143	1255ST	覆土	木器類	器具	下駄 差歯下駄	(12.0)	(2.3)	(6.9)	第117図図版98	台と歯を別材で作り、枘で組み合わせる差歯下駄の歯の部分である。歯としてはほぼ完形である。上端に枘を２箇所作り出す。各面の仕上げは比較的丁寧であるが、下端面は摩滅が著しい。これは使用に伴うものである可能性が高い。板目。アスナロ属。
144	1255ST	覆土	木器類	器具	下駄 連歯下駄	(残存11.3)	(残存3.0)	(残存7.3)	第117図図版-	形状・大きさから連歯下駄の歯と推定するが、端材である可能性もある。右隅を欠くものの、平面形は台形と推定できる。上端面は割れ面である。板目。ヒノキ。
145	1255ST	覆土	木器類	器具	斎串	(残存7.0)	(0.3)	(1.8)	第117図図版95	下端を欠く。上端右側面付近に切り込みが認められる。左側面にも同様の切り込みがあった痕跡がわずかに認められる。板目。ヒノキ。
146	1255ST	覆土	木器類	器具	箸	(残存9.9)	(0.5)	(0.8)	第117図図版100	上端を欠く。断面は不整な五角形である。芯去。ヒノキ。
147	1255ST	覆土	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ａ類	－	残存5.7	9.1	第117図図版90	上端を欠くものの、当遺跡では1507と共に最も残存状態良好な曲物容器である。側板は薄板を円筒形に曲げて作っており、大部分は２重、一部３重に重ねている。側板は２箇所で樹皮紐で綴じ合わせている。側板内面には上下縁に対して直交方向のケビキが多数認められる。底板は不整な円形で、特に側板と結合されてはおらず、側板の内側にはめ込まれているのみである。底板は板目、ヒノキ。側板は板目、ヒノキ。
148	1255ST	覆土	木器類	器具	串状木製品	(16.2)	(0.6)	(1.2)	第117図図版102	上端は欠失している可能性がある。細かく削り、扁平に仕上げている。下端は非常に鋭く尖らせている。木針の可能性がある。板目。ヒノキ。
149	1255ST	覆土	木器類	器具	棒状木製品	(24.3)	(2.4)	(2.9)	第117図図版-	下端は腐食のため本来の形状をとどめていない可能性がある。横断面が楕円形であることから、本来は農具などの柄であった可能性がある。芯去。
150	1255ST	覆土	木器類	器具	棒状木製品	(16.0)	(1.8)	(3.2)	第117図図版-	下端は腐食のため本来の形状をとどめていない可能性がある。上端は側面に対して斜めに切断している。横断面が楕円形であることから、本来は農具などの柄であった可能性がある。芯去。
151	1255ST	覆土	木器類	部材	器具部材 有孔薄板	(16.1)	(1.1)	(6.2)	第117図図版113	欠失部分はないものと判断するが、何かと組み合わせる部材とみられ、上下左右を定めるのは困難である。右下隅を枘状に削り出している。中央やや右寄りに貫通する円孔が２箇所認められる。柾目。ヒノキ。
152	1255ST	覆土	木器類	部材	器具部材 有孔薄板	(15.0)	(0.7)	(8.4)	第117図図版113	ほぼ完形品とみられるが、下端は原形を保っていない可能性がある。隅丸の薄板である。上端に４箇所（２対）の貫通する小円孔があり、うち３箇所には樹皮とみられるものがはさまっている。表面の下端に段差を設けている。柾目。ヒノキ。
153	1255ST	覆土	木器類	部材	器具部材	(5.9)	(1.5)	(5.4)	第117図図版115	上端を枘状に加工しているが、右半と左半とで段差がある特異な形状である。板目。アスナロ属。
154	1255ST	覆土	木器類	部材	器具部材	(6.0)	(1.9)	(2.8)	第117図図版115	裏面上半を欠く。全体に精巧な作りである。上端付近に段差を設けている。上端面から楕円形の孔を穿っているが、貫通せずほぼ中央で止まっている。ノミなど工具の柄の可能性が考えられる。芯去。ヒノキ。
155	1255ST	覆土	木器類	部材	器具部材	(残存19.5)	(0.7)	(2.1)	第117図図版-	上端・下端を欠く。２破片に分かれており図上復元を行ったが、接点が残っていないため、確実ではない。上端付近と下端付近に貫通孔が１箇所ずつ認められる。板目。ヒノキ。
156	1255ST	覆土	木器類	部材	器具部材	(11.6)	(2.8)	(3.9)	第117図図版-	完形品とみられるが、裏面は剥離面の可能性がある。加工痕はほとんど残っていない。あるいは調度品の脚部か。板目。ヒノキ。
157	1255ST	覆土	木器類	加工材	端材	(5.3)	(3.8)	(4.7)	第117図図版117	表面と両端面は比較的平滑だが、それら以外の各面は粗い。芯去。ヒノキ。

第59表　遺物観察表（７）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
158	1255ST	覆土	木器類	加工材	端材	(8.2)	(1.5)	(7.5)	第117図図版117	下端面と裏面は粗く、特に下端面は粗く断ち切られた痕跡を残している。裏面は粗く割られたままの状態である。それら以外の各面は比較的平滑である。板目。ヒノキ。
159	1255ST	覆土	木器類	加工材	端材	(14.9)	(3.2)	(4.2)	第117図図版117	全体に腐食が著しい。横断面は平行四辺形を呈する。芯去。ヒノキ。
160	1255ST	覆土	石器類	異形石棒		(4.8)	(1.8)	(2.2)	第118図図版119	全面に鋭利な刃物によるとみられる加工痕が認められる。男性性器を写実的に表現したものであろう。石材は凝灰岩。重さ19.6g。
161	1255ST	覆土	石器類	砥石		(7.5)	(2.9)	(5.1)	第118図図版121	砥面は表面・裏面の２面。石材は泥岩。重さ152.2g。
162	1255ST	覆土	鍛冶関連遺物	鉄滓		(5.0)	(2.7)	(3.6)	第118図図版122	266に比べ、密度が高い。重さ62.4g。
163	1255ST	覆土	その他特殊品	古代瓦	平瓦	(残存7.1)	(3.5)	(残存7.0)	第118図図版122	凹面縦方向のヘラ削り。凸面に縄目状の叩き痕。
164	1255ST	覆土	その他特殊品	古代瓦	平瓦	(6.7)	(3.0)	(10.3)	第118図図版122	凹面ナデ・オサエ・ヘラ削り。凸面に縄目状の叩き痕。端面ナデ・オサエ。
165	1256ST	覆土	土器類	須恵器	有台盤？	－	－	－	第118図図版－	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□〔井ヵ〕」。
166	1256ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	16.9	4.8	8.8	第118図図版－	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。体部内外面に灰釉。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
167	1256ST	覆土	土器類	灰釉陶器	碗	約12.0	－	－	第118図図版－	体部内外面回転ナデ。体部内外面に灰釉。
168	1252ST～1255ST	断ち割り	土器類	土師器	土錘	(2.8)	(1.5)	(1.7)	第118図図版71	外面摩滅。両端からの穿孔か。孔径0.3cm。重さ5.7g。
169	327ST～386ST	Ⅲ(断ち割り)	土器類	須恵器	無台坏？	－	－	－	第118図図版73	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□〔逢ヵ〕」。
170	1252ST～1255ST	断ち割り	土器類	須恵器	有台坏	－	－	8.4	第118図図版－	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
171	388ST～394ST	Ⅲ(断ち割り)	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第118図図版73	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□〔卅ヵ〕」。体部内面と口縁部に漆ないし煤付着。焼成あまく浅黄色を呈する。
172	1253ST～1256ST	断ち割り	土器類	須恵器	無台碗	－	－	6.2	第118図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
173	393ST	Ⅲ(断ち割り)	土器類	須恵器	無台碗	－	－	8.0	第118図図版73	体部内外面ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ・オサエ。底部外面に墨書「□〔ゐヵ〕」。
174	1253ST～1255ST	断ち割り	土器類	須恵器	甕	40.0	－	－	第118図図版－	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内面と頸部外面に自然釉付着。
175	1252ST～1255ST	断ち割り	土器類	須恵器	壺	7.0	－	－	第118図図版－	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。
176	311SD～392ST	Ⅲ(断ち割り)	土器類	須恵器	円面硯	約11.1	－	－	第118図図版68	硯面周辺部内外面回転ナデ。
177	1252ST～1256ST	断ち割り	土器類	須恵器	甑？	21.0	－	－	第118図図版65	体部内外面回転ナデ。1254STと破片接合。
178	1253ST～1255ST	断ち割り	土器類	灰釉陶器	碗	12.6	4.5	6.6	第118図図版－	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。体部上半外面に灰釉。
179	1252ST～1255ST	断ち割り	土器類	灰釉陶器	碗？	－	－	8.5	第118図図版－	底部内面ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。底部内面平滑化。
180	1256ST	断ち割り	土器類	灰釉陶器	碗？	－	－	7.5	第118図図版－	底部内外面回転ナデ。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
181	1252ST～1255ST	断ち割り	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.7	第118図図版－	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・ヘラ削り。体部内面に自然釉付着。底部外面中央部に回転糸切り痕。
182	311SD～386ST	Ⅲ(断ち割り)	木器類	器具	曲物容器円形曲物容器Ｂ類	(13.0)	(0.9)	(11.5)	第118図図版91	ほぼ完形の底板である。側面に木釘孔とみられる小円孔が４箇所認められる。表面に刃物痕が認められる。板目。アスナロ属。
183	1252ST～1255ST	断ち割り	木器類	器具	曲物容器曲物側板	(残存5.5)	(0.4)	(2.3)	第118図図版－	残存部分は全体のごく一部とみられ、全形の復元は困難である。上下縁に対して直交方向にケビキを施している。柾目。ヒノキ。
184	311SD～393ST	Ⅲ(断ち割り)	木器類	器具	箸	(残存15.2)	(0.6)	(0.8)	第118図図版－	２つの破片に接点はないが出土状況や加工方法・木目の一致から同一個体と判断した。上端を欠く。断面は不整な六角形を基本とするが、一定していない。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
185	311SD～393ST	Ⅲ(断ち割り)	木器類	器具	火付け木Ａ類	(13.5)	(0.9)	(1.4)	第118図図版－	上端と下端が炭化している。芯去。
186	311SD～393ST	Ⅲ(断ち割り)	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(残存7.1)	(1.1)	(1.7)	第118図図版－	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
187	311SD～392ST	Ⅲ(断ち割り)	木器類	器具	板状木製品	(15.9)	(1.1)	(残存5.2)	第119図図版－	右端と左端の一部を欠く。上端・下端はともに１方向から斜めに切り落としている。柾目。ヒノキ。

第60表　遺物観察表（８）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
188	311SD～392ST	Ⅲ(断ち割り)	木器類	器具	棒状木製品	(残存14.8)	(2.4)	(2.4)	第119図図版-	上端を欠く。芯持材で断面は円形である。樹皮は残していない。下端は１方向から斜めに切り落とされ、先端が尖る。芯持。モクレン属。
189	1253ST～1255ST	断ち割り	木器類	部材	器具部材容器部材？	(残存9.0)	(0.7)	(3.9)	第119図図版113	右端を欠く。下端付近に一対の切り込みを設けており、樹皮紐が貫通している。容器の側板か。柾目。ヒノキ。
190	311SD～392ST	Ⅲ(断ち割り)	木器類	部材	器具部材有孔薄板	(17.1)	(0.5)	(残存8.0)	第119図図版113	下端は欠失しているとみられる。貫通する小円孔が３箇所認められるほか、樹皮が残る貫通孔が一対認められる。追柾目。ヒノキ。
191	1253ST～1255ST	断ち割り	木器類	部材	器具部材	(9.5)	(0.4)	(3.0)	第119図図版-	ほぼ完形品であるが、左側面のコの字状の抉りは、後世の破損である可能性もある。上端は斜めに切断されている。柾目。ヒノキ。
192	1254ST～1255ST	断ち割り	木器類	加工材	端材	(8.4)	(残存1.4)	(2.9)	第119図図版-	裏面を欠く。両端には細かな加工痕が認められる。下半を欠くが、中心からややずれた箇所に縦に貫通する円孔があるが、これは髄が抜けただけかもしれない。加工部分と欠失部分を除き、樹皮が残っている。芯持。ミツバウツギ。
193	1252ST～1255ST	断ち割り	石器類	打製石斧		(9.4)	(1.9)	(4.9)	第119図図版-	石材は凝灰岩。重さ77.9g
194	310SM	－	土器類	土師器	製塩土器	-	-	-	第119図図版56	手捏成形。外面は褐色を呈する。製塩土器の底部破片と推定。
195	310SM	－	土器類	土師器	土錘	(4.2)	(1.3)	(1.3)	第119図図版71	外面ナデ。孔径0.3cm。重さ6.7g。
196	310SM	－	土器類	土師器	土錘	(残存3.4)	(1.1)	(1.2)	第119図図版71	下端を欠く。外面ナデ。孔径0.4cm。残存部分の重さ5.6g。
197	310SM	断ち割り	土器類	土師器	土錘	(3.6)	(1.1)	(1.2)	第119図図版-	外面摩滅。孔径0.3cm。重さ4.3g。
198	310SM	－	土器類	須恵器	無台坏	-	-	7.4	第119図図版73	底部内面ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「海」。
199	310SM	U	土器類	須恵器	有台坏	-	-	7.8	第119図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面にヘラ書き。底部外面に墨付着。転用硯。９サSEと破片接合。
200	310SM	U	土器類	須恵器	有台坏？	-	-	-	第119図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。底部内外面に墨付着。転用硯。
201	310SM	－	土器類	須恵器	無台碗	-	-	5.7	第119図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。底部内面に墨書「□」。ただし、これは墨が付着しただけかもしれない。底部外面に墨書「□」。
202	310SM	－	土器類	須恵器	無台碗	-	-	6.6	第119図図版73	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「仁」。367SDと破片接合。
203	310SM	－	土器類	須恵器	無台碗	-	-	6.8	第119図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。底部内面平滑化。底部外面にヘラ書き（記号状ないし絵画状）。
204	310SM	－	土器類	須恵器	有台盤	14.3	2.3	8.0	第119図図版-	口縁部内外面回転ナデ。口縁部を除く体部内外面回転ヘラ削り。底部内面ナデ。底部外面にヘラ切り痕。
205	310SM	断ち割り	土器類	須恵器	不明	-	-	8.8	第119図図版-	有台坏・有台碗・有台盤いずれかの底部とみられる。底部内面回転ナデ後ナデ。中央部を除く底部外面回転ナデ、中央部ナデ・オサエ。底部内面平滑化。底部内面に墨付着。転用硯。
206	310SM	－	土器類	須恵器	壺蓋	12.6	4.0	-	第119図図版65	摘み部外面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。ただし端部より少し上方に回転ナデの部分あり。天井部内面回転ナデ、中央部にナデを加える。口縁部内外面回転ナデ。焼成あまい。367SDと破片接合。
207	310SM	U	土器類	須恵器	壺	11.0	-	-	第119図図版67	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内外面に自然釉付着。５コSW・６ケSEと破片接合。
208	310SM	－	土器類	須恵器	不明	-	-	-	第119図図版-	坏か碗の底部破片と推定。底部外面に墨書「□」。
209	310SM	－	土器類	須恵器	陶錘	(残存4.6)	(2.4)	(2.5)	第119図図版-	上端を欠く。外面ナデ・指オサエ。孔径0.8cm。残存部分の重さ23.3g。
210	310SM	－	土器類	灰釉陶器	碗	13.4	4.3	6.7	第119図図版71	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。内面全面と体部外面上半に灰釉(漬け掛け)。367SD・８コSEと破片接合。
211	310SM	－	土器類	灰釉陶器	碗	12.2	3.8	7.0	第119図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
212	310SM	－	土器類	灰釉陶器	碗	12.3	3.5	5.9	第119図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
213	310SM	－	土器類	灰釉陶器	皿	-	-	6.6	第119図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部外面に墨書「□」。

第61表　遺物観察表（９）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
214	310SM	－	土器類	灰釉陶器	皿	－	－	7.6	第119図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面に墨書「□」。体部内面・底部内面に墨付着。転用硯。
215	310SM	－	土器類	灰釉陶器	耳皿	－	2.1	5.4	第119図図版71	内面は厚い施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面ナデ。
216	310SM	－	土器類	灰釉陶器	盤	－	－	17.5	第119図図版71	脚は１つしか確認できないが、類例から３足と推定して図示した。内外面に灰釉とみられる灰色～淡黄色の釉を施している。本来は全面に施釉されていたようであるが、剥落している部分も多い。内外面の調整は釉のため不明である。４クSWと破片接合。
217	310SM	－	土器類	灰釉陶器	小瓶	－	－	4.3	第119図図版-	胴部内面回転ナデ。胴部外面回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。小型の瓶と推定。
218	310SM	－	土器類	輸入磁器	白磁碗	約16.0	－	－	第119図図版80	体部内面全面と下端を除く外面に灰白色の白磁釉。
219	310SM	－	土器類	輸入磁器	青磁皿	－	－	－	第119図図版-	体部内外面に青緑色の青磁釉。
220	310SM	－	土器類	常滑焼	鉢	－	－	－	第119図図版-	体部内外面回転ナデ。越前焼の鉢の可能性もある。
221	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(10.5)	(0.5)	(1.2)	第120図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
222	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.8)	(0.5)	(1.0)	第120図図版-	下端のみ炭化している。芯去。マツ属複維管束亜属。
223	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.4)	(0.3)	(1.4)	第120図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
224	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.1)	(0.5)	(0.8)	第120図図版-	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
225	310SM	U	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.9)	(0.7)	(1.8)	第120図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
226	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(14.2)	(0.9)	(1.3)	第120図図版-	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
227	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(15.4)	(1.1)	(1.8)	第120図図版-	下端のみ炭化している。芯去。サワラ。
228	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(19.9)	(0.3)	(0.8)	第120図図版-	下端のみ炭化している。上端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
229	310SM	U	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(20.0)	(1.9)	(2.0)	第120図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
230	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.7)	(0.6)	(1.2)	第120図図版-	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
231	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(23.7)	(0.8)	(1.0)	第120図図版-	下端のみ炭化している。大きく彎曲している。芯去。ヒノキ。
232	310SM	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.8)	(0.5)	(0.7)	第120図図版-	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
233	310SM	U	木器類	器具	棒状木製品	(残存16.6)	(1.5)	(1.9)	第120図図版-	下端を欠く。左側面も大部分を欠く。上端は斜めに切り落としている。下端やや上から切り欠き加工を施し、段差を設けている。芯去。
234	310SM	U	木器類	加工材	端材	(10.0)	(5.9)	(5.8)	第120図図版117	各面いずれも粗く、特に上端面は整形されていない。下端は表面と裏面から斜めに切り落としている。左側面は２面からなる。芯去。ヒノキ。
235	310SM	U	木器類	加工材	端材	(5.0)	(4.8)	(4.4)	第120図図版117	上端は斜めに切り落としている。下端もやや斜めに切り落としている。上端面には刃物によるとみられる傷が認められる。断面は不整な十二角形である。芯去。ヒノキ。
236	1250SM	－	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	16.0	－	－	第120図図版-	口頸部内外面横ナデ。ただし、外面は工具によるものである可能性がある。口頸部外面に部分的に黒色炭化物付着。
237	1250SM	－	土器類	須恵器	無台坏	11.0	4.3	8.0	第120図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。
238	1250SM	－	土器類	須恵器	無台碗	－	－	6.0	第120図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
239	1250SM	－	土器類	須恵器	有台碗	16.8	6.2	9.5	第120図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面に重ね焼き痕。
240	1250SM	－	土器類	須恵器	有台碗	－	－	7.2	第120図図版-	体部内外面回転ナデ。
241	1250SM	－	土器類	須恵器	返り蓋	11.4	－	－	第120図図版66	体部内外面回転ナデ。ゆがみが著しい。1309SDと破片接合。
242	1250SM	－	土器類	須恵器	摘み蓋	15.4	3.7	－	第120図図版60	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
243	1250SM	－	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第120図図版60・66	仏塔状の特殊摘みを持つ蓋の天井部破片。天井部内外面回転ナデ。摘み部回転ナデ。
244	1250SM	－	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第120図図版-	摘み蓋の天井部破片と推定。天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。天井部内面に墨書「□」。

第62表　遺物観察表（10）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
245	1250SM	－	土器類	須恵器	不明	－	－	9.2	第120図図版66	高台内外面回転ナデ。
246	1250SM	－	土器類	須恵器	壺	約6.2	－	－	第120図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。
247	1250SM	－	土器類	須恵器	壺	7.0	6.5	5.0	第120図図版67	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。底部内面自然釉のため調整不明。底部外面に回転糸切り痕。口頸部内面・胴部下半内面・底部内面に自然釉付着。1253ST～1256STと破片接合。
248	1250SM	－	土器類	灰釉陶器	碗	12.0	3.8	6.4	第120図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。
249	1250SM	－	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	8.6	第120図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
250	1250SM	－	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	10.8	第120図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。体部内外面・底部内面に灰釉。底部内面に重ね焼き痕。胎土緻密で他の個体より白っぽい。
251	1250SM	－	土器類	灰釉陶器	碗	15.2	－	－	第120図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面上半に灰釉。
252	1250SM	－	土器類	灰釉陶器	碗？	－	－	8.6	第120図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部外面に灰釉。底部内面平滑化。
253	1250SM	－	土器類	灰釉陶器	皿	－	－	7.4	第120図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。内面に灰釉。底部内面に重ね焼き痕。
254	1250SM	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第120図図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬連弁文。
255	1250SM	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第120図図版80	体部内外面に青緑色の青磁釉。体部外面に鎬連弁文。
256	1250SM	－	土器類	輸入磁器	青磁碗？	－	－	－	第120図図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部内面にヘラ描き文。
257	1250SM	－	土器類	山茶碗	鉢	－	－	15.0	第121図図版81	体部内面回転ナデ。体部外面横方向ヘラ削り。底部内面回転ナデ。中央部を除く底部外面回転ヘラ削り。底部外面中央部摩滅。高台著しく摩滅。体部内面・底部内面平滑化。10シNWと破片接合。
258	1250SM	－	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ａ類	(残存11.8)	(0.7)	(残存5.2)	第121図図版94	全体の1/2近く残存しているとみられるが、側板との結合のための加工は見当たらない。中央に一対の貫通する円孔が認められる。この部分に紐を通すなどして把手を設け、蓋として使用した可能性がある。柾目。ケヤキ。
259	1250SM	－	木器類	器具	曲物容器 曲物側板	(残存8.6)	(0.5)	(残存2.6)	第121図図版94	残存部分は全体のごく一部とみられ、全形の復元は困難である。上下縁に対して直交方向にケビキを施している。柾目。ヒノキ。
260	1250SM	－	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存8.6)	(0.3)	(残存2.2)	第121図図版-	本来の平面形は円形とみられるが、容器の底板にしては薄い。板目。ヒノキ。
261	1250SM	－	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存2.3)	(0.5)	(1.7)	第121図図版119	先端を欠く。石材はチャート。重さ1.2g。
262	1250SM	－	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存2.0)	(0.4)	(1.6)	第121図図版119	先端を欠く。石材は黒曜石。重さ1.0g。
263	1250SM	－	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存1.5)	(0.3)	(残存1.1)	第121図図版119	左脚部下端を欠く。石材は下呂石。重さ0.4g。
264	1250SM	－	石器類	打製石斧		(10.0)	(1.4)	(4.6)	第121図図版-	全体に摩滅している。石材は凝灰岩。重さ88.2g。
265	1250SM	－	石器類	砥石		(5.3)	(2.2)	(3.1)	第121図図版121	横断面は不整な台形で、砥面は４面。石材は凝灰岩。重さ41.9g。
266	1250SM	－	鍛冶関連遺物	鉄滓		(5.4)	(3.8)	(3.2)	第121図図版122	162に比べ、密度が低い。重さ69.8g。
267	70SD	－	土器類	須恵器	坏蓋？	10.8	－	－	第121図図版-	体部内外面回転ナデ。あるいは高坏か。
268	70SD	U	土器類	須恵器	鉢	16.6	7.8	8.0	第121図図版62	体部内外面回転ナデ。底部内面ヘラ状の工具によるナデ。底部外面ヘラ切り後粗いナデ。底部内面に、調整時についたとみられる長さ１cm前後の細かな傷が多数認められる。鉄鉢形の鉢であるが、底部は平底である。胎土中に黒色粒を多く含む。４ケNW・５ケSEと破片接合。
269	70SD	－	土器類	須恵器	壺	6.4	－	－	第121図図版-	壺・瓶類の口頸部とみられる。口頸部内外面回転ナデ。口頸部内外面に部分的に自然釉付着。
270	70SD	M	土器類	須恵器	平瓶	5.4	15.2	－	第121図図版65	口頸部内面回転ナデ。口頸部外面回転ナデを施すが、カキ目状の平行線が残る。胴部外面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面に回転ヘラ削りを施すが、平行線状の叩き痕が残る。
271	70SD	M	土器類	須恵器	フラスコ形瓶	8.0	21.7	－	第121図図版65	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面回転ナデ(器に対して縦方向)。ただし､右端中央はナデ･オサエ。胴部外面回転ナデ(器に対して縦方向)。ただし左1/3は回転ヘラ削り(器に対して縦方向)､右端中央はナデ。頸部内面下半と胴部外面下半(底部を除く)に自然釉付着。胴部は球胴である。

第63表　遺物観察表（11）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
272	70SD	U	土器類	須恵器	壺	－	－	－	第121図 図版64	胴部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。胴部外面中央部に櫛状工具による列点文を施す。四足壺。182SXと破片接合。
273	192SD	M	土器類	須恵器	有台坏	－	－	10.0	第121図 図版66	底部内外面ナデ。底部内面に漆付着。底部外面にもわずかに付着。
274	192SD	U	木器類	器具	容器蓋	(残存14.8)	(1.0)	(残存4.0)	第121図 図版-	本来は円形で、直径は推定19.5cm。裏面の周縁部に段差を設けている。表面・裏面に赤色漆をかけている。側面には黒色漆をかけている。周縁部の漆の重なり方は赤色漆の上に黒色漆の順とみられる。中世後期以降の製品とみられる。12年度試掘坑４と破片接合。柾目。ヒノキ。
275	196SD	M	土器類	須恵器	双耳坏？	10.8	3.7	7.8	第121図 図版60	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。耳は１つしか確認できないが、類例から双耳坏と推定した。
276	311SD	－	土器類	須恵器	有台坏	12.6	3.9	8.0	第122図 図版60・72	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部内外面に墨付着。転用硯。５サSWと破片接合。
277	311SD	－	土器類	須恵器	無台碗	13.8	3.8	5.6	第122図 図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。311SD～393STと破片接合。
278	311SD	－	土器類	須恵器	有台碗	－	－	8.0	第122図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。体部外面に墨書「□〔井ヵ〕」。５サSEと破片接合。
279	311SD	－	土器類	須恵器	有台盤	13.6	2.6	8.3	第122図 図版61・72	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨付着。転用硯。５サNW・SWと破片接合。
280	311SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第122図 図版-	坏か碗の底部破片と推定。底部内面に墨書「□」。
281	311SD	－	土器類	須恵器	甕	25.0	38.0	16.7	第122図 図版63	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面ナデ。胴部外面に平行線状の叩き痕。底部内外面ナデ。口頸部内面・胴部外面上半・底部内面に自然釉付着。外面のほぼ全面と口頸部内面は赤色を呈する。これは鉄分を多く含む黄土を化粧掛けした上で焼成したことによるものとみられる。311SD～392ST・５サ・５シと破片接合。
282	311SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	13.0	3.8	6.9	第122図 図版-	体部内外面回転ナデ。
283	311SD	－	土器類	輸入磁器	青磁碗？	－	－	－	第122図 図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。
284	311SD	－	土器類	輸入磁器	青磁皿？	－	－	－	第122図 図版-	体部内面と体部外面上半に青緑色の青磁釉。
285	311SD	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第122図 図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
286	311SD	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第122図 図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に蓮弁文。
287	311SD	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第122図 図版-	体部内外面に青緑色の青磁釉。
288	311SD	－	土器類	土師質土器	皿	11.0	－	－	第122図 図版81	体部内外面回転ナデ。口縁部内外面に煤付着。灯明皿として使用されたと考えられる。
289	311SD	－	土器類	常滑焼	壺	20.0	－	－	第122図 図版81	口頸部内外面回転ナデ。口頸部外面に自然釉付着。
290	311SD	－	木器類	器具	挽物容器 漆器椀？	－	－	－	第122図 図版88	全形を窺うことはできないが、形状から椀である可能性が高い。内外面に黒漆が塗られている。外面には赤色漆で文様が描かれている。横木取り。ケヤキ。
291	311SD	U	木器類	器具	挽物容器 漆器皿？	－	－	－	第122図 図版88	全形を窺うことはできないが、形状から皿である可能性が高い。同様の薄手の破片４点と共に出土した。内外面に黒色漆が塗られている。外面には赤色漆で文様が描かれている。横木取り。ケヤキ。
292	311SD	U	木器類	器具	下駄 連歯下駄	(13.8)	(残存3.4)	(残存7.8)	第122図 図版98	形状・大きさから連歯下駄の歯と推定した。上端面は割れ面である。表面・裏面・両側面の整形は比較的丁寧である。下端面は摩滅しており、接地面であったとみられる。接地面を底面とする台形状を呈する。板目。アスナロ属。
293	311SD	－	木器類	器具	杓子 Ａ類	(27.5)	(0.7)	(8.3)	第123図 図版99	ほぼ完形品である。飯を盛るしゃもじの形状である。上端付近に一対の貫通孔が認められ、うち１つには樹皮とみられるものがはさまっている。下端付近にも貫通孔が１つ認められるが、これは後世の破損かもしれない。柄の部分と身の部分とで厚みに差はみられない。下端が摩滅しているが、これは使用に伴うものである可能性がある。柾目。ヒノキ。
294	311SD	－	木器類	器具	箸	(22.5)	(0.4)	(0.6)	第123図 図版100	ほぼ完形品である。上端・下端とも対等に先細りの形状である。芯去。ヒノキ。
295	311SD	－	木器類	器具	箸	(22.0)	(0.3)	(0.8)	第123図 図版100	下端は３方向から削り、尖らせている。大きさから箸と推定したが、通常より平たいことから、疑問が残る。芯去。サワラ。

第64表　遺物観察表（12）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
296	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存22.4)	(0.4)	(0.6)	第123図図版100	上端を欠くが、欠失部分はわずかとみられる。断面は不整な六角形を基本とするが、一定していない。両端とも先細りである。下端は尖らせている。細かな加工痕が多数認められる。芯去。ヒノキ。
297	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存18.9)	(0.5)	(0.6)	第123図図版100	上端を欠くが、欠失部分はわずかとみられる。断面は不整な六角形を基本とするが、楕円形に近い部分もみられる。芯去。ヒノキ。
298	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存17.2)	(0.4)	(0.6)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な四角形を基本とするが、下端では６方向から削り、先端を尖らせている。芯去。
299	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存15.6)	(0.5)	(0.6)	第123図図版100	上端を欠く。下端もわずかに欠けているとみられる。断面は不整な六角形であるが､円形に近い部分もみられる。芯去。ヒノキ。
300	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存14.8)	(0.4)	(0.7)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な八角形を基本とするが、一定しない。芯去。ヒノキ。
301	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存14.0)	(0.5)	(0.7)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な六角形である。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
302	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存13.4)	(0.8)	(1.0)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な七角形である。芯去。
303	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存5.3)	(0.4)	(0.6)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な五角形である。芯去。ヒノキ。
304	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存8.5)	(0.5)	(0.5)	第123図図版100	上端と下端を欠く。断面は円形に近いが､角張る部分もある。芯去。ヒノキ。
305	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存8.7)	(0.4)	(0.6)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な六角形である。芯去。ヒノキ。
306	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存10.6)	(0.3)	(0.7)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な五角形である。芯去。ヒノキ。
307	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存12.3)	(0.5)	(0.7)	第123図図版100	上端を欠く。断面は楕円形である。芯去。ヒノキ。
308	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存11.8)	(0.6)	(0.6)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な五角形を基本とするが、楕円形に近い部分も多い。芯去。ヒノキ。
309	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存12.4)	(0.4)	(0.7)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な五角形を基本とするが、一定していない。芯去。サワラ。
310	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存13.5)	(0.5)	(0.5)	第123図図版100	上端を欠く。断面は方形を基本とするが、下端付近は七角形である。芯去。ヒノキ。
311	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存13.8)	(0.5)	(0.7)	第123図図版100	上端を欠く。断面は楕円形である。芯去。ヒノキ。
312	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存14.1)	(0.6)	(0.6)	第123図図版100	上端を欠く。断面は不整な六角形である。芯去。ヒノキ。
313	311SD	－	木器類	器具	箸	(残存15.1)	(0.6)	(0.6)	第123図図版100	上端を欠く。断面は六角形である。下端は尖らせている。芯去。サワラ。
314	311SD	－	木器類	器具	板状木製品	(残存13.5)	(0.4)	(5.2)	第123図図版-	下端を欠く。全体に腐食が進んでおり、加工痕などは認められない。柾目。ヒノキ。
315	311SD	－	木器類	器具	板状木製品	(残存8.8)	(0.4)	(3.9)	第123図図版-	下端を欠く。加工痕などは認められない。板目。
316	311SD	－	木器類	器具	板状木製品	(22.0)	(0.4)	(3.6)	第123図図版-	右側面は欠失している可能性がある。形状は整っているが、全面､加工痕は残っていない。曲物の側板か。柾目。サワラ。
317	311SD	－	木器類	器具	板状木製品	(20.7)	(0.4)	(6.4)	第123図図版103	左下隅を欠く。表面と左側面に刃物によるとみられる細かな線状痕が認められる。また表面の下端付近には、炭化部分２箇所と刺突痕多数が認められる。柾目。ヒノキ。
318	311SD	－	木器類	器具	板状木製品	(20.4)	(0.3)	(4.8)	第123図図版103	ほぼ完形品であるが、かなり傷んでいる。右上隅に小さな切り欠きが１箇所認められる。曲物容器の側板か。柾目。ヒノキ。
319	311SD	－	木器類	器具	板状木製品	(20.1)	(0.3)	(2.3)	第123図図版-	完形品とみられる。全体に残存状態良好であるが、加工痕は認められない。柾目。ヒノキ。
320	311SD	－	木器類	器具	板状木製品	(残存20.6)	(0.6)	(5.3)	第123図図版-	下端を欠く。全体に腐食が進んでおり、加工痕などは認められない。柾目。ヒノキ。
321	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(39.0)	(0.5)	(1.3)	第124図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
322	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(37.3)	(0.9)	(1.4)	第124図図版101	上端と下端が炭化している。下半部は粗く削って薄く仕上げている。芯去。ヒノキ。
323	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(35.7)	(1.3)	(1.6)	第124図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
324	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(33.3)	(0.8)	(0.9)	第124図図版-	下端のみ炭化している。芯去。

第65表　遺物観察表（13）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
325	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(30.2)	(0.8)	(1.1)	第124図図版-	下端のみ炭化している。上端は斜めに切断されている。芯去。
326	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(28.6)	(0.7)	(1.1)	第124図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
327	311SD	U	木器類	器具	火付け木Ａ類	(27.7)	(0.6)	(1.1)	第124図図版101	下端のみ炭化している。327～330・334・349・351の７個体は一括出土。芯去。
328	311SD	U	木器類	器具	火付け木Ａ類	(28.9)	(0.6)	(0.7)	第124図図版101	上端と下端が炭化している。芯去。ヒノキ。
329	311SD	U	木器類	器具	火付け木Ａ類	(27.9)	(0.4)	(0.6)	第124図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
330	311SD	U	木器類	器具	火付け木Ａ類	(26.6)	(0.4)	(0.7)	第124図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
331	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(26.8)	(0.3)	(1.1)	第124図図版-	上端と下端が炭化するが、上端の炭化範囲はほぼ上端面のみにとどまる。芯去。
332	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(26.6)	(0.5)	(0.6)	第124図図版101	上端と下端が炭化している。断面は比較的整った方形である。芯去。ヒノキ。
333	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(23.6)	(0.7)	(2.2)	第124図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
334	311SD	U	木器類	器具	火付け木Ａ類	(28.0)	(0.5)	(0.5)	第124図図版101	上端と下端が炭化している。芯去。ヒノキ。
335	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(23.8)	(0.7)	(1.9)	第124図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
336	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.0)	(0.8)	(1.0)	第124図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
337	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.1)	(0.3)	(0.9)	第124図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
338	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.1)	(0.7)	(1.8)	第124図図版-	下端のみ炭化している。両側面が整っており、既存の板状ないし棒状の製品から削ぎ取られたものである可能性がある。芯去。
339	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.4)	(0.5)	(0.7)	第124図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
340	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(16.3)	(0.4)	(0.8)	第124図図版101	下端のみ炭化している。上端は２方向から切断されている。芯去。ヒノキ。
341	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(17.4)	(0.6)	(1.0)	第124図図版-	下端のみ炭化している。上半はごく薄く仕上げている。芯去。
342	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(16.9)	(0.5)	(1.0)	第124図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
343	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(15.9)	(0.9)	(0.8)	第124図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
344	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(15.1)	(0.7)	(1.1)	第124図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
345	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(14.7)	(0.7)	(1.3)	第124図図版-	上端と下端が炭化している。いずれも裏面はほとんど炭化していない。芯去。
346	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(22.0)	(0.8)	(0.9)	第124図図版101	下端のみ炭化している。上端は欠けている可能性がある。芯去。ヒノキ。
347	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(22.0)	(0.6)	(1.7)	第124図図版-	下端のみ炭化している。上端は削って薄く仕上げている。芯去。
348	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(22.3)	(1.8)	(1.2)	第124図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
349	311SD	U	木器類	器具	火付け木Ａ類	(24.1)	(0.4)	(0.5)	第124図図版101	下端のみ炭化している。芯去。
350	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(25.6)	(1.2)	(1.2)	第124図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
351	311SD	U	木器類	器具	火付け木Ａ類	(24.2)	(0.3)	(0.6)	第124図図版101	下端のみ炭化している。芯去。
352	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(12.3)	(0.5)	(1.1)	第124図図版-	下端のみ炭化している。本来はさらに長かった可能性がある。芯去。
353	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(11.4)	(0.6)	(1.2)	第124図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
354	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(10.8)	(0.3)	(0.8)	第124図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
355	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.4)	(0.8)	(0.8)	第124図図版-	下端のみ炭化している。上半は薄い。芯去。
356	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(12.5)	(0.6)	(1.9)	第124図図版-	下端のみ炭化している。上端は側面に対して斜めに切断されている。芯去。
357	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存9.0)	(0.5)	(2.1)	第124図図版101	上端を欠く。残存部分のほぼ下半全体が炭化している。芯去。ヒノキ。
358	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.5)	(0.7)	(1.4)	第124図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
359	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存8.8)	(0.3)	(0.7)	第124図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
360	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存8.6)	(0.7)	(1.2)	第124図図版-	上端を欠く。下半が炭化している。芯去。
361	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(25.3)	(0.9)	(2.9)	第125図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。

第66表　遺物観察表（14）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
362	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(23.6)	(0.5)	(0.5)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
363	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(21.9)	(0.2)	(0.8)	第125図図版-	下端のみ炭化している。全体に極めて薄い。芯去。
364	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(21.0)	(0.6)	(1.4)	第125図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
365	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(20.0)	(0.7)	(1.4)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上・下端を削って先端を尖らせている。芯去。
366	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(19.4)	(0.7)	(1.1)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上半の彎曲が著しい。芯去。
367	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(19.2)	(0.6)	(1.3)	第125図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
368	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(18.3)	(0.8)	(0.8)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上端は斜めに切断されている。芯去。
369	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(18.3)	(0.6)	(1.3)	第125図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
370	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.4)	(0.6)	(0.8)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
371	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.6)	(1.0)	(2.2)	第125図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
372	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(16.8)	(0.6)	(1.8)	第125図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
373	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(16.0)	(0.5)	(0.9)	第125図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
374	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(14.8)	(0.9)	(1.8)	第125図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。サワラ。
375	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(16.1)	(0.7)	(0.9)	第125図図版-	下端のみ炭化している。横断面は比較的整った長方形である。芯去。
376	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(15.3)	(0.3)	(1.0)	第125図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
377	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(6.3)	(0.2)	(1.0)	第125図図版101	下端のみ炭化している。極めて薄い。芯去。ヒノキ。
378	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存6.2)	(0.3)	(1.2)	第125図図版101	上端を欠く。残存部分のほぼ下半全体が炭化している。芯去。ヒノキ。
379	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.4)	(0.7)	(1.3)	第125図図版101	下端のみ炭化している。本来はさらに長かった可能性がある。芯去。ヒノキ。
380	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(9.4)	(0.2)	(1.4)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。全体に極めて薄い。芯去。
381	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(9.5)	(0.4)	(1.0)	第125図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
382	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(10.0)	(0.7)	(1.0)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上端は２方向からきれいに切断されている。芯去。
383	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(10.0)	(0.5)	(1.7)	第125図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
384	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.4)	(0.2)	(1.0)	第125図図版-	下端のみ炭化している。非常に薄い作りである。芯去。
385	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存12.0)	(0.3)	(0.6)	第125図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
386	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(12.7)	(0.4)	(2.0)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
387	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(12.6)	(0.5)	(0.7)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上半部は薄い。芯去。
388	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(13.3)	(0.5)	(2.1)	第125図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
389	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(13.4)	(0.8)	(1.4)	第125図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
390	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(13.7)	(0.3)	(1.2)	第125図図版-	炭化範囲は広く、左側面では下半近くに達している。芯去。
391	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(14.4)	(0.4)	(0.5)	第125図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
392	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.4)	(0.4)	(1.3)	第125図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
393	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.2)	(0.4)	(2.4)	第125図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
394	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(7.5)	(0.7)	(1.4)	第125図図版-	上端は欠失している可能性がある。下端のみ炭化している。芯去。
395	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存6.7)	(0.8)	(1.4)	第125図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
396	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(7.0)	(0.4)	(1.3)	第125図図版-	短小であるが上・下端が炭化している。芯去。

第67表　遺物観察表（15）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
397	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(6.9)	(0.4)	(0.9)	第125図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
398	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(6.9)	(0.4)	(1.1)	第125図図版-	上端・下端が炭化している。芯去。
399	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(7.8)	(0.6)	(1.4)	第125図図版101	下端のみ炭化している。芯去。モクレン属。
400	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(7.0)	(0.5)	(0.8)	第125図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
401	311SD	－	木器類	器具	火付け木Ｄ類	(6.3)	(1.0)	(1.4)	第125図図版-	上端は欠失している可能性がある。下端のみ炭化している。下端は斜めに削っている。横断面は円形であり、木の枝を切ってそのまま使用している。芯持。
402	311SD	－	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(1.6)	(0.3)	(1.3)	第125図図版119	石材はチャート。重さ0.5g。
403	321SD	－	土器類	須恵器	坏蓋	9.0	2.9	－	第125図図版-	天井部内面ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
404	321SD	－	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第125図図版73	天井部内面ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。体部内面に墨書「□」。
405	321SD	－	土器類	須恵器	摘み蓋？	約17.0	－	－	第125図図版-	体部内外面回転ナデ。体部内面に墨付着。転用硯。
406	321SD	－	土器類	須恵器	摘み蓋？	約16.4	－	－	第125図図版-	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。内面のほぼ全面に墨付着。転用硯。
407	321SD	－	土器類	須恵器	無台碗	12.0	4.2	5.2	第125図図版60・73	体部内面回転ナデ。体部外面上半は工具により回転ナデ、下半は回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。堅緻で黒褐色を呈する。底部外面に墨書「□□〔升ヵ〕」。５コNEと破片接合。
408	321SD	－	土器類	須恵器	無台碗	12.2	3.4	6.6	第125図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後粗いナデ。
409	321SD	－	土器類	須恵器	無台碗	－	－	5.8	第126図図版73	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後粗いナデ。底部外面に墨書「□〔海ヵ〕」。
410	321SD	－	土器類	須恵器	有台坏	12.0	3.3	8.4	第126図図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□〔海ヵ〕」とヘラ書き。
411	321SD	－	土器類	須恵器	有台盤	12.6	2.7	6.2	第126図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。
412	321SD	－	土器類	須恵器	有台盤？	14.0	－	－	第126図図版72	体部内外面回転ナデ。体部内面に墨付着。転用硯。
413	321SD	－	土器類	須恵器	有台盤？	約15.0	－	－	第126図図版-	有台盤か脚付盤の体部とみられる。体部内外面回転ナデ。体部内面に墨付着。割れ口にも墨の付着が認められることから、割れたのちに硯として使用されたとみられる。転用硯。
414	321SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第126図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
415	321SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第126図図版-	有台碗か壺・鉢の底部と推定。底部内外面ナデ。底部外面に墨書「□」。
416	321SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	8.4	第126図図版-	有台盤か有台坏の底部とみられる。底部内外面回転ナデ。底部外面に墨書「□」。
417	321SD	－	土器類	須恵器	壺	11.8	－	－	第126図図版64	体部内外面回転ナデ。口縁部付近に筆立て状の突起を備える。310SM・324SD・1061SD・６ケSWと破片接合。
418	321SD	－	土器類	須恵器	壺	10.4	－	－	第126図図版-	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内面全面と外面の一部に自然釉付着。５ケSWと破片接合。
419	321SD	－	土器類	須恵器	平瓶	6.5	14.6	7.0	第126図図版65	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面回転ナデ。下端を除く胴部外面回転ナデ。胴部下端外面回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。口頸部内面に自然釉付着。５ケNE・SE・SWと破片接合。
420	321SD	－	土器類	須恵器	平瓶	10.6	16.8	11.9	第126図図版65	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面回転ナデ。胴部外面回転ヘラ削り。底部内外面回転ナデ。口頸部内面に自然釉付着。311SD・320SM・324SD・327～386ST・373SD・1061SD・５ケ・５コ・６ケ・６コ・７シ・８サと破片接合。
421	321SD	－	土器類	須恵器	横瓶	11.6	－	－	第126図図版67	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面ナデ。胴部外面に平行線叩き痕。口頸部内外面と胴部外面に自然釉付着。４ケSW・５ケ・５コNW・６ケSEと破片接合。
422	321SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	14.2	4.0	7.4	第126図図版-	内面は施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。内面の全面に灰釉。底部外面に墨付着。転用硯。311SDと破片接合。
423	321SD	－	木器類	器具	形代馬形	(残存9.2)	(0.5)	(2.5)	第126図図版-	左端を欠き、全体形状の復元は困難である。上端面・下端面の加工は丁寧である。残存部分が馬の尾部を表現しているように見えることから、馬形と判断した。柾目。ヒノキ。

第68表　遺物観察表（16）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
424	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(5.5)	(0.8)	(1.9)	第126図図版-	ほぼ下半が炭化している。極めて短いが、上端が欠失した形跡はない。芯去。
425	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(6.0)	(0.7)	(0.9)	第126図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
426	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存6.4)	(0.8)	(1.1)	第126図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
427	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(7.6)	(0.6)	(1.1)	第126図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
428	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(16.1)	(1.4)	(2.7)	第126図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
429	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(15.5)	(0.5)	(1.1)	第126図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
430	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(12.6)	(0.9)	(1.1)	第126図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
431	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(12.9)	(0.8)	(1.3)	第126図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
432	321SD	M	木器類	器具	火付け木Ａ類	(12.5)	(0.5)	(0.5)	第126図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
433	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.8)	(0.4)	(0.9)	第126図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
434	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(11.8)	(0.9)	(1.5)	第126図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
435	321SD	M	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.4)	(0.9)	(1.1)	第126図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
436	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(10.3)	(1.1)	(2.3)	第126図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
437	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(12.0)	(1.8)	(1.7)	第126図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
438	321SD	M	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(27.5)	(1.0)	(1.9)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
439	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(22.3)	(1.4)	(1.9)	第127図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
440	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(20.3)	(1.5)	(2.3)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
441	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(19.4)	(1.5)	(1.8)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
442	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(18.7)	(0.8)	(2.0)	第127図図版-	下端が炭化するほか、表面と右側面では中央部が部分的に炭化している。芯去。
443	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(17.9)	(0.8)	(1.1)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
444	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(17.1)	(1.4)	(1.5)	第127図図版-	下端のみ炭化している。上端は斜めに粗く切断されている。芯去。
445	321SD	M	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(17.7)	(0.8)	(1.0)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
446	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.2)	(0.7)	(0.9)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
447	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(16.5)	(1.3)	(1.5)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
448	321SD	M	木器類	器具	火付け木Ａ類	(16.4)	(0.6)	(1.3)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
449	321SD	M	木器類	器具	火付け木Ａ類	(7.2)	(0.8)	(1.8)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
450	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(7.7)	(0.5)	(1.5)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
451	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.2)	(0.6)	(1.0)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
452	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(9.0)	(0.5)	(1.2)	第127図図版-	下端が炭化するほか、右側面上端も炭化している。芯去。
453	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｄ類	(8.7)	(1.0)	(1.1)	第127図図版-	下端のみ炭化している。表面の上端付近に、細かな平行線状の加工痕が認められる。芯持。
454	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(7.0)	(1.1)	(1.0)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
455	321SD	M	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.9)	(0.5)	(0.9)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
456	321SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(10.6)	(0.5)	(1.1)	第127図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
457	321SD	－	木器類	器具	棒状木製品	(29.5)	(2.4)	(2.5)	第127図図版-	上端面・下端面に加工痕が認められることから、完形品とみられる。上端付近と中央に１箇所ずつ、圧痕が認められる。横断面は円形である。これは自然木の丸みを利用したのではなく、加工によるものである。工具の柄か。芯去。
458	321SD	－	木器類	器具	棒状木製品	(残存13.3)	(1.2)	(1.5)	第127図図版-	下端を欠く。断面は方形に近い台形である。芯去。
459	321SD	－	木器類	器具	棒状木製品	(9.9)	(1.2)	(1.3)	第127図図版-	上端は垂直に切り落としている。下端は１方向から斜めに切り落としている。断面は不整な五角形～台形である。芯去。
460	321SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(残存64.5)	(4.7)	(6.0)	第127図図版-	上端をわずかに欠く。下端は６方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。
461	321SD	－	木器類	加工材	割板残材	(13.7)	(6.0)	(10.8)	第127図図版118	右側面と裏面は比較的平滑だが、それ以外の各面は粗い。両端面を比べると、上端は端揃えを意識した形状であるのに対し、下端は粗く断ち切られたままの状態である。柾目。ヒノキ。
462	324SD	2	土器類	土師器	甕	12.8	-	-	第127図図版56	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面上半回転ナデ、下半に斜め方向のハケ目。胴部外面上半にカキ目。下半に縦方向の板ナデ。胎土緻密で黄橙色を呈する。
463	324SD	護岸	土器類	土師器	甕	14.0	-	-	第127図図版56	口縁部内外面ナデ。頸部内面に横方向のハケ目。胴部内面ナデ。頸部から胴部にかけての外面に縦方向のハケ目。

第69表　遺物観察表（17）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
464	324SD	―	土器類	須恵器	坏蓋？	－	－	－	第127図 図版73	天井部内面ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。天井部外面に鋸歯状のヘラ書き。体部外面に波状のヘラ書き。1048と同一個体か。３ケNE・５ケと破片接合。
465	324SD	2	土器類	須恵器	坏身	約8.0	－	－	第127図 図版-	体部内外面回転ナデ。
466	324SD	―	土器類	須恵器	摘み蓋	21.7	2.8	－	第128図 図版60・72	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。　体部内外面回転ナデ。天井部内面平滑化。内面に墨付着。転用硯。361SD・５ケと破片接合。
467	324SD	1	土器類	須恵器	摘み蓋	13.9	2.3	－	第128図 図版-	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り、摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
468	324SD	―	土器類	須恵器	摘み蓋？	14.0	－	－	第128図 図版72	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。天井部内面平滑化。内外面に墨付着。転用硯。
469	324SD	1	土器類	須恵器	無台坏	12.3	3.7	9.6	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。胎土粗く黒色粒を多く含む。５ケSEと破片接合。
470	324SD	2	土器類	須恵器	無台坏	12.0	3.0	7.2	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。胎土粗く黒色粒を多く含む。361SDと破片接合。
471	324SD	1	土器類	須恵器	無台坏	12.0	3.2	7.4	第128図 図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。胎土粗く黒色粒を多く含む。５ケSE・６ケSEと破片接合。
472	324SD	1	土器類	須恵器	無台坏	11.9	3.0	7.2	第128図 図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。胎土粗く黒色粒を多く含む。339SK・５ケSW・５ケNWと破片接合。
473	324SD	1	土器類	須恵器	無台坏	11.9	3.0	8.2	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。胎土粗く黒色粒を多く含む。５ケNE・NW・SEと破片接合。
474	324SD	1	土器類	須恵器	無台坏	12.0	2.9	7.4	第128図 図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。胎土粗く黒色粒を多く含む。
475	324SD	1	土器類	須恵器	有台坏	12.0	3.9	7.9	第128図 図版60	体部内面回転ナデ。下端を除く体部外面回転ナデ、体部外面下端回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。
476	324SD	1	土器類	須恵器	有台坏	－	－	8.2	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。体部内面・底部内面平滑化。底部外面に墨書「□〔逢ヵ〕」。５ケNWと破片接合。
477	324SD	2	土器類	須恵器	有台坏	13.6	5.6	9.9	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
478	324SD	1	土器類	須恵器	有台坏	14.3	5.5	10.0	第128図 図版66	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面に自然釉付着。胎土粗く黒色粒を多く含む。５ケSEと破片接合。
479	324SD	1	土器類	須恵器	有台坏	12.0	3.8	9.1	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
480	324SD	護岸	土器類	須恵器	有台坏	12.1	3.4	8.8	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ後ナデ。底部内面平滑化。
481	324SD	2	土器類	須恵器	有台坏？	－	－	9.2	第128図 図版-	底部内外面回転ナデ。底部外面に墨書「□」。焼成あまく灰白色を呈する。
482	324SD	2	土器類	須恵器	無台碗	13.0	3.4	6.0	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
483	324SD	1	土器類	須恵器	無台碗	12.0	3.5	5.6	第128図 図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。口縁部内面と体部外面に煤付着。灯明具としての使用が想定される。361SD・４ケSW・５ケNWと破片接合。
484	324SD	1	土器類	須恵器	無台碗	12.3	3.3	7.0	第128図 図版60・73	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□〔ゐヵ〕」。
485	324SD	1	土器類	須恵器	無台碗	－	－	5.0	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に斜格子状の圧痕。
486	324SD	1	土器類	須恵器	無台碗	－	－	5.0	第128図 図版-	底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部外面に墨書「□」。
487	324SD	1	土器類	須恵器	無台碗	12.4	3.6	5.4	第128図 図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
488	324SD	2	土器類	須恵器	無台碗	11.9	3.6	6.0	第128図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。

第70表　遺物観察表（18）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
489	324SD	護岸	土器類	須恵器	無台碗	-	-	6.8	第128図図版73	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「海」。
490	324SD	1	土器類	須恵器	有台碗	16.4	5.1	9.3	第129図図版61・74	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。体部外面２箇所に墨書「内三」、５箇所に墨書「□〔定ヵ〕」。底部外面に墨書「内三」と楕円状の墨痕。５ケNE・SEと破片接合。
491	324SD	1	土器類	須恵器	有台碗？	16.2	-	-	第129図図版-	高台は残っていないが、有台碗とみてほぼ間違いない。体部内外面回転ナデ。396ST～400STと破片接合。
492	324SD	2	土器類	須恵器	有台碗	-	-	8.2	第129図図版75	底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。焼成あまく、にぶい赤褐色～にぶい橙色を呈する。底部外面に墨書「力」（記号状）。
493	324SD	1	土器類	須恵器	有台盤	14.0	2.2	7.3	第129図図版61・72	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面の高台より内側の全体と体部外面の一部に墨付着。転用硯。
494	324SD	U	土器類	須恵器	有台盤	16.8	3.6	8.0	第129図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。
495	324SD	U	土器類	須恵器	有台盤	13.8	3.3	6.6	第129図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部内面に重ね焼き痕。堅緻で暗灰色を呈する。６サSEと破片接合。
496	324SD	U	土器類	須恵器	有台盤	13.7	2.6	7.2	第129図図版61・72	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内面・底部内面に自然釉付着。底部外面に墨付着。転用硯。
497	324SD	U	土器類	須恵器	不明	12.0	-	-	第129図図版75	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□〔井ヵ〕」。
498	324SD	2	土器類	須恵器	不明	-	-	10.0	第129図図版75	底部内外面回転ナデ後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「海」。４ケNWと破片接合。
499	324SD	1	土器類	須恵器	不明	-	-	-	第129図図版-	無台碗か有台碗の体部破片。体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
500	324SD	1	土器類	須恵器	不明	-	-	8.3	第129図図版75	底部内面ナデ。底部外面回転ナデ。焼成あまく灰白色を呈する。底部外面に墨書「海」。
501	324SD	U	土器類	須恵器	不明	-	-	8.2	第129図図版72	有台碗か有台盤の底部とみられる。底部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。底部内面に墨付着。転用硯。
502	324SD	2	土器類	須恵器	鉢？	12.9	-	-	第129図図版-	体部内外面回転ナデ。特異な器形であり、とりあえず鉢と考えたが、あるいは蓋か。
503	324SD	1	土器類	須恵器	甕	20.6	37.5	7.5	第129図図版63	口頸部内面回転ヘラ削り。口頸部外面回転ナデ。胴部・底部内面に同心円状の当て具痕。胴部・底部外面に斜格子状の叩き痕。口頸部内面・胴部外面上半・底部内面に自然釉付着。321SD・348SD・４ケ・４コ・５ケ・５コと破片接合。
504	324SD	護岸	土器類	須恵器	壺	11.4	7.9	5.4	第130図図版64	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ・オサエ。５ケNE・SEと破片接合。
505	324SD	2	土器類	須恵器	壺	11.8	-	-	第130図図版64	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面回転ナデ。下端を除く胴部外面回転ヘラ削り。胴部外面下端斜め方向のヘラ削り(回転は伴わない)。口頸部から胴部にかけての外面に、部分的に黒色炭化物（あるいは墨？）付着。324SD １層・護岸層・321SD・348SD・４ケNE・４コNE・５ケ・６コ・11ソNEと破片接合。
506	324SD	1	土器類	須恵器	壺	11.4	-	-	第130図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。
507	324SD	1	土器類	須恵器	壺	-	-	7.7	第130図図版67	胴部内面回転ナデ。胴部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面と胴部外面に部分的に自然釉付着。あるいは灰釉陶器か。５ケNEと破片接合。
508	324SD	1	土器類	須恵器	壺	-	-	4.2	第130図図版67	胴部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
509	324SD	U	土器類	灰釉陶器	長頸瓶	9.3	-	-	第130図図版-	口頸部内外面回転ナデ。残存部内外面のほぼ全面に灰釉。1061SD・６ケNWと破片接合。
510	324SD	―	土器類	灰釉陶器	段皿	-	-	7.1	第130図図版-	体部内面ナデ。体部外面回転ヘラ削り。底部内面ナデ。底部内面平滑化。４ケNWと破片接合。
511	324SD	1	土器類	緑釉陶器	皿	13.6	2.0	6.9	第130図図版79	体部内外面回転ナデ。底部内面施釉のため調整不明、外面回転ヘラ削り。全面に緑釉。胎土緻密で砂粒の混入なし。軟質。９世紀半ばころの京都産。
512	324SD	1	土器類	緑釉陶器	碗	-	-	-	第130図図版80	体部内外面回転ナデ。全面に緑釉。胎土緻密で砂粒の混入なし。軟質。

第71表　遺物観察表（19）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
513	324SD	護岸	木器類	器具	箸	(残存6.5)	(0.6)	(0.7)	第130図図版-	上端を欠く。おそらく本来はもっと長いとみられる。残存部分では断面は円形である。下端を尖らせている。芯持。タケ亜科。
514	324SD	護岸	木器類	器具	箸	(残存4.8)	(0.4)	(0.6)	第130図図版-	上端を欠く。本来はもっと長いとみられる。残存部分では、断面形は不整な菱形である。芯去。サワラ。
515	324SD	1	木器類	器具	火付け木C類	(22.0)	(1.0)	(1.2)	第130図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
516	324SD	1	木器類	器具	火付け木A類	(17.1)	(0.5)	(1.1)	第130図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
517	324SD	2	木器類	器具	火付け木A類	(16.2)	(0.9)	(1.7)	第130図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
518	324SD	1	木器類	器具	火付け木C類	(15.4)	(0.8)	(1.3)	第130図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
519	324SD	護岸	木器類	器具	火付け木A類	(11.8)	(0.6)	(1.2)	第130図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
520	324SD	護岸	木器類	器具	火付け木B類	(11.0)	(0.9)	(1.4)	第130図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
521	324SD	1	木器類	器具	火付け木A類	(11.6)	(0.4)	(0.7)	第130図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
522	324SD	護岸	木器類	器具	火付け木C類	(10.7)	(0.7)	(1.0)	第130図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
523	324SD	2	木器類	器具	火付け木B類	(9.6)	(1.2)	(1.7)	第130図図版-	下端を中心に残存部分の過半が炭化している。芯去。
524	324SD	2	木器類	器具	火付け木C類	(9.0)	(0.3)	(1.0)	第130図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
525	324SD	護岸	木器類	器具	火付け木C類	(9.4)	(0.7)	(1.5)	第130図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
526	324SD	護岸	木器類	器具	火付け木A類	(6.4)	(1.2)	(2.1)	第130図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
527	324SD	護岸	木器類	器具	火付け木A類	(6.6)	(0.5)	(1.0)	第130図図版-	下端のみ炭化している。本来はもっと長かった可能性がある。芯去。
528	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材杭	(51.7)	(4.2)	(4.7)	第130図図版111	上端は腐食のため、本来より細くなっているとみられる。下端は５方向から削り、先端を尖らせている。腐食部分と加工部分以外では、樹皮が残る部分がみられる。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
529	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材杭	(残存34.6)	(3.7)	(4.5)	第130図図版111	上端を欠く。下端は５方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
530	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材杭	(41.4)	(4.0)	(5.0)	第130図図版111	腐食のため明瞭ではないが、下端を削って先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
531	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材杭	(49.8)	(5.0)	(5.0)	第130図図版111	上端は腐食のため本来より細くなっているとみられる。下端は４方向から削り、尖らせている。腐食部分と加工部分以外は、大部分、樹皮が残る。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
532	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材杭	(71.0)	(5.0)	(5.3)	第131図図版111	全体に腐食が著しい。下端は６方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
533	324SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(33.2)	(3.0)	(7.1)	第131図図版111	ほぼ完形品である。下端の両側面を削り、先端を尖らせている。幅広の板状であり、断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
534	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材杭	(76.7)	(5.9)	(6.0)	第131図図版111	腐食のため、上端は本来の形状をとどめていないとみられる。下端は５方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
535	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材杭	(38.6)	(3.3)	(6.5)	第131図図版111	板状の杭である。上端がやや腐食している。下端は右側面から斜めに削り、先端を尖らせている。加工痕が明瞭に認められる。断面は長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。ヒノキ。
536	324SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(39.0)	(2.1)	(4.0)	第131図図版-	上端・下端は腐食のため、本来の形状をとどめていないとみられる。下端に加工痕が認められる。断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。
537	324SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(残存36.9)	(3.4)	(2.7)	第131図図版-	上端を欠く。下端を尖らせているが、加工痕はあまり明瞭ではない。断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。
538	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材杭	(残存27.9)	(3.9)	(4.4)	第131図図版111	上端・下端を欠く。下端は６方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
539	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材杭	(57.5)	(5.8)	(6.8)	第131図図版111	腐食のため、上端・下端は本来の形状をとどめていない。下端は４方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。

第72表　遺物観察表（20）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
540	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材 杭	(48.0)	(4.4)	(5.0)	第131図 図版111	腐食のため、特に上半は本来の形状をとどめていないとみられる。下端は１方向から斜めに削っている。断面は不整な方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。コナラ節。
541	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材 杭	(残存49.0)	(5.7)	(6.5)	第131図 図版111	上端を欠く。下端は５方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。マツ属複維管束亜属。
542	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材 杭	(51.0)	(4.3)	(4.7)	第131図 図版111	腐食が著しく、上端・下端は本来の形状をとどめていないが、下端を削って先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
543	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材 杭	(58.1)	(6.1)	(6.5)	第131図 図版111	全体に腐食が著しい。下端は４方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
544	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材 杭	(70.4)	(4.1)	(9.5)	第132図 図版111	腐食が著しいものの、本来の形状をほぼとどめているとみられる。下端は１方向から斜めに削り、先端を尖らせている。丸材を粗く半裁して作られた杭である。打ち込まれた状態で出土。半割り。クリ。
545	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材 杭	(65.9)	(5.1)	(5.8)	第132図 図版111	全体に腐食が著しく、加工痕はほとんど残っていない。下端は削って先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
546	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材 杭	(64.4)	(6.3)	(7.8)	第132図 図版111	全体に腐食が著しい。下端は４方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
547	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材 杭	(23.6)	(3.5)	(4.6)	第132図 図版111	上端は欠失している可能性がある。下端は３方向から削り、先端を尖らせている。加工痕が明瞭に残っている。丸材を半分に割ったものを加工して作っており、断面は半円形である。打ち込まれた状態で出土。半割り。マツ属複維管束亜属。
548	324SD	護岸	木器類	部材	土木部材 杭	(58.9)	(6.2)	(9.3)	第132図 図版111	全体に腐食が著しいため明瞭ではないが、下端は６方向から削り、先端を尖らせているようである。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。クリ。
549	324SD	1	その他 特殊品	古代瓦	丸瓦	(残存5.9)	(1.9)	(残存4.9)	第132図 図版122	凹面に布目。側面ヘラ削り・ナデ。凸面ナデ。
550	330SD	U	土器類	須恵器	壺	約13.0	-	-	第132図 図版-	口頸部内外面回転ナデ。
551	348SD	―	土器類	須恵器	坏蓋	8.8	3.8	-	第132図 図版66	天井部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。324SD・５ケNWと破片接合。
552	348SD	―	土器類	須恵器	鉢	14.0	4.9	8.2	第132図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面に自然釉付着。５ケSEと破片接合。
553	348SD	―	土器類	灰釉陶器	碗	17.0	5.3	8.7	第132図 図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面灰釉のため調整不明。中央部を除く底部外面回転ナデ、中央部ナデ。体部内外面と底部内面のほぼ全面に灰釉。底部内面に三叉トチの痕跡とみられる重ね焼き痕。高台端部にも重ね焼き痕。底部外面に墨書「□〔弥ヵ〕」。372SD・６ケSEと破片接合。
554	361SD	―	土器類	須恵器	坏蓋	11.2	3.9	-	第132図 図版60	天井部内面回転ナデ。天井部外面ナデ・オサエ。体部内外面回転ナデ。天井部内面平滑化。体部外面に自然釉付着。４ケNE・SEと破片接合。
555	361SD	―	土器類	須恵器	高坏	11.4	7.1	8.0	第132図 図版60	坏部内外面回転ナデ。脚部内外面回転ナデ。坏部内外面と脚部外面に自然釉付着。324SD・４ク・４ケと破片接合。
556	361SD	―	土器類	須恵器	摘み蓋	14.2	2.9	-	第132図 図版60	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。外面に重ね焼き痕。324SD・339SKと破片接合。
557	361SD	―	土器類	須恵器	無台碗	12.0	3.6	6.0	第132図 図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
558	361SD	―	土器類	須恵器	有台坏	-	-	6.2	第132図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。胎土粗く黒色粒を多く含む。
559	361SD	―	土器類	須恵器	紡錘車	(4.8)	(1.0)	(4.7)	第132図 図版65	平面形は整った円形である。貫通孔は中心からややずれた位置にある。表面のみ自然釉が付着している。重さ29.5g。
560	361SD	―	石器類	砥石		(5.4)	(2.2)	(4.1)	第133図 図版121	砥面は表面・裏面・左側面・右側面の４面。石材は凝灰岩。重さ53.7g。
561	366SD	1	土器類	須恵器	火舎	-	-	-	第133図 図版67	脚部全面指オサエ。焼成あまく灰白色を呈する。
562	366SD	1	土器類	灰釉陶器	碗	12.4	3.9	6.5	第133図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
563	367SD	―	土器類	土師器	土錘	(残存3.1)	(1.4)	(1.3)	第133図 図版-	下端を欠く。外面ナデ。孔径0.4cm。残存部分の重さ5.1g。

第73表　遺物観察表（21）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
564	367SD	－	土器類	土師器	土錘	(残存3.2)	(1.3)	(1.3)	第133図図版-	上端を欠く。外面ナデ・指オサエ。孔径0.4cm。残存部分の重さ5.4g。
565	367SD	－	土器類	土師器	土錘	(3.7)	(1.1)	(1.1)	第133図図版-	外面ナデ。孔径0.4cm。重さ4.3g。
566	367SD	－	土器類	須恵器	高坏	－	－	7.8	第133図図版-	脚部内外面回転ナデ。1061SDと破片接合。
567	367SD	－	土器類	須恵器	摘み蓋	13.4	2.6	－	第133図図版-	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り、摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。372SD・７サNWと破片接合。
568	367SD	－	土器類	須恵器	無台碗	13.1	2.7	7.0	第133図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
569	367SD	－	土器類	須恵器	無台碗	17.1	4.3	8.8	第133図図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。
570	367SD	－	土器類	須恵器	無台碗	14.4	3.4	5.8	第133図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。８サNEと破片接合。
571	367SD	－	土器類	須恵器	無台碗	13.4	2.6	6.0	第133図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。1061SDと破片接合。
572	367SD	－	土器類	須恵器	無台碗	13.2	3.1	7.0	第133図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。
573	367SD	－	土器類	須恵器	無台碗	－	－	5.0	第133図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面摩滅。底部外面に回転糸切り痕。焼成あまく灰白色を呈する。なお、同地点では同様の軟質無台碗が35個体以上出土している。
574	367SD	－	土器類	須恵器	有台碗	15.4	4.2	8.0	第133図図版61	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後回転ヘラ削り・ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。12年度試掘坑３・４と破片接合。
575	367SD	－	土器類	須恵器	有台碗	－	－	9.1	第133図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面にヘラ書き「×」。
576	367SD	－	土器類	須恵器	有台碗	12.2	4.8	6.4	第133図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面自然釉付着のため調整不明。底部外面回転ナデ、中央部にナデを加える。８コSE・８サNEと破片接合。
577	367SD	－	土器類	須恵器	壺	3.5	－	－	第133図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。外面に自然釉付着。
578	367SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第133図図版66	底部内面ナデ。底部外面に自然釉付着。底部外面に突帯を巡らす特殊な器形。有台碗もしくは壺・鉢とみられる。
579	367SD	－	土器類	須恵器	有台盤	17.6	3.4	7.9	第133図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。９サNE・SE・SWと破片接合。
580	367SD	－	土器類	須恵器	無台盤	14.4	2.5	6.2	第133図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。堅緻で黒褐色を呈する。
581	367SD	－	土器類	須恵器	陶錘	(残存6.8)	(2.8)	(2.9)	第133図図版-	外面ナデ。孔径0.8cm。残存部分の重さ42.5g。
582	367SD	－	土器類	須恵器	陶錘	(7.0)	(2.5)	(2.6)	第133図図版71	外面ナデ・指オサエ。孔径0.7cm。重さ43.3g。
583	367SD	－	土器類	須恵器	陶錘	(5.1)	(1.8)	(1.8)	第133図図版71	外面ナデ。孔径0.6cm。重さ17.7g。
584	367SD	－	土器類	須恵器	円面硯	－	－	－	第133図図版68	脚台部内外面回転ナデ。脚台部に十字形とみられる透かし孔と縦方向の平行沈線。1279に類似する。
585	367SD	－	土器類	須恵器	円面硯	－	－	－	第133図図版68	脚台部内外面回転ナデ。図の上半左端・右端は調整が施されており、ともに方形の透かし孔とみられる。
586	367SD	－	土器類	須恵器	火舎	－	－	－	第133図図版67	上端に底部の一部がわずかに残る。脚部全面指オサエ。
587	367SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	21.0	7.1	9.1	第134図図版69	体部内面回転ナデ。体部外面上端回転ナデ、上端を除く体部外面回転ヘラ削り。
588	367SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	12.5	4.2	6.9	第134図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内外面に灰釉。底部外面に墨付着。転用硯。８サSWと破片接合。
589	367SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	12.5	3.9	7.1	第134図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。体部内面に灰釉。368SDと破片接合。
590	367SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	14.4	4.2	8.2	第134図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。体部内面に灰釉。
591	367SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	13.6	4.0	7.8	第134図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。内面底部・体部境に重ね焼き痕。

第74表　遺物観察表（22）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
592	367SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.5	第134図図版-	底部内外面摩滅。焼成あまく浅黄橙色を呈する。同地点では、573を含む軟質の須恵器無台碗35個体以上と灰釉陶器碗２個体が出土しているが、高台を確認できる個体はこれのみである。
593	367SD	－	土器類	灰釉陶器	皿	17.0	2.4	8.2	第134図図版71	内面は厚い施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。内外面のほぼ全面に灰釉。底部内面に重ね焼き痕（トチ痕）。９サNEと破片接合。
594	367SD	－	土器類	灰釉陶器	皿	16.0	2.4	7.8	第134図図版70	内面は施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面丁寧なナデ。底部外面高台内を除く全面に灰釉。372SD・373SD・５ケと破片接合。
595	367SD	－	土器類	灰釉陶器	皿	－	－	7.0	第134図図版75	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。底部外面に墨書「□〔ふヵ〕」。
596	367SD	－	土器類	灰釉陶器	碗？	－	－	－	第134図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転ヘラ削り。焼成あまく浅黄橙色を呈する。高台が剥離した灰釉陶器碗とみられる。同地点では573のような軟質の須恵器無台碗が35個体以上出土しているが、軟質の灰釉陶器碗は、この個体と592の２個体のみ確認している。
597	367SD	－	土器類	土師質土器	皿	9.6	－	－	第134図図版81	体部内外面回転ナデ。口縁部内外面に煤付着。灯明皿として使用されたと考えられる。
598	367SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(16.2)	(0.9)	(1.6)	第134図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
599	367SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(残存25.4)	(3.7)	(3.5)	第134図図版-	上端を欠く。下端は５方向から削って先端を尖らせているが、先端はつぶれている。ごくわずかではあるが、樹皮が残っている。芯持。
600	367SD	－	石器類	砥石		(7.5)	(4.7)	(7.4)	第134図図版121	石材は砂岩。重さ258.8g。
601	367SD	－	石器類	砥石		(7.2)	(1.9)	(6.0)	第134図図版121	砥面は表面・左側面・右側面・上端面・下端面の５面だが、表面はあまり平滑ではなく、上端面は左半を欠く。石材は泥岩。重さ129.3g。
602	367SD	－	その他特殊品	古代瓦	平瓦	(残存7.7)	(2.7)	(残存9.3)	第134図図版122	凹面に布目、ただしナデにより消されている部分あり。端面ヘラ削り。凸面に縄目状の叩き痕。
603	368SD	－	土器類	須恵器	双耳坏？	－	－	－	第134図図版66	双耳坏の耳と体部の一部と推定。耳内外面ヘラ削り。
604	368SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.8	第134図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」（２文字の可能性あり）。９サSEと破片接合。
605	368SD	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	約15.0	－	－	第134図図版80	体部内外面に緑色の青磁釉。体部内面にヘラ描き文。
606	368SD	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	約14.2	－	－	第134図図版80	体部内外面に青緑色の青磁釉。
607	368SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(11.6)	(0.7)	(0.9)	第134図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
608	372SD	－	土器類	須恵器	返り蓋	15.0	－	－	第134図図版-	体部内外面回転ナデ。
609	372SD	－	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第134図図版75	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。天井部内面に墨書「逢」。胎土緻密で灰白色を呈する。胎土に黒斑を含む。胎土・色調が1083に類似する。
610	372SD	－	土器類	須恵器	無台碗	－	－	7.0	第134図図版75	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。体部外面に墨書「□〔工ヵ〕」。
611	372SD	－	土器類	須恵器	無台碗	－	－	7.0	第134図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□〔ふヵ〕」。
612	372SD	－	土器類	須恵器	無台碗？	12.0	－	－	第134図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
613	372SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第135図図版-	脚付盤の体部か。体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□〔井ヵ〕」。
614	372SD	－	土器類	須恵器	陶錘	(残存3.9)	(1.6)	(1.6)	第135図図版-	上端を欠く。外面に自然釉、また他個体の一部が付着し、さらにそれらが剥離した痕跡も認められる。孔径0.5cm、ただし自然釉によりふさがれている。残存部分の重さ11.8g。
615	372SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	14.2	4.6	7.0	第135図図版69・75	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□〔ふヵ〕」。367SDと破片接合。
616	372SD	－	土器類	灰釉陶器	壺	8.2	13.2	8.8	第135図図版70	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面回転ナデ。胴部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ・オサエ。底部外面を除く外面全面に灰釉。310SM・367SD・368SD・372SD・373SD・６ケSE・８ヨSW・８サSW・８シNWと破片接合。
617	372SD	－	土器類	灰釉陶器	陶錘	(6.7)	(3.2)	(3.0)	第135図図版71	外面工具によるナデ・指オサエ。孔径0.9cm。重さ60.3g。
618	372SD	－	土器類	輸入磁器	白磁碗？	－	－	－	第135図図版-	体部内外面に灰白色の白磁釉。

第75表　遺物観察表（23）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
619	372SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(66.5)	(6.5)	(7.0)	第135図 図版-	完形品である。下端は５方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。打ち込まれた状態で出土。芯持。
620	372SD	－	石器類	打製石斧		(10.0)	(2.0)	(4.6)	第135図 図版-	刃部表面・裏面摩滅。石材は凝灰岩。重さ106.4g。
621	372SD	－	その他 特殊品	古代瓦	平瓦	(残存9.6)	(2.7)	(残存5.6)	第135図 図版122	凹面に布目、ただしナデにより浅くなっている。側面ヘラ削り。凸面に縄目状の叩き痕。
622	373SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第135図 図版-	有台盤・有台碗・有台坏のいずれかの底部とみられる。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面にヘラ書き。
623	1061SD	－	土器類	土師器	土錘	(4.6)	(1.3)	(1.4)	第135図 図版71	外面ナデ。両端から穿孔している。孔径0.4cm。重さ8.4g。
624	1061SD	－	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第135図 図版66	環状の摘みを持つ蓋の天井部破片。天井部内面ナデ。摘み部外面回転ナデ。
625	1061SD	－	土器類	須恵器	無台坏	11.4	3.4	8.8	第135図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り後ナデ。
626	1061SD	－	土器類	須恵器	無台坏	－	－	7.0	第135図 図版-	底部内面ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□」。
627	1061SD	－	土器類	須恵器	無台坏？	－	－	8.4	第135図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面の全面と体部内面下半に墨付着。転用硯。
628	1061SD	－	土器類	須恵器	無台坏	－	－	約8.0	第135図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□〔井ヵ〕」。ただし、その左隣にもう１文字書かれている可能性あり。
629	1061SD	－	土器類	須恵器	有台坏	－	－	8.6	第135図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部外面に墨付着。転用硯。８コSEと破片接合。
630	1061SD	－	土器類	須恵器	有台坏	12.4	3.7	8.0	第135図 図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後回転ナデ。
631	1061SD	－	土器類	須恵器	有台坏	12.6	3.7	9.0	第135図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。焼成あまく灰黄色を呈する。
632	1061SD	－	土器類	須恵器	有台坏	－	－	7.8	第135図 図版-	底部内外面ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
633	1061SD	－	土器類	須恵器	双耳坏？	約10.9	－	－	第135図 図版66	体部内外面回転ナデ。耳は１つしか確認できないが、類例から双耳坏と推定した。
634	1061SD	－	土器類	須恵器	無台碗	13.0	3.8	5.6	第135図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部外面に墨書「□」。８シNEと破片接合。
635	1061SD	－	土器類	須恵器	無台碗	－	－	7.0	第135図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面丁寧なナデ。底部外面に墨書「□」。
636	1061SD	－	土器類	須恵器	無台碗	12.0	3.1	5.8	第135図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後粗いナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□〔ᗺヵ〕」。
637	1061SD	－	土器類	須恵器	有台碗	15.0	5.7	8.2	第136図 図版66	体部内面回転ナデ。下端を除く体部外面回転ナデ、体部外面下端回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
638	1061SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第136図 図版-	底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
639	1061SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第136図 図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
640	1061SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第136図 図版-	碗か壺の体部とみられる。体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
641	1061SD	－	土器類	須恵器	無台盤	－	－	6.6	第136図 図版-	内面は自然釉付着のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面ナデ。
642	1061SD	－	土器類	須恵器	有台盤	13.8	2.8	6.8	第136図 図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面にヘラ書き（「□」）。底部外面にヘラ書き（記号状ないし絵画状）。堅緻で黒褐色を呈する。
643	1061SD	－	土器類	須恵器	有台盤？	－	－	7.0	第136図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内面に自然釉付着。底部内面平滑化。底部内面に墨付着。転用硯。
644	1061SD	－	土器類	須恵器	有台盤	16.4	3.1	8.2	第136図 図版62・75	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。底部内面平滑化。体部外面に墨書「平」。底部内面に墨書「木」（記号状）。底部外面に墨付着。転用硯とみられる。

第76表　遺物観察表（24）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
645	1061SD	－	土器類	須恵器	有台盤	15.7	3.0	6.7	第136図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ、回転糸切り痕をわずかに残す。体部内面に自然釉付着。
646	1061SD	－	土器類	須恵器	有台盤	14.8	2.4	7.3	第136図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内外面ナデ。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
647	1061SD	－	土器類	須恵器	有台盤	13.9	2.6	6.7	第136図図版62	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。体部内面に部分的に自然釉付着。
648	1061SD	－	土器類	須恵器	有台盤	14.0	2.7	6.2	第136図図版-	体部内外面回転ナデ。
649	1061SD	－	土器類	須恵器	有台盤	13.0	2.5	7.5	第136図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
650	1061SD	－	土器類	須恵器	脚付盤	15.5	10.8	10.7	第136図図版62	坏部の口縁部内外面回転ナデ。坏部の底部内面回転ナデ後部分的にナデを加える。坏部の底部外面回転ヘラ削り。脚部内外面回転ナデ。脚部に３つの透かし孔を持つが、その間隔は45°・45°・90°と不均等である。４ケNW・９サNEと破片接合。
651	1061SD	－	土器類	須恵器	陶錘	(残存6.6)	(2.7)	(2.9)	第136図図版-	上端を欠く。外面丁寧なナデ・指オサエ。孔径0.9cm。残存部分の重さ47.1g。
652	1061SD	－	土器類	須恵器	円面硯	21.0	6.9	30.4	第136図図版68	硯面部内面中央部回転ヘラ削り、周辺部回転ナデ。硯面部外面回転ヘラ削り。硯面部周辺堤内外面回転ナデ。脚部内外面回転ナデ。焼成あまい。６ケNWと破片接合。
653	1061SD	－	土器類	須恵器	円面硯	12.4	5.2	17.0	第136図図版68	硯面部内面回転ナデ。硯面部外面に回転ヘラ削りを施すが、回転糸切り痕がわずかに残る。脚台部内外面回転ナデ。硯面部外面平滑化。硯面部内面と脚台部内外面に自然釉付着。８シSWと破片接合。
654	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	15.2	5.2	7.8	第136図図版69	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。体部内面下半と底部内面に自然釉付着。８シSWと破片接合。
655	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	14.0	3.8	6.2	第136図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部外面に墨書「□〔仁ヵ〕」。
656	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	16.5	5.6	8.0	第136図図版-	内面は厚い施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。中央部を除く底部外面回転ナデ、中央部ヘラ削り。内面の全面に灰釉。５ケNWと破片接合。
657	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	17.4	5.0	8.8	第136図図版69	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。体部内面に灰釉（あるいは自然釉か）。９シNEと破片接合。
658	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	16.5	5.4	8.4	第137図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
659	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	15.5	5.3	8.0	第137図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。内面の底部・体部境に重ね焼き痕。体部内面に自然釉付着。
660	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	13.0	4.6	6.6	第137図図版69・75	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。体部外面に墨書「仁」。９シNEと破片接合。
661	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	16.0	4.7	8.5	第137図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。体部内外面に灰釉。
662	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	15.8	4.8	8.0	第137図図版69	体部内面回転ナデ。下端を除く体部外面回転ナデ。下端回転ヘラ削り。底部内外面回転ナデ。体部内面・体部外面上端に自然釉付着。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。９シSEと破片接合。
663	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	13.0	4.3	7.3	第137図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面調整不明。底部外面ナデ。内面全面と口縁部外面に灰釉。底部外面に墨書「□」。７コSWと破片接合。
664	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	14.2	3.7	7.6	第137図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面自然釉付着のため調整不明。底部外面に回転糸切り痕。底部外面に墨書「□」。体部外面に墨書「□」、ただし、これは墨が付着しただけかもしれない。高台外面に部分的に墨付着。
665	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	19.4	－	－	第137図図版72	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。体部内面全面と体部外面上半に灰釉。体部外面下半に墨付着。転用硯。
666	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	8.0	第137図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部外面に墨書「□」。あるいは須恵器か。
667	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	6.1	第137図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。体部外面下端と高台に砂が融着。底部外面に墨書「□」。
668	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	13.7	－	－	第137図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。

第77表　遺物観察表（25）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
669	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	16.2	5.2	7.4	第137図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面にヘラ切り痕。底部外面回転ヘラ削り。底部内面に重ね焼き痕。体部内面全面と体部外面上半の一部に灰釉（あるいは自然釉か）。
670	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	8.4	第137図図版75	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。体部内面に自然釉付着。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」（記号状）。
671	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	8.2	第137図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部外面に墨付着。転用硯。
672	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	皿	16.4	2.5	7.2	第137図図版70	内面は施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。内面全面に灰釉。
673	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	皿	14.0	2.4	7.0	第137図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。
674	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	皿	13.0	2.0	7.0	第137図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
675	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	皿	15.2	3.1	7.8	第137図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り・ナデ。底部外面を除く全面に灰オリーブ色の灰釉、ただし、底部内面には重ね焼きに伴うとみられる無釉部分が認められる。底部外面に墨書「西」。４コNW･SWと破片接合。
676	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	皿？	－	－	6.7	第137図図版-	内面は施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。内面全面と高台端部までの外面ほぼ全面に灰釉。底部内面に重ね焼き痕。底部外面に墨付着。転用硯。ただし付着している墨痕は墨書の可能性あり。
677	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	段皿	－	－	7.2	第137図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。体部内外面に灰釉。
678	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	皿	14.8	3.4	7.5	第137図図版70・76	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内面に自然釉ないし灰釉。体部外面に墨書「□」。底部内面に墨付着。転用硯。
679	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	11.6	第138図図版70	胴部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。胴部外面と底部内外面に灰釉（あるいは自然釉か）。底部外面に３条の平行線状のヘラ書き。５シNW・SWと破片接合。
680	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	壺	5.8	－	－	第138図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。胴部外面に灰釉。
681	1061SD	－	土器類	灰釉陶器	陶錘	(6.3)	(3.6)	(3.8)	第138図図版71	外面ナデ・指オサエ。外面に灰釉もしくは自然釉、また他個体の一部が付着。孔径0.8cm。重さ79.7g。
682	1061SD	－	土器類	山茶碗	碗	約13.0	－	－	第138図図版81	体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。北部系山茶碗。
683	1061SD	－	土器類	山茶碗	小皿	約8.8	－	－	第138図図版81	体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。北部系山茶碗。
684	1061SD	－	土器類	山茶碗	鉢	－	－	約14.5	第138図図版81	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半横方向のヘラ削り。底部内外面ナデ・オサエ。体部下半内面・底部内面平滑化。胎土粗く、砂粒を多く含む。
685	1061SD	－	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存10.1)	(0.5)	(残存2.5)	第138図図版-	周縁部に幅の広い段差を設けている。表面に小さな孔が４箇所認められるが、いずれも貫通していない。柾目。ヒノキ。
686	1061SD	－	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存20.4)	(0.9)	(残存6.2)	第138図図版91	表面の残存部ほぼ全面に黒色の付着物（黒漆か）が認められる。板目。ヒノキ。
687	1061SD	－	木器類	器具	柄杓 柄	(残存22.1)	(1.4)	(1.4)	第138図図版-	下端を欠く。断面はほぼ正方形である。上端では６方向から削り、先端を尖らせている。中央に木釘孔とみられる小孔が残っており、その位置から径13cmほどの身につけられていた柄と推定できる。芯去。ヒノキ。
688	1061SD	－	木器類	器具	形代 馬形	(残存17.3)	(0.7)	(3.9)	第138図図版96	右端（尾部）を欠く。上下を判別するのが難しい。背の鞍の表現とされる方を上としたが、定かではなく、上下逆となる可能性もある。表面に脚を差し込んだとみられる切り込みが２箇所認められる。裏面にも同様の切り込みがあった可能性がある。柾目。ヒノキ。
689	1061SD	－	木器類	器具	形代 馬形	(残存11.4)	(0.3)	(3.0)	第138図図版96	右端を欠く。上下を判別するのが難しい。より背の表現にふさわしい方を上としたが、定かではなく、上下逆となる可能性もある。表面・裏面に脚を差し込んだとみられる切り込みが２箇所認められる。柾目。ヒノキ。
690	1061SD	－	木器類	器具	形代 馬形	(残存11.1)	(0.7)	(2.6)	第138図図版96	右端（尾部）を欠く。上端面・下端面の加工痕がよく残っている。頭部･胴部･尾部の境は切り欠きにより識別できる。頭部が小型であるため、鳥形にも見える。上端は中央を大きく弧状に削り背を表現しているが、鞍らしい表現は認められない。柾目。ヒノキ。

第78表　遺物観察表（26）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
691	1061SD	－	木器類	器具	形代馬形	(残存10.2)	(0.5)	(2.3)	第138図図版96	右端の一部を欠く。左端（頭部）も欠失している可能性が高い。上端（鞍）と右端（尾部）の形状から馬形と判断した。柾目。アスナロ属。
692	1061SD	－	木器類	器具	杓子Ｂ類	(残存13.6)	(0.8)	(残存5.0)	第138図図版-	上端と左端を欠く。下端は摩滅しているが、これは使用に伴うものである可能性がある。板目。ヒノキ。
693	1061SD	－	木器類	器具	箸	(残存19.0)	(0.5)	(0.8)	第138図図版100	上端を欠くが、欠失部分はわずかとみられる。断面は不整な六角形であり、両端とも先細りである。下端は尖らせている。芯去。サワラ。
694	1061SD	－	木器類	器具	板状木製品	(残存13.1)	(1.1)	(4.1)	第138図図版-	下端を欠く。両側面に切り欠き加工を施している。その間の表面は浅くくぼんでおり、紐のようなものでしばった跡である可能性がある。柾目。
695	1061SD	－	木器類	器具	板状木製品	(9.8)	(0.8)	(3.5)	第138図図版102	明らかな欠失部分は認められないが、本来は円盤状（おそらくは曲物底板）であったものを二次加工したもののように見受けられる。追柾目。ヒノキ。
696	1061SD	－	木器類	器具	板状木製品	(残存10.1)	(0.6)	(2.2)	第138図図版-	左端を欠く。下半を欠く。右端も欠けている可能性がある。上端面は比較的平滑である。形状から馬形の尾部の可能性が考えられるが、定かではない。柾目。ヒノキ。
697	1061SD	－	木器類	部材	器具部材	(16.2)	(0.7)	(7.8)	第138図図版-	下端は原形をとどめていないとみられる。左側面に切り欠き加工を施している。上端面と右側面は、比較的丁寧に斜めに切り落としている。柾目。ヒノキ。
698	1061SD	－	木器類	部材	器具部材紡織具？	(26.9)	(2.2)	(6.0)	第139図図版112	下端の一部を欠くが、ほぼ完形品である。上端に幅広の枘を作り出している。枘の上端面から２本の木の楔を打ち込んでいる。これは接合を抜けにくくするための工夫とみられる。横断面は比較的整った長方形であり、各面の仕上げも、下端面を除いて比較的丁寧である。板目。アスナロ属。
699	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(32.8)	(1.4)	(1.4)	第139図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
700	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(30.0)	(0.5)	(1.3)	第139図図版101	下端のみ炭化している。上端は粗く切断されている。芯去。ヒノキ。
701	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(26.2)	(0.7)	(1.4)	第139図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
702	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(26.0)	(1.1)	(1.5)	第139図図版-	下端のみ炭化しているが、炭化範囲は広い。上端はきれいに切断されている。左側面に刃物痕が認められる。芯去。
703	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(20.4)	(1.4)	(1.7)	第139図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
704	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(23.1)	(1.1)	(1.6)	第139図図版101	下端のみ炭化している。上端は粗く切断されている。芯去。ヒノキ。
705	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(21.4)	(1.0)	(1.3)	第139図図版101	上端と下端が炭化している。芯去。ヒノキ。
706	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(20.4)	(1.0)	(1.4)	第139図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
707	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(5.1)	(0.3)	(0.9)	第139図図版-	極めて短く、下半のほぼ全面が炭化している。芯去。
708	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.4)	(0.5)	(1.0)	第139図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
709	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(10.0)	(1.0)	(3.1)	第139図図版101	下端が炭化するほか、右側面は広く炭化している。加工・整形は極めて粗い。芯去。マツ属複維管束亜属。
710	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(残存10.8)	(1.1)	(1.9)	第139図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
711	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(10.7)	(1.4)	(1.9)	第139図図版101	下端のみ炭化しているが、炭化範囲は比較的広い。芯去。ヒノキ。
712	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(11.0)	(1.0)	(1.4)	第139図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
713	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(12.0)	(1.0)	(1.4)	第139図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
714	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(13.2)	(0.8)	(1.8)	第139図図版101	下端のみ炭化している。芯去。マツ属複維管束亜属。
715	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(20.4)	(1.1)	(2.7)	第139図図版101	下端のみ炭化している。加工・整形は極めて粗い。芯去。マツ属複維管束亜属。
716	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(残存18.7)	(2.5)	(2.3)	第139図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
717	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(19.9)	(0.4)	(1.4)	第139図図版-	下端のみ炭化しているが、右側面は炭化範囲が広い。芯去。
718	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(19.5)	(0.8)	(1.2)	第139図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
719	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(18.5)	(1.2)	(1.4)	第139図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
720	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(16.7)	(1.1)	(1.9)	第139図図版101	上端と下端が炭化している。芯去。マツ属複維管束亜属。
721	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.3)	(0.9)	(1.2)	第139図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。

第79表　遺物観察表（27）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
722	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(15.1)	(1.2)	(2.4)	第139図図版-	下端のみ炭化している。上端は粗く切断されている。芯去。
723	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(15.1)	(1.7)	(3.9)	第139図図版101	下端が炭化するほか、左側面と上端も部分的に炭化している。加工・整形は極めて粗い。芯去。マツ属複維管束亜属。
724	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(15.4)	(0.8)	(2.1)	第139図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
725	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(17.4)	(0.8)	(1.0)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
726	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(残存16.8)	(1.4)	(1.5)	第140図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
727	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(残存15.9)	(1.1)	(2.2)	第140図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
728	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(残存15.9)	(0.5)	(0.9)	第140図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
729	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(14.5)	(1.2)	(1.4)	第140図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ネズコ。
730	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(15.7)	(0.4)	(1.4)	第140図図版101	上端の一部を欠く。下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
731	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(15.6)	(0.8)	(1.1)	第140図図版101	上端から下端まで、全面が炭化している。芯去。ヒノキ科。
732	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(15.7)	(0.7)	(1.2)	第140図図版-	下端のみ炭化している。上端は粗く切断されている。芯去。
733	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(14.3)	(1.2)	(1.0)	第140図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
734	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(残存13.2)	(1.4)	(2.1)	第140図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
735	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(14.3)	(0.6)	(0.7)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
736	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(13.7)	(1.1)	(1.2)	第140図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
737	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(14.6)	(0.5)	(0.9)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
738	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(11.3)	(1.0)	(1.4)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
739	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(10.7)	(0.8)	(1.5)	第140図図版101	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。ヒノキ。
740	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(11.3)	(0.4)	(1.4)	第140図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
741	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(11.8)	(0.9)	(1.4)	第140図図版-	下端が広く炭化するほか、上端面もわずかに炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
742	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(12.0)	(0.7)	(0.8)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
743	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(残存12.4)	(0.5)	(0.7)	第140図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
744	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(12.4)	(0.5)	(1.5)	第140図図版101	上端と下端が炭化している。芯去。ヒノキ。
745	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(13.2)	(0.9)	(1.3)	第140図図版-	上端と下端が炭化するほか、左側面は全体が炭化している。芯去。
746	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(13.1)	(0.4)	(1.0)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
747	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(13.4)	(0.6)	(1.6)	第140図図版101	下端のみ炭化している。芯去。マツ属複維管束亜属。
748	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(13.3)	(1.1)	(1.3)	第140図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
749	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(15.2)	(0.5)	(1.3)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
750	1061SD	－	木器類	器具	火付け木B類	(10.8)	(0.7)	(1.1)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
751	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(残存11.4)	(0.6)	(1.0)	第140図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
752	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(10.7)	(1.6)	(1.4)	第140図図版-	下端のみ炭化している。みかん割り。
753	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(10.3)	(1.2)	(1.6)	第140図図版-	下端のみ炭化している。みかん割り。
754	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(10.3)	(1.3)	(1.9)	第140図図版-	下端のみ炭化している。上端は粗く切断されている。芯去。
755	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(9.5)	(0.5)	(1.8)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
756	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(9.5)	(1.4)	(1.9)	第140図図版101	下端のみ炭化している。みかん割り。マツ属複維管束亜属。
757	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(9.6)	(1.1)	(1.0)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
758	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(9.4)	(0.5)	(1.0)	第140図図版-	下端のみ炭化している。上半部は極めて薄い。芯去。
759	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(残存9.2)	(0.8)	(1.1)	第140図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
760	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(10.0)	(1.0)	(1.6)	第140図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
761	1061SD	－	木器類	器具	火付け木A類	(8.9)	(0.3)	(1.4)	第140図図版101	上端と下端が炭化している。芯去。ヒノキ。
762	1061SD	－	木器類	器具	火付け木C類	(8.2)	(2.0)	(2.1)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。

第80表　遺物観察表（28）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
763	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.6)	(0.6)	(1.2)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
764	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.3)	(0.3)	(1.0)	第140図図版101	下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
765	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(8.2)	(0.4)	(1.1)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
766	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(8.0)	(1.0)	(1.5)	第140図図版101	下半部のほぼ全体が炭化している。加工･整形は粗い。芯去。マツ属複維管束亜属。
767	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存7.6)	(0.6)	(1.1)	第140図図版101	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
768	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存7.8)	(0.7)	(1.6)	第140図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
769	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存8.4)	(0.6)	(0.8)	第140図図版101	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。ヒノキ。
770	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(7.6)	(0.9)	(1.6)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
771	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(7.2)	(0.6)	(1.4)	第140図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
772	1061SD	－	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(6.8)	(0.9)	(1.8)	第140図図版-	上端と下端が炭化している。芯去。
773	1061SD	－	その他特殊品	古代瓦	平瓦	(残存7.3)	(3.2)	(残存6.7)	第141図図版122	凹面に布目。凸面に縄目叩き痕。厚みがあることから軒平瓦の一部である可能性がある。
774	1061SD	－	金属器類	銅鈴		(2.6)	(2.1)	(2.1)	第141図図版122	本体は上半と下半をかしめて接合している。鈕は本体に差し込まれたのちに､接着されている(ろう付け？)。重さ4.6g。外面に漆とみられる黒色付着物が認められる。
775	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(76.3)	(2.3)	(3.0)	第141図図版111	ほぼ完形品である。下端を削っているが、加工痕は明瞭ではない。断面は不整な菱形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。ヒノキ。
776	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(残存67.0)	(2.8)	(2.7)	第141図図版111	上端を欠く。下端の加工痕は明瞭ではない。断面は不整な方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
777	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(74.4)	(2.1)	(6.8)	第141図図版-	完形品である。断面は平らな台形である。下端を両側面から削って尖らせている。表面・裏面も先端付近のみ、わずかながら削っている。打ち込まれた状態で出土。芯去。
778	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(85.9)	(2.6)	(4.7)	第141図図版111	ほぼ完形品である。下端を削っているが、加工痕は明瞭ではない。断面は長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
779	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(40.6)	(1.2)	(3.0)	第141図図版111	完形品とみられるが、上端は摩滅のため、本来の形状をとどめていない可能性がある。上端・下端を削り、先端を尖らせている。薄い板状で、断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。ヒノキ。
780	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(残存88.0)	(2.6)	(4.3)	第141図図版111	上端を欠く。右側面に節を抉り取った痕跡が並ぶ。下端の加工痕は明瞭ではない。断面は三角形である。打ち込まれた状態で出土。みかん割り。ヒノキ。
781	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(残存93.2)	(2.5)	(4.1)	第141図図版-	上端を欠くものの、完形に近いとみられる。断面は三角形である。下端を尖らせているが、加工痕はほとんど認められない。右側面に加工痕が多数認められ、上端付近には切り欠きを施している。あるいは建築部材からの転用か。打ち込まれた状態で出土。半割り。
782	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(63.2)	(2.5)	(3.9)	第142図図版111	ほぼ完形品である。下端の加工痕は明瞭ではない。断面は不整な三角形である。打ち込まれた状態で出土。みかん割り。サワラ。
783	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(64.4)	(2.7)	(3.5)	第142図図版111	上端は欠失している可能性がある。下端を削っているが、加工痕は明瞭ではない。先端は傷みが著しい。断面は不整な方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
784	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(残存67.5)	(3.0)	(4.2)	第142図図版111	上端を欠く。下端も欠失している可能性がある。下端の加工痕は明瞭ではない。断面は不整な三角形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
785	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(71.0)	(2.0)	(3.3)	第142図図版111	ほぼ完形品である。下端は削って先端を尖らせているが、加工痕は明瞭ではない。断面は不整な菱形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
786	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(76.7)	(3.3)	(4.7)	第142図図版111	上端は欠失している可能性がある。下端は削っているが、加工痕は明瞭ではない。先端は摩滅している。断面は不整な菱形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。ヒノキ。
787	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(40.6)	(2.3)	(3.9)	第142図図版111	上半が下半に比べ細いが、これは腐食によるものかもしれない。下端は３方向から削り、先端を尖らせている。断面は不整な半円形である。打ち込まれた状態で出土。半割り。ヒノキ。
788	1071SD	－	木器類	部材	土木部材杭	(71.2)	(2.8)	(3.9)	第142図図版-	完形品である。下端はかなり摩滅しているが、表面・裏面・両側面の４方向から粗く削って尖らせている。断面は不整な長方形である。当遺跡古墳水田地区出土杭の典型例。打ち込まれた状態で出土。芯去。アスナロ属。

第81表　遺物観察表（29）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
789	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(58.9)	(1.9)	(4.9)	第142図 図版111	上端を欠くが、長さはほぼ本来のままとみられる。下端の加工痕は明瞭ではない。断面は不整な半円形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。ヒノキ。
790	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(残存58.8)	(2.0)	(3.0)	第142図 図版111	上端を欠く。下端は５方向から削り、先端を尖らせている。断面は不整な五角形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
791	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(残存52.7)	(2.2)	(2.9)	第142図 図版111	上端を欠く。下端は削って先端を尖らせているが、加工痕は明瞭ではない。断面は不整な方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
792	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(51.0)	(1.3)	(2.8)	第142図 図版111	ほぼ完形品である。加工痕は明瞭ではないが、上端・下端を削って先端を尖らせているとみられる。薄い板状で、断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。ヒノキ。
793	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(残存38.7)	(1.9)	(3.3)	第142図 図版111	上端を欠く。下端は５方向から削り、先端を尖らせている。断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
794	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(34.8)	(2.1)	(2.1)	第142図 図版111	完形品である。上下両端とも、削って先端を尖らせている。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
795	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(27.4)	(2.3)	(3.8)	第142図 図版111	上端は本来の形状をとどめていない可能性がある。下端は左右側面を斜めに削り、先端を尖らせている。断面は長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
796	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(50.9)	(3.5)	(5.2)	第143図 図版-	ほぼ完形品であるが、下端を尖らせてはいない。断面は不整な三角形である。打ち込まれた状態で出土。みかん割り。クリ。
797	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(49.5)	(3.4)	(4.9)	第143図 図版-	ほぼ完形品であるが、下端を尖らせてはいない。断面は不整な三角形である。打ち込まれた状態で出土。みかん割り。クリ。
798	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(49.3)	(3.0)	(3.1)	第143図 図版-	ほぼ完形品である。下端は裏面を斜めに切り落として尖らせている。上端も、鋭くはないものの、尖らせている。打ち込まれた状態で出土。芯去。クリ。
799	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(48.7)	(2.2)	(3.6)	第143図 図版-	下端は折れているが、検出時にすでにこの状態であった。上端を尖らせている。断面は長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
800	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(49.0)	(2.1)	(4.1)	第143図 図版-	ほぼ完形品であるが、下端を尖らせてはいない。断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。クリ。
801	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(残存45.4)	(3.5)	(5.0)	第143図 図版-	上端を欠く。下端に加工を施しているが、尖らせてはいない。断面は不整な三角形である。打ち込まれた状態で出土。みかん割り。クリ。
802	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(45.5)	(2.7)	(4.0)	第143図 図版-	ほぼ完形品である。下端は尖らせておらず、下端面は平らである。打ち込まれた状態で出土。芯去。クリ。
803	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(43.7)	(2.3)	(3.3)	第143図 図版-	ほぼ完形品であるが、下端よりむしろ上端を尖らせている。断面は不整な台形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。
804	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(32.2)	(1.3)	(2.9)	第143図 図版-	ほぼ完形品であるが、下端を尖らせてはいない。断面は長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。クリ。
805	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(28.4)	(3.8)	(5.7)	第143図 図版-	ほぼ完形品であるが、下端を尖らせてはいない。断面は、固くしまった土が付着したままとなっている。打ち込まれた状態で出土。みかん割り。クリ。
806	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(35.0)	(2.1)	(3.7)	第143図 図版-	完形品であるが、下端を尖らせてはいない。断面は直方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。クリ。
807	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(38.3)	(1.3)	(6.2)	第143図 図版-	上端は原形をとどめていない。薄い板状であり、下端を左右側面から削って尖らせている。打ち込まれた状態で出土。芯去。クリ。
808	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(40.4)	(1.5)	(4.7)	第143図 図版-	右端の一部を欠く。薄い板状であり、下端を斜めに削って尖らせている。打ち込まれた状態で出土。芯去。クリ。
809	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(37.8)	(1.5)	(4.6)	第143図 図版-	ほぼ完形品であるが、下端を尖らせてはいない。下端面と下端付近の裏面に、固くしまった土が付着したままとなっている。打ち込まれた状態で出土。芯去。クリ。
810	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(41.4)	(2.8)	(3.0)	第143図 図版-	ほぼ完形品であるが、下端を尖らせてはいない。断面は三角形である。打ち込まれた状態で出土。みかん割り。クリ。
811	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(44.6)	(2.4)	(3.4)	第143図 図版-	ほぼ完形品である。上端・下端を尖らせている。下端の左右側面には加工痕が明瞭に認められる。打ち込まれた状態で出土。芯去。サワラ。

第82表　遺物観察表（30）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
812	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 横木	(約88.8)	(3.9)	(4.0)	第143図 図版-	右端は斜めに切断されている。杭列において、杭に対して横方向に差し込まれた状態で出土した。芯持。
813	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(60.6)	(2.4)	(4.3)	第144図 図版-	上端は本来の形状をとどめていない可能性がある。下端は左右側面を斜めに削っており、加工痕が明瞭に認められる。断面は長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。
814	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(54.5)	(3.0)	(5.9)	第144図 図版-	節の部分を含むため、大きく彎曲している。下端は５方向から削り、先端を尖らせている。断面は不整な方形であるが、一定していない。打ち込まれた状態で出土。芯去。
815	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(69.4)	(2.5)	(4.3)	第144図 図版-	ほぼ完形品とみられる。下端は左側面を斜めに削り、先端を尖らせている。断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。
816	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(43.8)	(2.4)	(3.3)	第144図 図版-	上端の裏面を欠く。下端は左右側面から削り、先端を尖らせている。断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。
817	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(38.0)	(2.0)	(3.6)	第144図 図版-	上端は欠失している可能性がある。下端は左右側面を斜めに削り、先端を尖らせている。断面は不整な長方形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。
818	1071SD	－	木器類	部材	土木部材 杭	(40.5)	(3.0)	(5.1)	第144図 図版-	上端は欠失している可能性がある。全体を粗く割って、下端はやや尖らせている。断面は不整な台形である。打ち込まれた状態で出土。芯去。
819	1244SD	－	石器類	打製石斧		(12.3)	(3.3)	(6.8)	第144図 図版-	全体に摩滅している。石材は凝灰岩。重さ339.6g。
820	1293SD	－	土器類	土師器	甕	19.6	－	－	第144図 図版56	口頸部内外面横ナデ、外面には指オサエを加える。胴部内面に横方向のハケ目。胴部外面に縦方向のハケ目。
821	1293SD	－	土器類	土師器	甕	約16.4	－	－	第144図 図版56	口縁部内外面横ナデ。頸部内面に横方向のハケ目。頸部外面に斜め方向のハケ目。
822	1293SD	－	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第144図 図版66	外面回転ナデ。摘み蓋の摘みと推定。
823	1293SD	－	土器類	須恵器	無台坏	12.6	4.3	8.8	第144図 図版60・76	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部外面にヘラ書き「□〔奉ヵ〕」。焼成あまく浅黄色を呈する。
824	1293SD	－	土器類	須恵器	無台碗	11.8	3.9	5.8	第144図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
825	1293SD	－	土器類	須恵器	有台坏	13.0	3.5	8.1	第144図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内外面平滑化。21チSWと破片接合。
826	1293SD	－	土器類	須恵器	有台坏	11.8	3.5	7.7	第144図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。21チSWと破片接合。
827	1293SD	－	土器類	須恵器	有台坏	11.0	3.7	7.3	第144図 図版60	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部外面中央部に回転糸切り痕。
828	1293SD	－	土器類	須恵器	有台坏	9.1	3.7	6.5	第144図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ナデ。底部外面中央部に回転糸切り痕。
829	1293SD	－	土器類	須恵器	有台坏	12.6	2.9	9.6	第144図 図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。内面全面と体部外面上半に自然釉付着。
830	1293SD	－	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	8.8	第144図 図版-	胴部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ナデ、中央部にナデを加える。胴部外面に灰釉。底部内面に自然釉付着。16ソSW・19タSEと破片接合。
831	1293SD	－	石器類	打製石斧		(13.4)	(2.2)	(5.7)	第145図 図版-	両側縁の上半が摩滅している。表面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ160.2g。
832	1293SD	－	石器類	打製石斧		(14.5)	(3.5)	(7.2)	第145図 図版120	石材は凝灰岩。重さ386.0g。
833	1305SD	－	土器類	珠洲焼	鉢	37.6	－	－	第145図 図版80	体部内外面回転ナデ。体部内面に擂り目。体部内面平滑化。1253ST・11スSEと破片接合。
834	1309SD	－	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	16.0	－	－	第145図 図版56	口頸部内外面横ナデ。ただし、外面は工具によるものである可能性がある。胴部内外面摩滅。
835	1309SD	－	土器類	須恵器	無台碗	12.0	3.0	6.4	第145図 図版-	体部内外面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。
836	1309SD	－	土器類	須恵器	有台碗	－	－	8.3	第145図 図版-	底部内面回転ナデ後ナデ・オサエ。底部外面回転ナデ。底部外面に墨書「□」。焼成あまく浅黄橙色を呈する。
837	1309SD	－	土器類	須恵器	有台盤？	－	－	7.8	第145図 図版-	底部内面ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨付着。転用硯。
838	1309SD	－	土器類	須恵器	有台盤？	－	－	8.6	第145図 図版76	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。底部内面に墨書「□」。底部外面に墨書「仁」。

第83表　遺物観察表（31）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
839	1309SD	－	土器類	須恵器	不明	14.8	－	－	第145図図版-	体部内外面回転ナデ。形状が特異であるため疑問が残るものの、色調から須恵器と判断した。
840	1309SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	14.8	4.6	7.0	第145図図版69	体部内面回転ナデ。下端を除く体部外面回転ナデ、下端回転ヘラ削り。底部内面の調整不明。底部外面回転ヘラ削り。内外面全体に灰釉を施したとみられるが、剥落している部分も多い。精製品。1310SDと破片接合。
841	1309SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	13.0	4.0	6.2	第145図図版-	体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
842	1310SD	－	土器類	須恵器	返り蓋	12.8	－	－	第145図図版66	体部内外面回転ナデ。体部外面に自然釉付着。
843	1310SD	－	土器類	須恵器	返り蓋	約14.6	－	－	第145図図版-	体部内外面回転ナデ。
844	1310SD	－	土器類	須恵器	無台碗	－	－	7.4	第145図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ、中央部にナデを加える。底部外面ヘラ切り後ナデ。
845	1310SD	－	土器類	須恵器	無台碗	12.0	3.1	6.2	第146図図版60・76	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面に墨書「ふ」（記号状）。体部外面に墨書「□」（記号状）。
846	1310SD	－	土器類	須恵器	無台碗	13.0	4.1	6.0	第146図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面・底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
847	1310SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第146図図版-	器種不明であるが、鉢か碗の体部破片とみられる。あるいは灰釉陶器か。体部内外面回転ナデ。体部外面にヘラ書き「×」。
848	1310SD	－	土器類	須恵器	有台盤	12.7	2.7	7.8	第146図図版62	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部外面中央部に回転糸切り痕。底部内面に重ね焼き痕。堅緻。
849	1310SD	－	土器類	須恵器	不明	－	－	8.0	第146図図版-	有台碗か有台盤の底部とみられる。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。焼成あまく浅黄橙色を呈する。底部外面に墨付着。転用硯。
850	1310SD	－	土器類	須恵器	甕	－	－	－	第146図図版-	胴部内面ナデ。胴部外面に平行線状の叩き痕。胴部内面にヘラ書きが認められるが、意図して書いたものか否かは不明。
851	1310SD	－	土器類	須恵器	甕	24.9	－	－	第146図図版67	口頸部内外面回転ナデ。
852	1310SD	－	土器類	灰釉陶器	碗	17.4	－	－	第146図図版-	体部内外面回転ナデ。
853	1310SD	－	土器類	珠洲焼	鉢	28.0	－	－	第146図図版80	体部内外面回転ナデ。
854	1311SD	－	土器類	土師器	高坏	－	－	－	第146図図版-	内外面摩滅。有段坏部高坏の坏部の破片と推定。
855	1311SD	－	土器類	須恵器	無台碗	11.8	3.0	6.0	第146図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。体部内面上半と口縁部外面に煤付着。底部外面に平行線状の圧痕。
856	1311SD	－	土器類	須恵器	摘み蓋	15.5	2.4	－	第146図図版66	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り、摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。11スSWと破片接合。
857	1311SD	－	土器類	須恵器	無台碗	13.0	4.4	6.8	第146図図版61	内面は漆付着のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。内面ほぼ全面と体部外面上半の一部に黒色の漆付着。
858	1311SD	－	土器類	須恵器	有台碗	14.0	4.2	7.3	第146図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。
859	1311SD	－	土器類	須恵器	壺	6.0	7.2	5.6	第146図図版64	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。1310SDと破片接合。
860	1311SD	－	土器類	灰釉陶器	輪花碗	16.4	4.5	8.7	第147図図版69	体部内外面回転ナデ。体部外面上端回転ナデ、上端以外は回転ヘラ削り。底部内面工具によるナデ。底部外面ナデ。軟質でにぶい黄橙色を呈する。口縁部に輪花。
861	1311SD	－	石器類	打製石斧		(残存13.5)	(2.7)	(7.6)	第147図図版-	刃部左半を欠く。石材は緑色片岩。重さ332.8g。
862	1311SD	－	石器類	打製石斧		(残存13.5)	(3.5)	(9.2)	第147図図版120	上端を欠く。石材は凝灰岩。重さ507.7g。
863	1311SD	－	石器類	砥石		(9.7)	(4.1)	(8.3)	第147図図版121	本来はもっと大きな砥石だったとみられる。残存する砥面は表面・裏面の２面。石材は砂岩。重さ291.4g。
864	1315SD	－	土器類	弥生土器ないし土師器	壺	約17.4	－	－	第147図図版56	口頸部内外面横ナデ。口頸部外面に２列の列点文。
865	1067NR	－	土器類	弥生土器	甕	20.0	－	－	第147図図版56	口頸部内面横ナデ。頸部外面に櫛描き波状文。胴部外面に縦方向の櫛描文が認められるが、これは縦羽状文の可能性がある。内外面全面に黒色炭化物付着。
866	1067NR	－	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	17.0	－	－	第147図図版56	口頸部内外面横ナデ。口頸部外面に黒色炭化物付着。
867	1067NR	－	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	17.4	－	－	第147図図版56	口頸部内面横ナデ。口頸部外面に擬凹線文。口縁端部・頸部に部分的に黒色炭化物付着。

第84表　遺物観察表（32）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
868	1067NR	－	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	-	-	-	第147図図版-	口頸部内面横ナデ。口頸部外面に擬凹線文。
869	1067NR	－	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	-	-	-	第147図図版-	口頸部内面横ナデ。口頸部外面に下向きの縦方向櫛描文。口頸部外面に厚く黒色炭化物付着。
870	1067NR	－	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	-	-	-	第147図図版-	口頸部内面摩滅。口頸部外面に櫛描き波状文。頸部外面に黒色炭化物付着。
871	1067NR	－	土器類	弥生土器ないし土師器	壺	12.0	-	-	第147図図版56	細頸壺の口頸部と推定。内外面ヘラミガキ（外面は単位見えない）。口縁部外面に横方向の櫛描き沈線。
872	1067NR	－	土器類	土師器	甕	-	-	-	第147図図版-	胴部内面ナデ。胴部外面にハケ目。胎土に金雲母を含む。Ｓ字甕。
873	1067NR	－	木器類	器具	鍬曲柄鍬	(残存43.2)	(2.1)	(10.0)	第148図図版84	下端を欠く。軸部・刃部境の笠状突起は明瞭ではないが、使用に伴い折損したのちに、再整形したものである可能性が高い。刃部の形状から、本来はナスビ形鍬Ａ類であったとみられる。表面と左右側面には加工痕が部分的に残っている。裏面は腐食が著しい。柾目。クヌギ節。
874	1067NR	－	木器類	器具	鍬曲柄鍬	(残存26.4)	(1.0)	(残存3.5)	第148図図版85	下端を欠くほか、縦に割れて左半を欠失している可能性が高い。曲柄鍬の身右半の軸部から刃部上半にかけての部分であろう。刃部は周縁部をやや薄くなるように作っている。笠状突起が認められないが、当該部位が平滑に仕上げられていることから、二次加工を加えて整形し直した可能性がある。柾目。クヌギ節。
875	1067NR	－	木器類	器具	棒状木製品	(22.5)	(2.5)	(3.8)	第148図図版-	横断面は不整な台形である。下端の右側面のみ炭化している。芯去。
876	1067NR	－	木器類	器具	棒状木製品	(99.1)	(2.5)	(2.4)	第148図図版103	上端面に砂粒がめり込んでいる。断面は不整な方形を基本とするが、中央～下端では丸みを帯びて円形に近くなる。これは手で握ることを想定した加工と思われる。しかし、農具の柄としては細すぎ、強度が足りないとみるべきであろう。芯去。アスナロ属。
877	1067NR	－	木器類	器具	棒状木製品	(残存49.9)	(2.2)	(残存4.9)	第148図図版-	両端を欠くが、上端はバチ状に開くとみられる。断面は不整な台形である。芯去。サワラ。
878	1067NR	－	木器類	器具	板状木製品	(36.2)	(1.8)	(4.8)	第148図図版-	全体に腐食が進んでいるものの、ほぼ原形をとどめているとみられる。表面に工具が深く入り込んだ痕跡が２箇所認められる。あるいは未製品か。柾目。サワラ。
879	1067NR	－	木器類	器具	板状木製品	(残存36.9)	(1.7)	(3.9)	第148図図版-	両端を欠く。表面も下半の一部が剥落している。断面はL字型である。あるいは部材か。板目。
880	1067NR	－	木器類	器具	板状木製品	(10.3)	(0.4)	(残存3.6)	第148図図版-	左端を欠く。本来の形状は不明であるが、ごく薄く、加工は丁寧である。折敷か。板目。
881	1067NR	－	木器類	部材	器具部材	(残存58.5)	(7.3)	(34.0)	第149図図版114	全体に残存状態は良好ではなく、左側面が大部分欠失しているほか、加工痕等、細部が読み取りにくい箇所も多い。上端は削り出しにより、断面はL字状となっている。上端と下端に１箇所ずつ切り欠き加工を施している。裏面に貫通しない枘孔状の方形孔が１箇所認められる。大きさ・形状から台や机などの天板の可能性があると推定するが、元は刳物容器であった可能性もあろう。板目。クリ。
882	1067NR	－	木器類	器具	形代鳥形	(残存24.8)	(0.6)	(残存7.9)	第149図図版96	左端を欠く。翼固定用とみられる貫通孔が２箇所に認められるが、整形されていない。表面には手斧によるとみられる細かな加工痕が多数認められる一方で、裏面は割られたままである。形状から鳥形と判断した。柾目。ヒノキ。
883	1067NR	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(14.0)	(1.0)	(2.5)	第149図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
884	1067NR	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(25.8)	(0.9)	(1.9)	第149図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
885	1067NR	－	木器類	部材	器具部材	(残存7.2)	(残存4.3)	(5.2)	第149図図版-	裏面と下端を欠くが、残存部分からは、円柱状の頭部に、より径の小さな円柱が付く形状と推測される。上端面は削って円錐状に加工している。あるいは端材か。芯持。マツ属複維管束亜属。
886	1067NR	－	木器類	部材	器具部材	(残存7.2)	(1.5)	(1.6)	第149図図版115	下端を欠く。上端は削り出して有頭状とした小型の棒状木製品である。残存部下端にも段差を設けている。また、裏面を半裁している。差し込んで用いる把手などの可能性が考えられる。芯去。ヒノキ。
887	1067NR	－	木器類	器具	刳物容器	(45.1)	(3.4)	(残存9.5)	第150図図版87	右端を欠く。下端は炭化しており、特に表面は炭化範囲が広い。表面を抉って窪ませている。裏面の上端・下端は斜めに削っている。二次加工を受けている可能性があるが、槽であろう。残存部右端に貫通孔が２つ連なるが、それらは二次加工によるものの可能性がある。柾目。サワラ。
888	1067NR	－	木器類	器具	曲物容器楕円形曲物容器	(残存41.8)	(1.5)	(残存4.9)	第150図図版89	残存部分は全体のごく一部とみられるが、本来の形状は楕円形と推定される。周縁部に段差を設けており、貫通する樹皮紐が２箇所認められる。下端の方の樹皮紐の脇には、木栓が打ち込まれている。裏面には刃物痕が認められる。柾目。ヒノキ。

第85表　遺物観察表（33）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
889	1067NR	－	木器類	部材	建築部材厚板	(73.7)	(1.6)	(12.3)	第150図図版107	左端は上端を斜めに切り落としている。上端・下端に１箇所ずつ切り欠き加工を施しているが位置は対応していない。表面・裏面にはほぼ全面にわたり、手斧による丁寧な加工痕が残っている。ただし、表面の方がより装飾的である。また、表面では、右端は重ね合わせによるものか加工痕が不明瞭となっており、さらに左端にも左端面に平行する斜めの圧痕が認められる。上･下端面･左側面は平滑であるが、右側面はやや粗い。妻壁板であろう。追柾目。ヒノキ。
890	1067NR	－	木器類	部材	建築部材厚板	(82.1)	(1.5)	(12.7)	第151図図版109	ほぼ完形品である。表面・裏面は平滑である。両側面の加工はやや粗く、左側面には段差が残る。下端面には粗い断ち切り痕が認められる。上端面には同様の痕跡は認められない。柾目。クロベ。
891	1067NR	－	木器類	部材	建築部材厚板	(80.6)	(1.8)	(13.4)	第151図図版107	表面に手斧によるとみられる加工痕が多数認められる。裏面は表面に比べ粗い。上下端面に粗い断ち切り痕が認められる。表面右端付近に小さな円孔が多数あり、貫通しているものが多い。ただし、これらすべてが人為的なものであるか否かは判然としない。壁板か。柾目。アスナロ属。
892	1067NR	－	木器類	部材	建築部材	(残存59.2)	(3.3)	(4.0)	第151図図版109	下端を欠く。上端を有頭状に削り出している。断面は不整な正方形である。織機の一部など、器具部材の可能性も考えられる。芯去。アスナロ属。
893	1067NR	－	木器類	部材	建築部材桟材？	(残存63.3)	(1.8)	(3.3)	第151図図版110	上下両端を欠く。表面は比較的平坦であるが、ほかの各面はあまり整っていない。左側面の上半では段差を残している。芯去。サワラ。
894	1067NR	－	木器類	部材	建築部材桟材？	(65.9)	(2.2)	(2.9)	第151図図版110	上端・下端とも一部を欠くが、欠失部分はごく一部と見られる。各面の整形は粗く、表面の大部分は３段の段差が認められる。芯去。サワラ。
895	1067NR	－	木器類	部材	建築部材厚板	(40.0)	(1.7)	(15.5)	第151図図版106	上端の一部を欠く。上端を三角形状に削って先端を尖らせている。左側面に１箇所切り欠き加工を施している。下端面に粗い断ち切り痕が認められる。同遺構で出土した896に類似する。中央部が反り返るが、896でも同様であることから、曲げ加工によるものである可能性がある。矢板に転用された板材か。柾目。アスナロ属。
896	1067NR	－	木器類	部材	建築部材厚板	(42.0)	(2.4)	(16.4)	第151図図版106	ほぼ完形品である。上端を三角形状に削って先端を尖らせている。両側面に一対の切り欠き加工を施している。下端面に粗い断ち切り痕が認められる。同遺構で出土した895に類似する。中央部が反り返るが、895でも同様であることから、曲げ加工によるものである可能性がある。矢板に転用された板材か。柾目。ヒノキ属。
897	1067NR	－	木器類	部材	建築部材柱	(残存84.4)	(9.7)	(12.3)	第152図図版105	上端は粗く断ち切られている。下端付近にくびれが認められ、また下端は全体に細くなっている。これは土中にあったことによる腐食痕とみられる。断面は正方形を基本とするが、下端部については残存状態が良好でないため不明である。芯去。クリ。
898	1067NR	－	木器類	部材	建築部材	(残存95.0)	(1.6)	(3.1)	第152図図版110	上下両端を欠く。断面は不整な長方形である。各面の整形は粗い。柾目。サワラ。
899	1067NR	－	木器類	部材	建築部材厚板	(38.9)	(3.9)	(15.3)	第152図図版105	上端面と下端面に、斧によるとみられる粗い断ち切り痕が明瞭に残る。ただし、下端では端揃えを意識し、列をなした断ち切りであるのに対し、上端は斧の当たりが不規則で、調整の意図が認められない。表面･裏面は比較的平滑である。板目。アスナロ属。
900	1067NR	－	木器類	部材	土木部材杭	(残存24.7)	(3.8)	(3.7)	第152図図版-	上端を欠く。下端は２方向から切り落として先端を尖らせている。欠失部分と加工部分以外の大部分に、樹皮が残っている。芯持。
901	1067NR	－	木器類	部材	土木部材杭	(残存41.3)	(2.7)	(3.1)	第152図図版-	上端を欠く。下端は４方向から削り、先端を尖らせている。芯去。
902	1067NR	－	木器類	加工材	割板残材	(9.2)	(3.2)	(8.0)	第152図図版118	上左端から下右端にかけて切り落とし、平面形は直角三角形を呈する。表面は丸木の曲面のままである。半割り。トネリコ節。
903	1067NR	－	木器類	加工材	割板	(73.5)	(5.5)	(16.2)	第152図図版118	全体に残存状態は良好ではない。上端と下端左半に粗い断ち切り痕が認められる。断面は二等辺三角形である。みかん割り。クヌギ節。
904	1067NR	－	石器類	打製石斧		(8.3)	(1.0)	(5.1)	第153図図版-	刃部表面・裏面摩滅。石材は緑色片岩。重さ53.0g。
905	1067NR	－	石器類	打製石斧		(10.5)	(1.9)	(4.7)	第153図図版120	刃部表面・裏面摩滅。左右側縁中央部摩滅。石材は凝灰岩。重さ99.2g。
906	1067NR	－	石器類	打製石斧		(10.2)	(1.9)	(6.4)	第153図図版-	全体に摩滅している。石材は凝灰岩。重さ106.9g。
907	1067NR	－	石器類	磨製石鏃		(残存5.7)	(0.4)	(残存2.9)	第153図図版118	脚部の過半を欠くものの、凹基式である。基部よりやや上に１つの円孔を穿っている。先端は極めて鋭利である。全体に細かな研磨痕が認められる。石材は粘板岩。信州からの搬入品とみられる。重さ6.3g。

第86表　遺物観察表（34）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
908	1067NR	－	石器類	石冠		(残存6.5)	(3.2)	(残存8.8)	第153図図版121	下半の多くを欠くものの、石冠とみられる。全体に摩滅している。石材は緑色片岩。残存部分の重さ135.5g。
909	1067NR	－	石器類	砥石		(9.3)	(1.5)	(5.9)	第153図図版121	砥面は表面・裏面・右側面の３面。石材は砂岩。重さ106.1g。
910	365SW	－	土器類	常滑焼	壺	-	-	-	第153図図版81	胴部内外面横ナデ。外面肩部に櫛状施文具による２条の沈線、胴下部に櫛状施文具による５条の沈線を施す。外面に自然釉付着。常滑三筋壺か。５ケSWと破片接合。
911	365SW	－	木器類	器具	箸	(残存6.1)	(0.5)	(0.6)	第153図図版-	上端を欠く。残存部分が短いため定かではないが、断面は楕円形である。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
912	1074SU	－	土器類	須恵器	無台碗	12.6	3.0	6.6	第153図図版-	体部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ、中央部にナデを加える。底部外面ナデ、ヘラ切り痕を残す。
913	1074SU	－	土器類	須恵器	有台盤	15.0	3.4	8.0	第153図図版62・76	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。底部内面に重ね焼き痕。体部外面に墨書「工」（記号状）。底部外面に墨書「工」（記号状）。1061SDと破片接合。
914	1074SU	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(15.3)	(1.1)	(2.0)	第153図図版101	下端のみ炭化している。上端は斜めにきれいに切断されている。火付け木としては幅広である。芯去。ヒノキ。
915	1074SU	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.7)	(0.3)	(0.9)	第153図図版-	下端のみ炭化している。極めて薄い。芯去。
916	1074SU	－	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(17.4)	(1.1)	(1.1)	第153図図版-	下端のみ炭化している。上半は整った方形である。芯去。
917	1074SU	－	木器類	器具	串状木製品	(19.0)	(1.4)	(3.1)	第153図図版-	全体に腐食が著しい。分厚く、斎串とは考え難い。柾目。ヒノキ。
918	1074SU	－	木器類	器具	形代馬形	(残存14.5)	(0.4)	(2.6)	第153図図版96	左端（頭部）を欠く。右端も欠けている可能性がある。上端が背の鞍を表現しているとみられる。表面に貫通しない切り込みが２箇所認められる。柾目。ヒノキ。
919	1074SU	－	木器類	器具	棒状木製品	(残存26.0)	(1.5)	(1.9)	第154図図版-	下端を欠く。上端はきれいに斜めに切断されている。芯去。ヒノキ。
920	1074SU	－	木器類	器具	棒状木製品	(16.1)	(1.2)	(1.2)	第154図図版-	縦方向に細かく削って整形しており、断面は円形である。へこみが2箇所認められるが、後世の破損である可能性が高い。芯去。ヒノキ。
921	1074SU	－	木器類	器具	板状木製品	(残存11.0)	(0.6)	(3.6)	第154図図版-	下端を欠く。本来の形状は不明である。表面と左側面には鋭利な刃物による加工痕が多数認められる。裏面は粗い。あるいは形代か。板目。
922	1074SU	－	木器類	加工材	端材	(4.4)	(1.3)	(1.6)	第154図図版117	丁寧に整形されている。下端面の左右両端に切り込みが認められる。芯去。ヒノキ。
923	339SK	L	土器類	須恵器	高坏	-	-	-	第154図図版-	脚部内外面回転ナデ。
924	339SK	L	土器類	須恵器	無台碗	11.6	3.9	5.6	第154図図版76	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部外面に墨書「麻呂」。
925	339SK	M	土器類	須恵器	円面硯	10.8	-	-	第154図図版68	硯面部内面ナデ、外面調整不明。脚台部内外面回転ナデ。脚台部に方形とみられる透かし孔（５箇所と推定）と縦方向の平行沈線。硯面部外面中央部に墨付着。また、硯面部から脚台部にかけての内面に朱墨とみられる赤色の付着物が認められる。硯面部外面は極めて平滑化しており、細かな線状痕が認められる。
926	339SK	M	土器類	須恵器	不明	13.0	-	-	第154図図版-	体部内外面回転ナデ。体部の傾きから碗である可能性が高い。
927	339SK	M	土器類	須恵器	脚台盤	-	-	-	第154図図版66	体部内外面回転ナデ。脚部内外面回転ナデ。脚部に方形の透かし孔（４箇所と推定）。脚部外面に縦方向の沈線を施す。
928	339SK	M	土器類	須恵器	甕	23.6	-	-	第154図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面に同心円状の当て具痕。胴部外面に平行線状の叩き痕。外面の大部分に自然釉付着。
929	339SK	M	土器類	須恵器	不明	-	-	10.0	第154図図版72	底部内面ナデ。底部外面工具による回転ナデ。底部内面平滑化。底部内面にごく薄く墨付着。底部外面に墨付着。内面・外面を利用した転用硯。
930	339SK	M	土器類	灰釉陶器	碗	17.1	4.2	6.0	第154図図版69	内面は施釉のため調整不明。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部外面回転ナデ。内面全面に灰釉。猿投窯編年の黒笹14号窯式。324SD・５ケNW・９シSEと破片接合。
931	339SK	－	木器類	器具	箸	(残存10.4)	(0.5)	(0.7)	第154図図版-	上端を欠く。断面は不整な六角形である。下端は尖らせている。芯去。スギ。
932	339SK	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(10.8)	(0.2)	(0.8)	第154図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
933	339SK	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(12.2)	(0.7)	(1.8)	第154図図版-	下端のみ炭化している。芯去。

第87表　遺物観察表（35）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
934	339SK	―	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(12.6)	(1.1)	(1.3)	第154図図版-	下端が炭化するが、表面では下半のほぼ全面が炭化している。芯去。
935	1229SK	―	土器類	灰釉陶器	碗	13.4	4.0	7.6	第154図図版-	体部内外面回転ナデ。
936	1239SK	―	石器類	打製石斧		(11.6)	(2.2)	(5.6)	第155図図版-	表面の下端に線状痕。石材は緑色片岩。重さ152.3g。
937	1243SK	―	土器類	須恵器	有台盤？	－	－	6.7	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内面に自然釉付着。
938	1243SK	―	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	6.0	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
939	1243SK	―	土器類	灰釉陶器	碗？	－	－	8.1	第155図図版-	底部内外面回転ナデ。
940	1243SK	―	土器類	灰釉陶器	碗？	－	－	6.8	第155図図版-	底部内外面回転ナデ。
941	1243SK	―	土器類	灰釉陶器	碗	約14.2	－	－	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
942	1243SK	―	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.6	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。体部内面に自然釉付着。底部内面にヘラ書き。
943	1243SK	―	土器類	古瀬戸系施釉陶器	碗？	－	－	5.4	第155図図版81	体部内外面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。内面全面と体部外面上端に緑色の灰釉。
944	1258SK	―	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.0	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
945	1258SK	―	土器類	山茶碗	小皿	－	－	5.8	第155図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。北部系山茶碗。
946	1270SK	―	土器類	灰釉陶器	碗	13.0	－	－	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に灰釉。
947	1303SK	―	土器類	須恵器	摘み蓋？	14.7	－	－	第155図図版-	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
948	1303SK	―	土器類	灰釉陶器	碗	約13.6	－	－	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。
949	1303SK	―	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	8.0	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。
950	1303SK	―	石器類	石錘		(5.6)	(1.7)	(4.5)	第155図図版119	上端と下端に打ち欠きが認められる。石材は濃飛流紋岩。重さ58.2g。
951	182SX	U	土器類	土師器	甕	－	－	－	第155図図版56	Ｓ字甕の脚台部と推定。内面指オサエ。外面に斜め方向のハケ目。胎土に金雲母を含む。
952	182SX	U	土器類	須恵器	坏蓋	10.8	－	－	第155図図版-	天井部内外面回転ナデ。体部内外面回転ナデ。天井部外面にヘラ書き「×」。
953	182SX	U	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第155図図版76	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。天井部内面に墨書「□〔東ヵ〕」。
954	182SX	U	土器類	須恵器	摘み蓋	16.3	－	－	第155図図版60	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。４クSWと破片接合。
955	182SX	U	土器類	須恵器	有台盤	－	－	8.0	第155図図版76	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。中央部を除く底部外面回転ナデ。底部外面中央部ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□〔海ヵ〕」。４クSW・５ケSW・５サNWと破片接合。
956	182SX	U	土器類	須恵器	有台碗	16.8	5.5	8.4	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。
957	182SX	U	土器類	須恵器	壺	－	－	7.2	第155図図版64	胴部内面回転ナデ。胴部外面回転ヘラ削り。底部内外面回転ナデ。胴部外面と底部内面に自然釉付着。５シNW・SWと破片接合。
958	182SX	U	土器類	灰釉陶器	皿	14.0	3.2	7.8	第155図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。底部内面平滑化。体部内面に灰釉。
959	16チ	KT	土器類	縄文土器	深鉢	17.4	－	－	第156図図版54	３単位の突起を持つ波状口縁。口縁部・胴部内面ナデ。口縁部・胴部外面に縄文、ただし、沈線間を磨り消す。縄文時代後期。
960	18タ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	－	第156図図版55	胴部内面ナデ。胴部外面に隆帯と横方向の沈線。隆帯上に縄文。縄文時代後期か。
961	18タ	JH	土器類	縄文土器	深鉢	27.5	38.8	10.0	第156図図版54	胴部内外面ナデ。胴部内面下半に黒色炭化物付着。胴部外面上半に黒色炭化物付着。底部外面に網代圧痕。縄文時代晩期。
962	12年度試掘坑12	―	土器類	縄文土器	鉢	10.0	－	－	第156図図版55	内外面ナデ。胴部外面に浮線網状文。内外面とも明黄褐色を呈する。縄文時代晩期。

第88表　遺物観察表（36）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
963	15セ	Ⅲ	土器類	縄文土器	鉢	－	－	－	第156図 図版55	胴部内面ナデ。胴部外面に浮線網状文。縄文時代晩期。
964	19チ	KDT	土器類	縄文土器	深鉢	－	－	－	第156図 図版55	口縁部内面摩滅。口縁部外面に隆帯。その下に横方向の１条の沈線。胴部内外面に条痕。縄文時代晩期。
965	19チ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	－	第156図 図版55	内外面摩滅。頸部外面に横方向の１条の沈線。胴部外面に横方向・斜め方向・縦方向の沈線と瘤状突起。胴部外面に黒色炭化物付着。縄文時代晩期。
966	17タ	KTⅡ	土器類	縄文土器	深鉢	－	－	－	第156図 図版55	口縁部内外面ナデ。胴部内外面ナデ。胴部内面上端に横方向の２条の浅い幅広の沈線。縄文時代晩期か。
967	18タ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	6.8	第156図 図版-	内面摩滅。胴部外面ナデ。胴部外面中央部に横方向の２条の沈線。底部外面に網代圧痕。縄文時代晩期か。
968	17ソ	KT	土器類	縄文土器	深鉢	24.4	－	－	第156図 図版55	口縁部内外面横ナデ。胴部内面横方向ケズリ。胴部外面横ナデ。外面に黒色炭化物付着。縄文時代晩期か。16ソSWと破片接合。
969	18タ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	－	第156図 図版55	内外面ナデ。胴部内面上端に横方向の２条の幅広沈線。胴部外面に横方向の沈線。外面に黒色炭化物付着。縄文時代晩期か。
970	18タ	Ⅰ	土器類	縄文土器	深鉢	－	－	－	第156図 図版55	内外面摩滅。胴部外面上端に横方向の１条の沈線。その下に隆帯。隆帯上に横方向の１条の沈線。縄文時代晩期か。
971	19チ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	－	第156図 図版55	胴部内面摩滅。胴部外面に沈線と縄文。縄文時代晩期。
972	18タ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	－	第157図 図版55	口縁部内面・胴部内面ナデ。口縁部外面に隆帯。隆帯上に縄文。胴部外面に黒色炭化物付着。
973	18タ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	－	第157図 図版55	内外面摩滅。口縁部外面に撚糸文か。その下に横方向の２条の沈線。口縁部が外反するものとして図示したが、内彎するものである可能性もある。
974	18チ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	－	第157図 図版55	胴部内面ナデ。胴部外面に縦方向・横方向の沈線と縄文。
975	18タ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	－	第157図 図版55	口縁部内外面横ナデ。口縁端部に刺突文。
976	17ソ	KT	土器類	縄文土器	深鉢	21.5	－	－	第157図 図版-	口縁部外面に黒色炭化物付着。胴部外面に黒色炭化物付着。983と同一個体の可能性高い。
977	16ソ	KT	土器類	縄文土器	深鉢	12.8	－	－	第157図 図版55	口縁部内面横ナデ。口縁部外面ナデ。胴部内面上半横方向ケズリ、下半縦方向指ナデ。胴部外面ナデ。砂粒の混入比較的少ない。口縁部外面と胴部下半外面に黒色炭化物付着。
978	19チ	KT	土器類	縄文土器	深鉢	24.4	22.5	11.2	第157図 図版54	胴部内面横ナデ。胴部外面に縄文。
979	18タ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	8.9	第157図 図版55	内外面摩滅。底部外面に網代圧痕。
980	19チ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	8.0	第157図 図版-	胴部内外面ナデ。底部外面に網代圧痕。胴部内面・底部内面に黒色炭化物付着。
981	19タ	Ⅰ	土器類	縄文土器	鉢	－	－	9.4	第157図 図版-	胴部内外面ナデ。底部内面ナデ。底部外面に不明瞭ながら網代圧痕のようなものが見える。
982	18タ	KDT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	8.0	第157図 図版55	内外面摩滅。胴部外面下端に２条の横方向の沈線。
983	17ソ	KT	土器類	縄文土器	深鉢	－	－	8.4	第157図 図版-	内外面摩滅。976と同一個体の可能性高い。
984	18チ	KT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	9.4	第157図 図版-	内外面摩滅。底部外面に不明瞭ながら網代圧痕が見える。
985	16ソ	KT	土器類	縄文土器	鉢	－	－	9.6	第157図 図版55	胴部内外面ナデ。底部外面に網代圧痕。
986	15セ	Ⅲ	土器類	縄文土器	鉢	－	－	9.0	第157図 図版55	胴部内外面ナデ。底部内面ナデ。底部外面に網代圧痕。
987	14タ	YH	土器類	弥生土器	鉢	13.8	－	－	第157図 図版54	口頸部内面横ナデ。口縁部外面に２段の刻目文。頸部外面に凹線文。胴部内面ナデ。胴部外面に縦方向のハケ目。胴部外面下半に黒色炭化物付着。弥生時代後期。
988	12ソ	Ⅲ	土器類	弥生土器	壺	－	－	－	第157図 図版56	大型の壺の口頸部破片と推定。内外面横ナデ。外面上半に竹管文。
989	18タ	KDT	土器類	弥生土器	壺	－	－	－	第157図 図版56	壺の頸部と推定。内面ナデ。外面に櫛条痕。
990	13ソ	YH	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第157図 図版54	口縁部内外面横ナデ。頸部内面に横方向のハケ目。頸部外面にヘラ描き沈線による横羽状文。ただし、沈線は２本ずつ描かれた可能性がある。内垣内式土器の横羽状文甕。弥生時代中期後半。
991	12ソ	－	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第157図 図版56	胴部内外面ナデ。胴部外面にヘラ描き沈線。内垣内式土器の横羽状文甕。弥生時代中期後半。

第89表　遺物観察表（37）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
992	16ソ	KTⅡ	土器類	弥生土器	甕	19.0	－	6.0	第157図図版54	器高は18～20cmくらいに復元できる。内外面摩滅のため調整不明。頸部から胴部にかけて、２段以上のヘラ描き沈線による横羽状文。底部外面に不明瞭ながら網代圧痕か。小型ではあるが内垣内式土器の横羽状文甕。弥生時代中期後半。
993	14ソ	YH	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第157図図版56	口頸部内外面横ナデ。胴部内外面ナデ。胴部外面にヘラ描き沈線。内垣内式土器の横羽状文甕とみられるが、口縁端部に刻目文を持たない。弥生時代中期後半。
994	12ソ	YH	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第157図図版56	胴部内外面ナデ。胴部外面にヘラ描き沈線。内垣内式土器の横羽状文甕。弥生時代中期後半。
995	12ス	Ⅰ	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第157図図版56	胴部内外面ナデ。胴部外面にヘラ描き沈線。内垣内式土器の横羽状文甕。弥生時代中期後半。
996	12ス	Ⅱ	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第158図図版54	甕の胴部破片と推定。胴部内面ナデ。胴部外面にヘラ描き沈線による横羽状文と、横方向・縦方向の櫛描き沈線。
997	13ソ	YH	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第158図図版54	甕の胴部破片と推定。胴部内面板ナデ。胴部外面にヘラ描き沈線による２段の横羽状文と横方向の櫛描き沈線。13タNEと破片接合。
998	17タ	KT	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第158図図版56	胴部内外面ナデ。胴部外面にヘラ描き沈線。沈線の間隔は内垣内式土器の横羽状文甕より細かい。また、櫛描きとみられる横方向の沈線。
999	12ソ	YH	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第158図図版56	胴部内外面ナデ。胴部外面にヘラ描き沈線。沈線の間隔や胎土は997に類似する。
1000	17ソ	KT	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第158図図版-	内外面摩滅のため調整不明。頸部から胴部にかけての外面に横方向と斜め方向の櫛描き沈線。内外面黒褐色を呈する。
1001	17タ	KT	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第158図図版56	甕の胴部破片と推定。胴部内面板ナデ、部分的にハケ目・指オサエ痕が認められる。胴部外面に縦方向の櫛描き羽状文。外面に黒色炭化物付着。17ソNEと破片接合。
1002	17ソ	KT	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第158図図版54	甕の胴部破片と推定。胴部内面板ナデ。胴部外面に縦方向の櫛描き羽状文。
1003	16ソ	KT	土器類	弥生土器	甕	26.0	－	－	第158図図版56	内面摩滅。口縁部外面に管状の櫛状工具による刺突文。頸部外面に棒状工具による刺突文と櫛描き波状文。
1004	16ソ	KTⅡ	土器類	弥生土器	甕	－	－	8.0	第158図図版55	胴部外面に縦方向の条痕。底部外面に不明瞭ながら布圧痕のようなものが見える。胴部内面に黒色炭化物付着。弥生時代中期後葉の条痕文系土器。
1005	17ソ	KT	土器類	弥生土器	甕	23.0	－	－	第158図図版56	口頸部内面横方向の板ナデ。口縁部外面に櫛描き波状文。頸部外面縦方向の板ナデ。口頸部外面に黒色炭化物付着。信州系。弥生時代後期。
1006	13ソ	YH	土器類	弥生土器	甕	－	－	－	第158図図版56	定かではないが、甕の頸部付近の破片と推定。内面横方向の板ナデ。外面摩滅。頸部外面に横方向の櫛描き沈線。胴部上端外面に刺突文。胴部内面に黒色炭化物付着。
1007	12ス	Ⅱ	土器類	弥生土器ないし土師器	高坏	－	－	16.0	第158図図版-	脚部内面上半ナデ、下半横ナデ。脚部外面に縦方向のハケ目が部分的に認められる。
1008	15タ	YH	土器類	弥生土器ないし土師器	高坏	－	－	－	第158図図版56	脚部内外面縦方向ナデ。残存部上端と下端に全周する剥離痕が認められる。透かし孔は３箇所。
1009	17ソ	KDT	土器類	弥生土器ないし土師器	高坏	－	－	－	第158図図版56	脚部内面ナデ。脚部外面横ナデ、部分的にハケ目が残る。
1010	15セ	Ⅱ	土器類	弥生土器ないし土師器	高坏	－	－	－	第158図図版56	内外面摩滅。
1011	14セ	Ⅱ	土器類	弥生土器ないし土師器	台付鉢	－	－	6.3	第158図図版56	脚部内外面ナデ。
1012	12ソ	YH	土器類	弥生土器ないし土師器	鉢	－	－	3.6	第158図図版56	体部外面に縦方向のハケ目。底部内外面工具によるナデ。
1013	12ソ	YH	土器類	弥生土器ないし土師器	壺	－	－	－	第158図図版56	口縁部内面横ナデ。口縁部外面に横方向沈線と刻目文。頸部内面摩滅。頸部外面ヘラミガキ。
1014	12ソ	YH	土器類	弥生土器ないし土師器	壺	11.2	－	－	第158図図版56	口頸部内面横ナデ。口頸部外面に擬凹線文。胴部外面にハケ目。口頸部外面に部分的に赤彩。
1015	16ソ	KT	土器類	弥生土器ないし土師器	壺	－	－	－	第158図図版56	口頸部内外面横ナデ。口頸部外面に列点文。
1016	11ソ	Ⅱ	土器類	弥生土器ないし土師器	壺	－	－	－	第158図図版56	台付壺の胴部破片と推定。内外面摩滅。外面に一対の突起と６条の横方向沈線。

第90表　遺物観察表（38）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1017	12ソ	Ⅲ	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	17.0	－	－	第158図図版-	口頸部内面横ナデ。口頸部外面に横方向のハケ目ないし擬凹線。胴部内外面に横方向のハケ目。
1018	13ソ	YH	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	17.0	－	－	第158図図版-	口頸部内外面横ナデ。口頸部外面に黒色炭化物付着。
1019	14ソ	YH	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	15.0	－	－	第158図図版56	口頸部内面横ナデ。口縁部外面に擬凹線文。頸部外面に黒色炭化物付着。14タNWと破片接合。
1020	14ソ	YH	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	14.2	－	－	第158図図版56	口頸部内面横ナデ。口頸部外面に擬凹線文。胴部外面にハケ目。
1021	14ソ	YH	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	－	－	－	第158図図版56	口頸部内面ナデ。口頸部外面に櫛描き波状文と櫛描き簾状文。口縁部外面に黒色炭化物付着。
1022	17ソ	KDT	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	－	－	－	第158図図版56	口頸部内面横方向板ナデ。口頸部外面に櫛描き波状文。
1023	13タ	YT	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	－	－	－	第159図図版56	口頸部内面横ナデ。口縁部外面横ナデ。頸部外面に下向きの縦方向櫛描文。口頸部外面に黒色炭化物付着。
1024	13タ	YT	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	23.0	－	－	第159図図版56	口頸部内面横ナデ。口頸部外面に縦方向・横方向の櫛描文。口頸部外面に厚く黒色炭化物付着。
1025	17ソ	KDT	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	－	－	－	第159図図版56	口頸部内外面ナデ。口頸部外面に下向きの縦方向櫛描文。
1026	14タ	YT	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	－	－	－	第159図図版56	口頸部内面横ナデ。口縁部外面に刻目文。頸部外面に下向きの縦方向櫛描文。口頸部外面に厚く黒色炭化物付着。
1027	11ソ	YH	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	19.0	－	－	第159図図版56	口頸部内外面横ナデ。口頸部から胴部にかけての外面に下向きの縦方向櫛描文。
1028	14セ	Ⅱ	土器類	弥生土器ないし土師器	甕	17.4	－	－	第159図図版56	内外面摩滅。頸部から胴部にかけての外面に黒色炭化物付着。
1029	14タ	YT	土器類	土師器	高坏	20.3	－	－	第159図図版-	体部内外面ヘラミガキ。有段高坏。
1030	17タ	KT	土器類	土師器	高坏	－	－	－	第159図図版56	体部内面に黒色炭化物付着。体部外面ヘラミガキ。有段高坏。
1031	12ソ	Ⅲ	土器類	土師器	壺	19.5	－	－	第159図図版56	口頸部内外面横ナデ。胎土に砂粒を多く含み、灰黄色を呈する。
1032	17タ	KT	土器類	土師器	甕	－	－	－	第159図図版56	胴部内面ナデ。胴部外面にハケ目。胎土に金雲母を含む。Ｓ字甕。
1033	５ケ	Ⅱ	土器類	土師器	甕	17.8	－	－	第159図図版56	内外面摩滅。頸部から胴部にかけての内面に横方向のハケ目と指頭圧痕。胴部外面に斜め方向のハケ目。胎土に金雲母を含む。Ｓ字甕。
1034	13ソ	YH	土器類	土師器	甕	22.0	－	－	第159図図版56	口頸部内外面横ナデ。胴部外面に縦方向のハケ目。
1035	12ソ	YH	土器類	土師器	甕	18.0	－	－	第159図図版56	口頸部内外面横ナデ。頸部外面に黒色炭化物付着。
1036	16セ	YH	土器類	土師器	甕	15.0	－	－	第159図図版56	口頸部内外面横ナデ。
1037	17ソ	―	土器類	土師器	甕	17.0	－	－	第159図図版59	口縁部内面摩滅のため調整不明。口縁部外面横ナデ。頸部内外面に斜め方向のハケ目。胴部内面に斜め方向のハケ目。胴部外面に横方向と斜め方向のハケ目。胴部外面下半に黒色炭化物付着。
1038	18チ	KT	土器類	土師器	甕	－	－	7.4	第159図図版59	胴部内面に横方向のハケ目。胴部外面上半に横方向のハケ目、下半に縦～斜め方向のハケ目。底部内面摩滅。底部外面に網代圧痕。19チNEと破片接合。
1039	16ソ	KT	土器類	土師器	甕	12.5	－	－	第159図図版56	口頸部内外面横ナデ。胴部内面に横方向のハケ目。胴部外面に斜め方向のハケ目。
1040	７コ	Ⅱ	土器類	土師器	土錘	(4.3)	(1.3)	(1.3)	第159図図版71	外面ナデ。孔径0.4cm。重さ6.6g。
1041	６サ	Ⅱ	土器類	土師器	土錘	(残存4.5)	(1.4)	(1.5)	第159図図版71	下端をわずかに欠く。外面ナデ。孔径0.5cm。残存部分の重さ7.0g。
1042	５ケ	Ⅱ	土器類	土師器	土錘	(4.0)	(1.2)	(1.2)	第159図図版-	外面ナデ。孔径0.4cm。重さ4.9g。
1043	５ケ	Ⅱ	土器類	土師器	土錘	(残存3.5)	(1.4)	(1.3)	第159図図版-	上端を欠く。外面ナデ。孔径0.5cm。残存部分の重さ5.9g。
1044	８サ	Ⅱ	土器類	土師器	土錘	(3.1)	(1.3)	(1.3)	第159図図版71	外面ナデ。孔径0.4cm。重さ5.0g。
1045	16チ	KT	土器類	土師器	ミニチュア土器	6.5	3.1	3.6	第159図図版56・59	体部内外面ナデ・オサエ。底部内外面ナデ・オサエ。底部内面に爪痕。

第91表　遺物観察表（39）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1046	12ソ	YH	土器類	土師器	紡錘車	(5.0)	(0.7)	(5.2)	第159図図版56	中央に円形の貫通孔。孔の周囲摩滅。表面・裏面にハケ目。甕胴部破片を再利用して作った紡錘車とみられる。
1047	４ク	Ⅱ	土器類	須恵器	坏蓋	9.5	2.9	－	第160図図版60	天井部内面回転ナデ。天井部外面ナデ。体部内外面回転ナデ。５ケSEと破片接合。
1048	４ク	Ⅲ	土器類	須恵器	坏蓋？	11.0	－	－	第160図図版－	体部内外面回転ナデ。体部外面に波状のヘラ書き。464と同一個体か。
1049	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	坏身	8.6	2.4	6.0	第160図図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。
1050	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	高坏	－	－	－	第160図図版－	脚部内外面回転ナデ。
1051	９シ	Ⅲ	土器類	須恵器	高坏	－	－	－	第160図図版－	脚部内外面回転ナデ。
1052	13セ	Ⅰ	土器類	須恵器	高坏	－	－	－	第160図図版－	脚部内面上半ナデ、下半回転ナデ。脚部外面回転ナデ。
1053	16ソ	KDT	土器類	須恵器	返り蓋	14.0	－	－	第160図図版－	体部内外面回転ナデ。
1054	７コ	Ⅱ	土器類	須恵器	返り蓋	約13.0	－	－	第160図図版－	体部内外面回転ナデ。
1055	７サ	Ⅱ	土器類	須恵器	摘み蓋	16.2	3.4	－	第160図図版66	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。
1056	16ソ	KDT	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版－	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。焼成あまく灰白色を呈するが、内面は炭素吸着により灰色を呈する。
1057	21チ	KDT	土器類	須恵器	摘み蓋？	14.8	－	－	第160図図版－	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。21ツNEと破片接合。
1058	17ソ	KDT	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版－	天井部内面回転ナデ。摘み部回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。
1059	６コ	Ⅱ	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版66	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。摘み部回転ナデ。体部内外面回転ナデ。天井部・体部外面に自然釉付着。
1060	８シ	Ⅱ	土器類	須恵器	摘み蓋？	14.0	－	－	第160図図版－	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。
1061	14ソ	KDT	土器類	須恵器	摘み蓋？	13.5	－	－	第160図図版66	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。外面全面に自然釉付着。
1062	20チ	KDT	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版66	仏塔状の特殊摘み。内外面回転ナデ。外面に自然釉付着。
1063	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版66	内外面摩滅。焼成あまい。
1064	７シ	Ⅲ	土器類	須恵器	摘み蓋	14.1	－	－	第160図図版60・76	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。体部内面に墨書「総」。胎土緻密で灰白色を呈する。
1065	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	摘み蓋？	15.0	－	－	第160図図版72	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。天井部・体部内面に墨付着。転用硯。
1066	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版－	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。天井部内面平滑化。天井部内面に墨付着。転用硯。
1067	16ソ	KDT	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版－	天井部内面回転ナデ後ナデ。体部内面回転ナデ。外面は全体に自然釉付着のため調整不明。天井部内面平滑化。内面に墨付着。転用硯。
1068	６サ	Ⅲ	土器類	須恵器	摘み蓋？	13.0	－	－	第160図図版－	天井部内面回転ナデ。天井部外面ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。天井部内面に墨付着。転用硯。
1069	16セ	KDT	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版72	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。体部内外面回転ナデ。内面のほぼ全面に墨付着。転用硯。
1070	19チ	Ⅰ	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版－	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。天井部内面平滑化。天井部内面に墨書「□」。
1071	16ソ	KT	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版76	天井部内面回転ナデ後ナデ。天井部外面回転ナデ。摘み部回転ナデ。天井部内面平滑化。天井部外面に墨書「宿」。天井部内面に墨付着。転用硯。
1072	15ソ	KDT	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版－	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。天井部内面に墨付着。転用硯。
1073	13年度試掘坑26	―	土器類	須恵器	摘み蓋？	－	－	－	第160図図版－	体部内外面回転ナデ。体部内外面に墨付着。転用硯。
1074	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	無台坏	12.7	3.9	7.0	第161図図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面丁寧なナデ。

第92表　遺物観察表（40）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1075	21チ	KDT	土器類	須恵器	無台坏	12.5	3.6	9.0	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。
1076	19チ	KDT	土器類	須恵器	無台坏	11.8	3.6	10.0	第161図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。
1077	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台坏	12.0	3.1	8.0	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。胎土粗く黒色粒を多く含む。
1078	不明	－	土器類	須恵器	無台坏	－	－	8.0	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1079	北東耕土搬出区	－	土器類	須恵器	無台坏	－	－	6.7	第161図図版76	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□〔海ヵ〕」。
1080	20チ	KDT	土器類	須恵器	無台坏	－	－	7.4	第161図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。焼成あまく灰黄色を呈する。
1081	17ソ	KDT	土器類	須恵器	無台坏	15.0	3.5	13.0	第161図図版72	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ後ナデ。底部内外面のほぼ全面と体部の主に下半の内外面に墨付着。転用硯。
1082	21チ	KDT	土器類	須恵器	無台坏	－	－	8.0	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1083	６サ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台坏	17.0	6.1	11.0	第161図図版77	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。底部外面に墨書「逢」。胎土緻密で灰白色を呈する。胎土に黒斑を含む。胎土・色調が609に類似する。
1084	16ソ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	18.2	5.7	13.1	第161図図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面自然釉付着のため調整不明。底部外面回転ナデ。底部外面に墨付着。転用硯。16セSW・17ソNEと破片接合。
1085	21チ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	－	－	11.4	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
1086	14セ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台坏	15.7	5.3	11.9	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
1087	21チ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	15.2	3.5	11.5	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。
1088	20チ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	14.1	4.1	10.2	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。
1089	17ソ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	13.2	3.6	10.2	第161図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。焼成あまく灰白色を呈する。
1090	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台坏	12.4	3.9	8.0	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。
1091	12ソ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台坏	11.8	4.0	8.4	第161図図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面丁寧なナデ・ヘラ削り。
1092	16ソ	Ⅰ	土器類	須恵器	有台坏	10.2	3.5	8.1	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。
1093	不明	－	土器類	須恵器	有台坏	14.0	3.5	8.6	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
1094	20チ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	13.9	3.5	9.0	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。
1095	17ソ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	14.0	3.5	10.0	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。
1096	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台坏	13.0	3.6	8.2	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
1097	21チ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	12.4	3.6	8.9	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ・ナデ。底部内面平滑化。20チNEと破片接合。
1098	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台坏	11.6	3.8	8.0	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面平滑化。
1099	16ソ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	11.6	3.1	9.0	第161図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
1100	６ケ	－	土器類	須恵器	有台坏	13.1	3.5	9.7	第162図図版60	完形品。口縁部の１箇所を片口状に折り曲げている。体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ・ヘラ削り。
1101	６シ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台坏	13.0	3.5	8.2	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面に墨付着。転用硯。底部外面に浅い２条のヘラ書き平行線。

第93表　遺物観察表（41）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1102	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台坏	－	－	9.0	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部外面に墨書「□」。
1103	16ソ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台坏	－	－	8.6	第162図図版77	底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部外面に墨書「□〔ふヵ〕」。
1104	４キ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台坏	12.2	3.7	7.8	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。体部外面に墨書「□」。
1105	４ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台坏	10.6	3.6	8.1	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。
1106	16ソ	KDT	土器類	須恵器	有台坏	12.4	3.5	9.2	第162図図版60	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面・体部内面に墨付着。転用硯。
1107	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台坏	－	－	8.4	第162図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面にヘラ書き。底部外面に墨付着。転用硯。
1108	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台坏？	－	－	10.6	第162図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面に墨書「□」。
1109	不明	―	土器類	須恵器	有台坏	13.8	3.3	10.0	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ナデ後ナデ。底部外面に墨付着。転用硯。
1110	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台坏	－	－	9.0	第162図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部外面に墨書「□」。
1111	11ソ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台坏	－	－	7.2	第162図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。焼成あまく灰白色を呈する。
1112	不明	―	土器類	須恵器	有台坏？	－	－	－	第162図図版-	底部内外面回転ナデ。底部外面に墨書「□」。
1113	５コ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台坏？	－	－	－	第162図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面に墨書「□」。底部外面に墨書「□」。
1114	15セ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	14.0	4.4	7.6	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
1115	８コ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	12.2	3.3	5.0	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。
1116	15ソ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	12.4	3.0	6.3	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。
1117	20チ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	12.7	3.1	6.0	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面にヘラ切り痕。焼成あまく灰白色を呈する。
1118	５コ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	12.2	3.5	6.0	第162図図版-	体部内外面回転ナデ。５ケSWと破片接合。
1119	21チ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	13.0	3.4	8.0	第162図図版-	口縁部外面に１条の沈線。体部内外面回転ナデ。
1120	14ソ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	12.6	4.2	7.0	第162図図版72	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面下半の一部と底部内面に墨付着。転用硯。
1121	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	13.0	4.0	6.0	第162図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。胎土粗い。体部外面に墨書「井」。
1122	４ク	Ⅲ	土器類	須恵器	無台碗	12.4	3.2	6.6	第162図図版61・77	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□〔ふヵ〕」。
1123	３ク	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗？	11.6	－	－	第162図図版66	体部内外面回転ナデ。体部内外面に煤付着。灯明具としての使用が想定される。焼成あまく灰黄色を呈する。
1124	７セ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	12.4	4.3	5.2	第163図図版61・77	体部内面回転ナデ後ナデ。体部外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部外面に墨書「海」。
1125	４ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	無台碗	12.8	4.0	5.6	第163図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。焼成あまく赤褐色を呈する。
1126	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	無台碗	11.4	3.2	6.0	第163図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面にヘラ書き。
1127	15ソ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	12.2	2.8	6.0	第163図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。
1128	21ツ	KT	土器類	須恵器	無台碗	13.0	4.2	6.9	第163図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に静止糸切り痕。底部内面平滑化。
1129	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	11.6	3.1	6.0	第163図図版61・77	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後工具によるナデ。底部外面に墨書「□〔逢ヵ〕」。

第94表　遺物観察表（42）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1130	21チ	Ⅰ	土器類	須恵器	無台碗	12.2	3.7	5.4	第163図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕（体部外面下端にまで及んでいる）。底部内面平滑化。
1131	16ソ	KT	土器類	須恵器	無台碗	12.4	4.0	6.0	第163図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
1132	15ソ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	12.4	2.8	5.6	第163図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。
1133	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	13.2	3.6	5.6	第163図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
1134	21チ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	12.5	4.6	5.0	第163図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面摩滅のため調整不明。底部外面に静止糸切り痕。
1135	12年度試掘坑8	－	土器類	須恵器	無台碗	12.7	3.8	6.2	第163図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
1136	21ツ	KT	土器類	須恵器	無台碗	12.5	3.2	6.0	第163図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ、外面ヘラ切り後粗いナデ。底部内面平滑化。
1137	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	12.0	4.2	5.0	第163図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。堅緻。
1138	４ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	無台碗	－	－	5.4	第163図図版77	内面摩滅。底部外面に回転糸切り痕。焼成あまく赤褐色～灰色を呈する。底部外面に墨書「盃」。
1139	９ス	Ⅲ	土器類	須恵器	無台碗？	約12.0	－	－	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。口縁部内面に煤付着。焼成あまく灰黄色を呈する。底部を欠くが、口径と体部形状から無台碗と推定。
1140	21チ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	－	－	5.5	第164図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1141	４ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	無台碗	－	－	6.8	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部外面に墨書「□」。
1142	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	－	－	7.0	第164図図版77	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1143	19チ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	－	－	5.9	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1144	12年度試掘坑8	－	土器類	須恵器	無台碗	－	－	5.8	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面に墨書「□」。底部外面に墨書「□」。これらは同じ文字である可能性が高い。焼成あまく灰白色を呈する。
1145	８シ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	－	－	7.0	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□」とヘラ書き。
1146	16ソ	KDT	土器類	須恵器	無台碗	－	－	5.6	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部外面にヘラ書き「×」。焼成あまくにぶい橙色を呈する。
1147	９ス	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	－	－	7.0	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部内面に墨書「□」。
1148	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	－	－	約6.6	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部外面に墨書「□」。
1149	８シ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	－	－	－	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
1150	11ス	Ⅰ	土器類	須恵器	無台碗	－	－	6.0	第164図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。内外面に交差する放射状の帯状変色がみられる。いわゆる火襷（ひだすき）であるが、それらの中には部分的に植物繊維の痕跡が認められる。
1151	７サ	Ⅱ	土器類	須恵器	無台碗	－	－	－	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
1152	８コ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台碗	17.6	5.9	10.0	第164図図版61	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内面の大部分と口縁部外面の一部に自然釉付着。胎土粗く砂粒の混入多い。
1153	８シ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台碗	17.0	4.3	7.8	第164図図版66	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内外面ナデ。体部内面に自然釉付着。７シNWと破片接合。
1154	５コ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台碗？	約18.3	－	－	第164図図版77	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。５サNEと破片接合。

第95表　遺物観察表（43）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1155	不明	―	土器類	須恵器	有台碗	－	－	8.0	第164図図版77	体部下端外面回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り。底部外面に墨書「成」。
1156	７ス	Ⅱ	土器類	須恵器	有台碗	15.9	5.0	8.8	第164図図版61	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面ナデ。底部外面回転ナデ。体部内面に部分的に自然釉付着。７セNE・NWと破片接合。
1157	８サ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台碗	16.1	5.2	7.9	第164図図版61・77	体部内面回転ナデ。下端を除く体部外面回転ナデ、体部外面下端回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。体部外面に墨書「□」。底部外面に墨書「□」。
1158	20チ	KDT	土器類	須恵器	有台碗	12.0	4.2	6.4	第164図図版61	体部内外面回転ナデ。ただし、外面下端には部分的に回転ヘラ削り。底部内面ナデ。底部外面に回転糸切り痕。あるいは灰釉陶器とみるべきか。
1159	不明	―	土器類	須恵器	有台碗	12.7	4.3	7.3	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。あるいは灰釉陶器か。
1160	８コ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台碗	12.8	5.0	7.8	第164図図版61	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。底部内面に重ね焼き痕。焼きゆがみが著しい。
1161	20チ	KDT	土器類	須恵器	有台碗	10.0	3.7	5.2	第164図図版-	体部内外面回転ナデ。
1162	12年度試掘坑	―	土器類	須恵器	有台碗	－	－	8.0	第164図図版77	体部外面下端部回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□〔ふヵ〕」。
1163	６サ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台碗	－	－	9.6	第165図図版72	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。中央部を除く底部外面回転ナデ、中央部ナデ。底部内面平滑化。体部内面に自然釉付着。底部内外面に墨付着。転用硯。
1164	７ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台碗	－	－	8.8	第165図図版77	底部内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「仁」。
1165	８コ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台碗	－	－	8.1	第165図図版78	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部内面に重ね焼き痕。底部外面に墨書「井」。
1166	５シ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台碗	－	－	7.8	第165図図版72	底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。底部外面に墨付着。転用硯。堅緻で褐灰色を呈する。
1167	７コ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台碗	－	－	8.3	第165図図版72	底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。底部内面に墨付着。転用硯。
1168	５シ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台盤	21.9	3.4	13.6	第165図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
1169	５シ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤	18.8	3.7	8.8	第165図図版62	体部内面回転ナデ。下端を除く体部外面回転ナデ、下端回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
1170	８サ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤	14.6	3.5	8.0	第165図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り後ナデ。
1171	18タ	KDT	土器類	須恵器	有台盤	15.4	3.4	8.0	第165図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ後ナデ。底部内面平滑化。
1172	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤	15.4	2.2	10.0	第165図図版66	体部内外面回転ナデ。底部内外面ヘラ削り。体部内面に自然釉付着。底部内面平滑化。
1173	８シ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤	14.2	2.0	7.0	第165図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部内面平滑化。
1174	５サ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台盤	17.0	3.9	8.0	第165図図版62	体部内面回転ナデ、部分的に回転ヘラ削り。下端を除く体部外面回転ナデ、体部外面下端回転ヘラ削り。底部内面ヘラ削り。中央部を除く底部外面回転ヘラ削り、底部外面中央部ナデ・オサエ。
1175	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台盤	13.2	2.8	7.2	第165図図版62	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。４コNWと破片接合。
1176	５サ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台盤	14.6	3.1	7.3	第165図図版62	体部内外面回転ナデ。底部外面に墨書「□」。
1177	11ス	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤	14.2	2.8	7.3	第165図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内外面回転ナデ後ナデ。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼き痕。底部外面に墨付着。転用硯。
1178	７ス	Ⅲ	土器類	須恵器	有台盤	15.0	2.7	6.6	第165図図版62	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。体部内面に自然釉付着。底部内外面に墨付着。転用硯。
1179	７セ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤	14.5	2.8	8.4	第165図図版62・78	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面に墨書「平」。焼成あまく黄灰色を呈する。

第96表　遺物観察表（44）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1180	６コ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台盤	14.0	2.7	7.6	第166図図版62・78	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ナデ・ナデ。底部内面平滑化。底部内面に墨書「仁」。底部外面に墨付着。体部外面にも部分的に墨が付着しており、転用硯とみられる。
1181	５シ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台盤	13.6	2.2	8.6	第166図図版62・78	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。高台端部に平行線状の圧痕。体部外面に墨書「□」。
1182	６ス	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤？	17.0	－	－	第166図図版-	体部内外面回転ナデ。体部内面に墨付着。転用硯。
1183	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤？	14.2	－	－	第166図図版78	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□〔井ヵ〕」。４コNWと破片接合。
1184	５コ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤？	約14.8	－	－	第166図図版-	体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ後ナデ。内面のほぼ全面に墨付着。転用硯。６コSWと破片接合。
1185	10ス	Ⅲ	土器類	須恵器	有台盤？	14.5	－	－	第166図図版-	体部内外面回転ナデ。
1186	７コ	Ⅲ	土器類	須恵器	有台盤？	－	－	7.2	第166図図版72	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。底部内面に墨付着。また、割れ口と底部外面にも垂れた墨の付着が認められることから、割れた状態の個体を再利用した転用硯とみられる。
1187	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤？	－	－	9.0	第166図図版78	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□〔海ヵ〕」。底部内面に墨付着。転用硯。
1188	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤？	－	－	6.6	第166図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部外面に墨書「□」。底部内面にごく薄く墨が点在する。転用硯。焼成あまく灰白色を呈する。
1189	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	有台盤？	－	－	－	第166図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。摘み蓋の可能性あり。
1190	20チ	KDT	土器類	須恵器	不明	－	－	12.6	第166図図版-	脚付盤の脚部か壺蓋の可能性があるとみられるが、定かでない。体部内外面回転ナデ。
1191	20チ	Ⅰ	土器類	須恵器	不明	－	－	8.6	第166図図版-	有台碗か有台盤の底部とみられる。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。高台端部に平行線状の圧痕。底部外面に墨付着。転用硯。
1192	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	不明	19.0	－	－	第166図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。５ケNE・６ケNWと破片接合。
1193	15ソ	KDT	土器類	須恵器	不明	－	－	10.6	第166図図版72	底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り、中央部に回転糸切り痕。底部外面に墨付着。転用硯。
1194	15ソ	KDT	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第166図図版-	坏か碗の体部破片と推定。体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
1195	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第166図図版-	体部内面回転ナデ。下端部を除く体部外面回転ナデ、下端部回転ヘラ削り。体部外面に墨書「□」。
1196	北東耕土搬出区	―	土器類	須恵器	不明	－	－	9.4	第166図図版-	底部内外面回転ナデ後ナデ。底部内面平滑化。高台端部に平行線状の圧痕。底部外面に墨書「□」。
1197	不明	―	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版78	底部内面ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面に墨書「逢」。
1198	15ソ	KDT	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版-	器種は定かでないが、食膳具の底部とみられる。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内外面に墨付着。転用硯。
1199	不明	―	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版78	坏か碗の底部破片と推定。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。底部外面にヘラ書き「見□中」(語順不明)。
1200	21チ	Ⅰ	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版-	坏か碗の底部とみられる。底部内外面ナデ。底部外面にヘラ書き「×」。
1201	５コ	Ⅱ	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ヘラ切り後ナデ。底部外面に墨書「□」。
1202	17ソ	KDT	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版-	坏か碗の底部とみられる。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面にヘラ書き。
1203	７ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版-	脚付盤の破片とみられる。体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
1204	７コ	Ⅱ	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版-	坏か碗の底部とみられる。摩滅のため調整不明。底部外面に墨書「□」。焼成あまく灰白色を呈する。

第97表　遺物観察表（45）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1205	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版-	坏か碗の体部破片と推定。体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
1206	５ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版-	坏・碗・盤のいずれかの底部破片と推定。内外面回転ナデ。底部内面に墨書「□」。
1207	20チ	Ⅰ	土器類	須恵器	不明	－	－	－	第167図図版-	坏か碗の底部破片と推定。底部内面ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面に墨書「□」。
1208	12年度試掘坑19	―	土器類	須恵器	瓶	9.9	11.2	－	第167図図版62	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面回転ナデ。胴部外面上半回転ナデ、下半ヘラ削り。底部内面ナデ・オサエ。底部外面ヘラ削り後丁寧なナデ。堅緻。陶邑窯編年Ⅰ形式３段階。
1209	16ソ	Ⅲ	土器類	須恵器	瓶？	－	－	－	第167図図版-	胴部内外面回転ナデ。胴部外面中央部に波状文。15セSEと破片接合。
1210	16ソ	KDT	土器類	須恵器	瓶	－	－	－	第167図図版-	胴部内外面回転ナデ。外部のほぼ全面と頸部内面に自然釉付着。頸部外面に波状文。
1211	14セ	Ⅱ	土器類	須恵器	鉢	28.0	5.8	18.6	第167図図版67	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。体部外面中央部に把手を具える。
1212	７ス	Ⅱ	土器類	須恵器	鉢	－	－	13.0	第167図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。
1213	９シ	Ⅱ	土器類	須恵器	鉢	15.4	－	－	第167図図版-	体部内外面回転ナデ。表面・裏面とも黒味の強い灰色を呈するが、これは意識的に黒色処理した結果である可能性がある。
1214	19チ	Ⅰ	土器類	須恵器	鉢	11.8	14.2	9.6	第167図図版62	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面は大部分剥落。内面のほぼ全面に自然釉付着。
1215	17タ	KDT	土器類	須恵器	壺蓋	13.6	－	－	第167図図版-	天井部内面回転ナデ。天井部外面回転ヘラ削り。口縁部内外面回転ナデ。口縁端部に自然釉付着。
1216	21チ	KDT	土器類	須恵器	壺蓋	9.6	－	－	第167図図版-	天井部・口縁部内面回転ナデ。外面は自然釉付着のため調整不明。
1217	17ソ	KDT	土器類	須恵器	壺蓋	約12.8	－	－	第167図図版-	口縁部内外面回転ナデ。口縁部内面に自然釉付着。
1218	19チ	Ⅰ	土器類	須恵器	壺蓋	10.9	－	－	第167図図版-	口縁部内外面回転ナデ。
1219	20チ	KDT	土器類	須恵器	壺	20.0	－	－	第167図図版67	壺か広口瓶の口頸部と推定。口頸部内外面回転ナデ。
1220	21ツ	KDT	土器類	須恵器	壺	約13.8	－	－	第167図図版-	口頸部内外面回転ナデ。
1221	17ソ	KDT	土器類	須恵器	壺	11.0	－	－	第167図図版-	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内外面に部分的に自然釉付着。18ソSEと破片接合。
1222	16ソ	KDT	土器類	須恵器	壺	11.0	－	－	第167図図版-	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内外面に自然釉付着。16セSWと破片接合。
1223	15セ	―	土器類	須恵器	壺	12.2	－	－	第167図図版-	口頸部内面回転ナデ。口頸部外面回転ナデ後ナデ・オサエ。
1224	17ソ	KDT	土器類	須恵器	壺	16.8	－	－	第167図図版-	口頸部内外面回転ナデ。18タNEと破片接合。
1225	20チ	Ⅰ	土器類	須恵器	壺	10.3	－	－	第167図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。
1226	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	壺	約21.0	－	－	第168図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。口頸部内面と胴部外面に自然釉付着。
1227	19ツ	KT	土器類	須恵器	壺	－	－	－	第168図図版67	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。外面に自然釉付着。胴部外面に把手の痕跡あり。
1228	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	壺	11.3	－	－	第168図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。外面に自然釉付着。
1229	17ソ	KDT	土器類	須恵器	壺	9.4	－	－	第168図図版-	口頸部内外面回転ナデ、内面には部分的にナデを加える。体部内外面回転ナデ、内面には部分的にナデを加える。堅緻で黒褐色を呈する。
1230	５ク	Ⅲ	土器類	須恵器	壺	10.0	－	－	第168図図版67	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。
1231	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	壺	12.0	－	－	第168図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。
1232	８サ	Ⅱ	土器類	須恵器	壺	7.0	－	－	第168図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。外面のほぼ全面に自然釉付着。
1233	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	壺	8.0	－	－	第168図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。外面の大部分に自然釉付着。５コNEと破片接合。

第98表　遺物観察表（46）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1234	18タ	KT	土器類	須恵器	壺	4.7	－	－	第168図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。口頸部内外面に自然釉付着。
1235	17ソ	KDT	土器類	須恵器	壺	10.8	－	－	第168図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。口縁部内面と外面の全面に自然釉付着。
1236	17ソ	KDT	土器類	須恵器	壺	11.6	－	－	第168図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。
1237	10シ	KDT	土器類	須恵器	壺？	－	－	11.4	第168図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。壺か鉢の底部。
1238	５コ	Ⅲ	土器類	須恵器	壺	－	－	10.0	第168図図版64	胴部内面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。胴部外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。胴部外面中央部に３条の沈線。胴部内面下半・底部内面・胴部外面上半に自然釉付着。４コSWと破片接合。
1239	10ス	Ⅲ	土器類	須恵器	壺？	－	－	13.0	第168図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。底部外面に平行線状の圧痕。壺か鉢の底部。
1240	８ス	Ⅱ	土器類	須恵器	壺	－	－	6.2	第168図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面に自然釉付着。
1241	17ソ	KDT	土器類	須恵器	壺	－	－	11.4	第168図図版-	胴部内面回転ナデ。胴部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。
1242	21ツ	Ⅰ	土器類	須恵器	壺	－	－	9.0	第168図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部外面に糸切り痕（回転を伴わない可能性高い）。
1243	７シ	Ⅲ	土器類	須恵器	壺	－	－	8.9	第168図図版-	胴部内面回転ナデ。胴部外面回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面と胴部外面に部分的に自然釉付着。
1244	20チ	KDT	土器類	須恵器	壺	－	－	10.7	第168図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ヘラ削り。底部内面に自然釉付着。
1245	15ソ	KDT	土器類	須恵器	壺	－	－	11.8	第168図図版-	胴部内面ナデ。胴部外面回転ヘラ削り。底部内面自然釉付着のため調整不明。底部外面回転ナデ。
1246	21ツ	Ⅰ	土器類	須恵器	壺	－	－	7.6	第168図図版-	胴部内面回転ナデ。胴部外面回転ヘラ削り。胴部外面・底部内面に自然釉付着。
1247	15ソ	KDT	土器類	須恵器	壺	－	－	9.0	第168図図版-	胴部内外面回転ナデ。
1248	８コ	Ⅱ	土器類	須恵器	壺	－	－	17.6	第168図図版-	胴部内面回転ナデ。胴部外面回転ヘラ削り。底部内外面ナデ。胎土粗く砂粒を多く含む。310SM・373SDと破片接合。
1249	７コ	Ⅱ	土器類	須恵器	壺？	－	－	－	第168図図版-	壺の胴部上半の破片と考えたが定かではない。胴部内外面回転ナデ。胴部外面に記号状ないし絵画状のヘラ書き。
1250	17ソ	KDT	土器類	須恵器	横瓶	3.8	8.5	－	第169図図版65	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面回転ナデ。胴部外面回転ヘラ削り。胴部上半と口頸部内面に部分的に自然釉付着。ミニチュアの横瓶。
1251	19タ	KDT	土器類	須恵器	甕	27.4	約44.0	19.8	第169図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面ナデ、部分的に当て具痕が残る。胴部外面に平行線状の叩き痕。底部内外面ナデ。胴部外面上半と底部内外面に自然釉付着。19テNWと破片接合。
1252	９コ	Ⅱ	土器類	須恵器	甕	40.3	－	－	第169図図版-	口頸部内外面回転ナデ。
1253	16ソ	KDT	土器類	須恵器	甕	20.7	－	－	第169図図版67	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面に同心円状の当て具痕。胴部外面に斜格子状の叩き痕。17ソNEと破片接合。
1254	17ソ	KDT	土器類	須恵器	甕	14.9	－	－	第169図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面に同心円状の当て具痕。胴部外面に格子状の叩き痕。1256と同一個体の可能性あり。
1255	15ソ	KDT	土器類	須恵器	甕	22.2	－	－	第170図図版-	口頸部内外面回転ナデ。頸部内面中央部に指オサエ。胴部内面に同心円状の当て具痕。胴部外面に平行線状の叩き痕。14ソNW・15セNE・16ソSWと破片接合。
1256	14ソ	KDT	土器類	須恵器	甕	14.9	－	－	第170図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面に同心円状の当て具痕。胴部外面に格子状の叩き痕。1254と同一個体の可能性あり。
1257	17ソ	KDT	土器類	須恵器	甕	20.4	－	－	第170図図版67	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面に同心円状の当て具痕。胴部外面に斜格子状の叩き痕。16ソNWと破片接合。
1258	５シ	Ⅱ	土器類	須恵器	甕	24.0	－	－	第170図図版-	口頸部内外面回転ナデ。
1259	４ケ	Ⅱ	土器類	須恵器	甕	18.0	－	－	第170図図版-	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面に同心円状の当て具痕。胴部外面に平行線状の叩き痕。堅緻。５ケSEと破片接合。

第99表　遺物観察表（47）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1260	15セ	Ⅱ	土器類	須恵器	甕	22.4	－	－	第170図図版－	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内面上半と頸部外面の一部に自然釉付着。14ソNW・15ソと破片接合。
1261	15ソ	KDT	土器類	須恵器	甕	－	－	14.8	第170図図版－	胴部内面ナデ。胴部外面に平行線状の叩き痕。底部内面ナデ。底部外面に木葉痕。胴部内外面と底部内面に自然釉付着。
1262	５シ	Ⅱ	土器類	須恵器	甕	23.8	－	－	第170図図版－	口頸部内外面回転ナデ。胴部内面に同心円状の当て具痕。胴部外面に叩き痕が認められるが、自然釉付着のため詳細不明。
1263	20チ	KDT	土器類	須恵器	甕	－	－	－	第171図図版－	胴部内面に同心円状の当て具痕。胴部外面に平行線状の叩き痕とカキ目。
1264	19タ	KDT	土器類	須恵器	甑？	25.0	－	－	第171図図版65	内外面摩滅のため調整不明。
1265	８シ	Ⅱ	土器類	須恵器	甑？	－	－	－	第171図図版65	内外面摩滅のため調整不明。
1266	14セ	Ⅱ	土器類	須恵器	甑	－	－	19.6	第171図図版65	内外面摩滅。15セSEと破片接合。
1267	８コ	Ⅱ	土器類	須恵器	陶錘	(残存6.5)	(3.0)	(3.0)	第171図図版－	上端・下端を欠く。外面摩滅。孔径1.2cm。残存部分の重さ42.9g。
1268	５ケ	Ⅲ	土器類	須恵器	陶錘	(6.2)	(3.0)	(2.9)	第171図図版71	外面に工具による横方向のナデ。孔径1.1cm。重さ40.0g。
1269	８サ	Ⅱ	土器類	須恵器	陶錘	(5.1)	(2.3)	(2.4)	第171図図版71	外面ナデ。孔径0.6cm。重さ31.7g。
1270	８コ	Ⅱ	土器類	須恵器	陶錘	(4.5)	(1.6)	(1.6)	第171図図版－	外面ナデ・指オサエ。孔径0.6cm。重さ14.1g。
1271	７サ	Ⅱ	土器類	須恵器	陶錘	(5.5)	(2.8)	(2.7)	第171図図版－	下半に剥落部分多い。外面に工具による横方向のナデ。孔径1.1cm。残存部分の重さ27.8g。
1272	13セ	KDT	土器類	須恵器	陶錘	(5.5)	(2.9)	(3.0)	第171図図版71	外面ナデ・指オサエ。外面に自然釉と他個体の一部が付着。孔径0.7cm。重さ50.4g。
1273	12年度試掘坑3	－	土器類	須恵器	火舎	－	－	－	第171図図版67	上端に底部の一部がわずかに残る。脚部全面指オサエ。
1274	12年度試掘坑3	－	土器類	須恵器	火舎	－	－	－	第171図図版67	下端面を除く脚部のほぼ全面ヘラ削り。下端面摩滅。
1275	９シ	Ⅱ	土器類	須恵器	火舎	－	－	－	第171図図版67	体部内面回転ナデ。底部内面回転ナデ。脚部全面指オサエ。
1276	不明	－	土器類	須恵器	火舎	－	－	－	第171図図版67	体部内面回転ナデ。底部内面回転ナデ。脚部全面指オサエ。焼成あまく灰白色を呈する。
1277	12年度試掘坑3	－	土器類	須恵器	火舎	－	－	－	第171図図版67	脚部全面指オサエ。焼成あまく灰白色を呈する。
1278	７コ	Ⅲ	土器類	須恵器	円面硯	10.2	－	－	第171図図版68	硯面部内面回転ナデ、部分的に工具による圧痕が認められる。硯面部外面回転ヘラ削り。脚台部内外面回転ナデ。脚台部外面に部分的に縦方向の平行沈線。硯面部外面にヘラ書き(「×」ほか)。硯面部外面に墨付着、また、極めて平滑化している。
1279	６コ	Ⅱ	土器類	須恵器	円面硯	12.8	－	－	第171図図版68	硯面部内外面回転ナデ。脚台部内外面回転ナデ。脚台部に十字形とみられる透かし孔と縦方向の平行沈線。硯面部内面・脚台部外面に自然釉付着。
1280	６シ	Ⅱ	土器類	須恵器	円面硯	－	－	－	第171図図版68	脚台部内外面回転ナデ。外面に縦方向の平行沈線。図の左端と右端は調整が施されており、ともに方形の透かし孔とみられる。
1281	20チ	Ⅰ	土器類	須恵器	円面硯？	－	－	－	第171図図版68	脚台部内外面回転ナデ。外面に縦方向の平行沈線と貫通する２つの小円孔が認められる。硯ではなく、壺や盤などの可能性もある。
1282	９ス	Ⅱ	土器類	須恵器	円面硯？	－	－	－	第171図図版68	脚台部内外面回転ナデ。外面に縦方向の沈線が１条のみ認められる。内外面に自然釉付着。
1283	８コ	Ⅲ	土器類	須恵器	円面硯	－	－	－	第171図図版68	脚台部内外面回転ナデ。図の左端上半と上端は調整が施されており、形状は不明ながら透かし孔を設けているものとみられる。
1284	17タ	KDT	土器類	須恵器	円面硯？	－	－	－	第171図図版68	脚台部内外面回転ナデ。外面に縦方向の平行沈線。内面に自然釉付着。
1285	不明	－	土器類	須恵器	風字硯	－	－	－	第171図図版68	表面ナデ・ヘラ削り。左側面ナデ。裏面ナデ。裏面に脚部？の剥離痕あり。左側面に部分的に自然釉付着。左側面と裏面に部分的に墨付着。須恵器の風字硯と考えたが、胎土から灰釉陶器とみることも可能である。
1286	９ケ	－	土器類	灰釉陶器	碗	15.0	－	－	第172図図版69・78	高台のはがれた碗と思われるが剥離痕が極めてきれいなため、この状態で鉢として使用したものかもしれない。内面は施釉のため調整不明。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部外面回転ヘラ削り。底部外面に墨書「僧□」とヘラ書き「貞」。９シNWと破片接合。

第100表　遺物観察表（48）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1287	10ス	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	碗	13.6	4.2	7.2	第172図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部内外面の大部分と体部内面の一部に墨付着。底部内面には朱墨とみられる赤色の付着物も認められる。転用硯。11スNEと破片接合。
1288	５シ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	17.2	5.3	8.9	第172図図版69	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面摩滅のため調整不明。焼成あまく浅黄色～浅黄橙色を呈する。
1289	８コ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	碗	14.3	4.7	7.5	第172図図版69	内面は施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面ナデ。内面全面と口縁部外面の一部に灰釉。
1290	５ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	15.6	4.7	7.4	第172図図版69	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。体部内面の大部分と口縁部外面の一部に灰釉（あるいは自然釉か）。
1291	14セ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	13.6	3.9	8.0	第172図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。体部内面に自然釉付着。
1292	19タ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	13.4	3.8	7.2	第172図図版69	内面は灰釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部内面ナデ。内面の全面と体部外面上半の一部に灰釉、ただし、自然釉の可能性あり。
1293	８コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	15.3	4.2	9.0	第172図図版69	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
1294	５ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	14.0	4.2	7.1	第172図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
1295	８サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	12.0	3.7	6.1	第172図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面に重ね焼き痕。不明瞭ながら体部外面に部分的に灰釉か。
1296	８サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	15.9	4.9	8.2	第172図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。
1297	８サ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	碗	15.2	3.6	8.5	第172図図版69	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面平滑化。焼成あまく淡黄色を呈する。
1298	19タ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	12.3	4.0	6.2	第172図図版69	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。
1299	５ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	14.0	5.1	7.0	第172図図版69・79	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。体部内面に自然釉付着。底部内面・高台端部に重ね焼き痕。底部外面に墨書「□〔人ヵ〕」とヘラ書き「×」。
1300	５ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	14.5	4.6	7.6	第172図図版70・79	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。底部内面・体部下端外面・高台端部に重ね焼き痕。底部外面に墨書「□」（２文字の可能性あり）。
1301	16ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	12.0	3.5	6.4	第172図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内外面に灰釉。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1302	17ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	12.7	3.7	6.8	第172図図版70	内面は全面自然釉付着のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面ナデ。
1303	14ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	15.0	4.5	7.6	第172図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内面摩滅のため調整不明。底部外面ナデ。15ソNEと破片接合。
1304	６コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	13.0	3.5	7.6	第172図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。
1305	５コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	14.2	4.3	6.8	第172図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
1306	12年度試掘坑7	－	土器類	灰釉陶器	碗	12.3	4.2	6.4	第172図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部内面に重ね焼き痕。底部内面平滑化。体部内外面に灰釉（あるいは自然釉か）。
1307	９シ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	13.6	4.0	6.5	第172図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面に重ね焼き痕。
1308	19チ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	約12.4	3.4	約6.0	第172図図版-	体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
1309	16ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	13.0	4.0	6.8	第172図図版-	体部内外面回転ナデ。
1310	19タ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	12.0	3.8	6.6	第172図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。体部内面と体部外面上半に灰釉、ただし、自然釉の可能性あり。体部外面に別個体の一部とみられるものが融着している。

第101表　遺物観察表（49）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1311	３キ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	13.2	3.2	7.2	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。
1312	19タ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	7.2	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。体部内面に自然釉付着。
1313	７サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	6.2	第173図図版72	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内面に自然釉付着。底部内面平滑化。体部内外面・底部内外面に墨付着。付着範囲は割れ口にまで及んでおり、割れたのちに硯として使用されたとみられる。転用硯。
1314	７コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗？	-	-	7.6	第173図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部外面に墨書「仁」。
1315	８シ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	7.6	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部外面に墨書「□」。
1316	16ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	12.4	4.0	7.5	第173図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1317	19タ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	8.0	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。体部内面に自然釉付着。
1318	15ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	8.1	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ナデ。底部内面平滑化。体部内面に自然釉付着。
1319	５コ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	6.5	第173図図版71	内外面施釉のため調整不明。高台端部を除く内外面全面に灰釉。底部内面に重ね焼きのトチ痕１箇所あり。胎土緻密。
1320	５サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	12.4	4.6	7.2	第173図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。
1321	７ス	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	7.6	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部外面に墨書「□」。
1322	19チ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	7.2	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に自然釉付着。体部外面に墨書「□」。
1323	３キ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	7.6	第173図図版79	底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□〔ふカ〕」。
1324	７コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	7.4	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面に墨書「□」。
1325	11セ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	碗？	-	-	7.6	第173図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内面に灰釉。底部外面に墨書「□」。
1326	17ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	6.9	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。体部内面に灰釉(あるいは自然釉か)。底部外面に墨書「□」。
1327	８コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	7.6	第173図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1328	８サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	6.7	第173図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部外面に墨書「□」（２文字の可能性あり）。
1329	14ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	6.8	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部内面平滑化。体部外面に墨付着（墨書か)。底部外面に墨書「□」。
1330	５ケ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	6.6	第173図図版79	底部内面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「ふ」。
1331	７シ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	7.6	第173図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。体部内面に自然釉付着。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」（記号状)。
1332	不明	―	土器類	灰釉陶器	碗？	-	-	6.0	第173図図版-	内外面摩滅のため調整不明。底部外面に墨書「□」。焼成あまく灰白色を呈する。
1333	14ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	8.2	第173図図版-	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1334	18タ	KDT	土器類	灰釉陶器	碗？	-	-	約6.9	第173図図版72	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部内面に墨付着。転用硯。
1335	10セ	―	土器類	灰釉陶器	碗	-	-	6.0	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面に煤とみられる黒色物が付着。灯明具として使用したものか。

第102表　遺物観察表（50）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1336	６コ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	7.0	第174図図版-	内面は施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内外面と底部内面に灰釉。底部外面にも部分的に灰釉。胎土緻密。底部外面に墨付着。転用硯と判断するが、墨書である可能性もある。
1337	５コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	－	第174図図版-	体部内面回転ナデ。体部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。体部外面に墨書「[　　]」。焼成あまく浅黄色を呈する。
1338	４ケ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	－	第174図図版-	体部内外回転ナデ。体部外面に墨書「□」。５ケSEと破片接合。
1339	９シ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗	－	－	－	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。体部外面に墨書「□」。
1340	19タ	KDT	土器類	灰釉陶器	輪花碗	－	－	－	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。口縁部に輪花。
1341	４ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	碗？	－	－	5.0	第174図図版71	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。体部内外面に灰釉。
1342	16ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	皿	13.5	3.1	7.0	第174図図版70・72	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。体部上半内外面に部分的に灰釉。底部内面平滑化。体部・底部内面と底部外面に墨付着。底部外面には朱墨とみられる赤色の付着物も認められる。転用硯。
1343	７セ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	皿	15.0	3.1	6.8	第174図図版70・79	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。体部外面に墨書「仁」。底部外面に墨書「仁」。体部から底部にかけての内面に墨付着。転用硯。
1344	17ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	皿	16.0	3.0	8.2	第174図図版71	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。体部内面と体部外面上半に灰釉(漬け掛け)。
1345	21チ	KDT	土器類	灰釉陶器	皿	14.8	3.0	7.8	第174図図版-	体部内外面回転ナデ、内面には回転ヘラ削りを部分的に併用する。底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。
1346	19チ	KDT	土器類	灰釉陶器	皿	13.9	3.2	6.8	第174図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。底部内面平滑化。
1347	16ソ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	皿	13.3	3.2	6.3	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。
1348	５サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	皿	13.2	3.3	6.8	第174図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。体部・底部内面平滑化。
1349	６サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	皿	13.9	3.5	7.0	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。体部内面に灰釉(あるいは自然釉か)。
1350	北東耕土搬出区	－	土器類	灰釉陶器	皿	15.3	3.0	8.2	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。
1351	８シ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	皿	13.8	3.1	7.1	第174図図版70	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。
1352	７コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	皿	約14.0	2.0	約8.0	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。体部内面に自然釉付着。
1353	８サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	皿	12.4	3.2	6.0	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。底部内面に重ね焼き痕。底部内面全面と体部外面上半に灰釉。底部外面に墨書「□」。
1354	４コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	皿	－	－	7.4	第174図図版79	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面ナデ。底部外面に墨書「西井」。
1355	不明	－	土器類	灰釉陶器	皿	12.5	2.4	7.0	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。底部外面に墨付着。転用硯。
1356	14ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	皿	－	－	9.0	第174図図版71	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面回転ヘラ削り。体部内外面に灰釉。底部内面に重ね焼き痕。
1357	７サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	皿	－	－	－	第174図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。高台剥離。底部外面に墨書「□〔ふカ〕」。
1358	８コ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	皿	－	－	6.7	第174図図版-	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部内面平滑化。体部外面に墨書「□」。
1359	17ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	皿？	－	－	5.8	第174図図版-	底部内外面回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1360	19チ	KDT	土器類	灰釉陶器	不明	－	－	7.6	第174図図版-	底部内面施釉のため調整不明。底部外面に回転糸切り痕。底部内面に灰釉。底部内面にヘラ書き。底部外面に墨付着。転用硯。
1361	６コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	不明	－	－	6.2	第174図図版-	底部内面回転ナデ。底部内面平滑化。底部外面に墨書「□」。
1362	５ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	不明	－	－	－	第174図図版-	底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。底部外面に墨書「□」(記号状)。

第103表　遺物観察表（51）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1363	６ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	段皿	16.0	－	－	第175図図版71	体部内外面回転ナデ。体部内面に灰釉。５ケSWと破片接合。
1364	７ス	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	段皿	13.0	－	－	第175図図版71	体部内外面回転ナデ。不明瞭だが体部内外面に薄い灰釉。胎土緻密で白っぽい灰白色を呈する。
1365	12年度試掘坑4	－	土器類	灰釉陶器	段皿	約16.5	－	－	第175図図版71	体部内外面回転ナデ。胎土緻密で灰白色を呈する。
1366	北東耕土搬出区	－	土器類	灰釉陶器	段皿	－	－	8.2	第175図図版71	内面は厚い施釉のため調整不明。体部外面回転ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
1367	北東耕土搬出区	－	土器類	灰釉陶器	段皿	－	－	－	第175図図版71	体部内外面回転ナデ。内面全面と体部上半外面に灰釉。
1368	８サ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	段皿？	14.7	－	－	第175図図版71	体部内外面回転ナデ。内外面に灰釉（内面の方が厚い）。あるいは唾壺か。
1369	６コ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	長頸瓶	12.0	－	－	第175図図版-	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内外面に灰釉。
1370	17ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	長頸瓶	9.0	－	－	第175図図版71	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内外面に部分的に灰釉。胎土緻密。
1371	６シ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	長頸瓶	13.4	－	－	第175図図版-	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内外面に灰釉。
1372	17ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	長頸瓶	9.2	－	－	第175図図版71	口頸部内外面回転ナデ。口頸部内面に灰釉、ただし、自然釉の可能性あり。あるいは須恵器か。
1373	７ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	小瓶	2.8	－	－	第175図図版71	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面ナデ・オサエ。
1374	８サ	Ⅲ	土器類	灰釉陶器	小瓶	－	－	7.4	第175図図版-	胴部内外面回転ナデ。胴部外面に灰釉。
1375	５ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	小瓶	－	－	5.6	第175図図版70	胴部内面回転ナデ。下端部を除く胴部外面回転ナデ。胴部下端部外面回転ヘラ削り。底部内面回転ナデ。胴部外面に灰釉。底部外面に回転糸切り痕。
1376	19タ	KDT	土器類	灰釉陶器	小瓶	－	－	6.0	第175図図版71	胴部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。胴部外面に灰釉。底部内面に自然釉付着。20チSWと破片接合。
1377	19チ	Ⅰ	土器類	灰釉陶器	壺	14.9	－	－	第175図図版71	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。内面に自然釉付着。外面に灰釉。
1378	21チ	KDT	土器類	灰釉陶器	壺	11.2	－	－	第175図図版71	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。剥離のため明確ではないが、口頸部内外面と胴部外面に灰釉。
1379	16ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	壺	4.7	5.8	5.0	第175図図版71	口頸部内外面回転ナデ。胴部内外面回転ナデ。底部内面厚い灰釉のため調整不明。底部外面ナデ。底部外面を除くほぼ全面に灰釉。
1380	６サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	－	第175図図版-	胴部内面回転ナデ。胴部外面上半回転ナデ、下半回転ヘラ削り。胴部上半に灰釉。７シSEと破片接合。
1381	21チ	KDT	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	9.6	第175図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。胴部外面に灰釉、ただしこれは自然釉の可能性あり。底部内面に自然釉付着。
1382	14ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	9.0	第175図図版-	胴部内外面回転ナデ。
1383	19チ	Ⅰ	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	15.7	第175図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ・オサエ。胴部外面に灰釉。底部内外面に自然釉付着。
1384	12年度試掘坑17	－	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	12.0	第175図図版-	胴部内面回転ナデ後ナデ。胴部外面回転ヘラ削り。底部内面ナデ。底部外面回転ヘラ削り、中央部にヘラ切り痕を残す。
1385	５ケ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	15.0	第175図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部内外面回転ナデ。胴部内外面・底部内面に灰釉。６ケSEと破片接合。
1386	19チ	KDT	土器類	灰釉陶器	壺	－	－	10.6	第175図図版-	胴部内外面回転ナデ。底部内外面ナデ。胴部外面に灰釉、ただし、自然釉の可能性あり。底部内面に自然釉付着。あるいは須恵器か。
1387	８サ	Ⅱ	土器類	灰釉陶器	陶錘	(6.9)	(3.5)	(3.4)	第175図図版71	外面ナデ・指オサエ。外面に灰釉もしくは自然釉。孔径0.8cm。重さ78.9g。
1388	16ソ	KDT	土器類	灰釉陶器	陶錘	(7.5)	(4.0)	(4.1)	第175図図版71	外面ナデ・工具によるナデ・指オサエ。外面に灰釉もしくは自然釉。孔径0.9cm。重さ104.4g。
1389	12年度試掘坑3	－	土器類	緑釉陶器	不明	－	－	20.0	第176図図版80	盤か高坏の脚部とみられる。脚部内外面回転ナデ。内外面に緑釉。ただし均質ではなく濃淡が認められる。胎土緻密で砂粒の混入なし。硬質。
1390	12年度試掘坑3	－	土器類	緑釉陶器	不明	－	－	－	第176図図版80	碗か皿の口縁部とみられる。ほぼ全面に緑釉。胎土緻密で砂粒の混入なし。軟質。

第104表　遺物観察表（52）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1391	北東耕土搬出区	－	土器類	緑釉陶器	不明	－	－	－	第176図図版80	碗か皿の口縁部とみられる。ほぼ全面に緑釉。胎土緻密で砂粒の混入なし。硬質。
1392	北東耕土搬出区	－	土器類	土師質土器	皿	11.6	2.8	9.2	第176図図版79	体部内面横ナデ後ナデ・オサエ。体部外面横ナデ。底部内外面ナデ・オサエ。胎土緻密で灰白色を呈する。
1393	６ス	Ⅱ	土器類	土師質土器	皿	約18.0	3.4	約8.6	第176図図版81	体部内面回転ナデ。口縁部外面回転ナデ。口縁部を除く体部外面回転ヘラ削り。
1394	６サ	Ⅱ	土器類	土師質土器	皿	8.6	2.1	5.0	第176図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。
1395	７ス	Ⅱ	土器類	土師質土器	皿	12.0	－	－	第176図図版81	体部内外面回転ナデ。ロクロ土師器。
1396	７コ	Ⅱ	土器類	土師質土器	皿	10.0	1.9	6.8	第176図図版81	体部内外面ナデ。底部内外面ナデ。
1397	７ス	Ⅱ	土器類	土師質土器	碗	－	－	7.0	第176図図版81	体部内面回転ナデ。体部外面回転ヘラ削り。底部内面ナデ。底部外面回転ヘラ削り。
1398	12年度試掘坑	－	土器類	輸入磁器	白磁碗？	11.0	－	－	第176図図版80	口縁部を除く体部内外面に白色の白磁釉。
1399	不明	－	土器類	輸入磁器	白磁碗	－	－	－	第176図図版80	体部内外面に灰白色の白磁釉。
1400	10ス	Ⅲ	土器類	輸入磁器	白磁碗	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に灰白色の白磁釉。
1401	12年度試掘坑8	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	14.2	－	－	第176図図版80	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1402	７サ	Ⅱ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版80	体部内外面に青緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1403	不明	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版80	体部内外面に青緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1404	６コ	Ⅱ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1405	９シ	Ⅲ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版80	体部内外面に緑色の青磁釉。体部内面にヘラ描き文。
1406	16ソ	Ⅰ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1407	10シ	Ⅰ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版80	体部内外面に青緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1408	12年度試掘坑	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1409	７サ	Ⅱ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	4.9	第176図図版80	底部外面回転ヘラ削り。体部内外面・底部内面に緑色の青磁釉。底部内面にスタンプ？文。体部外面に鎬蓮弁文。底部外面に部分的に黒色物が付着しているが、墨か否かは定かでない。
1410	６コ	Ⅱ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部内面にヘラ描き？文。
1411	16年度試掘坑	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1412	16ソ	KDT	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に青緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1413	12年度試掘坑	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に青緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1414	６ケ	Ⅲ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1415	不明	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	－	第176図図版80	底部外面ヘラ削り。体部内外面･底部内面に青緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1416	８コ	Ⅱ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	6.0	第176図図版80	底部外面ヘラ削り。底部内面に緑色の青磁釉。
1417	不明	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	5.2	第176図図版80	体部内外面と底部内面に青緑色の青磁釉。底部外面に墨付着。
1418	12年度試掘坑1	－	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	5.1	第176図図版80	底部外面回転ヘラ削り。体部内外面・底部内面に緑色の青磁釉。体部外面に鎬蓮弁文。
1419	７コ	Ⅱ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	6.0	第176図図版80	底部外面回転ヘラ削り。体部内外面と底部内面に緑色の青磁釉。ただし底部内面では輪状に禿げている。
1420	８サ	Ⅱ	土器類	輸入磁器	青磁碗	－	－	5.6	第176図図版80	底部外面ヘラ削り。底部内面に青緑色の青磁釉。
1421	12年度試掘坑18	－	土器類	輸入磁器	青磁碗？	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に青緑色の青磁釉。
1422	12年度試掘坑	－	土器類	輸入磁器	青磁碗？	－	－	－	第176図図版-	体部内外面に青緑色の青磁釉。
1423	７サ	Ⅱ	土器類	輸入磁器	青磁皿	10.4	－	－	第176図図版80	体部内外面・底部内外面に緑色の青磁釉。底部内面に櫛描き？文。
1424	不明	－	土器類	輸入磁器	青磁香炉？	10.8	－	－	第176図図版80	体部内面下半回転ナデ。体部内面上半と外面全面に青緑色の青磁釉。

第105表　遺物観察表（53）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1425	12年度試掘坑	―	土器類	輸入磁器	青磁鉢？	約20.5	－	－	第176図図版80	鉢などの大型器種の口縁部とみられる。体部内外面に緑色の青磁釉。
1426	６ケ	Ⅱ	土器類	山茶碗	碗	12.2	－	－	第176図図版-	体部内外面回転ナデ。あるいは灰釉陶器か。
1427	９シ	Ⅱ	土器類	山茶碗	碗	－	－	8.0	第176図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。高台にモミガラ痕。北部系山茶碗。
1428	９シ	Ⅱ	土器類	山茶碗	碗	－	－	6.3	第176図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。高台にモミガラ痕。北部系山茶碗。８シNW・SEと破片接合。
1429	20テ	KT	土器類	山茶碗	碗	13.0	－	－	第176図図版81	体部内外面回転ナデ。外面には部分的にナデを加える。北部系山茶碗。
1430	11ス	Ⅰ	土器類	山茶碗	碗	12.6	－	－	第176図図版81	体部内外面回転ナデ。北部系山茶碗。
1431	８サ	Ⅱ	土器類	山茶碗	碗	15.0	－	－	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。南部系山茶碗。６コSW・７コ・８コSEと破片接合。
1432	21ツ	KT	土器類	山茶碗	碗	－	－	7.4	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。南部系山茶碗。
1433	６コ	Ⅲ	土器類	山茶碗	碗	16.2	5.0	7.6	第177図図版79	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部外面に墨付着。南部系山茶碗。８サ・８シNW・９シSEと破片接合。
1434	21ツ	Ⅰ	土器類	山茶碗	碗	－	－	9.0	第177図図版81	底部内面回転ナデ後ナデ。底部外面に回転糸切り痕。高台にモミガラ痕。南部系山茶碗。
1435	16ソ	KDT	土器類	山茶碗	小皿	8.0	1.9	4.6	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ・オサエ。底部外面に回転糸切り痕。底部内面平滑化。体部内面と口縁部外面に自然釉付着。南部系山茶碗。
1436	８シ	Ⅲ	土器類	山茶碗	小皿	8.4	1.9	4.6	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面粗いヘラ削り。南部系山茶碗。
1437	11ス	Ⅲ	土器類	山茶碗	小皿	－	－	5.2	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面ナデ・オサエ。底部外面に回転糸切り痕。南部系山茶碗。
1438	10ス	Ⅰ	土器類	山茶碗	小皿	－	－	5.0	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。北部系山茶碗。
1439	７サ	Ⅱ	土器類	山茶碗	鉢	38.0	－	－	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。７コSWと破片接合。
1440	８コ	Ⅱ	土器類	山茶碗	鉢	34.6	－	－	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。体部内面に黒色炭化物付着。
1441	７シ	Ⅱ	土器類	山茶碗	鉢	30.0	－	－	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。
1442	15セ	Ⅱ	土器類	山茶碗	鉢	約30.0	－	－	第177図図版81	体部内外面回転ナデ。
1443	10シ	KDT	土器類	珠洲焼	鉢	35.8	－	－	第177図図版80	体部内外面回転ナデ。体部内面平滑化。
1444	不明	―	土器類	珠洲焼	鉢	28.0	－	－	第177図図版80	体部内外面回転ナデ。
1445	15ソ	KDT	土器類	珠洲焼	鉢	約28.0	－	－	第177図図版80	体部内外面回転ナデ。
1446	７サ	Ⅱ	土器類	珠洲焼	鉢	－	－	－	第177図図版80	体部内外面回転ナデ。
1447	15ソ	KDT	土器類	珠洲焼	鉢	－	－	－	第177図図版80	体部外面回転ナデ。体部内面に擂目。
1448	14セ	KDT	土器類	珠洲焼	鉢	－	－	－	第177図図版80	体部内外面回転ナデ。体部内面に擂目(単位９本)。
1449	13セ	KDT	土器類	珠洲焼	鉢	－	－	10.6	第178図図版80	体部内外面回転ナデ。底部外面ヘラ削り。体部内面・底部内面に擂目(単位９本)。
1450	12年度試掘坑10	―	土器類	珠洲焼	鉢	－	－	14.6	第178図図版80	体部内外面回転ナデ。体部内面・底部内面に擂目。底部外面に平行線状の圧痕。
1451	７シ	Ⅱ	土器類	珠洲焼	鉢	－	－	14.0	第178図図版80	体部内面極めて摩滅。体部外面回転ナデ。体部内面に擂目。
1452	６コ	Ⅱ	土器類	珠洲焼	鉢	－	－	10.6	第178図図版80	体部内外面回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕。体部内面平滑化。
1453	不明	―	土器類	常滑焼	甕	約35.9	－	－	第178図図版81	口頸部内外面回転ナデ。
1454	９シ	Ⅱ	土器類	古瀬戸系施釉陶器	水注	－	－	－	第178図図版81	胴部内面ナデ・オサエ。胴部外面は施釉のため調整不明。胴部外面に白っぽい緑色の灰釉。古瀬戸前期。
1455	６サ	Ⅱ	土器類	古瀬戸系施釉陶器	柄付片口	15.0	－	－	第178図図版81	体部内外面回転ナデ。体部内面上半と外面に緑色の灰釉。柄と片口は確認できないが、器形から柄付片口の可能性が高い。古瀬戸後期。
1456	４カ	Ⅲ	土器類	古瀬戸系施釉陶器	折縁深皿	約24.4	－	－	第178図図版81	体部内外面回転ナデ。体部内外面に白色の灰釉。卸目付大皿の可能性もある。

第106表　遺物観察表（54）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1457	16タ	―	土器類	古瀬戸系施釉陶器	折縁深皿	約24.0	－	－	第178図図版81	体部内外面回転ナデ。体部内外面に灰オリーブ色の灰釉。卸目付大皿の可能性もある。
1458	６サ	Ⅱ	土器類	古瀬戸系施釉陶器	卸目付大皿	－	－	8.6	第178図図版81	体部外面回転ナデ。底部内面に卸目。底部外面に回転糸切り痕。体部外面・底部内面に緑色の灰釉。古瀬戸後期。
1459	７ス	Ⅱ	土器類	古瀬戸系施釉陶器	鉢？	－	－	9.0	第178図図版81	底部内面に緑色の灰釉。底部外面に粗い卸目、中央部に回転糸切り痕。
1460	７シ	Ⅱ	土器類	近世陶磁器	鉄絵皿	10.8	2.7	6.6	第178図図版81	内外面厚い施釉のため調整不明。底部内面に鉄絵。底部外面に重ね焼き痕。内外面のほぼ全面に白色釉。瀬戸・美濃系の17世紀の製品。
1461	９シ	―	土器類	近世陶磁器	擂鉢	－	－	12.0	第178図図版81	体部から底部にかけての内面に擂目。底部外面を除く残存部全面に褐色の鉄釉。底部外面にわずかに回転糸切り痕を残す。瀬戸・美濃系の擂鉢。
1462	13タ	YT	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ａ類	(55.2)	(1.7)	(10.7)	第179図図版83	右側の笠状突起と刃部下端の一部を欠くものの、ほぼ全形を窺うことができる。ただし加工痕等はほとんど残っておらず、特に裏面は腐食が著しい。刃部の周縁部を特に薄く作っている。柾目。クヌギ節。
1463	17ソ	KT	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ａ類	(残存38.3)	(1.7)	(残存8.4)	第179図図版83	上端と右側の笠状突起を欠く。刃部下端は左半の方がより擦り減っているが、これは使用者の癖により生じた使用痕とみられる。表面・裏面に刃物によるとみられる傷が認められるが、後世のものである可能性もある。しかし、裏面は窪ませるために抉っているとみられる。柾目。クヌギ節。
1464	14チ	YT	木器類	器具	鍬曲柄鍬	(残存40.6)	(1.1)	(10.8)	第179図図版84	軸部を欠くものの、刃部の形状からナスビ形鍬Ａ類とみられる。刃部下端の表面右半が窪んで薄くなっているが、鍬としての使用痕の可能性がある。柾目。クヌギ節。
1465	19ツ	Ⅰ	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｂ類	(55.0)	(1.7)	(9.8)	第179図図版82	ほぼ全形を窺うことはできるものの、裏面は腐食が著しく、表面も左半は状態が良くない。軸部に対して刃部がやや左に彎曲している。刃部下端は右半の方がより擦り減っているが、これは使用者の癖により生じた使用痕とみられる。柾目。クヌギ節。
1466	16タ	KT	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｂ類	(61.2)	(2.0)	(11.0)	第179図図版83	ほぼ全形を窺うことができるが、裏面全面と表面右半は腐食が進んでいる。表面と左右側面には加工痕が認められる。柾目。クヌギ節。
1467	15チ	―	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｂ類	(45.7)	(1.7)	(残存7.1)	第179図図版83	左端を欠く。上端も欠けている可能性がある。下端をやや薄くするほかは、全体に厚手の作りである。小型であるが軸部は太い。表面・裏面には加工痕はほとんど認められない。柾目。クヌギ節。
1468	17ソ	KT	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｃ類	(60.1)	(1.7)	(8.5)	第180図図版82	完形品であり、当遺跡では最も残存状態の良い鍬の身である。表面・裏面に加工痕が比較的よく残っている。全体に分厚く、刃部周縁部でもほとんど厚みを減じていない。ただ、下端のみは摩滅して丸みを帯び、やや薄くなっている。軸部の表面・裏面に、それぞれ一対の浅い窪みが認められるが、それらは装着痕の可能性がある。柾目。クヌギ節。
1469	19ツ	Ⅰ	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｃ類	(64.7)	(1.6)	(8.7)	第180図図版83	ほぼ全形を窺うことができるが、左半は腐食が進んでおり、残存状態が良くない。軸部中央の表裏両面と左側面に浅い窪みが認められるが、これは柄との結合痕跡の可能性がある。刃部は、周縁部を薄く作っている。柾目。クヌギ節。
1470	16チ	KT	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｃ類	(73.9)	(1.5)	(10.6)	第180図図版83	左端を1/3ほど欠き、左半の残存状態が良くないが、ほぼ全形を窺うことができる。表面・裏面に、工具による幅広の加工痕が認められる。刃部は周縁部を薄く作っており、下端は特に薄くなっている。軸部表面に、柄との結合のためとみられる幅広の溝が認められる。柾目。クヌギ節。
1471	20テ	KT	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｃ類	(残存67.9)	(1.4)	(7.3)	第180図図版83	上端・下端を欠く。全体に残存状態は良好ではない。軸部・刃部境の左側縁に笠状突起の痕跡が残ることからナスビ形鍬と考えた。刃部の中心軸が軸部に対して大きく左にずれていることから、刃部の本来の右側縁が失われた後、再加工してこのような形状となったと推測する。軸部の残存部分上端の表面に段差を設けているが、これは柄との結合のための加工であろう。柾目。クヌギ節。
1472	17チ	KT	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｄ類	(残存48.4)	(1.8)	(残存10.1)	第180図図版84	四又鍬。刃部右半の大半を欠くものの歯は４本と推定できる。軸部の上端付近の表面を抉り、溝を設けている。これは柄との結合のための加工であろう。柾目。アサダ。
1473	21テ	Ⅰ	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｄ類	(残存42.2)	(1.8)	(残存13.1)	第180図図版84	四又鍬。下端を欠く。表面は腐食が著しい。上端は表面に対して斜めに切り落とされている。裏面と左右側面は比較的平滑である。特に裏面はほぼ平らである。軸部の表面に１箇所、裏面に２箇所、圧痕とみられる窪みが認められる。上端と笠状突起先端と刃部側面が一直線上にあることから、二等辺三角形状の板から削り出して作ったと推測できる。柾目。クヌギ節。
1474	14タ	YT	木器類	器具	鍬曲柄鍬ナスビ形鍬Ｄ類	(残存28.4)	(1.4)	(残存4.2)	第181図図版84	上端・下端・右端を欠く。笠状突起と歯１本が認められ、又鍬の身の左端部分とみられる。本来の歯の本数は不明であるが、３～４本の可能性がある。柾目。クヌギ節。

第107表　遺物観察表（55）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1475	20テ	KT	木器類	器具	鍬	(残存29.7)	(1.3)	(2.9)	第181図図版85	上端を欠く。下半では幅を減じているが、厚みはやや薄くなる程度にとどまっている。下端は摩滅している。又鍬の歯とみられ、細身であることから四又鍬ないし三又鍬である可能性が高い。1476と同地点で出土。柾目。アサダ。
1476	20テ	KT	木器類	器具	鍬	(残存31.0)	(1.0)	(3.8)	第181図図版-	上端・下端を欠く。三又ないし四又鍬の刃部である可能性が高い。彎曲の具合から外側に位置する歯であろう。1475と同地点で出土。柾目。アサダ。
1477	21テ	KT	木器類	器具	鍬	(残存13.8)	(1.2)	(残存2.8)	第181図図版-	上端・下端を欠く。又鍬、それも三又ないし四又鍬の歯である可能性が高い。柾目。
1478	21ツ	KT	木器類	器具	鍬 曲柄鍬 ナスビ形鍬Ｄ類	(残存25.7)	(1.4)	(残存5.2)	第181図図版84	左半と下半を欠くとみられるが、残存部分の形状から又鍬の身と推定する。笠状突起は残存しないものの、軸部・刃部境に痕跡が認められる。軸部の表面に溝を設けているが、これは柄との結合のための加工であろう。歯の本数は最大でも３本にとどまると推定する。柾目。クヌギ節。
1479	12ソ	YT	木器類	器具	鍬 曲柄鍬 ナスビ形鍬Ｅ類	(62.5)	(1.8)	(14.0)	第181図図版85	ほぼ全形を窺うことはできるものの、腐食が進んでおり、残存状態が良いとは言えない。軸部の残存部分上端の表面に段差を設けているが、これは柄との結合のための加工であろう。刃部の中央に紡錘形の透かし孔を穿っている。下端は幅を減じて周縁部を薄く作っており、Ｕ字形刃先を装着しての使用が想定される。追柾目。クヌギ節。
1480	14チ	YT	木器類	器具	鍬 曲柄鍬 ナスビ形鍬Ｆ類	(残存38.2)	(1.6)	(18.0)	第181図図版85	他の鍬に比べ、非常に幅広である。上端を欠き、裏面は腐食が進んでいるものの、表面と左右側面は残存状態良好である。表面と左右側面には加工痕が残っている。小さな笠状突起が左右側面に認められる。軸部下端の裏面に刃物によるとみられる抉りが認められるものの、形状が整っていないことから、後世の破損の可能性もある。刃部下半は周縁部を薄く作っており、Ｕ字形刃先を装着しての使用が想定される。柾目。コナラ節。
1481	15タ	YT	木器類	器具	鍬 曲柄鍬	(残存17.6)	(2.0)	(残存4.2)	第181図図版85	下端を欠く小破片であるが、曲柄鍬の身の軸部であろう。表面から両側面にかけては丸みを帯びるが、裏面は平らである。柾目。クヌギ節。
1482	17チ	KT	木器類	器具	鍬	(残存18.4)	(1.4)	(残存5.4)	第181図図版-	細かくくだけており、全体形状の把握は困難であるが、鍬の刃部の下端部分と推定する。柾目。クヌギ節。
1483	14タ	YH	木器類	器具	鍬 直柄鍬 平鍬	(残存30.6)	(1.4)	(残存8.4)	第181図図版85	上端・下端を欠くものの、欠失部分はあまり広範囲ではない可能性が高い。平面形は下端が狭く、上端が広い台形とみられる。上半に径３cmを測る円孔がある。大きさと形状から平鍬の狭鍬の身の部分と推定される。円孔の貫通角から、柄は身に対して直角ではなく、鋭角または鈍角に差し込まれたこととなるが、いずれとも判別できない。柾目。クヌギ節。
1484	15タ	YT	木器類	器具	鍬 曲柄鍬 曲柄	(残存71.6)	(2.8)	(3.7)	第181図図版85	上端を欠くものの、当遺跡では最も状態が良く、かつ鍬に装着したとみて問題のない唯一の柄である。身との装着側は彎曲する。丁寧に整形されており、断面は楕円形である。下端には柄頭を削り出している。反柄であろう。芯去。アサダ。
1485	21テ	KT	木器類	器具	泥除け	(29.0)	(0.7)	(24.6)	第181図図版86	全体に残存状態は良好であるが、上端は欠失している可能性がある。全面に丁寧な加工が施されているが、加工の単位は見えない。上端に４箇所、中央右端に２箇所（一対）、紐結合のための孔が認められる。それらのうち上端右端と中央右端では樹皮紐が残存する。上端付近中央に柄を差し込むための楕円孔を備える。下端付近中央には長方形孔が認められる。柾目。アカガシ亜属。
1486	７シ	Ⅱ	木器類	器具	えぶり	(35.7)	(3.9)	(16.2)	第182図図版87	ほぼ完形品である。中央に長方形の貫通孔があり、ここに柄をほぼ垂直に差し込んだとみられる。５本の歯はいずれも摩滅している。厚手の容器底板からの二次加工品か。６シSWと破片接合。追柾目。ヒノキ。
1487	５ケ	Ⅲ	木器類	器具	田下駄	(残存28.6)	(2.3)	(残存9.0)	第182図図版87	右半を欠く。楕円形の貫通孔が２箇所認められる。左端に切り欠きが２箇所認められる。分厚く丈夫な作りであり、元は容器の底板であったものを二次加工により田下駄としたものとみられる。板目。ヒノキ。
1488	５シ	Ⅱ	木器類	器具	挽物容器 漆器皿	10.0	1.4	6.6	第182図図版88	高台を持つ小型の皿である。全面に黒色漆が塗られている。体部外面には赤色漆で文様が描かれている。口縁部内面にもわずかながら赤色の付着物が認められる。横木取り。ケヤキ。
1489	６ケ	Ⅱ	木器類	器具	挽物容器 漆器椀？	－	－	－	第182図図版88	本来の形状は不明であるが、椀の破片とみられるものを含む破片５点と共に出土した。表面・裏面に黒色漆が塗られている。表面には赤色漆で文様が描かれている。横木取り。ケヤキ。
1490	北東耕土搬出区	―	木器類	器具	挽物容器 漆器椀	14.6	－	7.2	第182図図版88	高台をもつ椀である。全面に黒色漆が塗られている。体部外面と底部内面に赤色漆で文様が描かれている。横木取り。ケヤキ。
1491	10ス	Ⅲ	木器類	器具	挽物容器 漆器皿	12.2	－	－	第182図図版88	高台と口縁の大部分を欠くが、皿である。内面の体部・底部境に明瞭に段差を設けている。全面に黒色漆が塗られているが、外面は剥落している部分が多い。横木取り。ブナ属。

第108表　遺物観察表（56）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1492	５ケ	Ⅱ	木器類	器具	挽物容器 漆器皿	約13.0	－	約10.2	第182図 図版88	全面に黒色漆が塗られている。底部内面に赤色漆で文様が描かれている。底部外面にもわずかながら赤色の付着物が認められる。横木取り。ケヤキ。
1493	５サ	Ⅱ	木器類	器具	挽物容器 漆器皿	－	－	6.2	第182図 図版88	高台を持つ小型の皿である。全面に黒色漆が塗られている。体部外面には赤色漆で文様が描かれている。横木取り。ケヤキ。
1494	６シ	Ⅲ	木器類	器具	組物容器	(14.7)	(1.0)	(残存12.0)	第182図 図版95	下端を欠く。上端面と両側面は表面から斜めに削り、丁寧に仕上げている。表面・裏面の仕上げも丁寧である。1496・1497のような側板と組み合う底板ないしは蓋板とみられる。柾目。アスナロ属。
1495	４コ	Ⅲ	木器類	器具	組物容器	(30.6)	(0.9)	(8.1)	第183図 図版95	上端・下端の多くを欠く。裏面も半分以上欠失している。左端にＵ字状の切り欠き加工を施している。左端・右端とも端部を薄く削り、段差を設けている。左端には一対の貫通孔が認められ、樹皮を通している。追柾目。ヒノキ。
1496	５コ	Ⅱ	木器類	器具	組物容器	(10.2)	(0.6)	(3.1)	第183図 図版95	ほぼ完形品である。断面は長方形である。左側面に木釘がささっている。右側面にも木釘がささっているが、折れている。小型の箱状製品の側板とみられる。1497に類似する。柾目。アスナロ属。
1497	５コ	Ⅱ	木器類	器具	組物容器	(10.7)	(0.8)	(2.5)	第183図 図版95	ほぼ完形品である。断面は長方形である。左側面に木釘がささっている。右側面にも木釘がささっているが、折れている。小型の箱状製品の側板とみられる。1496に類似する。柾目。アスナロ属。
1498	20テ	KT	木器類	器具	曲物容器 楕円形曲物容器	(残存40.3)	(1.2)	(残存11.3)	第183図 図版89	本来の形状は楕円形であった可能性が高い。周縁部に段差を設けており、左端に樹皮紐を通した孔の痕跡が１箇所認められる。裏面には細かな刃物痕が多数認められる。柾目。アスナロ属。
1499	20ツ	KT	木器類	器具	曲物容器 楕円形曲物容器	(63.0)	(1.8)	(残存21.0)	第184図 図版89	楕円形の底板である。残存部分は全体の1/2強と思われる。周縁部に段差を設けており、側板を結合するための一対の孔が５箇所認められ、いずれも樹皮紐が残存している。樹皮紐の巻きつけは２～３重である。年輪年代測定により、伐採年代５７６年＋α（１～２年）との結果を得た。追柾目。ヒノキ。
1500	８サ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ａ類	(11.9)	(0.7)	(残存9.7)	第185図 図版-	左半部に貫通する小円孔が３箇所認められる。底板全体の2/3以上残存しているとみられるが、側板との結合のための加工は見当たらない。７コSWと破片接合。柾目。ヒノキ。
1501	７シ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ａ類	(残存12.8)	(0.8)	(残存5.8)	第185図 図版-	全体の1/2近く残存しているとみられるが、側板との結合のための加工は見当たらない。表面に炭化部分が４箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1502	９サ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ａ類	(11.6)	(0.9)	(残存7.3)	第185図 図版91	全体の1/2以上残存しているとみられるが、側板との結合のための加工は見当たらない。側面に細かな加工痕が認められる。表面にぶんまわし（コンパス）による円形加工のための目安が残っている。柾目。アスナロ属。
1503	７コ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ａ類	(残存14.2)	(0.7)	(残存5.7)	第185図 図版91	全体の1/2近く残存しているとみられるが、側板との結合のための加工は見当たらない。貫通する小円孔が３箇所認められるが、側板との結合のためのものとは考え難い。柾目。スギ。
1504	５コ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ａ類	(残存12.5)	(0.4)	(残存3.9)	第185図 図版91	全体の1/3以上残存しているとみられるが、側板との結合のための加工は見当たらない。表面は周縁部を斜めに削って中央部よりも薄く仕上げている。裏面に黒色の炭化物が付着している。柾目。アスナロ属。
1505	７サ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ａ類ないしＢ類	(16.1)	(0.8)	(残存8.7)	第185図 図版92	表面の周縁部と側面に黒漆とみられる黒色の厚い付着物が認められる。また、中央には炭化部分が１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1506	７コ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ｂ類	(残存19.5)	(0.6)	(残存6.8)	第185図 図版-	右半と左端の大部分を欠くが、本来の平面形は円形とみられる。裏面に刃物痕が認められる。上端付近に木釘の打ち込みによるものの可能性のある傷が１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1507	北東耕土 搬出区	－	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ｂ類	10.1	5.5	9.1	第185図 図版90	側板は薄板を円筒形に曲げて作っており、大部分は２重、綴じ合わせ部分では３重に重ねている。側板は２箇所で樹皮紐で綴じ合わせており、残存状態の良い方の上から２段目内面では、紐をねじっている。側板内面のケビキは、上下縁に対して直交方向に施しているが、ごく部分的にしか認められない。底板は円形で、側板との結合は側板の上から打ち込まれた木釘によるもので、４箇所認められる。いずれも木釘が残っている。1490と共に出土。1558も付近で出土。底板は追柾目、ヒノキ。側板は柾目、ヒノキ。
1508	８サ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ｂ類	(9.9)	(0.6)	(9.4)	第185図 図版92	平面形は円形であるが、上端と下端は直線的である。下端の表面と裏面に浅い窪みが認められる。裏面に刃物痕が認められる。側面に木釘孔とみられる小円孔が１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1509	17ソ	KDT	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 Ｂ類	(残存9.9)	(0.8)	(残存7.8)	第185図 図版-	裏面に刃物痕が認められる。側面に１箇所、木釘の打ち込みによるものの可能性のある傷が認められる。柾目。ヒノキ。

第109表　遺物観察表（57）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1510	15タ	YT	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 B類	(残存15.1)	(1.0)	(残存5.3)	第185図 図版92	残存部部分は全体の1/2未満とみられるが、側面に小孔が４箇所認められ、そのうち２箇所には木釘がささったまま残っている。柾目。ヒノキ。
1511	６サ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 B類	(残存8.8)	(0.6)	(残存8.0)	第185図 図版-	側面に木釘孔とみられる小円孔が２箇所認められ、うち下端付近の孔では木釘が残っている。追柾目。ヒノキ。
1512	11ソ	YT	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 B類	(残存11.5)	(0.8)	(残存5.2)	第186図 図版93	側面に１箇所、小円孔に木釘がささったまま残っている。裏面に刃物痕が認められる。板目。アスナロ属。
1513	９シ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 C類	(残存11.7)	(1.1)	(残存5.3)	第186図 図版93	周縁部付近に貫通する小円孔が２箇所認められる。側面に加工痕が認められる。柾目。アスナロ属。
1514	12年度試掘坑3	―	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 D類	(7.6)	(0.6)	(7.2)	第186図 図版93	貫通する小円孔が３対認められ、そのうち１つには樹皮紐がはさまっている。表面には、孔の間を通るように円形の接合痕が残る。1514･1574･1713は一括出土。柾目。ヒノキ。
1515	５コ	Ⅲ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 E類	(17.4)	(0.9)	(残存10.4)	第186図 図版92	本来の平面形は円形とみられるが、あまり整ってはいない。表面には周縁部に段差を設けており、段差をまたいで貫通する樹皮紐が２本認められる。表面・裏面に刃物痕が認められ、裏面は特に著しい。裏面に楕円形を呈する炭化部が１箇所認められる。裏面にぶんまわし（コンパス）による円形加工のための目安が残っている。柾目。ヒノキ。
1516	６サ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 E類	(残存15.8)	(1.0)	(残存7.5)	第186図 図版92	表面には周縁部に段差を設けている。上端付近に段をまたいで貫通する樹皮紐が１本残る。下端付近にも１箇所、紐が抜けたとみられる痕跡が認められる。裏面には刃物痕が多数認められる。柾目。アスナロ属。
1517	６サ	Ⅲ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 E類	(残存19.2)	(0.9)	(残存10.3)	第186図 図版93	残存部分は全体の1/2程度とみられ、本来の平面形は中央に円孔を持つ円形と推定できる。円孔周辺が炭化している。表面には周縁部に段差を設けており、段をまたいで貫通する樹皮紐が１本認められる。表面・裏面に細かな刃物痕が認められる。柾目。ヒノキ。
1518	20テ	KT	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器 E類	(残存25.5)	(1.2)	(残存11.2)	第186図 図版94	残存部分は全体の1/2未満とみられ、本来の平面形は中央に円孔を持つ円形と推定される。円孔周辺が炭化している。表面には周縁部に段差を設けており、段をまたいで貫通する樹皮紐が１本認められる。追柾目。ヒノキ。
1519	７コ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(8.2)	(0.7)	(残存4.9)	第186図 図版93	左端と右半を欠く。裏面に刃物痕が認められる。板目。アスナロ属。
1520	７シ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存12.0)	(0.8)	(残存3.1)	第186図 図版-	残存部分はごく一部であるが、本来の平面形は円形とみられる。表面に炭化部分が点在する。柾目。ヒノキ。
1521	８ス	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(18.8)	(0.9)	(残存10.6)	第187図 図版93	上端にＶ字状の切り欠き加工が認められる。裏面に刃物痕が認められる。柾目。スギ。
1522	７セ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存10.8)	(0.6)	(残存3.5)	第187図 図版-	全体に腐食が進んでおり、ゆがみが著しい。周縁部に段差を設けている。柾目。ヒノキ。
1523	７コ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存16.4)	(0.7)	(残存3.8)	第187図 図版-	本来の平面形は円形とみられるが、やや楕円形気味であった可能性もある。残存部部分の全面にわたり細かな加工痕が多数認められ、平滑である。追柾目。ヒノキ。
1524	６ケ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存8.5)	(0.4)	(残存4.0)	第187図 図版-	残存部分はごく一部であるが、本来の平面形は円形とみられる。表面に残る筋状の傷跡は、刃物痕と断定できるほど明確なものではない。柾目。ヒノキ。
1525	７サ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存13.3)	(0.9)	(残存4.7)	第187図 図版-	左端と右半を欠くが、本来の平面形は円形であったとみられる。ただし、二次加工を受けている可能性がある。板目。ヒノキ。
1526	９サ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存9.2)	(0.6)	(残存3.2)	第187図 図版94	表面・裏面・側面に黒色の付着物(黒漆か)が認められる。ただし、裏面と側面では剥落気味である。柾目。ヒノキ。
1527	７コ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存9.0)	(0.6)	(残存4.5)	第187図 図版-	本来の形状は円形とみられるが、あるいは杓子の下端部分かもしれない。柾目。ヒノキ。
1528	16タ	KT	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存18.9)	(1.0)	(残存7.2)	第187図 図版94	本来の平面形は楕円形であった可能性もある。周縁部に段差を設けている。追柾目。ヒノキ。
1529	６コ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存24.9)	(1.1)	(残存7.5)	第187図 図版-	平面形は楕円形となる可能性もある。裏面は腐食が著しい。左端付近に貫通孔が１箇所認められる。表面下半に刃物痕が認められる。板目。ヒノキ。
1530	８シ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存26.5)	(1.0)	(残存5.3)	第187図 図版-	残存部分が一部にとどまるため、本来の平面形は楕円形であった可能性もある。板目。ヒノキ。
1531	８シ	Ⅲ	木器類	器具	曲物容器 円形曲物容器	(残存27.7)	(1.5)	(残存10.3)	第187図 図版-	全体に腐食が進んでいる。本来の平面形は円形とみられるが、やや楕円形気味であった可能性もある。右下隅に切り込みのようなものが認められるが、人為的な加工か否かは定かではない。板目。ヒノキ。

第110表　遺物観察表（58）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1532	９シ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 曲物側板	(残存5.2)	(0.5)	(残存2.2)	第187図 図版94	残存部分は全体のごく一部とみられ、全形の復元は困難である。上下縁に対して直交方向にケビキを施している。1533と共に出土した。板目。ヒノキ。
1533	９シ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 曲物側板	(残存6.7)	(0.5)	(残存3.4)	第187図 図版94	残存部分は全体のごく一部とみられ、全形の復元は困難である。上下縁に対して直交方向にケビキを施している。1532と共に出土した。板目。ヒノキ。
1534	９シ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 曲物側板	(残存5.3)	(0.5)	(3.5)	第187図 図版94	残存部分は全体のごく一部と見られ、全形の復元は困難である。上下縁に対して直交方向にケビキを施している。1535と共に出土した。板目。ヒノキ。
1535	９シ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 曲物側板	(残存4.5)	(0.5)	(2.5)	第187図 図版94	残存部分は全体のごく一部とみられ、全形の復元は困難である。上下縁に対して直交方向にケビキを施している。1534と共に出土した。板目。ヒノキ。
1536	６サ	Ⅱ	木器類	器具	曲物容器 曲物側板	(残存11.5)	(0.3)	(残存2.1)	第187図 図版-	残存部分は全体のごく一部とみられる。上下縁に対して直交方向にケビキを施している。貫通する樹皮紐が残存するが、中途で切れている。柾目。ヒノキ。
1537	８シ	Ⅱ	木器類	器具	柄杓 柄	(45.0)	(1.2)	(1.2)	第188図 図版95	折れてはいるが、ほぼ全形を窺うことができる。比較的丁寧な加工を施している。断面は八角形である。木釘孔とみられる小孔が認められ、柄杓の柄である可能性が高い。芯去。ヒノキ。
1538	８サ	Ⅱ	木器類	器具	桶	(残存19.5)	(1.4)	(8.9)	第188図 図版-	大きさと形状から、結桶の側板とみられる。下端の一部を欠く。表面に２箇所、裏面に１箇所、帯状の圧痕が認められる。表面の一部が炭化している。裏面に斜め方向の加工痕が認められる。柾目。サワラ。
1539	16ソ	KTⅡ	木器類	器具	斎串	(残存13.8)	(0.7)	(2.2)	第188図 図版95	下端を欠く。上端は左右両側から斜めに切り落とし、尖らせている。柾目。サワラ。
1540	16ソ	KTⅡ	木器類	器具	形代 馬形	(残存8.3)	(0.4)	(2.2)	第188図 図版96	右半を欠く。左端は頭部を表現したものと推定した。表面・裏面に目を表現したとみられる貫通しない小孔が認められる。1541と同一個体の可能性がある。柾目。アスナロ属。
1541	16ソ	KTⅡ	木器類	器具	形代 馬形	(残存6.6)	(0.5)	(1.6)	第188図 図版-	左半と右端を欠く。表面・裏面に貫通しない切り込みが２箇所ずつ認められる。上端は背の鞍を表現しているとみられる。1540と同一個体の可能性がある。柾目。ヒノキ。
1542	16ソ	KT	木器類	器具	形代 馬形	(残存11.3)	(0.6)	(2.2)	第188図 図版96	右端（尾部）を欠く。頭部・胴部・尾部の境は切り欠きにより識別できる。背を表現した上端面には中央に平場を設けており、これはあるいは鞍の表現かもしれない。柾目。ヒノキ。
1543	17ソ	KDT	木器類	器具	形代 馬形	(残存8.1)	(0.6)	(2.6)	第188図 図版-	左端（頭部）を欠く。上端が背の鞍を表現しているとみられる。貫通しない切り込みが表面に２箇所、裏面に１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1544	６コ	Ⅲ	木器類	器具	形代 馬形	(残存16.1)	(0.7)	(2.6)	第188図 図版96	上下・左右・表裏を判別するのが難しいが、背の鞍にふさわしい表現の認められる方を上として図示した。また表面・裏面に２箇所ずつある切り込み（表面では木片がはさまっている）を脚の差し込み孔と捉えた場合にも、この上下がふさわしい。ただし、欠失部分を尾部ではなく頭部と捉え、左右を逆と考えることも可能である。なお、頭部表現が690と同様となるように配置するなら、図示したものとは上下逆となる。柾目。ヒノキ。
1545	12年度 試掘坑18	―	木器類	器具	形代 馬形	(残存9.8)	(0.8)	(3.1)	第188図 図版96	右端（尾部）を欠く。上端は中央を大きく弧状に削り背を表現しているとみられるが、鞍らしい表現は認められない。頭部に目を表現したとみられる貫通孔が認められる。柾目。サワラ。
1546	16タ	KT	木器類	器具	形代 馬形	(残存8.7)	(0.2)	(1.7)	第188図 図版96	右端を欠く。左端を頭部・尾部のいずれとみるか判断が難しい。背や脚の表現は明確には認められないが、表面・裏面の中央にみられる破損は脚を差し込む切り込みに伴うものである可能性がある。柾目。ヒノキ。
1547	16ソ	KDT	木器類	器具	形代 馬形	(残存14.0)	(0.7)	(2.2)	第188図 図版96	両端を欠くが、上端の形状から馬形と推定した。あまり明瞭ではないものの、表面・裏面に貫通しない切り込みが２箇所ずつ認められる。これは脚を差し込むためのものである可能性がある。上端は、やや不明確ながら背の鞍を表現しているとみられる。柾目。アスナロ属。
1548	６シ	Ⅱ	木器類	器具	形代 馬形	(残存10.0)	(0.7)	(2.2)	第188図 図版96	左端（頭部）を欠く。上端に鞍の表現が明瞭に認められる。表面・裏面の下端付近に脚を差し込んだとみられる切り込みが１箇所ずつ認められる。柾目。ヒノキ。
1549	17ソ	KDT	木器類	器具	形代 馬形	(残存9.7)	(0.6)	(3.3)	第188図 図版96	残存部分は全体の1/2程度にとどまるとみられ、本来の形状の推定は困難である。背の表現とみられる突起のある方を上としたが、定かではなく、上下逆となる可能性もある。頭部に目を表現したとみられる貫通孔が認められる。柾目。ヒノキ。
1550	17ソ	Ⅰ	木器類	器具	形代 馬形	(15.7)	(0.7)	(4.0)	第188図 図版96	左端は本来の形状をとどめていない可能性が高い。右端を頭部・尾部のいずれとみるか、判断が難しい。上端は背の鞍を表現しているとみられる。板目。ヒノキ。

第111表　遺物観察表（59）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1551	17タ	KT	木器類	器具	形代馬形	(残存10.7)	(0.9)	(3.0)	第188図図版96	右端（尾部）を欠く。上端は中央を大きく弧状に削り背を表現しているが鞍らしい表現は認められない。柾目。ヒノキ。
1552	６ケ	－	木器類	器具	形代馬形	(残存8.4)	(0.6)	(3.1)	第188図図版-	左端を欠く。下端面には丁寧な切り欠き加工を施している。上端面も平滑である。表面・裏面に切り込みが１箇所ずつ認められる。上下逆となる可能性もある。柾目。スギ。
1553	７ス	Ⅲ	木器類	器具	椅子	(残存39.4)	(3.0)	(17.3)	第189図図版97	右端を欠く。左端は半円形を呈する。両側面（図の上端面と下端面）に一対の切り欠き加工が認められる。裏面左端付近に方形孔が５つ並ぶが、うち１つは貫通している。裏面にはほかにも刃物による傷が多くみられる。表面右端付近に貫通しない深い抉りが２箇所認められる。大きさと形状、それに脚を差し込むための孔を設けていることから、脚差し込み式椅子の腰掛板とみられる。ただし、上記の加工痕の多くは他器種への転用に伴う二次加工によるものか。追柾目。ヒノキ。
1554	７コ	Ⅱ	木器類	器具	下駄 連歯下駄Ａ類	(残存17.0)	(4.6)	(残存5.8)	第189図図版98	上端・右側面と裏面の一部を欠く。台と歯とを一木から作る連歯下駄である。貫通する円孔が左側縁付近に１箇所、上端付近中央に１箇所認められる。板目。アスナロ属。
1555	４ケ	Ⅱ	木器類	器具	下駄 連歯下駄Ａ類	(17.3)	(1.6)	(8.4)	第189図図版98	左側面の一部を欠く。台と歯を一木から作る連歯下駄である。貫通する円孔が上端付近中央・左側縁付近・右側縁付近に１つずつ認められる。裏面に加工痕が認められる。親指とかかととみられる圧痕が認められ、それらの配置から右足用と推定できる。板目。ヒノキ。
1556	７シ	Ⅱ	木器類	器具	下駄 連歯下駄Ａ類	(23.2)	(2.0)	(10.2)	第190図図版98	刃の一部を欠くがほぼ完形品である。台と歯を一木から作る連歯下駄である。貫通する円孔が６箇所認められるが、いずれも炭化しており、焼け火箸による穿孔とみられる。それらのうち、横に並ぶ３箇所は補修時のものであろう。表面の上端付近に指による圧痕が認められ、それらの配置から左足用と推定できる。裏面に制作時の加工痕とみられる細かな線状痕が多数認められる。板目。ヒノキ。
1557	北東耕土搬出区	－	木器類	器具	下駄 連歯下駄Ａ類	(残存14.6)	(1.7)	(5.9)	第190図図版-	上端・下端を欠く。また、全体に縮んでいる可能性が高い。台と歯を一木から作る連歯下駄である。貫通する円孔が上端中央付近・左側縁付近・右側縁付近に１箇所ずつ認められる。柾目。
1558	北東耕土搬出区	－	木器類	器具	下駄 連歯下駄Ａ類	(残存15.0)	(4.4)	(8.1)	第190図図版98	上半部の多くが炭化している。台と歯を一木から作る連歯下駄である。貫通する円孔が上端付近中央・左側縁付近・右側縁付近に１つずつ認められる。歯は２つとも裏側から見て左側ほど擦り減っている。1490・1507の付近で出土。板目。ヒノキ。
1559	12年度試掘坑21	－	木器類	器具	下駄 連歯下駄	(残存15.3)	(1.9)	(残存5.5)	第190図図版-	上下端・左右端をいずれも欠くが、台と歯を一木から作る連歯下駄である。貫通する円孔は上端付近に１箇所認められるにとどまる。板目。
1560	12年度試掘坑8	－	木器類	器具	下駄 連歯下駄	(残存8.3)	(4.7)	(残存3.4)	第190図図版-	残存部分は全体のごく一部とみられるが、台と歯を一木から作る連歯下駄である。板目。
1561	12年度試掘坑3	－	木器類	器具	下駄 連歯下駄	(残存16.8)	(1.8)	(残存5.1)	第190図図版-	腐食が進み、残存状態が良好ではないが、台と歯を一木から作る連歯下駄である。１箇所認められる円孔の痕跡は、右側縁ではなく、左側縁付近に当たる部分のものと推定される。柾目。
1562	７サ	Ⅱ	木器類	器具	下駄 連歯下駄	(12.4)	(残存3.7)	(残存5.7)	第190図図版98	形状・大きさから連歯下駄の歯と推定した。上端面は割れ面である。下端面は摩滅しており、接地面であったとみられる。接地面を底面とする台形状を呈する。板目。アスナロ属。
1563	７コ	Ⅱ	木器類	器具	櫛	(残存1.5)	(0.7)	(1.4)	第191図図版99	裏面の一部を欠く。下端に太めの歯を丁寧に削り出している。表面・裏面に刃物によるとみられる２条の平行線が認められる。芯去。イスノキ。
1564	17ソ	KT	木器類	器具	木簡	(残存10.3)	(0.6)	(2.1)	第191図図版99	下端を欠く。表面と裏面に墨で文字が書かれている。しかし、いずれも判読できない。柾目。スギ。
1565	13ソ	YH	木器類	器具	紡錘車紡輪	(8.5)	(1.1)	(8.0)	第191図図版99	ほぼ完形品である。中央に円孔があり、木製の軸が挟まっている（軸の樹種は針葉樹、芯去）。側面には小円孔が２箇所みられ、その内、図の左下の１箇所には木釘が残っている。図の左上の傷も、木釘の跡である可能性がある。側面には細かな加工痕が認められる。断面は平らな台形である。木釘孔が認められることから曲物の底板か蓋であったものの転用と考えることができる。柾目。アスナロ属。
1566	５サ	Ⅱ	木器類	器具	紡錘車紡輪	(残存8.1)	(0.6)	(残存7.8)	第191図図版99	上端の一部などを欠くが、全体形状の復元は可能である。中央に貫通する円孔が認められる。側面に加工痕が認められる。表面に２箇所、円形の炭化範囲が認められる。また、下端の側面も炭化している。曲物からの転用か。柾目。アスナロ属。
1567	７コ	Ⅱ	木器類	器具	栓	(12.8)	(3.1)	(3.7)	第191図図版99	ほぼ完形品であり、逆截頭円錐形である。ただし、下半には面取りを施している。大きさや形状から容器などの栓と推定した。芯去。アスナロ属。
1568	16ソ	KT	木器類	器具	栓	(8.5)	(2.6)	(残存3.7)	第191図図版99	頭部の右側面を欠くものの、ほぼ原形をとどめているとみられる。断面楕円形の頭部に、断面長方形の軸部が付く。芯去。コナラ節。

第112表　遺物観察表（60）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1569	12年度試掘坑4	－	木器類	器具	杓子Ａ類	(残存17.0)	(0.4)	(4.0)	第191図図版-	上端を欠くが､欠失部分はわずかとみられる。飯を盛るしゃもじの形状であるが、小型である。柾目。
1570	５コ	Ⅱ	木器類	器具	杓子Ａ類	(26.5)	(0.6)	(7.3)	第191図図版99	ほぼ完形品である。飯を盛るしゃもじの形状である。全体に丁寧な加工が施され、側面は丸みを帯びている。柄の部分と身の部分とで厚みに差はみられない。下端が摩滅しているが、これは使用に伴うものである可能性がある。柾目。アスナロ属。
1571	５コ	Ⅱ	木器類	器具	杓子Ｂ類	(26.0)	(0.9)	(5.6)	第191図図版99	下端右隅を欠くが、ほぼ完形品である。飯を盛るしゃもじの形状である。全体に丁寧な加工が施されているが、側面は角張っている。柄の部分より身の部分の方が厚みがやや薄い。特に下端部は薄く作っている。板目。ヒノキ。
1572	７サ	Ⅱ	木器類	器具	杓子	(残存18.0)	(0.7)	(残存6.0)	第191図図版-	下半(身の部分)は大部分欠失している。残存部分の整形は、各面とも丁寧である。裏面には刃物痕とみられる細かな線状痕が認められる。柾目。ヒノキ。
1573	12年度試掘坑3	－	木器類	器具	模造品	(23.1)	(2.2)	(2.4)	第191図図版102	先端が反り上がる。欠込みを施した突起を表面に２つ備える。形状から槌の小型模造品の一部である可能性が高いと判断した。芯去。モクレン属。
1574	12年度試掘坑3	－	木器類	器具	模造品	(残存11.3)	(0.7)	(1.7)	第191図図版102	右端を欠く。精巧な加工を施している。中央に柄を持ち、端を尖らせる形状から、独鈷杵など金属製仏具の模造品の可能性が考えられる。1514・1574・1713は一括出土。芯去。ヒノキ。
1575	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(23.9)	(0.6)	(0.8)	第192図図版100	ほぼ完形品である。上端・下端とも尖らせてはいない。断面はほぼ円形の部分から四角形に近い部分までみられる。芯去。ヒノキ。
1576	６シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(22.9)	(0.7)	(0.7)	第192図図版100	折れているが、ほぼ完形品である。断面は不整な七角形である。下端面は摩滅している。芯去。ヒノキ。
1577	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(24.9)	(0.8)	(0.7)	第192図図版100	上端はわずかに欠けている可能性がある。断面は六角形を基本とするが、中央付近では円形に近い。両端とも尖らせてはいない。芯去。ヒノキ。
1578	６コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(21.1)	(0.6)	(0.8)	第192図図版99	ほぼ完形品である。下端は摩滅している。断面は不整な長方形～台形である。1579と共に出土している。芯去。アスナロ属。
1579	６コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(18.5)	(0.5)	(0.6)	第192図図版99	ほぼ完形品である。下端は１方向から斜めに切り落とし、尖らせている。断面は不整な台形である。1578と共に出土している。芯去。アスナロ属。
1580	６コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存18.4)	(0.5)	(0.7)	第192図図版100	上端を欠く。下端も欠いているが、欠失部分はわずかとみられる。断面は不整な七角形である。芯去。ヒノキ。
1581	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存18.7)	(0.5)	(0.5)	第192図図版-	上端を欠く。彎曲が著しい。断面は七角形を基本とする。芯去。ヒノキ。
1582	６シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存15.4)	(0.5)	(0.5)	第192図図版100	上端を欠く。断面は不整な六角形を基本とするが、一定していない。芯去。ヒノキ。
1583	７ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存15.6)	(0.7)	(0.9)	第192図図版100	上端を欠く。断面は八角形である。芯去。ヒノキ。
1584	６コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存15.7)	(0.3)	(0.7)	第192図図版-	上端を欠く。断面は紡錘形である。下端は尖らせている。芯去。
1585	７サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存15.5)	(0.5)	(0.6)	第192図図版-	上端を欠く。断面は八角形を基本とする。下端は尖らせている。芯去。
1586	６シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存12.7)	(0.6)	(0.6)	第192図図版-	上端を欠く。下端は摩滅している可能性がある。断面は六角形を基本とするが、円形に近い部分も多い。芯去。
1587	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存13.6)	(0.5)	(0.7)	第192図図版-	上端を欠く。断面は六角形である。下端は尖らせている。芯去。
1588	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存13.8)	(0.6)	(0.6)	第192図図版100	上端を欠く。断面は整った円形である。下端は尖らせている。芯去。カヤ。
1589	７サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存13.7)	(0.6)	(0.7)	第192図図版100	上端を欠く。断面は不整な八角形である。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
1590	６シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存12.5)	(0.5)	(0.8)	第192図図版-	上端を欠く。断面は不整な六角形である。芯去。
1591	５シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存13.6)	(0.6)	(0.6)	第192図図版100	上端を欠く。断面は比較的整った七角形である。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
1592	６シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存13.4)	(0.6)	(0.7)	第192図図版100	上端を欠く。横断面は不整な六角形を基本とする。芯去。ヒノキ。

第113表　遺物観察表（61）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1593	６サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存14.1)	(0.5)	(0.6)	第192図図版100	上端を欠く。断面は台形～長方形である。下端は１方向から斜めに切り落としている。芯去。ヒノキ。
1594	５サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存12.4)	(0.6)	(0.5)	第192図図版100	上端を欠く。断面は不整な七角形である。芯去。ヒノキ。
1595	６コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存13.6)	(0.6)	(0.6)	第192図図版-	上端・下端を欠く。断面は不整な円形を基本とする。芯去。ヒノキ。
1596	８ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存12.0)	(0.6)	(0.6)	第192図図版-	上端を欠く。断面は不整な七角形を基本とするが、一定しない。芯去。ヒノキ科。
1597	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存12.3)	(0.7)	(0.7)	第192図図版-	下端を欠く。断面は不整な六角形である。芯去。ヒノキ。
1598	５ケ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存11.7)	(0.6)	(0.6)	第192図図版-	上端を欠く。断面は不整な六角形である。芯去。ヒノキ。
1599	８サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存10.1)	(0.5)	(0.7)	第192図図版-	上端を欠く。下端は摩滅している可能性がある。断面は六角形である。芯去。
1600	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存10.6)	(0.7)	(0.7)	第192図図版-	上端を欠く。断面は不整な七角形である。下端は尖らせている。芯去。
1601	６サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存11.5)	(0.6)	(0.8)	第192図図版100	上端を欠く。断面は楕円形である。芯去。ヒノキ。
1602	６シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存12.0)	(0.8)	(0.8)	第192図図版100	上端を欠く。細かな加工を加えており、断面形は一定していない。芯去。ヒノキ。
1603	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存11.3)	(0.5)	(0.7)	第192図図版-	上端を欠く。断面は不整な六角形である。下端は尖らせている。芯去。
1604	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.4)	(0.6)	(残存0.7)	第192図図版-	上端を欠く。断面は六角形である。下端は尖らせている。芯去。
1605	４コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存8.7)	(0.4)	(0.6)	第192図図版-	上端を欠く。断面は不整な七角形である。芯去。
1606	５コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.1)	(0.5)	(0.7)	第192図図版-	上端を欠く。断面は不整な六角形である。芯去。
1607	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.0)	(0.5)	(0.8)	第193図図版100	上端を欠く。断面は中央付近では隅丸方形であるが、下端部では円形に近い。芯去。ヒノキ。
1608	５コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存10.1)	(0.5)	(0.7)	第193図図版-	上端を欠く。下端も欠くが欠失部分はわずかとみられる。断面は不整な六角形である。芯去。
1609	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.3)	(0.6)	(0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は七角形である。下端は尖らせている。芯去。
1610	７セ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.4)	(0.4)	(0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は六角形を基本とする。下端は尖らせている。芯去。サワラ。
1611	８シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存10.0)	(0.6)	(0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は七角形である。下端は尖らせている。芯去。
1612	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存8.9)	(0.5)	(残存0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は六角形である。下端は尖らせている。芯去。
1613	６シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存10.0)	(0.6)	(0.7)	第193図図版-	上端を欠く。断面は不整な台形であるが、むしろ三角形に近い。下端は尖らせている。芯去。
1614	６シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存8.5)	(0.5)	(残存0.5)	第193図図版-	上端を欠く。断面は六角形である。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
1615	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.0)	(0.6)	(0.7)	第193図図版-	上端を欠く。断面は七角形を基本とする。芯去。
1616	８サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.5)	(0.5)	(0.7)	第193図図版-	上端を欠く。断面は六角形である。下端は尖らせている。芯去。
1617	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存8.4)	(0.5)	(残存0.8)	第193図図版-	上端を欠く。断面は不整な六角形である。下端は尖らせている。芯去。
1618	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存7.5)	(0.7)	(0.7)	第193図図版-	上端を欠く。断面は八角形である。下端は尖らせている。芯去。
1619	５サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存8.7)	(0.6)	(0.6)	第193図図版100	上端を欠く。断面は一定しないが、四角形を呈する部分がみられる。芯去。ヒノキ。
1620	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存7.1)	(0.4)	(残存0.5)	第193図図版-	上端を欠く。断面は不整な七角形である。下端は尖らせている。芯去。
1621	７サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存8.8)	(0.5)	(0.6)	第193図図版100	上端を欠く。断面は不整な八角形である。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。

第114表　遺物観察表（62）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1622	７シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存8.0)	(0.5)	(0.7)	第193図図版100	上端を欠く。断面は平らな七角形～楕円形である。下端を尖らせている。芯去。ヒノキ。
1623	６サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存6.8)	(0.4)	(0.7)	第193図図版-	上端を欠く。断面は不整な七角形である。芯去。ヒノキ。
1624	６シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存11.4)	(0.7)	(0.8)	第193図図版100	上端を欠く。断面は不整な六角形である。芯去。ヒノキ。
1625	６サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存5.5)	(0.3)	(0.6)	第193図図版-	残存するのは下端部のみである。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
1626	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.7)	(0.5)	(0.8)	第193図図版-	下端を欠く。断面は楕円形である。芯去。ヒノキ。
1627	８サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存8.5)	(0.6)	(0.7)	第193図図版-	下端を欠く。断面は楕円形である。残存部分の形状が箸にしては整いすぎているため、箸ではない可能性もある。芯去。ヒノキ。
1628	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存8.5)	(0.7)	(0.7)	第193図図版100	下端を欠く。断面は角張る部分もあるが、ほぼ円形である。芯去。ヒノキ。
1629	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.5)	(0.5)	(0.6)	第193図図版-	下端を欠く。断面は不整な八角形であるが、加工が比較的丁寧なため円形に近い。芯去。ヒノキ。
1630	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存9.7)	(0.6)	(0.7)	第193図図版100	下端を欠く。断面は円形である。芯去。ヒノキ。
1631	６ス	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存5.1)	(0.6)	(0.5)	第193図図版-	上端を欠く。断面は不整な五角形である。芯去。ヒノキ。
1632	５コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存6.6)	(0.5)	(0.7)	第193図図版-	上端を欠く。断面は楕円形である。芯去。
1633	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存7.1)	(0.4)	(残存0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は整った六角形である。下端は尖らせている。芯去。
1634	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存7.1)	(0.4)	(残存0.5)	第193図図版-	上端を欠く。断面は不整な五角形である。下端を尖らせてはいないが、厚みは減じている。芯去。
1635	４コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存6.9)	(0.4)	(0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は不整な六角形である。芯去。
1636	７シ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存7.0)	(0.5)	(0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は八角形である。芯去。ヒノキ。
1637	４コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存6.7)	(0.3)	(0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は不整な六角形であるが、むしろ楕円形に近い。芯去。
1638	７サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存6.2)	(0.5)	(残存0.7)	第193図図版-	上端を欠く。断面は平らな六角形である。下端は尖らせている。芯去。
1639	７サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存4.4)	(0.4)	(0.5)	第193図図版-	上端を欠く。断面は楕円形である。下端は尖らせている。芯去。
1640	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存5.3)	(0.5)	(残存0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は楕円形に近い部分が多い。下端は摩滅している可能性がある。芯去。
1641	７コ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存4.5)	(0.4)	(残存0.6)	第193図図版-	上端を欠く。残存部分では、断面は五角形である。下端は尖らせている。芯去。
1642	７サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存5.1)	(0.4)	(残存0.7)	第193図図版-	上端を欠く。断面は平らな六角形である。下端は尖らせている。芯去。
1643	７サ	Ⅱ	木器類	器具	箸	(残存5.2)	(0.4)	(残存0.6)	第193図図版-	上端を欠く。断面は不整な八角形である。下端は尖らせている。芯去。ヒノキ。
1644	５ケ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(23.5)	(0.6)	(0.8)	第193図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1645	５コ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(22.8)	(0.7)	(1.2)	第193図図版-	下端のみ炭化している。上半部は薄い。芯去。
1646	５ケ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(25.7)	(0.7)	(1.5)	第193図図版-	大きく彎曲している。下端のみ炭化している。芯去。
1647	７コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(24.9)	(0.6)	(1.0)	第193図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1648	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(21.7)	(0.9)	(1.7)	第193図図版-	下半部のほとんどが炭化している。芯去。
1649	９シ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.5)	(0.7)	(1.9)	第193図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1650	５ケ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.0)	(0.7)	(1.1)	第193図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1651	５ケ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存17.8)	(0.7)	(1.3)	第193図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
1652	９シ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(22.6)	(0.4)	(0.9)	第193図図版-	下端のみ炭化している。大きく彎曲している。芯去。
1653	８サ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(62.0)	(1.8)	(1.4)	第194図図版-	下端のみ炭化している。大きくＳ字状に彎曲している。当遺跡で最も大きな火付け木である。芯去。
1654	６コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(34.5)	(1.0)	(2.4)	第194図図版-	下端のみ炭化している。火付け木としては大型である。芯去。

第115表　遺物観察表（63）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1655	５サ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(27.1)	(1.2)	(2.6)	第194図図版-	下端のみ炭化している。表面には加工痕が多数認められるが、これは手斧によるものかもしれない。芯去。
1656	５ケ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(27.3)	(1.1)	(2.5)	第194図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1657	５ケ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(28.7)	(0.9)	(1.1)	第194図図版-	下端のみ炭化している。上端は尖らせている。芯去。
1658	７コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(26.8)	(1.1)	(1.7)	第194図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
1659	６ケ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(19.7)	(1.0)	(0.9)	第194図図版-	下端のみ炭化している。上端は斜めにきれいに切断されている。芯去。
1660	５サ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(14.5)	(0.7)	(0.8)	第194図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1661	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(5.1)	(0.4)	(0.6)	第194図図版-	下端のみ炭化している。本来はさらに長かった可能性がある。芯去。
1662	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(16.8)	(0.6)	(1.2)	第194図図版-	上端・下端が炭化している。芯去。
1663	６コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(19.4)	(1.0)	(2.4)	第194図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
1664	５サ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(15.8)	(0.8)	(1.2)	第194図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1665	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.8)	(0.8)	(1.3)	第194図図版-	下端のみ炭化するが、右端の炭化範囲が広い。芯去。
1666	６コ	－	木器類	器具	火付け木Ａ類	(17.2)	(0.6)	(0.7)	第194図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1667	９シ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(16.1)	(0.4)	(0.8)	第194図図版-	下端が炭化しているが、右側面は炭化範囲が広い。芯去。
1668	７コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(18.3)	(0.7)	(1.0)	第194図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1669	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(14.3)	(0.8)	(1.7)	第194図図版-	下端のみ炭化するが、左端の炭化範囲が広い。表面には加工痕が残り、平滑である。芯去。
1670	５サ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(13.6)	(0.5)	(0.7)	第194図図版-	下端だけでなく、全体に広く炭化している。火付け木とみてよいか、定かではない。芯去。
1671	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存13.3)	(0.6)	(1.3)	第194図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
1672	５ケ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(残存12.1)	(0.5)	(1.0)	第194図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
1673	６コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(14.5)	(0.7)	(1.1)	第194図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1674	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(11.6)	(0.4)	(1.1)	第194図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1675	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(10.5)	(0.7)	(0.9)	第194図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1676	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ａ類	(10.5)	(0.4)	(0.9)	第194図図版-	上端と下端が炭化している。両側面、特に右側面に加工痕が認められる。芯去。
1677	８サ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(53.0)	(1.1)	(1.2)	第195図図版-	下端のみ炭化している。上端は斜めに切断されている。当遺跡では1653に次いで大きな火付け木である。芯去。
1678	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(残存24.3)	(1.1)	(1.9)	第195図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
1679	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(21.3)	(1.0)	(1.6)	第195図図版-	表面と左側面では下半部のほどんどが炭化しているが、裏面と右側面では炭化範囲は狭い。芯去。
1680	７コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(21.9)	(1.1)	(1.8)	第195図図版-	炭化範囲が広く、特に表面では下端から中央にまで達している。他の個体に比べ厚みがあることから、火付け木として作られたものではない可能性がある。芯去。
1681	16ソ	KDT	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(18.8)	(0.9)	(0.9)	第195図図版-	下端のみ炭化している。断面はほぼ正方形であり、火付け木としては整った形状である。芯去。
1682	５ケ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(16.6)	(1.4)	(1.6)	第195図図版-	下端のみ炭化している。右側面は平滑だが、他の面には粗い加工痕が目立つ。芯去。
1683	５コ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(16.2)	(1.1)	(1.2)	第195図図版-	下端のみ炭化している。断面は方形であり、火付け木としては整っている。芯去。
1684	６コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(14.2)	(1.1)	(2.3)	第195図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1685	５ケ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(8.4)	(0.7)	(1.3)	第195図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1686	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(10.4)	(1.2)	(2.1)	第195図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1687	５コ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(残存11.8)	(0.7)	(1.0)	第195図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
1688	７コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(14.0)	(0.9)	(1.2)	第195図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1689	４コ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ｂ類	(11.1)	(1.0)	(1.1)	第195図図版-	下端のみ炭化している。上端はきれいに切断されている。芯去。
1690	７サ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(29.4)	(1.4)	(2.5)	第195図図版-	下端のみ炭化している。上端も先端を尖らせている。芯去。

第116表　遺物観察表（64）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1691	５サ	Ⅲ	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(27.8)	(1.2)	(1.2)	第195図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1692	７コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(17.4)	(1.7)	(2.2)	第195図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1693	７ケ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(11.6)	(1.7)	(2.4)	第195図図版-	下端のみ炭化している。上端は斜めに切断されている。芯去。
1694	５コ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(13.5)	(1.0)	(2.1)	第195図図版-	下端のみ炭化している。上端はやや粗いが切断されている。芯去。
1695	５ケ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(残存12.5)	(0.5)	(1.4)	第195図図版-	上端を欠く。下端のみ炭化している。芯去。
1696	５サ	Ⅱ	木器類	器具	火付け木Ｃ類	(10.3)	(1.2)	(2.5)	第195図図版-	下端のみ炭化している。芯去。
1697	９シ	Ⅱ	木器類	器具	串状木製品	(30.6)	(0.7)	(3.4)	第196図図版-	ほぼ完形品とみられる。上端の右端付近の表面・裏面に、刃物で薄く剥いだ加工痕が認められる。下端は両側面を削り、先端をゆるやかながら尖らせている。あるいは斎串か。板目。ヒノキ。
1698	５シ	Ⅱ	木器類	器具	串状木製品	(20.0)	(0.8)	(1.4)	第196図図版-	断面は上半では不整な台形であるが、下半では三角形である。下端は薄く仕上げている。あるいは未使用の火付け木か。芯去。サワラ。
1699	５コ	Ⅱ	木器類	器具	串状木製品	(残存20.1)	(0.7)	(2.4)	第196図図版102	上端を欠く。下端もわずかに欠失しているものとみられる。表面･裏面･左右側面に加工痕が認められる。板目。ヒノキ。
1700	５サ	Ⅱ	木器類	器具	串状木製品	(22.3)	(0.6)	(3.1)	第196図図版102	上端・下端の一部を欠く。形状は整っており、下端を尖らせている。上端は折れている可能性があり、斎串とも考えられる。柾目。ヒノキ。
1701	18タ	KDT	木器類	器具	串状木製品	(残存25.8)	(0.8)	(1.6)	第196図図版102	上端を欠く。下端も傷んでいる。表面には細かな加工痕が認められる。柾目。ヒノキ。
1702	８サ	Ⅱ	木器類	器具	串状木製品	(残存13.4)	(0.5)	(2.4)	第196図図版-	上端を欠く。下端は尖らせている。大きさ・形状から、斎串の下端部分の可能性が高いと推定する。柾目。サワラ。
1703	５シ	Ⅱ	木器類	器具	串状木製品	(13.2)	(0.6)	(1.3)	第196図図版-	中央付近で折れ曲がっている。各面粗く削っている。斎串ないしはその未製品か。板目。ヒノキ。
1704	21テ	KT	木器類	器具	串状木製品	(残存15.4)	(0.8)	(1.3)	第196図図版-	下端を欠く。上端は両側面を中央に向かって削り、先端を尖らせている。縦に割ると串状となることから、斎串などの未製品と捉えることもできる。柾目。
1705	５コ	Ⅱ	木器類	器具	串状木製品	(残存15.1)	(0.7)	(1.2)	第196図図版-	上端を欠く。下端を表面･右側面･裏面から斜めに切り落し、先端を尖らせている。上端部右側面にも同様の加工痕が認められる。芯去。ヒノキ。
1706	６コ	Ⅱ	木器類	器具	串状木製品	(15.5)	(0.7)	(0.6)	第196図図版-	上端は欠失している可能性がある。断面は長方形である。下端は尖らせている。箸の可能性がある。芯去。サワラ。
1707	16ソ	KT	木器類	器具	串状木製品	(残存6.8)	(0.3)	(0.9)	第196図図版-	上端を欠く。下端は尖らせている。斎串か。柾目。ヒノキ。
1708	17ソ	Ⅰ	木器類	器具	串状木製品	(残存7.4)	(0.7)	(0.8)	第196図図版-	上端を欠く。下端は薄く加工し、尖らせている。芯去。ヒノキ。
1709	８シ	Ⅱ	木器類	器具	串状木製品	(残存27.6)	(1.0)	(0.9)	第196図図版-	下端を欠くが欠失部分はごくわずかとみられる。弓なりに彎曲する。各面は鋭利な刃物で切り落とされたように見える。断面は不整な長方形を基本とするが、一定ではなく、上端は尖らせている。あるいは未使用の火付け木か。芯去。ヒノキ。
1710	20テ	KT	木器類	器具	へら状木製品	(残存25.0)	(1.4)	(残存9.9)	第196図図版102	下端を欠くが、欠失部分はさほど大きくはないと推定される。表面は下端部を斜めに削り、次第に薄くなるよう仕上げている。裏面は平坦である。大きさ・形状からへらの可能性が高いと考えたがへらとしての使用痕は認められない。板目。アスナロ属。
1711	６ケ	Ⅱ	木器類	器具	へら状木製品	(残存20.1)	(0.5)	(3.3)	第196図図版102	上端を欠く。全体に丁寧な加工が施されており、左右側面は丸みを帯びている。幅が狭いことから、飯杓子以外の用途に使われたとみられる。板目。ヒノキ。
1712	８シ	Ⅱ	木器類	器具	へら状木製品	(残存14.6)	(0.7)	(残存3.5)	第196図図版-	下端を欠く。残存部分は精巧で丁寧な作りである。へらのような形状になると推定したが、本来の用途は不明である。板目。ヒノキ。
1713	12年度試掘坑3	－	木器類	器具	へら状木製品	(11.0)	(0.4)	(3.0)	第196図図版102	ほぼ完形品である。しゃもじのような形状であるが、小型すぎるため、飯杓子以外の用途に使われたとみられる。あるいは小型模造品か。1514・1574・1713は一括出土。柾目。ヒノキ。
1714	９シ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(残存19.9)	(1.4)	(2.7)	第197図図版-	下端を欠く。断面は長方形であるが、中央部では表面から右側面にかけて斜めに切り落としている。柾目。

第117表　遺物観察表（65）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1715	８サ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(19.2)	(0.8)	(残存3.4)	第197図図版103	左側面を欠くとみられる。全体形状の復元は困難であり、残存部分の大きさ・形状から人形の可能性があると考えたものの定かではない。上端面･右側面･下端面は平滑である。あるいは曲物底板に二次加工を加えたものと捉えるべきか。柾目。アスナロ属。
1716	16ソ	KDT	木器類	器具	板状木製品	(残存19.5)	(1.0)	(9.0)	第197図図版-	下端を欠く。上端面の切り離し方は粗い。端材と捉えるべきかもしれない。柾目。ヒノキ。
1717	５サ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(19.0)	(0.4)	(4.3)	第197図図版103	平面形は整った短冊形である。曲物容器の側板か。柾目。アスナロ属。
1718	５コ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(19.4)	(0.7)	(6.9)	第197図図版-	平面形は整った短冊形である。上端・下端の切り離し方は粗い。柾目。ヒノキ。
1719	６コ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(18.8)	(0.4)	(6.8)	第197図図版-	上端の一部を欠くが、ほぼ完形品である。彎曲しているが、平面形は比較的整った短冊形である。曲物容器の側板か。柾目。
1720	６サ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(20.8)	(2.0)	(4.1)	第197図図版-	表面は腐食が進んでおり、本来の形状をとどめていない。板目。ヒノキ。
1721	６シ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(残存19.6)	(2.9)	(3.9)	第197図図版-	下端を欠く。左側面も下半を欠く。断面はL字型である。あるいは部材か。板目。
1722	６コ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(20.4)	(0.4)	(4.0)	第197図図版-	２つに割れているが、全形を窺うことができる。平面形は整った短冊形である。曲物容器の側板か。柾目。ヒノキ。
1723	６ケ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(21.8)	(0.3)	(4.7)	第197図図版103	曲物容器の側板などの可能性があるが､定かではない｡柾目。ヒノキ。
1724	８シ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(19.5)	(0.6)	(4.8)	第197図図版-	右側面の過半を欠くが、本来は整った短冊状の形状とみられる。下端面には切り離しの際についたとみられる段差が認められる。柾目。ヒノキ。
1725	５コ	Ⅲ	木器類	器具	板状木製品	(残存15.8)	(0.2)	(5.6)	第197図図版-	下端を欠くが、平面形は整った短冊形とみられる。曲物容器の側板か。柾目。
1726	８シ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(15.0)	(0.6)	(4.5)	第197図図版103	表面に刃物によるとみられる細かな線状痕が認められる。柾目。ヒノキ。
1727	８ス	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(16.7)	(1.7)	(4.0)	第197図図版-	ほぼ完形品とみられる。下端のみ他の部分より倍くらいの厚さのままとしている。柾目。ヒノキ。
1728	５シ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(17.4)	(0.4)	(4.1)	第197図図版-	完形品である。平面形は整った短冊形である。曲物容器の側板か。柾目。
1729	５コ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(残存13.7)	(0.8)	(4.0)	第197図図版102	下端を欠く。両側面に切り欠き加工を施している。板目。スギ。
1730	８サ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(残存13.2)	(0.5)	(残存5.6)	第197図図版-	下端を欠く。右側面も本来の形状ではない可能性が高い。表面に細かな刃物痕が多数認められる。柾目。ヒノキ。
1731	16チ	KT	木器類	器具	板状木製品	(残存58.2)	(0.7)	(5.1)	第198図図版103	下端を欠くものの形状の整った板である。貫通孔が５箇所認められるが、形状がそろわないことから、後世に開いたものも含まれる可能性がある。板目。ヒノキ。
1732	６シ	Ⅲ	木器類	器具	板状木製品	(44.6)	(1.7)	(残存5.8)	第198図図版-	下半の左側面を欠く可能性がある。下半では、表面は中軸線付近は分厚いが、両側縁と下端は厚さを減じている。裏面は平坦である。柾目。ヒノキ。
1733	12ソ	YH	木器類	器具	板状木製品	(33.4)	(0.9)	(4.4)	第198図図版-	下端付近の裏面が部分的に剥離している。上端も欠失している可能性がある。横断面は不整な三角形である。柾目。サワラ。
1734	21テ	KT	木器類	器具	板状木製品	(33.9)	(0.9)	(残存9.4)	第198図図版-	右端を欠く。残存部分からは、本来は隅丸方形であった可能性が考えられる。明瞭ではないものの、残存部右端に２箇所、貫通孔の痕跡が認められる。追柾目。ヒノキ。
1735	16ソ	KDT	木器類	器具	板状木製品	(残存6.7)	(0.4)	(2.7)	第198図図版102	下端を欠く。薄板の両側面に切り欠きを施している。荷札状の付札の可能性があると考えるが、定かではない。柾目。ヒノキ属。
1736	７コ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(残存8.1)	(0.3)	(2.5)	第198図図版-	下端を欠く。上端付近の両側面に切り込みが２つずつ認められる。板目。ヒノキ。
1737	15タ	YT	木器類	器具	板状木製品	(残存19.8)	(1.6)	(2.9)	第198図図版-	下端を欠く。あるいは端材と捉えるべきか。板目。クリ。
1738	３キ	Ⅱ	木器類	器具	板状木製品	(25.7)	(1.4)	(2.3)	第198図図版-	ほぼ完形品とみられる。表面に貫通しない長方形孔が等間隔(4.3cm間隔)に４箇所認められる。また横方向の平行する浅い線状痕が多数みられる。これらは鋸ないしは切れ味のよくない台鉋によるとみられることから、近世以降の遺物と捉えるべきである。追柾目。

第118表　遺物観察表（66）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1739	12ソ	YH	木器類	器具	板状木製品	(25.3)	(1.5)	(2.1)	第198図図版-	上端は側面に対して斜めに切断している。下端付近の表面の削り方は粗く、あるいは後世の破損かもしれない。柾目。
1740	５サ	Ⅲ	木器類	器具	板状木製品	(19.0)	(0.7)	(4.0)	第198図図版-	大きさ・形状から馬形である可能性があるが、残存状態が良くないため不明である。板目。ヒノキ。
1741	５シ	Ⅲ	木器類	器具	板状木製品	(残存70.8)	(1.4)	(3.8)	第198図図版-	下端を欠く。上端面と左右側面には、比較的丁寧な加工を施している。あるいは建築部材か。柾目。ヒノキ。
1742	16ソ	KDT	木器類	器具	板状木製品	(残存24.2)	(0.8)	(7.8)	第199図図版-	下端を欠くほか、全体に残存状態は良好ではない。上端付近に貫通する小円孔が２箇所認められる。あるいは桶の側板か。追柾目。ヒノキ。
1743	７ス	Ⅲ	木器類	器具	板状木製品	(残存24.1)	(0.9)	(残存6.8)	第199図図版-	本来は楕円形であったとみられ、容器の底板などの可能性がある。右側面の形状は、二次加工によるものである可能性がある。柾目。
1744	５コ	Ⅲ	木器類	器具	板状木製品	(残存23.7)	(0.5)	(5.6)	第199図図版-	上端を欠く。右端も過半を欠く。下端は表面・裏面から斜めに削り、先端を尖らせている。左右側面は平坦である。下端の両隅に丸みを持たせる形状から、杓子の身の部分である可能性も考えられる。柾目。ヒノキ。
1745	６コ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(残存32.9)	(2.8)	(2.8)	第199図図版-	上端を欠く。下端は表面を斜めに削って先端を尖らせている。裏面にも同様の加工を施したとみられるが、大部分欠失している。欠失部分と加工部分を除き、樹皮が残っている。断面は円形である。芯持。
1746	17チ	KT	木器類	器具	棒状木製品	(残存33.6)	(2.6)	(2.9)	第199図図版103	下端を欠く。断面は円形ないし楕円形である。農具の柄などの可能性が考えられる。芯去。サクラ属。
1747	６コ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(残存33.4)	(2.2)	(3.7)	第199図図版-	下端を欠く。裏面と左側面も大部分欠失している。表面と右側面は比較的丁寧に面を作っている。芯去。
1748	６コ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(34.6)	(1.3)	(2.2)	第199図図版-	ほぼ完形品とみられる。左側面は丸みを帯びている。芯去。ヒノキ。
1749	14タ	YT	木器類	器具	棒状木製品	(残存29.5)	(2.0)	(2.0)	第199図図版-	上端を欠く。上端やや下の全周を浅く抉り込み、有頭状にしている。断面は不整な六角形である。下端を斜めに削り、尖らせている。芯去。ヒノキ。
1750	18タ	KT	木器類	器具	棒状木製品	(残存11.6)	(1.3)	(1.8)	第199図図版-	下端を欠く。上端面には細かな加工を施している。断面は楕円形である。芯去。サワラ。
1751	17チ	KT	木器類	器具	棒状木製品	(残存14.0)	(2.6)	(2.6)	第199図図版-	上端・下端を欠く。断面は円形であるが、枝をそのまま利用したものではない。芯去。サクラ属。
1752	６シ	Ⅲ	木器類	器具	棒状木製品	(残存45.8)	(1.8)	(2.3)	第200図図版-	上端・下端を欠く。断面は方形であるが、左半では丸みを帯びている。芯去。
1753	６サ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(残存30.0)	(1.6)	(2.9)	第200図図版-	上端・下端を欠く。全体に腐食が著しいが、本来の断面形は台形とみられる。芯去。サワラ。
1754	12ソ	YH	木器類	器具	棒状木製品	(残存26.4)	(2.0)	(3.4)	第200図図版-	上端・下端を欠く。本来はもっと長い棒状であったとみられる。横断面は平行四辺形であり、整っていないため、端材とみるべきかもしれない。芯去。
1755	不明	―	木器類	器具	棒状木製品	(残存25.8)	(2.0)	(残存4.2)	第200図図版-	下端を欠く。表面から両側面にかけては丸みを帯びるが、裏面は平らである。芯去。ヒノキ。
1756	８サ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(22.8)	(1.8)	(1.9)	第200図図版-	上端付近に加工痕が認められる。下端の形状が整っておらず、これは不完全な加工によるものとみられることから、未製品ないし端材と捉えることも可能である。芯去。ヒノキ。
1757	６コ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(23.3)	(2.8)	(3.6)	第200図図版-	上端の左隅を１方向から切り落としている。それ以外の部分の断面は長方形である。芯去。
1758	16ソ	KT	木器類	器具	棒状木製品	(残存22.3)	(1.4)	(2.2)	第200図図版-	上端を欠く。裏面は平らであり、横断面は半円形を基本とする。あるいは農具などの柄か。芯去。ヒノキ。
1759	13タ	YH	木器類	器具	棒状木製品	(残存16.7)	(1.4)	(1.9)	第200図図版-	上端・下端を欠く。断面はほぼ楕円形である。裏面は炭化している。芯去。サワラ。
1760	７シ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(17.1)	(1.3)	(2.4)	第200図図版-	あるいは部材か。板目。
1761	16チ	KT	木器類	器具	棒状木製品	(残存20.8)	(2.1)	(2.2)	第200図図版-	上端を欠く。断面は円形である。樹皮が部分的に残っている。下端を斜めに削り尖らせているが、丁寧な整形を行っているわけではない。あるいは端材か。芯持。ナシ亜科。
1762	５ケ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(残存17.8)	(1.3)	(1.8)	第200図図版-	下端を欠く。下半を表面から左側面にかけて、丁寧に斜めに切り落とし、分厚いへらのような形状に仕上げている。表面・裏面・両側面には比較的丁寧な削り加工の痕跡が認められる。表面には工具痕とみられる長い線状痕も認められる。枝材などの一部か端材の可能性がある。芯去。マツ属単維管束亜属。

第119表　遺物観察表（67）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1763	５サ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(残存16.7)	(1.5)	(2.2)	第200図図版-	下端を欠く。断面は楕円形である。芯去。ヒノキ。
1764	16チ	KT	木器類	器具	棒状木製品	(残存28.6)	(1.8)	(3.5)	第200図図版-	上端を欠く。細かくくだけているため詳細は観察できないが、農具などの柄の可能性があるかもしれない。芯去。クリ。
1765	８ス	Ⅲ	木器類	器具	棒状木製品	(残存25.9)	(3.1)	(3.0)	第200図図版-	上端・下端を欠く。断面は八角形であるが角は丸みを帯びており、円形に近い。農具の柄などの可能性がある。芯去。
1766	７コ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(残存13.8)	(1.8)	(2.4)	第200図図版-	下端を欠く。横断面は不整楕円形であるが、裏面は平らである。形状・大きさから鍬の柄などの可能性があると考えるが、定かではない。芯去。
1767	５コ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(15.8)	(0.8)	(2.0)	第200図図版-	ほぼ完形品とみられる。形状はへら状であるが下端を薄くしてはいない。本来の用途は不明である。製品ではないかもしれない。芯去。アスナロ属。
1768	６サ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(残存6.0)	(1.8)	(2.3)	第200図図版-	あるいは部材か。柾目。
1769	７サ	Ⅱ	木器類	器具	棒状木製品	(残存8.3)	(0.7)	(1.0)	第200図図版-	上端を欠く。断面は不整な七角形を基本とする。芯去。ヒノキ。
1770	17ソ	KDT	木器類	器具	棒状木製品	(残存7.8)	(0.9)	(1.2)	第200図図版-	上端を欠く。断面は楕円形である。芯去。ヒノキ。
1771	４コ	Ⅱ	木器類	部材	建築部材 柱	(110.2)	(10.0)	(10.8)	第201図図版105	腐食する部分が多いものの、ほぼ全形を窺うことができる。上端・下端に断面方形の枘を削り出している。枘の部分を除き、上端から下端まで２段の段を持つ横断面形をなすが、これは直交する２方向からの壁板を受けるための加工とみられる。隅柱であろう。芯去。アスナロ属。
1772	14タ	YT	木器類	部材	建築部材 柱	(116.1)	(3.7)	(8.1)	第201図図版110	下端の一部を欠く。上端は表面・裏面の２方向から削り、薄く仕上げている。それ以外は、各面、ほとんど整えてはいない。表面と裏面には、鎬状の稜線が認められ、断面は不整な紡錘形である。追柾目。サワラ。
1773	11タ	Ⅲ	木器類	部材	建築部材 柱	(残存186.6)	(7.0)	(14.2)	第201図図版110	上端を欠くが、欠失部分には横架材を受ける凹形（輪薙込）の加工が施されていた可能性がある。下端を除き、表面には加工を施していない。裏面も粗く割られたままの状態である。下端は表面と左右側面の３方向から斧のような工具で削り、尖らせている。半割り。クリ。
1774	６サ	Ⅱ	木器類	部材	建築部材 柱	(残存51.6)	(3.9)	(9.8)	第202図図版105	下端を欠く。表面は中央やや上から緩やかに斜めに削り、段差を設けている。板目。クロベ。
1775	８シ	Ⅱ	木器類	部材	建築部材 楔	(37.0)	(3.9)	(9.6)	第202図図版109	表面下半は丁寧な削りを施し、斜面を作っている。上半はのみ状工具により大きな方形の柄穴状に粗く抉っている。その上端には方形の貫通孔が１箇所認められる。裏面にも粗い加工痕が認められる。何らかの部材に二次加工されているが、元は柱などの隙間に詰める楔であろう。芯去。ヒノキ。
1776	17チ	KT	木器類	部材	建築部材 垂木	(残存82.5)	(4.9)	(5.9)	第202図図版-	下端を欠く。右側面も大部分剥落している。上端は欠込み状に段差を設けている。表面の大部分と左側面全体が焦げているが、後世の被熱によるものであろう。大きさと上端の加工から垂木と推定。芯去。シオジ節。
1777	15チ	KT	木器類	部材	建築部材 垂木	(残存27.6)	(2.6)	(3.2)	第202図図版105	上端を欠く。下端は欠込み状に段差を設けている。上端の裏面にも同様の加工がみられるが、作業途中で放棄したかのように右半が整形されていない。上端面を除く各面は平滑であり、ヤリガンナか刀子による仕上げ削りを行ったとみられる。芯去。ヒノキ属。
1778	17チ	YT	木器類	部材	建築部材 梁・桁	(残存238.0)	(5.4)	(13.8)	第202図図版-	両端に、直交する材を受ける欠込み状の仕口を削り出しているとみられるが、いずれも先端を欠く。図での上端側は炭化している。裏面に曲面の部分が多いことから、丁寧な製材を経ておらず、丸太を半割したものをさらに分割したものとみられる。板目。サワラ。
1779	15チ	KT	木器類	部材	建築部材 梁・桁	(残存178.0)	(3.3)	(8.9)	第202図図版110	下端を欠く。表面の上端を少し抉り、欠込み状の仕口を設けている。裏面は上半では段差を持っている。全体に彎曲がみられ、各面の形状もあまり整ってはいない。14チNWと破片接合。柾目。サワラ。
1780	16チ	KT	木器類	部材	建築部材 厚板	(207.5)	(2.1)	(23.1)	第202図図版-	下端左半を欠くが、それ以外はほぼ原形を保っているとみられる。断面は長方形である。下端は斜めに削って薄くしている。板目。ヒノキ。
1781	20テ	KT	木器類	部材	建築部材 厚板	(残存63.8)	(3.2)	(10.2)	第203図図版106	上端・下端を欠く。表面には手斧による装飾的な加工痕が残っている。裏面は粗い。中央左端に枘孔を通して幅広の樹皮紐が巻かれており、中に木片がはさまっている。これは別部材の結合部がちぎれて残ったものとみられる。1782に類似する。壁板。追柾目。サワラ。
1782	20テ	KT	木器類	部材	建築部材 厚板	(残存49.0)	(3.4)	(14.0)	第203図図版106	上端・下端を欠く。表面には手斧による装飾的な加工痕が認められる。裏面は粗い。中央右端に枘孔を通して幅広の樹皮紐が巻かれており、中に木片がはさまっている。これは別部材の結合部がちぎれて残ったものとみられる。1781に類似する。壁板。追柾目。ヒノキ。

第120表　遺物観察表（68）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1783	７ス	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(残存27.8)	(2.0)	(13.8)	第203図図版105	下端を欠く。下端に長方形の貫通孔の一部が残っている。上端面に認められる切り離し痕は鋸によるとみられ、やり直した痕跡が残っている。表面・裏面の上端付近に、端面に平行して刃物痕が認められる。壁板であろう。板目。アスナロ属。
1784	17チ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(74.0)	(2.2)	(19.0)	第203図図版107	下端の大部分を欠く。右端付近に長方形の貫通孔が１箇所認められる。横断面は細長い紡錘形である。上端面には、あまり明瞭ではないが、のみのような刃幅の比較的狭い工具による加工痕が認められる。壁板であろう。追柾目。アスナロ属。
1785	17チ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(51.6)	(1.2)	(15.8)	第203図図版106	左右側面に一対の切り欠き加工を施している。表面にはほぼ全面にわたり、手斧によるとみられる丁寧な加工痕が残っている。加工に使用された工具の刃の幅は、4.5cm前後である。上端面・左右側面は平滑であるが、下端面には粗い断ち切り痕が残る。裏面には加工痕は認められない。板目。ヒノキ。
1786	６シ	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(残存50.9)	(1.7)	(10.6)	第203図図版107	左端を欠く。上端左半を欠く。右端は粗く断ち切られている。上端中央に切り欠き加工を施している。右端の上端面に工具による加工痕が認められる。裏面はやや粗い。断面は長方形である。妻壁板か。柾目。アスナロ属。
1787	６シ	Ⅱ	木器類	部材	建築部材厚板	(41.0)	(1.4)	(12.8)	第204図図版108	下端は粗く断ち切られている。上端付近に長方形の貫通孔が１箇所認められる。表面のその周辺は左上方と右下方の２箇所にわたり窪んでいるが、これは使用に伴うものか、単なる腐食によるものか、定かではない。屋根葺き板か。追柾目。アスナロ属。
1788	不明	―	木器類	部材	建築部材厚板	(64.3)	(4.6)	(残存29.3)	第204図図版106	全体に残存状態は良好ではなく、裏面は半分以上原形をとどめていない。ただし、裏面は残存部分でも表面に比べ粗い。左側面に１箇所切り欠き加工を施している。左側縁は厚みを減じて薄く仕上げている。下端面は表面と裏面から粗く断ち切られている。表面に細かな刃物痕が認められる。厚みがあることから建物の床板とみられるが、他用途に転用するための二次加工が加えられているとみるべきか。板目。クリ。
1789	21テ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(残存62.5)	(5.0)	(残存27.9)	第204図図版-	全体に残存状態が良好でないが、上端面と右側面に加工痕が認められる。裏面の右側縁では厚みを減じ、薄く仕上げている。厚みがあることから床板とみられるが、二次加工が施されているとみるべきか。板目。クリ。
1790	16チ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(56.5)	(1.7)	(7.4)	第204図図版110	下端は右側面から左側面に向かって斜めに削り、尖らせている。加工痕が明瞭に残っている。断面は不整な三角形を基本とする。あるいは矢板か。追柾目。サワラ。
1791	17チ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(56.1)	(1.5)	(16.7)	第204図図版108	下端は粗く断ち切られている。裏面下端付近の中央に、貫通しない方形孔が認められる。左側面に２箇所、右側面に４箇所、切り欠き加工を施している。右側面上から３つ目の加工痕の箇所の表面に圧痕が認められる。柾目。アスナロ属。
1792	15タ	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(残存53.0)	(3.8)	(16.4)	第205図図版110	過半が炭化している。ただし下端面は概ね本来の形状を保っているとみられる。表面左端・左側面・裏面右端には、整った幅広の加工痕が認められる。焼失建物の部材であろう。板目。サワラ。
1793	７ス	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(残存56.8)	(1.7)	(15.3)	第205図図版108	上端と下端を欠くが、ともに方形ではなかった可能性が高い。下端は斧のような工具により断ち切られたとみられる。中央右端付近に、方形の貫通孔と、貫通しない円孔がある。表面には、手斧によるとみられる加工痕が多数認められる。左側面下端には刃幅の狭い工具による加工痕が認められる。裏面には加工痕は認められない。板目。アスナロ属。
1794	14タ	YH	木器類	部材	建築部材厚板	(残存55.8)	(2.1)	(残存17.1)	第205図図版-	下端を欠く。左側面も原形を保っていないとみられる。全体に残存状態は良好ではない。上端面に加工痕が認められる。年輪年代測定を試みるも不能。追柾目。スギ。
1795	12ソ	YH	木器類	部材	建築部材厚板	(残存69.9)	(2.2)	(24.3)	第205図図版110	全体に残存状態は良好でなく、上半の左側面は欠失している。最終的には上端・下端ともに三角形状に先端を尖らす形状であった可能性が高い。右側面に１箇所、切り欠き加工を施している。左側面にも同様の加工を施している可能性がある。両端面が被熱し炭化している。裏面の荒れ方は風蝕によるものの可能性がある。板目。サワラ。
1796	16チ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(残存58.6)	(3.4)	(13.3)	第205図図版108	下端を欠く。また、全体に残存状態は良好でなく、加工痕はほとんど認められない。特に裏面は剥落してしまっている部分が多い。上端に枘状の長い突起を備える。板目。クリ。
1797	20テ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(96.1)	(2.7)	(16.9)	第206図図版107	ほぼ全面残存しているが、表面・裏面ともに屈曲する部分が多く平らではない。表面には刃物によるとみられる細かな線状痕や削り加工痕が多数認められる。裏面は表面に比べ粗い。上下端面には断ち切り痕が認められる。壁板か。板目。アスナロ属。

第121表　遺物観察表（69）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1798	21ツ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(残存76.6)	(3.0)	(20.6)	第206図図版-	上端を欠くほか、全体に残存状態は良好でない。表面の大部分は腐食し、裏面の全面と下端面は被熱し炭化している。上端部は本来、半円状のようである。側面に一対の切り欠き加工を施している。あるいは井戸枠か。板目。クリ。
1799	不明	―	木器類	部材	建築部材厚板	(残存58.7)	(1.8)	(12.2)	第206図図版108	上端の右端を欠く。方形貫通孔が３箇所認められる。左右側面に１箇所ずつ切り欠き加工を施している。柾目。アスナロ属。
1800	８シ	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(21.2)	(1.4)	(13.0)	第206図図版110	左右側面に一対の切り欠き加工痕が認められる。上下端面に極めて粗い断ち切り痕が認められる。柾目。ヒノキ。
1801	８シ	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(46.0)	(2.2)	(残存8.8)	第206図図版-	右側面は大部分欠失しているとみられる。左側面に切り欠き加工を施している。表面に交差する２条の圧痕が認められる。柾目。ヒノキ。
1802	20ツ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(48.5)	(1.9)	(15.9)	第206図図版108	ほぼ完形品とみられる。上端面にやや粗い加工痕が認められる。左右側面に一対の切り欠き加工を施している。上端付近の中央に貫通する方形孔が１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1803	12ソ	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(53.2)	(1.7)	(15.8)	第206図図版108	下端中央の抉りは、後世の欠失とみられる。上端は側面に対して斜めに切り落としている。左右側面に一対の切り欠き加工を施している。追柾目。ヒノキ。
1804	20テ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(83.4)	(3.1)	(9.1)	第207図図版110	断面は不整な平行四辺形である。上端・下端の切断は鋸によるものとみられる。柾目。スギ。
1805	５シ	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(残存72.4)	(3.1)	(11.0)	第207図図版107	下端を欠く。断面は長方形である。左側面に粗い切り欠き加工を施している。追柾目。クリ。
1806	21ツ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(残存70.5)	(2.9)	(16.3)	第207図図版109	上端右半と下端右半を欠くが、欠失部分はさほど大きくはないとみられる。下端は側面に対して斜めに切り落としている。右側面は表面に対して垂直でなく斜めであるため、断面は長方形ではない。表面に細かい線状痕がみられるが、古い刃物痕か否かは定かでない。左側面に粗い切り欠き加工を施している。裏面は表面に比べ粗い。柾目。アスナロ属。
1807	７ス	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(61.6)	(1.5)	(10.3)	第207図図版110	右側面は大部分が欠失しているとみられる。上端面に１箇所、右側面に２箇所、左側面に１箇所切り欠き加工を施している。板目。サワラ。
1808	17ツ	YT	木器類	部材	建築部材厚板	(残存53.0)	(1.5)	(8.6)	第207図図版-	上端・下端を欠く。下端は被熱し、炭化している。下端を除く右側面下半を削って幅を減じている。断面は不整な長方形であるが、やや彎曲している。板目。サワラ。
1809	６シ	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(30.8)	(1.5)	(8.4)	第207図図版110	左端の下半を欠く。整った方形の貫通孔が１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1810	７ス	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(残存34.5)	(1.8)	(18.7)	第207図図版-	下端の大部分を欠くが、本来は残存部分のように段差を設けて厚みを減じる形状であったとみられる。右端に１箇所、下端に１箇所、合わせて２箇所に貫通する円孔が認められる。右側面に２箇所、左側面に１箇所、切り欠き加工を施すほか側面には加工痕が多数認められる。板目。ヒノキ。
1811	７ス	Ⅲ	木器類	部材	建築部材厚板	(35.4)	(1.2)	(残存8.2)	第207図図版-	右端を欠く。左側面に切り欠き加工を施している。下端は幅と厚さを減じている。柾目。ヒノキ。
1812	20テ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(39.4)	(1.8)	(8.8)	第207図図版-	上端は粗く断ち切られているが、これは後世の欠損かもしれない。両側面の上端に加工痕が認められる。柾目。サワラ。
1813	７ス	Ⅱ	木器類	部材	建築部材厚板	(残存41.4)	(3.2)	(11.6)	第207図図版-	下端を欠くほか、全体に残存状態が良好ではない。追柾目。サワラ。
1814	18ツ	KT	木器類	部材	建築部材厚板	(27.1)	(1.3)	(9.1)	第207図図版-	下端は斧のような工具で粗く断ち切られたもののようである。これに対して、上端面には比較的丁寧な切断の痕跡（端揃え痕）が認められる。追柾目。サワラ。
1815	17チ	KT	木器類	部材	建築部材	(残存109.7)	(4.6)	(6.7)	第208図図版110	両端を欠く。丁寧な製材によるものではなく、左側面が表面に対して鋭角で、断面が長方形となってはいない。残存部上端では、表面左端を斜めに切り落としている。下端でも同様の加工を施している可能性があるが詳細は不明である。使用部位不明の角材。芯去。サワラ。
1816	17チ	KT	木器類	部材	建築部材	(残存71.7)	(5.2)	(5.7)	第208図図版110	上端を欠く。裏面も残存状態が良好でないため、本来の断面形は判然としない。表面中央左端に切り欠き加工痕が認められる。ただし裏面まで貫通はしないため、作業途上で放棄されたものである可能性がある。芯去。クリ。
1817	５シ	Ⅱ	木器類	部材	建築部材	(49.5)	(2.8)	(18.2)	第208図図版-	右上隅を欠く。全体に腐食が著しい。左右側面に一対の切り欠き加工を施しており、その間に浅い窪みが認められる。柾目。サワラ。

第122表　遺物観察表（70）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1818	６サ	Ⅱ	木器類	部材	建築部材	(45.0)	(1.2)	(5.5)	第208図図版-	下端が本来の形状をとどめていない可能性がある。方形の貫通孔が１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1819	６シ	Ⅲ	木器類	部材	建築部材枠材？	(残存46.0)	(3.1)	(10.6)	第208図図版109	下端を欠く。残存状態が良くないが、本来の断面形は長方形であったとみられる。表面と裏面を貫く枘孔状の長方形の貫通孔が認められる。下端部も同様の構造であった可能性が高い。板目。アスナロ属。
1820	10ソ	―	木器類	部材	建築部材	(残存55.8)	(2.6)	(3.7)	第208図図版110	下端を欠く。上端も右側面を欠く。断面は不整な長方形である。桟材か。芯去。サワラ。
1821	８サ	Ⅱ	木器類	部材	建築部材	(24.0)	(2.6)	(6.1)	第208図図版-	全体に腐食が著しい。上端と下端に枘孔状の加工を施していることから部材とみられるが、不完全なため、未製品の可能性もある。板目。クリ。
1822	18チ	―	木器類	部材	建築部材	(20.6)	(3.4)	(4.5)	第208図図版-	裏面は本来の形状をとどめていないとみられる。表面上端付近の右端に粗い加工痕が認められる。芯去。シオジ節。
1823	５コ	Ⅱ	木器類	部材	建築部材枠材	(19.0)	(5.2)	(7.8)	第208図図版109	ほぼ完形品であるが、裏面と左側面は腐食が著しい。右側面は中央部を上端から下端まで抉り、溝を作っている。溝の奥には、のみによるとみられる連続する加工痕が認められる。表面には直線・曲線の細かな稜線が認められる。これは仕上げ削りに伴うものの可能性が高い。表面と右側面は比較的平滑であるが、上端・下端の切り離し方はやや粗い。板目。アスナロ属。
1824	５シ	Ⅲ	木器類	部材	土木部材杭	(残存71.5)	(6.0)	(7.4)	第209図図版-	上端を欠く。断面は円形である。下端を２方向から切り落とし、尖らせている。芯持。
1825	12ソ	YH	木器類	部材	土木部材杭	(62.0)	(1.5)	(3.7)	第209図図版-	ほぼ完形品である。断面は、上半では表面の丸い半円形であるが、下半では表面を平らに整形しているため方形となっている。下端は左側面を斜めに削って尖らせている。ただし、先端はつぶれている。芯去。
1826	13タ	YT	木器類	部材	土木部材杭	(残存63.1)	(3.2)	(3.5)	第209図図版-	上端を欠く。残存部上端が３面にわたり炭化している。断面は不整な方形である。下端は６方向から斜めに削っているが、先端は尖ってはいない。芯去。
1827	６コ	Ⅱ	木器類	部材	土木部材杭	(残存53.0)	(3.0)	(4.1)	第209図図版-	上端を欠く。下端は３方向から削り、先端を尖らせている。欠失部分と加工部分以外は、樹皮が残る。断面は円形である。芯持。
1828	18ツ	KT	木器類	部材	土木部材杭	(残存32.4)	(1.7)	(2.4)	第209図図版-	上端を欠く。下端は炭化している。裏面はそれ以外の部分も炭化している。下端は３方向から削って先端を尖らせているとみられるが、炭化のため加工痕は明瞭ではない。芯去。
1829	20ツ	KT	木器類	部材	土木部材杭	(14.3)	(2.5)	(3.1)	第209図図版-	ほぼ完形品である。下端は２方向から削り、先端を尖らせている。上端は斜めに切断されている。芯持。
1830	６コ	Ⅱ	木器類	部材	土木部材杭	(残存27.2)	(残存2.9)	(残存5.6)	第209図図版-	上端を欠く。裏面は残存状態が良好でないため、加工痕を読み取り難い。断面は不整な長方形～台形で平たく、板状である。下半を全周から細かく加工し、楔状に削り出している。芯去。
1831	９シ	Ⅱ	木器類	部材	土木部材杭	(残存31.5)	(5.0)	(5.3)	第209図図版-	上端を欠く。樹皮が残る丸太材の下端を４方向から削り、先端を尖らせている。ナタのような工具による加工痕が認められる。芯持。
1832	６コ	Ⅱ	木器類	部材	土木部材杭	(24.7)	(4.0)	(4.3)	第209図図版-	下端は２方向から削り、先端を尖らせている。断面は円形である。上半に浅い刃物痕が多数認められる。芯持。
1833	16ソ	KT	木器類	部材	土木部材杭	(残存41.3)	(3.2)	(3.5)	第209図図版-	上端を欠く。下端は細かく斜めに削り、先端を尖らせている。自然木の樹皮を刃物ではがした跡が認められる。また樹皮は部分的に残っている。芯持。
1834	７ス	Ⅱ	木器類	部材	器具部材紡織具	(残存22.4)	(1.5)	(3.4)	第210図図版112	均整のとれた形状で、加工も丁寧である。ほぼ全形を窺うことができる。中央に一周する帯状の装着痕が認められることから、他の部品と組み合わせて用いられたことは明らかである。４つの円孔が１列に並んでおり、中に木棒がはさまっている。全体が黒色に塗られていたとみられるが、装着痕と木棒の隣りのみはげている。紡織具部材、「かせ」であろう。板目。ヒノキ。
1835	６シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材紡織具？	(5.6)	(1.7)	(1.7)	第210図図版112	完形品とみられる。頭部上端は四角錐状に先端を尖らせている。断面は、頭部は隅を切り落とした方形、軸部は円形である。軸部下端は斜めに切断されている。加工が丁寧であることから、織機などの可能性が考えられる。芯去。サワラ。
1836	７サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材紡織具？	(残存5.1)	(残存1.3)	(2.6)	第210図図版112	下端を欠く。裏面も原形を保っていない可能性が高い。幅広の頭部と、その下に付く細い軸部からなる。頭部は四隅を切り落とした装飾的な形状である。加工が丁寧であることから、織機などの可能性が考えられる。芯去。ヒノキ。
1837	７コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材紡織具	(残存6.9)	(1.2)	(2.0)	第210図図版-	上端を欠く。丁寧な加工を施している。残存部上端には円孔を穿っているようである。糸巻の枠木のうちの１本であろう。柾目。ヒノキ。

第123表　遺物観察表（71）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1838	６サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材 紡織具？	(残存16.7)	(1.6)	(1.6)	第210図 図版112	下端を欠く。下端は欠込み状に段差を設けている。また表面に交差する筋状の加工痕ないし使用痕が認められる。表面は両側を丁寧に削り、均等な３面を作っている。芯去。アスナロ属。
1839	11ス	Ⅲ	木器類	部材	器具部材 容器部材？	(残存22.3)	(0.6)	(1.4)	第210図 図版113	右端を欠く。中央下端に樹皮紐１本が貫通している。左端付近に認められる切り込みも、同様の加工の痕跡の可能性がある。容器の側板か。柾目。ヒノキ。
1840	８サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材 有孔薄板	(15.0)	(0.8)	(7.5)	第210図 図版113	貫通する小さな円孔が４箇所認められる。うち１箇所には木釘の一部が残っている。平面形は長方形ではなく、平行四辺形であり、断面は長方形である。小型の箱状製品か何かの一部か。板目。アスナロ属。
1841	７コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材 有孔薄板	(残存9.5)	(0.4)	(残存5.1)	第210図 図版-	下端を欠く。右端も欠失している可能性が高い。中央にごく小さな貫通孔が１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1842	８コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材 有孔薄板	(残存11.9)	(0.4)	(残存5.9)	第210図 図版-	本来の平面形は円形であったとみられるが、下端は人為的に切断されている可能性が高く、二次加工を受けていると推定される。ごく小さな円形貫通孔が２箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1843	６シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(20.2)	(1.7)	(10.8)	第210図 図版-	右端・左端の過半を欠く。右端の上半を一段高く削り出している。下端にはＶ字状の加工を施しているが、これは転用時の二次加工かもしれない。箱か。柾目。ヒノキ。
1844	５コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存14.9)	(0.6)	(2.7)	第210図 図版115	下端を欠く。上端付近に貫通する小円孔が１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1845	７シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存16.0)	(0.8)	(5.7)	第210図 図版115	下端を欠く。貫通する小円孔が１箇所認められる。柾目。ヒノキ。
1846	６シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存15.6)	(1.0)	(6.3)	第210図 図版-	下端を欠く。右端付近に貫通しない長方形の孔が１箇所認められる。柾目。
1847	10ス	Ⅲ	木器類	部材	器具部材	(29.3)	(3.0)	(7.4)	第211図 図版115	裏面下半の一部を欠く。中央やや下方に貫通孔あり。上端付近の表面・左右側面に２条の溝を伴う精巧な切り欠き加工が認められる。裏面中央に大きな空洞を備え、上端まで貫通させている。表面・左右側面に刃物によるとみられる傷が認められる。あるいは自在鉤の部材か。板目。スギ。
1848	５ケ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(44.9)	(1.7)	(1.9)	第211図 図版115	折れてはいるものの、ほぼ完形品である。中央部にくらべ、上端・下端ではやや細くなっている。断面は八角形である。糸巻き具ないしは布巻き具か。芯去。ヒノキ。
1849	14タ	YT	木器類	部材	器具部材	(残存45.9)	(1.5)	(2.6)	第211図 図版-	先端を欠くが、上端は欠込み状に段差を設けている。下端の本来の形状は不明である。断面は比較的整った長方形である。あるいは建築部材か。柾目。
1850	７コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(8.6)	(2.5)	(4.7)	第211図 図版115	ほぼ完形品とみられるが、右側面は欠失しているかもしれない。上端を枘状に削り出している。断面は不整な半円形である。脚か。芯去。アスナロ属。
1851	11ス	Ⅲ	木器類	部材	器具部材	(残存14.8)	(0.8)	(4.2)	第211図 図版-	下端を欠く。上端右半は細かく斜めに切断されている。右側面に切り欠き加工を施している。板目。サワラ。
1852	７コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(8.0)	(2.0)	(4.5)	第211図 図版-	表面の下端付近に横方向の溝が刻まれているが、これは鋸によるものとみられる。表面左端に段差を設けている。板目。ヒノキ。
1853	７シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(10.1)	(1.0)	(4.5)	第211図 図版-	左側面は欠失している可能性がある。貫通する円孔が１箇所認められる。板目。ヒノキ。
1854	７コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(14.2)	(1.0)	(3.2)	第212図 図版-	表面の上端・下端が炭化しているが、形状から火付け木ではないと判断した。上端面に加工痕が認められる。裏面には刃物によるとみられる線状痕が認められる。上端付近の両側面にくびれが認められる。板目。ヒノキ。
1855	５コ	Ⅲ	木器類	部材	器具部材	(残存13.7)	(0.7)	(残存2.6)	第212図 図版-	残存部分が少ないため本来の形状は不明であるが、元は容器の底板だった可能性がある。左端にみられる半円状の抉りは転用時の二次加工か。貫通する樹皮紐が１箇所認められる。表面に細かな刃物痕が多数認められる。柾目。ヒノキ。
1856	６シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(12.9)	(2.0)	(3.2)	第212図 図版-	ほぼ完形品とみられるが、下端は欠失している可能性がある。中央付近に２つの円がつながった形状の貫通孔が認められる。下端面を除き、各面の整形は比較的丁寧である。柾目。
1857	５コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存12.2)	(0.9)	(2.7)	第212図 図版-	下端を欠く。貫通する円孔が２箇所認められる。板目。サワラ。
1858	７サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存13.4)	(1.5)	(2.4)	第212図 図版116	下端を枘状に削り出しているが、先端を欠く。上端付近に貫通する小円孔を１箇所設けている。残存部下端にも同様の貫通孔の痕跡が認められる。芯去。アスナロ属。

第124表　遺物観察表（72）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1859	７コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(15.2)	(2.3)	(3.2)	第212図図版-	裏面と下端面の残存状態がよくないが、全体に丁寧な加工が施され、平滑に仕上げている。右側面の中央付近に段差を設けている。上端面と下端面はゆるやかな曲面である。あるいは織機の部材か。芯去。ヒノキ。
1860	７シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(12.0)	(3.3)	(4.4)	第212図図版116	上端の大部分を欠く。上端の一部は原形をとどめていると判断したが、あるいはさらに上方に伸びるかもしれない。下端を枘孔状に加工している。断面は不整な隅丸方形である。芯去。クリ。
1861	20ツ	KDT	木器類	部材	器具部材	(20.0)	(0.8)	(4.2)	第212図図版-	下端を欠く。全体に腐食が著しい。上端付近に貫通孔が認められるが､後世の破損である可能性もある。柾目。ヒノキ。
1862	６ケ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存16.8)	(1.4)	(1.4)	第212図図版-	上端・下端を欠く。断面は円形である。下端は枘状に加工途上であったとみられる。あるいは未製品と捉えるべきか。芯去。ヒノキ。
1863	５シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(21.0)	(1.5)	(4.8)	第212図図版115	右隅を欠くが、ほぼ全形を窺うことができる。貫通する小円孔が２つ認められ、そのうちの１つには木釘が残っていた。さらに２対の切り込みが認められ、そのうちの１つには樹皮を通している。以上は均整のとれた配置をなしている。追柾目。ヒノキ。
1864	15ソ	KDT	木器類	部材	器具部材	(残存12.2)	(0.5)	(2.4)	第212図図版-	下端を欠く。中央に貫通する円孔が１箇所認められる。板目。ヒノキ。
1865	８サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(11.3)	(1.3)	(4.0)	第212図図版115	下端面は、あるいは欠けているのかもしれない。上端面の左端と右端に段状の切り欠き加工を施している。中央に貫通する小円孔が３箇所認められる。表面に刃物によるとみられる線状痕が認められる。小型の容器などの部材である可能性が考えられる。板目。アスナロ属。
1866	17ソ	KDT	木器類	部材	器具部材	(11.6)	(1.8)	(3.7)	第212図図版115	ほぼ完形品である。下端面はやや粗い。平面形はほぼ台形である。表面の左右両端付近は斜めに削っている。形状は比較的整っていることから、器具部材と推定される。柾目。ヒノキ。
1867	５コ	Ⅲ	木器類	部材	器具部材	(残存24.8)	(1.0)	(7.5)	第213図図版116	上端を欠く。二次加工を受けている可能性が高く、元は楕円形曲物の底板であったとみられる。下端に段差を設けており、貫通する小円孔が３箇所認められる。また、上端付近にも貫通孔が２箇所認められる。裏面中央やや下には貫通しない小円孔が２箇所認められる。板目。アスナロ属。
1868	13タ	YT	木器類	部材	器具部材	(残存25.2)	(1.3)	(1.6)	第213図図版116	下端を欠く。上端は枘状に削り出している。下端も本来は同様の形状であった可能性がある。芯去。サワラ。
1869	５コ	Ⅲ	木器類	部材	器具部材	(残存23.1)	(1.3)	(1.6)	第213図図版-	両端に枘を作り出すが、ほとんど欠失している。枘の付け根には、いずれも貫通孔があったとみられる。芯去。
1870	７サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(24.5)	(1.6)	(2.3)	第213図図版116	ほぼ完形品である。断面楕円形の棒の上端を有頭状に削り出している。芯去。モミ属。
1871	７サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(23.6)	(1.2)	(1.4)	第213図図版116	ほぼ完形品とみられる。断面方形で形状は整っている。上端と下端を枘状に加工しており、それぞれ１箇所ずつ小さな貫通孔が認められる。芯去。ヒノキ。
1872	５コ	Ⅲ	木器類	部材	器具部材	(29.7)	(2.0)	(3.0)	第213図図版116	表面と裏面に剥落部分や腐食部分が多いが、ほぼ全形を窺うことができる。上端と下端は両側面を削り、截頭角錐形に整形している。表面の中央部は削って段差を設けている。裏面の下端付近は曲面的に抉っている。柾目。アスナロ属。
1873	５コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(20.7)	(2.7)	(3.3)	第213図図版116	２つに割れている。中央に方形の枘孔を持つ。上端・下端は截頭角錐状に加工を施している。芯去。ヒノキ。
1874	８サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存25.0)	(3.6)	(4.5)	第213図図版-	下端を欠く。上端も一部欠失している。全体に平滑で、残存部下端に段差を設けていることから、器具部材とみられる。芯去。ヒノキ。
1875	17ソ	Ⅰ	木器類	部材	器具部材	(18.7)	(1.8)	(2.2)	第213図図版-	上端は欠失している可能性がある。表面は比較的平坦であるが、裏面は丸みを帯びている。表面と裏面に狭い溝状の加工を施している。下端にも加工痕が認められる。芯去。サワラ。
1876	７コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存5.4)	(1.5)	(2.8)	第213図図版115	下端を欠く。また、裏面も本来の形状をとどめていない可能性がある。内側を抉っており、断面はコの字状である。上端中央に切り込みが認められる。芯去。ヒノキ。
1877	６ケ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(22.6)	(0.9)	(7.5)	第214図図版-	上端・下端の中央を枘孔状に抉っている。上端には木釘が１つ認められるが､下端の対応する位置にも同様の孔があった可能性がある。左端に段差を設けている。柾目。サワラ。
1878	４ク	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存19.3)	(0.8)	(4.9)	第214図図版-	下端を欠く。右側面残存部のほぼ全面に細かな加工痕が多数認められる。下端付近には枘孔状の加工が施されていたようである。柾目。ヒノキ。

第125表　遺物観察表（73）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1879	８サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存17.9)	(2.7)	(3.2)	第214図図版116	上端を欠く。下端も大部分を欠くとみられる。下端を枘孔状に加工している。側面に貫通孔を１箇所設けている。断面は長方形である。芯去。アスナロ属。
1880	８シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存8.6)	(0.5)	(3.6)	第214図図版-	下端を欠く。中央に貫通する円孔が１つ認められる。柾目。ヒノキ。
1881	７シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存10.0)	(0.5)	(4.0)	第214図図版-	下端を欠く。表面から２つの長方形孔を穿っているが、いずれも完全に貫通してはいない。柾目。ヒノキ。
1882	８ス	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存9.2)	(0.5)	(2.6)	第214図図版-	下端を欠く。左端付近に一対の切り込みが認められ、樹皮紐とみられる異物がはさまっている。曲物底板を二次加工したものか。柾目。ヒノキ。
1883	15タ	YT	木器類	部材	器具部材	(残存12.2)	(0.7)	(1.5)	第214図図版116	上端を欠く。断面は円形を基本とするが、下端は幅広で細かな加工を施している。部材のほか、簪・笄など、または武器・工具などの形代の可能性もあると考えるが、定かではない。芯去。サワラ。
1884	５コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(11.0)	(0.6)	(1.8)	第214図図版-	中央部は断面方形の棒状であるが、上端・下端は幅広である。あるいは端材か。柾目。ヒノキ。
1885	４コ	Ⅲ	木器類	部材	器具部材	(残存11.5)	(0.5)	(3.0)	第214図図版-	下端を欠く。貫通孔が１箇所認められるが、孔形状は整っていない。柾目。サワラ。
1886	８シ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材 容器部材？	(9.2)	(0.7)	(1.5)	第214図図版113	板状である。裏面の一部を欠く。裏面を除くほぼ全面に黒色の漆が塗られている。断面は長方形である。容器の脚などの可能性がある。柾目。ヒノキ。
1887	12年度試掘坑4	―	木器類	部材	器具部材	(9.4)	(1.6)	(2.1)	第214図図版116	完形品とみられる。平面形は左右対称ではなく片側の側縁のみ曲線的で、下端が外に開く。上端に断面楕円形の枘を備える。膳などの脚であろう。芯去。サワラ。
1888	５ケ	U	木器類	部材	器具部材	(残存9.9)	(1.2)	(1.3)	第214図図版116	下端を欠くものの、精巧な作りの小型品である。円柱の上端を削り出して円錐状としている。その下も抉って細くしているが、その他は整った断面円形の棒状である。芯持の小枝を利用しているとみられることから、本来は二股であった可能性がある。あるいは鉤材か。芯持。マツ属複維管束亜属。
1889	８サ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存8.6)	(0.7)	(3.6)	第214図図版-	上端・下端の一部を欠く。下端付近に円孔が１つあったとみられる。精巧な作りで、上端は曲線的、下端は直線的に仕上げている。板目。ヒノキ。
1890	５ケ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(7.0)	(0.7)	(4.6)	第214図図版-	下端は本来の形状をとどめていない可能性がある。中央に貫通する円孔が１つ認められる。板目。モミ属。
1891	６コ	Ⅲ	木器類	部材	器具部材	(3.0)	(0.7)	(残存2.5)	第214図図版115	周縁部を細かく削り整形している。本来は残存部下方に軸が付くような形状であった可能性がある。中央に貫通する円孔が１箇所認められる。上端面右半には、溝を刻んでいる。柾目。ヒノキ。
1892	21ツ	KT	木器類	部材	器具部材	(残存4.8)	(0.4)	(1.2)	第214図図版-	下端を欠く。上端は両側面を中央に向かって斜めに削り、先端を尖らせている。中央に貫通する円孔が１箇所認められる。留め具（固定補助具）の一種か。板目。
1893	６コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存6.6)	(0.7)	(3.0)	第214図図版-	下端を欠き、全体形状は不明である。左右側面に一対の切り欠き加工を施している。この部分を含め、仕上げが丁寧で精巧な作りである。器具部材、あるいは工具の柄とみられる。板目。
1894	６コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(残存7.7)	(0.5)	(1.6)	第214図図版-	下端は欠失している可能性が高い。右側面に切り欠き加工を施している。追柾目。ヒノキ。
1895	５コ	Ⅱ	木器類	部材	器具部材	(6.5)	(2.1)	(残存2.2)	第214図図版-	上端面は粗いが、それ以外の各面は平滑である。特に下端面は丁寧に削って仕上げている。容器の脚部か。芯去。ヒノキ。
1896	17ソ	KT	木器類	加工材	割板	(91.0)	(3.9)	(17.6)	第215図図版118	全面に粗い加工痕が残り、形状も整っていない。上下端面は粗く断ち切られたままであり、左右側面は整った面を持つに至っていない。表面は凹凸が著しい。裏面は比較的整っているものの、平滑ではない。板目。クロベ。
1897	17チ	KT	木器類	加工材	割板	(76.7)	(6.6)	(17.0)	第215図図版118	平面形は細長い三角形、断面は円形～台形状である。表面は曲面だが、裏面は平らである。表面と両側面には粗く加工した痕跡が明瞭に残っている。裏面にもわずかに加工痕らしいものがみえる。みかん割り。クリ。
1898	14タ	YT	木器類	加工材	割板	(残存85.1)	(3.2)	(8.1)	第215図図版118	上端を欠く。下端は両端を粗く切り落とし、三角形に整形している。裏面をほとんど加工していないため、断面は長方形ではない。追柾目。サワラ。
1899	15チ	YT	木器類	加工材	割板	(138.0)	(7.0)	(17.3)	第215図図版118	下端は粗く削って尖らせているが、さほど鋭くはない。全体に残存状態は良好でないが、断面は不整な三角形を基本とする。板目。サワラ。

第126表　遺物観察表（74）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1900	５コ	Ⅱ	木器類	加工材	割板残材	(14.5)	(4.5)	(9.8)	第215図図版118	表面は丸木の曲面のままである。左右側面と裏面は粗く割られた状態のままで、整形は施していない。上下端面には粗い断ち切り痕が認められる。板目。ヒノキ。
1901	16ソ	KDT	木器類	加工材	割板残材	(16.7)	(1.4)	(7.9)	第215図図版-	下端はきれいに斜めに切断されている。表面の下端付近は削って薄くしている。製材段階で厚み調整のために剥ぎ取られた木片か、もしくは製品を壊したものと推定する。追柾目。ヒノキ。
1902	６コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(18.2)	(2.8)	(4.4)	第216図図版117	下端面のみやや粗い。1903に類似する。柾目。ヒノキ。
1903	６シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(19.6)	(3.0)	(4.4)	第216図図版117	両端面はやや粗い。1902に類似する。柾目。ヒノキ。
1904	６コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(17.4)	(2.7)	(3.2)	第216図図版117	横断面は整った楕円形である。上端面・下端面はいずれも粗く断ち切られている。芯去。ヒノキ。
1905	５コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(16.8)	(3.2)	(5.7)	第216図図版117	上端面はやや粗いが、それ以外の各面は比較的平滑である。板目。ヒノキ。
1906	５サ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(14.3)	(3.5)	(9.1)	第216図図版117	表面・裏面は曲面であり、あまり平滑ではない。両側面は比較的平滑である。上端面には粗い断ち切り痕が認められる。下端面はより平滑で、鋸による切断とみられる。板目。ヒノキ。
1907	７コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(12.0)	(3.5)	(5.4)	第216図図版117	右側面の大部分、および裏面・左側面の一部が炭化している。表面・両側面・下端面は比較的平滑であるが、上端面と裏面は粗い。芯去。ヒノキ。
1908	６サ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(11.5)	(3.5)	(10.4)	第216図図版117	両端面は比較的平滑だが、それ以外の各面は粗い。板目。サワラ。
1909	４コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(14.3)	(5.0)	(5.2)	第216図図版117	表面・裏面と両側面は比較的平滑だが、両端面は粗い。柾目。ヒノキ。
1910	６シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(12.8)	(4.3)	(6.0)	第216図図版117	上端面は比較的平滑だが、それ以外の各面は粗い。板目。ヒノキ。
1911	６コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(12.3)	(3.7)	(3.2)	第216図図版117	各面いずれも平滑であるが、裏面は割られたままの状態であり、段差を持つ。柾目。ヒノキ。
1912	７サ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(10.3)	(5.1)	(4.1)	第216図図版117	下端面は比較的平滑であるが、それ以外の各面は粗い。板目。ヒノキ。
1913	５シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(6.4)	(2.7)	(3.8)	第216図図版117	いずれの面も比較的平滑であるが、上端面の形状は平らではない。板目。ヒノキ。
1914	６シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(8.6)	(1.1)	(5.8)	第217図図版117	下端面はやや粗いが、それ以外の各面は比較的平滑である。追柾目。ヒノキ。
1915	５ケ	Ⅲ	木器類	加工材	端材	(9.5)	(2.0)	(4.6)	第217図図版117	全体に腐食が著しい。板目。クリ。
1916	６シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(7.2)	(5.5)	(6.6)	第217図図版117	全体に腐食・痛みが著しいが、各面いずれも比較的平滑である。芯去。ヒノキ。
1917	７コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(9.5)	(3.7)	(6.6)	第217図図版117	各面いずれも粗い。追柾目。ヒノキ。
1918	５コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(10.0)	(2.4)	(6.9)	第217図図版117	表面・裏面とも曲面である。各面いずれも比較的平滑であるが、両端の切断は鋸によるものとみられる。板目。ヒノキ。
1919	５シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(9.6)	(1.8)	(6.6)	第217図図版117	表面・裏面と両側面は比較的平滑だが、両端面は粗い。板目。ヒノキ。
1920	８ス	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(6.5)	(2.3)	(4.3)	第217図図版117	全体に残存状態は良好ではない。裏面は原形をとどめていない。両端面は比較的平滑である。板目。サワラ。
1921	５サ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(10.8)	(2.1)	(8.0)	第217図図版117	左側面は一部欠失。それ以外の各面は比較的平滑である。節の部分はきれいに切り離されており、これは鋸によるとみられる。追柾目。ヒノキ。
1922	６コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(6.5)	(3.4)	(5.8)	第217図図版117	右側面の下端隅１箇所を斜めに切り落としている。両端面と左側面は比較的平滑であるが、それら以外の各面は粗い。板目。ヒノキ。
1923	15ソ	KDT	木器類	加工材	端材	(10.8)	(3.8)	(5.2)	第217図図版117	両端面と両側面は比較的平滑である。表面は原形をとどめていない可能性がある。裏面は粗く割られたままの状態である。柾目。ヒノキ。
1924	７コ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(7.0)	(2.6)	(5.1)	第217図図版117	表面は比較的平滑であるが、裏面は粗く割られたままの状態である。両側面は比較的平滑である。芯去。ヒノキ。
1925	９シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(3.9)	(3.2)	(3.7)	第217図図版117	両端面と右側面は比較的平滑であるが、その他の各面は粗い。芯去。ヒノキ。

第127表　遺物観察表（75）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1926	８サ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(5.0)	(3.0)	(3.0)	第217図図版117	表面中央に、縦方向の段差が認められる。各面いずれも比較的平滑である。芯去。ヒノキ。
1927	19タ	Ⅰ	木器類	加工材	端材	(4.5)	(5.0)	(3.7)	第217図図版118	表面に、傾斜をつけた「蟻枘」を設けている。裏面を除く各面の整形は比較的丁寧である。上端面には鋸によるとみられる切断痕が認められ、長さ調節のためここで切り取られて残った端材と判断する。芯去。アスナロ属。
1928	８ス	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(4.0)	(1.7)	(3.8)	第217図図版117	いずれの面も比較的平滑である。上端面は下端面に対して斜めである。板目。ヒノキ。
1929	９シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(7.8)	(2.3)	(3.0)	第217図図版117	表面・裏面は比較的平滑であるが、それら以外の各面は粗い。柾目。ヒノキ。
1930	９シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(4.3)	(2.7)	(2.6)	第217図図版117	形状は整っていないものの、各面いずれも比較的平滑である。柾目。ヒノキ。
1931	９シ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(6.6)	(0.7)	(5.9)	第217図図版117	上端面はやや粗いが、それ以外の各面は比較的平滑である。板目。ヒノキ。
1932	７サ	Ⅱ	木器類	加工材	端材	(5.4)	(5.1)	(4.8)	第217図図版117	上端は平らに切断している。下端は３方向から斜めに切り落としている。芯持。クリ。
1933	20テ	KT	木器類	分類不能木器	不明	(残存17.4)	(1.4)	(残存5.6)	第217図図版-	腐食が進み、細かくくだけているため、加工範囲や本来の形状は推定困難である。柾目。アサダ。
1934	19チ	KDT	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存2.9)	(0.5)	(残存1.5)	第218図図版119	左脚部下端を欠く。石材は下呂石。重さ1.7g。
1935	12ソ	YH	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存2.8)	(0.3)	(1.3)	第218図図版119	左脚部下端を欠く。石材は下呂石。重さ1.0g。
1936	８シ	Ⅱ	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存2.4)	(0.4)	(1.4)	第218図図版119	先端を欠く。石材は下呂石。重さ1.1g。
1937	20チ	KDT	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存2.3)	(0.4)	(1.4)	第218図図版119	先端を欠く。石材は下呂石。重さ0.7g。
1938	12ソ	YH	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(1.9)	(0.3)	(1.4)	第218図図版119	石材は下呂石。重さ0.5g。
1939	16セ	Ⅲ	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(2.0)	(0.6)	(1.8)	第218図図版119	石材はチャート。重さ1.5g。
1940	17ソ	KT	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(2.5)	(0.5)	(1.5)	第218図図版119	石材は玉髄。重さ1.2g。
1941	18ソ	KDT	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存2.3)	(0.4)	(残存1.5)	第218図図版119	左脚部下端を欠く。石材は下呂石。重さ0.7g。
1942	13ソ	YH	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(2.4)	(0.4)	(1.2)	第218図図版119	石材は下呂石。重さ0.6g。
1943	６コ	Ⅱ	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存1.6)	(0.3)	(1.4)	第218図図版119	先端の左側縁を欠く。石材は下呂石。重さ0.4g。
1944	７サ	Ⅱ	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存1.3)	(0.4)	(残存1.3)	第218図図版119	先端・脚部を欠く。石材は下呂石。重さ0.5g。
1945	５コ	Ⅱ	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(1.5)	(0.4)	(1.2)	第218図図版119	石材は凝灰岩。重さ0.5g。
1946	18タ	KT	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存1.8)	(0.4)	(残存1.6)	第218図図版119	先端と左脚部下端を欠く。石材は下呂石。重さ0.8g。
1947	19チ	KDT	石器類	石鏃	凹基無茎鏃	(残存1.6)	(0.4)	(1.4)	第218図図版119	先端と右脚部下端を欠く。石材は黒曜石。重さ0.9g。
1948	12セ	Ⅰ	石器類	石鏃	平基無茎鏃	(1.7)	(0.3)	(1.3)	第218図図版119	石材は黒曜石。重さ0.5g。
1949	17タ	KTⅡ	石器類	石鏃	平基無茎鏃	(残存1.7)	(0.3)	(残存1.3)	第218図図版119	基部右半を欠く。石材は下呂石。重さ0.5g。
1950	15チ	KT	石器類	石鏃	凹基有茎鏃	(4.3)	(0.7)	(1.7)	第218図図版119	石材は下呂石。重さ3.2g。
1951	５シ	Ⅱ	石器類	石鏃	凹基有茎鏃	(残存3.4)	(0.8)	(1.2)	第218図図版119	先端と茎下端を欠く。石材は下呂石。重さ2.2g。
1952	13ソ	YH	石器類	石鏃	凹基有茎鏃	(2.1)	(0.3)	(1.2)	第218図図版119	石材は黒曜石。重さ0.6g。
1953	16ソ	KDT	石器類	石鏃	凹基有茎鏃	(残存1.6)	(0.5)	(残存1.8)	第218図図版119	先端と右脚部下端を欠く。石材は下呂石。重さ0.9g。
1954	17ソ	KDT	石器類	石鏃	凹基有茎鏃	(残存1.5)	(0.4)	(1.5)	第218図図版119	先端を欠く。石材は黒曜石。重さ0.7g。
1955	３ケ	Ⅲ	石器類	石鏃	平基有茎鏃	(残存1.3)	(0.3)	(1.0)	第218図図版119	先端を欠く。石材は下呂石。重さ0.3g。
1956	12ソ	YH	石器類	石鏃	凸基有茎鏃	(3.4)	(0.9)	(2.0)	第218図図版119	石材は下呂石。重さ5.1g。
1957	18ソ	KDT	石器類	石鏃	凸基有茎鏃	(残存3.0)	(0.7)	(1.7)	第218図図版119	先端を欠く。石材は下呂石。重さ3.2g。
1958	４コ	Ⅲ	石器類	石鏃		(残存1.5)	(0.4)	(残存1.5)	第218図図版119	先端と基部を欠く。石材はチャート。重さ0.9g。
1959	12セ	YH	石器類	石錐		(3.1)	(0.6)	(2.2)	第218図図版119	刃部に刃こぼれが認められる。石材はチャート。重さ2.3g。
1960	19チ	Ⅰ	石器類	石錐		(残存2.6)	(0.5)	(残存0.9)	第218図図版119	上端を欠く。石材はチャート。重さ1.1g。
1961	20チ	KDT	石器類	石錐		(2.4)	(0.7)	(0.8)	第218図図版119	石材は下呂石。重さ1.5g。
1962	５ケ	Ⅱ	石器類	石匙		(2.8)	(0.4)	(4.4)	第219図図版119	刃部に刃こぼれが認められる。石材はチャート。重さ5.7g。
1963	17ソ	KDT	石器類	楔形石器		(4.5)	(0.8)	(1.9)	第219図図版119	石材はチャート。重さ9.0g。
1964	18タ	KDT	石器類	スクレイパー		(4.1)	(0.9)	(2.6)	第219図図版119	石材は黒曜石。重さ7.1g。
1965	19チ	KT	石器類	スクレイパー		(2.8)	(2.2)	(0.8)	第219図図版119	石材は黒曜石。重さ2.4g。あるいは石錐か。
1966	17ソ	KT	石器類	スクレイパー		(2.8)	(1.2)	(3.3)	第219図図版119	石材は下呂石。重さ11.3g。
1967	11シ	Ⅰ	石器類	スクレイパー		(残存4.4)	(0.9)	(3.4)	第219図図版119	下端を欠く。石材はチャート。重さ7.1g。
1968	19チ	Ⅰ	石器類	スクレイパー		(6.9)	(1.4)	(2.9)	第219図図版119	石材は下呂石。重さ24.4g。

第128表　遺物観察表（76）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
1969	12ソ	YH	石器類	打製石斧		(12.3)	(2.0)	(5.7)	第219図図版120	刃部表面摩滅。表面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ165.8g
1970	不明	―	石器類	打製石斧		(10.3)	(1.2)	(5.2)	第219図図版-	石材は緑色片岩。重さ75.4g。
1971	17ソ	KDT	石器類	打製石斧		(15.8)	(3.9)	(7.1)	第219図図版-	全体に摩滅している。表面の下半に部分的に線状痕。石材は凝灰岩。重さ483.3g。
1972	20ツ	KT	石器類	打製石斧		(16.0)	(2.8)	(8.0)	第220図図版-	全体に摩滅している。表面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ379.9g。
1973	18タ	KDT	石器類	打製石斧		(13.5)	(4.1)	(6.4)	第220図図版120	極めて分厚い。全体に摩滅している。表面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ369.5g。
1974	17ソ	KT	石器類	打製石斧		(19.8)	(2.9)	(8.3)	第220図図版120	刃部表面摩滅。表面の下端に線状痕。石材は緑色片岩。重さ510.7g。
1975	18タ	KDT	石器類	打製石斧		(17.8)	(3.2)	(6.5)	第220図図版-	刃部表面・裏面摩滅。表面は線状痕も認められる。石材は凝灰岩。重さ387.6g。
1976	13タ	YT	石器類	打製石斧		(15.9)	(2.6)	(7.7)	第220図図版120	石材は凝灰岩。重さ419.8g。
1977	14ソ	YH	石器類	打製石斧		(14.7)	(3.7)	(8.8)	第220図図版120	全体に摩滅している。石材は凝灰岩。重さ523.3g。
1978	17ソ	KT	石器類	打製石斧		(14.6)	(2.3)	(6.3)	第221図図版120	全体に摩滅している。石材は凝灰岩。重さ233.4g。
1979	17ソ	KDT	石器類	打製石斧		(12.5)	(2.8)	(8.3)	第221図図版120	石材は凝灰岩。重さ279.1g。
1980	12ソ	YH	石器類	打製石斧		(14.6)	(3.9)	(6.2)	第221図図版-	全体に摩滅している。表面・裏面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ433.0g。
1981	15タ	YT	石器類	打製石斧		(19.6)	(4.6)	(9.8)	第221図図版120	刃部表面・裏面摩滅。表面には線状痕も認められる。石材は濃飛流紋岩。重さ875.9g。
1982	15タ	YH	石器類	打製石斧		(残存14.7)	(2.1)	(6.9)	第221図図版-	上端を欠く。刃部表面・裏面摩滅。石材は凝灰岩。重さ243.0g。
1983	18ソ	KDT	石器類	打製石斧		(17.3)	(3.9)	(8.7)	第221図図版120	石材は凝灰岩。重さ539.0g。
1984	８サ	Ⅱ	石器類	打製石斧		(14.2)	(2.8)	(5.7)	第222図図版120	表面・裏面の下端付近に線状痕。石材は凝灰岩。重さ278.3g。
1985	12ス	Ⅰ	石器類	打製石斧		(11.4)	(2.8)	(5.4)	第222図図版-	石材は凝灰岩。重さ158.1g。
1986	14ソ	YH	石器類	打製石斧		(10.8)	(1.9)	(5.1)	第222図図版-	表面の下端付近に線状痕。石材は凝灰岩。重さ104.6g。
1987	17ソ	KDT	石器類	打製石斧		(10.8)	(2.5)	(5.6)	第222図図版-	表面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ155.7g。
1988	14タ	Ⅲ	石器類	打製石斧		(10.1)	(1.4)	(6.2)	第222図図版-	刃部表面・裏面摩滅。石材は緑色片岩。重さ103.3g。
1989	17ソ	KT	石器類	打製石斧		(10.2)	(1.4)	(4.6)	第222図図版-	全体に摩滅している。石材は凝灰岩。重さ63.6g。
1990	19タ	Ⅰ	石器類	打製石斧		(10.3)	(1.1)	(5.6)	第222図図版-	表面の下端に線状痕。石材は緑色片岩。重さ82.8g。
1991	18タ	KDT	石器類	打製石斧		(10.1)	(2.1)	(5.4)	第222図図版-	表面の下半に線状痕。石材は凝灰岩。重さ125.2g。
1992	14ソ	KDT	石器類	打製石斧		(10.9)	(1.6)	(5.3)	第222図図版120	全体に摩滅している。石材は凝灰岩。重さ114.4g。
1993	21ツ	KDT	石器類	打製石斧		(10.3)	(1.7)	(4.9)	第222図図版-	全体に摩滅している。石材は凝灰岩。重さ86.8g。
1994	12ソ	Ⅲ	石器類	打製石斧		(10.2)	(1.6)	(6.7)	第222図図版120	全体に摩滅している。表面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ119.4g。
1995	６コ	Ⅱ	石器類	打製石斧		(10.0)	(2.0)	(4.5)	第222図図版120	表面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ101.2g。
1996	14ソ	KDT	石器類	打製石斧		(15.0)	(1.9)	(6.2)	第223図図版120	全体に摩滅している。石材は凝灰岩。重さ241.0g。
1997	16タ	KT	石器類	打製石斧		(10.1)	(2.9)	(6.7)	第223図図版-	刃部表面・裏面摩滅。石材は凝灰岩。重さ189.4g。
1998	15セ	KDT	石器類	打製石斧		(12.5)	(2.8)	(5.2)	第223図図版-	全体に摩滅している。石材は砂岩。重さ181.8g。
1999	12ソ	YH	石器類	打製石斧		(11.5)	(2.3)	(6.2)	第223図図版120	刃部表面・裏面摩滅。表面・裏面の下端付近に線状痕。石材は濃飛流紋岩。重さ200.1g。
2000	19チ	KDT	石器類	打製石斧		(8.8)	(2.0)	(4.8)	第223図図版-	全体に摩滅している。表面下半に線状痕。石材は凝灰岩。重さ79.4g。
2001	16ソ	KT	石器類	打製石斧		(9.5)	(1.6)	(4.4)	第223図図版-	表面の下端に線状痕。石材は凝灰岩。重さ70.1g。

第129表　遺物観察表（77）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
2002	18タ	KDT	石器類	打製石斧		(残存14.5)	(2.7)	(8.8)	第223図図版120	上端を欠く。刃部表面・裏面摩滅。表面の下端に線状痕。石材は濃飛流紋岩。重さ453.6g。
2003	17ソ	KT	石器類	打製石斧		(19.4)	(1.1)	(8.4)	第223図図版120	上端の一部を欠く。使用痕は認められない。石材は濃飛流紋岩。重さ270.6g。
2004	11ソ	Ⅲ	石器類	打製石斧		(8.6)	(1.9)	(4.7)	第224図図版-	表面・裏面の下端付近に線状痕。石材は凝灰岩。重さ80.8g。
2005	15セ	Ⅲ	石器類	打製石斧		(8.6)	(1.8)	(5.6)	第224図図版120	表面の左右側縁下半が摩滅している。石材は濃飛流紋岩。重さ99.0g。
2006	14ソ	YH	石器類	打製石斧		(8.9)	(1.8)	(5.3)	第224図図版-	左側縁は欠失している可能性がある。石材は緑色片岩。重さ100.9g。
2007	17ソ	KDT	石器類	打製石斧		(残存12.5)	(2.9)	(12.8)	第224図図版120	刃部表面・裏面摩滅。表面には線状痕も認められる。石材は濃飛流紋岩。重さ632.9g。
2008	12ソ	YH	石器類	打製石斧		(残存10.8)	(1.7)	(残存12.5)	第224図図版120	上端を欠く。刃部表面・裏面摩滅。表面・裏面の下端付近に線状痕。石材は濃飛流紋岩。重さ321.6g。
2009	16タ	KTⅡ	石器類	打製石斧		(残存11.6)	(2.1)	(11.6)	第224図図版120	上端を欠く。刃部表面・裏面摩滅。表面・裏面の下端に線状痕。石材は濃飛流紋岩。重さ330.1g。17ソSEと破片接合。
2010	７ス	Ⅲ	石器類	磨製石斧		(20.3)	(4.7)	(7.1)	第225図図版121	上端の一部を欠く。基部上半に研磨痕、下半に敲打痕。刃部に使用痕と使用に伴う欠損あり。石材は緑色凝灰岩。重さ1,120.8g。
2011	18タ	KDT	石器類	磨製石斧		(残存7.9)	(3.0)	(4.8)	第225図図版121	上端を欠くほか、表面・裏面に使用に伴うとみられる大きな剥離痕が認められる。基部に研磨痕。石材は凝灰岩。重さ166.5g。
2012	５ク	Ⅱ	石器類	磨製石斧		(11.0)	(2.7)	(5.6)	第225図図版121	刃部右半を欠く。基部に研磨痕。刃部に使用痕。石材は蛇紋岩。重さ255.6g。
2013	12ソ	YH	石器類	磨製石斧		(8.8)	(2.0)	(4.0)	第225図図版121	基部に研磨痕。刃部に使用痕。石材は蛇紋岩。重さ103.1g。
2014	５ケ	Ⅲ	石器類	紡錘車？		(4.6)	(0.9)	(4.6)	第225図図版119	貫通する円孔が２箇所認められる。表面と周縁部は平滑で、線状痕が認められる。裏面は整形が粗く、平滑ではない。石材は凝灰岩。残存部分の重さ24.1g。
2015	13タ	YH	石器類	紡錘車		(6.4)	(1.3)	(6.4)	第225図図版119	全面摩滅し平滑である。また、細かな線状痕が認められる。石材は凝灰岩。重さ66.1g。14タNEと破片接合。
2016	20ツ	KT	石器類	石包丁		(14.3)	(0.7)	(5.0)	第225図図版118	磨製の石庖丁である。ほぼ完形品である。刃部が内側に彎曲し、平面形は三日月形を呈する。中央上端付近に円形の貫通孔が２箇所認められる。表面には横方向の細かな擦痕が認められる。裏面は剥落が著しいため、擦痕はほとんど認められない。石材は粘板岩。重さ53.8g。
2017	18チ	KT	石器類	垂飾		(2.3)	(2.0)	(0.9)	第225図図版119	表面・裏面の両面から穿孔されている。石材は極めて軟質の凝灰岩である。重さ7.2g。
2018	19チ	KDT	石器類	石冠		(残存12.6)	(残存5.4)	(残存6.8)	第225図図版121	横断面は丸みを帯びた二等辺三角形であり、均整がとれている。また、各面平滑である。左側面には敲打痕が認められる。石材は凝灰岩。重さ501.7g。
2019	20チ	Ⅰ	石器類	砥石		(7.8)	(2.3)	(3.2)	第226図図版121	砥面は表面・左側面・右側面の３面。石材は凝灰岩。重さ62.7g。
2020	９サ	Ⅱ	石器類	砥石		(10.9)	(4.2)	(9.0)	第226図図版121	砥面は表面・裏面・左側面・右側面の４面。石材は砂岩。重さ515.9g。
2021	12ソ	YH	石器類	砥石		(18.4)	(6.2)	(17.1)	第226図図版121	砥面は表面・裏面・上端面・下端面の４面。表面・裏面には敲打痕と刃物によるとみられる深い傷が多数認められるが、これは平滑化した砥面を再生するために人為的に粗くしたものとみられる。石材は砂岩。重さ2,650.0g。
2022	３ケ	Ⅱ	石器類	砥石		(8.4)	(2.2)	(3.7)	第226図図版121	砥面は表面・裏面・右側面・左側面の４面。平滑化はしていないものの、下端面にも線状痕が認められる。石材は凝灰岩。重さ60.2g。
2023	７コ	Ⅱ	石器類	砥石		(14.5)	(5.3)	(6.8)	第226図図版121	砥面は表面・上端面の２面。石材は泥岩。重さ702.0g。
2024	７ス	Ⅱ	石器類	砥石		(14.9)	(4.5)	(5.2)	第226図図版121	砥面は表面・右側面の２面。石材は泥岩。重さ419.2g。
2025	６ケ	Ⅱ	石器類	砥石		(9.6)	(3.3)	(4.0)	第227図図版121	砥面は表面・裏面・右側面・左側面の４面。右側面には刃物によるとみられる幅広の深い傷が多数認められる。石材は砂岩。重さ200.3g。５ケSWと破片接合。
2026	11ソ	Ⅲ	石器類	砥石		(16.2)	(3.2)	(11.0)	第227図図版121	砥面は表面１面のみ。表面に溝状の窪みが３条認められる。石材は砂岩。重さ743.1g。

第130表　遺物観察表（78）

遺物番号	出土地点	層位	大分類	種別	細分	大きさ(cm) 口径(長さ)	器高(厚さ)	底径(幅)	実測図写真	観察所見など
2027	７ス	Ⅱ	石器類	砥石		(8.3)	(3.1)	(6.2)	第227図 図版121	砥面は表面・裏面・左側面・右側面の４面。石材は泥岩。重さ270.2g。
2028	６シ	Ⅱ	石器類	砥石		(4.1)	(1.6)	(5.2)	第227図 図版121	横断面は三角形であり、砥面は３面。石材は凝灰岩。重さ38.7g。
2029	８シ	Ⅱ	石器類	砥石		(13.0)	(3.2)	(5.2)	第227図 図版121	砥面は表面・裏面・左側面・右側面の４面。石材は泥岩か。重さ271.9g。
2030	８サ	Ⅱ	石器類	砥石		(13.7)	(3.1)	(8.8)	第227図 図版121	欠失部分が多く、本来の形状は不明。砥面は表面・右側面の２面。石材は砂岩。重さ319.0g。
2031	14ソ	KDT	石器類	磨石		(10.0)	(4.7)	(6.5)	第227図 図版121	横断面は不整な五角形であり、５面とも平滑で、細かな擦痕が認められる。また、主に面の境付近には敲打痕が認められる。石材は凝灰岩。重さ394.7g。
2032	８ケ	Ⅲ	石器類	不明		(2.4)	(0.4)	(0.6)	第227図 図版119	全面、極めて平滑である。石材不明。重さ1.0g。
2033	７サ	Ⅱ	石器類	不明		(残存3.3)	(0.9)	(2.2)	第227図 図版119	中央に貫通しない円孔がみられ、有孔製品の未製品と考えられる。表面・裏面に研磨痕。石材は粘板岩。重さ6.8g。
2034	12ソ	YH	金属器類	銅鏃		(3.9)	(0.3)	(1.0)	第228図 図版122	凹基式の有茎鏃である。鏃身の断面は薄い紡錘形である。重さ2.3g。
2035	16セ	KDT	金属器類	耳環		(1.8)	(0.3)	(1.9)	第228図 図版122	銅製。重さ3.4g。
2036	10ス	Ⅲ	金属器類	古銭		(2.5)	(0.1)	(2.5)	第228図 図版122	銅製。乾元重宝（唐、759年初鋳）。重さ2.7g。
2037	７サ	Ⅱ	金属器類	古銭		(2.4)	(0.1)	(2.3)	第228図 図版122	銅製。紹聖元宝（北宋、1094年初鋳）。重さ2.4g。
2038	不明	－	金属器類	古銭		(2.4)	(0.1)	(2.4)	第228図 図版122	銅製。至和元宝（北宋、1054年初鋳）。重さ2.9g。
2039	12年度 試掘坑3	－	金属器類	古銭		(2.4)	(0.1)	(2.4)	第228図 図版122	銅製。熙寧元宝(北宋、1068年初鋳)。重さ3.6g。
2040	５サ	Ⅱ	金属器類	古銭		(2.3)	(0.1)	(2.3)	第228図 図版122	銅製とみられるが、表面・裏面ともに金色を呈する部分がある。聖宋元宝（北宋、1101年初鋳）。重さ2.6g。
2041	６コ	Ⅱ	金属器類	古銭		(2.3)	(0.2)	(2.3)	第228図 図版122	銅製。元符通宝（北宋、1098年初鋳）。重さ2.2g。
2042	北東耕土 搬出区	－	金属器類	古銭		(2.4)	(0.1)	(2.4)	第228図 図版122	銅製。寛永通宝（新寛永銭）。重さ2.9g。
2043	不明	－	金属器類	古銭		(2.4)	(0.1)	(2.4)	第228図 図版122	銅製。寛永通宝（新寛永銭）。重さ2.5g。
2044	12年度 試掘坑9	－	金属器類	古銭		(2.4)	(0.1)	(2.4)	第228図 図版122	銅製。寛永通宝（古寛永銭）。重さ2.8g。
2045	６シ	Ⅱ	金属器類	古銭		(2.1)	(0.1)	(2.1)	第228図 図版122	銅製。寛永通宝（新寛永銭）。重さ1.5g。
2046	12年度 試掘坑11	－	金属器類	小柄		(残存10.8)	(0.5)	(1.5)	第228図 図版122	刃は鉄製で大部分残っていない。柄は真鍮製で、金色の輝きを保っている。裏面と背の境に継ぎ目が見える。表面には図柄（「網干文」と「蛇籠文」）が彫り込まれている。図柄の背景には、３つを一単位とする魚々子が意匠的に配されている。裏面と背には斜め方向の細かなヤスリ目が認められる。
2047	12年度 試掘坑11	－	金属器類	小柄		(残存9.0)	(0.4)	(1.3)	第228図 図版122	刃は鉄製で、大部分残っていない。柄は真鍮製で、金色の輝きを保っている。表面・裏面に主として横方向のごく細かな線状痕が認められるが、これはヤスリ目というより擦痕である可能性が高い。裏面と背の境に継ぎ目が見える。
2048	７セ	Ⅱ	鍛冶関連 遺物	羽口		(残存7.3)	(残存6.8)	(残存3.5)	第228図 図版122	先端に広く鉱滓が付着する。外面被熱変色。重さ156.6g。推定外径8.8cm、内径2.4cm。
2049	12年度 試掘坑18	－	その他 特殊品	窯道具	匣鉢	17.6	9.3	15.3	第228図 図版122	体部内外面回転ナデ。底部外面に布目。胎土極めて粗く砂粒の混入多い。
2050	６キ	Ⅲ	その他 特殊品	鼈甲製品	櫛	(残存5.9)	(0.4)	(残存1.6)	第228図 図版122	本来の形状は不明である。表面に笹の文様を刻んでいる。材質は鼈甲とみられる。帰属時代については明らかにしがたいが、江戸時代以降か。

第４章　自然科学分析

第１節　花粉化石群集の分析

１　はじめに

野内遺跡Ｃ地区では水田跡とみられる遺構を検出し、また、隣接する野内遺跡Ｂ地区でも、平安時代頃の鍛冶工房跡など、多数の遺構を検出している。そのような人々の活動の痕跡が、伐採に伴う植生の変化などといった形で検出できる可能性があるため、花粉化石群集の分析を行った。分析は、新山雅広（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

２　試料

花粉化石群集の検討は、古代水田区域である６セグリッド東壁と、古墳時代水田区域である15タグリッドの２地点より採取した合計９試料について行った。以下に、各地点の試料を記載する。なお、これら９試料については、プラント･オパール分析も行った（第２節）。

①６セグリッド東壁（４試料；試料２～５）

木器類のほか須恵器・灰釉陶器が出土した区域に当たる。試料を採取した層を基本層序に基づき記す。この地点ではⅣ層が存在しないため、試料はⅡ～Ｖa層より採取した。試料２採取層は黒色粗砂混じり粘土（Ⅱ層）で、植物遺体・炭化物片を含む。試料３・試料４は黒色砂混じり粘土（試料３：Ⅲa層、試料４：Ⅲb層）で、植物遺体･炭化物片を含む。試料５は暗灰黄色細砂混じり粘土（Ｖa層）で、植物遺体・炭化物片を含む。Ⅱ～Ⅲ層は主に古代の遺物を含むが、中世以降の遺物も含む。Ｖ層は遺物を含まない。なお、試料３が水田畦畔とみられる高まりが検出された層の試料である。

②15タグリッド（５試料；試料１～５）

木器類のほか弥生土器ないし古墳時代土師器が出土した区域に当たる。試料１採取層は黒色砂混じりシルト質粘土（ＫＴ層）で、草本遺体（茎･根状）を多く含む。試料２は黒褐色粘土（ＹＴ層）で草本遺体（葉･茎･根状）を含む。試料３はオリーブ黒色砂混じり粘土（ＹＴ層）で、草本遺体（茎･根状）が目立つ。試料４は黒色粘土で砂が少し混じり、草本遺体（茎･根状）を含む。試料５は黄灰色粘土で、砂が少し混じり、草本遺体（茎状）が目立つ。試料１・試料２が弥生時代～古墳時代の遺物を包含する層の試料であり、試料３が水田畦畔とみられる高まりが検出された層の試料である。

３　方法

花粉化石の抽出は、試料約２～３gを10％水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸１に対して無水酢酸９の混液で湯煎約５分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に出現

した全ての種類について同定・計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

４　分析結果

全試料で同定された分類群数は、樹木花粉32、草本花粉24、形態分類で示したシダ植物胞子２である（第131表、第229図、図版123）。以下に、各地点の花粉化石群集を記載する。

①６セグリッド東壁の花粉化石群集

本地区の花粉化石群集は、その種構成や各分類群の出現率によって、下位より３つの花粉化石群集帯を設定することができる。

Ⅰ帯（試料５）：シダ植物の単条型胞子と不明花粉がわずかに産出したのみであり、図示できなかった。

Ⅱ帯（試料４）：樹木花粉の占める割合は40％程度である。その中で、コナラ亜属が30％強で最も高率であり､次いでハンノキ属が20％弱､イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が10％強で出現する。他に、クリ属が約６％、ノグルミ属、サワグルミ属－クルミ属、シイノキ属、カエデ属、トネリコ属などが低率で出現する。草本花粉は、イネ科が10％程度、カヤツリグサ科が６％程度で出現するほかは概ね１％以下の低率であり、サジオモダカ属、オモダカ属、ホシクサ属、ギシギシ属、ヨモギ属などが出現する。シダ植物胞子は、単条型胞子が40％弱と高率である。

Ⅲ帯（試料２・３）：樹木花粉の占める割合は40～50％前後である。依然としてコナラ亜属が高率であるが、徐々に減少する傾向があり、20％前後の出現率である。また、ハンノキ属も急減し、５％未満となる。逆に、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科は、漸増する傾向であり、上位では30％弱とコナラ亜属を上回る出現率である。他では、10％未満であるが、コウヤマキ属、スギ属、カバノキ属、ブナ属、アカガシ亜属が比較的目立ち、マツ属単維管束亜属、マツ属複維管束亜属、ヤナギ属、クルミ属、ニレ属－ケヤキ属、トチノキ属などが低率で出現する。草本花粉は、イネ科が増加傾向を示し、上位では40％弱に達する。次いで、カヤツリグサ科が10％弱で出現する。他は、概ね１％以下の低率であり、ヨモギ属、ヒルムシロ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ソバ属、アブラナ科、キカシグサ属、アリノトウグサ属、オオバコ属、ツリガネニンジン属－ホタルブクロ属、タンポポ亜科などが出現する。単条型胞子は減少傾向を示し、上位では約７％である。

②15タグリッドの花粉化石群集

本地点の花粉化石群集は、その種構成や各分類群の出現率によって、下位より２つの花粉化石群集帯を設定することができる。

Ⅰ帯（試料３～５）：十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ亜属、クリ属などが産出し、草本花粉はイネ科、セリ科、ヨモギ属が僅かに産出した。シダ植物胞子は単条型胞子が比較的目立ち、特に試料５では多産した。

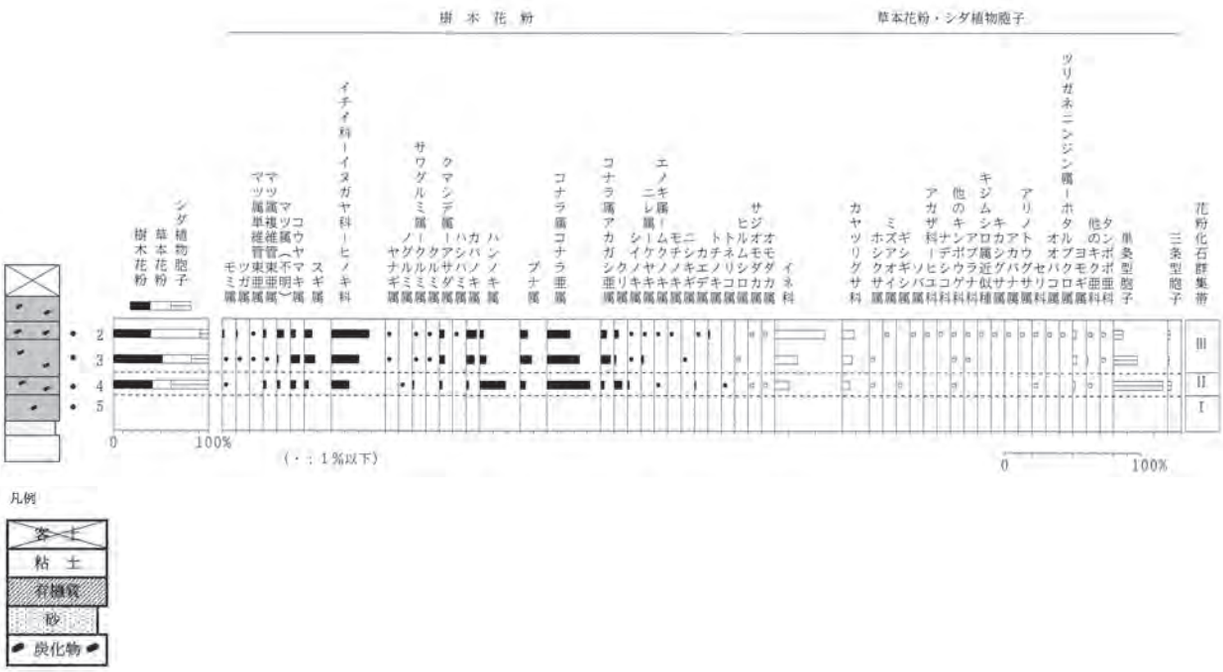
Ⅱ帯（試料１・２）：樹木花粉の占める割合は50％強であり、コナラ亜属とハンノキ属が高率である。コナラ亜属は下位では40％強に達するが、上位では約17％に急減する。逆に、ハンノキ属は下位では約17％であるが、上位では40％弱に増加する。他では、コウヤマキ属、スギ属、イチイ科－イヌガヤ

第131表　花粉化石産出一覧

和名	学名	6セ				15タ				
		2	3	4	5	1	2	3	4	5
樹木										
マキ属	*Podocarpus*	-	-	-	-	1	-	-	-	-
モミ属	*Abies*	4	1	1	-	2	3	1	-	-
ツガ属	*Tsuga*	3	1	-	-	-	-	-	-	1
マツ属単維管束亜属	*Pinus* subgen. *Haploxylon*	1	1	-	-	-	-	-	-	-
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	6	1	7	-	4	2	-	-	-
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	14	3	7	-	8	9	1	-	-
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	10	17	12	-	3	9	-	-	-
スギ属	*Cryptomeria*	16	20	10	-	13	4	-	-	-
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	75	50	39	-	20	2	-	-	-
ヤナギ属	*Salix*	1	1	-	-	-	-	-	-	-
ノグルミ属	*Platycarya*	-	-	1	-	-	-	-	-	-
サワグルミ属－クルミ属	*Pterocarya-Juglans*	2	1	4	-	-	5	-	-	-
クルミ属	*Juglans*	1	1	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	10	10	7	-	2	5	1	-	-
ハシバミ属	*Corylus*	1	-	-	-	-	-	-	-	-
カバノキ属	*Betula*	21	15	6	-	3	2	-	-	-
ハンノキ属	*Alnus*	8	12	57	-	67	29	3	-	-
ブナ属	*Fagus*	15	21	12	-	7	2	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	46	59	94	-	39	72	6	-	2
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	12	18	8	-	11	2	-	-	-
クリ属	*Castanea*	9	4	18	-	33	9	3	-	-
シイノキ属	*Castanopsis*	2	1	4	-	1	1	-	-	-
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	2	5	-	-	4	2	-	-	-
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	1	-	1	-	1	1	-	-	-
サクラ属近似種	cf. *Prunus*	-	-	-	-	-	1	-	-	-
モチノキ属	*Ilex*	2	-	-	-	-	1	-	-	-
ニシキギ属	*Euonymus*	-	1	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	*Acer*	1	-	3	-	-	3	1	-	-
トチノキ属	*Aesculus*	4	-	-	-	11	4	-	-	-
ウコギ科	Araliaceae	-	-	-	-	1	-	-	-	-
トネリコ属	*Fraxinus*	-	-	1	-	1	2	-	-	-
ガマズミ属	*Viburnum*	-	-	-	-	-	1	-	-	-
草本										
ヒルムシロ属	*Potamogeton*	-	1	-	-	-	-	-	-	-
サジオモダカ属	*Alisma*	3	-	1	-	-	-	-	-	-
オモダカ属	*Sagittaria*	3	-	1	-	-	-	-	-	-
イネ科	Gramineae	253	79	77	-	14	10	-	-	1
カヤツリグサ科	Cyperaceae	59	35	40	-	4	3	-	-	-
ホシクサ属	*Eriocaulon*	-	1	1	-	-	-	-	-	-
ミズアオイ属	*Monochoria*	3	-	-	-	1	-	-	-	-
ギシギシ属	*Rumex*	-	-	3	-	-	-	-	-	-
ソバ属	*Fagopyrum*	1	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科	Caryophyllaceae	2	-	-	-	-	-	-	-	-
カラマツソウ属	*Thalictrum*	-	-	-	-	-	4	-	-	-
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	1	1	1	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	Cruciferae	2	4	-	-	-	2	-	-	-
キジムシロ属近似種	cf. *Potentilla*	1	-	-	-	-	-	-	-	-
キカシグサ属	*Rotala*	3	-	-	-	-	-	-	-	-
アカバナ属	*Epilobium*	1	-	-	-	-	-	-	-	-
アリノトウグサ属	*Haloragis*	1	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	Umbelliferae	1	-	4	-	1	5	2	-	-
オオバコ属	*Plantago*	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ツリガネニンジン属－ホタルブクロ属	*Adenophora - Campanula*	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	*Artemisia*	16	14	11	-	2	1	-	-	1
他のキク亜科	other Tubuliflorae	1	5	3	-	-	2	-	-	-
タンポポ亜科	Liguliflorae	1	2	-	-	-	-	-	-	-
シダ植物										
単条型胞子	Monolete spore	47	82	260	2	202	137	16	11	73
三条型胞子	Trilete spore	11	5	19	-	2	3	1	-	-
樹木花粉	Arboreal pollen	267	243	292	0	232	171	16	0	3
草本花粉	Nonarboreal pollen	355	142	142	0	22	27	2	0	2
シダ植物胞子	Spores	58	87	279	2	204	140	17	11	73
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	680	472	713	2	458	338	35	11	78
不明花粉	Unknown pollen	16	14	14	4	24	10	1	0	2

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す

６セグリッド


樹木花粉
草本花粉・シダ植物胞子
樹木花粉
草本花粉
シダ植物胞子
マツ属単維管束亜属
マツ属複維管束亜属
ツガ属
ヤマモミ属
スギ属
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科
サワグルミ属
クルミ属
クマシデ属－アサダ属
ハンノキ属
コナラ属コナラ亜属
コナラ属アカガシ亜属
エノキ属－ムクノキ属
ニレ属－シャクチノキ属
モミ属
ツガ属
ヒノキ属
サワラ属
ヒバ属
ヒノキ属
ヒバ属
ヒノキ属
ヒバ属
ヒノキ

科－ヒノキ科、クリ属などが比較的目立ち、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、クリ属は増加傾向を示し、上位で10％前後になる。また、マツ属複維管束亜属、アカガシ亜属、トチノキ属、トネリコ属なども低率で出現する。草本花粉は、イネ科が３％程度で若干目立つ他はいずれも低率であり、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、カラマツソウ属、セリ科、ヨモギ属などが出現する。シダ植物胞子は、単条型胞子が40％を超える高率出現である。

５　考察

弥生時代ないし古墳時代初頭頃まで（15タ－Ⅰ帯）の古植生及び古環境

花粉化石の産出個数が非常に少なく、古植生についての推定はできなかった。花粉化石は水成堆積物であれば良好に保存されるが、土壌のような酸化条件下では、化学的風化により、分解･消失し、更にバクテリアによる蝕害も受ける。検討した試料は、植物遺体を含む概ね還元色の粘土であり、水付き堆積物と予想されたが、花粉化石が保存されていないことから、少なくとも安定した滞水環境で堆積したものとは考え難い。試料３・４は、概ね黒色の堆積物であることからも土壌の可能性が考えられる。なお、試料３は、水田畦畔とみられる高まりが検出された土層より採取されたが、花粉化石は良好に保存されておらず､プラント･オパール分析でもイネは全く検出されなかった。このことから、両分析からは稲作の可能性は低いと考えられ、遺構を支持する結果は得られなかった。

古墳時代～古代頃（６セ-Ⅱ帯、15タ-Ⅱ帯）の古植生及び古環境

コナラ亜属、ハンノキ属が卓越する落葉広葉樹林が発達していたと推定される。丘陵部や微高地上にはコナラ亜属を主体にクリ属などが混じり、古代には針葉樹のイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科も主要素であったとみられる。また、丘陵斜面から谷間にかけては、サワグルミ属－クルミ属、トチノキ属などから成る林分が成立していたであろう。一方、低地部では、ハンノキ属を主体にトネリコ属などが混じる湿地林が成立しており、林床にはシダ植物胞子が繁茂し、イネ科、カヤツリグサ科なども混じっていたであろう。また、古代には、プラント・オパール分析の結果（第２節）から、稲作地の存在が推定される。花粉分析の結果では、イネ科花粉の出現率は高率とは言えないが、水田にしばしば雑草として生育するサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属が随伴する。おそらく、低地部はハンノキ属湿地林が広い面積を占めていたが、一部には水田が存在していたであろう。

古代～中世以降（６セ-Ⅲ帯）の古植生及び古環境

コナラ亜属は依然として卓越していたが、徐々に林分を狭め、代わってイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が徐々に増加し、コナラ亜属とともに卓越していたと推定される。このイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科の増加は、植林によることが一因として考えられる。低地部のハンノキ属湿地林は急減したと考えられるが、水田開発などによる伐採が原因である可能性が高いと思われる。イネ科花粉は増加傾向が見られ、試料２(Ⅱ層)では急増するが、これは水田の面積が増加していったことを示唆しているであろう。このように、古代頃までの低地部は大規模なハンノキ属湿地林が成立していたが、それ以降は水田の占める割合の方が増加したことが推定される。栽培状況については、水田稲作以外にも試料２(Ⅱ層)の時期にはソバ栽培が行われるようになったと考えられる。このような耕作地の成立に伴い、アカザ科－ヒユ科、アリノトウグサ属、オオバコ属などの雑草類が繁茂するようになったのであろう。

第２節　プラント・オパール分析

１　はじめに

イネ科植物は別名珪酸植物とも言われ、根より大量の珪酸分を吸収することが知られている。こうして吸収された珪酸分が葉や茎の細胞内に沈積され植物珪酸体が形成される。プラント・オパールとはこの植物珪酸体が、植物が枯れるなどして土壌中に混入して土粒子となったもののことである。

野内遺跡Ｃ地区の発掘調査において畦畔と考えられる高まりが認められ、このことから推測される稲作を検証する目的で、他層位を含め土壌試料を採取した。この土壌試料について行ったプラント・オパール分析の結果を以下に示し、野内遺跡Ｃ地区の稲作について検討する。分析は、鈴木茂（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

２　試料と分析方法

分析用試料は６セグリッドの４試料（試料番号２～５）と15タグリッドの５試料（試料番号１～５）の計９試料である。これらは前節で報告した花粉化石群集分析の試料と同一のものである。

プラント・オパール分析は、これら９試料について以下のような手順にしたがって行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約１ｇ（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02ｇのガラスビーズ（直径約40μｍ）を加える。これに30％の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により10μｍ以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定及び計数はガラスビーズが300個に達するまで行った。

３　分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料１ｇ当りの各プラント・オパール個数を求め（第132表）、それらの分布を第230図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料１ｇ当りの検出個数である。写真は図版124に掲載した。

６セグリッド：検鏡の結果、上位３試料よりイネのプラント・オパールが検出された。産出傾向は上部に向かい急増しており、個数的にはすべて10,000個以上と多く、最上部試料２では65,000個に達している。またイネの穎（籾殻）の部分に形成される珪酸体の破片が試料２で多く観察されている。

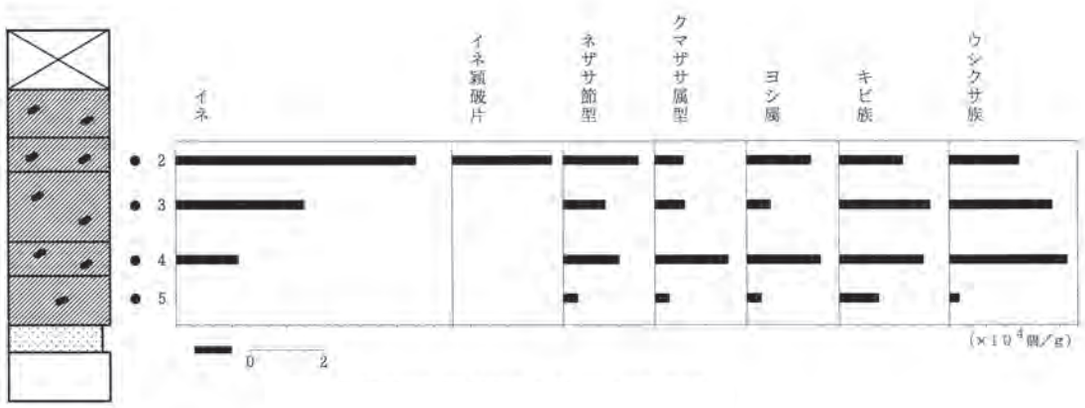
イネ以外ではウシクサ族が多く、上位３試料の産出傾向はイネと反対に上位に向かい減少している。キビ族も多く、全試料10,000個を越え、植物珪酸体の生産量が小さいキビ族としては非常に高い数値を示している。ヨシ属も試料２や４で20,000個近くとキビ族と同様に、ヨシ属としては非常に多く検出されている。その他、クマザサ属型は試料４でやや多く観察されているが、上部に向かい減少しており、ネザサ節型は最下部試料５を除き10,000個を越えている。

15タグリッド：最上部試料１のみにおいて、多くのイネのプラント・オパールが検出されている。イネ以外について、ヨシ属が多く検出されているが上部２試料では急減している。ウシクサ族も下部で多く、上部で急減しており、同様の傾向がキビ族に認められる。反対にクマザサ属型は上部に向かい増加しており、その他ネザサ節型が若干検出されており、最上部試料１で最も多く約5,000個を示

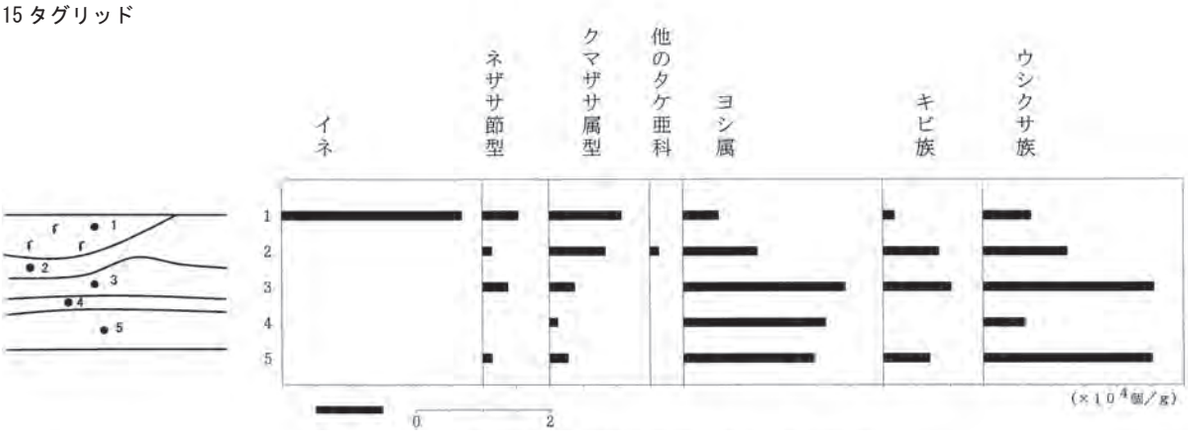
第132表　試料１ｇ当たりのプラント・オパール個数

グリッド	試料番号	イネ（個/ｇ）	イネ穎破片（個/ｇ）	ネザサ節型（個/ｇ）	クマザサ属型（個/ｇ）	他のタケ亜科（個/ｇ）	ヨシ属（個/ｇ）	キビ族（個/ｇ）	ウシクサ族（個/ｇ）	不明（個/ｇ）
６セ	2	65,200	27,000	20,700	8,000	3,600	17,500	17,500	19,100	19,100
	3	34,800	0	11,600	8,300	5,900	6,600	24,800	28,200	14,900
	4	16,900	0	15,300	19,900	3,400	19,900	23,000	32,200	33,700
	5	0	0	4,000	4,000	10,000	4,000	10,700	2,700	10,700
15タ	1	27,000	0	5,400	10,800	2,300	5,400	1,800	7,200	5,400
	2	0	0	1,400	8,400	1,100	11,200	8,400	12,600	14,000
	3	0	0	3,800	3,800	7,300	24,300	10,200	25,600	15,400
	4	0	0	0	1,300	1,200	21,400	0	6,300	3,800
	5	0	0	1,400	2,800	0	19,700	7,000	25,300	8,400

６セグリッド



15タグリッド



第230図　６セ・15タグリッドのプラント・オパール分布図

している。

４　考察

上記したように、６セグリッドでは試料４より上位で、また15タグリッドでは最上部試料１のみイネのプラント・オパールが検出された。検出個数の目安として水田跡の検証例を示すと、イネのプラント・オパールが試料１ｇ当り5,000個以上という高密度で検出された地区から推定された水田跡の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている（藤原　1984)。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。野内遺跡Ｃ地区ではイネのプラント・オパールが得られた試料すべてが10,000個以上を示しており、検出個数のみからはこれらの層準において稲作が行われていた可能性は高いと判断される。時期について、６セグリッドでは試料４の古代以降、15タグリッドでは試料１の古墳時代頃が考えられ、このことからＣ地区では古墳時代以降に稲作が行われるようになったと判断されよう。

なお、15タグリッドの試料３層準には水田畦畔とみられる高まりが認められた。しかしながらプラント・オパール分析でイネは検出されなかったことから、この試料３層準における稲作の可能性は低いとプラント・オパール分析からは判断されよう。

なお、ススキやチガヤなどのウシクサ族が多く検出されていることから、遺跡周辺に成立していたであろう森林の林縁部や上記した稲作地周辺の空き地などの日のあたる開けたところにキビ族やネザサ節型のササ類（ケネザサ・ゴキダケなど）とともに草地を形成していたことが考えられる。一方クマザサ属型のササ類（スズタケ・ミヤコザサなど）については、森林の下草的存在で分布を広げていたと推測される。ヨシやツルヨシなどのヨシ属について、15セグリッドでは稲作が行われ始める以前において大群落を形成していたことが考えられる。すなわちこのヨシ原を切り開き稲作が行われるようになったと推測され、その後ヨシ属は稲作地やその周辺の水路などに生育していたとみられる。なお、ウシクサ族やキビ族もヨシ属と同様の産出傾向を示していることから、ウシクサ族についてはヨシと同じようなところにみられるオギが、またキビ族については好水性のイヌビエなどが分布していたのではないかと思われる。このキビ族についてはその形態からアワ・ヒエ・キビといった栽培種によるものか、エノコログサ・スズメノヒエ・タイヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類できず不明であるが、稲作以前では好水性のイヌビエなどが、また稲作時ではタイヌビエなどの水田雑草類の可能性が考えられよう。

参考文献

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（１）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，ｐ.15-29.

藤原宏志（1984）プラント･オパール分析法とその応用－先史時代の水田址探査－．考古学ジャーナル，227，ｐ.2-7.

藤原宏志・佐々木彰（1978）プラント・オパール分析法の基礎的研究（２）－イネ（Oryza）属植物における機動細胞珪酸体の形状－．考古学と自然科学，11，ｐ.9-20.

第３節　掘立柱建物跡柱根の放射性炭素年代測定

１　はじめに

野内遺跡Ｃ地区で検出した掘立柱建物跡の年代を検討するため、柱穴内で出土した柱根を対象として加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。分析は、小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・瀬谷薫・藤根久（株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ）が担当した。

２　試料と方法

測定試料の情報、調整データは第133表のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

３　結果

第134表に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C)、同位体分別効果の補正を行った^{14}C年代、^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、第231図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示すものである。暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal3.10（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

４　考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。いずれの試料もクリ材であるが、最外年輪部分を採取して測定した。

掘立柱建物跡ＳＨ１の独立棟持柱に当たる柱穴352Ｐの柱根（遺物番号21、PLD-4794）は、１σ暦年代範囲においてCal AD 690-750年（46.1％）、２σ暦年代範囲においてCal AD 680-870年（95.4％）

第133表　放射性炭素年代測定試料及び処理

測定番号 (遺物番号)	遺構データ	試料データ	前処理	測定
PLD-4794 (遺物番号21)	掘立柱建物跡ＳＨ１ 352Ｐ（独立棟持柱）	試料の種類：生材（クリ） 試料の性状：最外年輪 状態：wet　カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-4795 (遺物番号20)	掘立柱建物跡ＳＨ１ 346Ｐ	試料の種類：生材（クリ） 試料の性状：最外年輪 (1～2年分) 状態：wet　カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH
PLD-5511 (遺物番号17)	掘立柱建物跡ＳＨ１ 239Ｐ	試料の種類：生材（クリ） 試料の性状：最外年輪 状態：wet　カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo： NEC製コンパクトAMS・1.5SDH

第134表　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号 (遺物番号)	δ^{13}C (‰)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代 (yrBP±1σ)
			1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
PLD-4794 (遺物番号21)	-28.09±0.15	1240±20	690AD(46.1%)750AD 760AD(13.9%)780AD 790AD(8.2%)810AD	680AD(95.4%)870AD	1241±21
PLD-4795 (遺物番号20)	-26.85±0.14	1180±20	780AD(6.1%)790AD 810AD(62.1%)890AD	770AD(93.7%)900AD 920AD(1.7%)940AD	1181±21
PLD-5511 (遺物番号17)	-27.54±0.19	1145±20	880AD(21.1%)900AD 915AD(47.1%)965AD	780AD(1.5%)790AD 810AD(93.9%)980AD	1145±21

であり、２σ暦年代範囲において７世紀末～９世紀末の年代を示している。掘立柱建物跡ＳＨ１の柱穴346Ｐの柱根（遺物番号20、PLD-4795）は、１σ暦年代範囲においてCal AD 810-890年（62.1%）、２σ暦年代範囲においてCal AD 770-900（93.7%）であり、２σ暦年代範囲において８世紀末～９世紀末の年代を示している。掘立柱建物跡ＳＨ１の柱穴239Ｐの柱根（遺物番号17、PLD-5511）は、１σ暦年代範囲においてCal AD 915-965（47.1%）、２σ暦年代範囲においてCal AD 810-980（93.9%）であり、２σ暦年代範囲において９世紀初め～10世紀末の年代を示している。

以上の結果から、ＳＨ１は平安時代前半の建物の跡である可能性が高いことが明らかとなった。

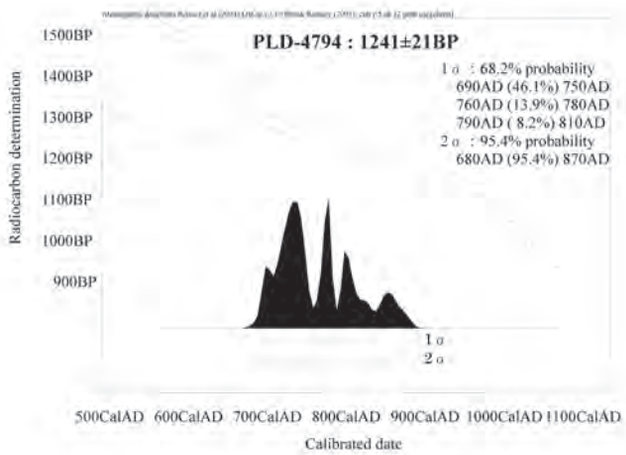
参考文献

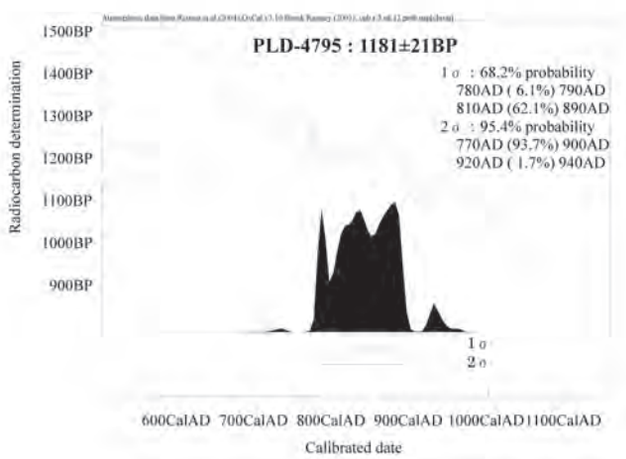
Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon, 37(2), 425-430.

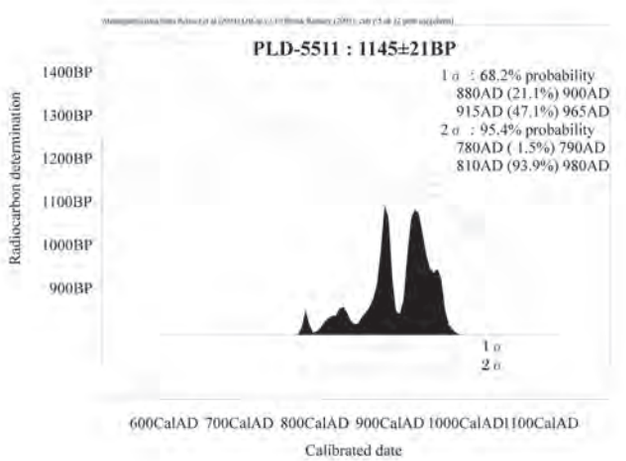
Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A),355-363.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代，3-20.

Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson,KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) Radiocarbon 46, 1029-1058.







第231図　放射性炭素年代測定暦年較正結果

第４節　金属器類の成分分析

１　はじめに

野内遺跡Ｃ地区で出土した金属器類のうち３個体について、株式会社吉田生物研究所において成分分析を実施した。その結果は、以下のとおりである。

２　試料と方法

分析対象としたのは、遺物番号774・2034・2035の５箇所（第135表、第232図）である。蛍光Ｘ線分析を行い金属元素を同定した。装置はRIGAKU製の波長分散型蛍光Ｘ線分析装置ZSX-PRIMUSⅡを用いた。

３　分析結果

成分分析結果のスペクトルを付し、その結果を第136表に示す。ただし、そのデータには、土中成分(Na～Fe）も含まれるため、数値は参考資料である。分析No.1鏃、分析No.2耳環（地）、分析No.3耳環（緑錆部分）、分析No.4鈴（地）は銅（Cu）が主成分である。分析No.5鈴（黒色部分）は主要金属成分が無く、土中成分と鈴（地）からの影響が計測されている。

４　考察

遺物番号2034（鏃）は銅（Cu）が主成分で、微量成分として鉛（Pb）、銀（Ag）、錫（Sn）、アンチモン（Sb）、ビスマス（Bi）が検出されている。このうちの銅、鉛、錫の成分から、鏃は青銅製であると判断される。他の微量成分は銅、鉛、錫の精錬過程で残留した元素と考えられる。

遺物番号2035（耳環）は銅（Cu）が主成分で、微量成分として砒素（As）、銀（Ag）、ビスマス（Bi）が検出されている。このうちの銅の成分から、銅地の耳環と判断される。他の微量成分は銅の精錬過程で残留した元素と考えられる。耳環内側の緑錆部分は銅（Cu）が主成分で、微量成分として砒素（As）が検出されている。このことから緑錆部分には金銀の箔などは残留せず、銅錆と考えられる。

遺物番号774（鈴）は銅（Cu）が主成分で、微量成分としてビスマス（Bi）が検出されている。このうちの銅の成分から、鈴は銅製と判断される。鈴表面の黒色部からは主成分となる成分は検出されず、検出された金属成分の銅は鈴の地金の影響が考えられる。鉛、錫については由来は不明である。このため黒色部は金属ではなく有機質と思われ、表面の光沢などから漆膜の可能性が考えられる。

第232図　金属器類の成分分析位置

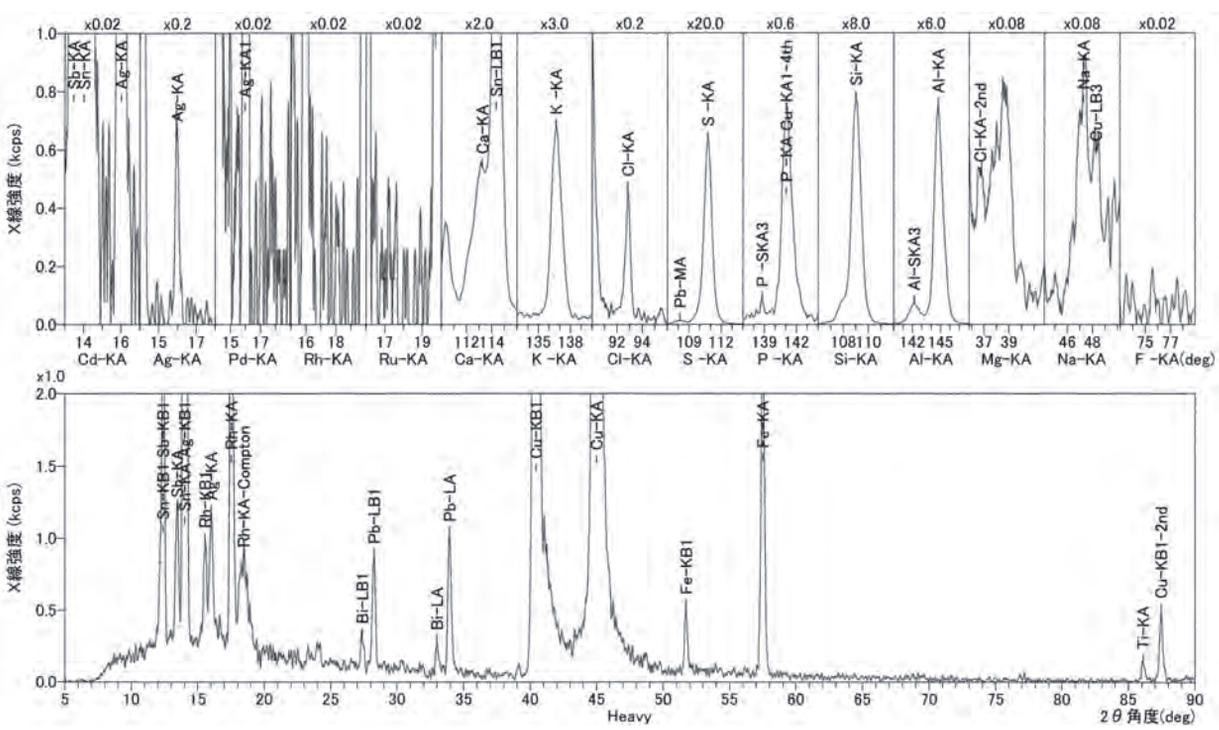
第135表　金属器類の成分分析試料一覧

遺物番号	分析No.	試料名	概要
2034	1	鏃	緑錆に覆われている。
2035	2	耳環（地）	表面は赤錆色。
	3	耳環（緑錆部分）	耳環の内側に少しある。表面は緑錆色。
774	4	鈴（地）	全体的に緑錆色。一部に赤錆色と黒色あり。
	5	鈴（黒色部分）	表面に光沢あり。

第136表　金属器類の成分分析結果一覧

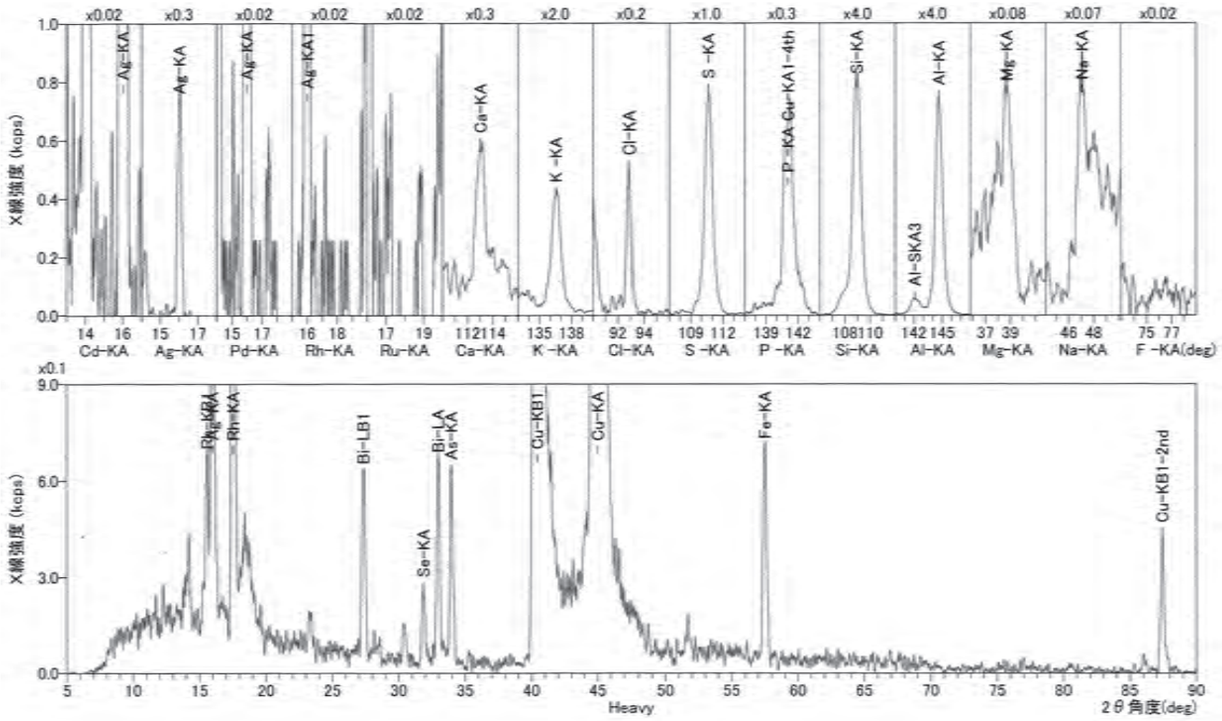
元素	No.1(wt%)	No.2(wt%)	No.3(wt%)	No.4(wt%)	No.5(wt%)
Na	0.71	0.80	－	2.38	－
Mg	－	0.28	－	0.51	1.21
Al	5.62	5.40	8.99	8.76	16.70
Si	8.07	6.17	13.20	10.60	31.10
P	0.18	0.12	0.14	0.13	3.90
S	6.41	0.52	3.66	2.65	4.52
Cl	0.17	0.25	－	0.71	6.02
K	0.86	0.42	1.01	1.33	5.59
Ca	0.42	－	0.36	0.18	4.92
Ti	0.21	－	－	－	－
Fe	0.62	0.17	0.53	0.24	5.50
Cu	71.00	83.90	71.60	72.20	13.50
As	－	0.26	0.50	－	－
Pb	0.71	－	－	－	4.72
Ag	0.31	0.82	－	－	－
Sn	4.04	－	－	－	2.29
Sb	0.40	－	－	－	－
Bi	0.17	0.68	－	0.15	－

試料No.1

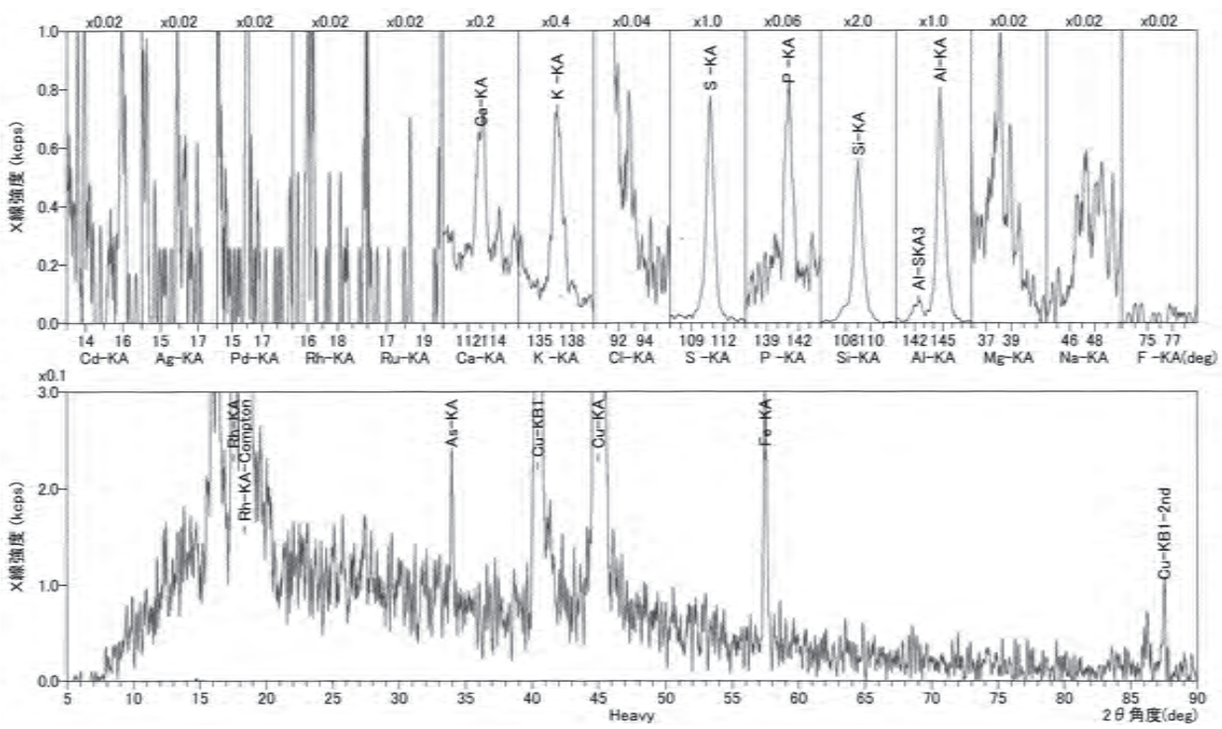


第233図　銅鏃の成分

試料No.2

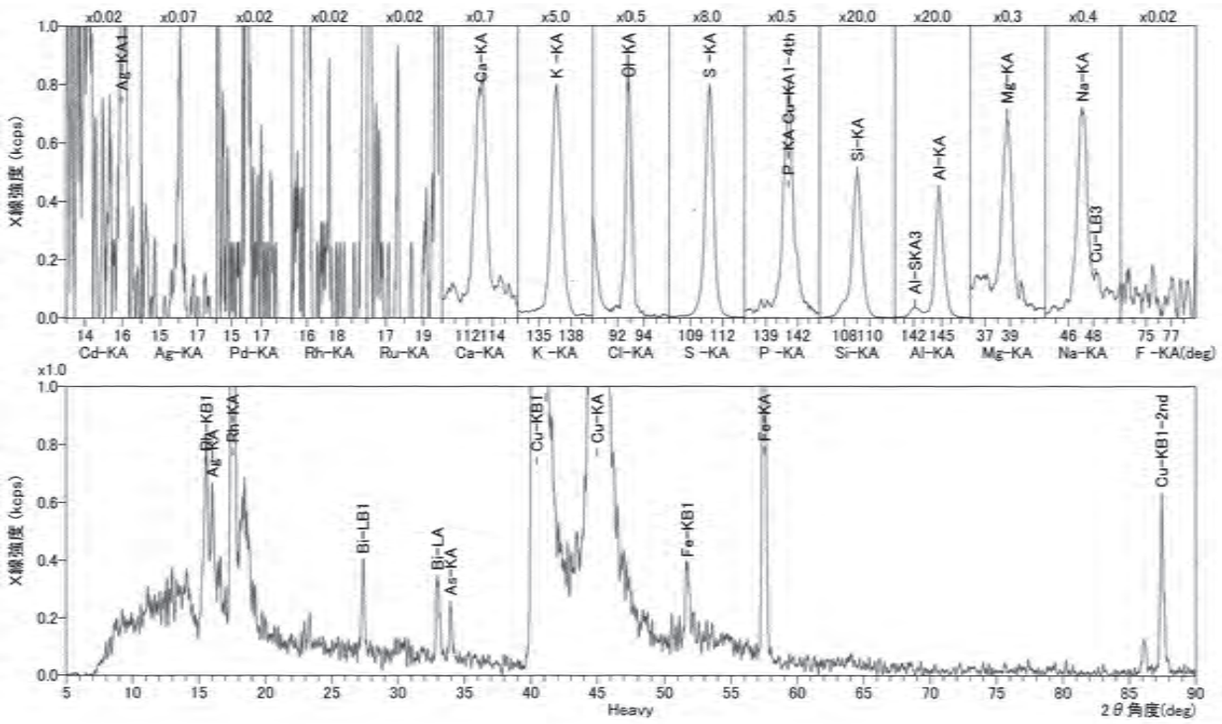


試料No.3

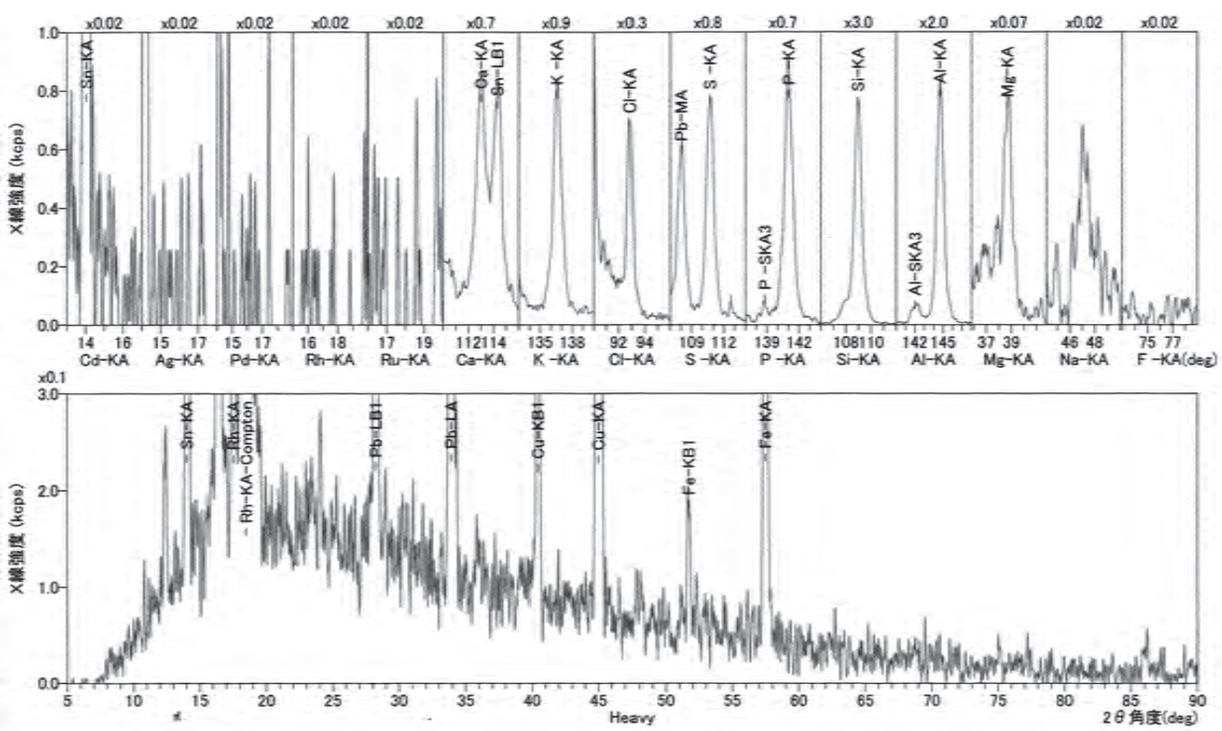


第234図　耳環の成分

試料No.4



試料No.5



第235図　銅鈴の成分

第５節　木器類の樹種同定

１　はじめに

野内遺跡Ｃ地区では、破片数で数えて28,963点にのぼる膨大な量の木器類が出土した。そのため、整理作業の進行に伴い、平成17年度、20年度、21年度に主要な個体について樹種同定を実施した。実施年度別内訳は、平成17年度が７個体、20年度が83個体、21年度が498個体である。そのほか、個別の機会に樹種を同定できたものが２個体あり、掲載910個体中、樹種同定実施総数は590個体となる。なお、この中には別材を組み合わせ１個体を構成していたため２箇所の試料採取が必要であったものが３個体含まれており、実施件数としては593件となる。

年度ごとの所見等が必ずしも一致しているとは限らないことから、以下、必要とされる編集作業を加えた上で、各年度の分析担当者による報告内容をそのまま掲載する。ただし、同定結果を基にした考察は、すべての出土木器類を見渡した上で行う必要があるため、章を改め、第５章第１節において行うこととする。同定結果についても、本節で実施年度ごとに分散して列挙することは控え、集約して第５章第１節に掲載する（134～145頁）。なお、木器個々の同定結果は、すべて「遺物観察表」（15～92頁）にも記載してある。

各年度の分析は、平成17年度は植田弥生（株式会社パレオ･ラボ）、20年度は株式会社吉田生物研究所、21年度は小林克也・黒沼保子（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

２　平成17年度実施の樹種同定

（１）試料と方法

対象としたのは、掘立柱建物跡ＳＨ１の柱穴222Ｐ・223Ｐ・238Ｐ・239Ｐ・241Ｐ・346Ｐ・352Ｐで出土した柱根と礎板、合わせて７個体である。それらのうち柱根３個体については放射性炭素年代測定も併せて実施しており、その結果は第３節に記載してある。

同定に当たっては、材の３方向（横断面・接線断面・放射断面）を見定めて、剃刀を用い各方向の薄い切片を剥ぎ取り、スライドガラスに並べ、ガムクロラールで封入し、永久プレパラート（材組織標本）を作成した。この材組織標本を、光学顕微鏡で40～400倍に拡大し観察した。

（２）結果

同定の結果、柱根と礎板は、すべてクリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科）が使用されていたことが明らかとなった。クリは、広葉樹材の中では特に耐久性・耐水性に優れた材質として知られている。縄文時代から柱に利用されていたことが広く知られており、建築材として有用な材である。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載する。クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通にみられる落葉高木である。年輪のはじめに大型の管孔が配列し徐々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

材の３方向の組織写真を図版125に提示する。

３　平成20年度実施の樹種同定

（１）　試料と方法

木器83個体（84点）を対象として実施した。剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。使用顕微鏡はNikon DS-Fi1である。

（２）結果

同定した針葉樹５種、広葉樹４種の顕微鏡写真を示し（図版126～153）、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

スギ科スギ属スギ(*Cryptomeria japonica* D.Don)　図版126

(遺物番号1729)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

ヒノキ科ヒノキ属（*Chamaecyparis* sp.）　図版126・127

(遺物番号896・1735・1777)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州(福島以南)、四国、九州に分布する。

ヒノキ科アスナロ属（*Thujopsis* sp.）　図版127～146

(遺物番号73・143・153・182・292・691・698・788・876・891・892・895・899・1494・1496・1497・1498・1502・1504・1512・1513・1516・1519・1540・1547・1554・1562・1565・1566・1567・1570・1578・1579・1710・1715・1717・1767・1771・1783・1784・1786・1787・1791・1793・1797・1799・1806・1819・1823・1838・1840・1850・1858・1865・1867・1872・1879・1927)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

ヒノキ科クロベ属クロベ（*Thuja standishii* Carriere）　図版146・147

(遺物番号890・1774・1896)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で１分野に２～６個ある。放射柔細胞の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝のような構造（インデンチャー）ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織は全て単列であった。

数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

針葉樹　図版147

（遺物番号1565　紡錘車の軸部分）

柾目、板目は採取出来なかった。木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に接線配列である。

ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus subgen. Lepidobalanus* Endlicher sect. Cerris）

図版148～150

（遺物番号874・1463・1464・1467・1469・1470・1478・1481）

環孔材である。木口では大道管（～430μm）が年輪界にそって１～数列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、厚壁で円形の小道管が単独に放射方向に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に幅の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。クヌギ節はクヌギ、アベマキがあり、本州(岩手、山形以南)、四国、九州、琉球に分布する。

ブナ科クリ属クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　図版150～152

（遺物番号881・897・1788・1796・1805・1860・1897）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～500μm）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは２～３個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド)、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部)、本州、四国、九州に分布する。

ニレ科ケヤキ属ケヤキ（*Zelkova serrata* Makino）　図版153

（遺物番号1488・1493）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～270μm）が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織)。放射組織は１～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の１～３列のものと大部分を占める６～７細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

ミツバウツギ科ミツバウツギ属ミツバウツギ（*Staphylea Bumalda* DC.）　図版153

（遺物番号192）

散孔材である。木口では道管（～70μm）がほぼ単独、ときに２～４個不規則に複合する。柾

目では道管は階段穿孔を有し、階段数は30以下となる。道管側壁に交互壁孔。軸方向柔細胞は散在する。道管放射組織間壁孔は中型のふるい状でまばらに分布する。放射組織は異性である。板目では放射組織は１～８列となり、高さは１㎜以下となる。ミツバウツギは北海道、本州、四国、九州に分布する。

参考文献

島地 謙･伊東隆夫1982『図説木材組織』地球社
島地 謙･伊東隆夫1988『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版
伊東隆夫1999『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ』京都大学木質科学研究所
北村四郎･村田 源1979『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ』保育社
深澤和三1997『樹体の解剖』海青社
奈良国立文化財研究所1985『奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇』
奈良国立文化財研究所1993『奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇』

４　平成21年度実施の樹種同定

（１）試料と方法

木器498個体（500点）を対象として実施した。各試料について､切片採取前に木取りの確認を行った。樹種同定は材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）についてカミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行った。同定にあたり、分析担当者は能城修一氏（森林総合研究所）から御教示を得た。なお、作製したプレパラートは当センターにおいて保管している。

（２）結果

同定の結果、針葉樹のヒノキとサワラ、ネズコ、ヒノキ科、モミ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、カヤ、スギの９分類群と、広葉樹のアサダとクリ、ブナ属、コナラ属アカガシ亜属（以下アカガシ亜属と呼ぶ)、コナラ属クヌギ節（以下クヌギ節と呼ぶ)、コナラ属コナラ節（以下コナラ節と呼ぶ)、ケヤキ、モクレン属、イスノキ、ナシ亜科、サクラ属、トネリコ属トネリコ節（以下トネリコ節と呼ぶ)、トネリコ属シオジ節（以下シオジ節と呼ぶ）の13分類群と、単子葉のタケ亜科１分類群の計23分類群が産出した。ヒノキが最も多く328点産出し、サワラが68点、クリが38点、マツ属複維管束亜属が13点、クヌギ節が12点、スギが７点、ケヤキが６点、アサダが５点、コナラ節とモクレン属が各３点、ヒノキ科とモミ属とサクラ属とシオジ節が各２点、その他の樹種が各１点産出した。

次に同定された材の特徴を記載し、光学顕微鏡を図版に示す（図版154～158)。

ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa*（Siebold et Zucc.）Endl.　ヒノキ科　図版154　1a-1c（遺物番号1910)・2a-2c（遺物番号1811)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、２～10細胞高となる。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、１分野に２個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

サワラ　*Chamaecyparis pisifera*（Siebold et Zucc.）Endl.　ヒノキ科　図版154　3a-3c（遺物番号776）・4a-4c（遺物番号803）

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部はやや厚く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、２～12細胞高となる。分野壁孔は中型の大きく開いたヒノキ型で１分野に２個みられ、壁孔は大きく傾く。

サワラは岩手県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は軽軟で加工しやすく、水湿によく耐える。

ネズコ　*Thuja standishii*（Gordon）Carriere　ヒノキ科　図版154　5a-5c（遺物番号729）

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部はやや厚く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、１～７細胞高となる。分野壁孔は中型のスギ型で、１分野に２個みられる。

ネズコは岐阜県から東の本州中部、北部の中央山地から日本海側にかけて多く分布する常緑高木の針葉樹である。材は軽軟で、切削等の加工は非常に容易である。

ヒノキ科　Cupressaceae　図版154・155　6a-6c（遺物番号731）

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹であるが、２年輪にまたぐ切片が採取できなかった。放射組織は単列で、１～４細胞高となる。分野壁孔は壁が融解し、分野の形状が確認できず、ヒノキ科までの同定に留めた。

モミ属　*Abies*　マツ科　図版155　7a-7c（遺物番号1890）

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は２～12細胞高となる。分野壁孔は小型のスギ型で、１分野に２～４個みられる。放射組織の末端壁は、数珠状に肥厚する。

モミ属には北海道に分布するトドマツ、亜高山帯など高標高域に分布するシラビソ、オオシラビソ、ウラジロモミ、低標高域に分布するモミなどがありいずれも常緑高木である。材はやや軽軟で、切削その他の加工は容易で、割裂性も大きい。

マツ属複維管束亜属　*Pinus* subgen. *Diploxylon*　マツ科　図版155　8a-8c（遺物番号541）

仮道管と放射組織、放射仮道管、垂直および水平樹脂道で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は１～８細胞高となる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側へ鋸歯状となる。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育する。材質は類似し、重硬で切削等の加工は容易である。

マツ属単維管束亜属　*Pinus* subgen. *Haploxylon*　マツ科　図版155　9a-9c（遺物番号1762）

仮道管と放射組織、放射仮道管、垂直および水平樹脂道で構成される針葉樹であるが、水平樹脂道は確認できなかった。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、１～５細胞高となる。分野壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は平滑である。

マツ属単維管束亜属には、ゴヨウマツやハイマツなどがあり代表的なゴヨウマツは北海道南部から九州まで分布する常緑高木の針葉樹である。材の重さや硬さは中庸で、切削加工等は容易である。

カヤ　*Torreya nucifera*（L.）Siebold et Zucc.　イチイ科　図版155　10a-10c（遺物番号1588）

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は３～12細胞高となる。分野壁孔は小型のトウヒ型で、１分野に２～３個みられる。仮道管の内壁には、２～３本で１対のらせん肥厚が明瞭にみられる。

カヤは暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は比較的重硬で弾力性に富み、切削等の加工は容易で水湿によく耐える。

スギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　スギ科　図版155・156　11a-11c（遺物番号1804）

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行はやや緩やかである。放射組織は単列で、２～10細胞高となる。分野壁孔は大型のスギ型で、１分野に２個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で切削などの加工が容易な材である。

アサダ　*Ostrya japonica* Sarg.　カバノキ科　図版156　12a-12c（遺物番号1472）

中型の道管が単独ないし２～６個放射方向に複合してやや疎に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、１～４列となる。

アサダは北海道中南部から九州にかけての温帯から暖帯上部に分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で割れにくく、切削加工等は困難である。

クリ　*Castanea crenata* Siebold et Zucc.　ブナ科　図版156　13a-13c（遺物番号539)･14a-14c（遺物番号1764）

年輪のはじめに大型の道管が１～２列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。放射組織は同性で単列となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で耐朽性が高い。

ブナ属　*Fagus*　ブナ科　図版156　15a-15c（遺物番号1491）

やや小型の道管が単独ないし２～３個複合して密に散在する散孔材である。晩材部では道管は径を減じる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、大きなものは10列以上となる。

ブナ属にはブナやイヌブナがあり、冷温帯の山林に分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なブナの材は重硬で強度があるが、切削加工は困難でない。

コナラ属アカガシ亜属　*Quercus* subgen *Cyclobalanopsis*　ブナ科　図版156　16a-16c（遺物番号1485）

大型の道管が単独で放射方向に配列するが、木口面で２年輪をまたぐ切片を採取できなかった。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。以上の形質より、放射性の散孔材であるアカガシ亜属であると考えた。

コナラ属アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり、暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬、強靭で耐水性があるが、切削加工は困難である。

コナラ属クヌギ節　*Quercus* sect. *Aegirops*　ブナ科　図版157　17a-17c（遺物番号903）

年輪のはじめに大型の道管が１～２列並び、晩材部では急に径を減じた壁が厚くて丸い道管が疎ら

に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で切削などの加工はやや困難である。

コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　図版157　18a-18c（遺物番号540）

年輪のはじめに大型の道管が１～２列並び、晩材部では急に径を減じた壁が薄くて角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重くて強靭だが切削加工はやや難しい。

ケヤキ　*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino　ニレ科　図版157　19a-19c（遺物番号258）

年輪のはじめに大型の道管が１列並び、晩材部では急に径を減じた道管が多数複合して接線～斜線状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端１～２列が方形となる異性で、１～６列となる。放射組織の上下端には、大きな結晶がみられる。

ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難でない。

モクレン属　*Magnoria*　モクレン科　図版157　20a-20c（遺物番号188）

小型の道管が単独ないし２～３個複合してやや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁の道管相互壁孔は交互～階段状となる。放射組織は上下端１列が方形となる異性で、１～３列となる。

モクレン属にはホオノキ、コブシなどがある。代表的なホオノキは、山間の肥沃なところに散生する落葉高木の広葉樹で、材は軽軟で堅くなく、切削その他の加工は極めて容易である。

イスノキ　*Distylium racemosum* Siebold et Zucc.　マンサク科　図版157　21a-21c（遺物番号1563）

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は１～３列程度の帯状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は上下端１～３列が方形ないし立方となる異性で、１～２列となる。放射組織の単列部と多列部は、同じ大きさになる。

イスノキは本州の東海や南近畿、山陽の本州南部、四国、九州などの温帯中南部に分布する、常緑高木の広葉樹である。材は非常に重硬で強度が大きく、切削加工等は困難で割れにくい。

ナシ亜科　Subfam. *Maloideae*　バラ科　図版157・158　22a-22c（遺物番号1761）

小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、１～３列となる。

ナシ亜科はナナカマド属やサイフリボク属、カマツカ属など11属を含む、落葉ないし常緑の高木または低木である。材組織ではカマツカ属以外の識別は出来ず、カマツカ属以外のナシ亜科の樹種と考えられる。

サクラ属（広義）　*Prunus* s. l.　バラ科　図版158　23a-23c（遺物番号1746）

中型の道管が単独ないし２～５個放射～斜線状に複合してやや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端１列が方形となる異性で、１～４

列となる。

広義のサクラ属には、モモ属、スモモ属、アンズ属、サクラ属、ウワミズザクラ属、バクチノキ属がある。樹種同定ではモモ属、バクチノキ属以外は他のサクラ属と識別できず、広義のサクラ属とした。

トネリコ属トネリコ節　*Fraxinus* sect. *Ornus*　モクセイ科　図版158　24a-24c（遺物番号902）

年輪のはじめに大型の道管が１列並び、晩材部では急に径を減じた道管が単独ないし２～３個複合して疎に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状ないし翼状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、１～３列となる。

トネリコ属トネリコ節にはヤマトアオダモやマルバアオダモなどがあり、一般的なマルバアオダモは日本各地の丘陵地や山地で普通に見られる落葉高木の広葉樹である。材はトネリコ属シオジ節より重硬で、強くて粘りがあり、加工性は中庸程度である。

トネリコ属シオジ節　*Fraxinus* sect. *Fraxinaster*　モクセイ科　図版158　25a-25c（遺物番号1776）

年輪のはじめに大型の道管が１～３列並び、晩材部では急に径を減じた道管が単独ないし２～３個複合して疎に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状ないし翼状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、１～３列となる。

トネリコ属シオジ節にはシオジとヤチダモがあり、現在の植生ではシオジは関東以西の温帯に分布し、ヤチダモは中部以西の亜寒帯から温帯の、河岸や湿地などの肥沃な湿潤地に分布する落葉高木の広葉樹である。材の性質は類似して中庸ないしやや重硬で、乾燥は比較的容易、切削加工等は容易である。

タケ亜科　Subfam. *Bambusoideae*　イネ科　図版158　26a（遺物番号513）

向軸側に原生木部、その左右に２個の後生木部と背軸側に篩部で構成される維管束がみられる単子葉植物の稈である。繊維鞘の細胞は厚壁であり、向・背軸部に関わりなく厚くなる。タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間で、日本には12属ある。

５　小結

590個体（593件）の同定結果は、すでに「遺物観察表」（15～92頁）に記載してあるが、次章において、器種ごとにまとめ直した形で改めて掲載する（134～145頁）。分析実施時の諸条件が同一ではなかったためか、全年度で必ずしも同一の視点による同定結果が得られたとは限らないようである。この点にも留意しつつ、同定結果から見出すことのできる野内遺跡の出土木器類の特質等について、次章で総括することとする。

第５章　総括

第１節　野内遺跡Ｃ地区で出土した木器類について

野内遺跡Ｃ地区発掘調査の成果のうち特に注目されるのは、幅広い時代にわたる多種多様の木器類が出土したことである。調査成果を総括するに当たり、まず当発掘区出土の木器類を巡る諸問題を取り上げ、考察を加えることとする。共に出土した土器類に年代の手掛かりを求め、さらに、樹種の選択と木取りの傾向について検討を加えることにより、出土した木器類の全体像を明らかにしたい[1)]。本節の末尾に掲載全個体の属性一覧を掲げる（第141表～第152表）。適宜、参照されたい。

１　出土土器類との相関関係

木器類は、木質が腐食せずに残る条件の整った遺跡のみで出土し、残存状態の良好な個体に恵まれることは極めて稀である。また、土器などと比べ大きな個体差を持つのを通例とするなど、様々な制約が付きまとい、個々の個体に備わる属性のみから帰属時期を明らかにすることは、多くの場合、容易ではない。さらに、今回の調査で出土した木器類の破片数28,963点、掲載数910個体という数量は飛騨地域の遺跡としては最多であり、多様性の点でも既往事例とは隔絶した存在であることは疑いない。そのため、帰属時期比定のための類例を近隣遺跡に求めることもまた、困難である。

以上のような状況から考えて、野内遺跡の木器類の時期推定に当たっては、まず出土状況の実態に手掛かりを求めるべきであると判断する。当発掘区では縄文時代から近世に至る幅広い時代の土器類が出土しているが、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての時期と平安時代前半の２時期に集中する傾向が顕著である。加えて、発掘面積は9,000㎡と広大であるものの、幸いなことに、それら２時期の遺物が出土する区域はあまり重なりを持たず、比較的整然とした区分けが可能である。したがっ

第137表　木器類各器種の出土地点

| 種別／区域 | 器具 | | |

て、個体個々の帰属時期を特定することまでは困難であるとしても、木器類各器種の出土位置分布を土器類のそれと重ね合わせることにより、大局を捉えることは可能であると予想される。以下、木器類各器種について、「弥生土器・土師器集中区域」、「須恵器・灰釉陶器集中区域」のどちらで出土する傾向があるのか、検証作業を進めてみる[2)]。

前章までにも度々記したとおり、野内遺跡Ｃ地区では発掘区の北半と南半とで土器類の出土傾向に際立った相違が認められる。すなわち、北半では古代、それも平安時代前半頃の須恵器と灰釉陶器が主体を占めるのに対し、南半では弥生土器や古墳時代初頭の土師器など、より古い時代の土器を多く含むようになる。このことを視覚的に示すために、５ｍ四方の細分グリッドごとに土器類の組成を求めた結果を第９図としてすでに提示してある（第１分冊14頁）。弥生土器・土師器集中区域と須恵器・灰釉陶器集中区域とでは面積が対等というわけではなく、後者の方がやや広い。さらに、北が高く南が低い地形のため、発掘区南半では北半からの流れ込みとみなすべき遺物が少なくない一方で、その逆はあまりみられないようである。検証を進めるに当たり、以上を念頭に置くこととしたい。

掲載した木器類910個体について出土地点を確認し、土器類の出土位置分布と重ね合わせてみると、第137表に示したような結果を得ることができる。弥生土器・土師器集中区域から出土したもの155個体に対し、須恵器・灰釉陶器集中区域から出土したものが728個体となり、そのほかに判別不能のものが27個体ある。出土遺物量の多い大型の溝状遺構の多くが発掘区北半の古代水田跡周辺に広がることから考えて、この結果に奇異な点はない。さらに付言すれば、須恵器・灰釉陶器集中区域に属する個体数がこれほどまでに多いのは、特に個体数の多い器種である箸と火付け木がこちらの区域で集中的に出土したことが大きな要因となっている。

次に、器種別にみてゆくと、以下のような傾向を読み取ることができる。

①鍬は、弥生土器・土師器集中区域に偏る傾向が顕著である。

②挽物容器（漆器）は、すべて須恵器・灰釉陶器集中区域で出土している。

③楕円形曲物容器は、すべて弥生土器・土師器集中区域で出土している。

④円形曲物容器及び曲物側板は、須恵器・灰釉陶器集中区域に偏る傾向が顕著である。

⑤組物容器は、須恵器・灰釉陶器集中区域に偏る傾向が顕著である。

⑥馬形は、どちらかの区域に偏ることなく、両区域にわたり広く散在する。

⑦下駄は、ほとんどが須恵器・灰釉陶器集中区域で出土している。

⑧杓子は、すべて須恵器・灰釉陶器集中区域で出土している。

⑨箸は、須恵器・灰釉陶器集中区域に偏る傾向が極めて顕著である。

⑩火付け木は、須恵器・灰釉陶器集中区域に偏る傾向が極めて顕著である。

⑪模造品は、すべて須恵器・灰釉陶器集中区域で出土している。

⑫串状木製品・へら状木製品・板状木製品・棒状木製品といった用途を特定し難い製品もまた、どちらかといえば須恵器・灰釉陶器集中区域で多く出土している。

⑬柱根を除く建築部材は、両区域にわたり散在し、弥生土器・土師器集中区域における出土数が須恵器・灰釉陶器集中区域における出土数に拮抗する。

⑭柱根は、すべて須恵器・灰釉陶器集中区域で出土している。

⑮土木部材（杭・横木）は両区域にわたり散在する。

⑯器具部材は、須恵器・灰釉陶器集中区域に偏る傾向が極めて顕著である。

⑰割板は、すべて弥生土器・土師器集中区域で出土している。

⑱端材は、すべて須恵器・灰釉陶器集中区域で出土している。

さて、それでは第137表から読み取れる上記の事象①～⑱を、どのように評価すべきであろうか。まず指摘できるのは、個体数の多い器種では、概ねどちらかの区域に偏る傾向が現われていることである。弥生土器・土師器集中区域で出土する傾向が認められるものとして、鍬・楕円形曲物容器・割板、須恵器・灰釉陶器集中区域で出土する傾向が認められるものとして、挽物容器・円形曲物容器及び曲物側板・組物容器・下駄・杓子・箸・火付け木・模造品・柱根・器具部材・端材、以上を挙げることができる。偏りが検出されないのは、柱根を除く建築部材と土木部材、それに馬形くらいにとどまる。この結果については、器種による出土区域の偏りを、予想を超えて検出できたと評価してよいと考える。文字の使用に関わる器種である木簡（遺物番号1564）が弥生土器・土師器集中区域で出土するなど、明らかに移動した個体が存在するとはいえ、それらは木器類全体の偏在傾向を抽出するのに障害とはならない程度にとどまっているとみなすことができる。

次に、そうした器種ごとの偏り方が、意味ある方向性を持っていることに注目したい。一般に弥生時代から古墳時代にかけて広く普及したとされる鍬は、弥生土器・土師器集中区域に偏って出土している。古代以降の遺跡で出土することの多いとされる円形曲物容器・下駄・杓子・箸・火付け木などは、明らかに須恵器・灰釉陶器集中区域に偏っている。この点は特に重視すべきであろう。なぜなら、上記の偏在傾向が偶然の所産ではなく、既往の研究に照らしても問題のない方向性を備えたものであることを示しているからである。なお、年代測定の結果に照らした場合にも、年輪年代測定結果が576年＋αとの結果を示す楕円形曲物容器（遺物番号1499）が弥生土器・土師器集中区域で出土し、他方、放射性炭素年代測定結果が平安時代前半頃との結果を示す柱根３個体（遺物番号17・20・21）はいずれも須恵器・灰釉陶器集中区域で出土しており、矛盾はみられない。したがって、当発掘区においては土器類と木器類との間に、共伴という表現こそ適当ではないものの、とりあえず、「出土区域を同じくするものは帰属時期もまた近い」という程度には相関関係が存在すると捉えることが許されるであろう。

２　樹種の選択

出土した木器類各器種の樹種選択を、一覧にして掲げる（第138表）。まず目をひくのは、ヒノキを多用していることである。ヒノキと同定された試料は329例を数え、これは分析実施593件の55％に当たる。円形曲物容器底板・曲物側板・柄杓・馬形・連歯下駄・杓子・箸・火付け木・へら状木製品・板状木製品・割板残材・端材など、主要器種の大半において、他の材を圧する卓越ぶりを示している。これは、ヒノキが加工しやすく優秀な材であるとともに、当地域では豊富な材であったためと考えられる。材の質にこだわる必要がなく、雑木の類で十分用をなすと思われる火付け木においても多用されていることから、ヒノキは遺跡周辺で容易に得ることができたと推測される。同じくヒノキ属に属するサワラが多用されているのも、同様の理由によるのであろう。ただし、建築部材と土木部材ではサワラの方がヒノキより優勢となっており、これは耐水性の点ではヒノキに勝るとされるサワラの利点を考慮した選択であった可能性がある。それらに比較すると、同じく針葉樹であり、今日では多用

第138表　木器類各器種の樹種選択

| 種別 | 器具 | | |

されるスギがわずか９例にとどまるのはやや意外であるが、往時においては、それだけヒノキ・サワラが好まれ、常用されたと受け止めることができる。

ところで、ヒノキ・サワラに次いで３番目に多いアスナロ属もまた、ヒノキ科に属し、同様の性質を備える材である。しかし、アスナロ属が58例に達するとする同定結果には、いくらか疑問がある。飛騨地域においては、アスナロ属は、高山市街地の南方に位置する位山（くらい）（高山市一宮町）以南でしか自生が確認されず、それもヒノキほど顕著ではないとされている。古墳時代から古代にかけての遺跡周辺の植生が十分に明らかとなっていないとはいえ[3)]、往時においても、遺跡の位置する高山盆地ではヒノキほど容易に入手できる材ではなかった可能性が高い[4)]。したがって、本書においては、分析結果に従い、アスナロ属をヒノキとは区別したまま記載しておいたが、当時、そのような使い分けが行われたとは限らないことをお断りしておきたい。

一方、ヒノキを用いることをあえて避けたとみられる器種もある。特に顕著なのは鍬にみられる用材選択である。鍬ではヒノキは全く用いられず、クヌギ節が大半を占め、アサダとコナラ節がそれを補完する。これは、特に耐久力を必要とされる器具であることを考慮し、堅く強度に優れた材を選択した結果であろう。特にクヌギ節は、確認20例中、19例が鍬であり、残る１例も鍬素材として持ち込まれたとみられる割板であることから、古墳時代の鍬に限って選択された材であったと捉えることができる。なお、他地域で鍬の用材として常用されるアカガシ亜属は全くみられないものの、１個体のみ出土した泥除けに用いられている。

次に、建築部材ではクリを比較的多く用いる傾向が認められることも重視したい。柱根はすべてクリとの結果を得ており、柱根以外でも10例みられる。同様に、土木部材（杭）でも分析対象54個体の半数、27例に達している。第３章第４節にも記したように、古墳時代水田に関わる溝状遺構でも、古代水田に関わる溝状遺構でも、クリ材の杭は出土しており、時代を問わず同じ用途に使われたことが判明している。加工性の点では劣るものの、耐久性・耐水性に優れるというクリ材の性質を知り尽くした上での選択がなされたとみることができる。器具や器具部材の用材としてはほとんど選ばれていないことも、そのことを裏付ける。

挽物容器（漆器）ではケヤキが主体を占め、ブナ属がそれを補完する。この用材選択は、全国的傾向と軌を一にするものである。ケヤキは他の器種では円形曲物容器で１例みられるのみであり、ほぼ挽物容器に限って用いる材と認識されていたことが分かる。そのほか、珍しい材として、櫛のみにみられるイスノキを挙げることができる。イスノキは極めて強度が高くて割れにくく、櫛に用いるのにふさわしい材であるが、飛騨地域では自生しない。

当発掘区の出土木器類の樹種選択傾向について、以下のようにまとめることができる。

①全般に、ヒノキ属のヒノキ・サワラを多用する傾向が極めて顕著である。小型の器具から大型の建築部材まで、幅広い用途に用いている。

②柱や杭ではクリを選択する傾向が認められる。

③そのほかにも、鍬のクヌギ節・アサダ・コナラ節、泥除けのアカガシ亜属、挽物容器のケヤキ・ブナ属、櫛のイスノキなど、いくつかの器種では、用途にふさわしい材をあえて選んでいる。

では次に、野内遺跡におけるこのような樹種選択傾向を、周辺遺跡や他地域の事例と比較検討してみたい。

まず、古代以降の木器類については、飛騨地域では大がかりな樹種同定の実施例として、杉崎廃寺跡（飛騨市古川町）が知られている[5)]。杉崎廃寺跡では、寺院存続期である白鳳時代から平安時代初頭に属するものを主体とする木器類800個体について実施している。その結果、多くは針葉樹を選択していること、なかでもヒノキ科ヒノキ属の使用が顕著であること、ただし柱材はいずれもクリであること、以上のような傾向が確認されている。野内遺跡の須恵器・灰釉陶器集中区域出土の木器類と共通する傾向を示していると捉えることができる。下駄・杓子・箸・曲物容器にヒノキ属を多用するなど、器種ごとの樹種選択傾向も類似している。杉崎廃寺跡の事例と野内遺跡とでは確認器種や帰属時代幅に差異があることから単純に比較はできないものの、両遺跡の樹種同定結果から判断して、ヒノキ属を多用する一方で、柱材にはあえてクリを選択するというあり方が、古代の飛騨地域において広く共通する用材選択であった可能性は高いと思われる。

古墳時代については、飛騨地域には比較の対象となる事例はない。そこで、周辺地域との比較を試みる。榎田（えのきだ）遺跡（長野県長野市）では、５世紀初頭から中世に至る455個体の木器類について、樹種同定が行われている[6)]。特に注目されるのは、沼址ＳＧ３から出土した300個体余りの５世紀代の木器類であり、それらの中には鉄製Ｕ字形刃先を装着するタイプの曲柄鍬などがみられる。用材選択で特徴的なのは、鍬をはじめとする74個体の農具類中、クヌギ節が26個体、アサダが13個体、コナラ節が９個体を占め、この３樹種で過半数に達していることである。この用材選択は、野内遺跡の古墳時代木製農具にみられる傾向に類似する。特に注目されるのは、全国的にも農具としての用例が稀なアサダの選択例を共有することである。信州と同じく飛騨からは近い北陸地方の事例、例えば下老子笹川（しもおいごささがわ）遺跡（富山県高岡市）の弥生時代後期の木製農具中にコナラ節・クヌギ節はあってもアサダはみられないことを念頭に置くなら[7)]、このことは大いに強調してよいであろう。

信州地域と飛騨地域は、鍬に最も適した用材であるアカガシ亜属が自生しないなどの点で植生が共通しており、両地域では広く同様の選択がなされた可能性がある[8)]。野内遺跡の古墳時代木製農具にみられる用材選択が、当時の信州から飛騨にかけての地域における典型的様相である可能性は小さくないであろう。

３　木取りの選択

本書では、木器類の木取り方法について、「板目」、「柾目」、「追柾目」、「芯去」、「芯持」、「半割り」、「みかん割り」、「横木取り」、以上の８類に分類している（第27表、第１分冊167頁）。第139表に判定結果の一覧を掲げる。対象とした909件（906個体）中、56％に当たる511件を芯去材が占めるが、これは主として、個体数の特に多い器種である箸・火付け木の大部分が芯去材であることを示すにすぎない。検討対象とすべきは、柾目取りか板目取りかの選択のあり方である。

板のような平たい形状の木製品の場合、材を取るに当たっては、柾目取りか板目取りかの選択を迫られることとなる。柾目取りは、年輪と直交して材を切り出すため、歩留まりは良くないものの収縮や変形の少ない優れた材を得ることができる。ちなみに、やや斜めに切り出した場合は追柾目取りとなる。これに対して、板目取りは、年輪に沿って材を切り出すため、得られた材は反りを生じやすいものの、歩留まりは良い。そのため一般に、高い質や強度を求められる製品には柾目材がふさわしいとされ、数を揃えることが優先される場合には板目材を選択することとなる。もちろん、森林資源が

第139表　木器類各器種の木取り

| 種別 ＼ 木取り | 器具 | | |

そこで、より幅広い時期にわたる豊富な出土品に恵まれた事例に手掛かりを求めることとし、県内を代表する木器出土遺跡である柿田遺跡[10]（可児市・可児郡御嵩町）に目を向けることとする。柿田遺跡では２万点を超える木器類が出土し、その時期幅は弥生時代前期から室町時代に至る。報告書では個々の個体について、各々の出土した遺構の属する時期を記載しているので、それを基に木取り選択の変遷を知ることができる。当遺跡と重なる時代を対象とし、本書で採用しているのと同じ木取り分類に従い、板状木器類の木取りを判定してみる。

まず、古墳時代については、前半では板目12個体、柾目25個体、追柾目３個体、後半では板目45個体、柾目64個体、追柾目21個体となり、柾目取り優位が確認される。続いて古代についても、板目52個体、柾目67個体、追柾目26個体との結果を得ることができ、やはり柾目取りの優位は維持されていると判断される。しかし、ここまでの結果から、時代が下るに従い、板目取りの占める割合が高くなってきていることも窺える。そのことを端的に示すのが、続く中世前期における変化である。中世前期の木器類では、板目70個体、柾目56個体、追柾目20個体という結果となり、ここで初めて板目取りが柾目取りを押さえて優勢となるのである。資料数に恵まれるとともに長期にわたる変遷を追うことが可能な柿田遺跡のような遺跡は限られるため、他遺跡との比較検討はここまでとせざるを得ないが、柾目取りが優位を占めるというのは、県内の遺跡でも古代までにおいては、特に珍しくはない現象と言えよう。

以上から当遺跡の木器類にみられる木取りの傾向については、特に突飛なものではないと判断しておく。さらには、当遺跡の木器類には厳密な帰属時期が明らかでないものが多く、中世以降に下るものがある程度含まれているとみられるものの、それらの占める割合は、木器類の木取り選択の全体傾向に影響を及ぼすほど大きなものではないと判断してよいであろう。柾目取りの優位が顕著であるという、当遺跡の木器類にみられる木取り選択傾向は、それらの大半が古代までの時期に属することを示唆するように思えるのである。

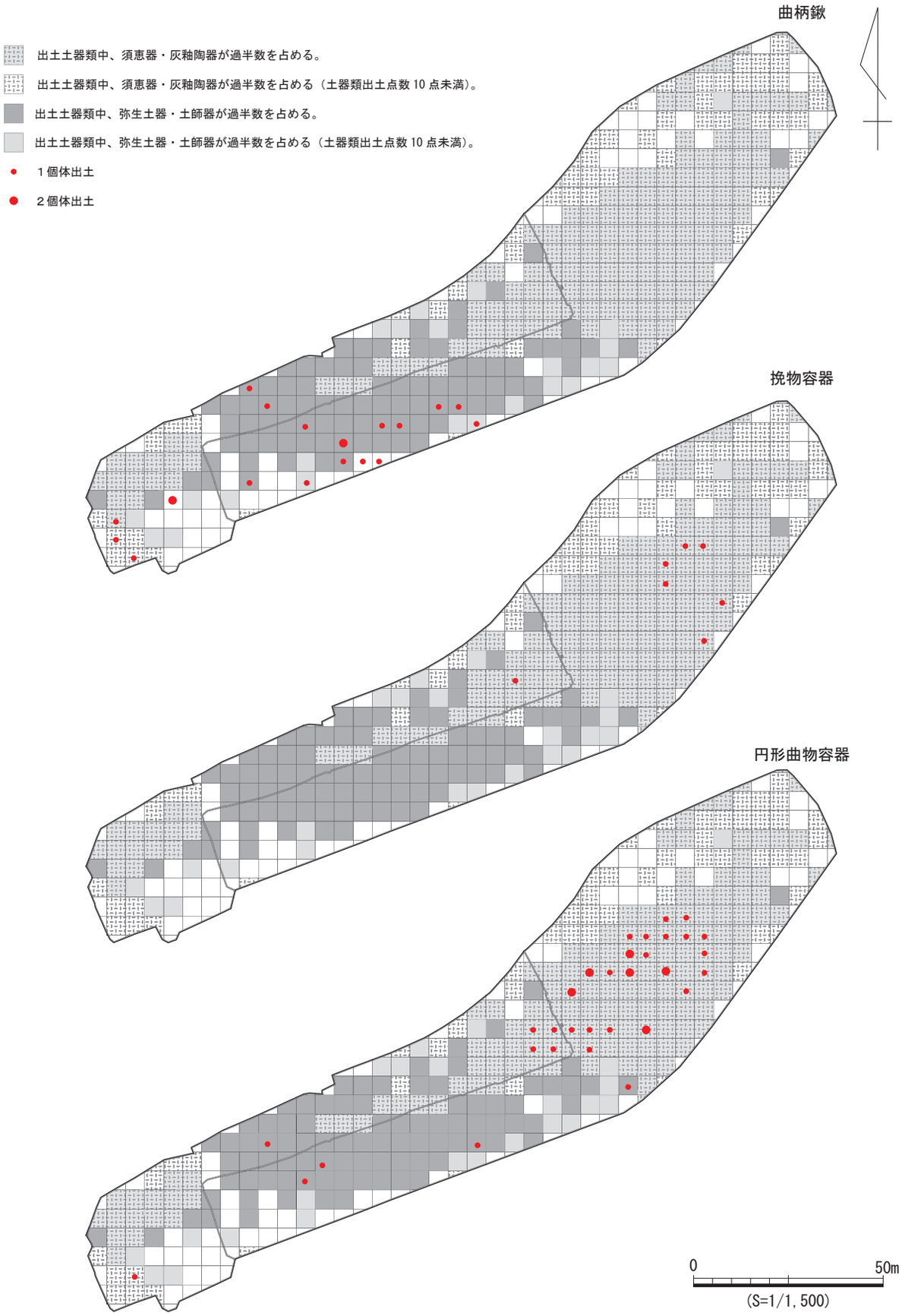
器種ごとにみてゆくと、器種によっては意識的に木取り方法を選んでいることが分かる。最も明確なのは、やはり鍬である。25個体中24個体が柾目ないし追柾目を選んでおり、板目は皆無である。前述のとおりクヌギ節・アサダ・コナラ節といった堅い材を選ぶとともに、木取りにおいても変形に強い柾目を選んでいるのであろう。その他の器種では、馬形で柾目18個体に対し板目１個体という極端な偏在が認められるのが注目される。馬形の場合には、特に強度が必要とされるとは思えないことから、それらが森林資源が豊富で贅沢な木取りを許された時代の所産であることを物語るものと受け止めたい。なお、馬形が既存の板状の木製品からの二次加工品であったとしても、やはり柾目取り優位の時代に属することを示唆する点で違いはない。

４　主要器種各論

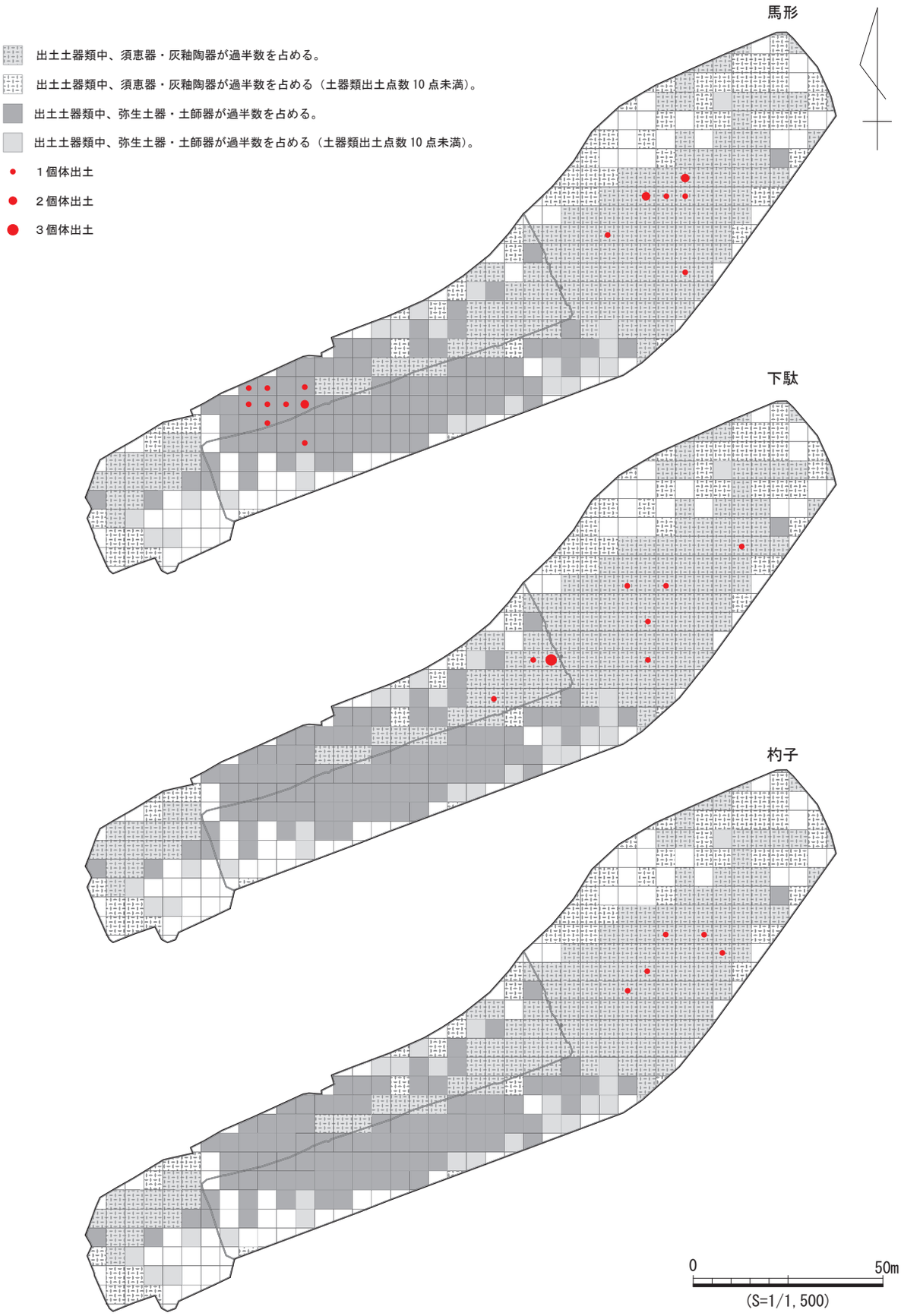
ここまでの検討結果を踏まえ、主要器種の使用年代等について、所見をまとめておく。すべての器種について明快な結論に至るわけではないが、現時点で収集し得る限りの情報をここに集約する。土器類の出土傾向を示した第９図に、主要器種の出土地点を重ねたものを掲載する（第236図･第237図）。

（１）「弥生土器・土師器集中区域」出土の器種

弥生土器・土師器集中区域でまとまった数が出土した器種は、鍬・楕円形曲物容器・割板である。



第236図　木器類主要器種の出土地点分布（１）



第237図　木器類主要器種の出土地点分布（２）

割板が存在することは、集落内に素材の板を製品に加工するような施設が存在したことを示唆する点で重要ではあるが、確認個体数が少ないため、これ以上追究しない。ここでは鍬を取り上げる。１個体のみ出土した泥除けについても鍬の一種とみなし、ここで併せて取り上げる。

鍬

鍬は25個体確認した。弥生土器・土師器集中区域に偏る傾向が顕著である。分類可能な状態の21個体中、直柄鍬はわずか１個体にすぎず、20個体は曲柄鍬である。また、曲柄鍬は、確認し得る限りでは、すべてナスビ形鍬である。第３章第４節に記したように、野内遺跡のナスビ形鍬はＡ～Ｆ類に分類できる（第108図、第１分冊168頁）。すなわち、刃部全体が曲線的で、下膨れ形状となるＡ類（遺物番号1462・1463）、刃部上端の肩の部分が張り、側縁が直線的で、短く幅広なＢ類（遺物番号1465～1467）、刃部上端の肩の部分が張り、側縁が直線的で、細長いＣ類（遺物番号1468～1471）、刃部が分岐し複数の歯を持つＤ類（遺物番号1472～1474・1478）、刃部中央に透かし孔を持ち、下端に鉄刃装着用の加工が認められるＥ類（遺物番号1479）、極めて幅広で、下端に鉄刃装着用の加工が認められるＦ類（遺物番号1480）、以上の６類である。

これらの鍬は、いずれも飛騨地域では初めての出土例である。伊勢湾地方で創出され、東日本を中心とする広い地域で用いられたとされる東海系曲柄鍬[11]を思わせる要素を備える個体が見当たらないことを、組成上の大きな特徴とする。また、北陸地方を中心に分布するとされる、軸部に枘孔を持つナスビ形鍬[12]もみられない。その一方で、当遺跡のナスビ形鍬Ｅ類は、刃部にスリット状の透かし孔を持っており、そのような鍬は信州北部に分布域の中心を持つとされる[13]。また、又鍬では四又鍬が多いのも当遺跡の特徴であるが、これも信州と共通する。前述のとおり、鍬の用材にアサダを選択することがあるのも信州と同じである。以上から、野内遺跡の古墳時代の鍬は、近隣地域の中では信州に類似する特徴を備えると判断する。

鍬の各個体について、土器類との共伴関係から細かく年代を特定することは困難である。それでもナスビ形鍬については、木器類の中でも編年研究が進んでいる器種であることから、全国での既往の出土例に照らし、帰属時期を推定することが可能と判断する。当発掘区のナスビ形鍬には、帰属時期が弥生時代に遡ることが確実視される個体はない。木製の刃部をそのまま使用するＡ～Ｄ類と、刃部に鉄製の刃先を装着しての使用が想定されるＥ類・Ｆ類とでは、後者の方が新しいタイプであることに疑問の余地はないであろう。また、装着する刃先が小型で、それまでのナスビ形鍬の器形の特徴を多く残すＥ類と、笠状突起を痕跡程度にしか残さず、器形そのものが大きく変質しているＦ類とでは、後者の方が新しいとみてよい。暦年代で言えば、Ａ～Ｄ類は古墳時代前期の３～４世紀代、Ｅ類は古墳時代中期の５世紀代、Ｆ類は古墳時代後期の６～７世紀頃に比定できるであろう[14]。したがって、当発掘区で出土した鍬は、飛騨地域では初の出土例であるにとどまらず、当地域の古墳時代における木製農具の変遷を具体的に示す基本資料に位置付けることができる。

泥除け

遺物番号1485の泥除けについては、周辺諸地域での出土例との比較から、ナスビ形鍬の大部分と同じく古墳時代前期に属するとみてよいであろう。しかし、泥除けはこの１個体のみしか出土せず、しかも当遺跡では、泥除けを装着可能な身幅の広い鍬は全く出土していない。さらに注目されることに、この個体の樹種は、樹種同定を実施した木器類全個体中、唯一のアカガシ亜属である。おそらく、他

所から持ち込まれた見本品のようなものと捉えるべきであり、当地域において古墳時代に同様の器具が広く普及したことを意味するわけではなかろう。なお、この個体は、これまでのところ飛騨地域では唯一の出土例である。

（２）「須恵器・灰釉陶器集中区域」出土の器種

須恵器・灰釉陶器集中区域では、より多種多様な木器類が出土した。それらの中には、遺物番号1538（桶）、遺物番号274（容器蓋）など、中世以降に属することが確実視される個体が含まれることから、平安時代前半を前後する時期に属するとみて問題ない器種と、帰属時期がより新しいとみるべき器種が混在するものと判断される。ただし、当発掘区では、確認できた限りでは板材はすべて打割製材によるものであって、大型縦挽き鋸を使用した挽割製材の痕跡は全く確認されないことから、挽割製材普及後の中世後期以降に属するものは、あまり多くはないものと思われる。

この区域でまとまった数が出土したのは、挽物容器・円形曲物容器・組物容器・下駄・杓子・箸・火付け木・模造品・柱根・器具部材・端材である。以上のうち、主要な器種を取り上げ、所見をまとめておく。

挽物容器

須恵器・灰釉陶器集中区域で出土した器種のうち、帰属時期が中世に下る可能性の高いものとして挙げられるのが挽物容器である。当発掘区で確認した挽物容器は、すべて全面に黒漆を塗った漆器椀・皿である。掲載した８個体中、７個体では赤色漆絵が描かれている。また、これら７個体の木胎の樹種は、いずれもケヤキであり、赤色漆絵が描かれていない漆器皿（遺物番号1491）のみ、ケヤキではなくブナ属を用いている。

近年の四柳嘉章氏の研究によれば、漆器においては、伝統的用材のケヤキが鎌倉時代後期まで上質漆器の木胎に欠かせぬ材とされる一方で、平安時代後期以降、ブナがケヤキの代用品として普及し、用材が多様化する室町時代にはケヤキを抑えて主流となるとされる。また、赤色漆絵漆器が登場する時期は、12世紀末頃とされる[15]。以上の研究動向を踏まえ、赤色漆絵を施すケヤキの椀・皿を主体とする当発掘区の漆器の帰属時期については、中世前期の鎌倉時代頃と捉えておきたい。なお、この挽物容器の検討結果から、須恵器・灰釉陶器集中区域出土の木器類のすべてが平安時代前半の灰釉陶器普及期までに属するとは限らず、帰属時期が中世にまで下るものが含まれることが再確認される。したがって、個体の属性そのものから帰属時期を明らかにできないもの、例えば器具部材などの中にも、古代ではなく中世以降に属するものが含まれる可能性は高いと思われる。

円形曲物容器

円形曲物容器は、飛騨地域では杉崎廃寺跡（飛騨市古川町）で出土しているものの、側板の断片のみであり、全形を窺うことのできる個体は見当たらない[16]。遺物番号147・1507のような側板と底板が共に残存する個体は、飛騨地域では初めての出土例となる。

中世以降にも多い器種であるため、一般に古代と中世の製品を見分けるのは容易ではないとされている。しかし、当発掘区の出土品には、古代の円形曲物容器の特徴を窺うことができる。まず、底板と側板の結合方法に着目すると、底板周縁部に段差を設けて側板を載せ、樹皮紐で結合するタイプ、すなわち第３章第４節においてＥ類としたものがみられることに気付くが、これは古代に盛行したとされる結合方法である。また、木取り方法に着目すると、底板39個体中、柾目取りが24個体とほぼ３

分の２を占めており、柾目取りが優勢である。これも中世というよりは古代の製品に多い特徴である。さらに、底板は概して薄手の作りで、周縁の成形なども丁寧であるように見受けられる。これもまた、古代の製品の特徴とみてよいであろう[17]。以上から、当発掘区の円形曲物容器については、古代の製品が大半を占めると捉えておく。ただし、第３章第４節にも記したように、個体間に大きな型式差が認められることから、一部の個体の帰属時期が中世以降に下る可能性はある。

馬形

馬形の出土例としては、県内の遺跡では柿田遺跡[18] に次いで２例目となる。律令制祭祀の体系化に密接に関わる祭祀具とされ、７世紀から９世紀にかけて全国的な広がりをみせるとされる[19]。普及時期が比較的限定される器種であることから、当発掘区の馬形についても、それを大きく逸脱するとは考え難く、平安時代前半頃の遺物とみて問題ないであろう。先にも記したとおり、柾目取りの個体が多いことも傍証となる。なお、第137表及び第237図に明らかなとおり、出土地点が須恵器・灰釉陶器集中区域に偏ることなく、広く散在しているのがやや奇異に思えるが、これは流れに投じるという馬形の使用上の特性のため、下流側の弥生土器・土師器集中区域まで流された個体が少なくなかったためと考えられる。

下駄

当遺跡では下駄は15個体確認しているが、差歯下駄は１個体のみで、残る14個体は連歯下駄である。それらの帰属時期について、現研究段階では絞り込むのが難しい。第３章第４節では古墳時代に遡る可能性はないことを述べておいたが、ここでは近隣の事例に手掛かりを求め、さらに考察を進めたい。県内における中世までの主な既知事例を掲げる（第140表）。

飛騨地域では、当遺跡のＤ地区と杉崎廃寺跡で出土しているものの、年代推定の可能な事例に恵まれない。県内で比較の対象となるのは、古墳時代から中世後期に至る40個体の下駄が出土した柿田遺跡の事例である。柿田遺跡例では、当発掘区の主流である連歯下駄Ａ類と同様の、歯の削り出しが台から連続し、歯は台形を呈し、歯が台に対して直立するという属性を備える連歯下駄は、中世前期にも中世後期にもみられる[20]。

県外では、まず、北陸地方の事例に目を向けてみると、平安時代から中世後期に至る幅広い時代にわたりＡ類と同様の下駄が出土しているほか[21]、当遺跡の連歯下駄Ｂ類（歯上端と台との境の部分が屈曲し歯が強く外側へ張り出すタイプ）と同様の下駄も散見される[22]。さらに、『木器集成図録　近畿古代編』によれば、Ｂ類の有無については定かではないものの、Ａ類と同様の特徴を備える連歯下駄は、近畿地方では平安時代にすでに普遍的にみられるようである[23]。さらに、12世紀に属することが確実視される柳之御所遺跡（岩手県平泉町）の出土例[24] を当遺跡の出土品と比較してみると、多くの個体は当発掘区のＡ類に相当し、型式上の大きな差異は認めがたいことが確かめられる。

以上から、少なくともＡ類については、平安時代から中世後期に至る幅広い時代にみられるタイプと捉えてよいであろう。当発掘区の出土品については、出土地点とその周辺における土器類の組成との整合性を重視するならば、平安時代前半頃に位置付けることに無理はない。とはいえ、須恵器・灰釉陶器集中区域では、中世以降に下る土器類・木器類もまた出土しているという状況も考慮する必要があろう。したがって、当発掘区出土の下駄の帰属時期については、とりあえず、古く位置付ける場合には平安時代前半頃とみることが可能であるが、新しく位置付ける場合には中世後期にまで下る可

第140表　県内遺跡での下駄の出土例

遺跡名	遺物番号	出土地点	型式	平面形	前壺の位置	歯の削り出し方	歯の形状	歯の立ち方	時代・時期
野内遺跡Ｄ地区	65	掘立柱建物跡５	連歯下駄	－	－	**台から連続**	－	**直立**	中世前期
	155	遺物包含層	差歯下駄	隅丸長方形	－		－	－	－
	156	遺物包含層	連歯下駄	長方形	**中央**	**台から連続**	－	**直立**	－
杉崎廃寺跡	137	遺物包含層	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	**台から連続**	方形	**直立**	中世以降
	138	遺物包含層	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	**台から連続**	－	直立？	中世以降
	139	遺物包含層	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	**台から連続**	方形	**直立**	中世以降
	140	遺物包含層	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	**台から連続**	方形	**直立**	中世以降
	141	遺物包含層	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	**台から連続**	方形	**直立**	中世以降
桧遺跡	－	区画溝	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	－	**直立**	中世前期
曽根八千町遺跡	286	ＳＤ12	連歯下駄	隅丸長方形	片寄る	台側縁内側から削り出す	**台形**	外開き	古墳後期
柿田遺跡	6301	ＮＲ95・ＳＤ208	連歯下駄	隅丸長方形	片寄る	**台から連続**	方形	**直立**	古代
	6302	ＮＲ48	連歯下駄	隅丸長方形	片寄る	**台から連続**	方形？	直立？	古墳時代
	6303	ＳＫ103	連歯下駄	隅丸長方形	片寄る	－	－	－	－
	6304	ＳＤ107	連歯下駄	隅丸長方形	片寄る	**台から連続**	方形	外開き	古墳後半
	6305	遺物包含層	連歯下駄	楕円形	片寄る	－	－	－	－
	6306	ＮＲ43	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	台形？	**直立**	中世前期？
	6307	ＳＥ1	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	**台形**	**直立**	中世前期
	6308	ＳＤ60	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	**台から連続**	方形	**直立**	中世前期
	6309	遺物包含層	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	－	－	－
	6310	ＳＷ61	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	**台から連続**	台形？	**直立**	中世前期
	6311	ＳＥ1	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	方形	**直立**	中世前期
	6312	Ｐ754	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	**台形**	**直立**	－
	6313	ＮＲ95	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	**台から連続**	**台形**	**直立**	－
	6314	ＳＫ53	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	**台形**	**直立**	－
	6315	ＳＷ43	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	台側縁内側から削り出す	**台形**	**直立**	中世後期
	6316	ＮＲ44	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	**台形**	**直立**	古代？
	6317	ＳＭ284	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	**台形**	**直立**	中世後期
	6318	ＳＤ204	連歯下駄	楕円形	**中央**	台側縁内側から削り出す	**台形**	**直立**	中世後期
	6319	ＳＷ43	連歯下駄	楕円形	**中央**	**台から連続**	**台形**	**直立**	中世後期
	6320	ＳＤ18	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	－	－	－	中世前期
	6321	ＳＫ52	連歯下駄	－	**中央**	－	－	－	中世前期
	6322	ＳＫ52	連歯下駄	隅丸長方形	**中央**	－	－	－	中世前期
	6323	ＳＫ52	連歯下駄	－	－	－	－	－	中世前期
	6324	ＮＲ95・ＳＤ208	連歯下駄	隅丸長方形	－	**台から連続**	－	**直立**	古代
	6325	ＳＤ60	連歯下駄	楕円形	－	－	－	－	中世前期
	6326	ＮＲ43	連歯下駄	－	－	－	－	**直立**	中世前期？
	6327	ＳＷ60	連歯下駄	隅丸長方形？	－	台との境が屈曲する	**台形**	**直立**	中世前期
	6328	ＮＲ95	連歯下駄	－	－	**台から連続**	－	－	－
	6329	ＮＲ44	連歯下駄	楕円形	－	**台から連続**	**台形**	**直立**	古代？
	6330	ＳＤ99	連歯下駄	楕円形	－	**台から連続**	**台形**	**直立**	－
	6331	ＳＤ155	連歯下駄	長方形	－	－	－	－	中世前期
	6332	ＳＭ284	差歯下駄	楕円形	－		**台形**	**直立**	中世後期
	6333	ＳＭ284	連歯下駄	楕円形	－	**台から連続**	**台形**	**直立**	中世後期
	6334	ＳＷ43	－	－	－	－	**台形**	－	中世後期
	6335	遺物包含層	－	－	－	－	**台形**	－	－
	6336	ＳＤ18	－	－	－	－	**台形**	－	中世前期
	6337	ＮＲ57	－	－	－	－	**台形**	－	中世前期
	6338	ＳＥ1	－	－	－	－	**台形**	**直立**	中世前期
	6339	遺物包含層	－	－	－	－	**台形**	－	－
	6340	ＳＥ1	－	－	－	－	－	－	中世前期

1　近世以降の事例は省略した。
2　「－」は「不明」を意味する。
3　時代・時期については報告書での記載を参照したが、一部、推定所見を記した箇所がある（「？」を付記）。
4　太字は、野内遺跡で主体を占める連歯下駄Ａ類と共通する属性を示す。
5　出典は以下の通りである。
　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ｄ地区』
　古川町教育委員会1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』
　大垣市教育委員会1997『桧遺跡現地説明会資料』
　大垣市教育委員会1997『曽根八千町遺跡』
　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』

能性も排除できないと考えておく。今後の調査の進展による、検証に耐え得る良好な資料の蓄積を待つこととしたい。

杓子

杓子は、飛騨地域では杉崎廃寺跡における出土例が知られている[25]。それらの多くは、寺院の伽藍の西を南北に限る溝状遺構（排水施設）から出土しており、古代に属する遺物であることに疑問の余地はほとんどない。杉崎廃寺跡の杓子には、当遺跡のＡ類（身の先端が丸みを帯びて半円状をなすもの）とＢ類（身の先端がやや角ばるもの）が共存するなど、当発掘区の出土品との間に共通点が認められる。

以上のような近隣遺跡の事例との間にみられる類似と、確認した６個体すべてが須恵器・灰釉陶器集中区域で出土するという極端な偏在を示す器種であることを併せ考え、当遺跡の杓子は、灰釉陶器普及期の平安時代前半頃に属すると判断する。

箸

破片数で298点確認したが、第３章第４節に掲げた出土地点一覧（第30表、第１分冊179頁）にも明らかなとおり、出土地点が須恵器・灰釉陶器集中区域に偏る傾向が極めて顕著である。311ＳＤでまとまった数が出土しており、この遺構では輸入磁器や山茶碗など中世に属する土器類もわずかながら出土しているので、そのことを重視するなら、帰属時期が中世に下る可能性を視野に入れることとなる。しかし、出土土器類の大半が須恵器で占められ、灰釉陶器さえわずかしか含まれない321ＳＤ・324ＳＤでも出土例がみられることと、墓339ＳＫにおいて当発掘区では最も古い部類に属する灰釉陶器碗（遺物番号930）と共に出土していることから、やはり、灰釉陶器の普及期かそれに先立つ時期に使用が始まっていたとみるべきであろう。

なお、箸状の木製品は、一般に９世紀頃に全国的に普及するとされており[26]、以上の検討結果は全校的趨勢に矛盾しない。ちなみに飛騨地域では、古代の箸と思われるものは、杉崎廃寺跡でも出土している[27]。

火付け木

破片数で2,401点確認しており、当発掘区では確認数の最も多い器種である。須恵器・灰釉陶器集中区域の広い範囲で出土しているものの、第３章第４節に掲げた出土地点一覧（第31表、第１分冊180頁）に明らかなとおり、321ＳＤ・324ＳＤといった、出土遺物の大半を須恵器が占め、灰釉陶器があまり含まれない遺構からも多数出土していることから、灰釉陶器の普及期かそれに先立つ時期に使用が始まっていた可能性が高い。当遺跡のＤ地区で掘立柱建物跡の柱穴などから出土した同様の器具については中世前期頃のものと結論づけられているが[28]、当発掘区の出土品については、平安時代前半までに位置付けられる古代の遺物と捉えて問題ないと判断する。

端材

本書で端材と呼んでいるのは、厚み調整や面加工を経た製品の板や角材などの一端を、長さ調整のために切り落としたことにより生じた木片である。したがって、原木を割板に加工した際に生じたものや、割板を製品の板や角材に加工した際に生じたものは除外している。第３章第４節にも記したように、建築部材由来とみられるものと、器具ないし器具部材由来とみられるものが混在する。

掲載した端材は、すべて須恵器・灰釉陶器集中区域で出土したものである。本書に掲載した端材は確認個体のすべてではないため、未掲載品にまで視野を広げれば弥生土器・土師器集中区域での出土

例が皆無とまでは言えないものの、それでも須恵器・灰釉陶器集中区域に偏る傾向は否定できない。関連して、須恵器・灰釉陶器集中区域では、端材はまとまった数が確認されている一方で、割板や割板残材はわずかしか出土していないことにも注目したい。

以上から、集落内で器具や部材の長さ等の微調整作業を日常的に行うようになったのは古代以降であること、にもかかわらず、その時期に本格的な製品加工施設が集落内やその周辺に営まれることはなかったこと、これら２点を指摘することができる。

５　野内遺跡出土木器類の特質

ここまでの検討結果をまとめる。

①弥生土器・土師器集中区域の出土品と須恵器・灰釉陶器集中区域の出土品との間に器種組成上の差異が認められることから、当発掘区の出土木器類は、出土区域を手掛かりとし、帰属時期を異にする２群に大別することができる。

②弥生土器・土師器集中区域で出土した木器類には、弥生時代に遡ることが確実視される個体はみられず、古墳時代前期以降の製品で占められると判断される。

③古墳時代に属する器種には、鍬・楕円形曲物容器・割板がある。鍬には古墳時代前期・中期・後期の残存状態良好な個体が含まれており、古墳時代における当地域の木製農具の変遷を具体的に示す基本資料に位置付けることができる。

④須恵器・灰釉陶器出土区域で出土した木器類には、平安時代前半頃に属するとみられるものが多く、基本的には古代の遺物が大半を占めると判断される。ただし、帰属時期が中世以降に下ることが確実視される個体も含まれることから、すべてが古代の遺物というわけではないことに注意を要する。

⑤平安時代前期頃に属する器種には、円形曲物容器・馬形・杓子・箸・火付け木・柱根・端材がある。いずれも当地域の古代の木器類を代表する基本資料に位置付けることができる。端材が含まれることから、古代以降、集落内で器具や部材の長さ等の微調整作業が日常的に行われたとみられる。

⑥中世以降に属する器種としては、桶・挽物容器などを挙げることができる。下駄についても、その可能性があるほか、多数出土している器具部材の中にも、同様の可能性を考えるべきものが含まれるとみられる。

⑦弥生土器・土師器集中区域と須恵器・灰釉陶器集中区域の両方で多数出土したものには、建築部材・土木部材がある。これは、いずれの時期においても木造建築物が建てられ、また、水流制御等のための造作が行われたことを示す。

⑧用材については、いずれの時期においてもヒノキを多用する傾向が認められ、主として周辺で入手できる材を用いたものとみられる。ただし、櫛のイスノキ、泥除けのアカガシ亜属といった飛騨地域では自生しないとされる材もわずかながら確認される。

⑨そのほかにも特定の器種では用途にふさわしい材を選んでおり、器種ごとの用材選定に明確な基準が存在したことが窺える。古墳時代の鍬におけるクヌギ節・アサダ・コナラ節、中世の挽物容器におけるケヤキがそれに該当し、さらに、柱や杭では、時代を問わずクリを比較的多く

選択する傾向が認められる。

⑩木取りについては、板状の材を得る場合、いずれの時期においても板目取りより柾目取りを選択している。特に強度を必要としない器種にもそうした傾向が認められることから、当発掘区の出土木器類の大部分が森林資源の豊富な古代頃までの所産であることが窺える。

⑪強度を必要とされる鍬では柾目取りを選ぶなど、特定の器種では意識的に木取り方法を選択していることも明らかである。いずれの時期においても、木取りの選択について基準が存在したことが窺える。

補足するなら、まず、切り倒しただけで加工が施される前の段階の伐採木が出土していないことを挙げるべきであろう。すなわち、原木に打割製材を施して割板への加工を行う製材所のような大規模な加工施設は、集落内にも、その周辺にも、存在しなかったと判断されるのである。関連して、未製品がほとんど確認されていないことに注目したい[29]。これらのことが示唆するのは、野内遺跡の集落内やその周辺では木器類の集中的な生産は行われておらず、この集落が集落外へ広く製品を供給する生産拠点として機能することはなかったということである。これは、古墳時代、古代以降のいずれにおいても言えることである。当遺跡で出土した木器類のほとんどは、この集落で消費するために他所から持ち込まれたか、必要に応じて集落内で自給自足的に製作されたものであるとみなすことができる。

以上も念頭に置き、それら集落で消費された木器類を改めて眺めてみると、樹種と木取りの選択に関する基準の存在が認められるにとどまらず、器種によっては形状や製作技法にある程度の均質性を窺うことも可能である。例を挙げれば、古墳時代の鍬、古代の円形曲物容器・馬形・杓子・箸、そして中世の挽物容器などに、そうした傾向を見て取ることができる。このことから、木器類のうち、ある程度の複雑さを備えた器種については、素人の手になるものではなく、木器製作に慣れた集団による製品であったと考えたい。その一方で、製作面での専門性が低く、製品とさえ呼び難い火付け木や土木部材などもまた大量に存在することは、集落内の一般住人による活発な樹木利用を示すものと捉えられよう。古代以降における端材の存在も、集落内における簡単な器具の製作や調整・転用等の工作を示唆するものであり、同様の文脈で捉えるべき事象と判断する。

第５章　第１節　注

１）本節での考察をはじめ、本書に掲載した木器類の報告については、山田昌久氏（首都大学東京）から賜った多岐にわたる御教示を拠り所とした部分が大きい。特に記して感謝の意を表する。

２）出土した木器類のうち、実測図を掲載した910個体を主な検討対象としている。第３章第４節に記したとおり、本書では部材・加工材や「○○状木製品」以外、すなわち器種名を特定できた器具については、特に個体数の多い箸・火付け木を除き、ほぼすべての確認個体を掲載しているので、この方針により木器類全体の検証に支障を来すことはないと考える。

３）第４章第１節に掲載した花粉化石群集の分析結果では、ヒノキとアスナロ属を含むヒノキ科の存在自体、明らかとなっていない。

４）飛騨地域の植生については、大森清孝氏（飛騨生態調査研究室）と中島照雅氏（高山市林務課）から御教示を賜った。なお、大森氏からは、遺跡付近を流れる川上川は位山に源を持つことから、位山で伐採されたアスナロ属の材が水運により遺跡付近にまで運ばれた可能性はあるのではないかとの御指摘を受けた。

５）古川町教育委員会1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』113～145頁、及び付編。

６）長野県埋蔵文化財センター1999『榎田遺跡』第２分冊175～205頁、363～391頁。

７）財団法人富山県文化振興財団2006『下老子笹川遺跡発掘調査報告』第五分冊327～336頁。

８）ただし、野内遺跡では、花粉化石群の分析において、アカガシ亜属の花粉が検出されている。第４章第１節を参照のこと。

９）前掲注５）文献に同じ。

10）財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』。

11）樋上昇2000「３～５世紀の地域間交流－東海系曲柄鍬の波及と展開－」『日本考古学』第10号など。

12）深堀茜1999「北陸の木製農耕具集成（１）」『富山考古学研究』第２号など。

13）前掲注11）文献。

14）鍬をはじめとする木製農具類の年代観については、山田昌久氏（首都大学東京）から御教示を賜った。

15）漆器の用材と加飾の変遷については、下記の文献を参照した。

①四柳嘉章2006『ものと人間の文化史131-Ⅰ　漆Ⅰ』法政大学出版局

②四柳嘉章2009『漆の文化史』岩波書店

16）前掲注５）文献所載の遺物160～162番。

17）円形曲物容器の年代観については、山田昌久氏（首都大学東京）と鈴木正貴氏（愛知県埋蔵文化財センター）から御教示を賜った。

18）前掲注10）文献。同書には19個体の馬形を掲載している（遺物6773～6791番）。

19）巽淳一郎1996『日本の美術361　まじないの世界Ⅱ（歴史時代）』至文堂、41～44頁など。

20）第140表にも示したように、遺物6307番・6317番・6319番などが当発掘区の連歯下駄Ａ類に類似する。詳しくは、前掲注10）文献を参照されたい。

21）北陸中世土器研究会1996『飾る・遊ぶ・祈るの木製用具』を参照した。該当する事例のうち、貝田遺跡（石川県羽咋郡富喜来町）出土例は12世紀中葉に位置付けられている。なお、同書所収の、岩田隆1986「中世遺跡出土の下駄」及び、四柳嘉章・下村好美1996「能登の木製用具　下駄の研究方法と木製品にみる中世の民間信仰」では、資料集成と考察がなされている。

22）前掲注21）文献所載の気多社僧坊群（石川県羽咋市寺家町）出土例（時代不明）、梅原胡摩堂遺跡（富山県西礪波郡福原町）出土例（中世後期）に、当発掘区の連歯下駄Ｂ類に似るものがみられる。

23）奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録　近畿古代篇』所載の2214番（平城京左京一条三坊出土、９世紀前半）、2218番（平城宮出土、８世紀後葉）、2309番（滋賀県鴨遺跡出土、９世紀後葉～10世紀前葉）など。

24）財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995『柳之御所跡』所載の遺物583～593番、1149～1157番など。

25）前掲注５）文献所載の遺物142～148番。

26）秋田裕毅2002『ものと人間の文化史104　下駄　神のはきもの』法政大学出版局、275頁。

27）前掲注５）文献所載の遺物152～159番。ただし、154番は下端が炭化しており、火付け木の可能性がある。

28）財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ｄ地区』所載の遺物14番など。

29）未製品と断定できるものはほとんどみられないが、可能性のあるものとして、加工途上にみえる遺物番号878（板状木製品）、枘穴を作りかけている遺物番号1821（建築部材）などを挙げることができる。

第141表　木器類の属性一覧（１）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
873	器具	鍬	曲柄鍬		1067NR	－	Y	柾目	クヌギ節				1
874	器具	鍬	曲柄鍬		1067NR	－	Y	柾目	クヌギ節			1	
1462	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ａ類	13タ	YT	Y	柾目	クヌギ節				1
1463	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ａ類	17ソ	KT	Y	柾目	クヌギ節			1	
1464	器具	鍬	曲柄鍬		14チ	YT	－	柾目	クヌギ節			1	
1465	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｂ類	19ツ	Ⅰ	－	柾目	クヌギ節				1
1466	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｂ類	16タ	KT	Y	柾目	クヌギ節				1
1467	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｂ類	15チ	－	Y	柾目	クヌギ節			1	
1468	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｃ類	17ソ	KT	Y	柾目	クヌギ節				1
1469	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｃ類	19ツ	Ⅰ	－	柾目	クヌギ節			1	
1470	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｃ類	16チ	KT	Y	柾目	クヌギ節			1	
1471	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｃ類	20テ	KT	S	柾目	クヌギ節				1
1472	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｄ類	17チ	KT	Y	柾目	アサダ				1
1473	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｄ類	21テ	Ⅰ	S	柾目	クヌギ節				1
1474	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｄ類	14タ	YT	Y	柾目	クヌギ節				1
1478	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｄ類	21ツ	KT	S	柾目	クヌギ節			1	
1479	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｅ類	12ソ	YT	Y	追柾目	クヌギ節				1
1480	器具	鍬	曲柄鍬	ナスビ形鍬Ｆ類	14チ	YT	－	柾目	コナラ節				1
1481	器具	鍬	曲柄鍬		15タ	YT	Y	柾目	クヌギ節			1	
1484	器具	鍬	曲柄鍬	曲柄（反柄）	15タ	YT	Y	芯去	アサダ				1
1483	器具	鍬	直柄鍬	平鍬	14タ	YH	Y	柾目	クヌギ節				1
1475	器具	鍬			20テ	KT	S	柾目	アサダ				1
1476	器具	鍬			20テ	KT	S	柾目	アサダ				1
1477	器具	鍬			21テ	KT	S	柾目					
1482	器具	鍬			17チ	KT	－	柾目	クヌギ節				1
1485	器具	泥除け			21テ	KT	S	柾目	アカガシ亜属				1
1486	器具	えぶり			７シ	Ⅱ	S	追柾目	ヒノキ				1
1487	器具	田下駄			５ケ	Ⅲ	S	板目	ヒノキ				1
887	器具	刳物容器			1067NR	－	Y	柾目	サワラ				1
290	器具	挽物容器	漆器椀？		311SD	－	S	横木取り	ケヤキ				1
291	器具	挽物容器	漆器皿？		311SD	U	S	横木取り	ケヤキ				1
1488	器具	挽物容器	漆器皿		５シ	Ⅱ	S	横木取り	ケヤキ			1	
1489	器具	挽物容器	漆器椀？		６ケ	Ⅱ	S	横木取り	ケヤキ				1
1490	器具	挽物容器	漆器椀		北東耕土撤出区	－	S	横木取り	ケヤキ				1
1491	器具	挽物容器	漆器皿		10ス	Ⅲ	S	横木取り	ブナ属				1
1492	器具	挽物容器	漆器皿		５ケ	Ⅱ	S	横木取り	ケヤキ				1
1493	器具	挽物容器	漆器皿		５サ	Ⅱ	S	横木取り	ケヤキ			1	
888	器具	曲物容器	楕円形曲物容器		1067NR	－	Y	柾目	ヒノキ				1
1498	器具	曲物容器	楕円形曲物容器		20テ	KT	Y	柾目	アスナロ属			1	
1499	器具	曲物容器	楕円形曲物容器		20ツ	KT	Y	追柾目	ヒノキ		1		
88	器具	曲物容器	円形曲物容器		1254ST	覆土	S	柾目	ヒノキ				1
147（底板）	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ａ類	1255ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
182	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｂ類	311SD～386ST	Ⅲ（断ち割り）	S	板目	アスナロ属			1	
258	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ａ類	1250SM	－	S	柾目	ケヤキ				1
260	器具	曲物容器	円形曲物容器		1250SM	－	S	板目	ヒノキ				1
685	器具	曲物容器	円形曲物容器		1061SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
686	器具	曲物容器	円形曲物容器		1061SD	－	S	板目	ヒノキ				1
1500	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ａ類	８サ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1501	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ａ類	７シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1502	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ａ類	９サ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1503	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ａ類	７コ	Ⅱ	S	柾目	スギ				1
1504	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ａ類	５コ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1505	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ａ類orＢ類	７サ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1506	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｂ類	７コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1507（底板）	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｂ類	北東耕土撤出区	－	S	追柾目	ヒノキ				1
1508	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｂ類	８サ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1509	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｂ類	17ソ	KDT	Y	柾目	ヒノキ				1
1510	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｂ類	15タ	YT	Y	柾目	ヒノキ				1
1511	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｂ類	６サ	Ⅱ	S	追柾目	ヒノキ				1
1512	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｂ類	11ソ	YT	Y	板目	アスナロ属			1	
1513	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｃ類	９シ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1514	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｄ類	12年度試掘坑3	－	S	柾目	ヒノキ				1
1515	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｅ類	５コ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1516	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｅ類	６サ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1517	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｅ類	６サ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1518	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｅ類	20テ	KT	S	追柾目	ヒノキ				1
1519	器具	曲物容器	円形曲物容器		７コ	Ⅱ	S	板目	アスナロ属			1	
1520	器具	曲物容器	円形曲物容器		７シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1521	器具	曲物容器	円形曲物容器		８ス	Ⅱ	S	柾目	スギ				1
1522	器具	曲物容器	円形曲物容器		７セ	Ⅱ	Y	柾目	ヒノキ				1
1523	器具	曲物容器	円形曲物容器		７コ	Ⅱ	S	追柾目	ヒノキ				1
1524	器具	曲物容器	円形曲物容器		６ケ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1525	器具	曲物容器	円形曲物容器		７サ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1526	器具	曲物容器	円形曲物容器		９サ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1527	器具	曲物容器	円形曲物容器		７コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1528	器具	曲物容器	円形曲物容器		16タ	KT	Y	追柾目	ヒノキ				1
1529	器具	曲物容器	円形曲物容器		６コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1

第142表　木器類の属性一覧（２）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
1530	器具	曲物容器	円形曲物容器		８シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1531	器具	曲物容器	円形曲物容器		８シ	Ⅲ	S	板目	ヒノキ				1
147（側板）	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ａ類	1255ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
183	器具	曲物容器	曲物側板		1252ST～1255ST	断ち割り	S	柾目	ヒノキ				1
259	器具	曲物容器	曲物側板		1250SM	－	S	柾目	ヒノキ				1
1507（側板）	器具	曲物容器	円形曲物容器	Ｂ類	北東耕土搬出区	－	S	柾目	ヒノキ				1
1532	器具	曲物容器	曲物側板		９シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1533	器具	曲物容器	曲物側板		９シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1534	器具	曲物容器	曲物側板		９シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1535	器具	曲物容器	曲物側板		９シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1536	器具	曲物容器	曲物側板		６サ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1494	器具	組物容器			６シ	Ⅲ	S	柾目	アスナロ属			1	
1495	器具	組物容器			４コ	Ⅲ	－	追柾目	ヒノキ				1
1496	器具	組物容器			５コ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1497	器具	組物容器			５コ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1538	器具	桶			８サ	Ⅱ	S	柾目	サワラ				1
687	器具	柄杓	柄		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
1537	器具	柄杓	柄		８シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
274	器具	容器蓋			192SD	U	S	柾目	ヒノキ				1
145	器具	斎串			1255ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
1539	器具	斎串			16ソ	KTⅡ	Y	柾目	サワラ				1
73	器具	形代	鳥形		1253ST	覆土	S	柾目	アスナロ属			1	
882	器具	形代	鳥形		1067NR	－	Y	柾目	ヒノキ				1
423	器具	形代	馬形		321SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
688	器具	形代	馬形		1061SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
689	器具	形代	馬形		1061SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
690	器具	形代	馬形		1061SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
691	器具	形代	馬形		1061SD	－	S	柾目	アスナロ属			1	
918	器具	形代	馬形		1074SU	－	S	柾目	ヒノキ				1
1540	器具	形代	馬形		16ソ	KTⅡ	Y	柾目	アスナロ属			1	
1541	器具	形代	馬形		16ソ	KTⅡ	Y	柾目	ヒノキ				1
1542	器具	形代	馬形		16ソ	KT	Y	柾目	ヒノキ				1
1543	器具	形代	馬形		17ソ	KDT	Y	柾目	ヒノキ				1
1544	器具	形代	馬形		６コ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1545	器具	形代	馬形		12年度試掘坑18	－	Y	柾目	サワラ				1
1546	器具	形代	馬形		16タ	KT	Y	柾目	ヒノキ				1
1547	器具	形代	馬形		16ソ	KDT	Y	柾目	アスナロ属			1	
1548	器具	形代	馬形		６シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1549	器具	形代	馬形		17ソ	KDT	Y	柾目	ヒノキ				1
1550	器具	形代	馬形		17ソ	Ⅰ	Y	板目	ヒノキ				1
1551	器具	形代	馬形		17タ	KT	Y	柾目	ヒノキ				1
1552	器具	形代	馬形		６ケ	－	S	柾目	スギ				1
74	器具	形代	陽物形		1253ST	覆土	S	芯去	ヒノキ				1
1553	器具	椅子			７ス	Ⅲ	S	追柾目	ヒノキ				1
75	器具	下駄	連歯下駄Ａ類		1253ST	覆土	S	柾目	ヒノキ				1
141	器具	下駄	連歯下駄Ｂ類		1255ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
142	器具	下駄	連歯下駄Ａ類		1255ST	覆土	S	柾目	ヒノキ				1
144	器具	下駄	連歯下駄		1255ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
292	器具	下駄	連歯下駄		311SD	U	S	板目	アスナロ属			1	
1554	器具	下駄	連歯下駄Ａ類		７コ	Ⅱ	S	板目	アスナロ属			1	
1555	器具	下駄	連歯下駄Ａ類		４ケ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1556	器具	下駄	連歯下駄Ａ類		７シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1557	器具	下駄	連歯下駄Ａ類		北東耕土搬出区	－	S	柾目					
1558	器具	下駄	連歯下駄Ａ類		北東耕土搬出区	－	S	板目	ヒノキ				1
1559	器具	下駄	連歯下駄		12年度試掘坑21	－	－	板目					
1560	器具	下駄	連歯下駄		12年度試掘坑8	－	－	板目					
1561	器具	下駄	連歯下駄		12年度試掘坑3	－	S	柾目					
1562	器具	下駄	連歯下駄		７サ	Ⅱ	S	板目	アスナロ属			1	
143	器具	下駄	差歯下駄		1255ST	覆土	S	板目	アスナロ属			1	
1563	器具	櫛			７コ	Ⅱ	S	芯去	イスノキ				1
1565（紡輪）	器具	紡錘車	紡輪		13ソ	YH	Y	柾目	アスナロ属			1	
1566	器具	紡錘車	紡輪		５サ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1565（軸）	器具	紡錘車	軸		13ソ	YH	Y	芯去	針葉樹			1	
1567	器具	栓			７コ	Ⅱ	S	芯去	アスナロ属			1	
1568	器具	栓			16ソ	KT	Y	芯去	コナラ節				1
1564	器具	木簡			17ソ	KT	Y	柾目	スギ				1
293	器具	杓子	Ａ類		311SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
692	器具	杓子	Ｂ類		1061SD	－	S	板目	ヒノキ				1
1569	器具	杓子	Ａ類		12年度試掘坑4	－	S	柾目					
1570	器具	杓子	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1571	器具	杓子	Ｂ類		５コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1572	器具	杓子			７サ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
76	器具	箸			1253ST	覆土	S	芯去	ヒノキ				1
146	器具	箸			1255ST	覆土	S	芯去	ヒノキ				1
184	器具	箸			311SD～393ST	Ⅲ（断ち割り）	S	芯去	ヒノキ				1
294	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
295	器具	箸			311SD	－	S	芯去	サワラ				1

第143表　木器類の属性一覧（３）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
296	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
297	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
298	器具	箸			311SD	－	S	芯去					
299	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
300	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
301	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
302	器具	箸			311SD	－	S	芯去					
303	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
304	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
305	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
306	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
307	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
308	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
309	器具	箸			311SD	－	S	芯去	サワラ				1
310	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
311	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
312	器具	箸			311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
313	器具	箸			311SD	－	S	芯去	サワラ				1
513	器具	箸			324SD	護岸	S	芯持	タケ亜科				1
514	器具	箸			324SD	護岸	S	芯去	サワラ				1
693	器具	箸			1061SD	－	S	芯去	サワラ				1
911	器具	箸			365SW	－	S	芯去	ヒノキ				1
931	器具	箸			339SK	－	S	芯去	スギ				1
1575	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1576	器具	箸			６シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1577	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1578	器具	箸			６コ	Ⅱ	S	芯去	アスナロ属			1	
1579	器具	箸			６コ	Ⅱ	S	芯去	アスナロ属			1	
1580	器具	箸			６コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1581	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1582	器具	箸			６シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1583	器具	箸			７ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1584	器具	箸			６コ	Ⅱ	S	芯去					
1585	器具	箸			７サ	Ⅱ	S	芯去					
1586	器具	箸			６シ	Ⅱ	S	芯去					
1587	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1588	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	カヤ				1
1589	器具	箸			７サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1590	器具	箸			６シ	Ⅱ	S	芯去					
1591	器具	箸			５シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1592	器具	箸			６シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1593	器具	箸			６サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1594	器具	箸			５サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1595	器具	箸			６コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1596	器具	箸			８ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ科				1
1597	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1598	器具	箸			５ケ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1599	器具	箸			８サ	Ⅱ	S	芯去					
1600	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1601	器具	箸			６サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1602	器具	箸			６シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1603	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去					
1604	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1605	器具	箸			４コ	Ⅱ	S	芯去					
1606	器具	箸			５コ	Ⅱ	S	芯去					
1607	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1608	器具	箸			５コ	Ⅱ	S	芯去					
1609	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1610	器具	箸			７セ	Ⅱ	Y	芯去	サワラ				1
1611	器具	箸			８シ	Ⅱ	S	芯去					
1612	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1613	器具	箸			６シ	Ⅱ	S	芯去					
1614	器具	箸			６シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1615	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去					
1616	器具	箸			８サ	Ⅱ	S	芯去					
1617	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1618	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1619	器具	箸			５サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1620	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1621	器具	箸			７サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1622	器具	箸			７シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1623	器具	箸			６サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1624	器具	箸			６シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1625	器具	箸			６サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1626	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1627	器具	箸			８サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1628	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1

第144表　木器類の属性一覧（４）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
1629	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1630	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1631	器具	箸			６ス	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1632	器具	箸			５コ	Ⅱ	S	芯去					
1633	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1634	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1635	器具	箸			４コ	Ⅱ	S	芯去					
1636	器具	箸			７シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1637	器具	箸			４コ	Ⅱ	S	芯去					
1638	器具	箸			７サ	Ⅱ	S	芯去					
1639	器具	箸			７サ	Ⅱ	S	芯去					
1640	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1641	器具	箸			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1642	器具	箸			７サ	Ⅱ	S	芯去					
1643	器具	箸			７サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
185	器具	火付け木	Ａ類		311SD～393ST	Ⅲ（断ち割り）	S	芯去					
186	器具	火付け木	Ｃ類		311SD～393ST	Ⅲ（断ち割り）	S	芯去					
221	器具	火付け木	Ａ類		310SM	－	S	芯去					
222	器具	火付け木	Ａ類		310SM	－	S	芯去	マツ属複維管束亜属				1
223	器具	火付け木	Ａ類		310SM	－	S	芯去					
224	器具	火付け木	Ａ類		310SM	－	S	芯去	ヒノキ				1
225	器具	火付け木	Ａ類		310SM	U	S	芯去					
226	器具	火付け木	Ａ類		310SM	－	S	芯去	ヒノキ				1
227	器具	火付け木	Ｂ類		310SM	－	S	芯去	サワラ				1
228	器具	火付け木	Ａ類		310SM	－	S	芯去	ヒノキ				1
229	器具	火付け木	Ｂ類		310SM	U	S	芯去					
230	器具	火付け木	Ａ類		310SM	－	S	芯去	ヒノキ				1
231	器具	火付け木	Ａ類		310SM	－	S	芯去	ヒノキ				1
232	器具	火付け木	Ａ類		310SM	－	S	芯去	ヒノキ				1
321	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
322	器具	火付け木	Ｂ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
323	器具	火付け木	Ｂ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
324	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
325	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
326	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
327	器具	火付け木	Ａ類		311SD	U	S	芯去					
328	器具	火付け木	Ａ類		311SD	U	S	芯去	ヒノキ				1
329	器具	火付け木	Ａ類		311SD	U	S	芯去	ヒノキ				1
330	器具	火付け木	Ａ類		311SD	U	S	芯去	ヒノキ				1
331	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
332	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
333	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
334	器具	火付け木	Ａ類		311SD	U	S	芯去	ヒノキ				1
335	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
336	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
337	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
338	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
339	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
340	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
341	器具	火付け木	Ｂ類		311SD	－	S	芯去					
342	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
343	器具	火付け木	Ｂ類		311SD	－	S	芯去					
344	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
345	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
346	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
347	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
348	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
349	器具	火付け木	Ａ類		311SD	U	S	芯去					
350	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
351	器具	火付け木	Ａ類		311SD	U	S	芯去					
352	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
353	器具	火付け木	Ｂ類		311SD	－	S	芯去					
354	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
355	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
356	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
357	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
358	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
359	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
360	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
361	器具	火付け木	Ｃ類		311SD	－	S	芯去					
362	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
363	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
364	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
365	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
366	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去					
367	器具	火付け木	Ａ類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
368	器具	火付け木	Ｂ類		311SD	－	S	芯去					

第145表　木器類の属性一覧（５）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
369	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
370	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
371	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
372	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
373	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
374	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	サワラ				1
375	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
376	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
377	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
378	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
379	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
380	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
381	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
382	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
383	器具	火付け木	C類		311SD	－	S	芯去					
384	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
385	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
386	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
387	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
388	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
389	器具	火付け木	C類		311SD	－	S	芯去					
390	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
391	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
392	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
393	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
394	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
395	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
396	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
397	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
398	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去					
399	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	モクレン属				1
400	器具	火付け木	A類		311SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
401	器具	火付け木	D類		311SD	－	S	芯持					
424	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
425	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
426	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
427	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
428	器具	火付け木	C類		321SD	－	S	芯去					
429	器具	火付け木	B類		321SD	－	S	芯去					
430	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
431	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
432	器具	火付け木	A類		321SD	M	S	芯去					
433	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
434	器具	火付け木	C類		321SD	－	S	芯去					
435	器具	火付け木	A類		321SD	M	S	芯去					
436	器具	火付け木	C類		321SD	－	S	芯去					
437	器具	火付け木	C類		321SD	－	S	芯去					
438	器具	火付け木	C類		321SD	M	S	芯去					
439	器具	火付け木	B類		321SD	－	S	芯去					
440	器具	火付け木	C類		321SD	－	S	芯去					
441	器具	火付け木	C類		321SD	－	S	芯去					
442	器具	火付け木	B類		321SD	－	S	芯去					
443	器具	火付け木	B類		321SD	－	S	芯去					
444	器具	火付け木	B類		321SD	－	S	芯去					
445	器具	火付け木	B類		321SD	M	S	芯去					
446	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
447	器具	火付け木	B類		321SD	－	S	芯去					
448	器具	火付け木	A類		321SD	M	S	芯去					
449	器具	火付け木	A類		321SD	M	S	芯去					
450	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
451	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
452	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
453	器具	火付け木	D類		321SD	－	S	芯持					
454	器具	火付け木	B類		321SD	－	S	芯去					
455	器具	火付け木	A類		321SD	M	S	芯去					
456	器具	火付け木	A類		321SD	－	S	芯去					
515	器具	火付け木	C類		324SD	1	S	芯去					
516	器具	火付け木	A類		324SD	1	S	芯去					
517	器具	火付け木	A類		324SD	2	S	芯去					
518	器具	火付け木	C類		324SD	1	S	芯去					
519	器具	火付け木	A類		324SD	護岸	S	芯去					
520	器具	火付け木	B類		324SD	護岸	S	芯去					
521	器具	火付け木	A類		324SD	1	S	芯去					
522	器具	火付け木	C類		324SD	護岸	S	芯去					
523	器具	火付け木	B類		324SD	2	S	芯去					
524	器具	火付け木	C類		324SD	2	S	芯去					
525	器具	火付け木	C類		324SD	護岸	S	芯去					

第146表　木器類の属性一覧（６）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
526	器具	火付け木	Ａ類		324SD	護岸	S	芯去					
527	器具	火付け木	Ａ類		324SD	護岸	S	芯去					
598	器具	火付け木	Ａ類		367SD	－	S	芯去					
607	器具	火付け木	Ｂ類		368SD	－	S	芯去					
699	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
700	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
701	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
702	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
703	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
704	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
705	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
706	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
707	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
708	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
709	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去	マツ属複維管束亜属				1
710	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
711	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
712	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
713	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
714	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去	マツ属複維管束亜属				1
715	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去	マツ属複維管束亜属				1
716	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
717	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
718	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
719	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
720	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去	マツ属複維管束亜属				1
721	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
722	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
723	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去	マツ属複維管束亜属				1
724	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
725	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
726	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
727	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
728	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
729	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去	ネズコ				1
730	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
731	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ科				1
732	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
733	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
734	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
735	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
736	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
737	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
738	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
739	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
740	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
741	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
742	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
743	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
744	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
745	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
746	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
747	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	マツ属複維管束亜属				1
748	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
749	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
750	器具	火付け木	Ｂ類		1061SD	－	S	芯去					
751	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
752	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	みかん割り					
753	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	みかん割り					
754	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
755	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
756	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	みかん割り	マツ属複維管束亜属				1
757	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
758	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
759	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
760	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
761	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
762	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
763	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
764	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
765	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
766	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去	マツ属複維管束亜属				1
767	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
768	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					
769	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去	ヒノキ				1
770	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
771	器具	火付け木	Ａ類		1061SD	－	S	芯去					

第147表　木器類の属性一覧（７）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
772	器具	火付け木	Ｃ類		1061SD	－	S	芯去					
883	器具	火付け木	Ａ類		1067NR	－	Y	芯去					
884	器具	火付け木	Ｂ類		1067NR	－	Y	芯去					
914	器具	火付け木	Ｂ類		1074SU	－	S	芯去	ヒノキ				1
915	器具	火付け木	Ａ類		1074SU	－	S	芯去					
916	器具	火付け木	Ｂ類		1074SU	－	S	芯去					
932	器具	火付け木	Ａ類		339SK	－	S	芯去					
933	器具	火付け木	Ａ類		339SK	－	S	芯去					
934	器具	火付け木	Ｂ類		339SK	－	S	芯去					
1644	器具	火付け木	Ａ類		５ケ	Ⅱ	S	芯去					
1645	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅲ	S	芯去					
1646	器具	火付け木	Ａ類		５ケ	Ⅲ	S	芯去					
1647	器具	火付け木	Ａ類		７コ	Ⅱ	S	芯去					
1648	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1649	器具	火付け木	Ａ類		９シ	Ⅱ	S	芯去					
1650	器具	火付け木	Ａ類		５ケ	Ⅱ	S	芯去					
1651	器具	火付け木	Ａ類		５ケ	Ⅲ	S	芯去					
1652	器具	火付け木	Ａ類		９シ	Ⅱ	S	芯去					
1653	器具	火付け木	Ａ類		８サ	Ⅱ	S	芯去					
1654	器具	火付け木	Ａ類		６コ	Ⅱ	S	芯去					
1655	器具	火付け木	Ａ類		５サ	Ⅲ	S	芯去					
1656	器具	火付け木	Ａ類		５ケ	Ⅱ	S	芯去					
1657	器具	火付け木	Ａ類		５ケ	Ⅱ	S	芯去					
1658	器具	火付け木	Ａ類		７コ	Ⅱ	S	芯去					
1659	器具	火付け木	Ａ類		６ケ	Ⅱ	S	芯去					
1660	器具	火付け木	Ａ類		５サ	Ⅱ	S	芯去					
1661	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1662	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1663	器具	火付け木	Ａ類		６コ	Ⅱ	S	芯去					
1664	器具	火付け木	Ａ類		５サ	Ⅱ	S	芯去					
1665	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1666	器具	火付け木	Ａ類		６コ	－	S	芯去					
1667	器具	火付け木	Ａ類		９シ	Ⅱ	S	芯去					
1668	器具	火付け木	Ａ類		７コ	Ⅱ	S	芯去					
1669	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1670	器具	火付け木	Ａ類		５サ	Ⅱ	S	芯去					
1671	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1672	器具	火付け木	Ａ類		５ケ	Ⅲ	S	芯去					
1673	器具	火付け木	Ａ類		６コ	Ⅱ	S	芯去					
1674	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1675	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1676	器具	火付け木	Ａ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1677	器具	火付け木	Ｂ類		８サ	Ⅱ	S	芯去					
1678	器具	火付け木	Ｂ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1679	器具	火付け木	Ｂ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1680	器具	火付け木	Ｂ類		７コ	Ⅱ	S	芯去					
1681	器具	火付け木	Ｂ類		16ソ	KDT	Y	芯去					
1682	器具	火付け木	Ｂ類		５ケ	Ⅱ	S	芯去					
1683	器具	火付け木	Ｂ類		５コ	Ⅲ	S	芯去					
1684	器具	火付け木	Ｂ類		６コ	Ⅱ	S	芯去					
1685	器具	火付け木	Ｂ類		５ケ	Ⅲ	S	芯去					
1686	器具	火付け木	Ｂ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1687	器具	火付け木	Ｂ類		５コ	Ⅲ	S	芯去					
1688	器具	火付け木	Ｂ類		７コ	Ⅱ	S	芯去					
1689	器具	火付け木	Ｂ類		４コ	Ⅲ	S	芯去					
1690	器具	火付け木	Ｃ類		７サ	Ⅱ	S	芯去					
1691	器具	火付け木	Ｃ類		５サ	Ⅲ	S	芯去					
1692	器具	火付け木	Ｃ類		７コ	Ⅱ	S	芯去					
1693	器具	火付け木	Ｃ類		７ケ	Ⅱ	S	芯去					
1694	器具	火付け木	Ｃ類		５コ	Ⅱ	S	芯去					
1695	器具	火付け木	Ｃ類		５ケ	Ⅱ	S	芯去					
1696	器具	火付け木	Ｃ類		５サ	Ⅱ	S	芯去					
78	器具	模造品			1253ST	覆土	S	柾目	ヒノキ				1
1573	器具	模造品			12年度試掘坑3	－	S	芯去	モクレン属				1
1574	器具	模造品			12年度試掘坑3	－	S	芯去	ヒノキ				1
42	器具	串状木製品			1252ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
148	器具	串状木製品			1255ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
917	器具	串状木製品			1074SU	－	S	柾目	ヒノキ				1
1697	器具	串状木製品			９シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1698	器具	串状木製品			５シ	Ⅱ	S	芯去	サワラ				1
1699	器具	串状木製品			５コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1700	器具	串状木製品			５サ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1701	器具	串状木製品			18タ	KDT	Y	柾目	ヒノキ				1
1702	器具	串状木製品			８サ	Ⅱ	S	柾目	サワラ				1
1703	器具	串状木製品			５シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1704	器具	串状木製品			21テ	KT	S	柾目					
1705	器具	串状木製品			５コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1

第148表　木器類の属性一覧（８）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
1706	器具	串状木製品			６コ	Ⅱ	S	芯去	サワラ				1
1707	器具	串状木製品			16ソ	KT	Y	柾目	ヒノキ				1
1708	器具	串状木製品			17ソ	Ⅰ	Y	芯去	ヒノキ				1
1709	器具	串状木製品			８シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1710	器具	へら状木製品			20テ	KT	S	板目	アスナロ属			1	
1711	器具	へら状木製品			６ケ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1712	器具	へら状木製品			８シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1713	器具	へら状木製品			12年度試掘坑3	－	S	柾目	ヒノキ				1
187	器具	板状木製品			311SD～392ST	Ⅲ（断ち割り）	S	柾目	ヒノキ				1
314	器具	板状木製品			311SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
315	器具	板状木製品			311SD	－	S	板目					
316	器具	板状木製品			311SD	－	S	柾目	サワラ				1
317	器具	板状木製品			311SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
318	器具	板状木製品			311SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
319	器具	板状木製品			311SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
320	器具	板状木製品			311SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
694	器具	板状木製品			1061SD	－	S	柾目					
695	器具	板状木製品			1061SD	－	S	追柾目	ヒノキ				1
696	器具	板状木製品			1061SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
878	器具	板状木製品			1067NR	－	Y	柾目	サワラ				1
879	器具	板状木製品			1067NR	－	Y	板目					
880	器具	板状木製品			1067NR	－	Y	板目					
921	器具	板状木製品			1074SU	－	S	板目					
1714	器具	板状木製品			９シ	Ⅱ	S	柾目					
1715	器具	板状木製品			８サ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1716	器具	板状木製品			16ソ	KDT	Y	柾目	ヒノキ				1
1717	器具	板状木製品			５サ	Ⅱ	S	柾目	アスナロ属			1	
1718	器具	板状木製品			５コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1719	器具	板状木製品			６コ	Ⅱ	S	柾目					
1720	器具	板状木製品			６サ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1721	器具	板状木製品			６シ	Ⅱ	S	板目					
1722	器具	板状木製品			６コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1723	器具	板状木製品			６ケ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1724	器具	板状木製品			８シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1725	器具	板状木製品			５コ	Ⅲ	S	柾目					
1726	器具	板状木製品			８シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1727	器具	板状木製品			８ス	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1728	器具	板状木製品			５シ	Ⅱ	S	柾目					
1729	器具	板状木製品			５コ	Ⅱ	S	板目	スギ			1	
1730	器具	板状木製品			８サ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1731	器具	板状木製品			16チ	KT	－	板目	ヒノキ				1
1732	器具	板状木製品			６シ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1733	器具	板状木製品			12ソ	YH	Y	柾目	サワラ				1
1734	器具	板状木製品			21テ	KT	S	追柾目	ヒノキ				1
1735	器具	板状木製品			16ソ	KDT	Y	柾目	ヒノキ属			1	
1736	器具	板状木製品			７コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1737	器具	板状木製品			15タ	YT	Y	板目	クリ				1
1738	器具	板状木製品			３キ	Ⅱ	－	追柾目					
1739	器具	板状木製品			12ソ	YH	Y	柾目					
1740	器具	板状木製品			５サ	Ⅲ	S	板目	ヒノキ				1
1741	器具	板状木製品			５シ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1742	器具	板状木製品			16ソ	KDT	Y	追柾目	ヒノキ				1
1743	器具	板状木製品			７ス	Ⅲ	S	柾目					
1744	器具	板状木製品			５コ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
149	器具	棒状木製品			1255ST	覆土	S	芯去					
150	器具	棒状木製品			1255ST	覆土	S	芯去					
188	器具	棒状木製品			311SD～392ST	Ⅲ（断ち割り）	S	芯持	モクレン属				1
233	器具	棒状木製品			310SM	U	S	芯去					
457	器具	棒状木製品			321SD	－	S	芯去					
458	器具	棒状木製品			321SD	－	S	芯去					
459	器具	棒状木製品			321SD	－	S	芯去					
875	器具	棒状木製品			1067NR	－	Y	芯去					
876	器具	棒状木製品			1067NR	－	Y	芯去	アスナロ属			1	
877	器具	棒状木製品			1067NR	－	Y	芯去	サワラ				1
919	器具	棒状木製品			1074SU	－	S	芯去	ヒノキ				1
920	器具	棒状木製品			1074SU	－	S	芯去	ヒノキ				1
1745	器具	棒状木製品			６コ	Ⅱ	S	芯持					
1746	器具	棒状木製品			17チ	KT	－	芯去	サクラ属				1
1747	器具	棒状木製品			６コ	Ⅱ	S	芯去					
1748	器具	棒状木製品			６コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1749	器具	棒状木製品			14タ	YT	Y	芯去	ヒノキ				1
1750	器具	棒状木製品			18タ	KT	Y	芯去	サワラ				1
1751	器具	棒状木製品			17チ	KT	－	芯去	サクラ属				1
1752	器具	棒状木製品			６シ	Ⅲ	S	芯去					
1753	器具	棒状木製品			６サ	Ⅱ	S	芯去	サワラ				1
1754	器具	棒状木製品			12ソ	YH	Y	芯去					
1755	器具	棒状木製品			不明	－	－	芯去	ヒノキ				1

第149表　木器類の属性一覧（９）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
1756	器具	棒状木製品			８サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1757	器具	棒状木製品			６コ	Ⅱ	S	芯去					
1758	器具	棒状木製品			16ソ	KT	Y	芯去	ヒノキ				1
1759	器具	棒状木製品			13タ	YH	Y	芯去	サワラ				1
1760	器具	棒状木製品			７シ	Ⅱ	S	板目					
1761	器具	棒状木製品			16チ	KT	―	芯持	ナシ亜科				1
1762	器具	棒状木製品			５ケ	Ⅱ	S	芯去	マツ属単維管束亜属				1
1763	器具	棒状木製品			５サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1764	器具	棒状木製品			16チ	KT	Y	芯去	クリ				1
1765	器具	棒状木製品			８ス	Ⅲ	S	芯去					
1766	器具	棒状木製品			７コ	Ⅱ	S	芯去					
1767	器具	棒状木製品			５コ	Ⅱ	S	芯去	アスナロ属			1	
1768	器具	棒状木製品			６サ	Ⅱ	S	柾目					
1769	器具	棒状木製品			７サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1770	器具	棒状木製品			17ソ	KDT	Y	芯去	ヒノキ				1
13	部材	建築部材	礎板		223P(SH1)	2	S	芯去	クリ	1			
889	部材	建築部材	厚板	妻壁板	1067NR	―	Y	追柾目	ヒノキ				1
890	部材	建築部材	厚板		1067NR	―	Y	柾目	クロベ			1	
891	部材	建築部材	厚板		1067NR	―	Y	柾目	アスナロ属			1	
892	部材	建築部材			1067NR	―	Y	芯去	アスナロ属			1	
893	部材	建築部材	桟材？		1067NR	―	Y	芯去	サワラ				1
894	部材	建築部材	桟材？		1067NR	―	Y	芯去	サワラ				1
895	部材	建築部材	厚板		1067NR	―	Y	柾目	アスナロ属			1	
896	部材	建築部材	厚板		1067NR	―	Y	柾目	ヒノキ属			1	
897	部材	建築部材	柱		1067NR	―	Y	芯去	クリ			1	
898	部材	建築部材			1067NR	―	Y	柾目	サワラ				1
899	部材	建築部材	厚板		1067NR	―	Y	板目	アスナロ属			1	
1771	部材	建築部材	柱		４コ	Ⅱ	S	芯去	アスナロ属			1	
1772	部材	建築部材	柱		14タ	YT	Y	追柾目	サワラ				1
1773	部材	建築部材	柱		11タ	Ⅲ	Y	半割り	クリ				1
1774	部材	建築部材	柱		６サ	Ⅱ	S	板目	クロベ			1	
1775	部材	建築部材	楔		８シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1776	部材	建築部材	垂木		17チ	KT	Y	芯去	シオジ節				1
1777	部材	建築部材	垂木		15チ	KT	Y	芯去	ヒノキ属			1	
1778	部材	建築部材	梁・桁		17チ	YT	Y	板目	サワラ				1
1779	部材	建築部材	梁・桁		15チ	KT	Y	柾目	サワラ				1
1780	部材	建築部材	厚板		16チ	KT	Y	板目	ヒノキ				1
1781	部材	建築部材	厚板	壁板	20テ	KT	S	追柾目	サワラ				1
1782	部材	建築部材	厚板	壁板	20テ	KT	S	追柾目	ヒノキ				1
1783	部材	建築部材	厚板	壁板	７ス	Ⅲ	S	板目	アスナロ属			1	
1784	部材	建築部材	厚板	壁板	17チ	KT	―	追柾目	アスナロ属			1	
1785	部材	建築部材	厚板		17チ	KT	―	板目	ヒノキ				1
1786	部材	建築部材	厚板	妻壁板？	６シ	Ⅲ	S	柾目	アスナロ属			1	
1787	部材	建築部材	厚板	屋根葺き板？	６シ	Ⅱ	S	追柾目	アスナロ属			1	
1788	部材	建築部材	厚板	床板	不明	―	―	板目	クリ			1	
1789	部材	建築部材	厚板	床板	21テ	KT	S	板目	クリ				1
1790	部材	建築部材	厚板		16チ	KT	―	追柾目	サワラ				1
1791	部材	建築部材	厚板		17チ	KT	―	柾目	アスナロ属			1	
1792	部材	建築部材	厚板		15タ	Ⅲ	Y	板目	サワラ				1
1793	部材	建築部材	厚板		７ス	Ⅲ	S	板目	アスナロ属			1	
1794	部材	建築部材	厚板		14タ	YH	Y	追柾目	スギ		1		
1795	部材	建築部材	厚板		12ソ	YH	Y	板目	サワラ				1
1796	部材	建築部材	厚板		16チ	KT	Y	板目	クリ			1	
1797	部材	建築部材	厚板		20テ	KT	S	板目	アスナロ属			1	
1798	部材	建築部材	厚板		21ツ	KT	S	板目	クリ				1
1799	部材	建築部材	厚板		不明	―	―	柾目	アスナロ属			1	
1800	部材	建築部材	厚板		８シ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1801	部材	建築部材	厚板		８シ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1802	部材	建築部材	厚板		20ツ	KT	Y	柾目	ヒノキ				1
1803	部材	建築部材	厚板		12ソ	Ⅲ	Y	追柾目	ヒノキ				1
1804	部材	建築部材	厚板		20テ	KT	S	柾目	スギ				1
1805	部材	建築部材	厚板		５シ	Ⅲ	S	追柾目	クリ			1	
1806	部材	建築部材	厚板		21ツ	KT	S	柾目	アスナロ属			1	
1807	部材	建築部材	厚板		７ス	Ⅲ	S	板目	サワラ				1
1808	部材	建築部材	厚板		17ツ	YT	―	板目	サワラ				1
1809	部材	建築部材	厚板		６シ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1810	部材	建築部材	厚板		７ス	Ⅲ	S	板目	ヒノキ				1
1811	部材	建築部材	厚板		７ス	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1812	部材	建築部材	厚板		20テ	KT	S	柾目	サワラ				1
1813	部材	建築部材	厚板		７ス	Ⅱ	S	追柾目	サワラ				1
1814	部材	建築部材	厚板		18ツ	KT	―	追柾目	サワラ				1
1815	部材	建築部材			17チ	KT	Y	芯去	サワラ				1
1816	部材	建築部材			17チ	KT	―	芯去	クリ				1
1817	部材	建築部材			５シ	Ⅱ	S	柾目	サワラ				1
1818	部材	建築部材			６サ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1819	部材	建築部材	枠材？		６シ	Ⅲ	S	板目	アスナロ属			1	
1820	部材	建築部材			10ソ	―	Y	芯去	サワラ				1

第150表　木器類の属性一覧（10）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
1821	部材	建築部材			８サ	Ⅱ	S	板目	クリ				1
1822	部材	建築部材			18チ	－	－	芯去	シオジ節				1
1823	部材	建築部材	枠材		５コ	Ⅱ	S	板目	アスナロ属			1	
14	部材	建築部材	柱根		222P(SH1)	－	S	芯持？	クリ	1			
15	部材	建築部材	柱根		222P(SH1)	－	S	芯持？					
16	部材	建築部材	柱根		238P(SH1)	－	S	芯持	クリ	1			
17	部材	建築部材	柱根		239P(SH1)	1	S	芯持	クリ	1			
18	部材	建築部材	柱根		241P(SH1)	－	S	芯持？	クリ	1			
19	部材	建築部材	柱根		241P(SH1)	－	S	芯持？					
20	部材	建築部材	柱根		346P(SH1)	1	S	芯持	クリ	1			
21	部材	建築部材	柱根		352P(SH1)	1	S	芯持	クリ	1			
25	部材	建築部材	柱根		299SP	1	S	芯持					
26	部材	建築部材	柱根		301SP	－	S	芯持	クリ				1
27	部材	建築部材	柱根		404SP	－	S	芯持	クリ				1
460	部材	土木部材	杭		321SD	－	S	芯持					
528	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
529	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
530	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
531	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
532	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
533	部材	土木部材	杭		324SD	－	S	芯去	サワラ				1
534	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
535	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯去	ヒノキ				1
536	部材	土木部材	杭		324SD	－	S	芯去					
537	部材	土木部材	杭		324SD	－	S	芯去					
538	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
539	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
540	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯去	コナラ節				1
541	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	マツ属複維管束亜属				1
542	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
543	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
544	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	半割り	クリ				1
545	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
546	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
547	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	半割り	マツ属複維管束亜属				1
548	部材	土木部材	杭		324SD	護岸	S	芯持	クリ				1
599	部材	土木部材	杭		367SD	－	S	芯持					
619	部材	土木部材	杭		372SD	－	S	芯持					
775	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	ヒノキ				1
776	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
777	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去					
778	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
779	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	ヒノキ				1
780	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	みかん割り	ヒノキ				1
781	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	半割り					
782	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	みかん割り	サワラ				1
783	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
784	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
785	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
786	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	ヒノキ				1
787	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	半割り	ヒノキ				1
788	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	アスナロ属			1	
789	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	ヒノキ				1
790	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
791	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
792	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	ヒノキ				1
793	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
794	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
795	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
796	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	みかん割り	クリ				1
797	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	みかん割り	クリ				1
798	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	クリ				1
799	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
800	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	クリ				1
801	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	みかん割り	クリ				1
802	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	クリ				1
803	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
804	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	クリ				1
805	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	みかん割り	クリ				1
806	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	クリ				1
807	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	クリ				1
808	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	クリ				1
809	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	クリ				1
810	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	みかん割り	クリ				1
811	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去	サワラ				1
812	部材	土木部材	横木		1071SD	－	Y	芯持					
813	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去					

第151表　木器類の属性一覧（11）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
814	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去					
815	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去					
816	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去					
817	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去					
818	部材	土木部材	杭		1071SD	－	Y	芯去					
900	部材	土木部材	杭		1067NR	－	Y	芯持					
901	部材	土木部材	杭		1067NR	－	Y	芯去					
1824	部材	土木部材	杭		５シ	Ⅲ	S	芯持					
1825	部材	土木部材	杭		12ソ	YH	Y	芯去					
1826	部材	土木部材	杭		13タ	YT	Y	芯去					
1827	部材	土木部材	杭		６コ	Ⅱ	S	芯持					
1828	部材	土木部材	杭		18ツ	KT	－	芯去					
1829	部材	土木部材	杭		20ツ	KT	Y	芯持					
1830	部材	土木部材	杭		６コ	Ⅱ	S	芯去					
1831	部材	土木部材	杭		９シ	Ⅱ	S	芯持					
1832	部材	土木部材	杭		６コ	Ⅱ	S	芯持					
1833	部材	土木部材	杭		16ソ	KT	Y	芯持					
43	部材	器具部材			1252ST	覆土	S	芯去	ヒノキ				1
151	部材	器具部材	有孔薄板		1255ST	覆土	S	柾目	ヒノキ				1
152	部材	器具部材	有孔薄板		1255ST	覆土	S	柾目	ヒノキ				1
153	部材	器具部材			1255ST	覆土	S	板目	アスナロ属			1	
154	部材	器具部材			1255ST	覆土	S	芯去	ヒノキ				1
155	部材	器具部材			1255ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
156	部材	器具部材			1255ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
189	部材	器具部材	容器部材？		1253ST～1255ST	断ち割り	S	柾目	ヒノキ				1
190	部材	器具部材	有孔薄板		311SD～392ST	Ⅲ（断ち割り）	S	追柾目	ヒノキ				1
191	部材	器具部材			1253ST～1255ST	断ち割り	S	柾目	ヒノキ				1
697	部材	器具部材			1061SD	－	S	柾目	ヒノキ				1
698	部材	器具部材	紡織具？		1061SD	－	S	板目	アスナロ属			1	
881	部材	器具部材			1067NR	－	Y	板目	クリ			1	
885	部材	器具部材			1067NR	－	Y	芯持	マツ属複維管束亜属				1
886	部材	器具部材			1067NR	－	Y	芯去	ヒノキ				1
1834	部材	器具部材	紡織具	かせ	７ス	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1835	部材	器具部材	紡織具？		６シ	Ⅱ	S	芯去	サワラ				1
1836	部材	器具部材	紡織具？		７サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1837	部材	器具部材	紡織具	糸巻	７コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1838	部材	器具部材	紡織具？		６サ	Ⅱ	S	芯去	アスナロ属			1	
1839	部材	器具部材	容器部材？		11ス	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1840	部材	器具部材	有孔薄板		８サ	Ⅱ	S	板目	アスナロ属			1	
1841	部材	器具部材	有孔薄板		７コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1842	部材	器具部材	有孔薄板		８コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1843	部材	器具部材			６シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1844	部材	器具部材			５コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1845	部材	器具部材			７シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1846	部材	器具部材			６シ	Ⅱ	S	柾目					
1847	部材	器具部材			10ス	Ⅲ	S	板目	スギ				1
1848	部材	器具部材			５ケ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1849	部材	器具部材			14タ	YT	Y	柾目					
1850	部材	器具部材			７コ	Ⅱ	S	芯去	アスナロ属			1	
1851	部材	器具部材			11ス	Ⅲ	S	板目	サワラ				1
1852	部材	器具部材			７コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1853	部材	器具部材			７シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1854	部材	器具部材			７コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1855	部材	器具部材			５コ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1856	部材	器具部材			６シ	Ⅱ	S	柾目					
1857	部材	器具部材			５コ	Ⅱ	S	板目	サワラ				1
1858	部材	器具部材			７サ	Ⅱ	S	芯去	アスナロ属			1	
1859	部材	器具部材			７コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1860	部材	器具部材			７シ	Ⅱ	S	芯去	クリ			1	
1861	部材	器具部材			20ツ	KDT	Y	柾目	ヒノキ				1
1862	部材	器具部材			６ケ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1863	部材	器具部材			５シ	Ⅱ	S	追柾目	ヒノキ				1
1864	部材	器具部材			15ソ	KDT	S	板目	ヒノキ				1
1865	部材	器具部材			８サ	Ⅱ	S	板目	アスナロ属			1	
1866	部材	器具部材			17ソ	KDT	Y	柾目	ヒノキ				1
1867	部材	器具部材			５コ	Ⅲ	S	板目	アスナロ属			1	
1868	部材	器具部材			13タ	YT	Y	芯去	サワラ				1
1869	部材	器具部材			５コ	Ⅲ	S	芯去					
1870	部材	器具部材			７サ	Ⅱ	S	芯去	モミ属				1
1871	部材	器具部材			７サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1872	部材	器具部材			５コ	Ⅲ	S	柾目	アスナロ属			1	
1873	部材	器具部材			５コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1874	部材	器具部材			８サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1875	部材	器具部材			17ソ	Ⅰ	Y	芯去	サワラ				1
1876	部材	器具部材			７コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1877	部材	器具部材			６ケ	Ⅱ	S	柾目	サワラ				1
1878	部材	器具部材			４ク	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1

第152表　木器類の属性一覧（12）

遺物番号	種別	細分１	細分２	細分３	出土地点	層位	出土地点区分 S：須恵器・灰釉陶器集中区域 Y：弥生土器・土師器集中区域	木取り	樹種	同定実施年度			
										17年度	18年度	20年度	21年度
1879	部材	器具部材			８サ	Ⅱ	S	芯去	アスナロ属			1	
1880	部材	器具部材			８シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1881	部材	器具部材			７シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1882	部材	器具部材			８ス	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1883	部材	器具部材			15タ	YT	Y	芯去	サワラ				1
1884	部材	器具部材			５コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1885	部材	器具部材			４コ	Ⅲ	―	柾目	サワラ				1
1886	部材	器具部材	容器部材？		８シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1887	部材	器具部材			12年度試掘坑4	―	S	芯去	サワラ				1
1888	部材	器具部材			５ケ	U	S	芯持	マツ属複維管束亜属				1
1889	部材	器具部材			８サ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1890	部材	器具部材			５ケ	Ⅱ	S	板目	モミ属				1
1891	部材	器具部材			６コ	Ⅲ	S	柾目	ヒノキ				1
1892	部材	器具部材			21ツ	KT	S	板目					
1893	部材	器具部材			６コ	Ⅱ	S	板目					
1894	部材	器具部材			６コ	Ⅱ	S	追柾目	ヒノキ				1
1895	部材	器具部材			５コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
903	加工材	割板			1067NR	―	Y	みかん割り	クヌギ節				1
1896	加工材	割板			17ソ	KT	Y	板目	クロベ			1	
1897	加工材	割板			17チ	KT	―	みかん割り	クリ			1	
1898	加工材	割板			14タ	YT	Y	追柾目	サワラ				1
1899	加工材	割板			15チ	YT	Y	板目	サワラ				1
461	加工材	割板残材			321SD	―	S	柾目	ヒノキ				1
902	加工材	割板残材			1067NR	―	Y	半割り	トネリコ節				1
1900	加工材	割板残材			５コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1901	加工材	割板残材			16ソ	KDT	Y	追柾目	ヒノキ				1
77	加工材	端材			1253ST	覆土	S	芯去	ヒノキ				1
157	加工材	端材			1255ST	覆土	S	芯去	ヒノキ				1
158	加工材	端材			1255ST	覆土	S	板目	ヒノキ				1
159	加工材	端材			1255ST	覆土	S	芯去	ヒノキ				1
192	加工材	端材			1254ST～1255ST	断ち割り	S	芯持	ミツバウツギ			1	
234	加工材	端材			310SM	U	S	芯去	ヒノキ				1
235	加工材	端材			310SM	U	S	芯去	ヒノキ				1
922	加工材	端材			1074SU	―	S	芯去	ヒノキ				1
1902	加工材	端材			６コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1903	加工材	端材			６シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1904	加工材	端材			６コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1905	加工材	端材			５コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1906	加工材	端材			５サ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1907	加工材	端材			７コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1908	加工材	端材			６サ	Ⅱ	S	板目	サワラ				1
1909	加工材	端材			４コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1910	加工材	端材			６シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1911	加工材	端材			６コ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1912	加工材	端材			７サ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1913	加工材	端材			５シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1914	加工材	端材			６シ	Ⅱ	S	追柾目	ヒノキ				1
1915	加工材	端材			５ケ	Ⅲ	S	板目	クリ				1
1916	加工材	端材			６シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1917	加工材	端材			７コ	Ⅱ	S	追柾目	ヒノキ				1
1918	加工材	端材			５コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1919	加工材	端材			５シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1920	加工材	端材			８ス	Ⅱ	S	板目	サワラ				1
1921	加工材	端材			５サ	Ⅱ	S	追柾目	ヒノキ				1
1922	加工材	端材			６コ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1923	加工材	端材			15ソ	KDT	S	柾目	ヒノキ				1
1924	加工材	端材			７コ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1925	加工材	端材			９シ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1926	加工材	端材			８サ	Ⅱ	S	芯去	ヒノキ				1
1927	加工材	端材			19タ	Ⅰ	S	芯去	アスナロ属			1	
1928	加工材	端材			８ス	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1929	加工材	端材			９シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1930	加工材	端材			９シ	Ⅱ	S	柾目	ヒノキ				1
1931	加工材	端材			９シ	Ⅱ	S	板目	ヒノキ				1
1932	加工材	端材			７サ	Ⅱ	S	芯持	クリ				1
1933	分類不能	不明			20テ	KT	S	柾目	アサダ				1

第２節　野内遺跡Ｃ地区検出遺構の消長について

本節では、ここまで個々に見てきた当発掘区の検出遺構について、時間軸に沿った消長をまとめる。当発掘区には、形状や付属施設といった遺構そのものに備わる属性から帰属時期が判明するケースはほとんどない。そこで、主として遺構内から出土した遺物の型式的特徴や組成に手掛かりを求めることとなる。ただし、当発掘区の場合、水田跡や溝状遺構などといった開放的構造の大型遺構が多数を占めることから、遺構内出土遺物の同時代性は必ずしも保証されるわけではないとみなすべきであり、時期幅を最大限に広く考慮しておく必要がある。

１　古墳時代前期

この時期に属すると判断されるのは、30区画からなる「古墳時代水田跡」（1075～1086ＳＴ・1091～1100ＳＴ・1280～1282ＳＴ・1287ＳＴ・1296～1298ＳＴ・1316ＳＴ）のほか、竪穴住居跡1220ＳＢ、自然流路跡1067ＮＲと付属する溝状遺構1071ＳＤ、それに溝状遺構1057ＳＤ・1315ＳＤである。1220ＳＢと1315ＳＤのみ発掘区のほぼ中央に位置しているが、検出区域が発掘区南半に偏る傾向が認められる。ほとんどの遺構が古墳時代水田跡の周辺に位置している。なお、水田の区画については、その痕跡を検出したのは検出区域の東端部分のみにとどまるものの、その西方でも断続的に畦畔が見出されたことから、本来は発掘区の西端まで連綿と広がっていたと推測される。

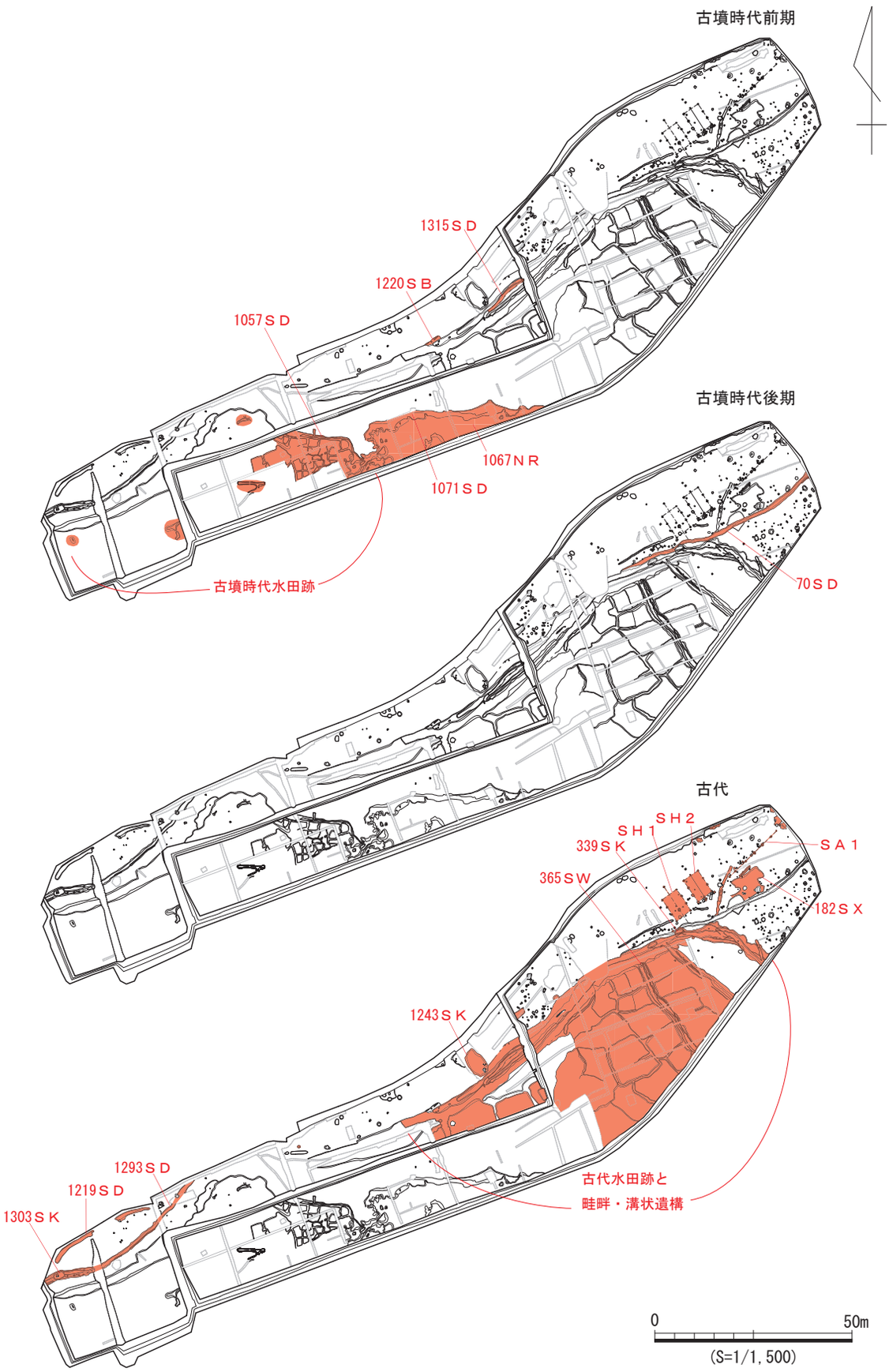
最も残存状態良好な土器群が出土した遺構である1220ＳＢについては、明確に古墳時代前期、それも初頭に位置付けることができる。水田跡については、帰属時期を絞り込むのは難しい。出土した木器類には弥生時代に遡る要素はみられない。しかし、包含層や1067ＮＲで出土した土器類には、1220ＳＢと同時期に属すると判断されるものが多いものの、弥生時代後期に遡るとみられるものも少なくないことから[1)]、上限が弥生時代後期にまで遡る可能性は排除できない。また、出土石器類に弥生時代の石包丁（遺物番号2016）がみられることも無視できない。したがって、1220ＳＢと同じく古墳時代前期頃に属することは確かとしても、水田耕作の開始が弥生時代後期頃に遡る可能性も皆無ではないことを付言しておく。下限については、第３章第３節にも記したとおり判断材料に乏しく、後述する古代水田にそのまま連続することはないと判断するにとどまる[2)]。

なお、1315ＳＤは、古代水田に伴う中央大溝の最下層で検出された溝状遺構である。この遺構内には古代の遺物がみられず、古墳時代水田の存続期にすでに存在した可能性が高い。ほかに同様の遺構が確認されないため、これ以上の追究はできないものの、この遺構の存在は、古代水田に伴う水路が古墳時代から存在した水路ないし溝状地形を拡幅・改修して成立した可能性を示唆するものと言えよう。

２　古墳時代後期

古墳時代水田の終焉と古代水田の開発開始の間の時期については、人々の活動の徴証がほとんど認められない。ほぼ唯一の事例と言えるのが、発掘区東端付近で検出した溝状遺構70ＳＤである。遺構内出土遺物から判断して、古墳時代後期の７世紀代に属すると考えておく。

遺構の性格は明らかとなっていないが、のちに西端部分が古代水田に関わる水路と交わっているこ



第238図　野内遺跡Ｃ地区の遺構の消長

とから、古代水田開発の前史に位置付けられる水路跡の可能性が考えられる。

３　古代

当発掘区における最盛期である。この時期に属すると判断されるのは、柵跡ＳＡ１、掘立柱建物跡ＳＨ１・ＳＨ２、掘立柱建物跡の周辺に散在する９基のピット（63ＳＰ・152ＳＰ・193ＳＰ・206ＳＰ・212ＳＰ・242ＳＰ・247ＳＰ・338ＳＰ・379ＳＰ）、26区画からなる「古代水田跡」（327ＳＴ・384～403ＳＴ・1252～1256ＳＴ）、古代水田に関わる畦畔310ＳＭ・320ＳＭ・1250ＳＭ、古代水田に関わる溝状遺構のうち17基（311ＳＤ・321ＳＤ・323ＳＤ・324ＳＤ・330ＳＤ・348ＳＤ・361ＳＤ・364ＳＤ・367ＳＤ・368ＳＤ・372ＳＤ・373ＳＤ・1245ＳＤ・1305ＳＤ・1309ＳＤ・1310ＳＤ・1311ＳＤ）、水制遺構365ＳＷ、遺物集積1074ＳＵ、性格不明の７基の溝状遺構（192ＳＤ・196ＳＤ・366ＳＤ・1061ＳＤ・1219ＳＤ・1286ＳＤ・1293ＳＤ）、墓339ＳＫをはじめとする16基の土坑（29ＳＫ・56ＳＫ・58ＳＫ・60ＳＫ・65ＳＫ・168ＳＫ・172ＳＫ・339ＳＫ・343ＳＫ・1231ＳＫ・1243ＳＫ・1258ＳＫ・1270ＳＫ・1283ＳＫ・1302ＳＫ・1303ＳＫ）、不明遺構182ＳＸ、以上84基である[3)]。それらの多くは発掘区北半に位置しており、古代の遺構の検出区域は、古墳時代の遺構の検出区域とはほとんど重ならない。

掘立柱建物跡ＳＨ１については、柱穴内の土器類の組成と柱穴内に残存した柱根の放射線炭素年代測定結果から、平安時代前半の９世紀頃の建物跡と結論づけることができる。ＳＨ１と軸線を揃えて並ぶＳＨ２も同時期の建物跡と捉えてよく、柵跡ＳＡ１についても同様とみて大過ないであろう。これらは水田の管理に関わる施設か倉庫のようなものの跡である可能性が高いと考えられる。なお、それらの周辺においては、柱並びこそ確認されなかったもののピットを多数検出していることから、同様の施設がさらに存在した可能性は高いであろう。なお、ＳＨ１のすぐ南方で検出した墓339ＳＫについても、さほど隔たりを持たぬ時期の遺構と判断される。

建物跡の南方に広がる水田跡と、水田跡の周辺に広がる畦畔・溝状遺構・水制遺構については、上記の建物跡とも関連を持つ一群の遺構と捉えている。それらの帰属時期は、出土した土器類に手掛かりを求めることにより、灰釉陶器普及前の８世紀後半頃から灰釉陶器普及期の10世紀代までと判断される。これは、隣接する当遺跡Ｂ地区の古代集落の最盛期に対応する。集落の営みが軌道に乗った時期に大規模かつ継続的に行われた水田開発の痕跡とみるのが最も無理のない解釈であろう。

第５章　第２節　注

１）古墳時代水田跡とその周辺区域で出土した土器類の多くは、北陸地方の編年における法仏式・月影式、濃尾平野土器編年における山中式・廻間式に相当すると判断される。なお、弥生土器・土師器の年代観の典拠は、第３章第４節の注１）に挙げたとおりである。

２）古墳時代水田の存続下限の手掛かりとなり得る出土遺物として、幅広で鉄刃装着用の加工を持つ新しいタイプのナスビ形鍬（遺物番号1480）と、年輪年代測定により伐採年代576年＋αとの結果を得た楕円形曲物容器（遺物番号1499）を挙げることができる。これら２個体から古墳時代水田が後期まで存続した可能性はあると考えるが、出土土器類には当該期はもとより古墳時代中期に属するものさえ僅少であることを重視し、断定を控えることとする。

３）第238図では、古代の遺構については主なもののみ遺構番号を表示した。また、第２遺構面の遺構は掲載を省略した。

第３節　野内遺跡とその周辺区域における土地利用の変遷について

ここまで調査成果を報告してきた野内遺跡Ｃ地区は、発掘面積9,000㎡を測る広大な発掘区ではあるが、それでも連綿と広がる人々の活動域の一部を占めるにすぎない。したがって、前節までにおいて述べた調査成果は、あくまで各時代の人々の活動の一部を切り取って提示したにすぎないと言わざるを得ない。幸いなことに、当センターでは、近年、隣接する区域において、野内遺跡の残る３地区（Ａ・Ｂ・Ｄ地区）をはじめ、ウバガ平遺跡、三枝城跡、与島Ｂ地点遺跡、与島Ｃ地点遺跡といった諸遺跡の調査を行っており、それらの大部分について、すでに個別に報告を終えている。それらは互いに立地や性格を異にすることから、それぞれの調査における成果を総合することにより、この区域における人々の活動の全体像を示せるものと考える。

本書の締めくくりとして、周辺諸遺跡における成果に目を配りつつ、野内遺跡とその周辺区域の土地利用の変遷を辿り、地域の歴史を描くことをもって、調査成果を総括する[1)]。

１　縄文時代

縄文時代については、野内遺跡Ｃ地区では遺物が少量出土したにとどまる。隣接遺跡における調査成果を見渡すと、ウバガ平遺跡の出土遺物中に草創期に遡る有舌尖頭器[2)]がみられるものの、遺構という形で明確に生活痕跡が認められるのは早期以降である。早期に属する可能性の高い遺構としては、ウバガ平遺跡の炉穴（ＳＫ８）と焼礫集積遺構（ＳＩ１）、三枝城跡の焼礫集積遺構（ＳＦ16）を挙げることができる。

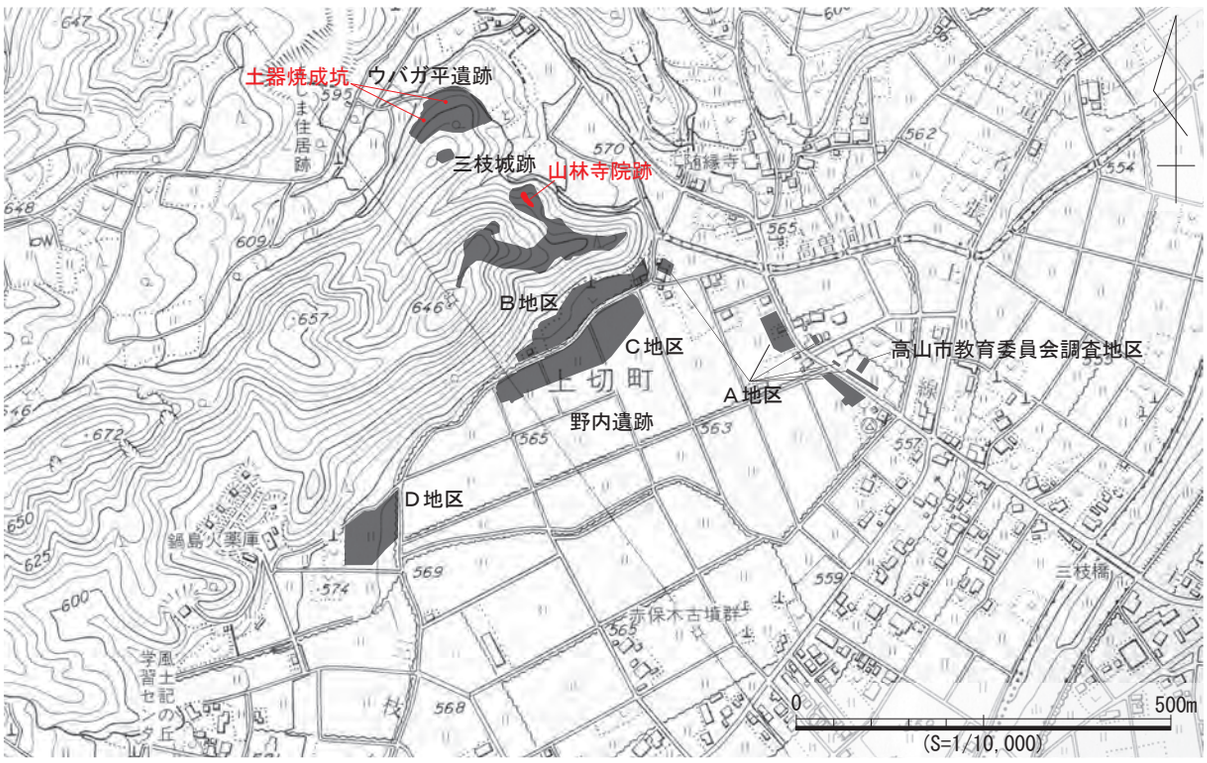
その後、前期末から中期にかけて、ウバガ平遺跡において住居跡が確認されるものの、集落と呼べる規模には至らず、しかも、後期・晩期には住居跡は見出されなくなる。したがって、縄文時代を通じて、集落を営む適地とみなされることはなかったと思われる[3)]。しかし、縄文時代におけるこの区域を鳥瞰した場合、注目すべきは、住戸跡よりもむしろ狩猟用の落とし穴とみられる一群の遺構であろう。山への登り際の斜面を中心に、野内遺跡Ｂ地区で21基、ウバガ平遺跡で45基を検出したほか、三枝城跡にもその可能性のある土坑がみられる（ＳＫ35）。飛騨全域を見渡してみても、これまでに知られている最も大規模な落とし穴群である。それらの作られた時期を詳らかにすることはできないとはいえ、縄文時代には、この区域は集住の場というよりは狩り場とみなされていたと判断される。

２　弥生時代

野内遺跡Ｃ地区では弥生時代の遺構は検出できなかったものの、出土遺物には注目すべきものが含まれる。石器類では、信州からの搬入品とみられる磨製石鏃（遺物番号907）、飛騨地域で出土したものの中では最も残存状態の良い石包丁（遺物番号2016）、土器類では、在地の内垣内式土器の横羽状文甕（遺物番号990～995）、金属器類では銅鏃（遺物番号2034）、主なものを列挙すると以上のようになる。

この区域で確認された弥生時代の遺構としては、まず、前期に属するものに、三枝城跡の土坑ＳＫ38がある。この土坑の性格は明らかとなってはいないが、前期の柴山出村式土器の壺[4)]の残存状態良好な個体が出土したことが注目される。

第239図　野内遺跡周辺の主要遺跡
（国土地理院発行「飛騨古川」「三日町」「町方」「高山」をもとに作成）



第240図　野内遺跡・ウバガ平遺跡・三枝城跡の立地

中期については成果が大きく、ウバガ平遺跡の尾根上の平坦地において中期後半の集落跡を確認している。この集落跡では、内垣内式土器の横羽状文甕10個体[5]、信州系の栗林式土器の壺[6]、北陸系の小松式土器の無頸壺[7]、信州からの搬入品である太型蛤刃石斧[8]、扁平片刃石斧[9]などが出土し、信州、北陸との交流を保ちつつ独自の土器を持つという飛騨地域の特質を窺える好例となっている。さほど距離を隔てぬ地点に位置する野内遺跡Ｃ地区の出土品に、内垣内式土器をはじめ中期に属するものが少なくないのは不自然なことではない。ただし、今回の調査で出土した中期の土器類には、内垣内式土器の典型例に比べ差異の認められる個体が多く、それらは、今後、内垣内式土器の系譜を追究する上で、検討対象とするに値する。

後期については、ウバガ平遺跡では集落が途絶え、代わって三枝城跡と野内遺跡Ｄ地区において人々の活動の徴証が確認される。三枝城跡では、山中で検出した土坑ＳＫ１から、後期の甕２個体が出土した[10]。これは埋葬に伴うものの可能性が考えられる。住居跡は少なく、わずかに当遺跡Ｄ地区のＳＢ１のみである。この住居跡は、飛騨地域に多い「コの字状石囲炉」を備える初期の例として注目される。

以上のように、弥生時代には中期後半には尾根上に集落が営まれ、活発な活動が認められるものの、その前後の時期については散発的に活動痕跡が認められるにとどまる。したがって、弥生時代においても、この区域では長期にわたり安定した集落が営まれる状況に至ってはいないと判断される[11]。

３　古墳時代

（１）古墳時代前期

野内遺跡Ｂ地区・Ｃ地区において弥生時代終末期ないし古墳時代初頭の土器類が多数出土し、この時期に属する住居跡を確認している。また、Ｃ地区では水田跡を確認した。この時期に至って、ようやく人々がこの地に本格的に定住したことが窺える。

まず注目されるのは、野内遺跡Ｃ地区の竪穴住居跡1220ＳＢにおいて出土した、古墳時代初頭の７個体の土師器である（遺物番号１～７）。それらは残存状態が良好であるだけでなく、系譜を異にする多様な個体が共伴する点で特筆される。具体的には、東海系の有稜高坏（遺物番号１）、北陸系の盤状有段高坏（遺物番号２）、信州系の櫛描文甕（遺物番号４）、北陸系の有段口縁甕（遺物番号５・６）、縦方向の櫛描文を持つ在地の甕（遺物番号７）、それに系譜不明の台付鉢（遺物番号３）、以上がまとまって出土している。これらが同時に使用されたものなのか、あるいはまとめて廃棄されたものなのかは定かでないものの、出土状況からは同時代性を疑う余地はない。さらに、この遺構で出土した甕には東海系のものはみられないものの、当遺跡Ｂ地区とＣ地区では包含層からＳ字状口縁台付甕の破片が出土しており、東海系の甕が普及していたことも明らかとなっている。飛騨地域における当該期の土器様相については、飛騨各地で東海系・北陸系・信州系の土器片が出土することから、周辺各方面からの影響の混在が予想されていたが、今回の成果は、それを具体的に実証するものと言える。

縦方向の櫛描文を持つ甕（遺物番号７）については、当発掘区では同様の特徴を備える甕の破片が多数出土しており（遺物番号869・1023～1027）、さらに未報告ではあるものの、高山市国府町域でも類似する土器片が出土することが知られている[12]。したがって、これが当該期の飛騨地域特有の土器である可能性は高い。この甕の系譜については、美濃山間・内陸地域で出土する「櫛条痕」の条痕文系甕[13]との類縁関係を指摘できるものの、現時点では直接の影響関係については判断を留保せざるを得ない。とはいえ、飛騨地域から美濃山間・内陸地域にかけて広く普及した土器であった可能性も視野に入れておく必要はあると思う。この問題の解明は、今後の課題としておきたい。

野内遺跡Ｃ地区で検出した一群の「古墳時代水田跡」は、それらと同じ頃に端を発する水田耕作の痕跡と考えられる。ところで、飛騨地域における水田耕作の開始時期については、今のところ明らかとなっているとは言い難い。立石（たていし）遺跡（高山市国府町）において、溝内から縄文時代晩期の土器とともに稲のプラント・オパールが検出されており、縄文時代晩期に溝を利用した稲作が行われた可能性が指摘されているものの、区画された水田跡が検出されてはいない[14]。また、弥生時代の農耕具である石包丁が当遺跡をはじめとして飛騨各地で出土していることから、飛騨地域における水田耕作の始まりが弥生時代にまで遡る可能性は高いと考えるが、弥生時代の水田跡そのものの確実な検出例はない。ここで問題となるのが、当センターが平成４年度に調査を実施した深沼（ふかぬま）遺跡（高山市国府町）の水田跡である。深沼遺跡では畦畔で区切られた約40枚の区画が見出され、実施したプラント・オパール分析からは、それらが稲作痕であることを支持する結果を得ている[15]。年代については、報告書では出土須恵器を手掛かりに「７世紀末まで遡る可能性がある」としているが、報告書刊行後に明らかとなった出土植物遺体の放射性炭素年代測定結果[16]を拠り所に弥生時代後期に遡るとの異説が出され、今日に至るも結論は出ていない[17]。このほか、古墳時代に属すると推定される事例としては半田（はんだ）垣内（がいと）遺跡（高山市国府町）と杉崎廃寺跡（飛騨市古川町）の水田跡が知られているものの、前者は古

墳時代中期に下る可能性が高く[18]、後者は寺院創建より前という下限年代が判明するにとどまっている[19]。したがって、現時点では当遺跡の「古墳時代水田跡」が、飛騨地域において最古の水田耕作確認例となる。また、今回の調査により、飛騨地域においても古墳時代前期にすでに木製農具を使用していたことが明らかとなった。

弥生時代終末期ないし古墳時代初頭における遺構・遺物の集中ののち、古墳時代前期における人々の確実な活動痕跡は希薄となり、ウバガ平遺跡において、前期末ないし中期初頭頃の住居跡ＳＢ１と土器埋納坑ＳＫ27を検出したにとどまる。

（２）古墳時代中期

古墳時代中期には、集落は山麓を離れ、東方の野内遺跡Ａ地区へ移るとともに、飛躍的な拡大をみせる。野内遺跡Ａ地区で確認された50基を超える住居跡からは、須恵器を伴わない段階から須恵器導入初期にかけての転換期における集落の変遷を窺うことができる。カマドは未だ導入されておらず、「コの字状石囲炉」を使用しており、土師器では有段坏部長脚高坏から碗状坏部低脚高坏へ移ってゆく様子を辿ることができるなど、飛騨地域の古墳時代中期集落を代表する興味深い事例である。さらに、飛騨では最古の部類に属する須恵器が出土したことでも注目される[20]。集落の範囲が、飛騨では最も早く古墳を導入した地域に近接していることを重視するならば[21]、飛騨地域最古級の古墳の造営主体となった人々の居住地であった可能性を指摘することもできる。

それらと同時期に位置付けられる遺構は、野内遺跡Ｂ地区にわずかに認められるにとどまる。今回の野内遺跡Ｃ地区の調査においても遺構は確認されず、出土遺物も僅少であった。

（３）古墳時代後期

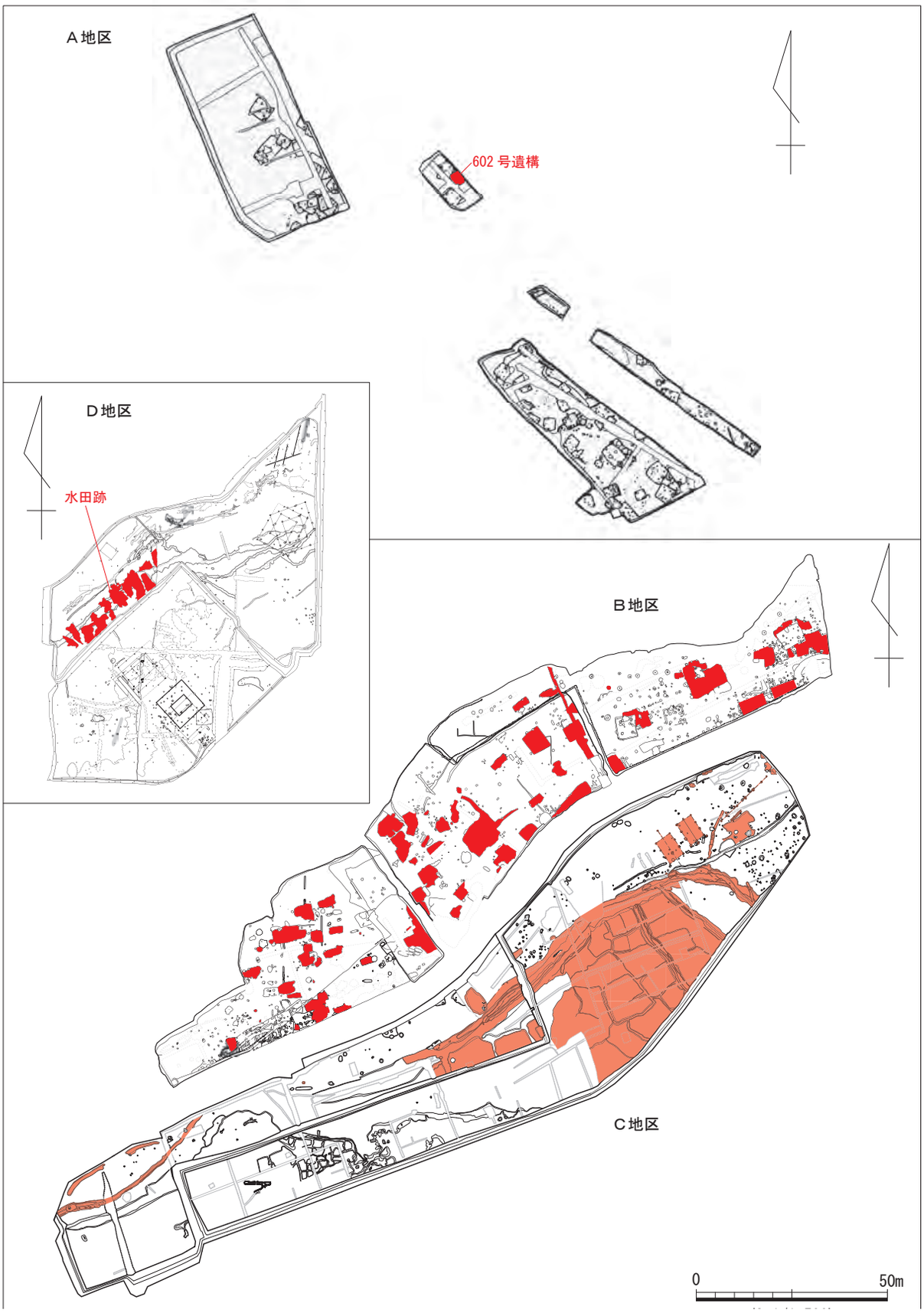
野内遺跡Ａ地区の古墳時代中期集落は須恵器の本格的普及期までは存続せず、集落は再び山麓へ戻ってくるようである。野内遺跡Ｂ地区とウバガ平遺跡で、古墳時代後期の住居跡を確認している。ただし、それらは後期でも後半の７世紀代に偏る傾向が認められ、時期的な断絶を持つようである。両遺跡とも、住居にはカマドを備えるようになっており、もはや「コの字状石囲炉」はみられない。

古墳時代終末期に至り、ウバガ平遺跡内に４基からなるウバガ平古墳群が築かれる。川上川左岸一帯は後期古墳の密集する地域として知られ、周辺に目を向ければ、ほかにも与島古墳群[22]をはじめとする数多くの後期古墳を見出すことができる。野内遺跡Ｂ地区とウバガ平遺跡における集落の形成は、そうした古墳群の造営と連動するものであったと判断される。

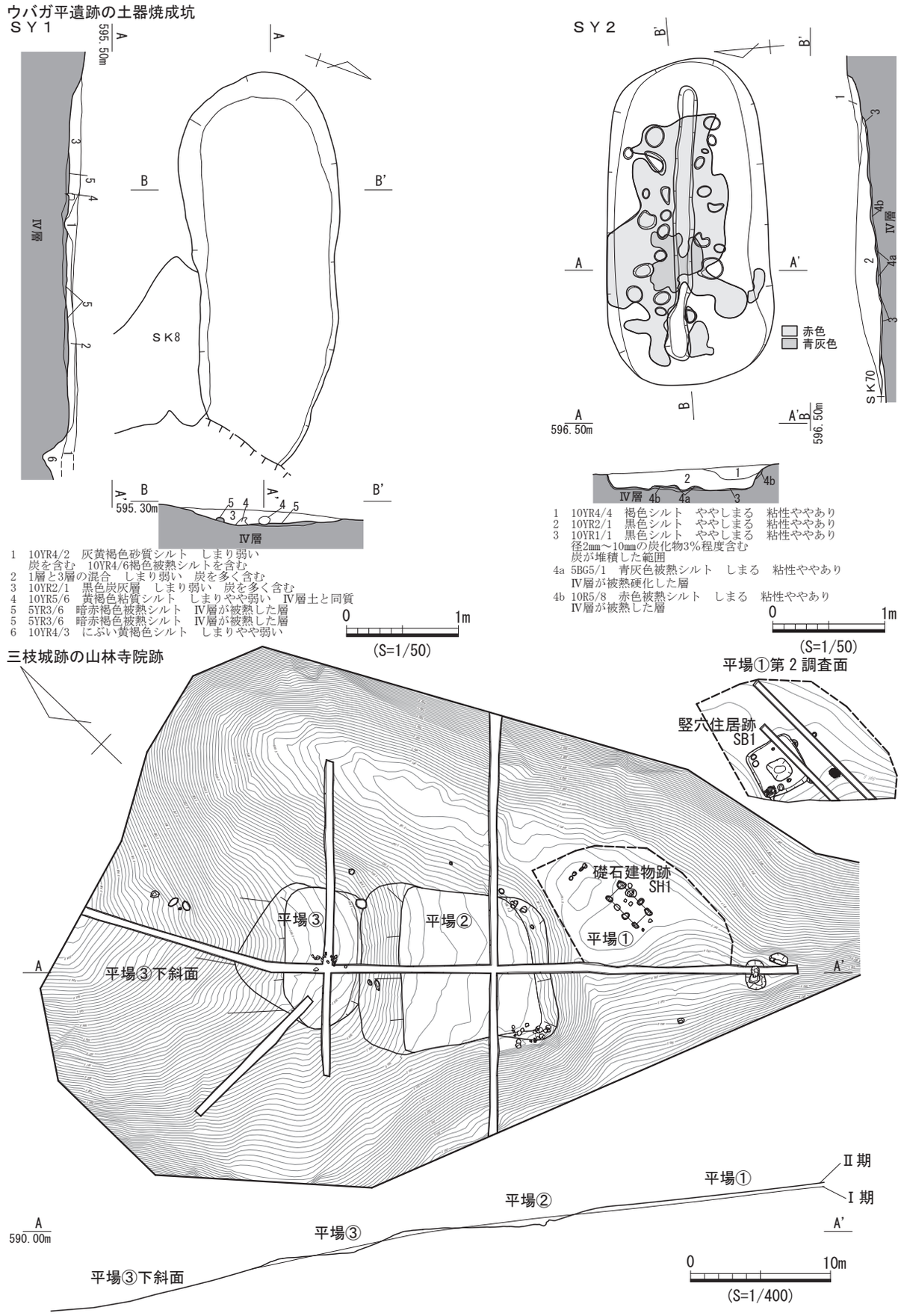
野内遺跡Ｃ地区では、引き続き成果の希薄な時期に当たるが、この時期に属する遺構として溝状遺構70ＳＤを挙げることができる。野内遺跡Ｂ地区の集落の再形成に伴い、Ｃ地区の範囲にも人々が戻ってきたと捉えられよう。

４　古代（奈良時代～平安時代前半）

ウバガ平遺跡の古墳時代集落は奈良時代には続かず、以後、途絶える。その一方で、野内遺跡Ｂ地区では奈良時代にも集落は存続し、平安時代前半に至り最盛期を迎える。そのころの集落の範囲はＢ地区内にとどまるものではなく、東方のＡ地区の範囲にまで拡大をみせている（602号遺構）。そうした集落の発展と連動するように、野内遺跡Ｃ地区では大規模な水路の開削が行われ、水田開発が実現した。ここではまず、野内遺跡Ｂ地区・Ｃ地区の集落及び水田の性格について考えてみたい[23]。



第241図　野内遺跡各地区の古代の遺構



第242図　ウバガ平遺跡・三枝城跡の古代の遺構

今回の調査では多種多様な木器類が出土したが、それらの大半は日常用具が占めており、集落及び水田の性格を決定づけるような特殊品はみられない。やや特徴的な点として、箸や火付け木が大量に出土したことが挙げられようが、これは平安時代頃の木器類が出土する遺跡としては一般的な現象と判断する。注目すべきは、墨書土器をはじめとする多数の文字関係資料であろう。それらの多くは当遺跡Ｂ地区の集落からの流れ込み品とみられ、内容面でもＢ地区の出土品を補完するものに位置付けられる。野内遺跡全体で確認された古代の墨書土器は249個体（Ｂ地区86個体、Ｃ地区161個体、Ｄ地区２個体）、ヘラ書き土器は31個体（Ｂ地区２個体、Ｃ地区29個体）となった。硯は31個体（Ｂ地区17個体、Ｃ地区14個体）、転用硯は92個体（Ｂ地区23個体、Ｃ地区69個体）である[24]。いずれも飛騨地域の遺跡としては突出した数であるとともに、最も多様な事例と評価できる。それらとともに、緑釉陶器、須恵器の双耳坏・火舎などの特殊品も出土していることにも併せて注目したい。さらに、今回の調査では緑釉陶器の中に京都産であることが確実視される個体を確認しており（遺物番号511）、都から奢侈品を導入できるほどの住人がこの地に居住していたとみることができる。

文字関連資料の出土は、そこが識字層に関わりのある土地であったことを示すものである。他の多くの地域の場合と同様、飛騨地域においても、文字関連資料が出土したのは、杉崎廃寺跡（飛騨市古川町）、寿楽寺廃寺跡ならびに太江遺跡[25]（飛騨市古川町）、上町（かんまち）遺跡[26]（飛騨市古川町）など、寺院関連遺跡ないし官衙の要素を備えた遺跡に限られることから、当遺跡もまた一般集落跡とは性格を異にする遺跡と捉えるべきであろう。Ｂ地区及びＣ地区の出土遺物の中に寺院との繋がりを思わせるものはほとんどみられない一方で、Ｂ地区では官との関連を証明する物証そのものである腰帯具が出土していることから[27]、やはり官との関連の深い遺跡と考えたい。ところが野内遺跡の検出遺構の実情に目を向けると、Ｂ地区では鍛冶工房跡とみなすべき遺構が多い点が特異ではあるものの、平安時代に至るまで一貫して竪穴住居跡が主体を占めている点に疑問を覚える。これはむしろ一般集落跡の様相である。Ｃ地区の掘立柱建物跡にも、公的施設を思わせる規格性の強い大型のものがみられるわけではない。したがって、出土遺物の特異な組成が、ここが公的施設であることを強く示唆するのに対し、検出遺構そのものに官衙の要素を窺うことは難しいと言わざるを得ないのである。

このような遺構・遺物にみられる不整合ともいうべき様相を、どのように解釈すればよいのであろうか。一案として、官衙そのものではなく、官衙で文書事務等に携わる官人等の居住地とする解釈を挙げておきたい。寺院・官衙という選択肢を排除する場合、識字層の集住を想定できるのはそのような特殊な集落に限られるからである。さらに踏み込むなら、Ｂ地区の一群の鍛冶工房跡を公的な様相を帯びた施設の跡と捉え、官人の居住地であるとともに、国府等に製品を供給するための官営工房群を内蔵した集落の跡と言うことも許されるであろう。当遺跡の立地上の特性が、そうした解釈を可能とする。飛騨国府の位置は未だ判明していないものの、当遺跡は飛騨国分寺・国分尼寺からはわずか約３㎞の地点に当たり、当時、飛騨国の中心として栄えたであろう地域と直接の繋がりを持つことのできる圏内に位置する。さらに、赤保木１～６古窯跡、よしま１～３号古窯跡、赤保木８号古窯跡など、高山盆地の重要な古窯跡は、いずれも約１㎞の近距離に密集しており、しかも赤保木１～４号古窯跡は飛騨国分寺に瓦を供給した瓦窯跡であることが判明している。以上から、川上川左岸の丘陵のうち、現在の上切町から赤保木町にかけての地域が古代には公的な性格を帯びた生産拠点であり、野内遺跡Ｂ地区を中心とする区域にあった集落は、その一角を占める存在であった可能性を指摘しておきたい。

では、野内遺跡Ｃ地区の水田については、どう捉えるべきであろうか。検出した水田そのものの年代を明言するのは難しいとはいえ、水路の開削とそれに続く改修の行われた時期がＢ地区の集落の存続期に当たることは、出土遺物から証明される。また、そのような大事業が施工される必要条件として、付近に大人数の居住する集落の存在を想定するのは当然であろう。やはり、野内遺跡Ｂ地区に位置する集落の最盛期、すなわち平安時代前半かそれをやや遡る時期に、集落居住者を直接の担い手として開削されたと捉えておいて大過ないと考える。さらには、Ｂ地区の集落の持つ特異な性格からみて、それが公的な性格を帯びた事業であった可能性さえ小さくないであろう[28]。

なお、野内遺跡では、Ｃ地区の南西に位置するＤ地区でも11区画の水田跡が検出されており、出土遺物から、それらは奈良時代から平安時代にかけての時期に属すると推定されている。したがって、当地における古代水田の範囲は、今回の発掘調査で面として把握し得た部分にとどまるものではなく、より広範囲にわたるものであったとみて間違いない。

さて、ここまでは集落と水田に対象を絞ってみてきたが、当区域における当該期の遺構はそれらにとどまるものではなく、実に多様である。奈良時代には人々の活動痕跡が途切れていたウバガ平遺跡では、平安時代になると土器焼成坑とみられる遺構２基が見出される（ＳＹ１・ＳＹ２）。さらに、三枝城跡の発掘区内では、広範囲にわたり須恵器・灰釉陶器が出土したのみならず、仏具が出土する３段の平場を検出し、山中に古代の山林寺院跡が存在することを確認した。いずれも飛騨地域では極めて稀な遺構である（第242図）。重要なのは、それらはいずれも野内遺跡の集落・水田の存続期間内に収まるとみて問題のない遺構だということである。

それらウバガ平遺跡・三枝城跡の発掘調査成果を、野内遺跡における上記の調査成果と結びつけることによって、この区域における平安時代前半頃の土地利用の全体像が見えてくる。山麓緩斜面から平地にかけて居住適地では集落を営むとともに鉄製品の生産を行う（野内遺跡Ｂ地区、Ａ地区の一部）。その前面の広大な低湿地では水路を開削して水田開発を実施し、耕作を行う（野内遺跡Ｃ地区・Ｄ地区）。そして、集落背後の山中には信仰ないし修行の場を設け（三枝城跡）、さらに、必要に応じて土器生産を行ったのである（ウバガ平遺跡）。いずれも立地の特性に応じた合理的な土地利用と捉えることができる。発掘調査の成果から、往時における土地利用のあり方について、このように多面的に把握するに至る事例は稀である。今回の調査を含む一連の調査による成果の大きさを、改めて強調しておきたい。

５　平安時代後半以降

野内遺跡Ｃ地区においては、平安時代後半以降に属する遺構は認められないものの、出土土器類には、輸入磁器・山茶碗・珠洲焼・常滑焼・古瀬戸系施釉陶器など、明らかにそれ以降の時期に属するものが認められる。それらの存在は、この区域における人々の活動が平安時代前半をもって全く途絶えてしまったわけではないことを示唆する。その一方で、それらの数量が平安時代前半までの出土遺物に比べ、問題にならないほど少ないことにも留意する必要がある[29]。こうした事象をどのように評価すべきであろうか。

野内遺跡Ｃ地区の出土遺物の増減は、基本的には野内遺跡Ｂ地区における集落の盛衰に連動するものであったと捉えるべきである。野内遺跡Ｂ地区では10世紀後半には遺構数が激減することが確かめ

られており、以後、集落は消滅することが指摘されている。それでもなお、平安時代後半以降にも当地における人々の活動が変わらず継続された可能性も皆無とは言えない。なぜなら、そもそも飛騨地域においては、須恵器・灰釉陶器が廃れた平安時代後半以降、それを引き継ぐに足る数量を備えた土器食膳具が現われないという根本的な事情が存在するからである。山茶碗や古瀬戸系施釉陶器の一大生産地であった尾張・美濃や、土師質土器が広く流通する北陸などは異なり、集落における人々の生活痕跡を出土土器から追うこと自体が困難となるのである。これは野内遺跡の位置する高山市域でも例外ではない。遺物が出土しなくなることが、そのまま人々が居住しなくなったことを意味するとは限らず、例えば木製容器などを使用した人々が居住した可能性について、頭から否定するわけにはいかないのである。

この疑問には、まず、遺物ではなく遺構の様相を検討することをもって答えたい。野内遺跡Ｂ地区では、竪穴住居跡が57基検出されている一方で、掘立柱建物跡・柵跡は５基にとどまり、居住施設が基本的に竪穴構造を採っていることが読み取れる。全国的趨勢に照らすならば、いわゆる竪穴住居が住居の主流であったのは平安時代前半頃までと言ってよかろうが[30]、野内遺跡Ｂ地区の集落は、まさにその段階にとどまっていると捉えることができる。平安時代後半に下る可能性のある居住の跡、例えば竪穴住居に代わる居住形態とされる小規模な掘立柱建物の跡などといった遺構は、ほとんど確認されていない。したがって、野内遺跡Ｂ地区では、平安時代後半の遺物が僅少であるのみならず、遺構構造にも平安時代後半以降に下る要素が見出せず、集落がそのままの規模で平安時代後半にまで存続したことは想定できないのである。ちなみに、野内遺跡Ｃ地区の北東区域には掘立柱建物跡がみられるが（ＳＨ１・ＳＨ２）、出土遺物様相と放射性炭素年代測定結果から平安時代前半に属するとみて問題なく、それより下る可能性はほとんどない。以上のように、遺構そのものの様相からも、平安時代後半には、野内遺跡Ｂ地区・Ｃ地区は、居住域ではなくなったことが窺えるのである。

また、食膳具の変遷という観点からは、次のようなことも言えるのではないかと思う。一般に、須恵器などの古代土器食膳具の消滅後、それに代わる土器が出土しなくなる地域においては、漆器をはじめとする木製食膳具にその役割が引き継がれたと説かれることが多い。野内遺跡Ｃ地区においても漆器は出土しており、それらが中世前期に属する可能性は高い。もし、この点をことさらに強調するなら、土器類が使われなくなったのちにも漆器に依存しつつ集落は存続したと主張できるかもしれない。しかし、出土しているとはいえ、その数は破片数でわずか数十点程度にすぎず、それらが古代土器の果たした役割をそのまま継承したと捉えるわけにはいかないと考える。古墳時代以来の木器類の出土総点数が破片数で28,963点に及ぶという野内遺跡Ｃ地区の木器出土状況を念頭に置き、さらに、木質遺物の中では比較的残りやすいという漆器の特性をも考慮するなら、この出土点数は、あまりにも少なすぎるのではないだろうか。平安時代後半以降にも集落が存続したと仮定した場合、漆器の残存率を極めて小さく見積るという、不自然な資料操作を要することとなってしまうのである。これは仮定に無理があると考えざるを得ない。やはり、集落の最盛期は須恵器・灰釉陶器の使われた時期までで、その後は存続しなかったか、あるいは大幅に衰退したとみるべきであろう。

ところで、数量として多くはないとはいえ、平安時代後半以降、近世に至る遺物が出土しているのは否定できない事実ではある。それらはどこからもたらされたのであろうか。平安時代後半から中世前期にかけての時期については、すでに記したように、発掘区域からごく近い位置に、ある程度の規

模を持った集落が存続した可能性は小さいとみるべきである。しかし、人々の生活痕跡が見出されないわけではなく、例を挙げれば、野内遺跡Ｄ地区で検出された掘立柱建物群がある。遺構内からの出土遺物は僅少であり、建物の性格は不明とされているものの、確認された７棟の建物のうち四面庇構造の６棟については、中世前期の12世紀後半から13世紀前半に属する可能性が高いとされている[31)]。遺構という形で確認されている範囲で検索すると、該当するのはこの事例のみとなるのだが、調査対象外の区域をも視野に入れるなら、野内遺跡Ｃ地区の東方、南方、西方に今も広がる周辺水田域に、延々と続けられた水田耕作に伴って同様の施設が広い時代にわたり点在し、それらが流れ込み遺物の供給源となったと考えても不自然ではあるまい[32)]。こう捉えるなら、野内遺跡Ｃ地区の当該期の出土土器類に認められる年代幅の大きさやまとまりのなさを無理なく説明できるであろう。

野内遺跡以外に目を向けると、ウバガ平遺跡では中世陶器は全く出土していないものの、三枝城跡の発掘区内においては渡来銭や輸入磁器が出土しており、中世にも人々の活動が山中にまで及んだことを確認している[33)]。さらに、戦国時代には山中に三枝城が築かれる。ただし、野内遺跡発掘調査の成果中に、三枝城に関連を持つような遺構・遺物は認めるのは難しく、わずかに野内遺跡Ｂ地区の15世紀後半頃の墓（ＳＫ162）にその可能性をみるにとどまる。山城の造営に伴い、山麓に人々が再び集まってくるようなことはなかったと思われる[34)]。

近世以降については、野内遺跡Ｂ地区において、溝状遺構３、土坑15、ピット８を検出しており、それらはすべて近世後期以降に属すると判断される。野内遺跡Ｂ地区における近世もしくはそれ以降の出土陶磁器破片数は4,784点にのぼり、それらの大半は18世紀後半以降に属する。野内遺跡Ｃ地区でも近世陶磁器の出土数は破片数で322点を数え、これは平安時代後半以降では比較的まとまった数量である。おそらく、野内遺跡Ｂ地区の区域において、集落の形成とは言えないまでも人々の活動が再開され、それに伴いＣ地区への遺物の流れ込みも再び始まったのであろう。なお、野内遺跡Ｂ地区で近世の遺構密度の高い区域は、明治21年作成の地籍図で「宅地」として表記されている区域と概ね重なることから、近代以降にもさほど変わることなく人々は定住し、現代に至ったものとみられる。

第５章　第３節　注

１）本節において、対象区域における調査成果についての記述は、特に断らない限り以下の文献による。なお、平成19年度に発掘調査を行った与島Ｂ地点遺跡と与島Ｃ地点遺跡については未報告であるものの、当地域の歴史像の構築作業に大きく支障を来すことはないと予想される。

①財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ａ地区』

②財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ｄ地区』

③財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2009『野内遺跡Ｂ地区』

④岐阜県文化財保護センター2010『ウバガ平遺跡・ウバガ平古墳群』

⑤岐阜県文化財保護センター2011『三枝城跡』

２）『ウバガ平遺跡・ウバガ平古墳群』の遺物310番。

３）さらに周辺の遺跡に目を向けると、前期の集落跡は中切上野遺跡で確認されている（高山市教育委員会1999『中切上野遺跡発掘調査報告書』）。また、赤保木遺跡では中期の集落跡を確認している（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター

2007『赤保木遺跡』)。

４)『三枝城跡』の遺物132番。

５)『ウバガ平遺跡・ウバガ平古墳群』の遺物99・100・102～107・137・138番。

６）同書の遺物233番。

７）同書の遺物234番。

８）同書の遺物101番。

９）同書の遺物109番。

10)『三枝城跡』の遺物５・６番。

11）さらに周辺に目を向けても、弥生時代については、赤保木遺跡で中期の住居跡２基を確認したにとどまり、大規模な集落跡はみられない。

12）押井正行氏（高山市教育委員会）から御教示を賜った。

13）財団法人岐阜県文化財保護センター2000『砂行遺跡』第２分冊53～62頁。

14）国府町史刊行委員会2007『国府町史　考古・指定文化財編』92頁。

15）財団法人岐阜県文化財保護センター1992『深沼遺跡』。

16）出土したトチの実について放射性炭素年代測定を実施し、1,870±120BPとの結果を得ている。

17）例を挙げれば、近年刊行された国府町史刊行委員会2011『国府町史　通史編Ⅰ』では、深沼遺跡の水田跡を弥生時代後期に属するものとして紹介している。このほか、飛騨地域で弥生時代に遡る可能性のある水田跡検出例として、昭和62年に国府町教育委員会により発掘調査が行われ、国府町史刊行委員会2007『国府町史　考古・指定文化財編』70頁に記載のある岩田遺跡（高山市国府町）があるが、詳細は明らかとなっていない。

18）国府町教育委員会1993『半田垣内遺跡　１次・２次発掘調査報告書』。

19）杉崎廃寺創建に先立つ遺構として、大区画の畦畔と、その中を土盛りで細分する小区画の畦畔が報告されている。古川町教育委員会1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』155～156頁。なお、寺院の創建年代については７世紀末ないし８世紀初頭と推定されている。

20)『野内遺跡Ａ地区』所載の遺物31番（甕)、64番（鉢)、201番（坏身）が飛騨地域最古級の須恵器とみられる。なお、同書の該当部分の記述には編集ミスによる誤りが含まれるため、以下のように訂正する。

101頁22～25行目：(誤)「ただし、70号遺構の他の出土遺物に目を向けると、土師器高杯には高杯Ａ（有段杯部長脚高杯）とみられる個体（50）と高杯Ｃ（碗状杯部低脚高杯）とみられる個体（56）が混在しており、須恵器杯身（201）の出土遺構である５号遺構が碗状杯部低脚高杯で占められるのに比べ古い様相を示すと捉えられる。」→（正)「ただし、70号遺構の他の出土遺物に目を向けてみると、土師器高杯には高杯Ａ（有段杯部長脚高杯）の杯部（50）と高杯Ｃ（碗状杯部低脚高杯）になるとみられる脚部（56）が混在することが確かめられる。第５章において詳述するが、当遺跡の須恵器出土遺構では土師器高杯が高杯Ｃで占められる傾向が顕著であるので、70号遺構の土師器高杯組成は他の須恵器出土遺構の場合よりやや古い様相を示すものと捉えることができる。」

21）第２章第２節にも記したとおり、高山盆地所在の古墳のうち、古墳時代中期に遡るとみられるものは、すべて野内遺跡から1.5km以内に位置する。

22）財団法人岐阜県文化財保護センター1997『与島古墳群』など。

23）第241図・第242図は、既刊の報告書から編集の上、転載したものである。出典は以下のとおり。

①第241図上段：『野内遺跡Ａ地区』第７図（32頁）

②第241図中段：『野内遺跡Ｄ地区』第66図（110頁）

③第241図下段上半：『野内遺跡Ｂ地区』図24（第１分冊43頁）

④第242図上段：『ウバガ平遺跡・ウバガ平古墳群』第28図（52頁）、第29図（53頁）

⑤第242図下段：『三枝城跡』第95図（163頁）

24）ただし、野内遺跡Ｂ地区では、擦った痕跡のない個体は、転用硯として扱っていない。

25）財団法人岐阜県文化財保護センター2002『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』及び財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『太江遺跡Ⅱ』。

26）古川町教育委員会1991『上町遺跡Ｄ地点』など。

27）『野内遺跡Ｂ地区』所載の遺物134番。

28）野内遺跡の古代水田と条里との関係については、検出した水田小区画の形状と時期判定が検証に耐えるだけの精度を持つか疑問であるため、本書では追究しないこととする。

29）平安時代後半以降に属する出土遺物としては土器類以外に古銭もあるが、出土数は12個体にすぎず、やはり土器類同様、付近に集落の存在を想定するには僅少にすぎる。

30）小野正敏編2001『図説・日本の中世遺跡』東京大学出版会など。ただし、飛騨地域における中世集落の様相については、今のところ明らかになっているとは言い難い。

31）野内遺跡Ｄ地区の掘立柱建物跡については、遺構内からの土器類の出土点数が極めて僅少であることと、隣接する水田跡・水路跡などの多くがＣ地区と同じく古代の遺構とみなされていることから、野内遺跡Ｃ地区のＳＨ１・ＳＨ２と同じく、古代に遡る可能性も排除できないと思われる。ただし、Ｄ地区では、山茶碗をはじめとする中世土器類の占める割合がＣ地区に比べ高いのも事実である。

32）参考までに、他の発掘区の状況について述べておく。野内遺跡Ａ地区は、検出遺構のほとんどが古墳時代中期に属し、中世以降の遺構は確認されていないにもかかわらず、破片数24,857点を数える出土遺物中には、輸入磁器６点、山茶碗11点、珠洲焼６点、その他の中近世陶器372点がみられる。なお、野内遺跡Ｂ地区でも１個体のみであるが第４型式（12世紀代）の南部系山茶碗が確認されており、中世前期における人々の活動痕跡が皆無というわけではない（『野内遺跡Ｂ地区』所載の遺物14番）。

33）三枝城跡発掘区では、北宋銭など古銭が９個体、輸入磁器が５個体出土している。

34）野内遺跡Ｂ地区では、中世陶磁器124点が出土しているものの、中世の遺構は溝状遺構３、土坑４、ピット２を確認したにすぎない。

参考文献

愛知県史編さん委員会2010『愛知県史　資料編４　考古４　飛鳥～平安』
赤塚次郎編2002『考古資料大観　第２巻　弥生・古墳時代　土器Ⅱ』小学館
秋田裕毅2002『ものと人間の文化史104　下駄　神のはきもの』法政大学出版局
石川日出志1995「飛騨の弥生中期横羽状文甕」飛**騨**考古学会編『飛騨と考古学　飛**騨**考古学会20周年記念誌』
岩井宏實1994『ものと人間の文化史75　曲物』法政大学出版局
岩田隆1986「中世遺跡出土の下駄」『飾る・遊ぶ・祈るの木製用具』北陸中世土器研究会
上原真人1994「入れもの」『季刊　考古学』第47号
大垣市教育委員会1997『曽根八千町遺跡』
小野正敏編2001『図説・日本の中世遺跡』東京大学出版会
加納俊介・石黒立人編2002『弥生土器の様式と編年－東海編－』木耳社
川崎保編2008『「赤い土器のクニ」の考古学』雄山閣
岐阜県教育委員会2007『改訂版　岐阜県遺跡地図』
岐阜県文化財保護センター2010『ウバガ平遺跡・ウバガ平古墳群』
岐阜県文化財保護センター2011『三枝城跡』
黒崎直1996『日本の美術357　古代の農具』至文堂
国府町教育委員会1993『半田垣内遺跡　１次・２次発掘調査報告書』
国府町史刊行委員会2007『国府町史　考古・指定文化財編』
国府町史刊行委員会2011『国府町史　通史編Ⅰ』
古代の土器研究会1994『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東３　施釉陶器－』
小淵忠司2011「飛騨の須恵器と灰釉陶器」『研究事業報告（平成22年度版）』岐阜県ミュージアムひだ
財団法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』
財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995『柳之御所跡』
財団法人大阪府文化財センター2006『古式土師器の年代学』
財団法人岐阜県文化財保護センター1992『深沼遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター1997『与島古墳群』
財団法人岐阜県文化財保護センター2000『砂行遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター2000『冬頭城跡・冬頭山崎１号古墳・冬頭山崎２号古墳・冬頭山崎１号横穴』
財団法人岐阜県文化財保護センター2000『船山北古墳群・船山北古窯跡群・船山北遺跡』
財団法人岐阜県文化財保護センター2002『上ヶ平遺跡Ⅱ』
財団法人岐阜県文化財保護センター2002『太江遺跡・寿楽寺廃寺跡』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『太江遺跡Ⅱ』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ａ地区』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ｄ地区』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『赤保木遺跡』
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2009『野内遺跡Ｂ地区』
財団法人滋賀県文化財保護協会2011『夏見城遺跡』
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所1993『研究紀要Ⅳ　水田跡研究の方法と研究』
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所1994『古代における農具の変遷－稲作技術史を農具から見る－』
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター1996『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～』
財団法人富山県文化振興財団2004『黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡　発掘調査報告』
財団法人富山県文化振興財団2006『下老子笹川遺跡発掘調査報告』
齊藤孝正2000『越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器』至文堂
社団法人石川県埋蔵文化財保存協会1997『石川県出土文字資料集成』
社団法人石川県埋蔵文化財保存協会1998『古代北陸と出土文字資料』
出土木器研究会2009『木・ひと・文化～出土木器研究会論集～』
上嶋善治2004「古代の飛騨における古墳と集落に関する一考察」八賀晋先生古稀記念論文集刊行会編『かにかくに　八賀晋先生古稀記念論文集』三星出版
鈴木規夫1985『日本の美術230　漆工』至文堂
鈴木道之助1991『図録・石器入門事典〈縄文〉』柏書房
珠洲市立珠洲焼資料館1989『珠洲の名陶』
高島英之2000『古代出土文字資料の研究』東京堂出版
高山市教育委員会1971『冬頭王塚発掘調査報告』
高山市教育委員会1975『飛騨国分寺瓦窯発掘調査報告』
高山市教育委員会1981『薬師野遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会1993『前平山稜遺跡・赤保木遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会1995『高山市内遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会1999『三枝城跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会1999『中切上野遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会2001『高山市内遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会2005『高山市内遺跡発掘調査報告書』
巽淳一郎1996『日本の美術361　まじないの世界Ⅱ（歴史時代）』至文堂
田中彰2001「飛騨地域の古墳」八賀晋編『美濃・飛騨の古墳とその社会』同成社
田中勝弘1989「銅鏃」『季刊　考古学』第27号
中世土器研究会編1995『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社
東海土器研究会2000『須恵器生産の出現から消滅　猿投窯・湖西窯編年の再構築』
鳥取県埋蔵文化財センター2008『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告３　建築部材（資料編）』
鳥取県埋蔵文化財センター2009『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告４　建築部材（考察編）』
長野県埋蔵文化財センター1999『榎田遺跡』

中村浩1981『和泉陶邑窯の研究－須恵器生産の基礎的考察－』柏書房
奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録　近畿古代篇』
奈良文化財研究所2010『出土建築部材における調査方法についての研究報告』
成田寿一郎1984『木の匠　木工の技術史』鹿島出版会
樋上昇1994「耕作のための道具－ナスビ形農耕具を中心に－」『季刊　考古学』第47号
樋上昇2000「３～５世紀の地域間交流－東海系曲柄鍬の波及と展開－」『日本考古学』第10号
樋上昇2005「木製品専業工人の出現と展開－伊勢湾周辺地域における木製品の生産と流通をめぐって－」『古代学研究』第168・169号
樋上昇2008「木製農具の研究略史と鍬の伝播経路」『季刊　考古学』第104号
樋上昇2010『木製品から考える地域社会－弥生から古墳へ－』雄山閣
平川南2000『墨書土器の研究』吉川弘文館
深堀茜1999「北陸の木製農耕具集成（１）」『富山考古学研究』第２号
藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』第３号
古川町教育委員会1991『上町遺跡Ｄ地点』
古川町教育委員会1998『杉崎廃寺跡発掘調査報告書』
文化庁文化財部記念物課監修2010『発掘調査のてびき』同成社
北陸中世土器研究会1995『中世北陸の木製容器』
北陸中世土器研究会1996『飾る・遊ぶ・祈るの木製用具』
上枝村史編纂委員会2000『上枝村史』
穂積裕昌2000「弥生時代から古墳時代の木器生産体制について～三重県内の木器出土遺跡からの素描～」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』第９号
堀真人2011「遺跡出土の化粧道具に関する覚書－夏見城遺跡出土の毛抜きから－」『財団法人滋賀県文化財保護協会紀要』第24号（－設立40周年記念号－）
村上隆2007『金・銀・銅の日本史』岩波書店
森本幹彦2005「古墳出現期における地域間関係－「白江式」の検討を中心として－」『東京大学考古学研究室研究紀要』第19号
四柳嘉章・下村好美1996「能登の木製用具　下駄の研究方法と木製品にみる中世の民間信仰」『飾る・遊ぶ・祈るの木製用具』北陸中世土器研究会
四柳嘉章2006『ものと人間の文化史131-Ⅰ　漆Ⅰ』法政大学出版局
四柳嘉章2009『漆の文化史』岩波書店
埋蔵文化財研究会編1996『第39回埋蔵文化財研究集会　古代の木製食器』
三重県埋蔵文化財センター2000『六大Ａ遺跡発掘調査報告（木製品編）』
向井由紀子・橋本慶子2001『ものと人間の文化史102　箸』法政大学出版局
山田昌久編2003『考古資料大観８　弥生・古墳時代　木・繊維製品』小学館
吉岡康暢1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
渡邉晶2004『大工道具の日本史』吉川弘文館

写　真　図　版

遺跡遠景（上が北、昭和30年米極東空軍撮影）

図版２　調査前状況

調査前状況（北東から、平成16年12月撮影）

調査前状況（南から、平成16年12月撮影）

発掘区全景（上が北）

発掘区全景（南西から）

図版４　発掘区全景（２）

発掘区全景（西から）

発掘区全景（南西から）

発掘区全景（南から）

発掘区全景（北東から）

図版６　発掘区全景（４）

発掘区全景（上が北）

発掘区全景（西から）

1220ＳＢ検出状況（北東から）

1220ＳＢ遺物出土状況（北から）

図版８　竪穴住居跡（２）

1220ＳＢ遺物出土状況（北東から）

1220ＳＢ遺物出土状況（南東から）

1220ＳＢ遺物出土状況（北東から）

1220ＳＢ遺物出土状況（南西から）

1220ＳＢ完掘状況（南西から）

1220ＳＢ完掘状況（東から）

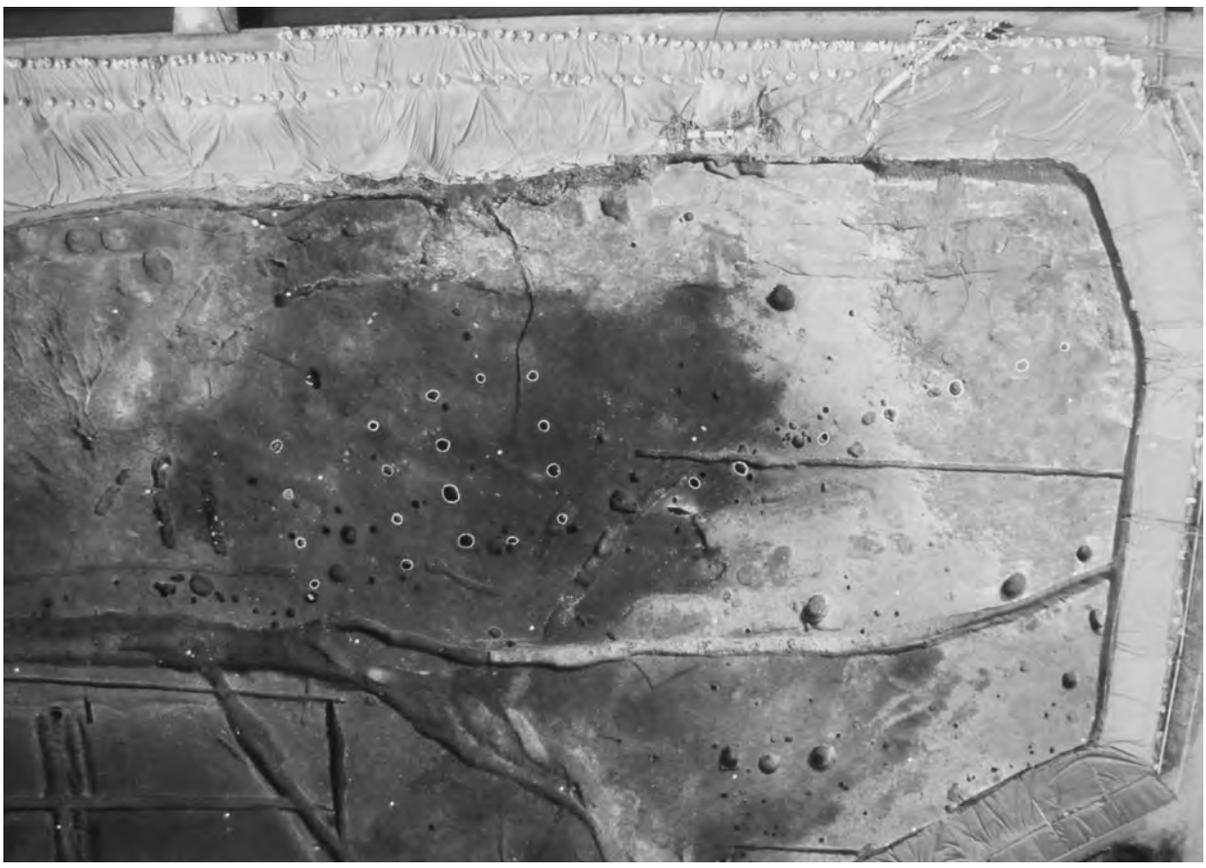
1224ＳＢ（北西から）

1232ＳＢ・1233ＳＢ（上が北）

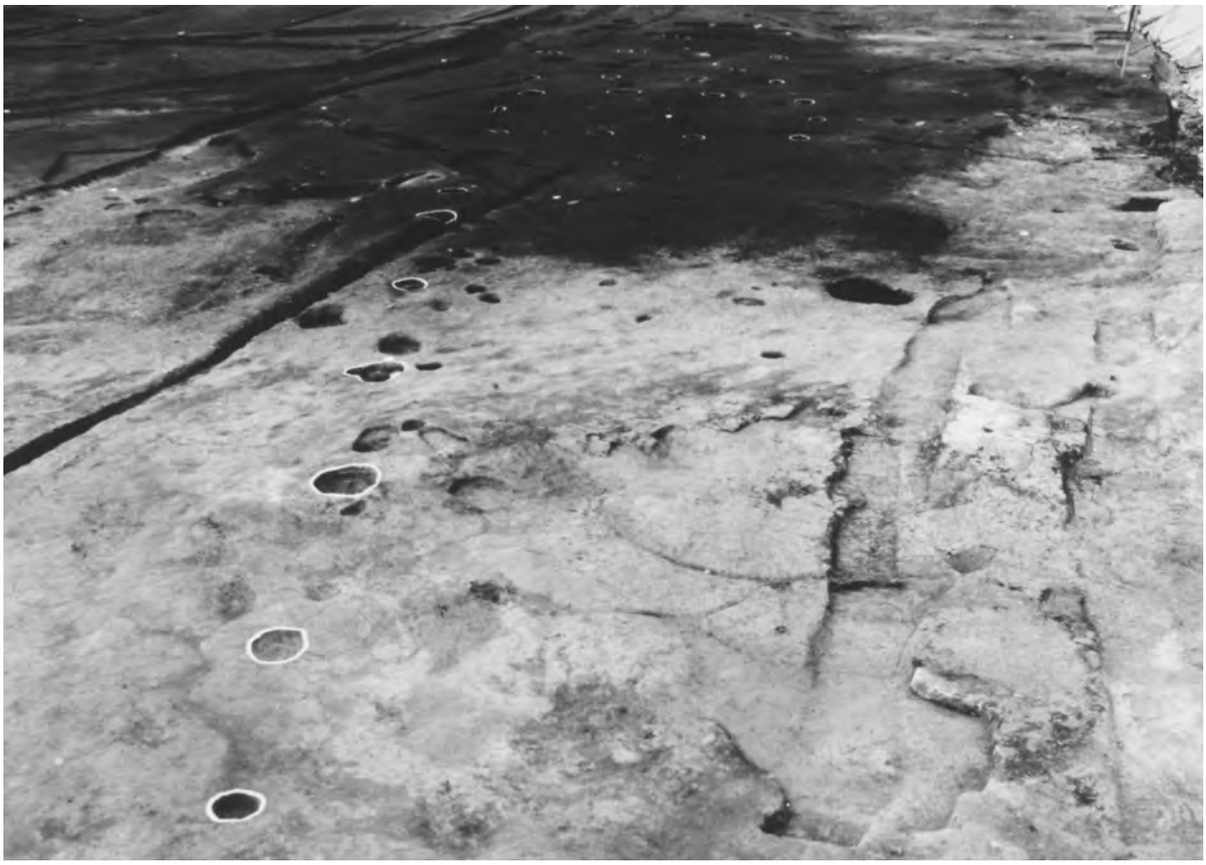
1232ＳＢ（北から）

1233ＳＢ（北西から）

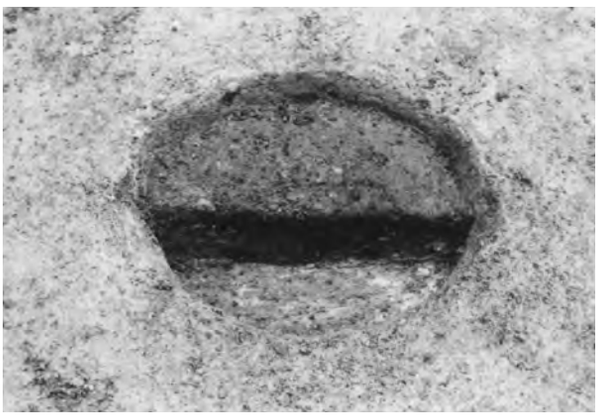
図版10　柵跡（１）



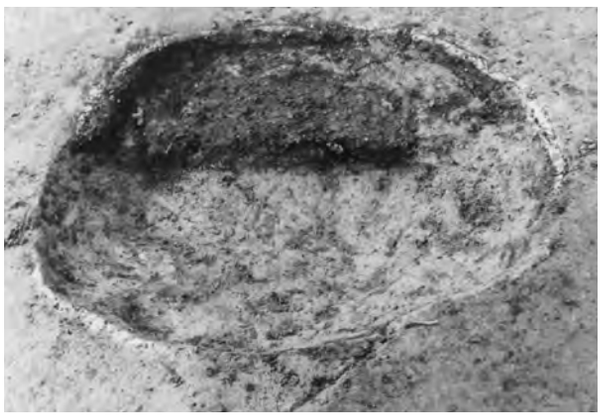
ＳＡ１とＳＨ１・ＳＨ２（上が北）



ＳＡ１（東から）



66Ｐ断面（西から）



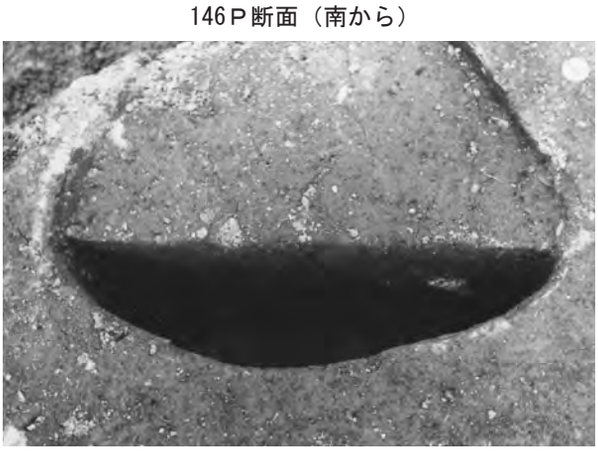
131Ｐ断面（南東から）

134Ｐ断面（南から）

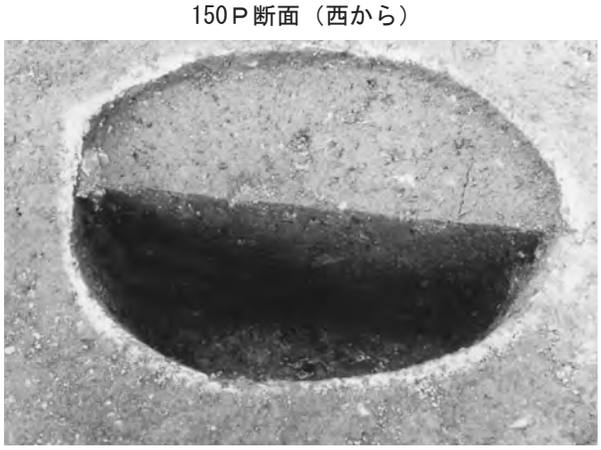
134Ｐ完掘状況（南から）

146Ｐ断面（南から）

150Ｐ断面（西から）

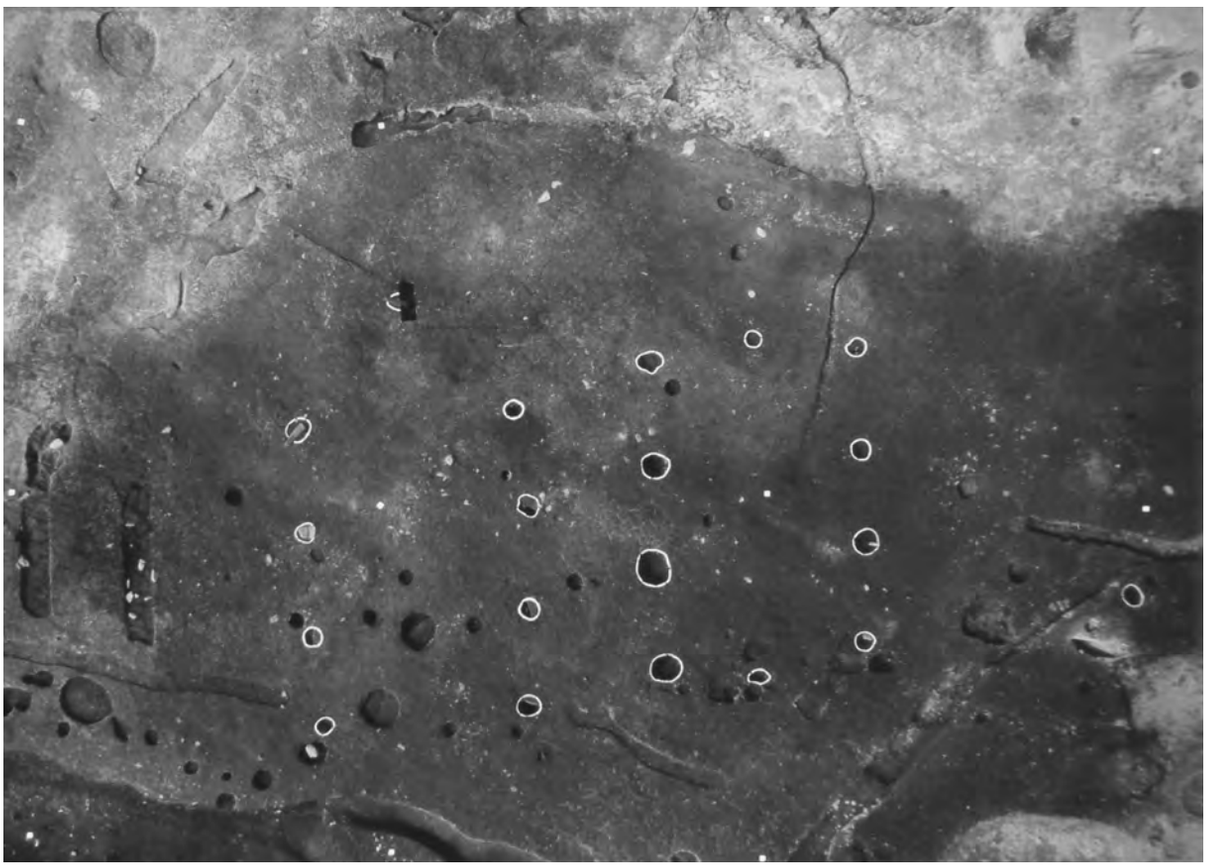


198Ｐ断面（南から）



201Ｐ断面（南西から）

図版12　掘立柱建物跡（１）



ＳＨ１・ＳＨ２（上が北）

ＳＨ１・ＳＨ２（北から）

ＳＨ１（南から）

ＳＨ１（南から）

図版14　掘立柱建物跡（３）

ＳＨ２（南東から）

掘立柱建物跡と古代水田跡（東から）

352Ｐ断面（東から）

352Ｐ完掘状況（東から）

346Ｐ断面（東から）

346Ｐ完掘状況（東から）

349Ｐ断面（東から）

349Ｐ完掘状況（東から）

350Ｐ断面（西から）

350Ｐ完掘状況（西から）

図版16　掘立柱建物跡（５）

222Ｐ断面（北から）

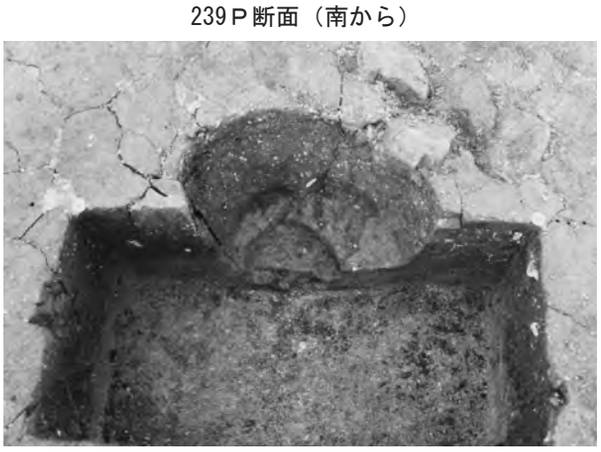
222Ｐ完掘状況（北から）

241Ｐ断面（南から）

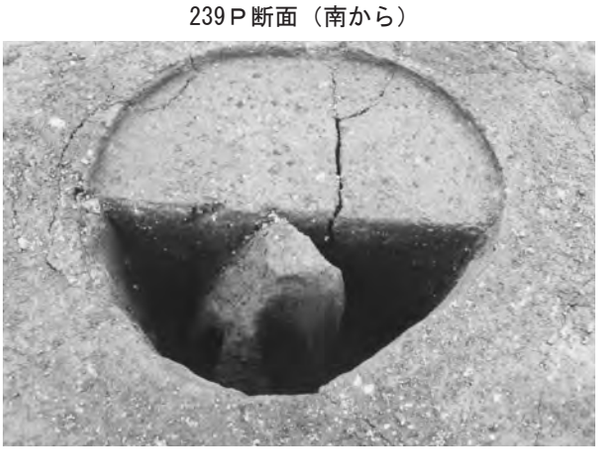
241Ｐ完掘状況（南から）

239Ｐ断面（南から）

239Ｐ断面（南から）



239Ｐ完掘状況（南から）



238Ｐ断面（南西から）

238Ｐ断面（南西から）

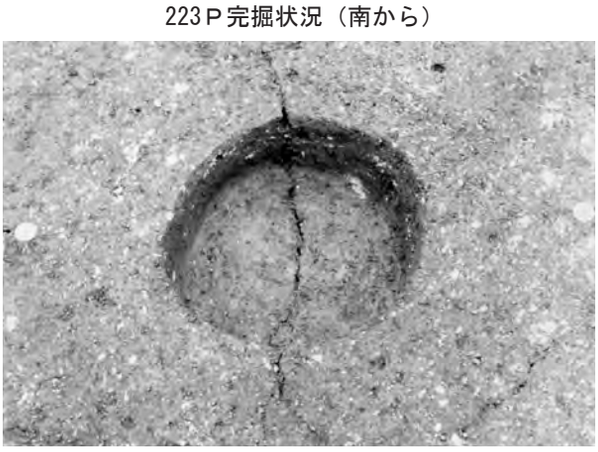
238Ｐ完掘状況（南西から）

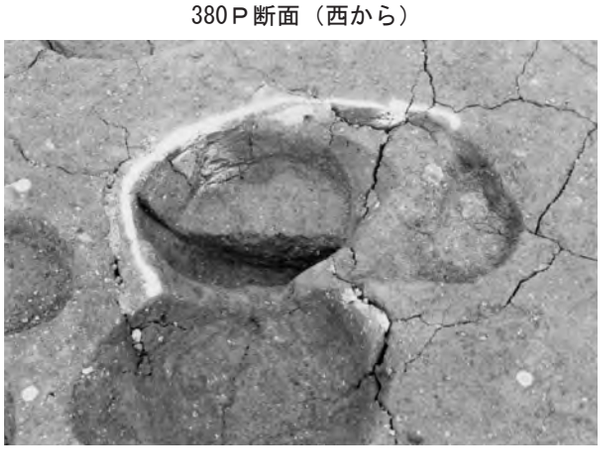
223Ｐ断面（南から）

223Ｐ断面（南から）

223Ｐ完掘状況（南から）

380Ｐ断面（西から）


380Ｐ完掘状況（西から）


211Ｐ断面（南から）

図版18　掘立柱建物跡（７）

211Ｐ完掘状況（南から）

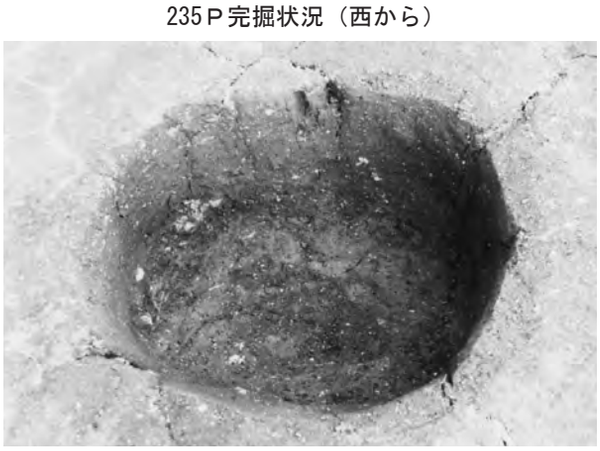
358Ｐ断面（北から）

358Ｐ完掘状況（北から）

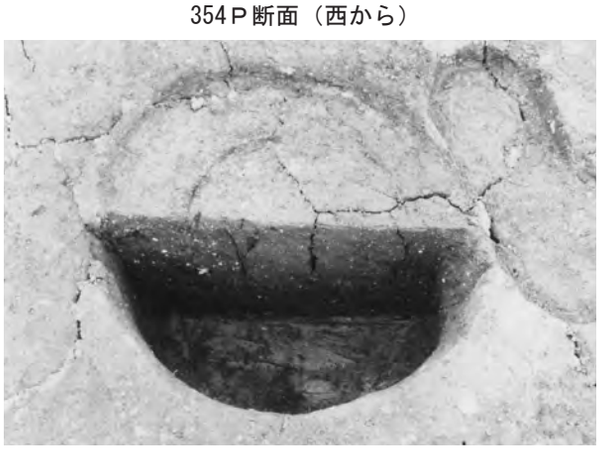
235Ｐ断面（西から）

235Ｐ完掘状況（西から）

354Ｐ断面（西から）



354Ｐ完掘状況（西から）



219Ｐ断面（西から）

378Ｐ断面（南から）

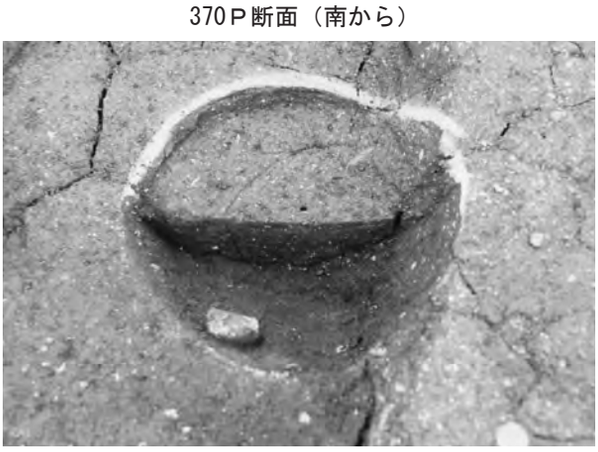
378Ｐ完掘状況（南から）

377Ｐ断面（南から）

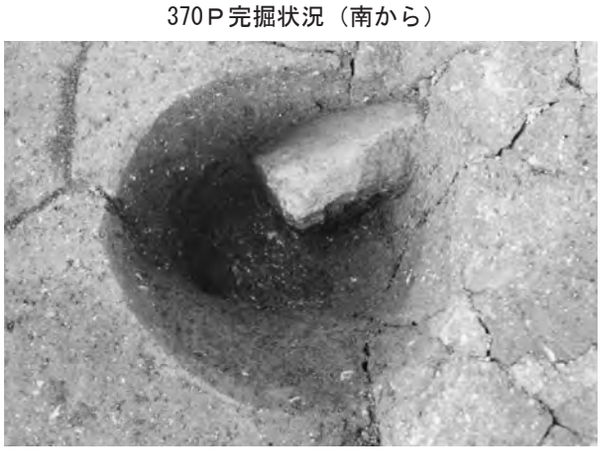
377Ｐ完掘状況（南から）

370Ｐ断面（南から）

370Ｐ完掘状況（南から）



376Ｐ断面（南から）



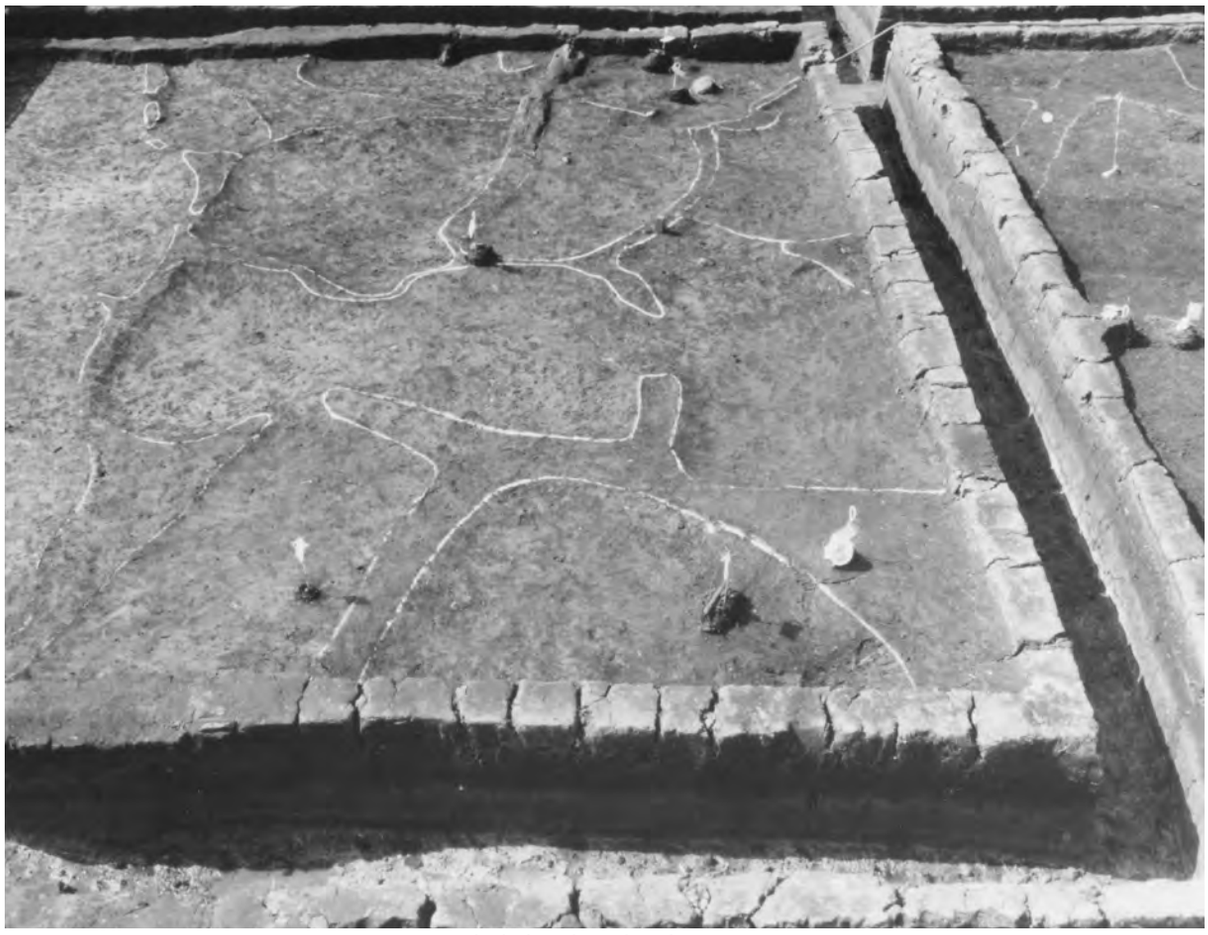
376Ｐ完掘状況（南から）

図版20　水田跡（１）

古墳時代水田跡（西から）

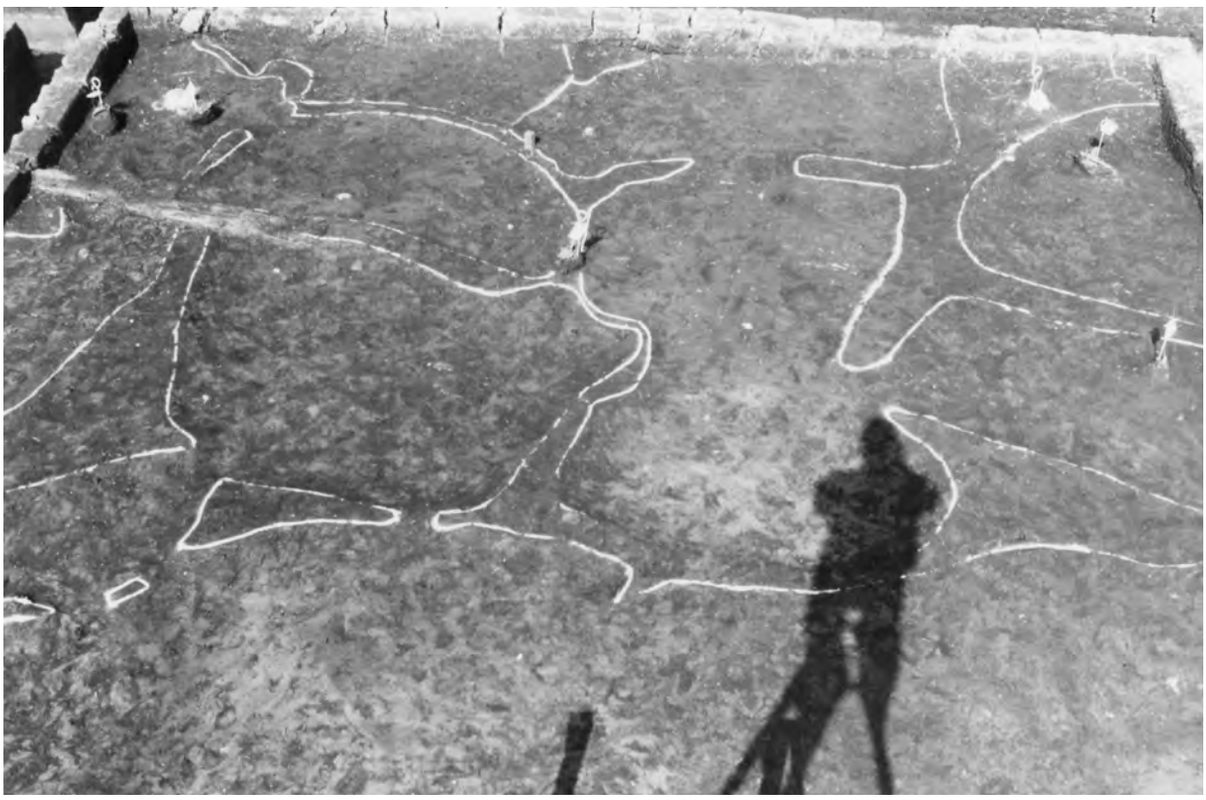
古墳時代水田跡（南から）

古墳時代水田跡（南西から）



古墳時代水田跡（東から）

図版22　水田跡（３）



古墳時代水田跡（南から）

古墳時代水田跡（南西から）

古代水田跡検出作業状況（南西から）

古代水田跡全景（南から）

図版24　水田跡（５）

古代水田跡（西から）

古代水田跡（北から）

古代水田跡と中央大溝（北から）

古代水田跡と中央大溝（西から）

図版26　水田跡（７）

古代水田跡（南西から）

古代水田跡（東から）

古代水田跡（北東から）

1075ＳＴ断面（南から）

1076ＳＴ断面（南から）

1077ＳＴ断面（南から）

1078ＳＴ断面（南から）

図版28　水田跡（９）

1079ＳＴ断面（南から）

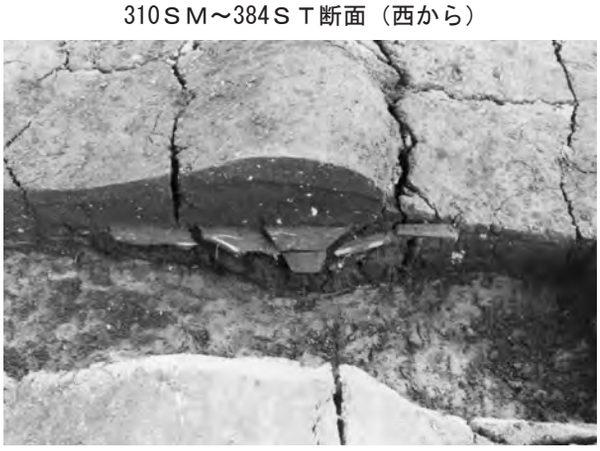
1080ＳＴ断面（南から）

1296ＳＴ～1298ＳＴ（西から）

1287ＳＴ（西から）

310ＳＭ～384ＳＴ断面（西から）

385ＳＴ～320ＳＭ断面（南東から）



386ＳＴ～327ＳＴ断面（西から）

389ＳＴ～385ＳＴ断面（南から）

390ＳＴ～388ＳＴ断面（東から）

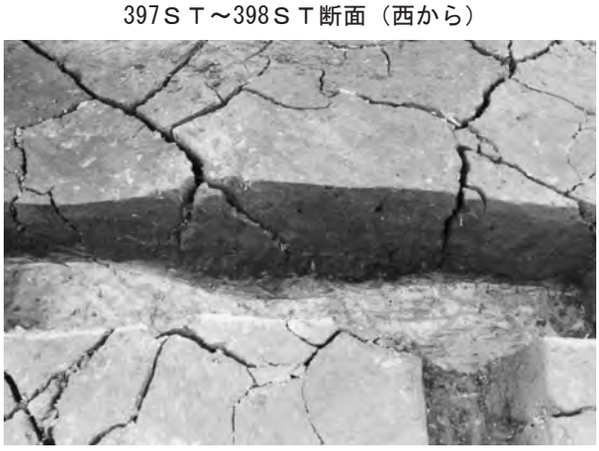
392ＳＴ～396ＳＴ断面（南から）

394ＳＴ～388ＳＴ断面（東から）

395ＳＴ～391ＳＴ断面（南から）

397ＳＴ～398ＳＴ断面（西から）

398ＳＴ～393ＳＴ断面（南から）



398ＳＴ～402ＳＴ断面（南東から）

400ＳＴ～396ＳＴ断面（南から）

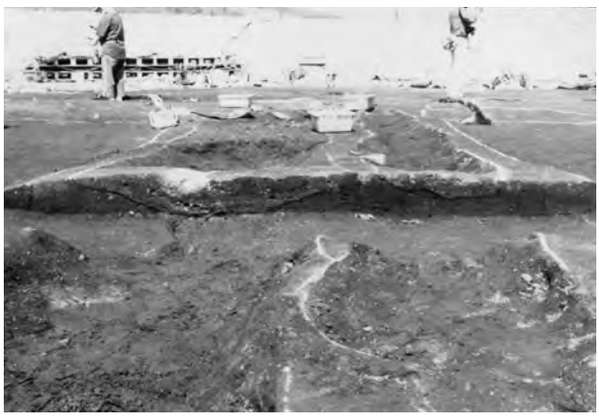
図版30　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（１）

古代水田跡及び畦畔・溝状遺構（西から）

311ＳＤ・364ＳＤ検出状況（南から）

311ＳＤ完掘状況、364ＳＤ検出状況（南から）

311ＳＤ・364ＳＤ断面（南から）



311ＳＤ・364ＳＤ断面（南から）

320ＳＭ・321ＳＤ（南から）

321ＳＤ（北から）

321ＳＤ断面（南から）

330ＳＤ（南から）

324ＳＤ内杭列（東から）

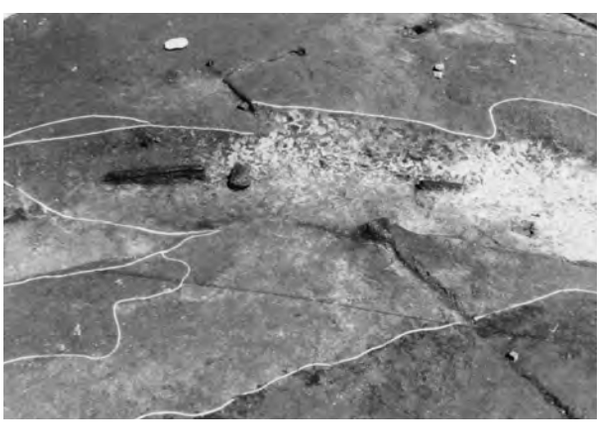
図版32　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（３）

323ＳＤ完掘状況、324ＳＤ･361ＳＤ検出状況（南から）

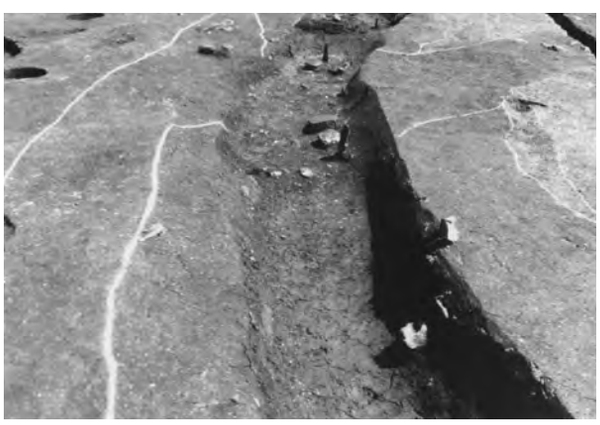
324ＳＤ護岸掘削前全景（西から）

324ＳＤ護岸（南から）

324ＳＤ護岸（南西から）

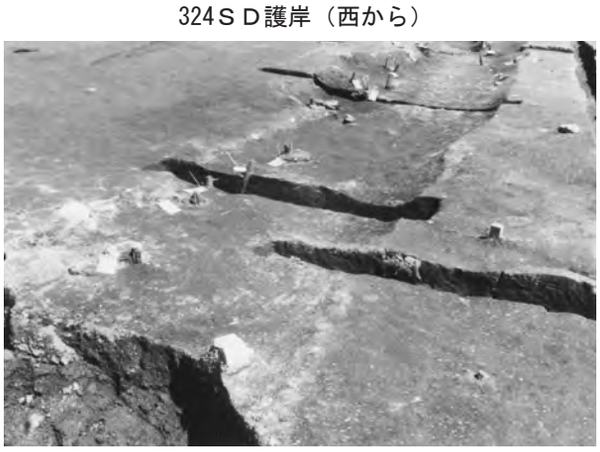


324ＳＤ護岸（南から）



324ＳＤ護岸（西から）

324ＳＤ内杭列（北から）



324ＳＤ内杭列（南西から）

324ＳＤ内杭列（西から）

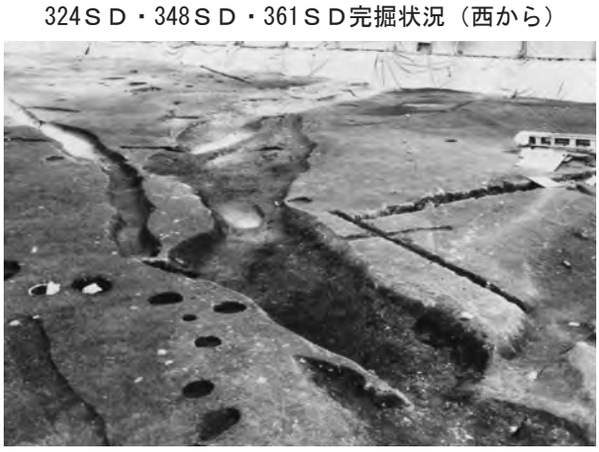
324ＳＤ護岸掘削後全景（西から）

324ＳＤ護岸掘削後状況（西から）

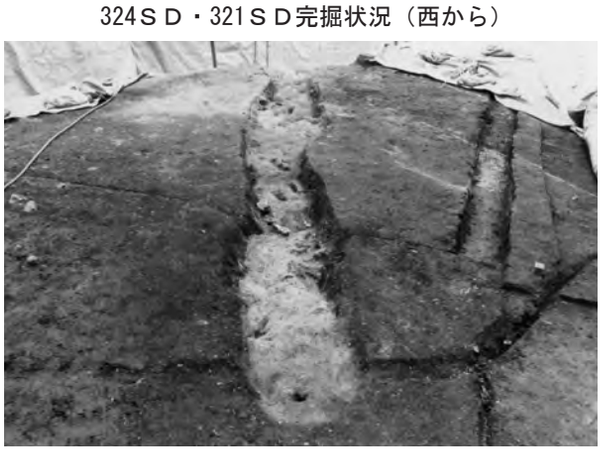
324ＳＤ護岸掘削後状況（東から）

324ＳＤ・348ＳＤ・361ＳＤ完掘状況（西から）

324ＳＤ・321ＳＤ完掘状況（西から）



324ＳＤ・348ＳＤ・361ＳＤ完掘状況（西から）



323ＳＤ（北から）

図版34　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（５）

310ＳＭ（西から）

310ＳＭ（南から）

310ＳＭ断面（西から）

367ＳＤ・368ＳＤ・372ＳＤ・373ＳＤ・310ＳＭ（西から）

367ＳＤ・368ＳＤ・372ＳＤ・373ＳＤ掘削作業状況（南西から）

367ＳＤ・368ＳＤ・372ＳＤ・373ＳＤ（南西から）

367ＳＤ・368ＳＤ・372ＳＤ・373ＳＤ（南西から）

図版36　古代水田に関わる畦畔・溝状遺構（７）

367ＳＤ・368ＳＤ・372ＳＤ・373ＳＤ断面（西から）

367ＳＤ内杭列（南西から）

367ＳＤ内杭列（北から）

1245ＳＤ・1305ＳＤ・1250ＳＭ検出状況（東から）

1245ＳＤ検出状況（西から）

1245ＳＤ完掘状況（東から）

1305ＳＤ完掘状況（東から）

1305ＳＤ完掘状況（西から）

1306ＳＤ完掘状況、1310ＳＤ検出状況（東から）

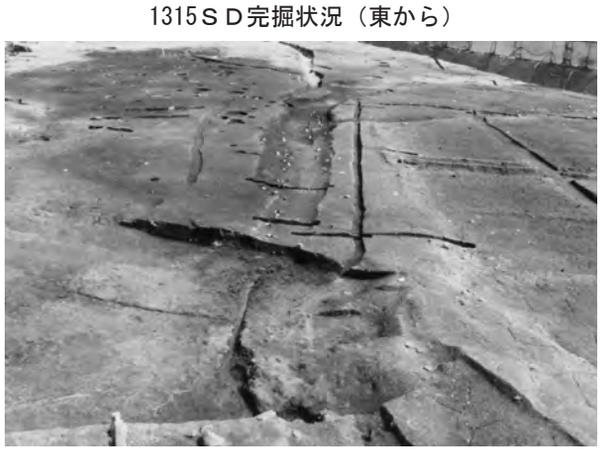
1311ＳＤ検出状況（東から）

1311ＳＤ検出状況（東から）

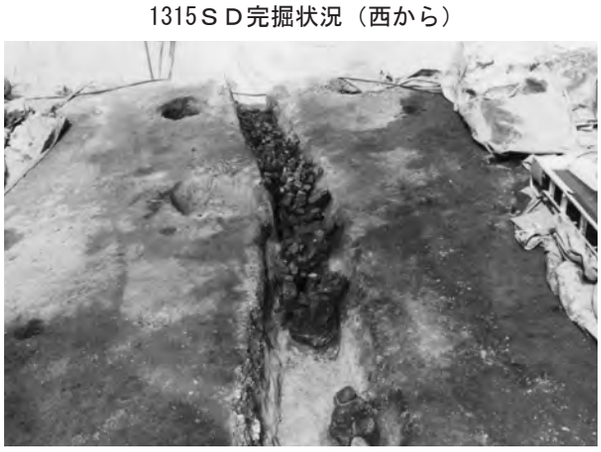
1311ＳＤ完掘状況、1315ＳＤ検出状況（東から）

1315ＳＤ完掘状況（東から）

1315ＳＤ完掘状況（西から）



70ＳＤ全景（西から）



70ＳＤ内礫出土状況（西から）

図版38　溝状遺構（２）

1061ＳＤほか第２遺構面（南西から）

1061ＳＤ全景（西から）

1293ＳＤ検出状況（東から）

1293ＳＤ埋土最下層検出状況（東から）

1293ＳＤ完掘状況（東から）

1293ＳＤ完掘状況（西から）

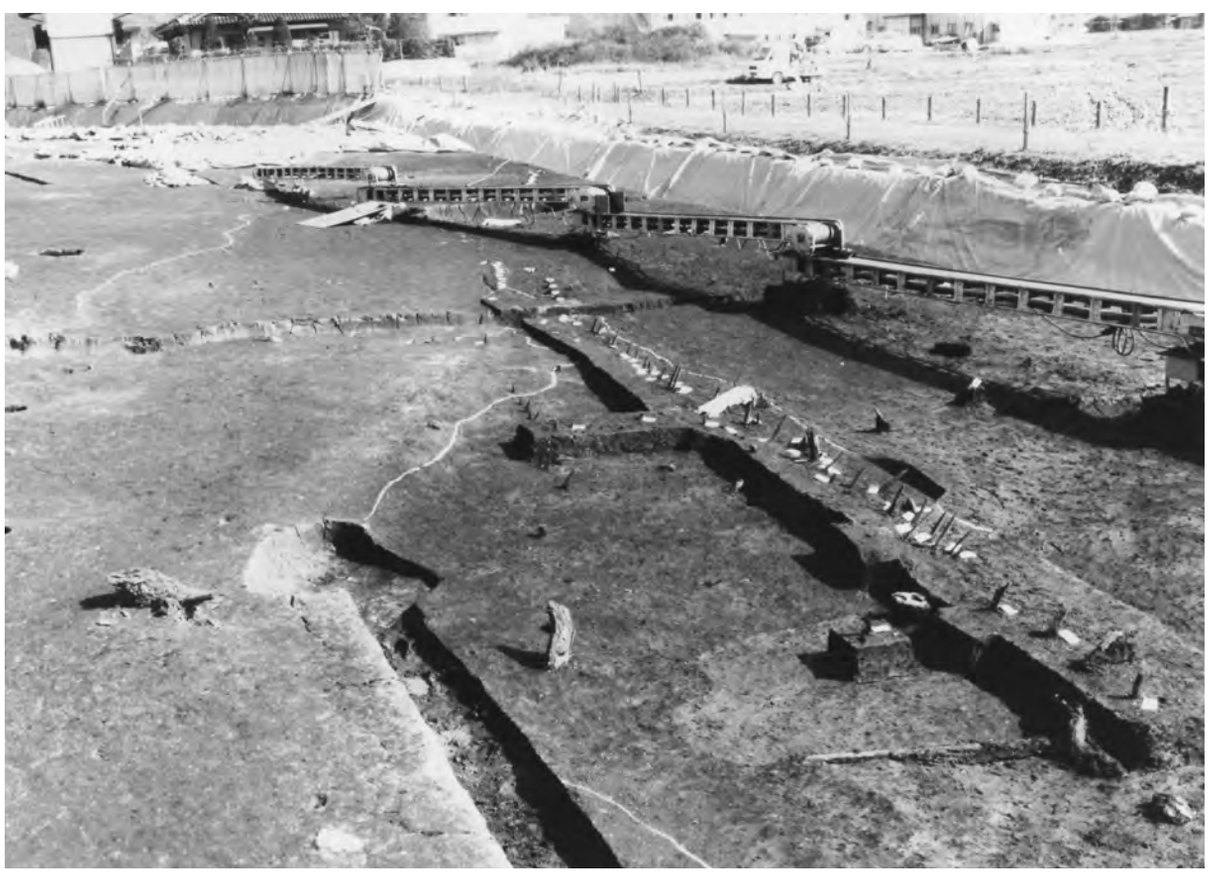
1293ＳＤ完掘状況（東から）

図版40　自然流路に付属する溝状遺構（１）

1067ＮＲ・1071ＳＤ（南西から）

1067ＮＲ・1061ＳＤ（東から）

1067ＮＲ・1071ＳＤ（東から）



1067ＮＲ・1061ＳＤ（西から）

図版42　自然流路に付属する溝状遺構（３）

1067ＮＲ・1071ＳＤ全景（西から）

1071ＳＤ内杭列（北から）

1067ＮＲ完掘状況（北西から）

1067ＮＲ完掘状況（南西から）

図版44　自然流路に付属する溝状遺構（５）

1071ＳＤ内杭列（西から）

1067ＮＲ木器類出土状況（南から）

1071ＳＤ内杭列（東から）

1071ＳＤ内杭列（西から）

1071ＳＤ内杭列（西から）

1071ＳＤ内杭列（東から）

1071ＳＤ内杭列（西から）

1071ＳＤ内杭列（南から）

1071ＳＤ内杭列（南から）

1071ＳＤ内杭列（南から）

1071ＳＤ内杭列（南から）

1071ＳＤ内杭列（西から）

365ＳＷ（西から）

365ＳＷ（北から）

365ＳＷ（北から）

365ＳＷ（西から）

図版46　水制遺構（２）、遺物集積、土坑（１）

365ＳＷ（北東から）

365ＳＷ（東から）

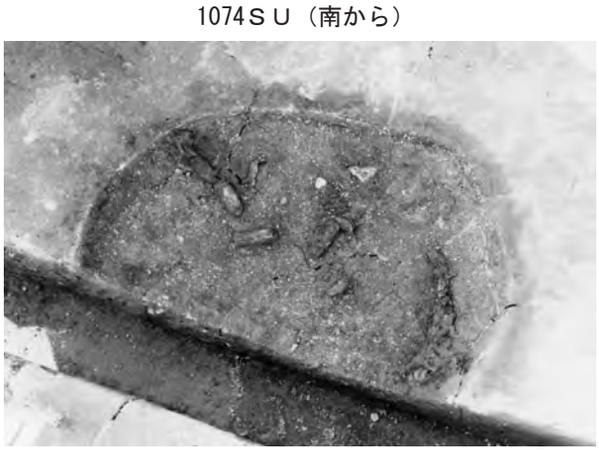
365ＳＷ（北から）

1074ＳＵ（南から）

1074ＳＵ（南から）

1074ＳＵ（南から）

1074ＳＵ（南から）

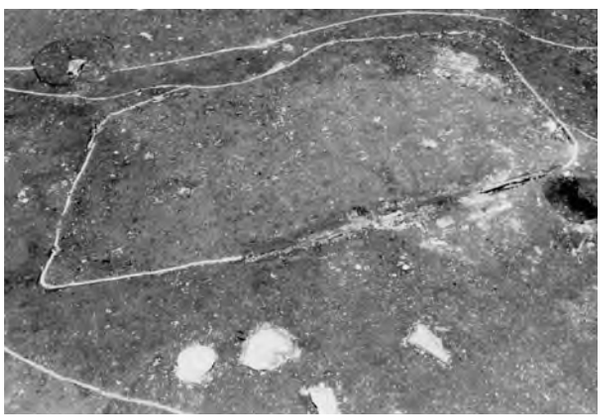


56ＳＫ炭化物出土状況（南東から）

56ＳＫ完掘状況（南東から）

315ＳＫ（南西から）

315ＳＫ（南東から）



339ＳＫ検出状況（南から）

339ＳＫ遺物出土状況（南から）

339ＳＫ遺物出土状況（南西から）

339ＳＫ完掘状況（南から）

1243ＳＫ（南から）

図版48　土坑（３）、作業風景、遺物出土状況（１）

1258ＳＫ（東から）

1303ＳＫ炭化物出土状況（西から）

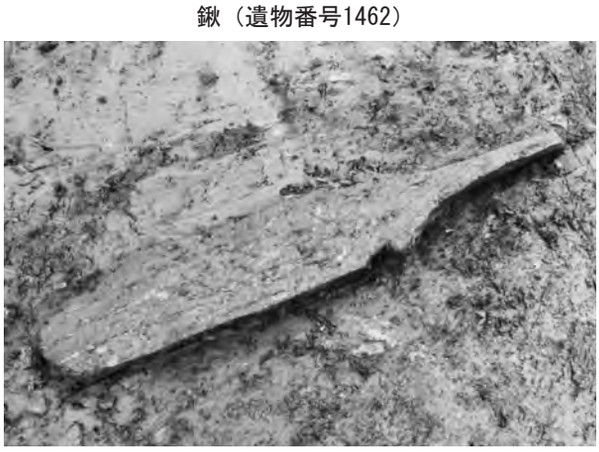
1303ＳＫ完掘状況（南から）

作業風景

鍬（遺物番号873）

鍬（遺物番号1462）

鍬（遺物番号1463）



鍬（遺物番号1466）

鍬（遺物番号1467）

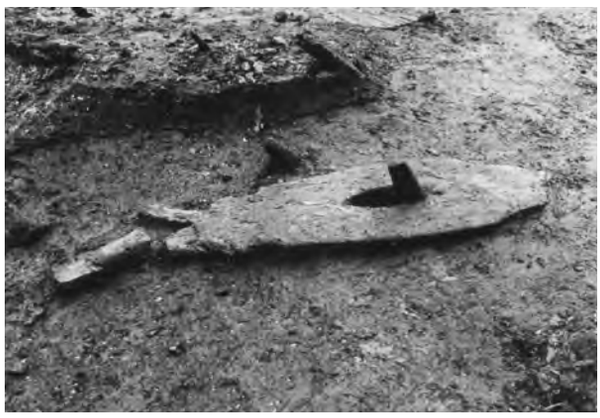
鍬（遺物番号1465・1469）

鍬（遺物番号1468）

鍬（遺物番号1470）

鍬（遺物番号1472）

鍬（遺物番号1473）


鍬（遺物番号1479）

鍬（遺物番号1480）

図版50　遺物出土状況（３）

鍬（遺物番号1483）

鍬（遺物番号1484）

泥除け（遺物番号1485）

えぶり（遺物番号1486）

楕円形曲物容器（遺物番号1499）

円形曲物容器（遺物番号147）

馬形（遺物番号688）

馬形（遺物番号1544）

下駄（遺物番号75）

下駄（遺物番号141）

下駄（遺物番号1555）

下駄（遺物番号1556）

紡錘車（遺物番号1565）

杓子（遺物番号293）

311ＳＤ内火付け木（遺物番号327ほか）

建築部材（遺物番号895・896）

図版52　遺物出土状況（５）

建築部材（遺物番号1785）

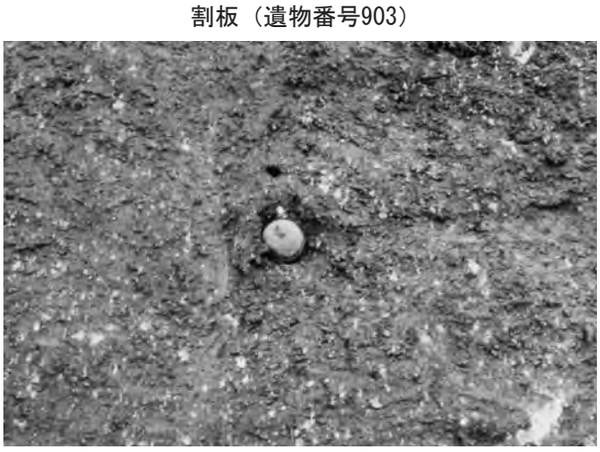
器具部材（遺物番号698）

器具部材（遺物番号881）

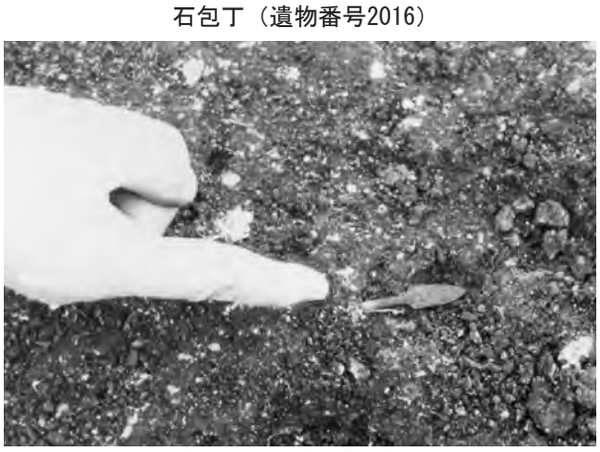
器具部材（遺物番号1847）

割板（遺物番号903）

石包丁（遺物番号2016）



銅鈴（遺物番号774）



銅鏃（遺物番号2034）

調査後状況（北東から、平成20年６月撮影）

調査後状況（北北東から、平成20年10月撮影）

図版54　縄文土器・弥生土器（１）

961

959

978

990

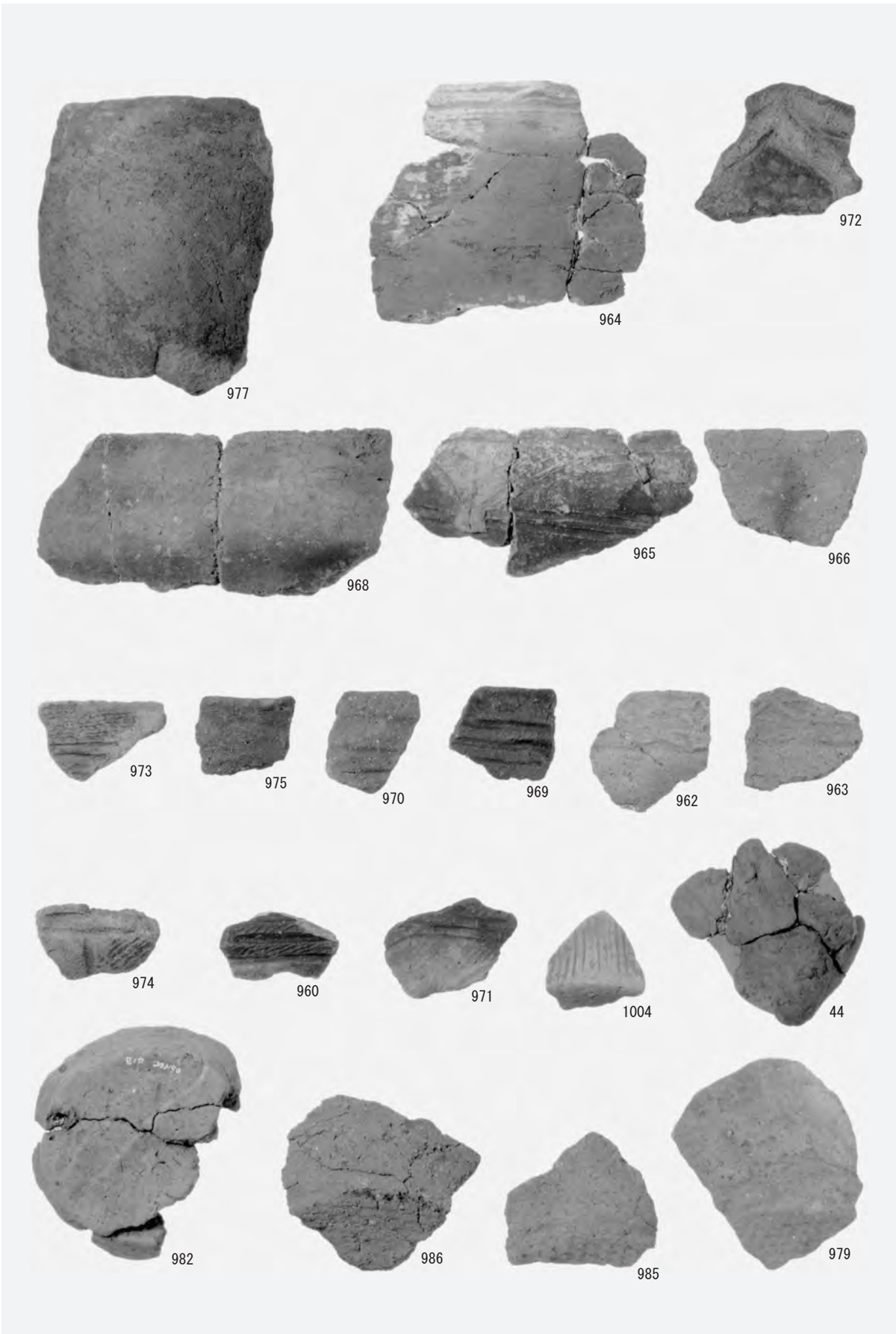
992

996

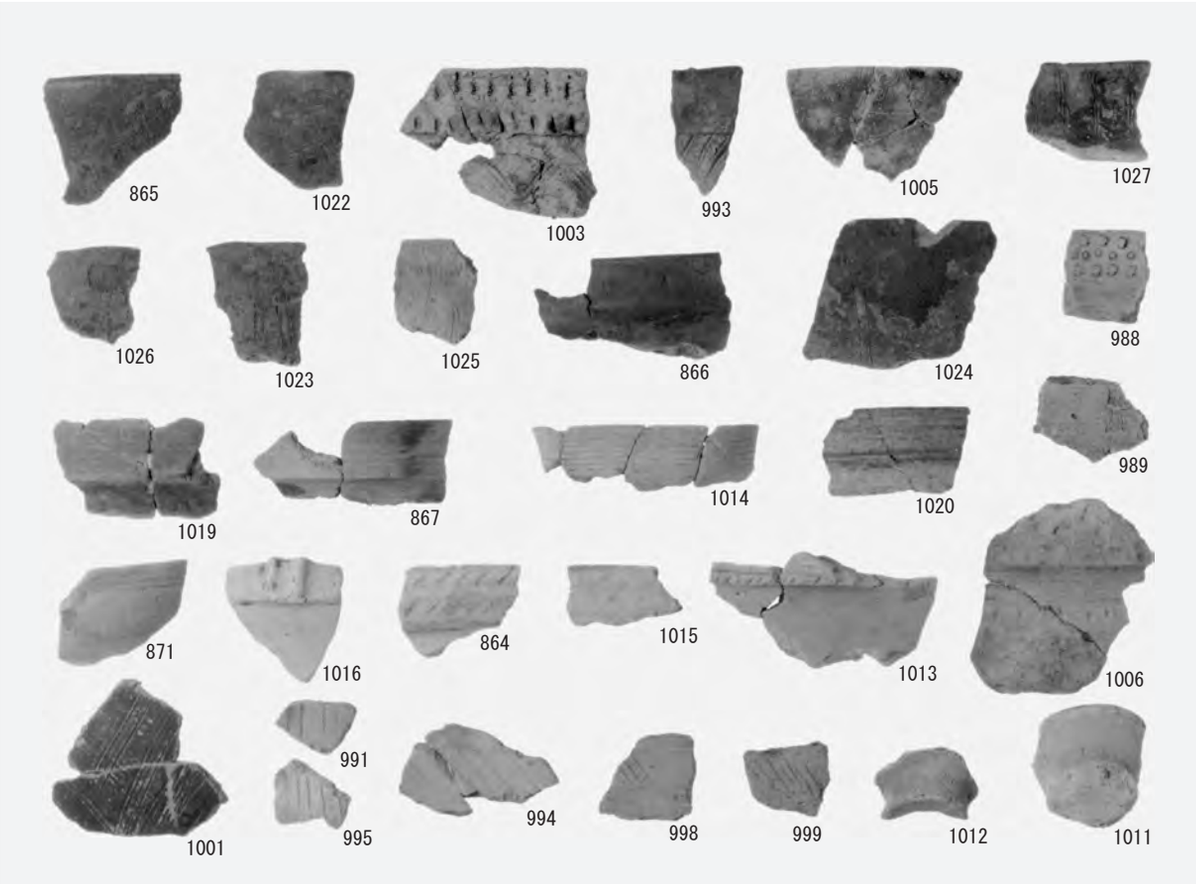
997

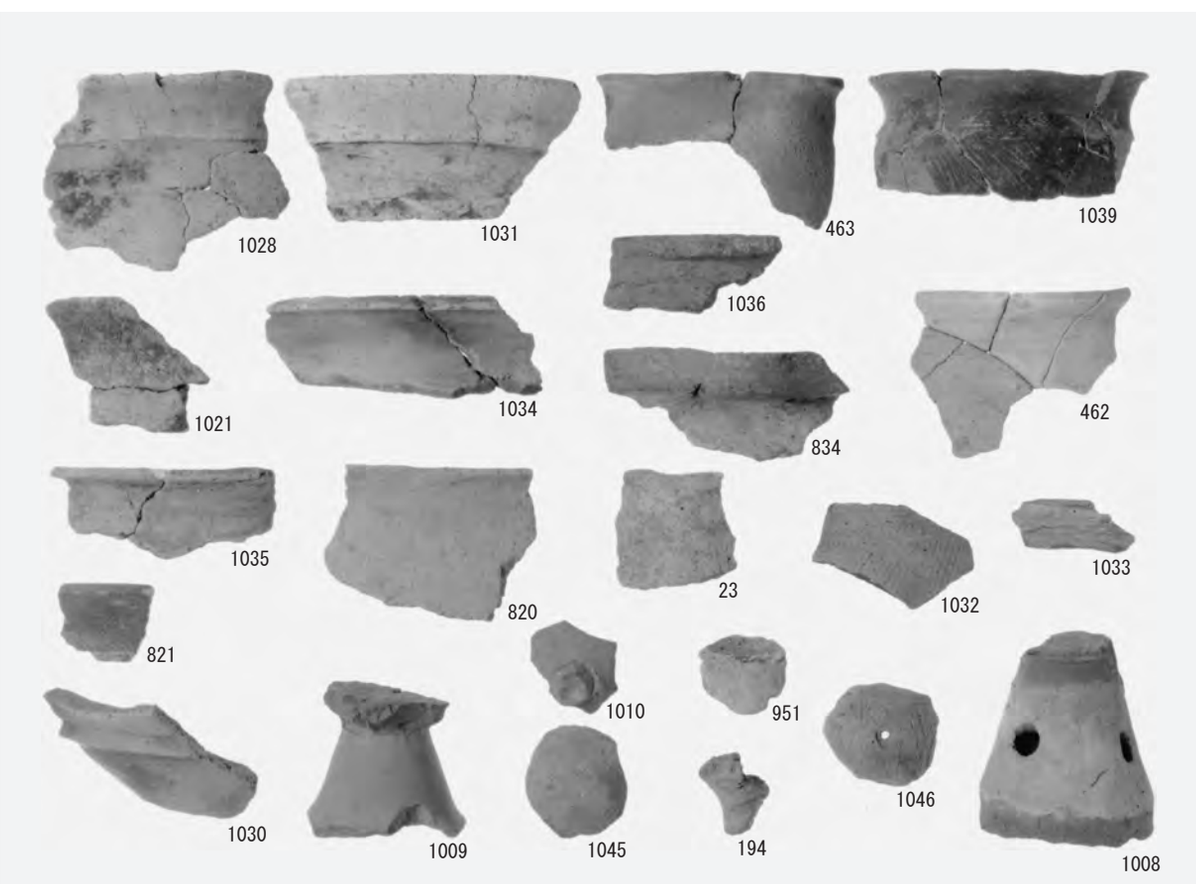
987

1002


977
964
972
968
965
966
973
975
970
969
962
963
974
960
971
1004
44
982
986
985
979

図版56　弥生土器・弥生土器ないし土師器、土師器（１）





2

4

図版58　土師器（３）

1

3

6

7

5

1037

1038

1045

図版60　須恵器（１）

554

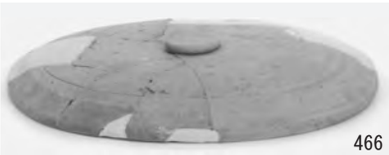
1047

1049

555

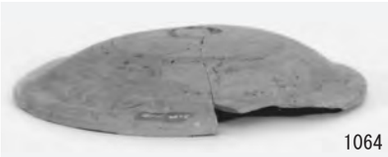
242

243


466

556

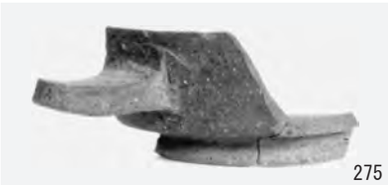
954


1064

472

823

1074


275

276

410

475

630

827

1084

1091

1100

1106

277

407

483

484

569

845

855

857

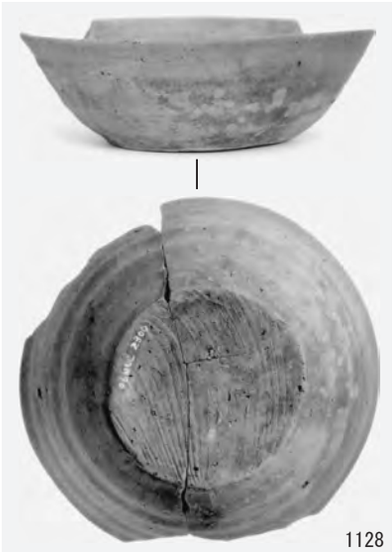
1121

1122

1124

1125

1126


1128

1129

1133

1135

1137

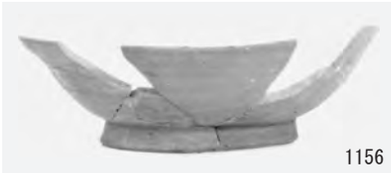
102

239

490

574

1152


1156

1157

1158

1160

580

279

493

495

496

579

642

図版62　須恵器（３）

644

1169

1178

647

1174

1179

848

1175

1180

913

1176

1181

650

268

1208

1214

281

503

図版64　須恵器（５）

272

504

417

505

859

1238

957

206

51

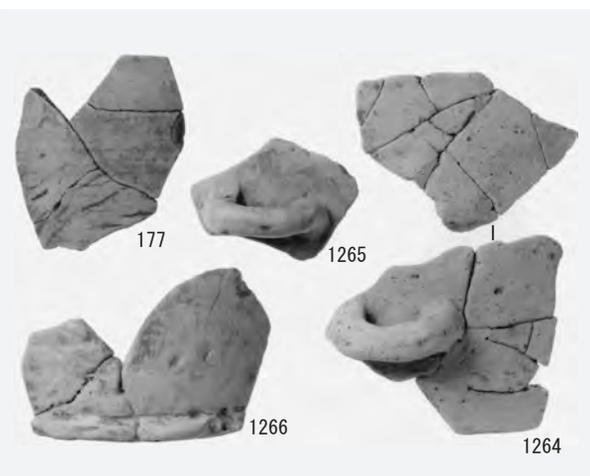
1250

270

271

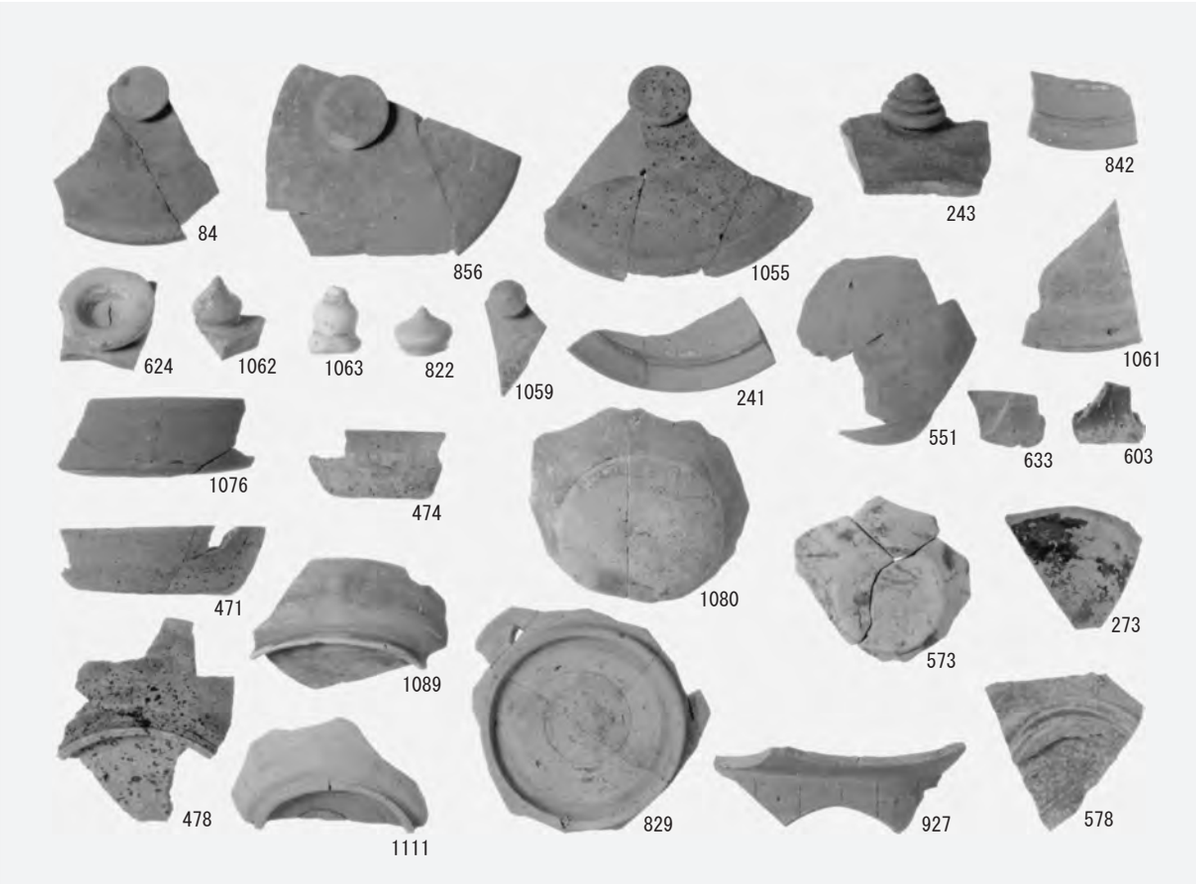
420

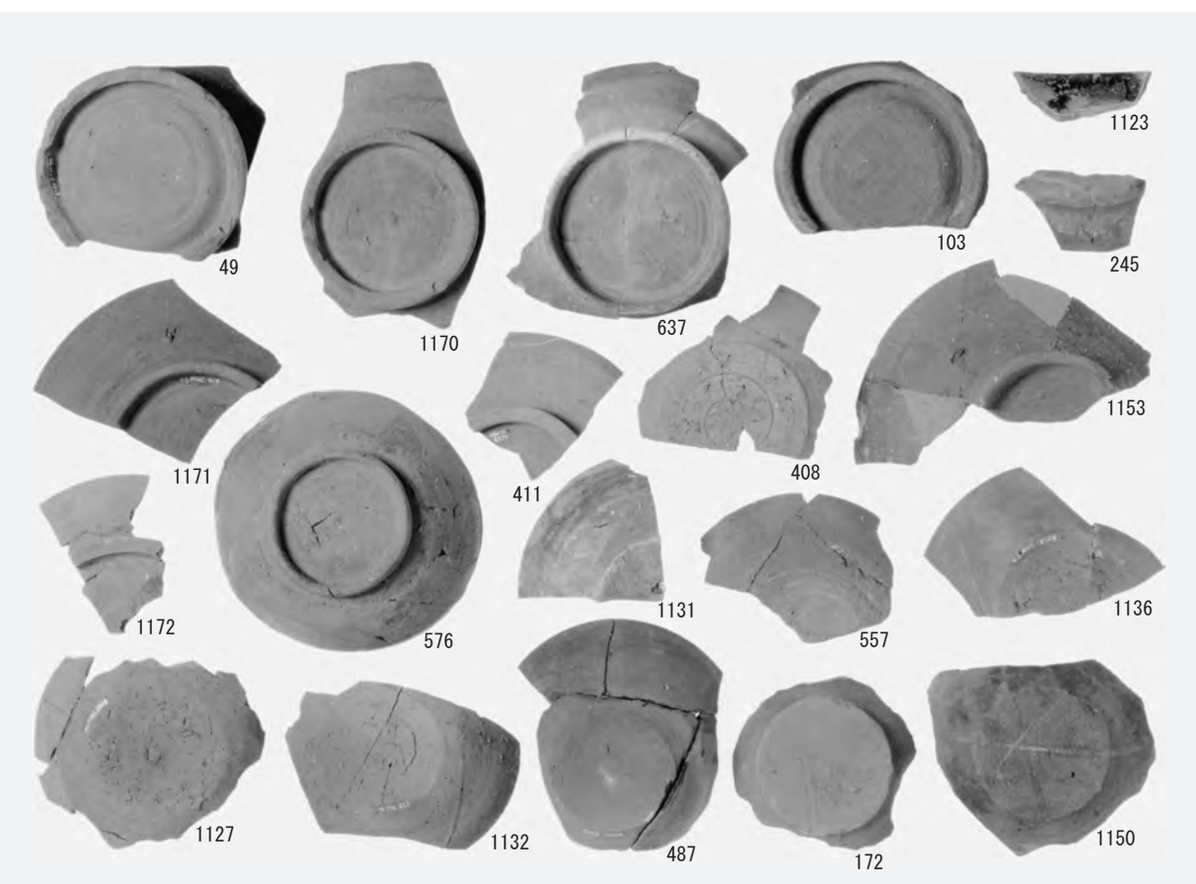
419

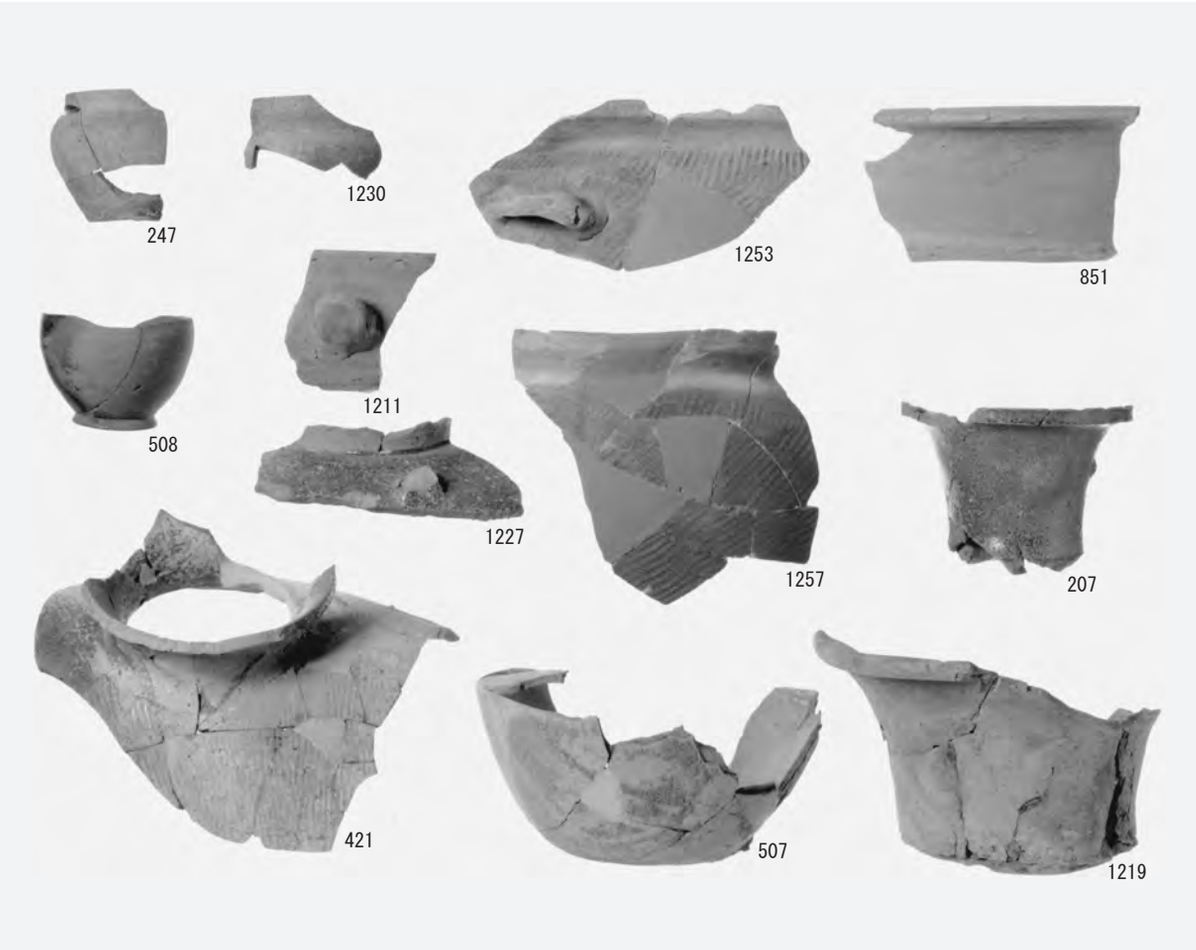


559

図版66　須恵器（７）


84
856
1055
243
842
624
1062
1063
822
1059
241
551
1061
1076
474
633
603
471
1080
573
273
1089
478
829
927
578
1111


49
1170
637
103
1123
245
1171
411
408
1153
1172
576
1131
557
1136
1127
1132
487
172
1150


247
1230
1253
851
508
1211
1227
1257
207
421
507
1219

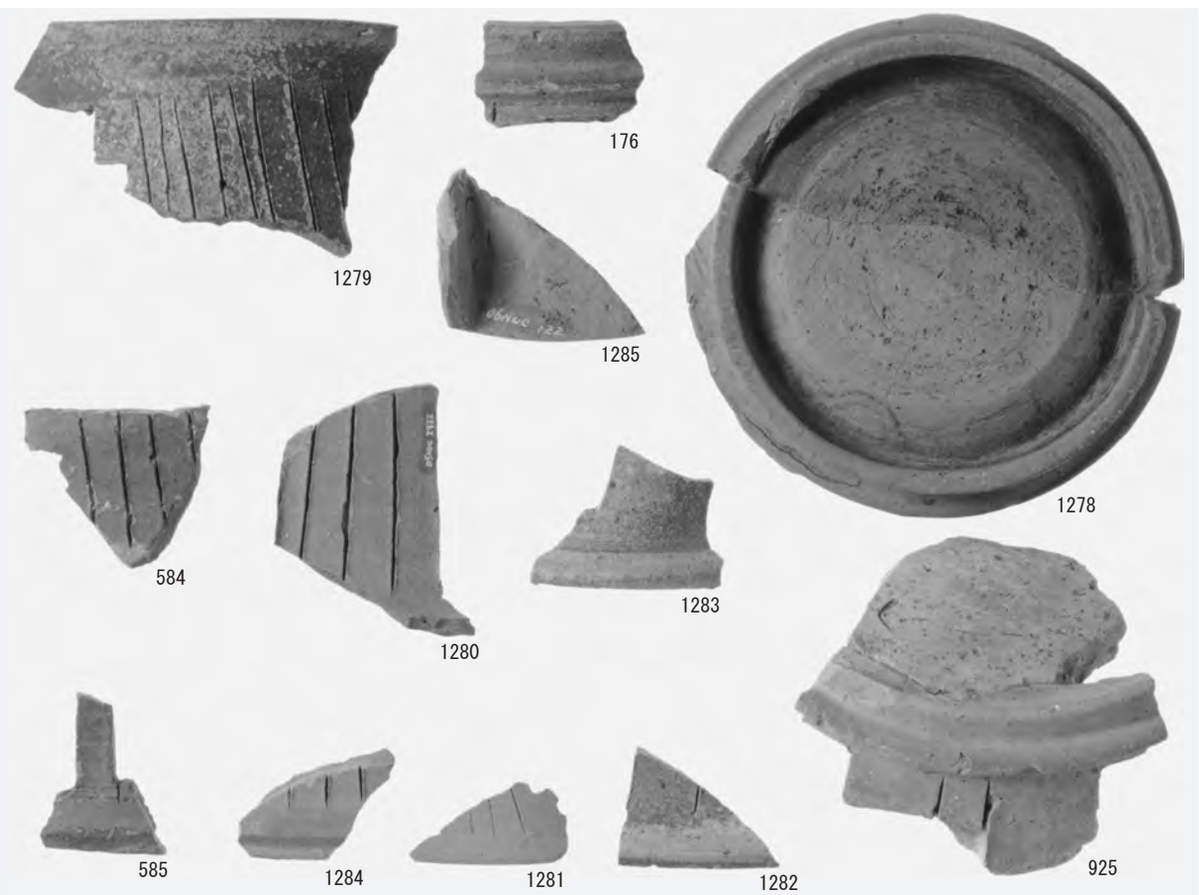
1277
586
1273
561
1274
1275
1276

図版68　須恵器（９）

652

653

1278


1279
176
1285
1278
584
1280
1283
585
1284
1281
1282
925

58

115

211

212

248

553

587

615

654

655

657

660

662

663

664

669

840

860

930

1286

1287

1288

1289

1290

1291

1292

1293

1297

1298

1299

図版70　灰釉陶器（２）

1300

1301

1302

1303

1304

1306

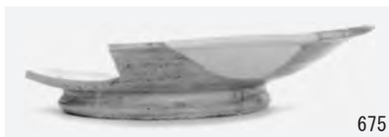
1310

1316

594

672

674


675

678

1342

1343

1346

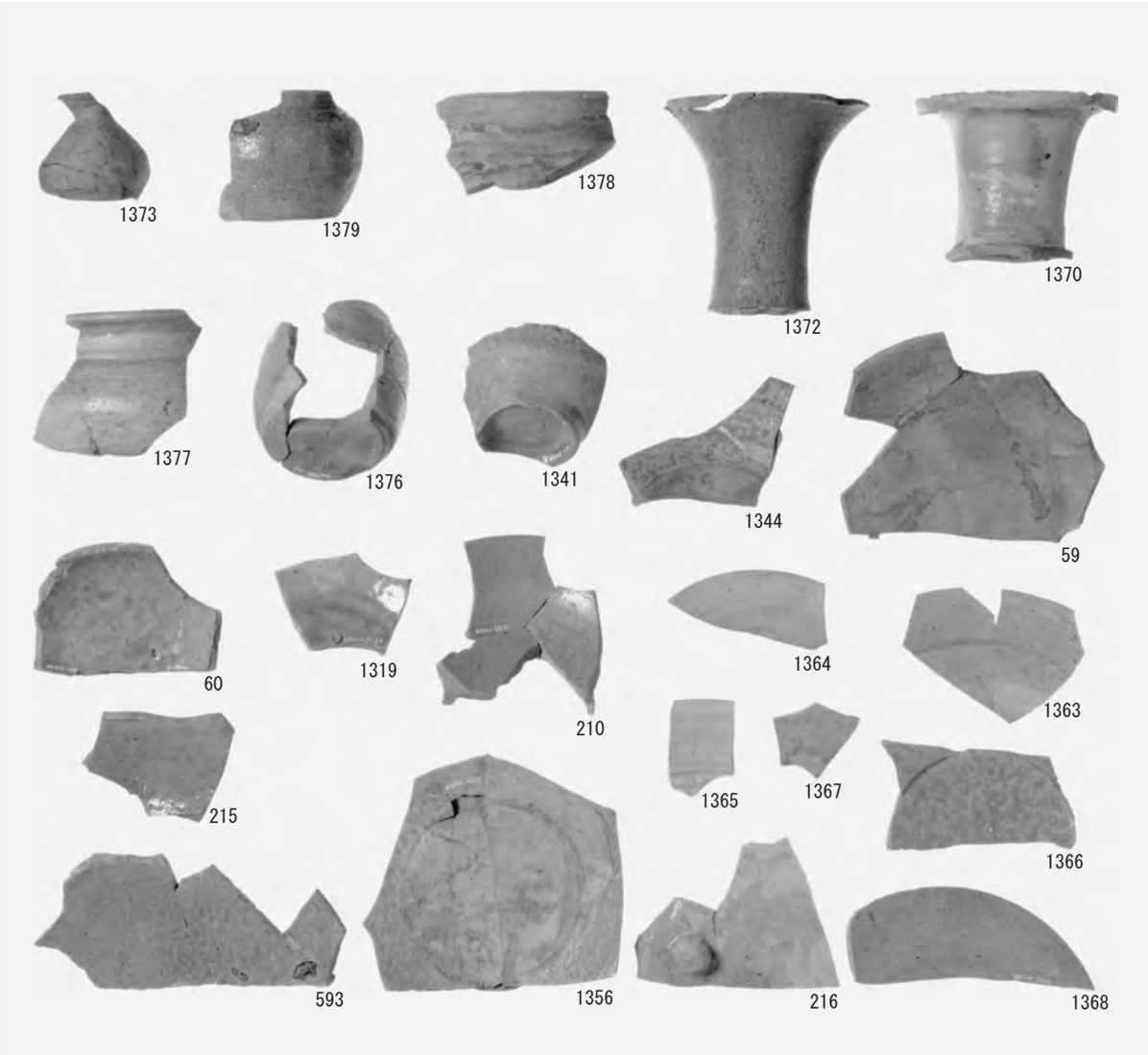
1348

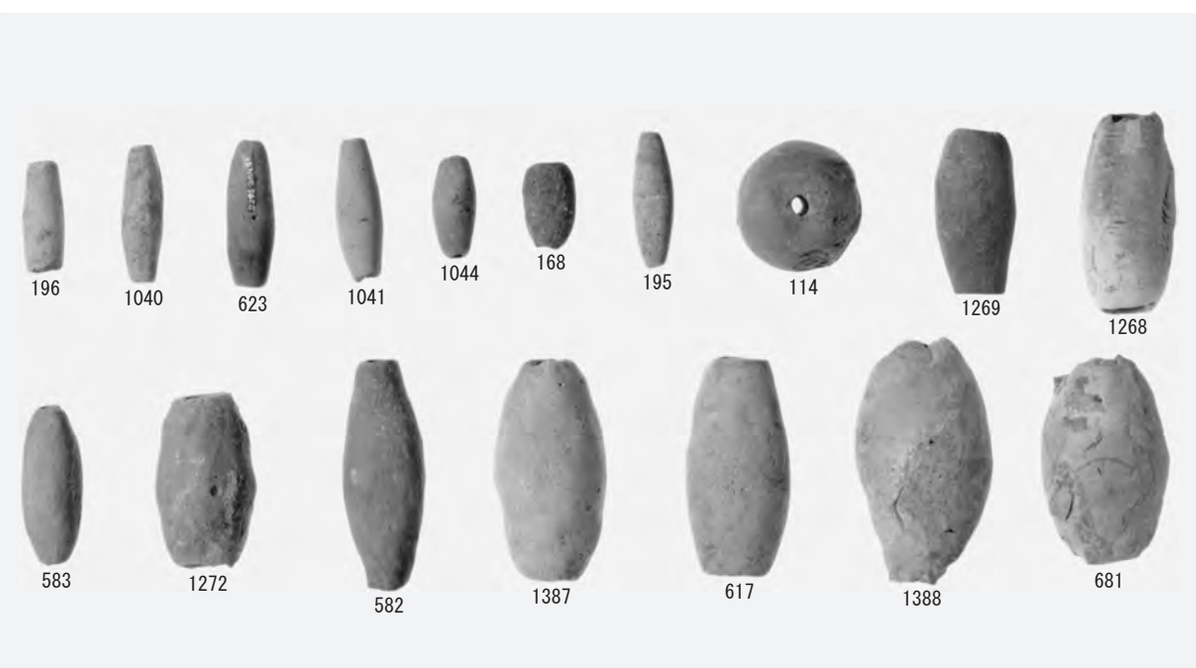
1351

1375

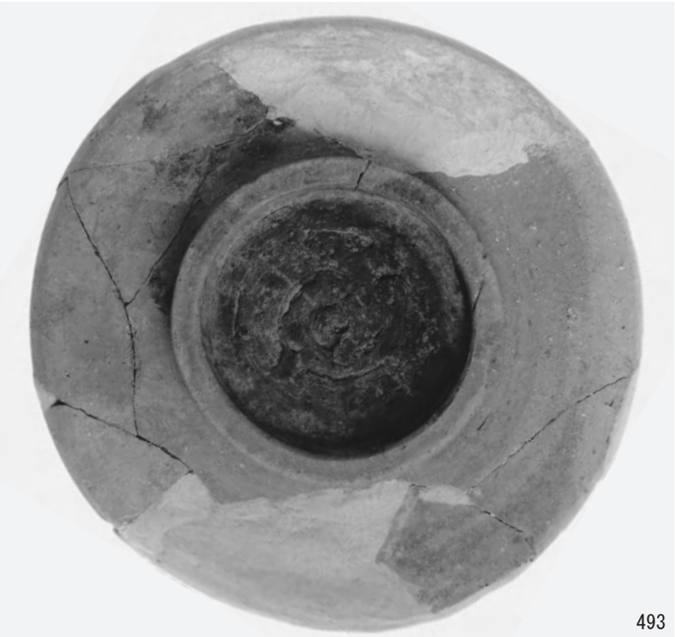
616

679

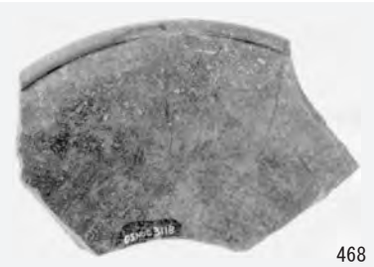

1373
1379
1378
1372
1370
1377
1376
1341
1344
59
60
1319
210
1364
1363
215
1365
1367
1366
593
1356
216
1368


196
1040
623
1041
1044
168
195
114
1269
1268
583
1272
582
1387
617
1388
681

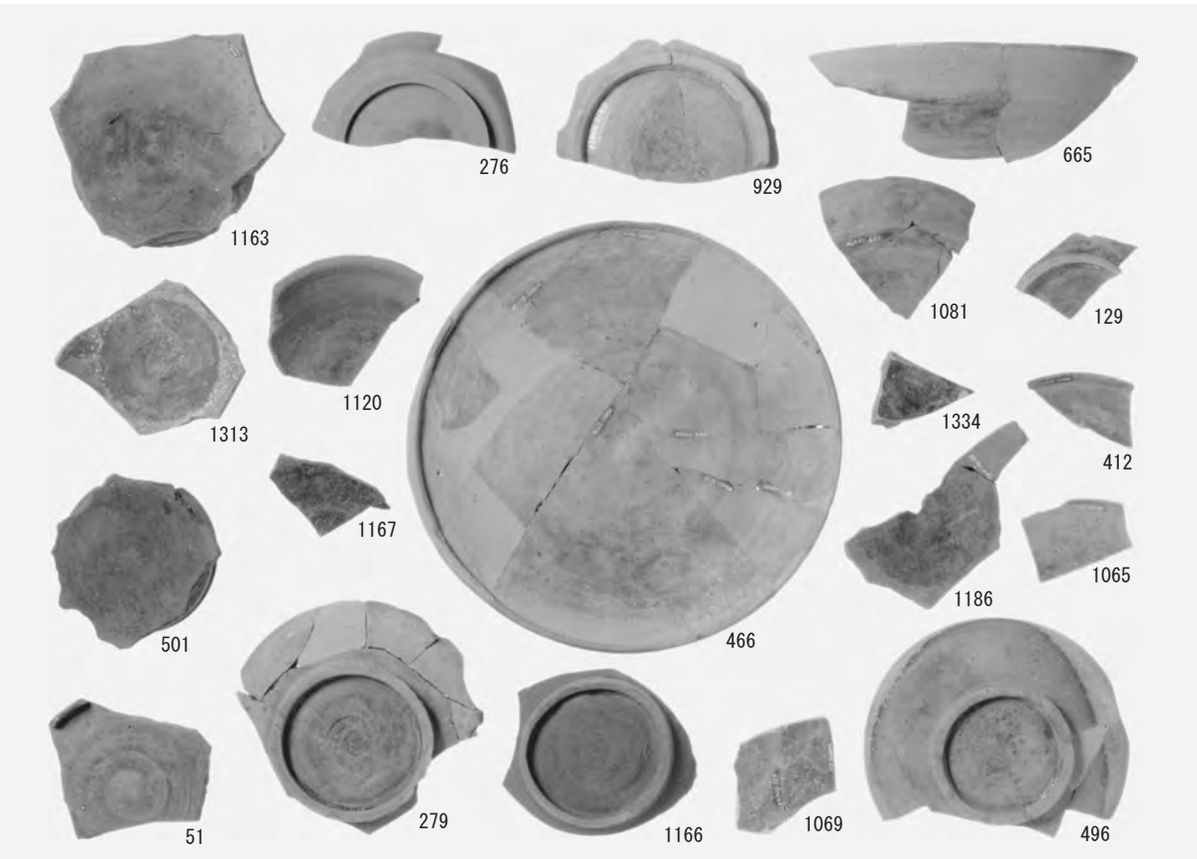
図版72　転用硯

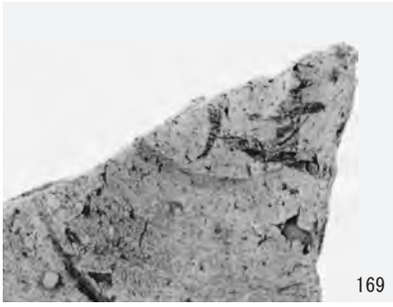

493

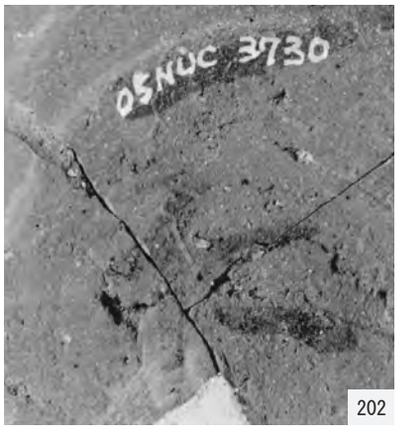
1342


468

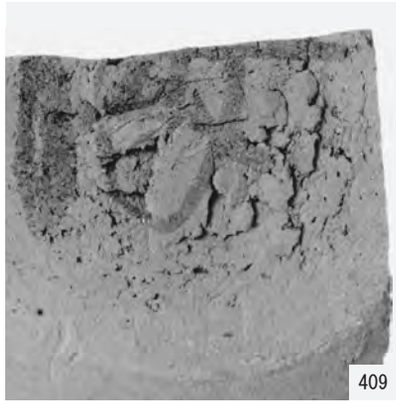
1193


1163
276
929
665
1081
129
1313
1120
1334
412
1167
1186
1065
501
466
51
279
1166
1069
496

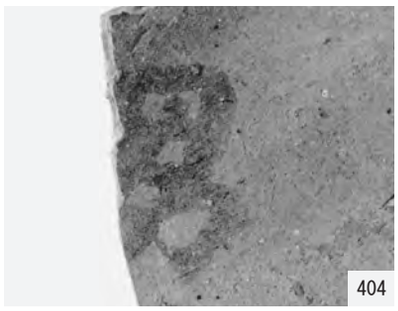

169



202


409

171


404

484

173

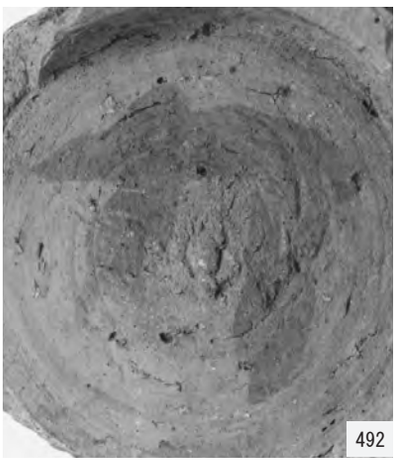
407

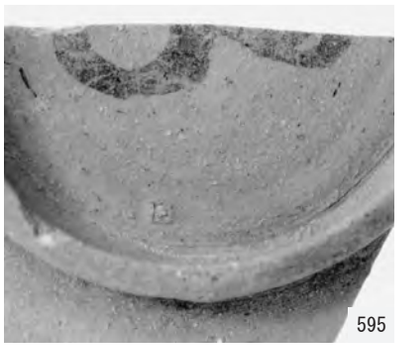
489

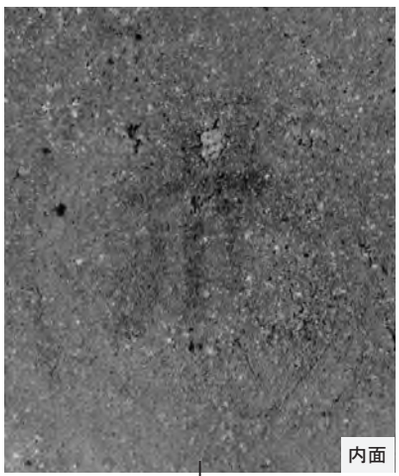
198

464

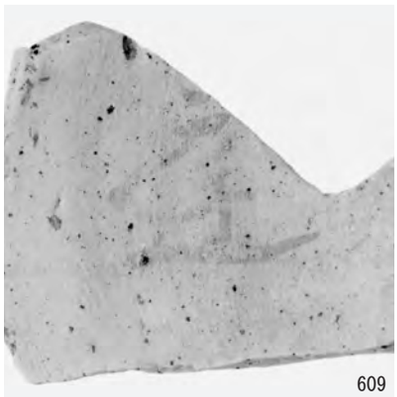
図版74　墨書土器・ヘラ書き土器（２）


492


595

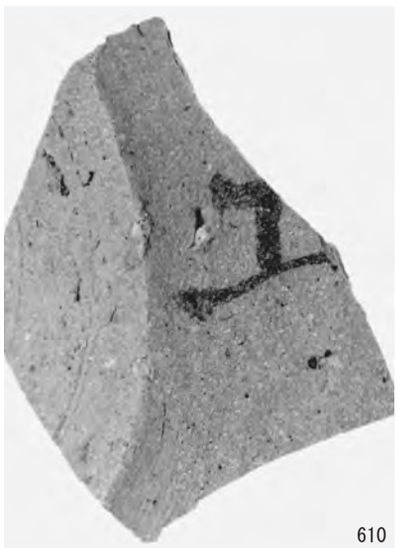

内面

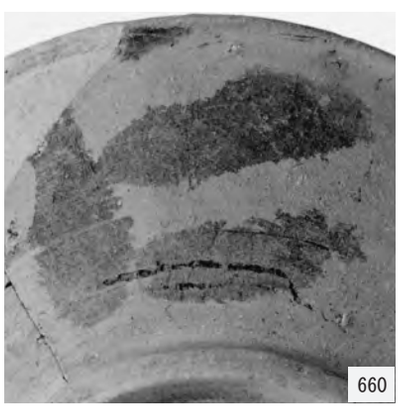
497


609

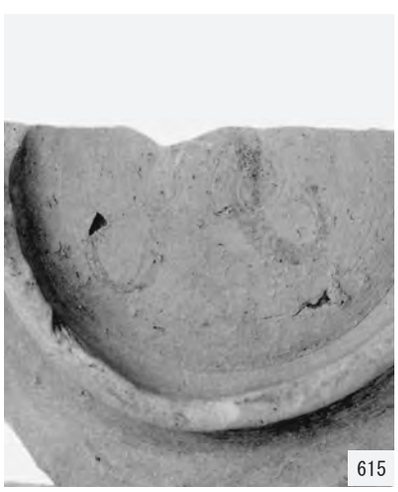
644

498


610


660

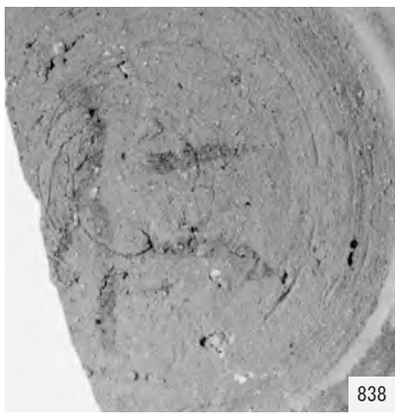
500

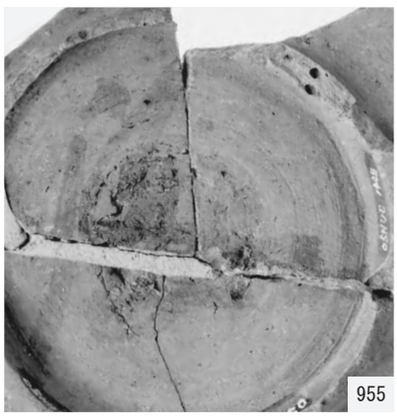

615

670

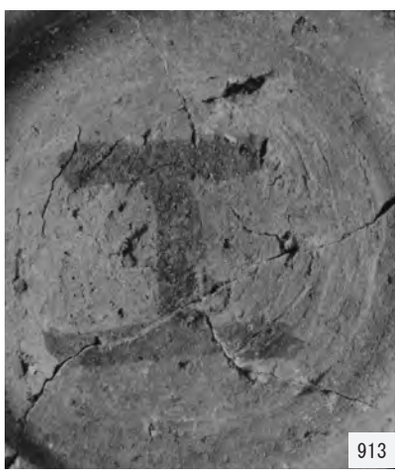
図版76　墨書土器・ヘラ書き土器（４）

678


838


955

823

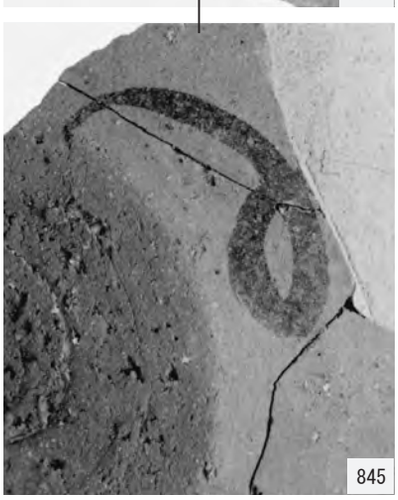

913

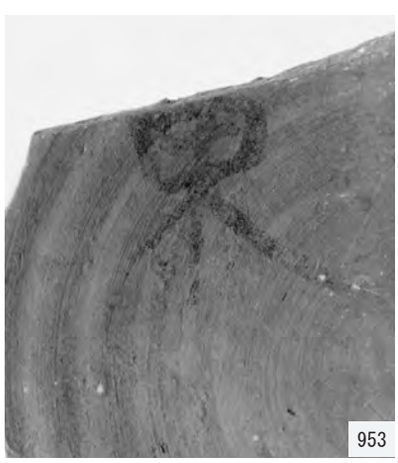
1064

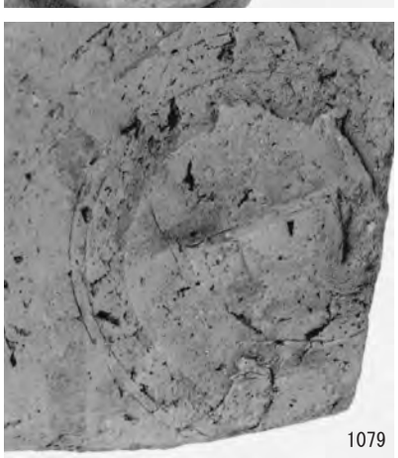
内面

924

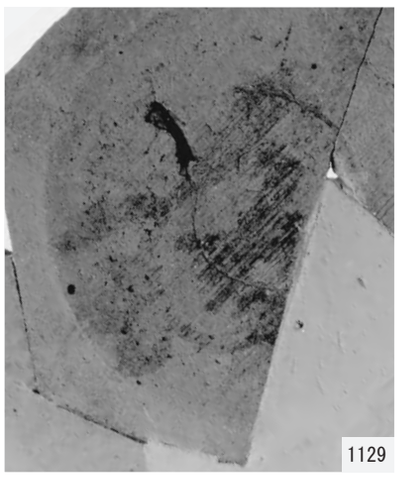
1071


845


953

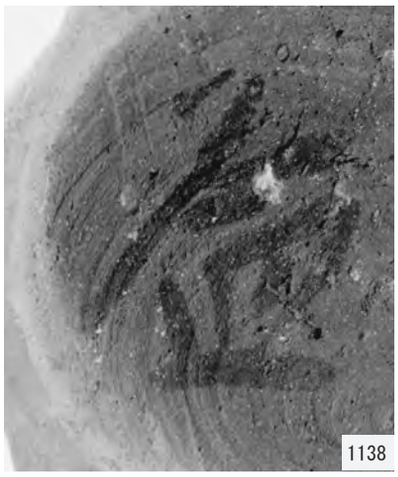

1079

1083

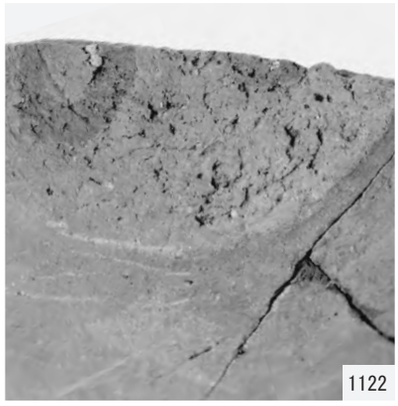

1129

1155

1103

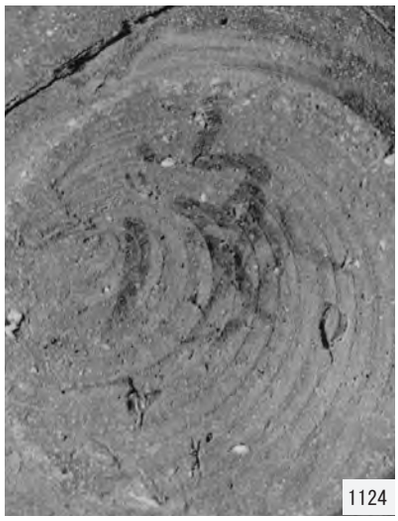

1138

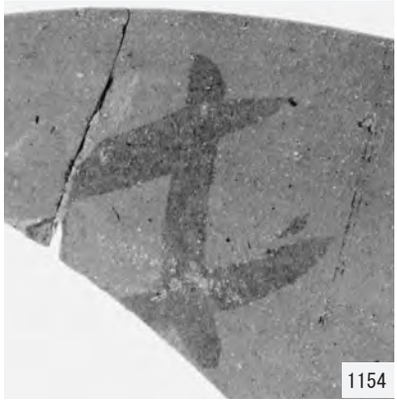
1157

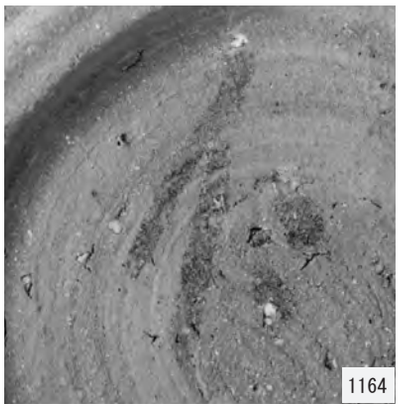

1122

1142

1162


1124


1154

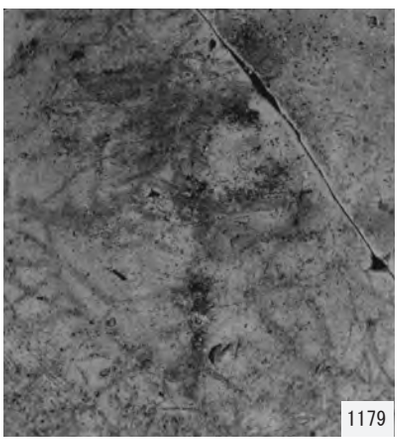

1164

図版78　墨書土器・ヘラ書き土器（６）

1165

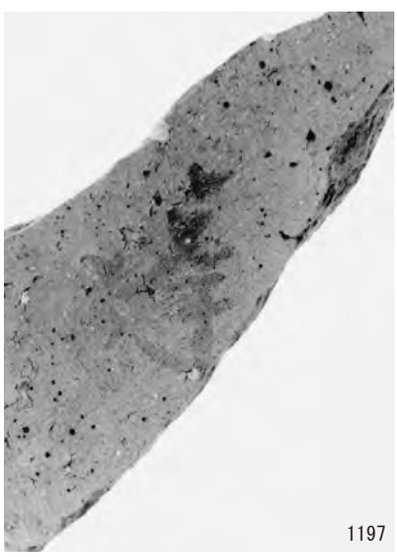
1180

1187


1179

1183

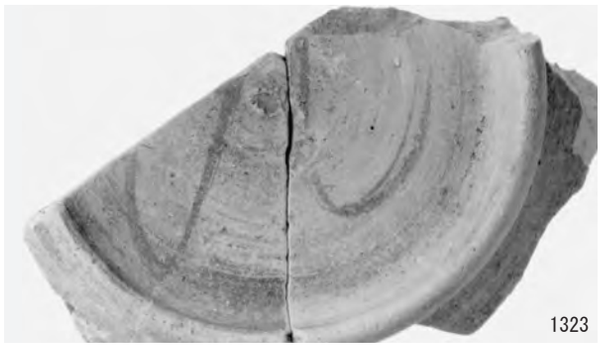
1181

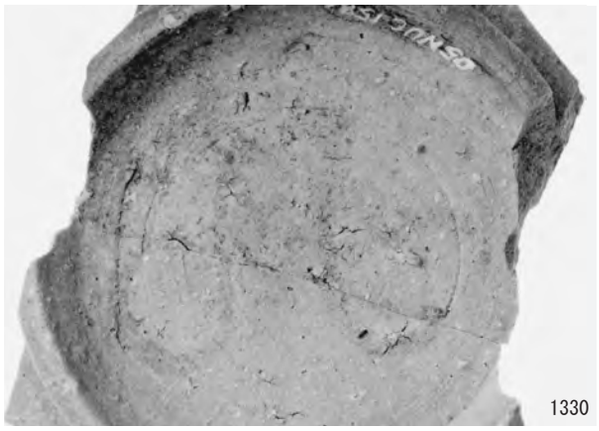

1197

1199

1286

1299


1323


1330

1300

1343

1354

511

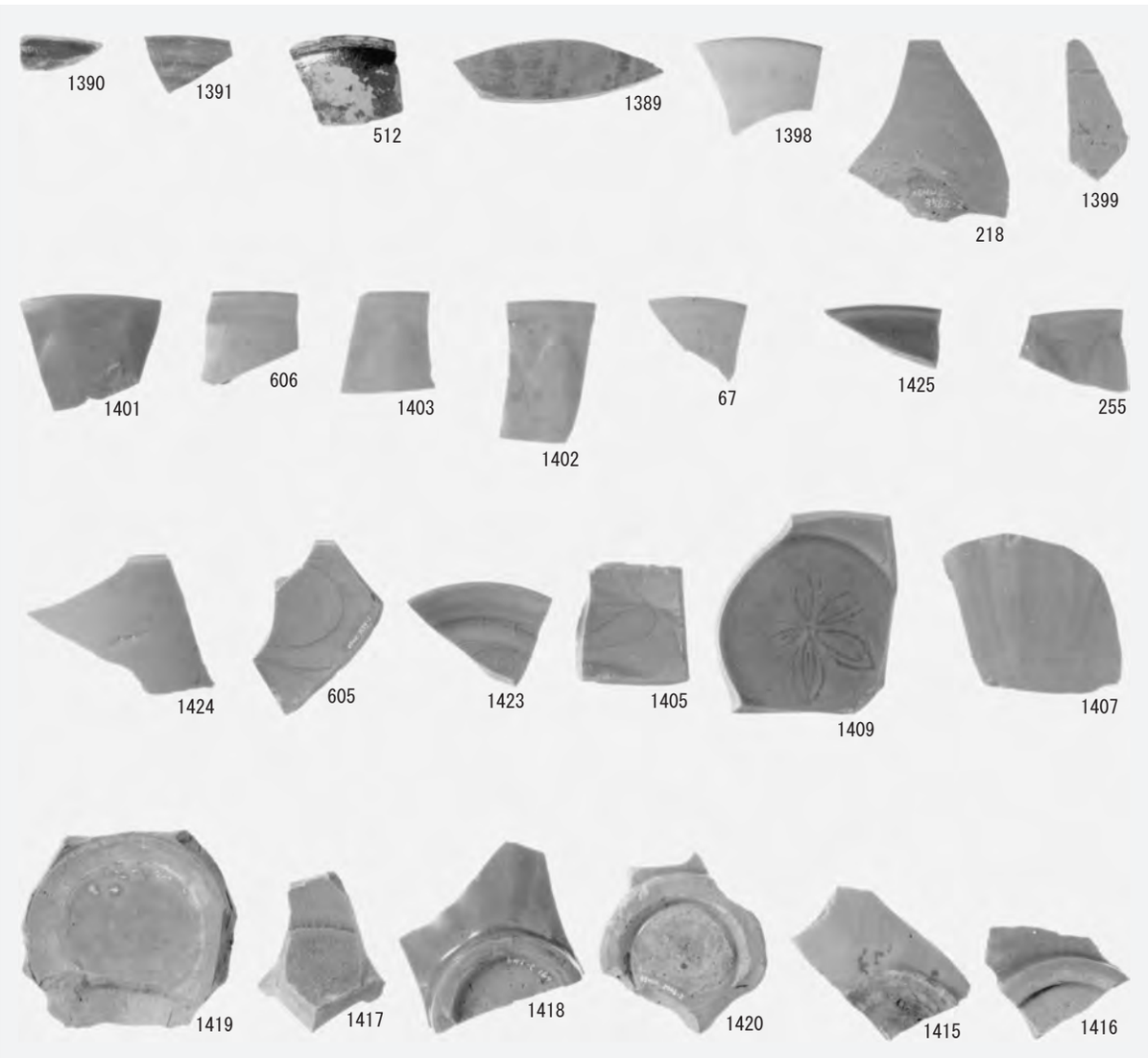
1392

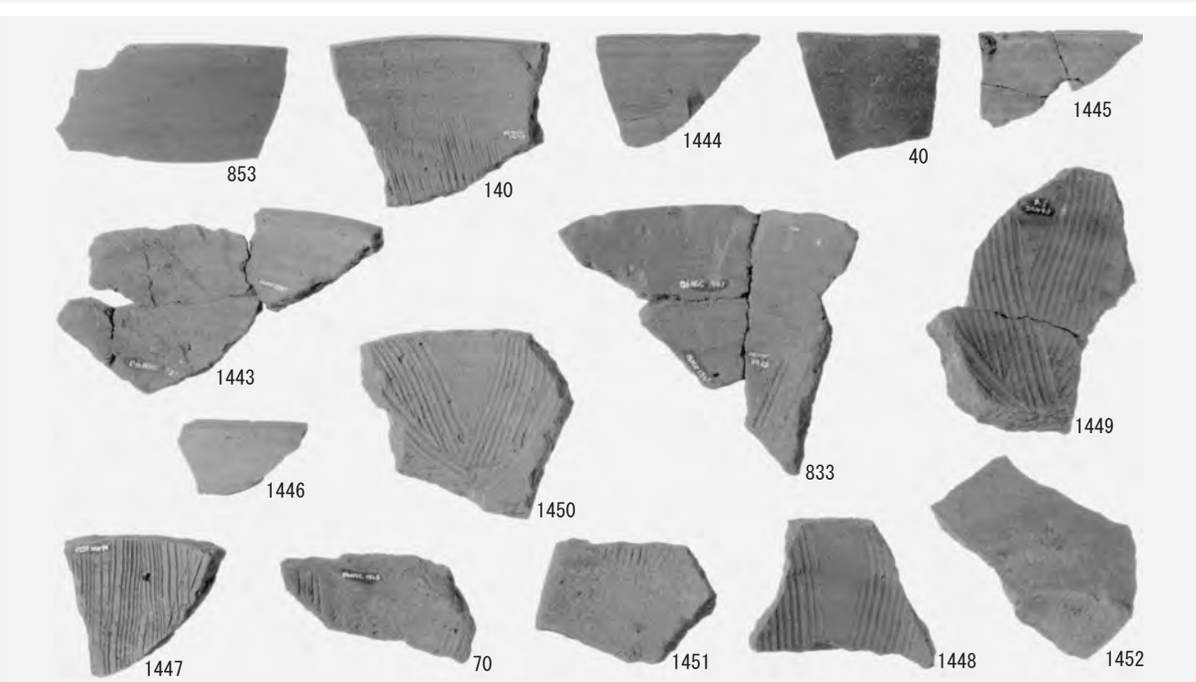
39

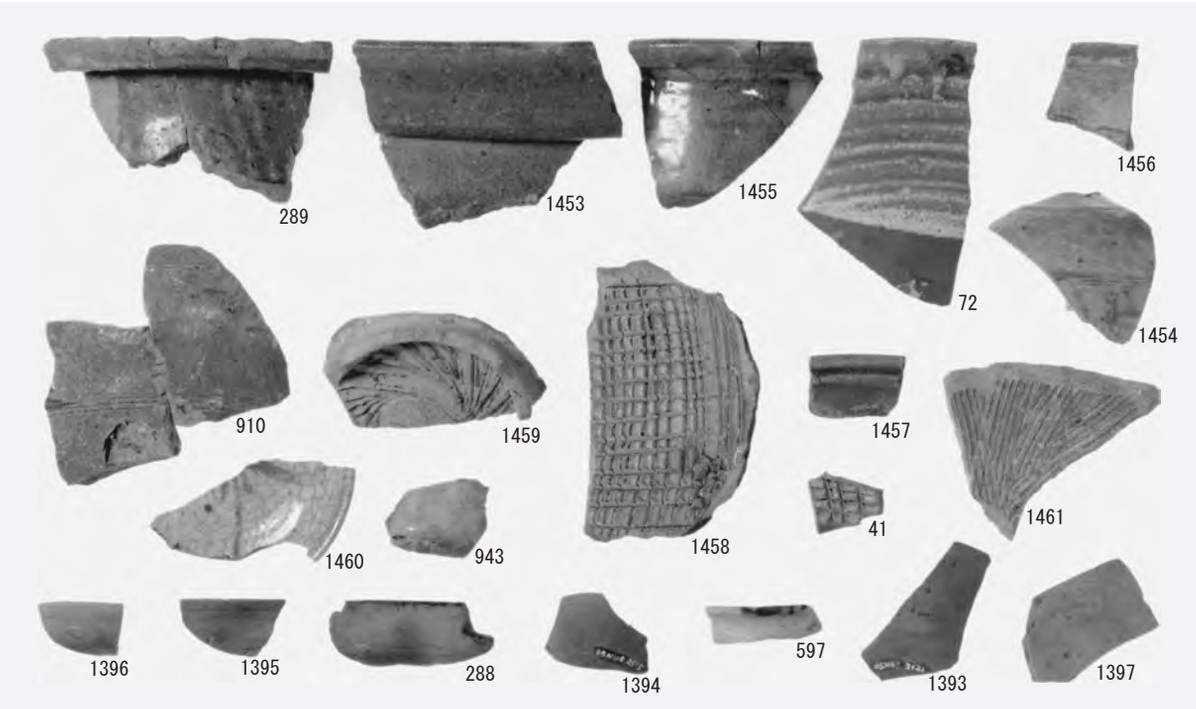
38

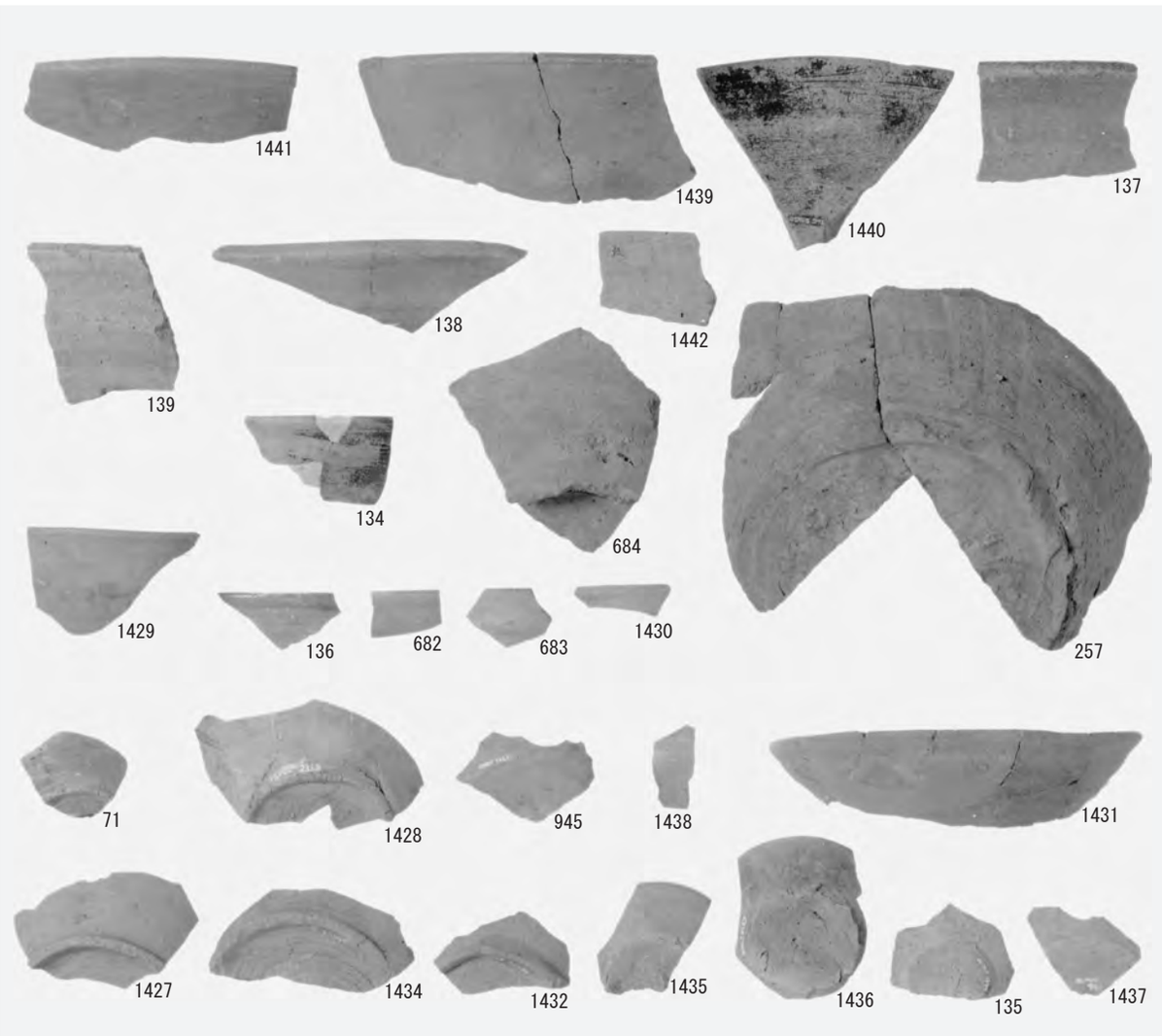
1433

図版80　緑釉陶器・輸入磁器・珠洲焼

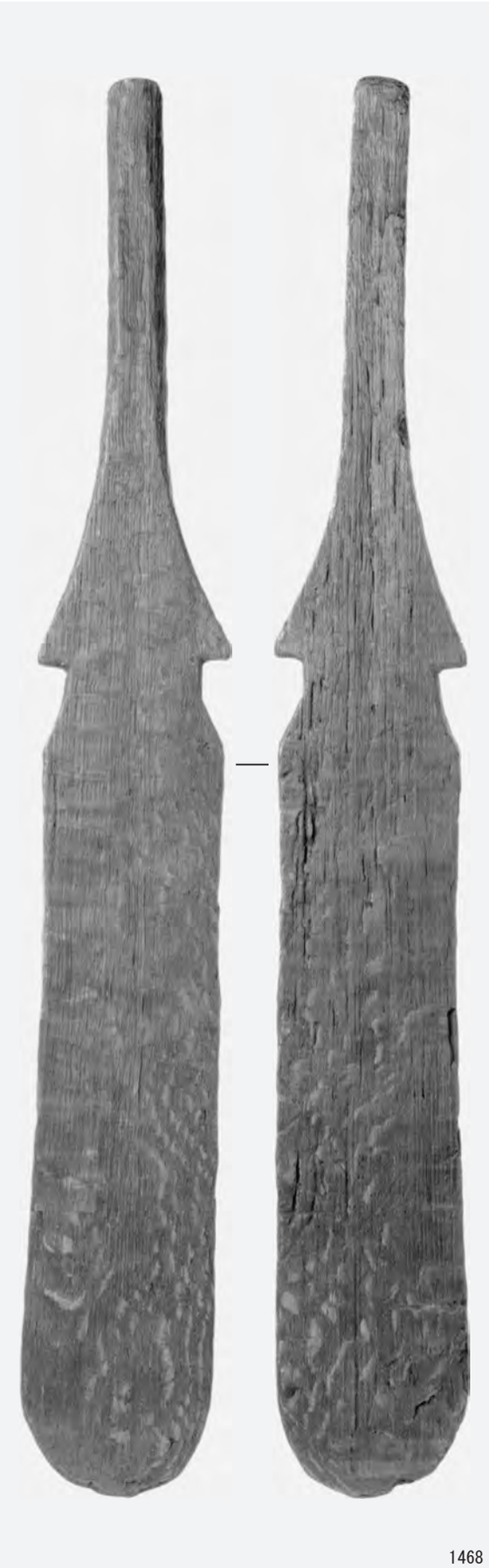




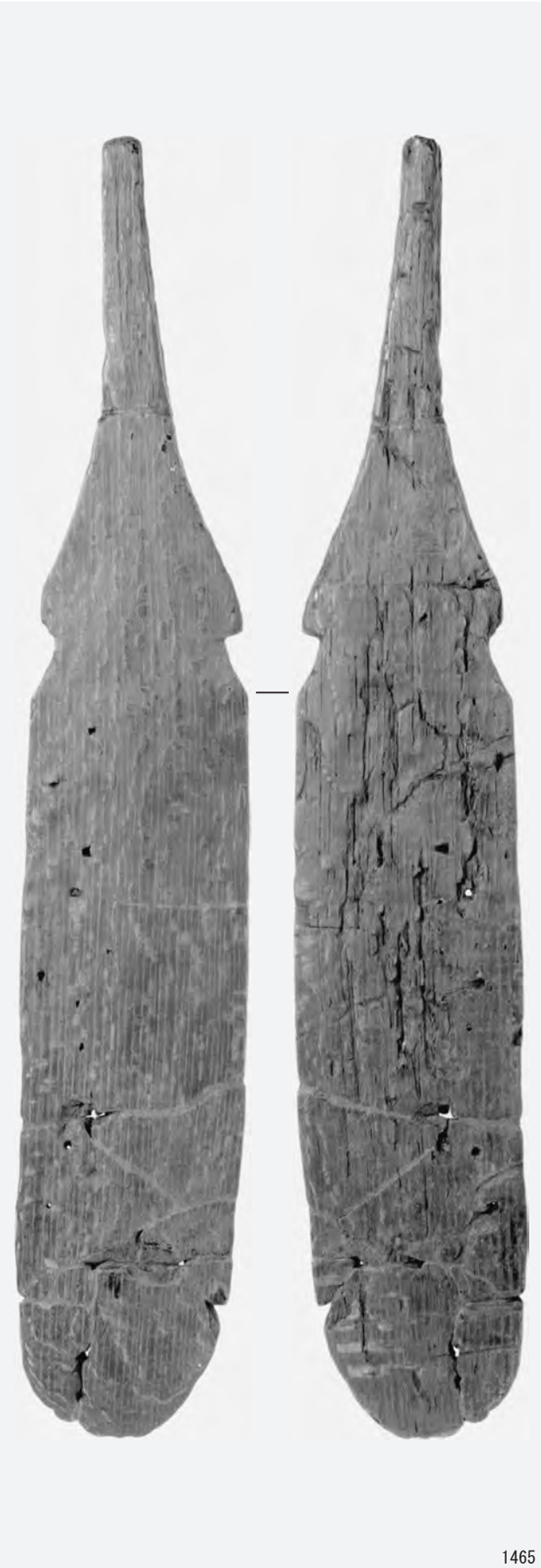

289
1453
1455
1456
72
1454
910
1459
1458
1457
1461
41
1460
943
1396
1395
288
1394
597
1393
1397


1441
1439
1440
137
138
1442
139
134
684
257
1429
136
682
683
1430
71
1428
945
1438
1431
1427
1434
1432
1435
1436
135
1437

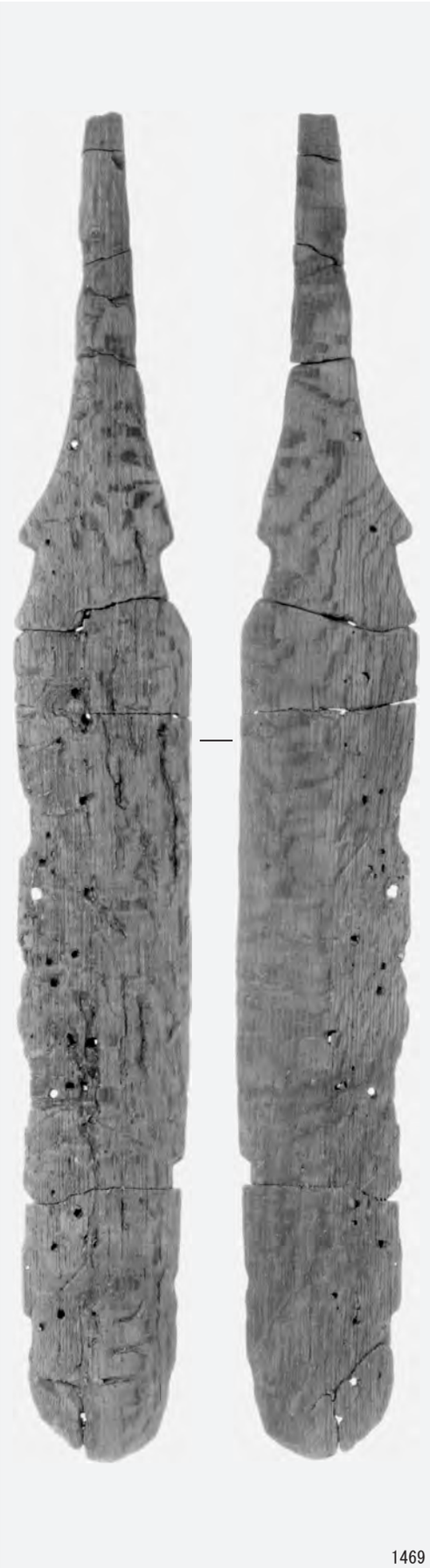
図版82　鍬（１）



1468



1465


1469

1463

1467

1462

1470

1471

1466

図版84　鍬（３）

1472

1473

873

1464

1478

1474

1479

1480

1484

1483

1475

874

1481

図版86　泥除け

1485

1486

1487

887

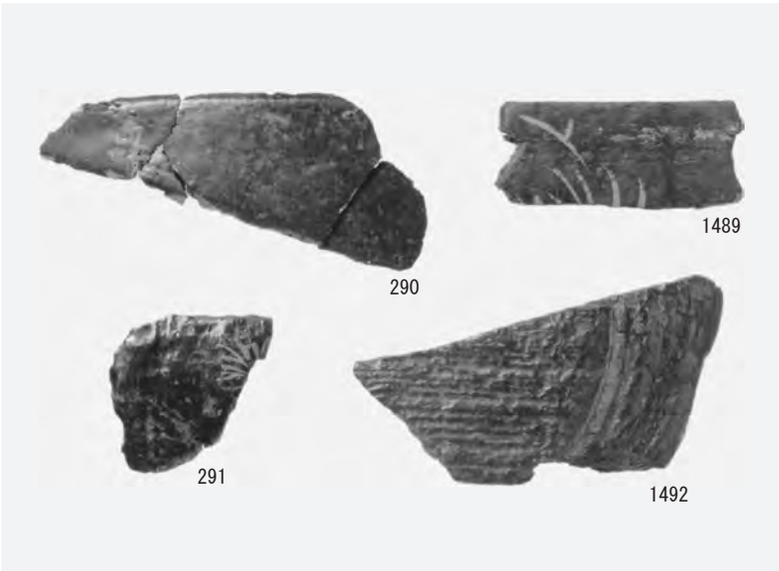
図版88　挽物容器

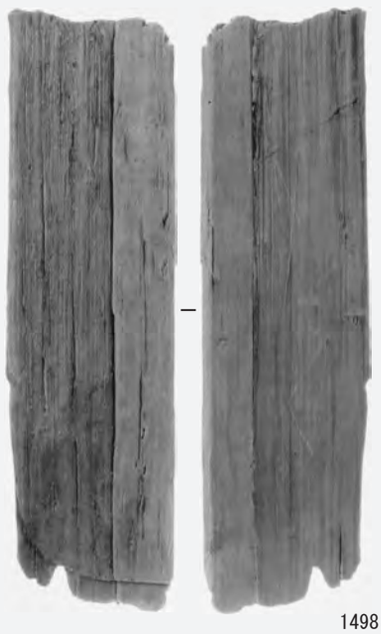
1488

1490

1491

1493





1498

1499

888

図版90　円形曲物容器（１）

147

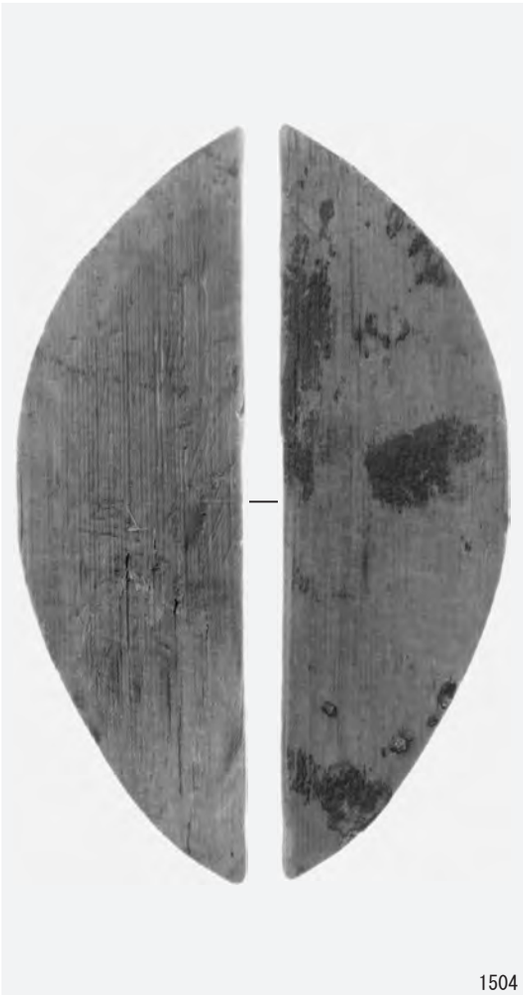
1507

182

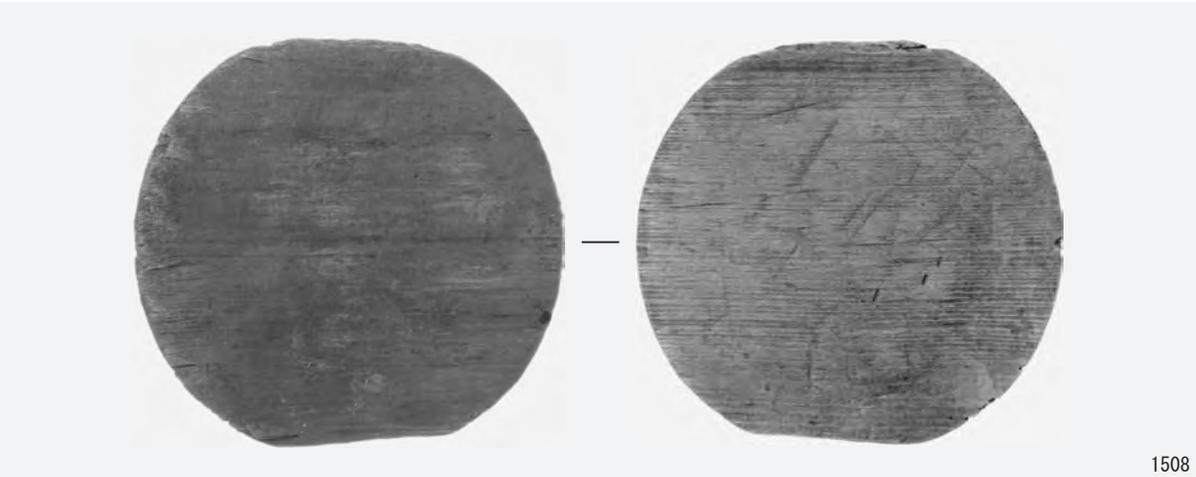
1502

686

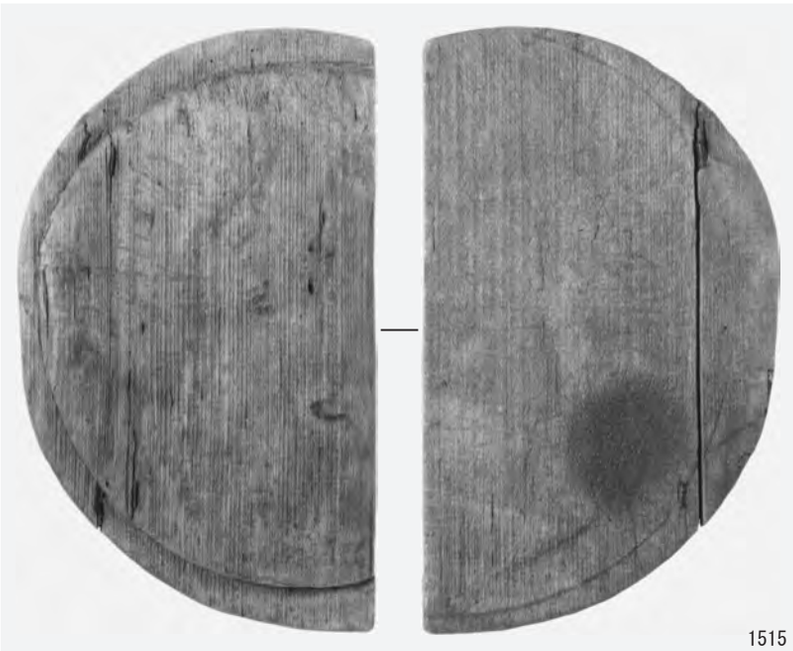
1503


1504

図版92　円形曲物容器（３）


1508

1505

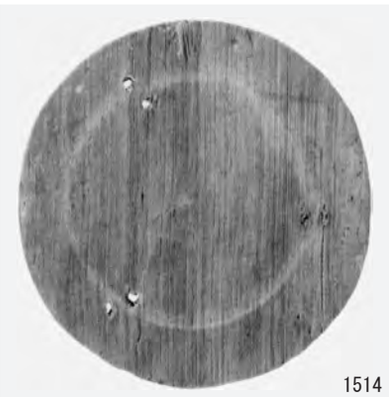

1515

1510

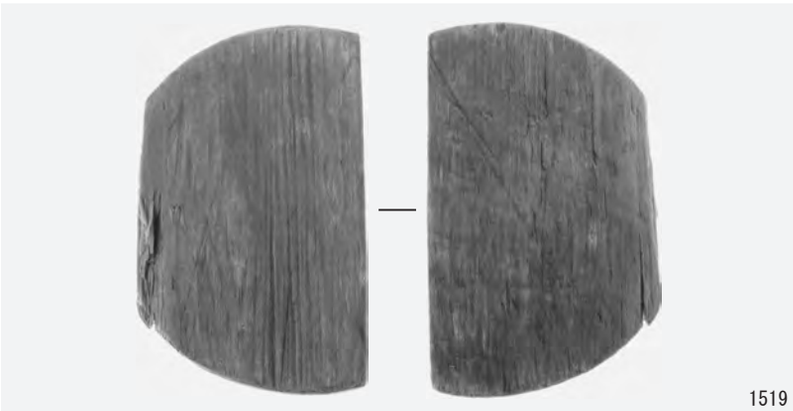
1516

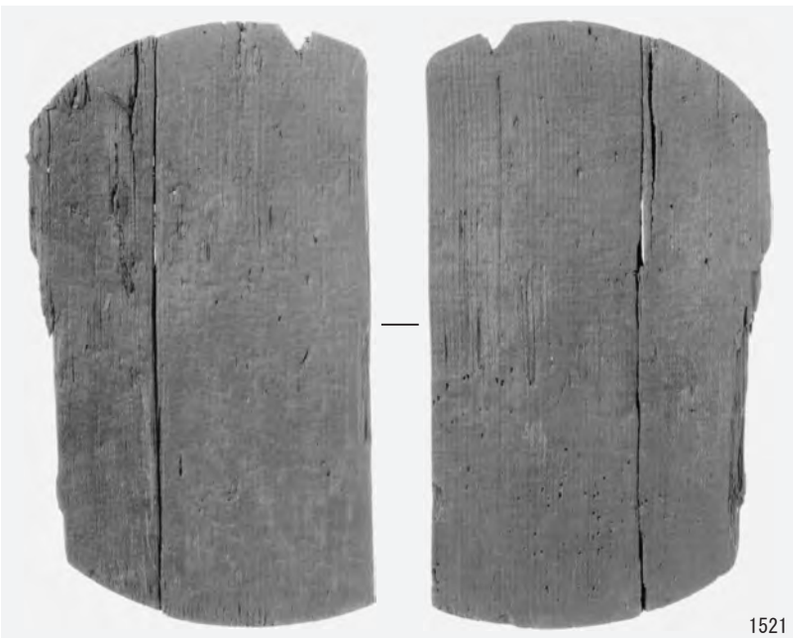
1512

1513


1514

1517


1519


1521

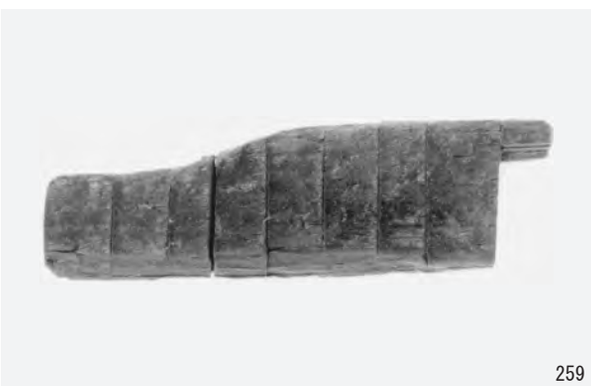
図版94　円形曲物容器（５）、曲物側板

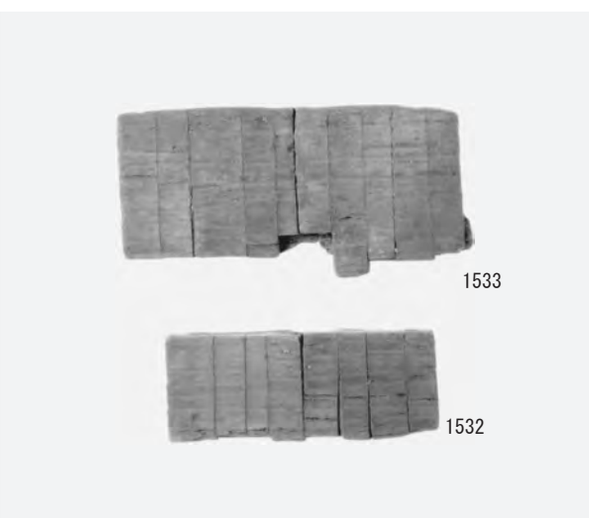
1518

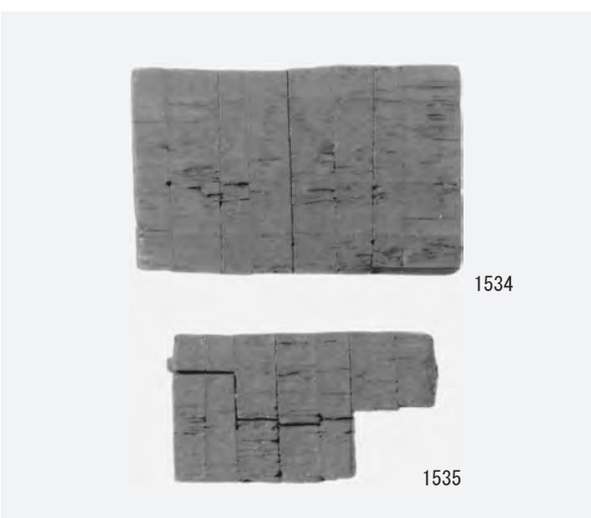
1526

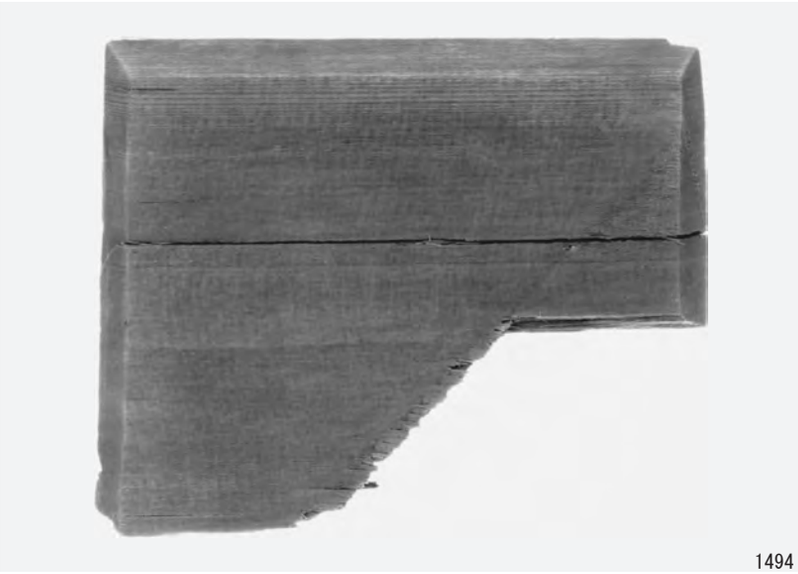
1528

258


259


1533
1532


1534
1535


1494

1495

1537

74

1496

1497

145

1539

図版96　鳥形・馬形

882

1545

688

1544

689

1546

690

1547

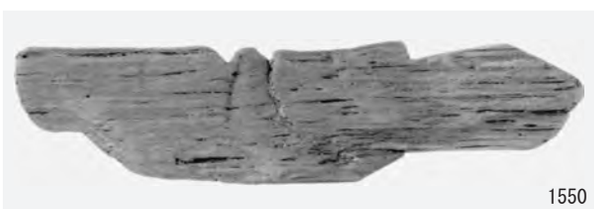
691

1548

918

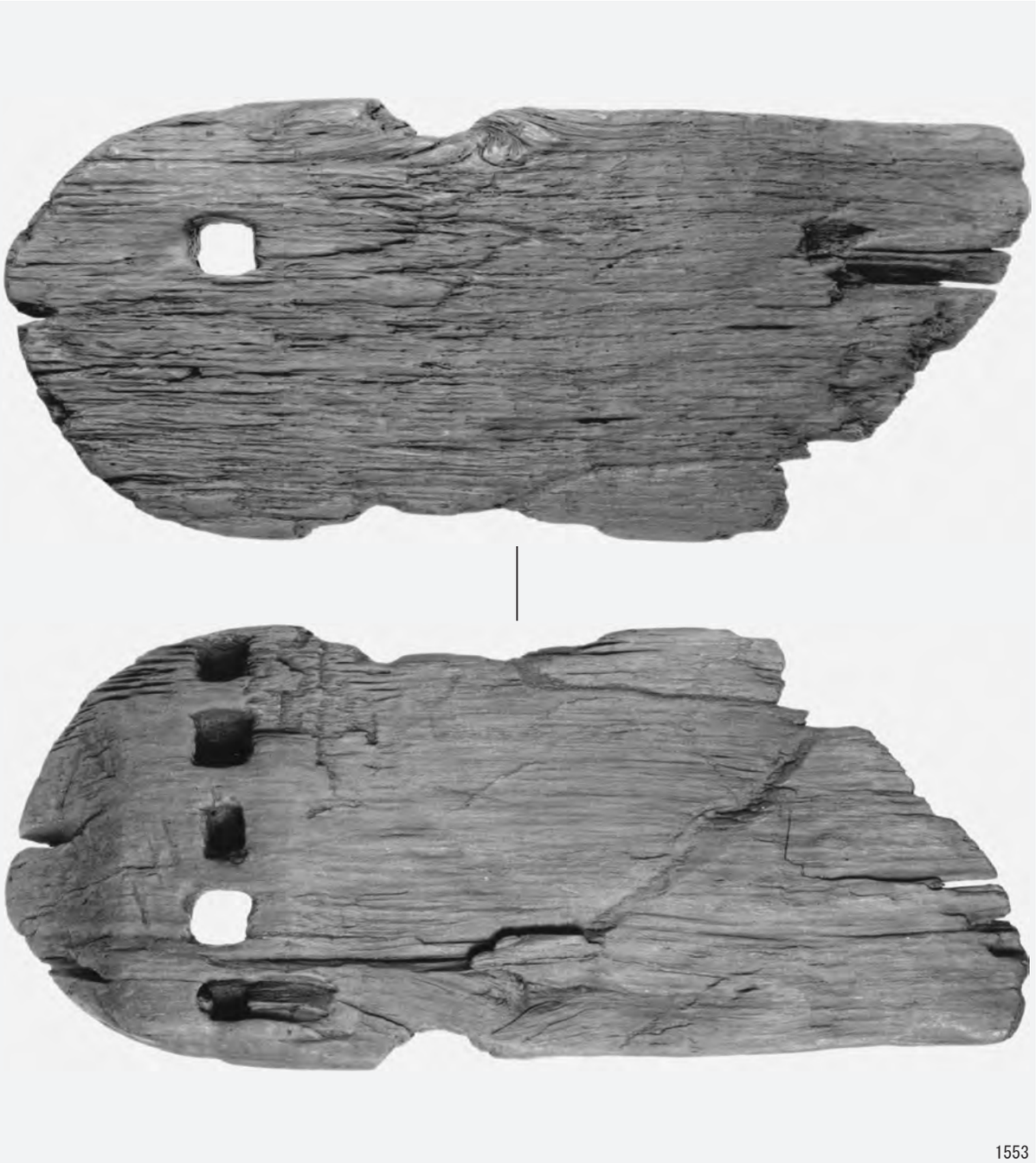
1549

1540


1550

1542

1551

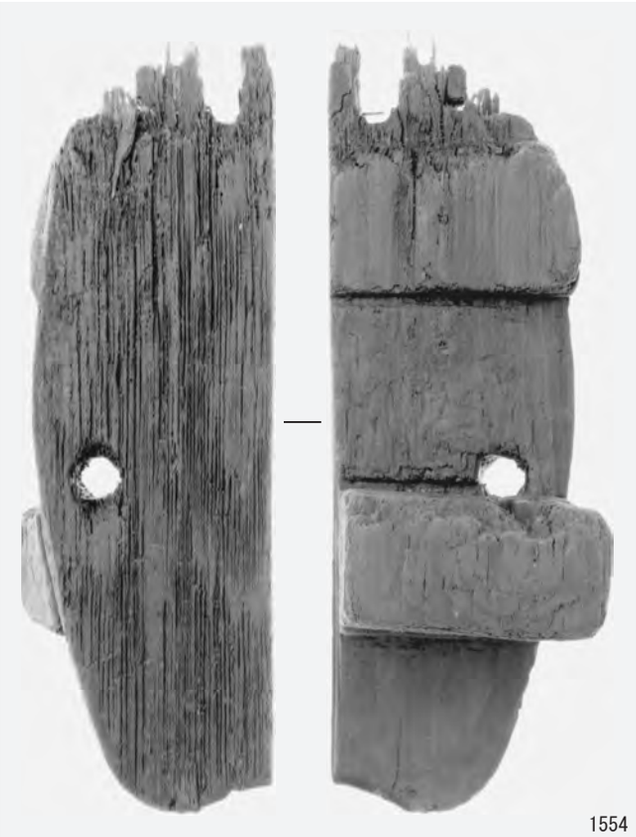


1553

75

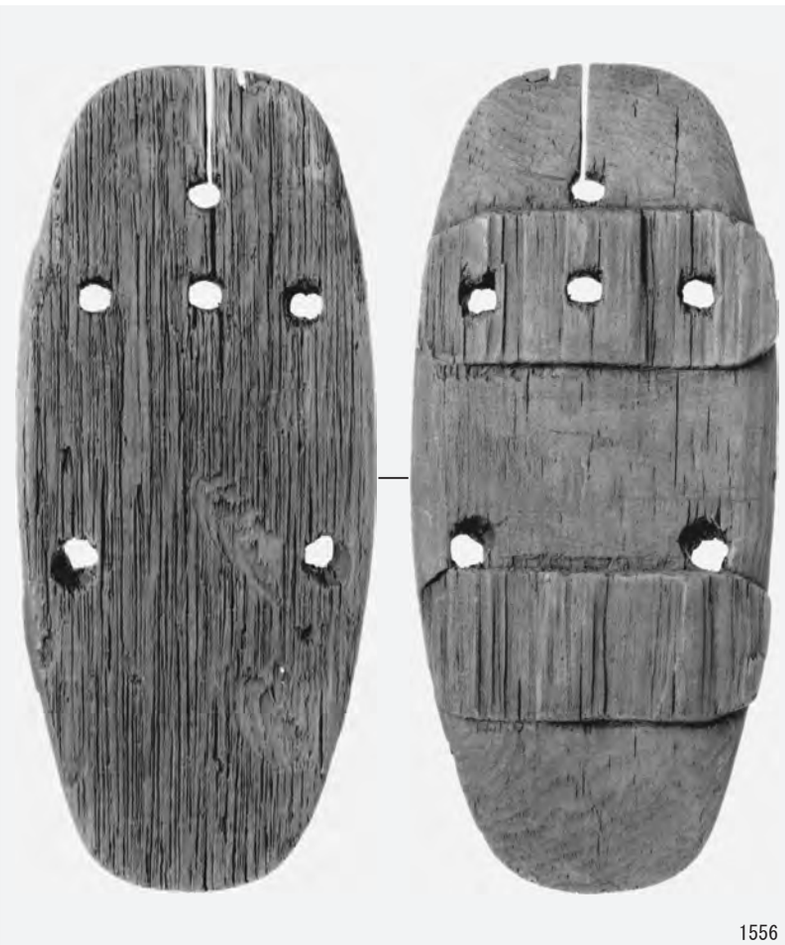
141

図版98　下駄（２）


1554

1555

1558


1556

292

1562

143

1563

1565

1566

1564

1567

1568

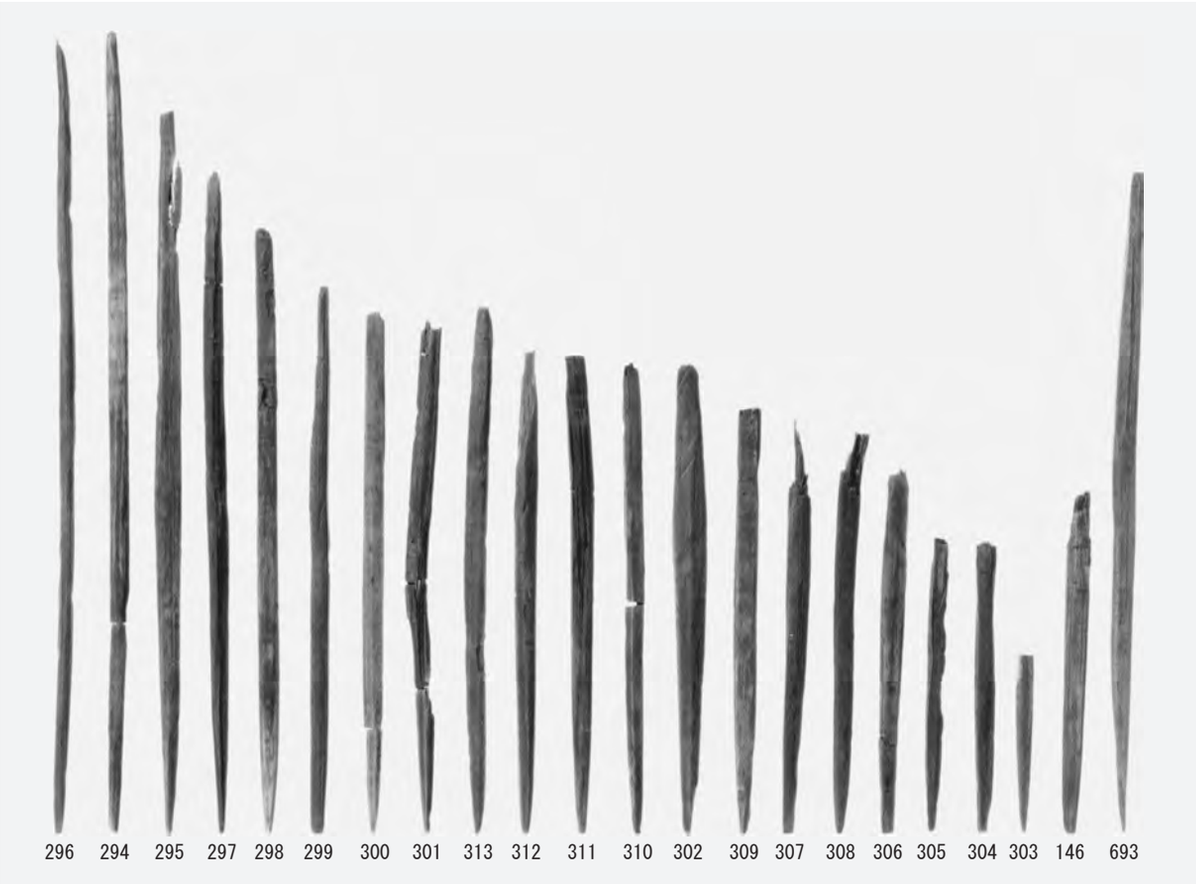
293

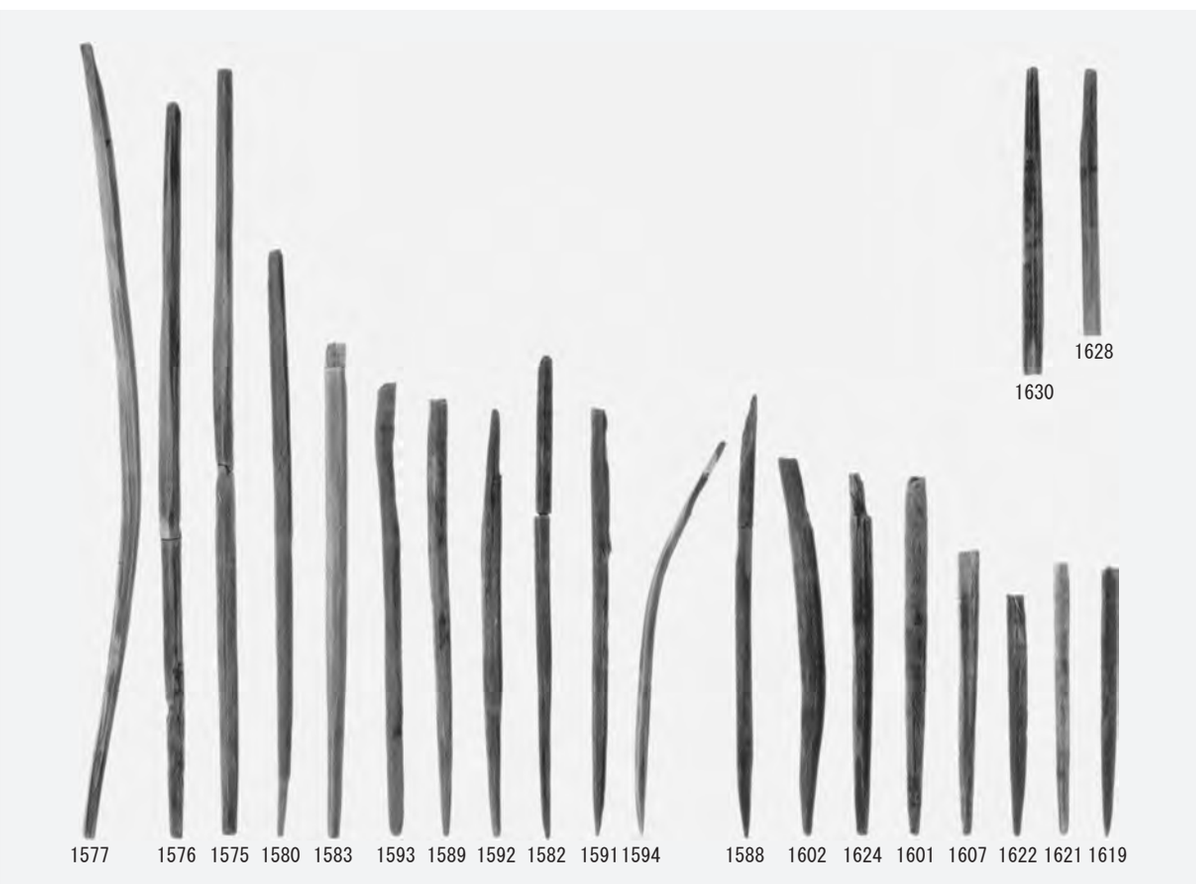
1570

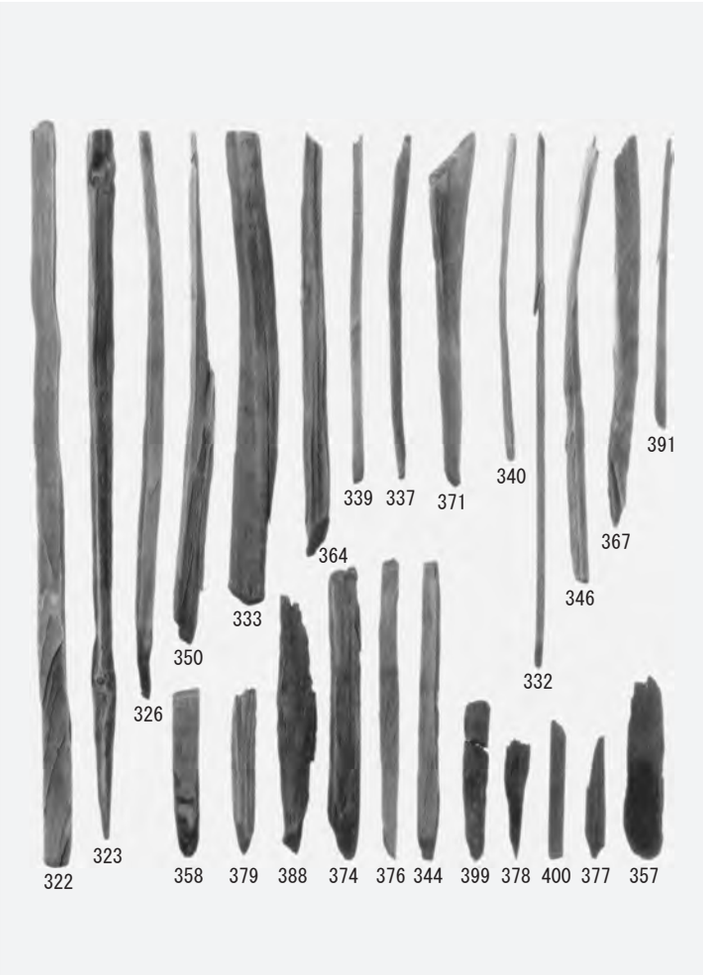
1571

1579
1578

図版100　箸（２）

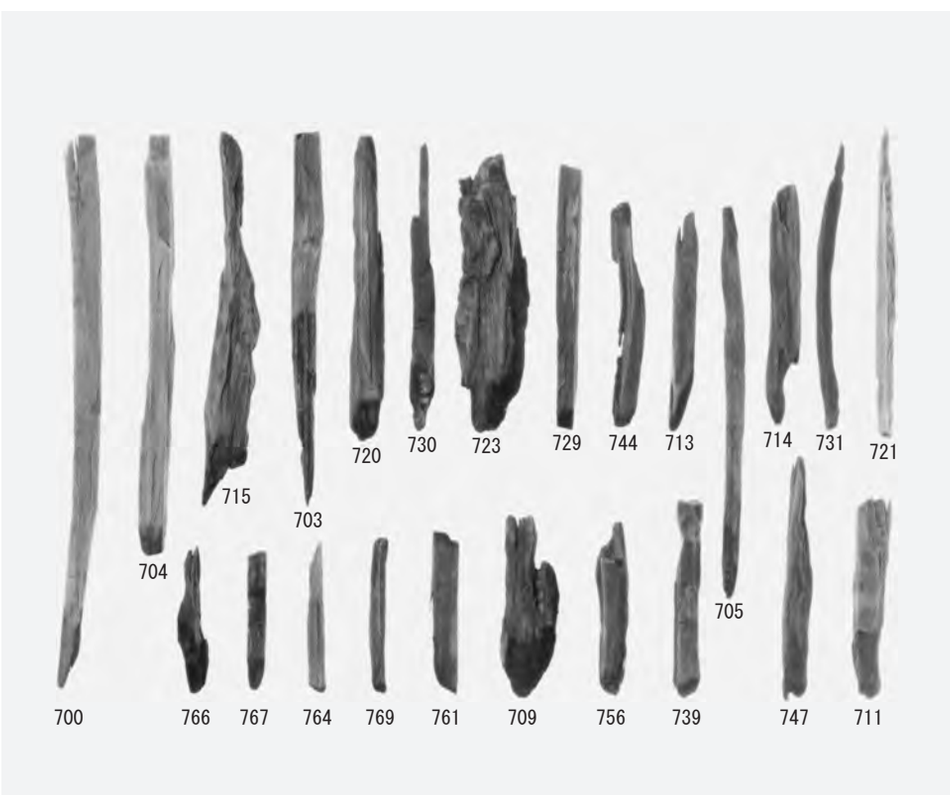

296 294 295 297 298 299 300 301 313 312 311 310 302 309 307 308 306 305 304 303 146 693


1628
1630
1577 1576 1575 1580 1583 1593 1589 1592 1582 1591 1594 1588 1602 1624 1601 1607 1622 1621 1619


322
323
326
350
358
333
379
388
364
374
376
344
339
337
371
399
340
332
378
400
346
377
367
357
391

328
334
327
329
330
349
351

914


700
704
715
703
720
730
723
729
744
713
705
714
731
721
766
767
764
769
761
709
756
739
747
711

図版102　模造品・串状木製品・へら状木製品、板状木製品（１）

78

1573

1574

1710

1711

1713

1735

695

1729

1699

1700

148

1701

317

318

1715

1717

1723

1726

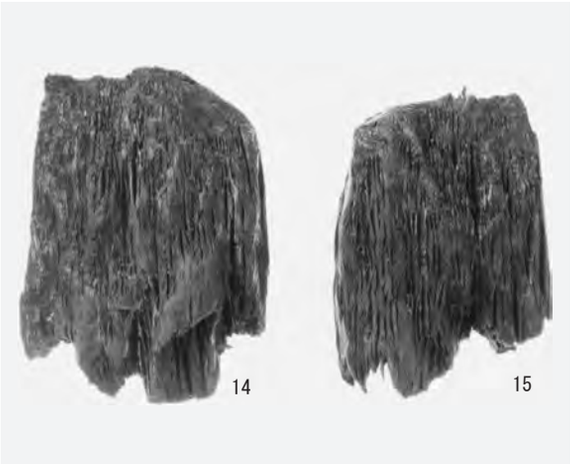
1731

876

1746

図版104　建築部材（１）

13


14

15

16

17

21

18

19

20

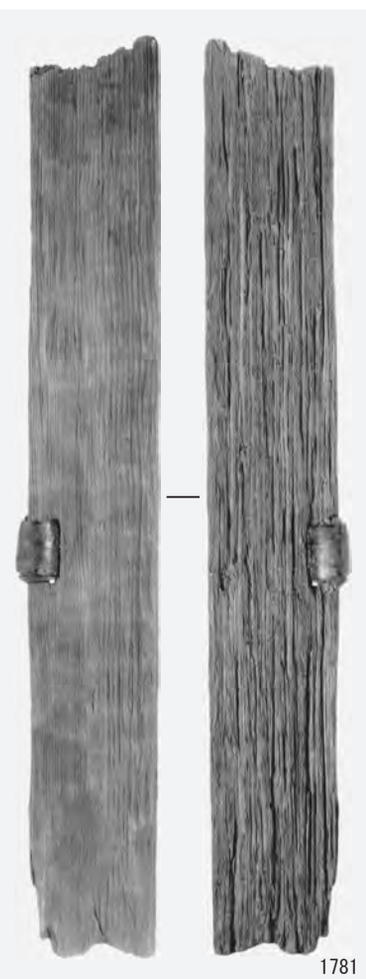
1771
897
1774
1777
1783
899

図版106　建築部材（３）

895

896

1788


1781

1782

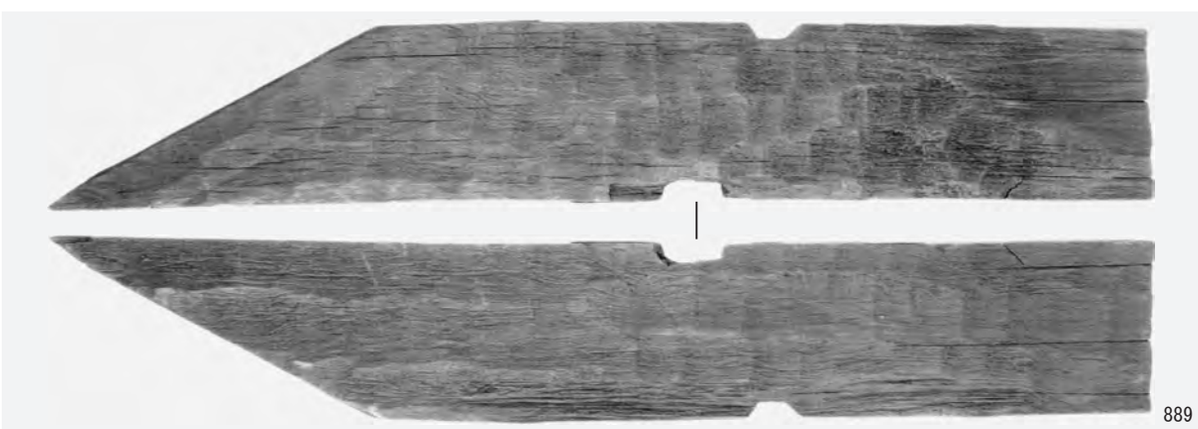
1785

891

1784

1797

1805


889

1786

図版108　建築部材（５）

1791

1793

1796

1787

1799

1802

1803

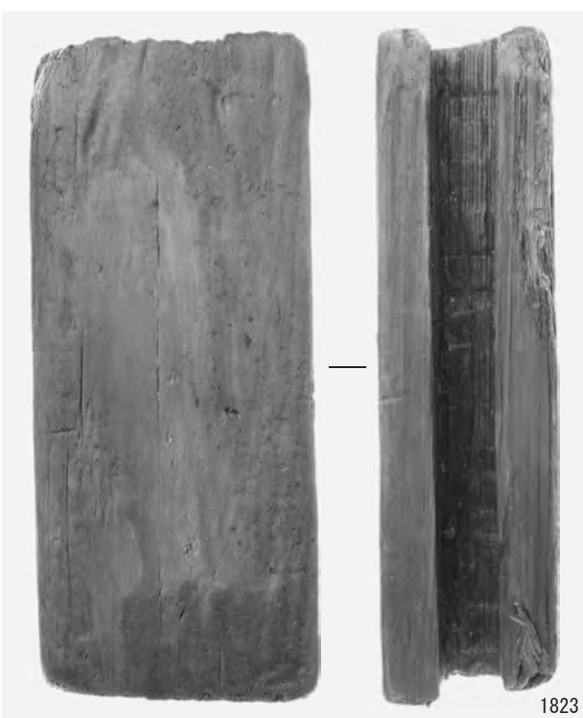
1806

1819

890

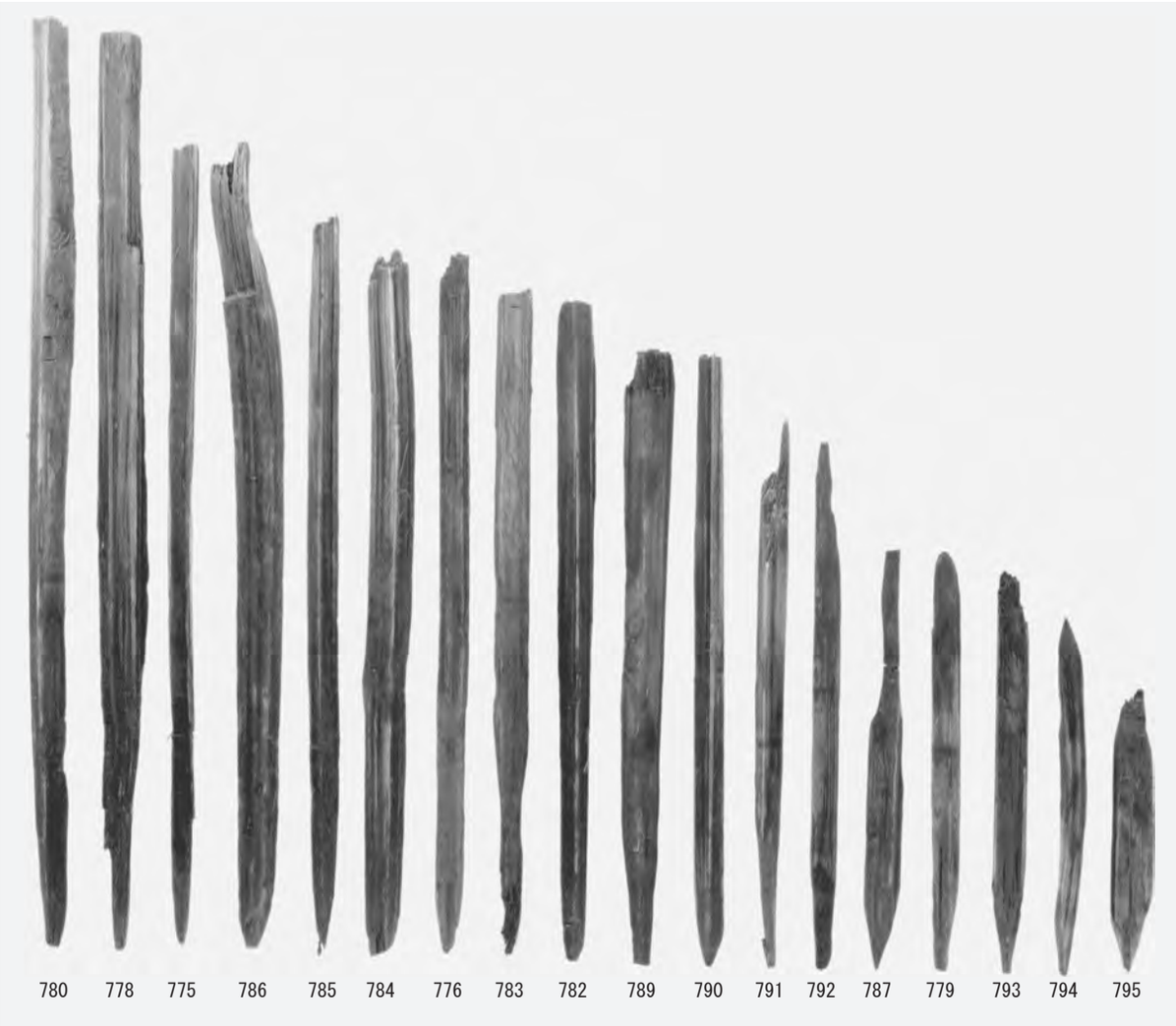
892

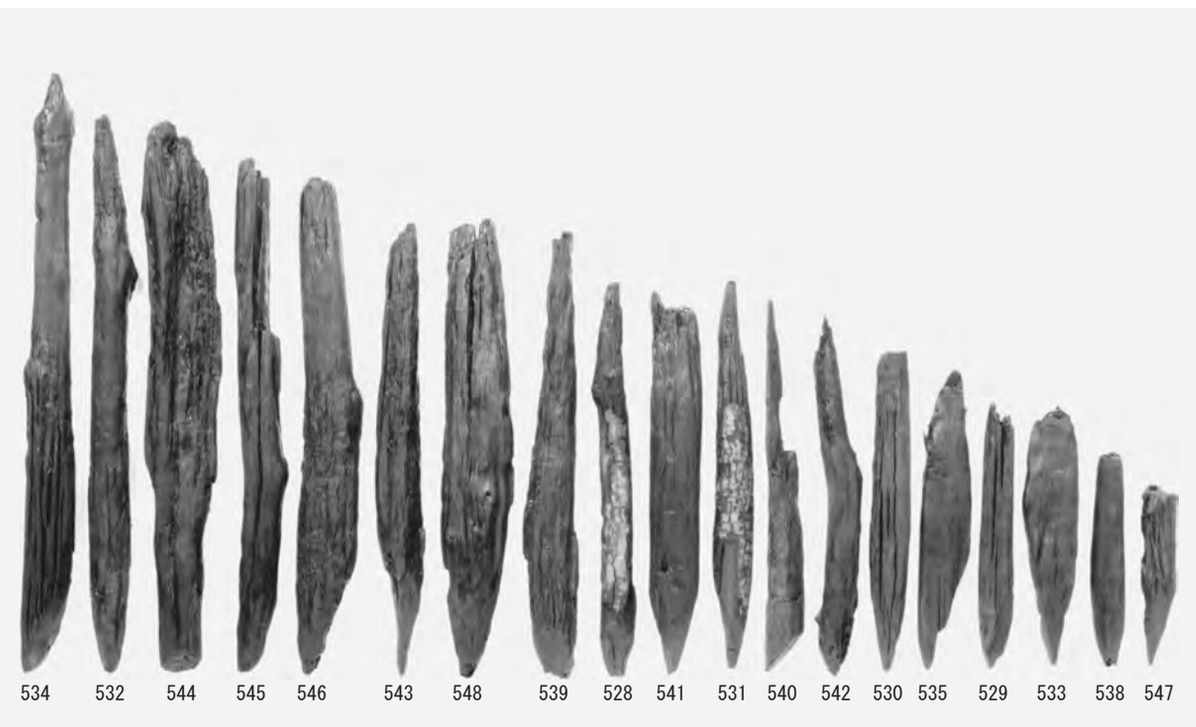
1775


1823

図版110　建築部材（７）

1779
1773
1792
1790
1807
1795
1800
1809
1772
1815
898
1804
1816
894
893
1820


780
778
775
786
785
784
776
783
782
789
790
791
792
787
779
793
794
795


534
532
544
545
546
543
548
539
528
541
531
540
542
530
535
529
533
538
547

図版112　器具部材（１）

1834

698

1838

1835

1836

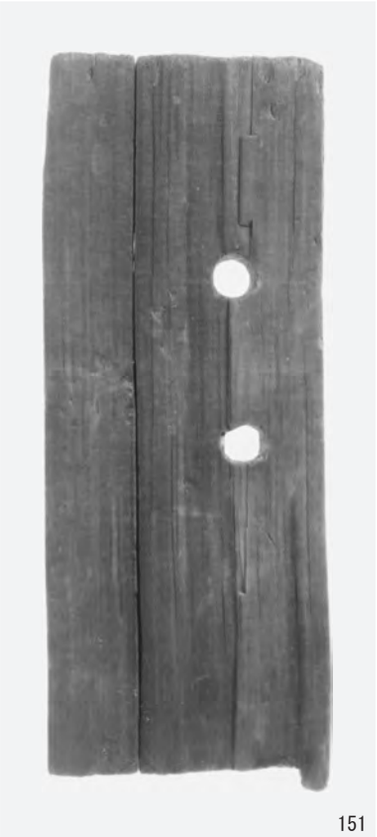
1839

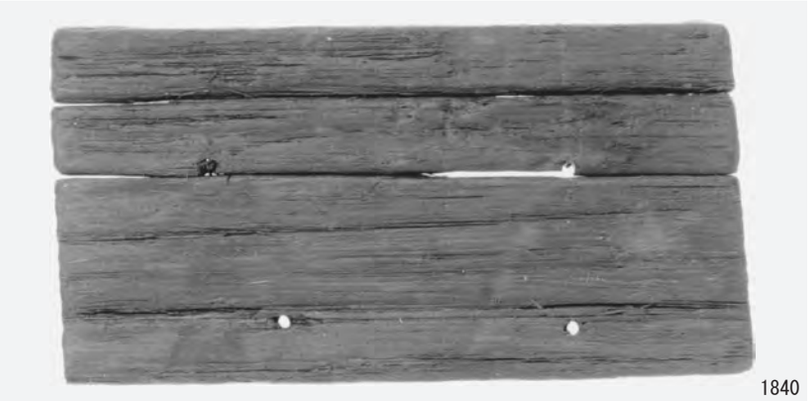
189

1886

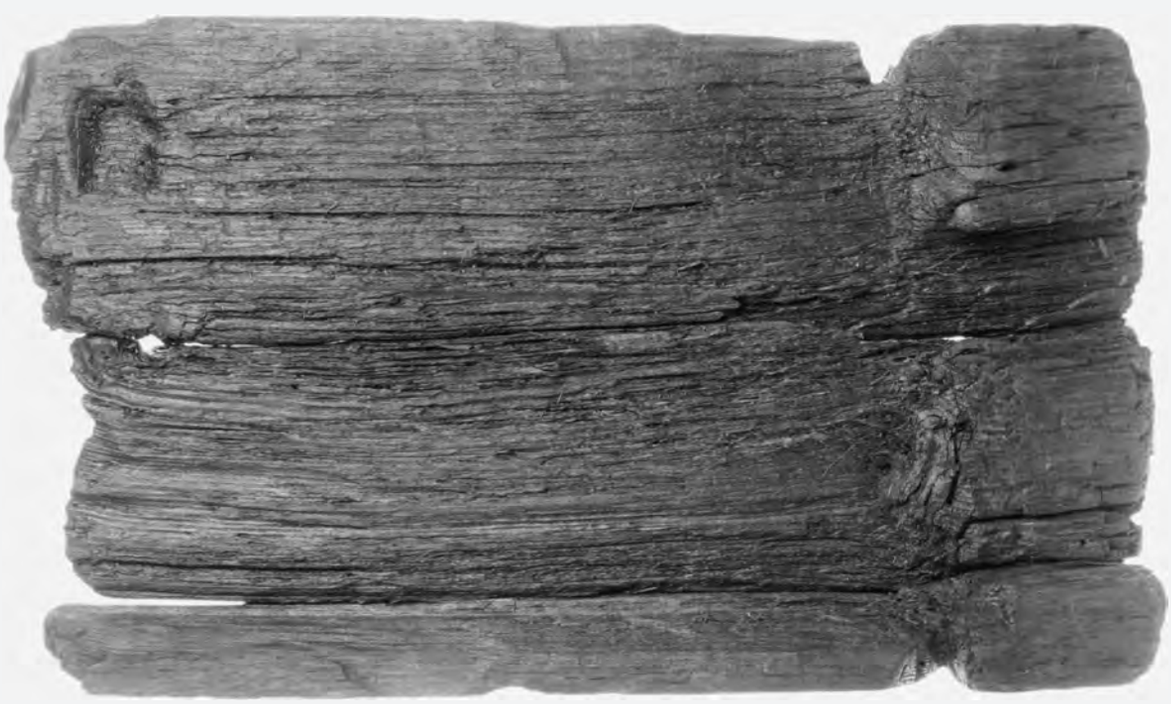
152

190


151


1840

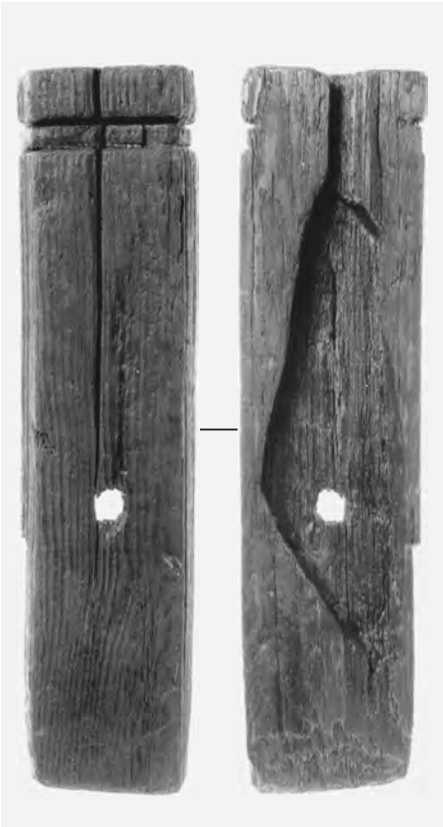
図版114　器具部材（３）



43

1844

1845


1847

1848

153

154

886

1850

1863

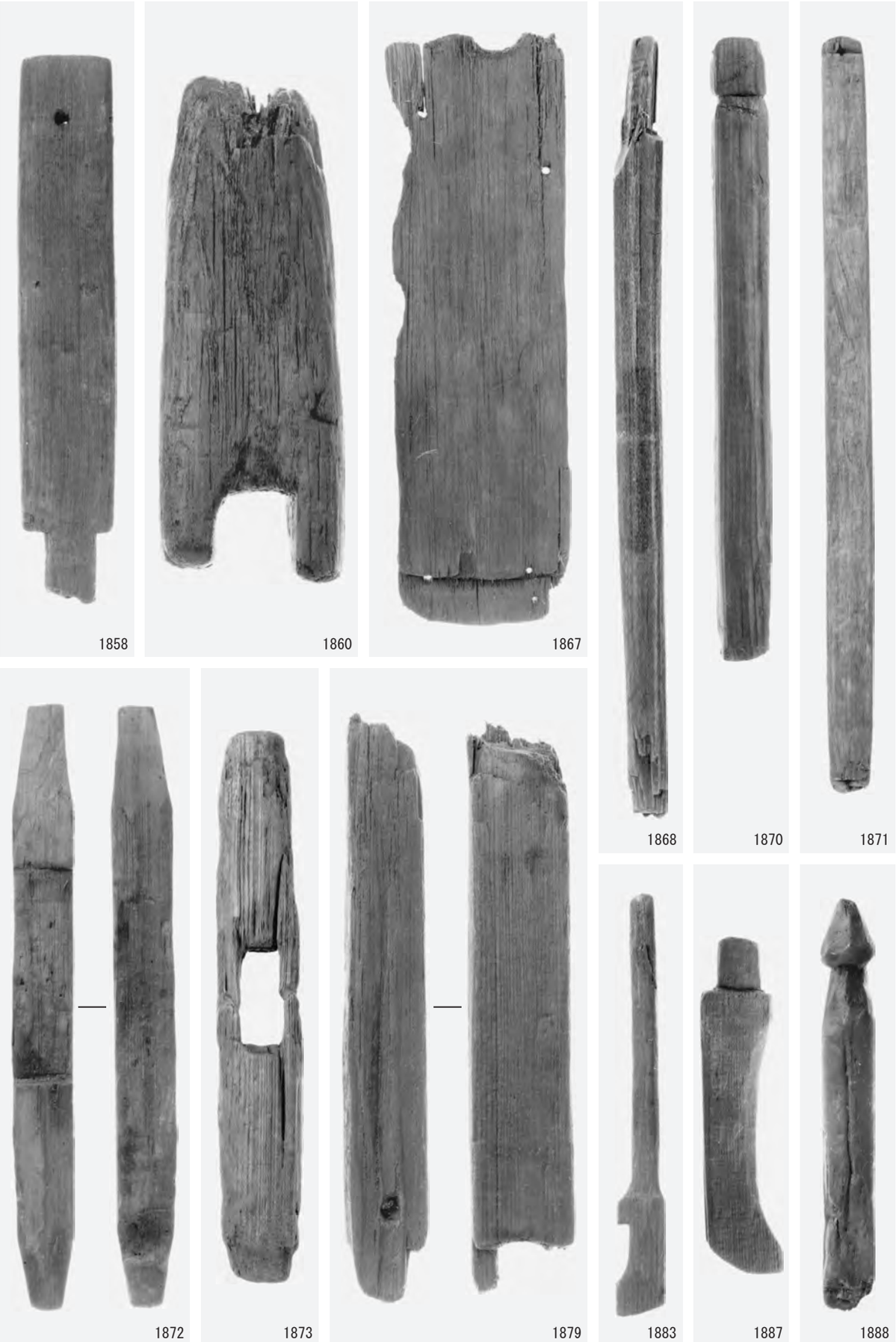
1865

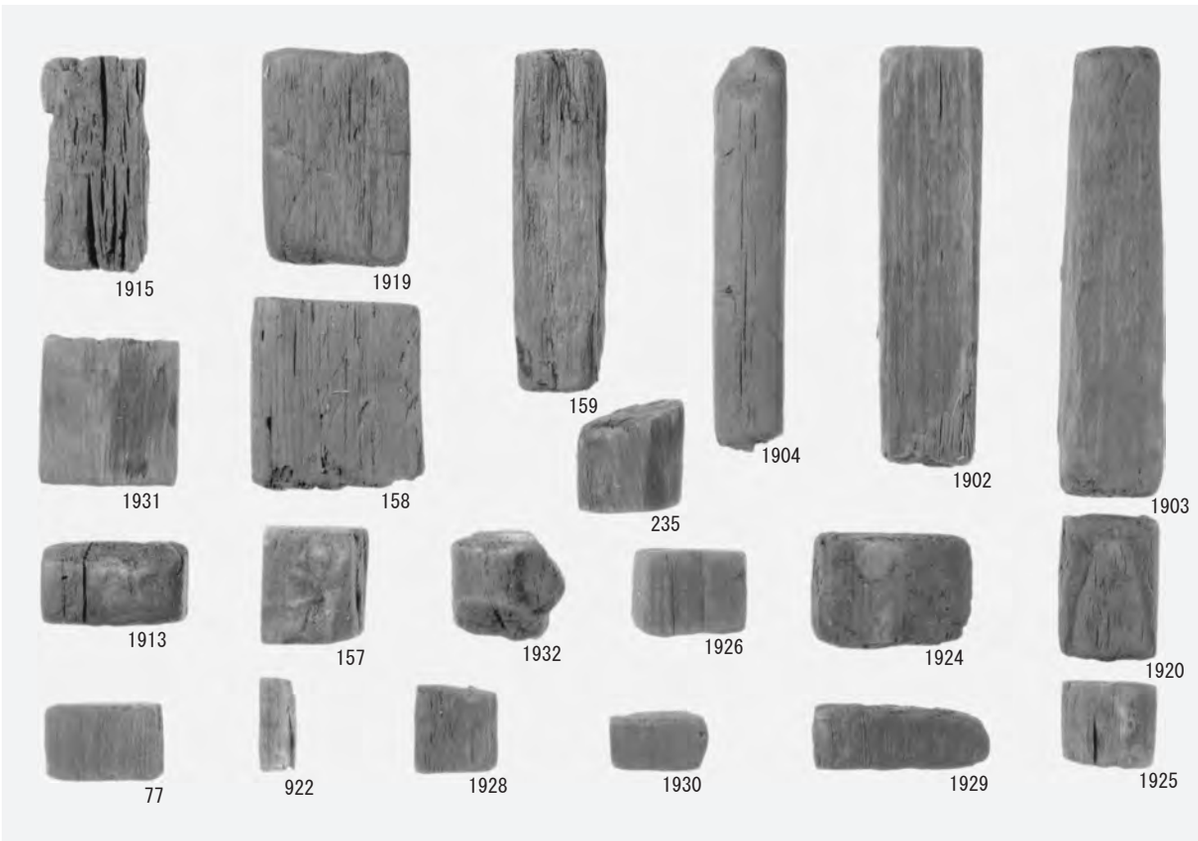
1876

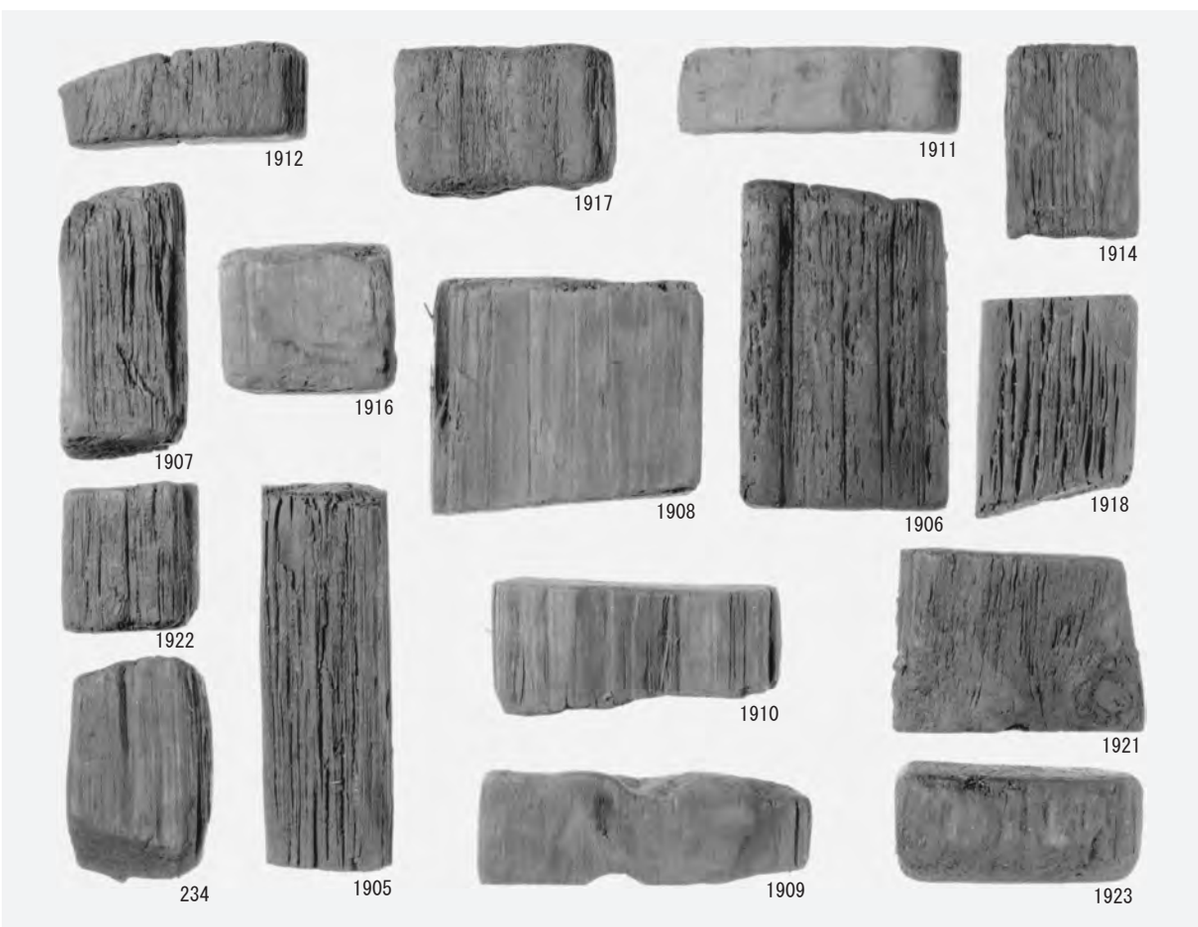
1891

1866

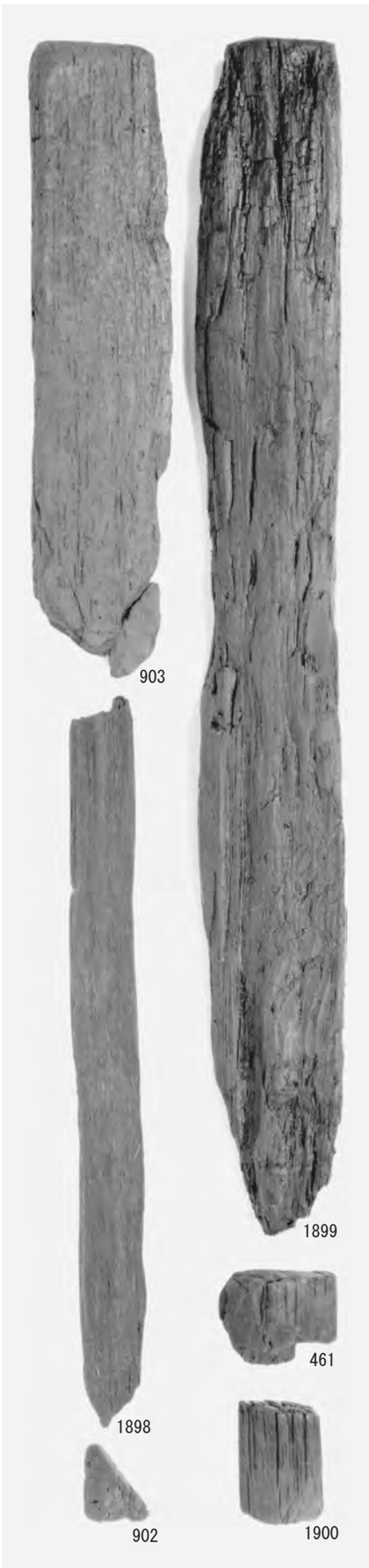
図版116　器具部材（５）

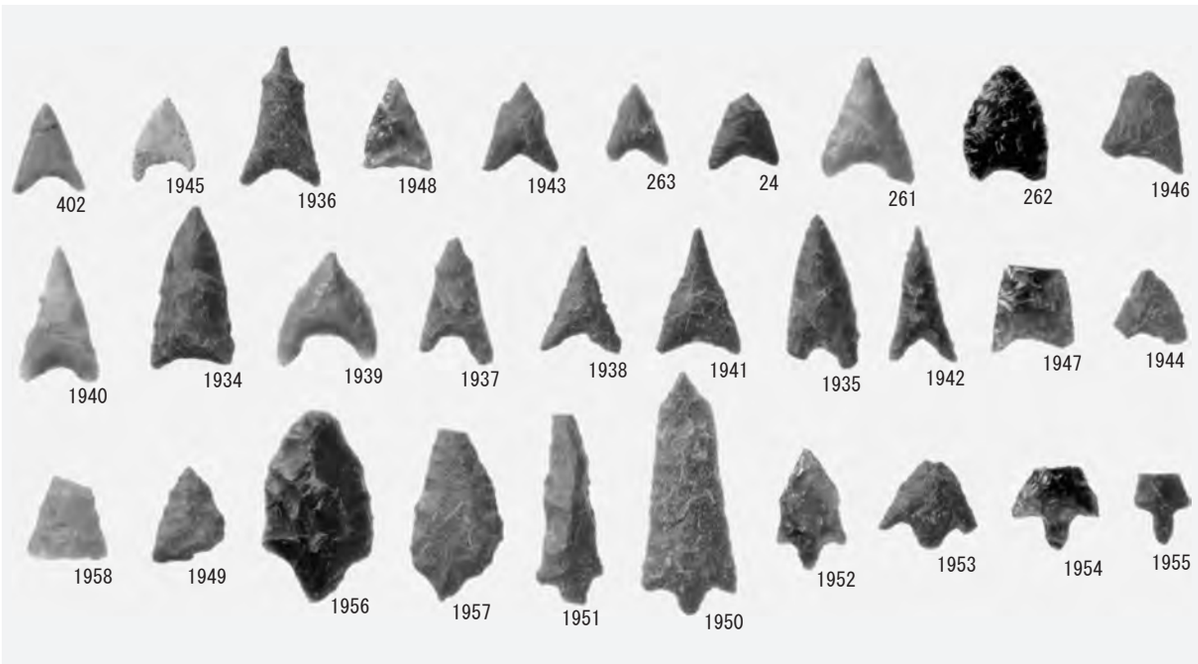


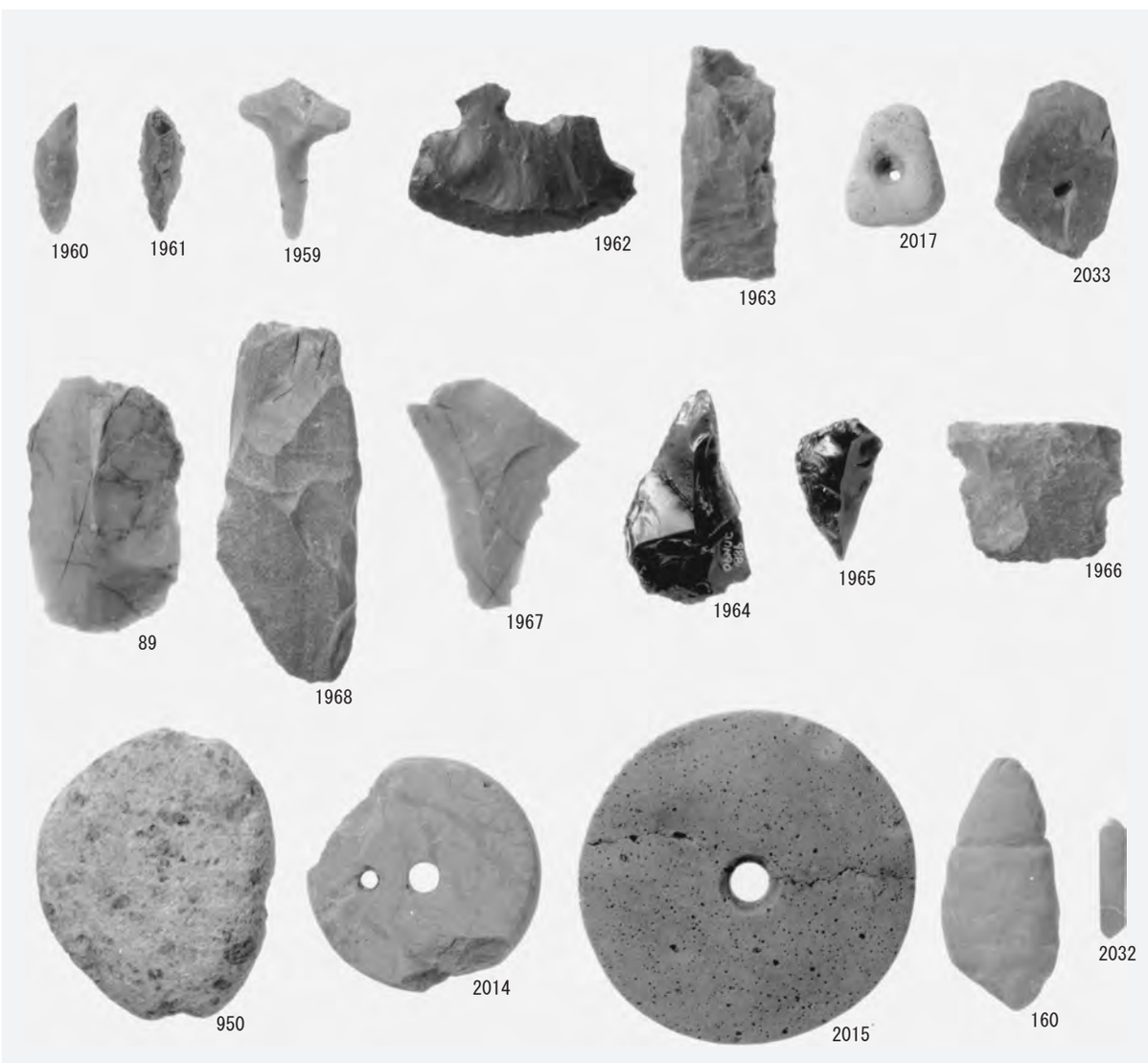

1915
1919
159
1904
1902
1903
1931
158
235
1913
157
1932
1926
1924
1920
77
922
1928
1930
1929
1925


1912
1917
1911
1914
1907
1916
1908
1906
1918
1922
1910
1921
234
1905
1909
1923

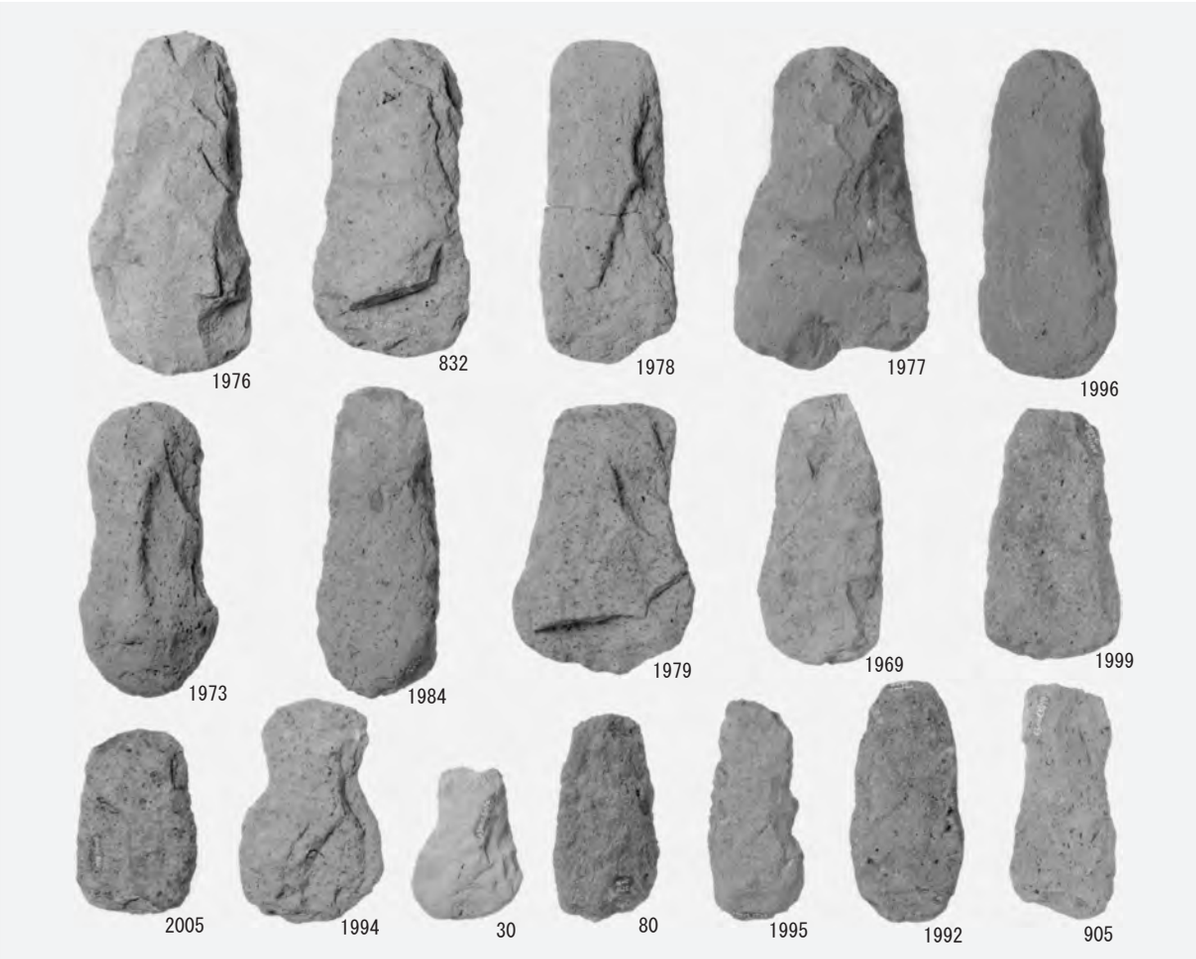
図版118　端材（２）、割板・割板残材、磨製石鏃・石包丁

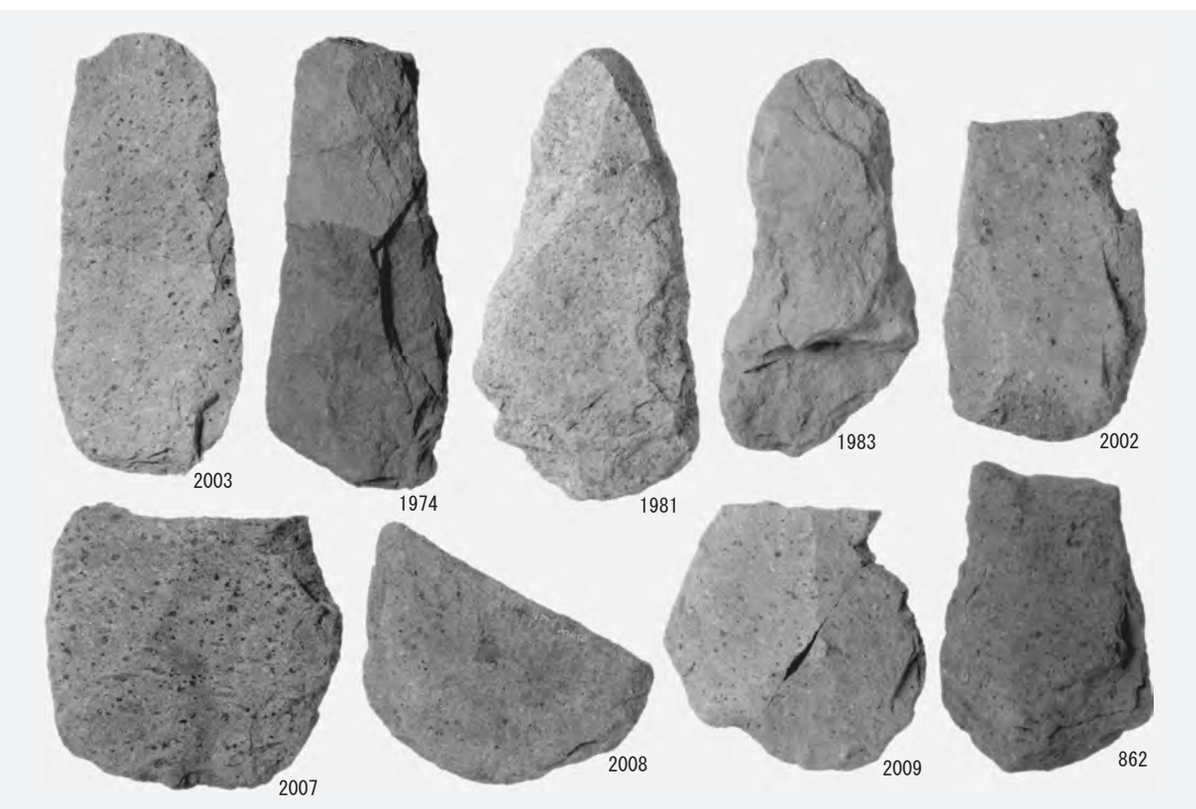


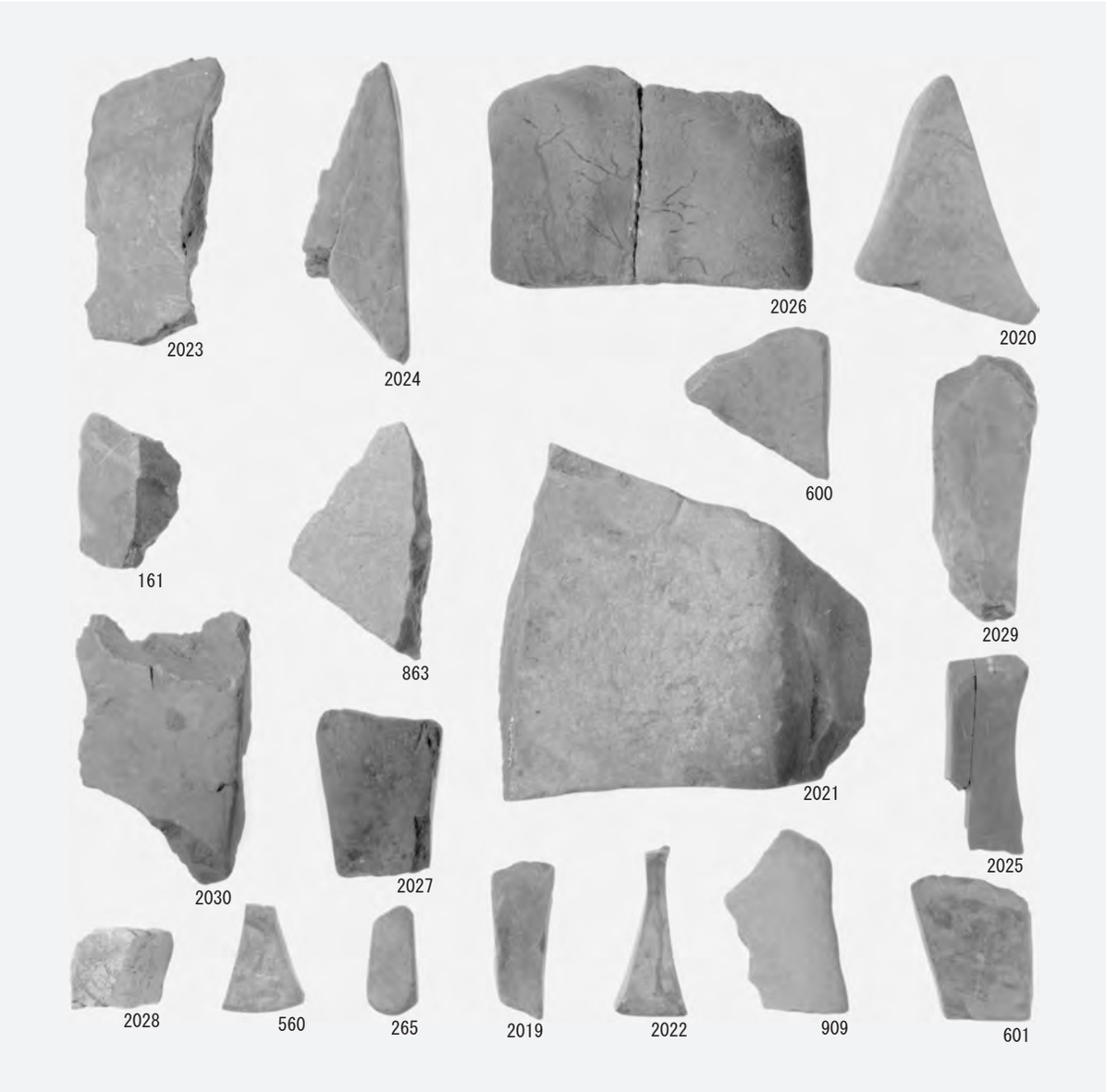

402
1945
1936
1948
1943
263
24
261
262
1946
1940
1934
1939
1937
1938
1941
1935
1942
1947
1944
1958
1949
1956
1957
1951
1950
1952
1953
1954
1955


1960
1961
1959
1962
1963
2017
2033
89
1968
1967
1964
1965
1966
950
2014
2015
160
2032

図版120　打製石斧

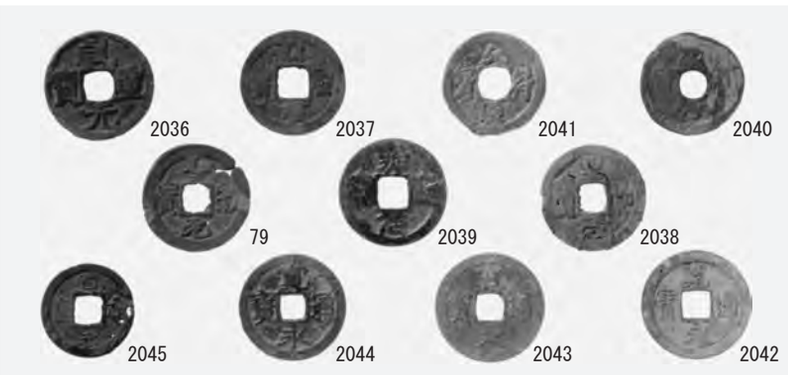

1976
832
1978
1977
1996
1973
1984
1979
1969
1999
2005
1994
30
80
1995
1992
905

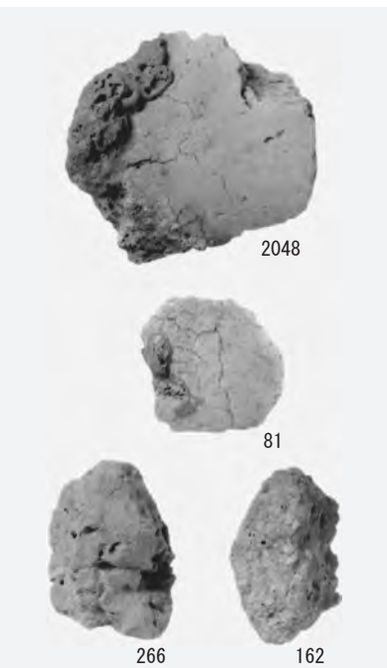

2003
1974
1981
1983
2002
2007
2008
2009
862

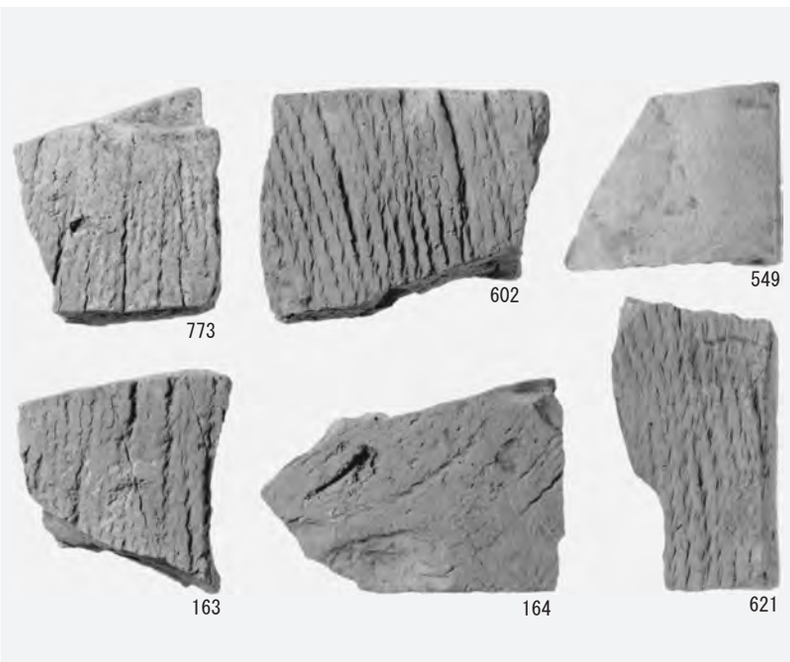

2023
2024
2026
2020
600
161
863
2029
2021
2025
2030
2027
2028
560
265
2019
2022
909
601

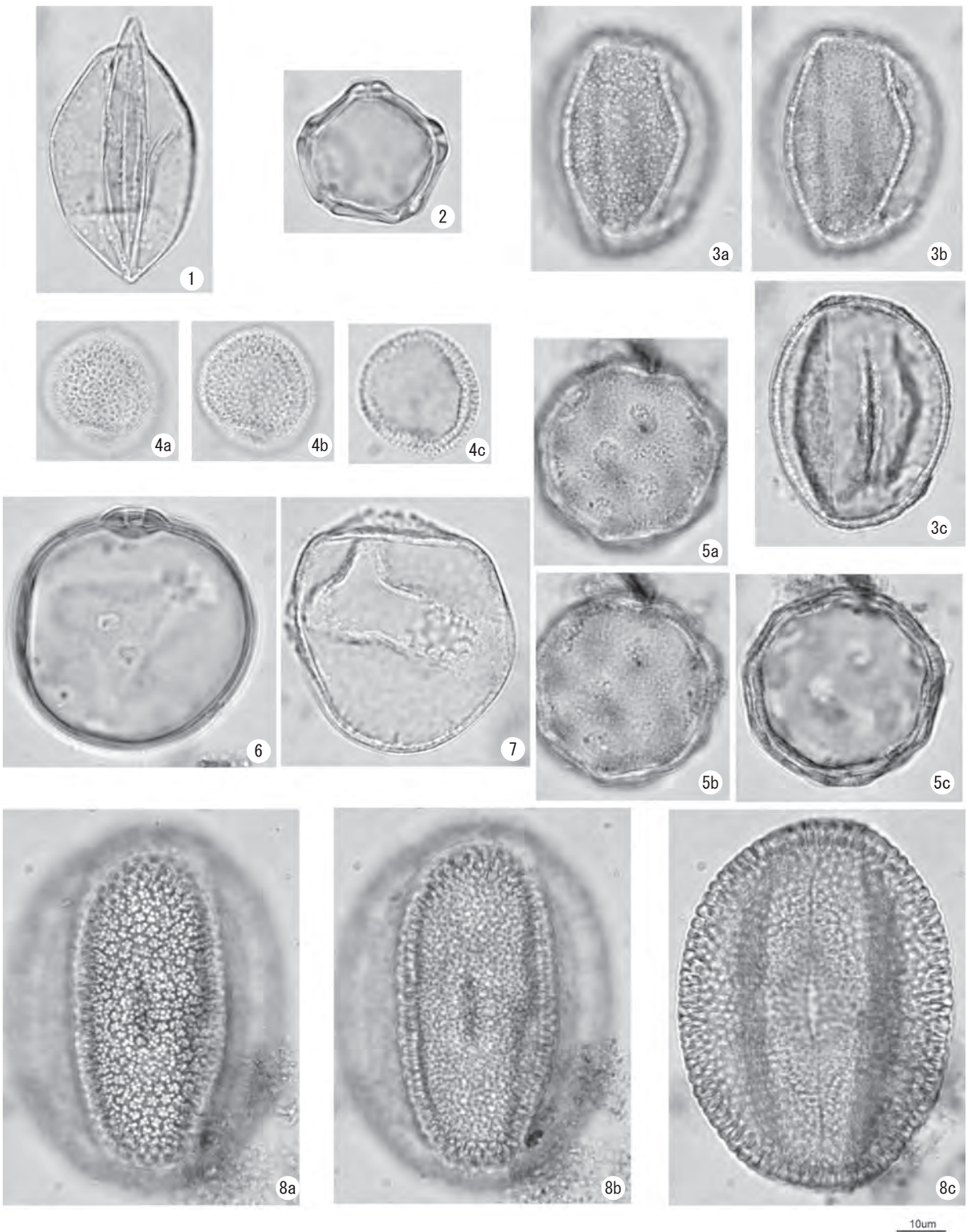
2018
908
2010
2012
2011
2013
2031

図版122　耳環・銅鏃・銅鈴・小柄・古銭、鼈甲製品、匣鉢、羽口・鉄滓、古代瓦



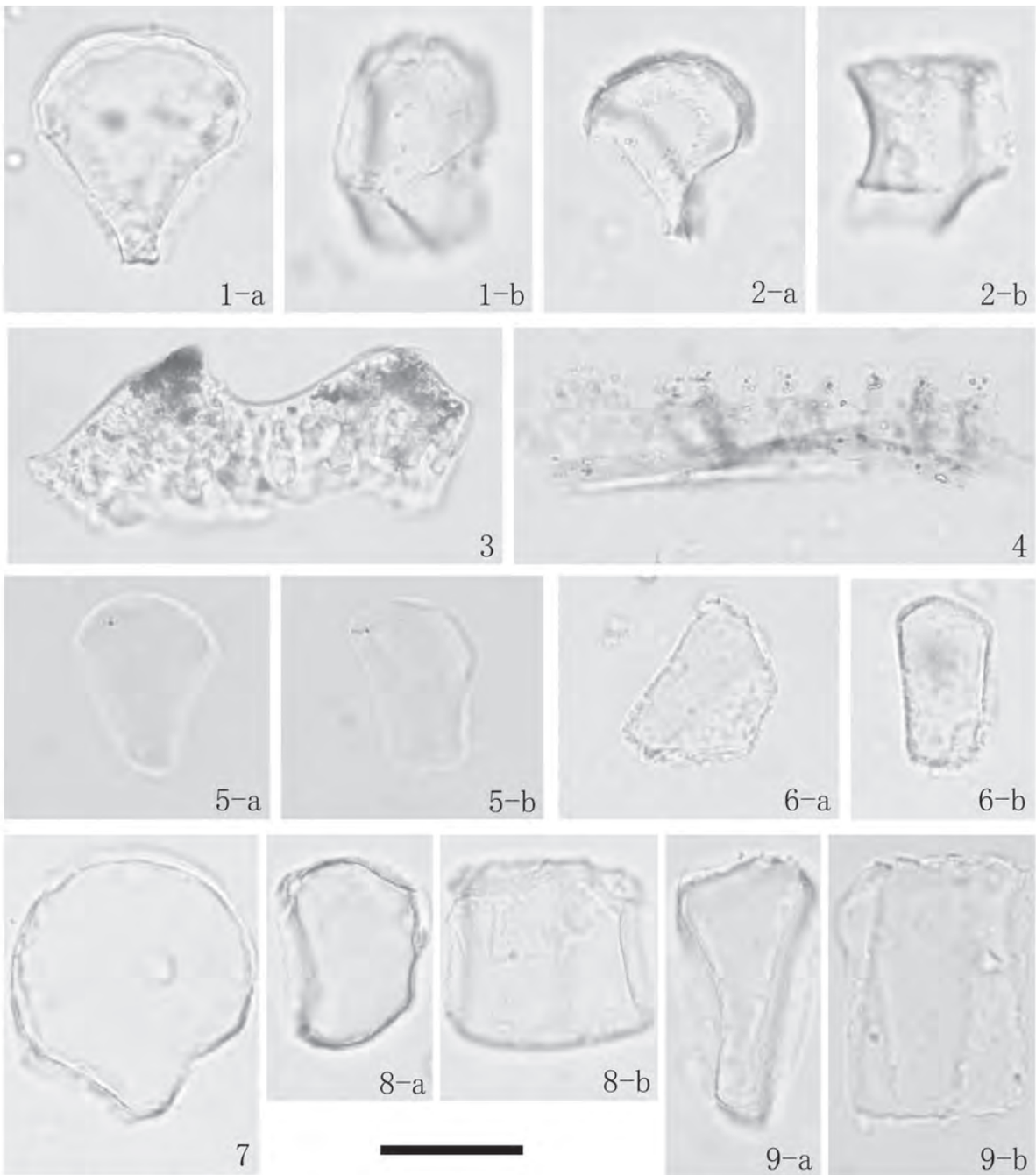




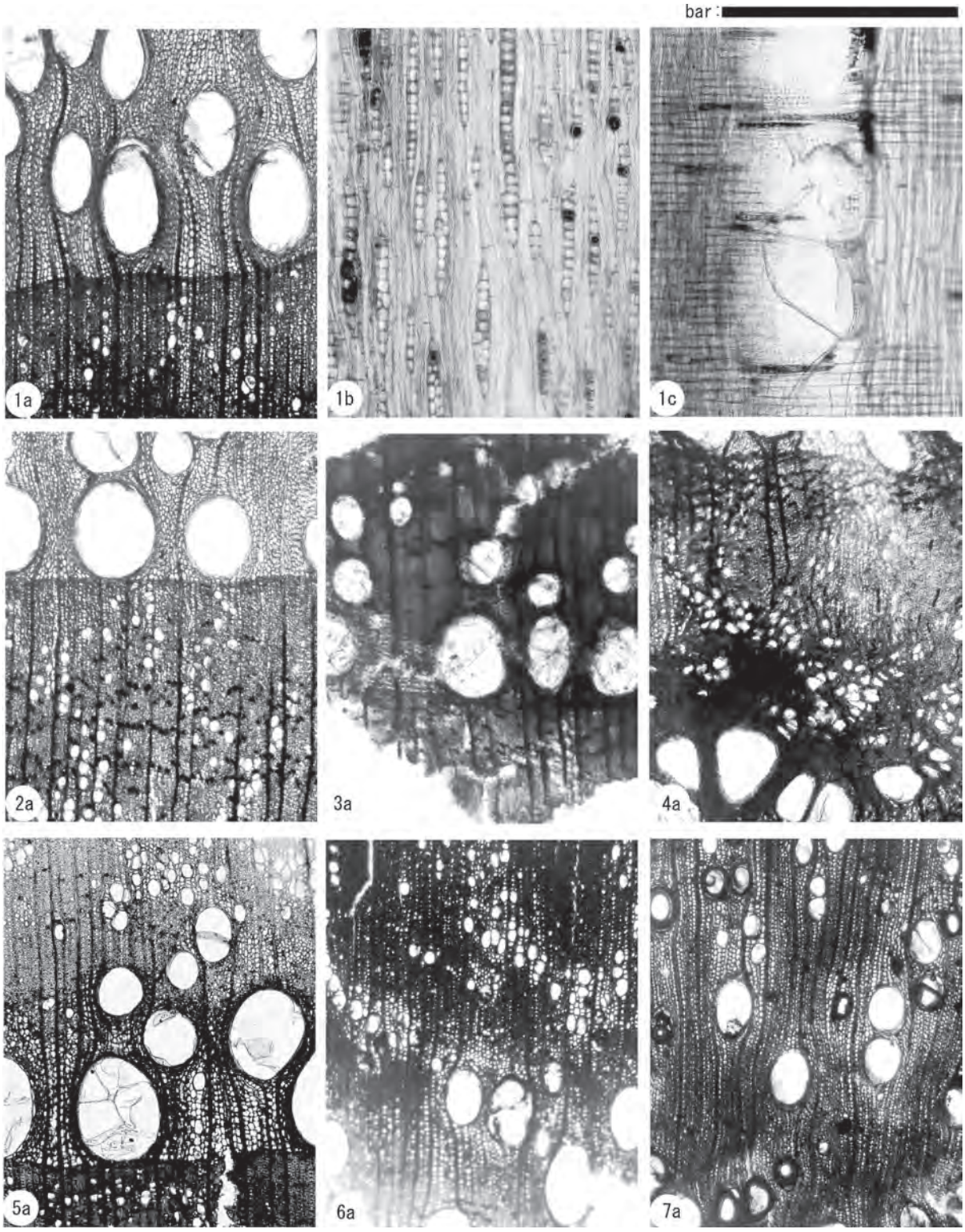


1. イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科、6セⅡ層、PAL.MN　2369
2. ハンノキ属、6セⅢb層、PAL.MN　2371
3. コナラ属コナラ亜属、6セⅢb層、PAL.MN　2370
4. ヒルムシロ属、6セⅢa層、PAL.MN　2364
5. サジオモダカ属、6セⅡ層、PAL.MN　2368
6. イネ科、6セⅡ層、PAL.MN　2367
7. カヤツリグサ科、6セⅡ層、PAL.MN　2366
8. ソバ属、6セⅡ層、PAL.MN　2365

図版124　プラント・オパール

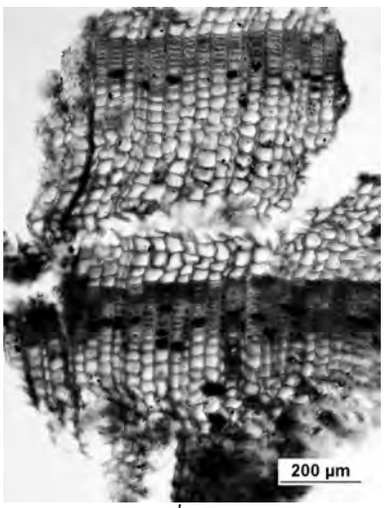


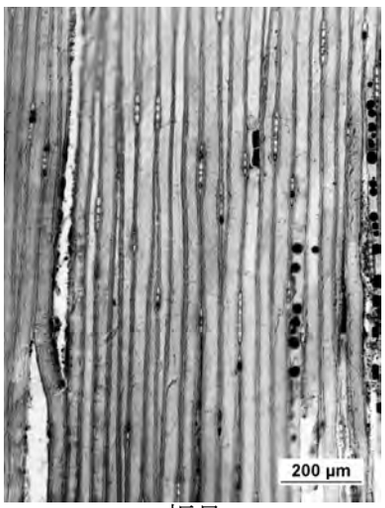
1･2: イネ（a: 断面、b: 側面）　1:6 セ、2:15 タ
3: イネ穎部珪酸体破片　6 セ
4: イネ型単細胞珪酸体（列状）　6 セ
5: ネザサ節型（a: 断面、b: 側面）　6 セ
6: クマザサ属型（a: 断面、b: 側面）　15 タ
7: ヨシ属（断面）　6 セ
8: キビ族（a: 断面、b: 側面）　6 セ
9: ウシクサ族（a: 断面、b: 側面）　6 セ
(scale bar:0.03mm)



1a-1c: クリ (239P 柱根、遺物番号 17:PLD-5511)　2a: クリ (222P 柱根、遺物番号 14)
3a: クリ (223P 礎板、遺物番号 13)　4a: クリ (238P 柱根、遺物番号 16)　5a: クリ (241P 柱根、遺物番号 18)
6a: クリ (346P 柱根、遺物番号 20:PLD-4795)　7a: クリ (352P 棟持柱根、遺物番号 21:PLD-4794)
a: 横断面　b: 接線断面　c: 放射断面　bar:a=1.0mm, b=0.4mm, c=0.2mm.

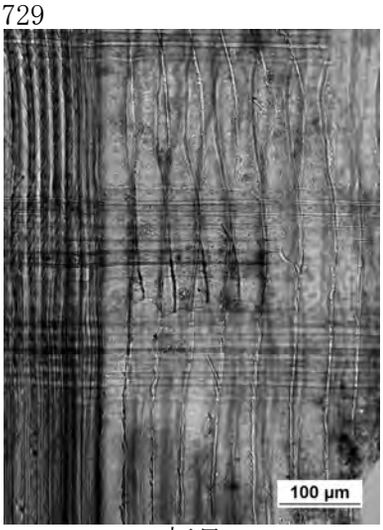
図版126　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（１）





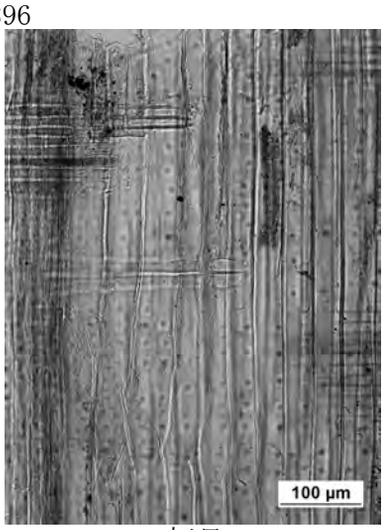
木口　　柾目　　板目

スギ科スギ属スギ　遺物番号1729



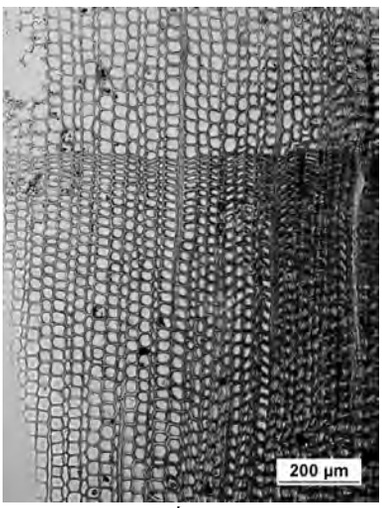
木口　　柾目　　板目

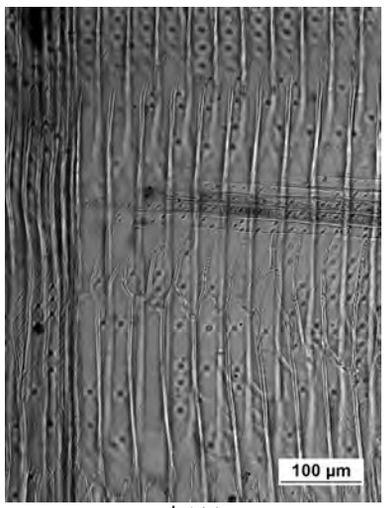
ヒノキ科ヒノキ属　遺物番号896

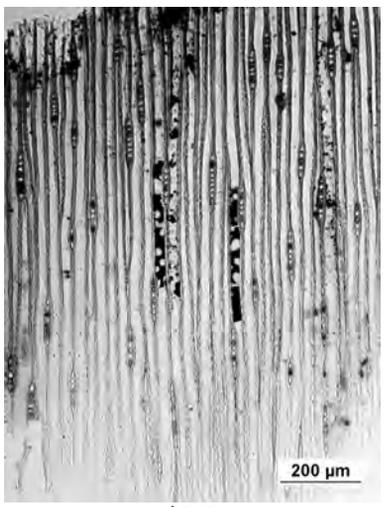


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科ヒノキ属　遺物番号1735

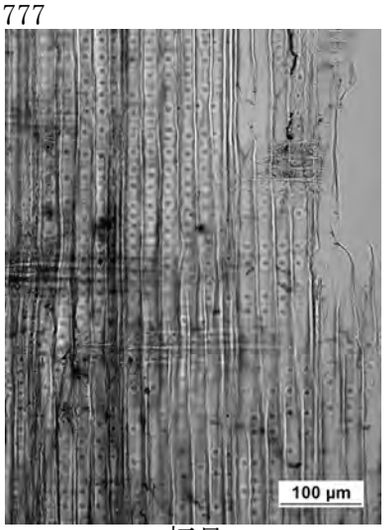






木口　　柾目　　板目

ヒノキ科ヒノキ属　遺物番号1777



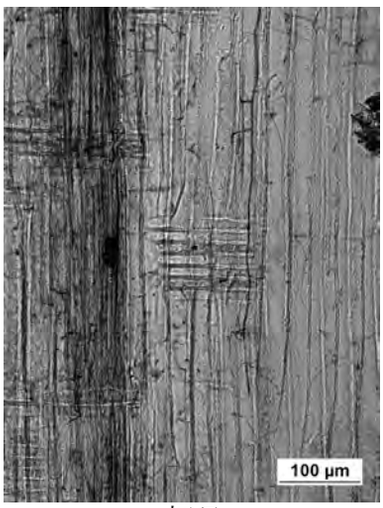
木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号73

木口　　柾目　　板目

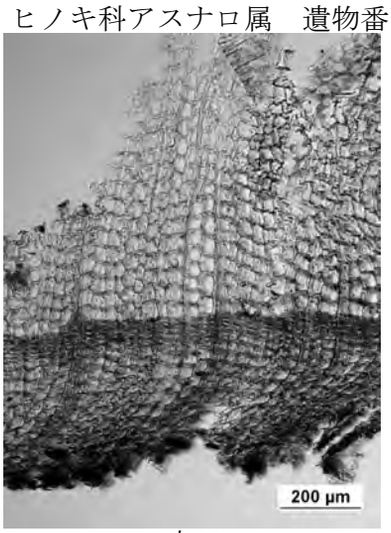
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号143

図版128　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（３）



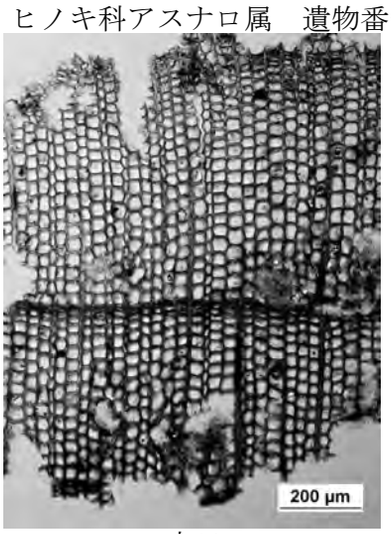
木口　　柾目　　板目

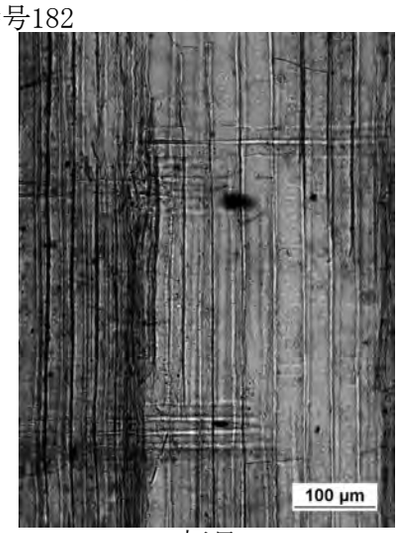
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号153



木口　　柾目　　板目

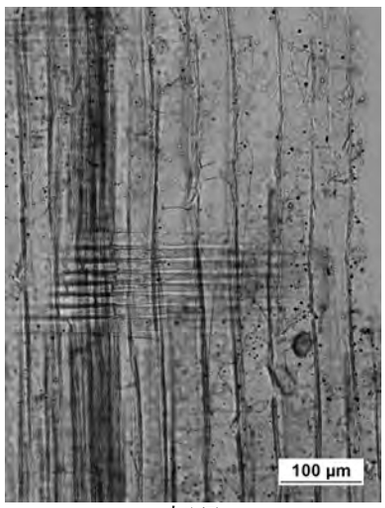
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号182





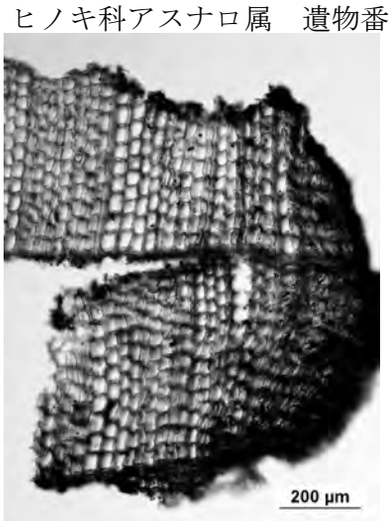
木口　　柾目　　板目

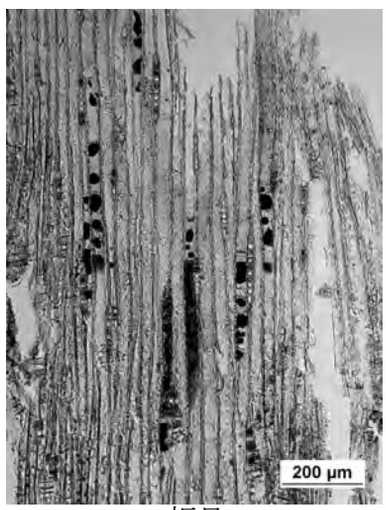
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号292



木口　　柾目　　板目

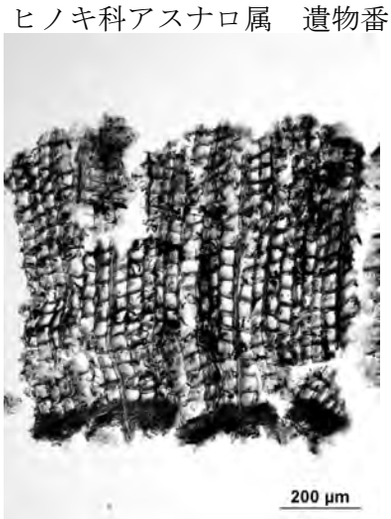
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号691

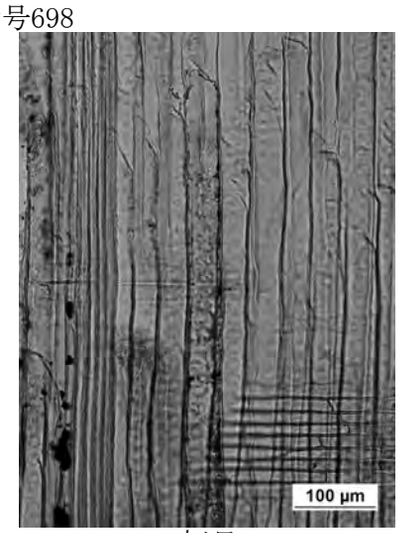


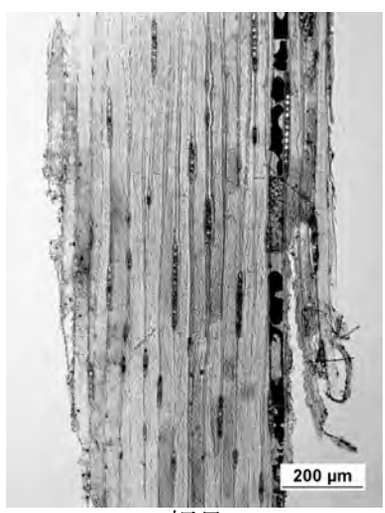


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号698



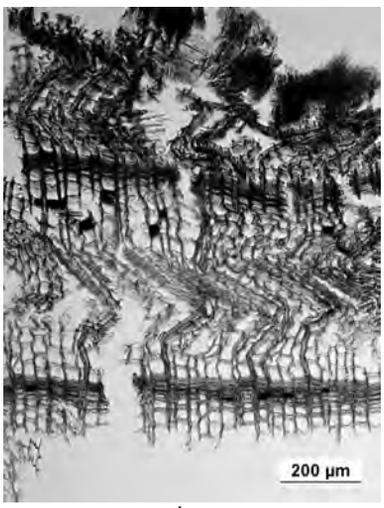


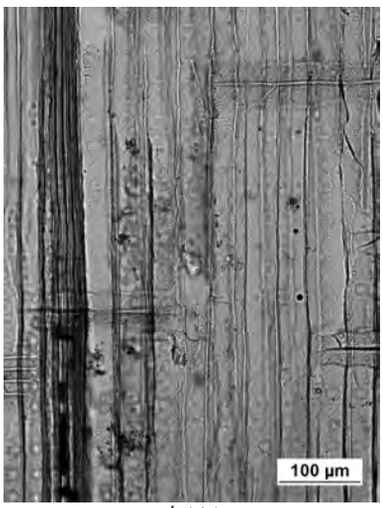


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号788

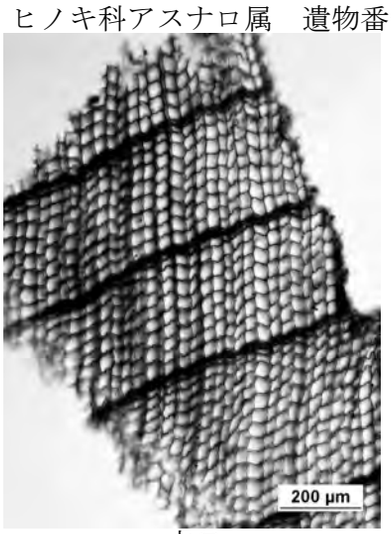
図版130　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（５）





木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号876

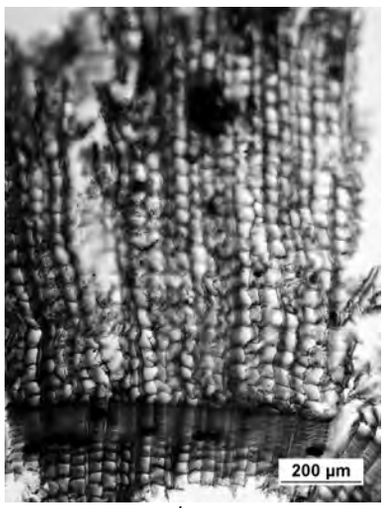


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号891

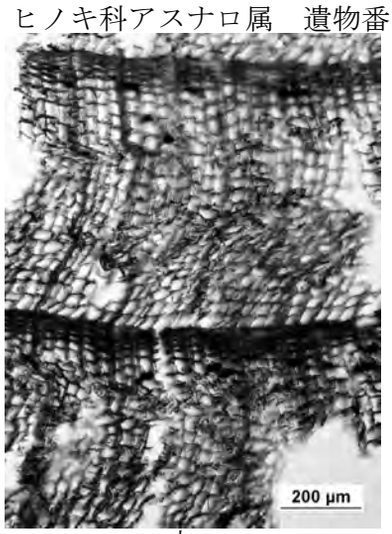
木口　　柾目　　板目

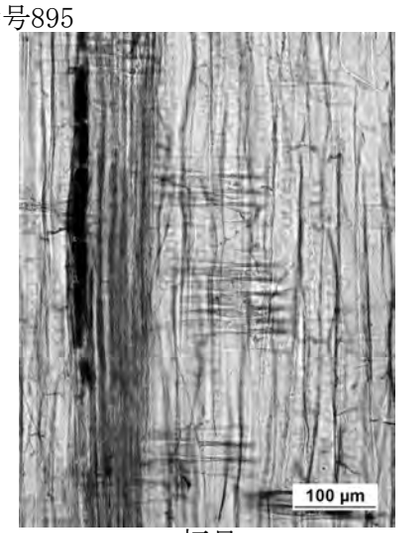
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号892

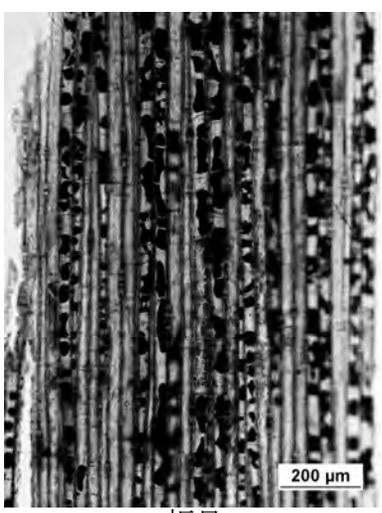


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号895

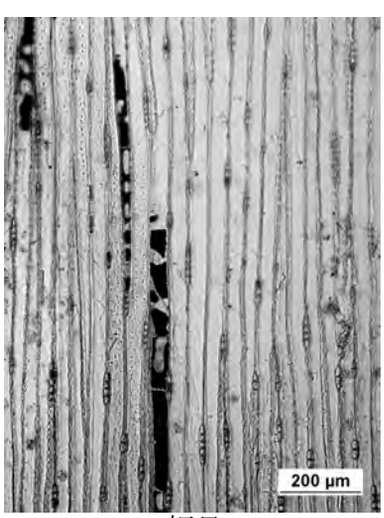






木口　　柾目　　板目

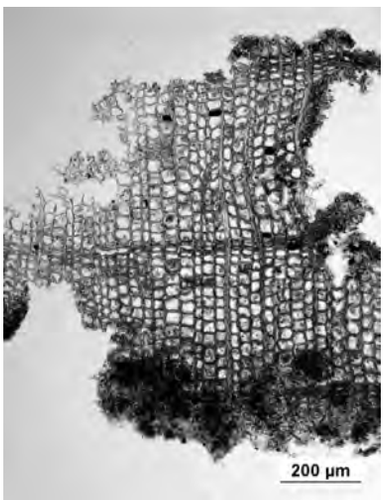
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号899

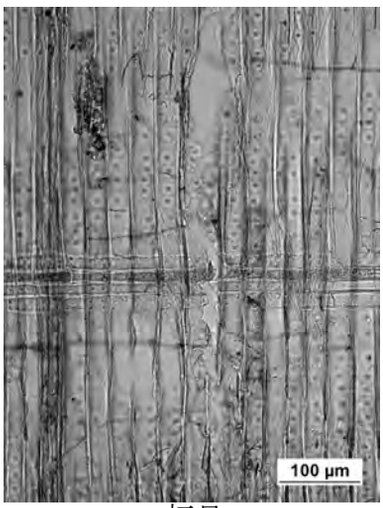


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1494

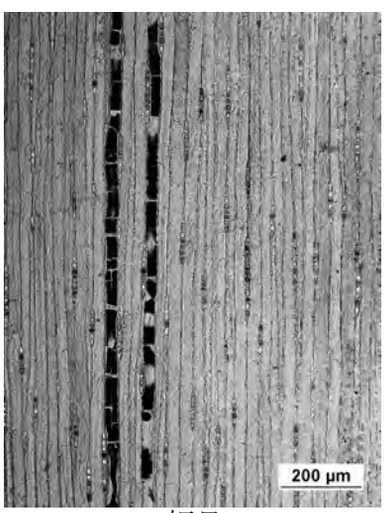
図版132　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（７）





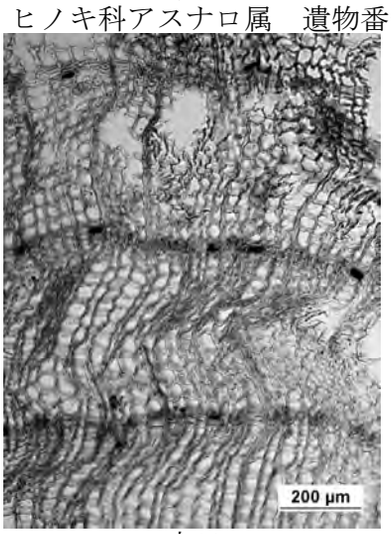
木口　　柾目　　板目

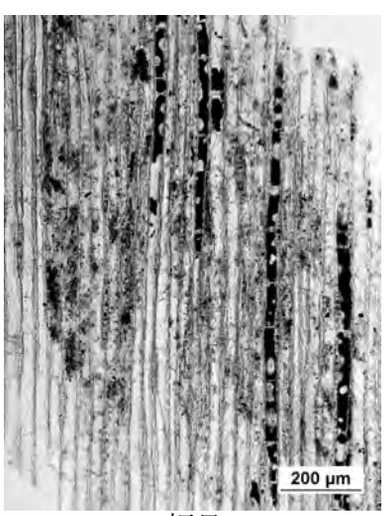
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1496



木口　　柾目　　板目

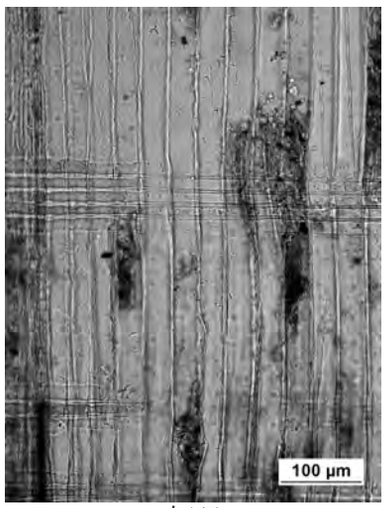
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1497





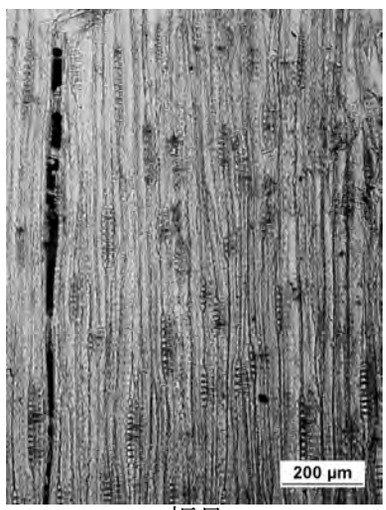
木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1498



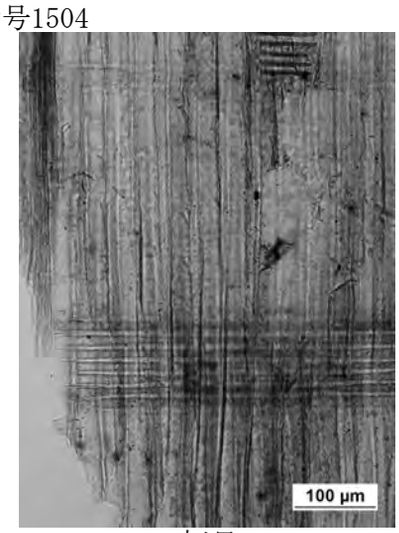
木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1502



木口　　柾目　　板目

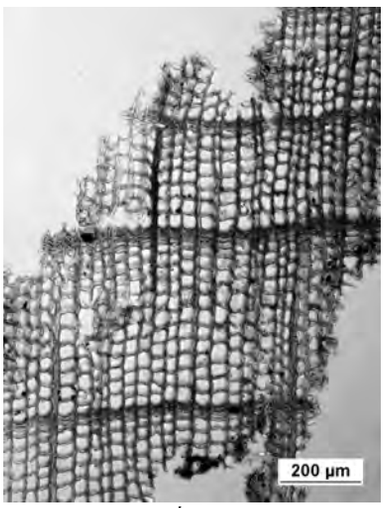
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1504

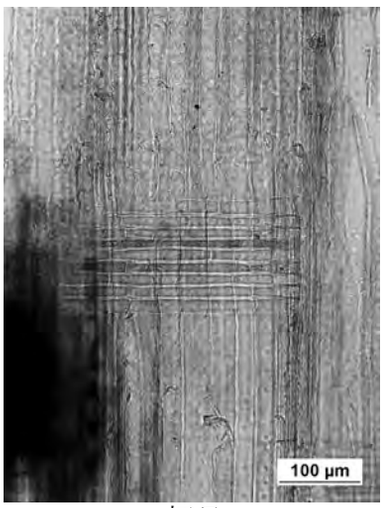


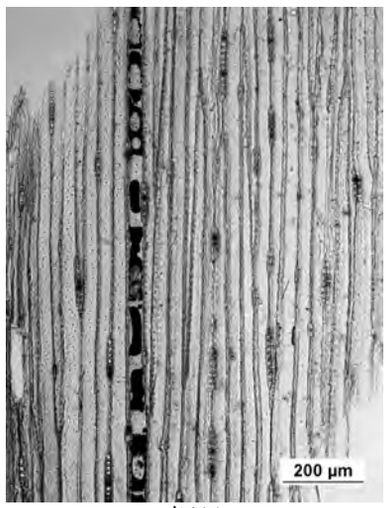
木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1512

図版134　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（９）

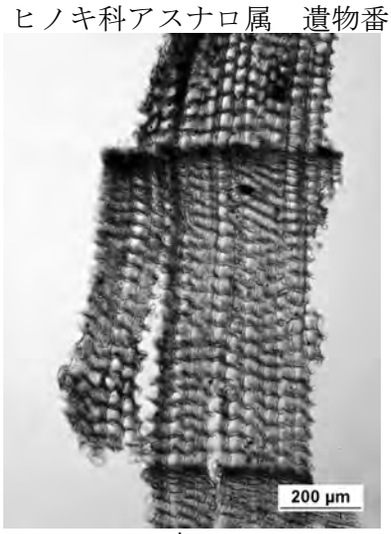






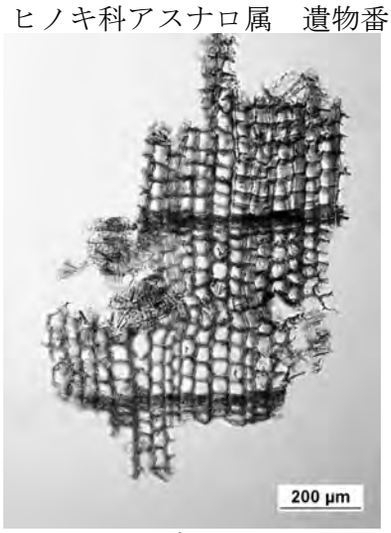
木口　　柾目　　板目

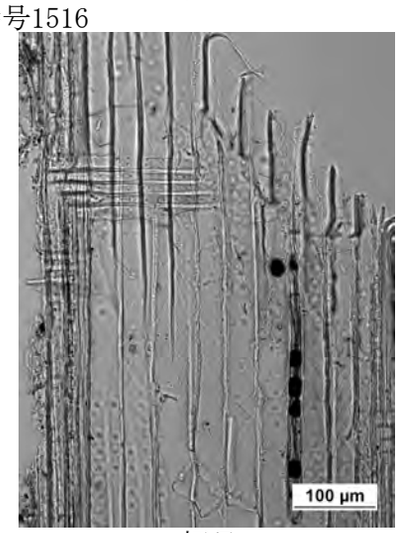
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1513



木口　　柾目　　板目

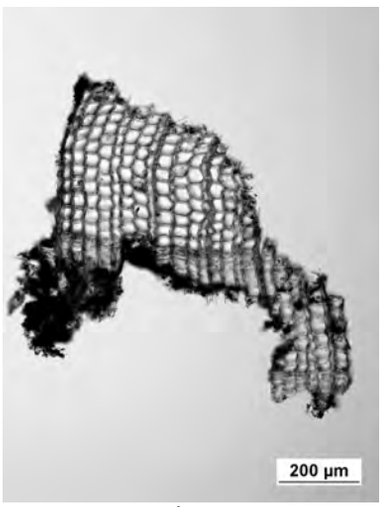
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1516

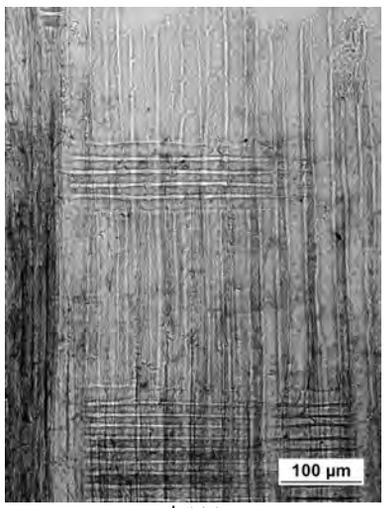


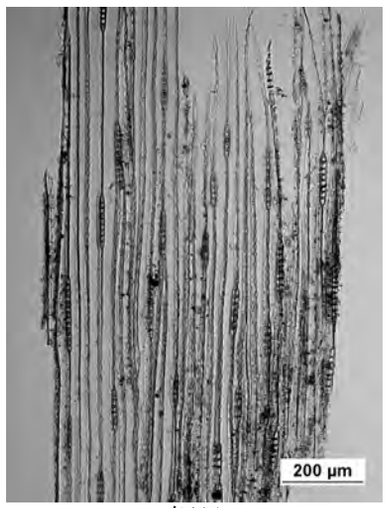


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1519

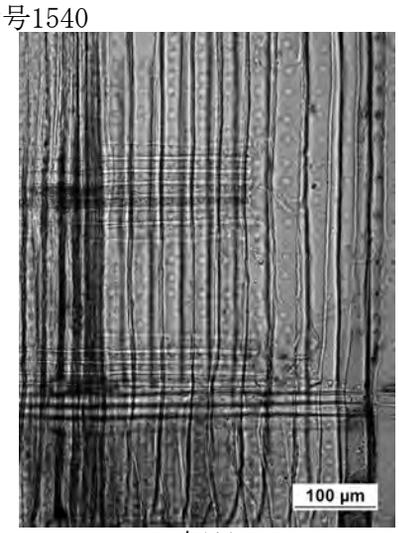






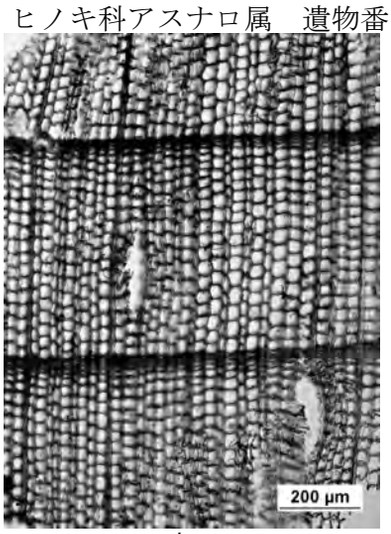
木口　　柾目　　板目

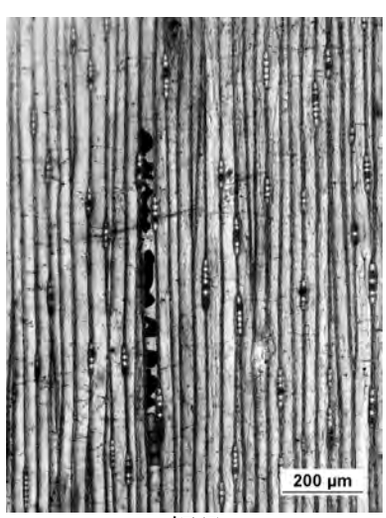
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1540



木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1547

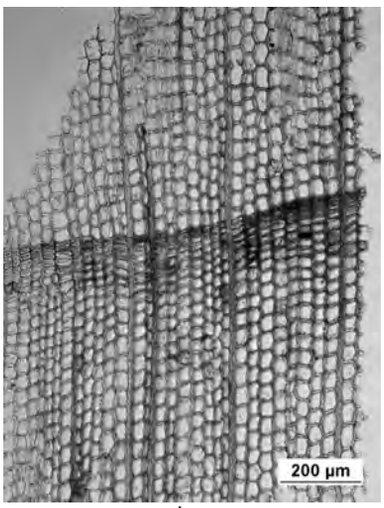


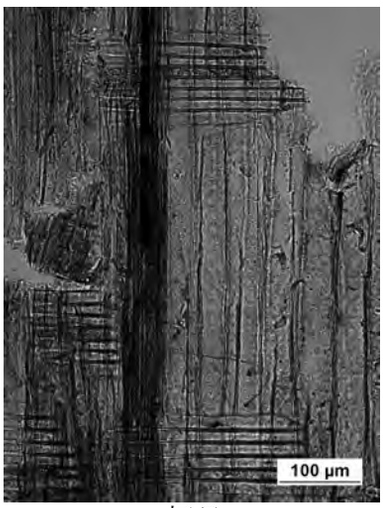


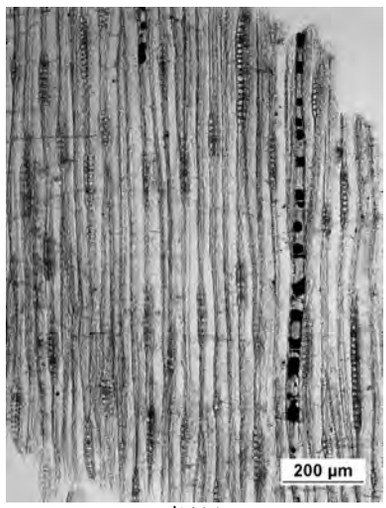
木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1554

図版136　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（11）

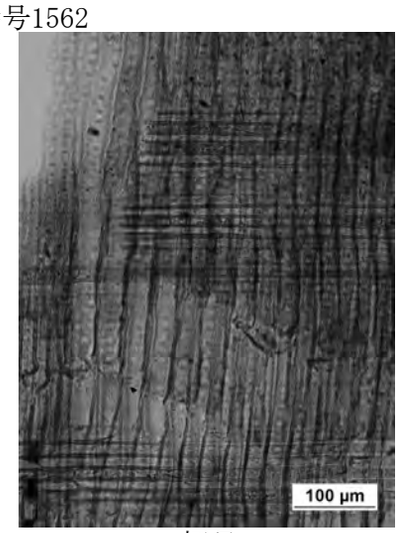






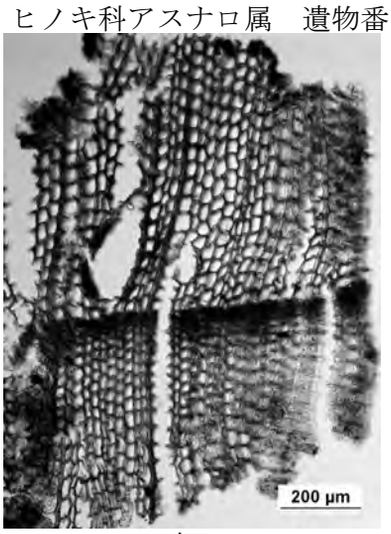
木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1562



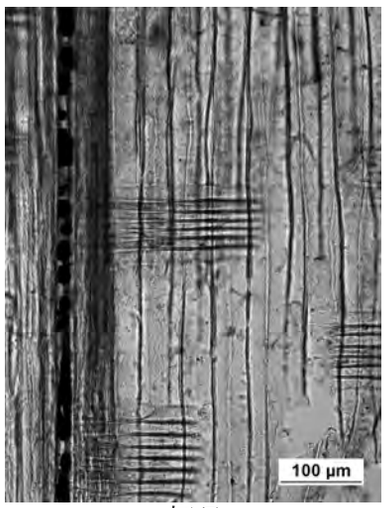
木口　　柾目　　板目

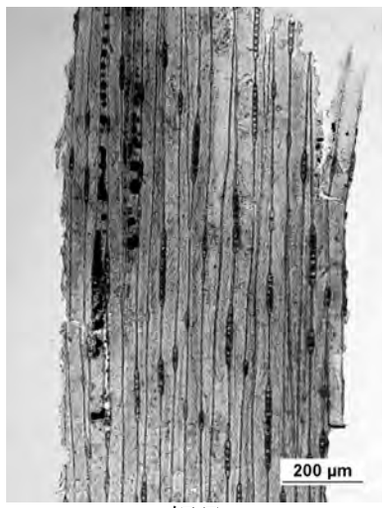
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1565（紡錘車の紡輪）



木口　　柾目　　板目

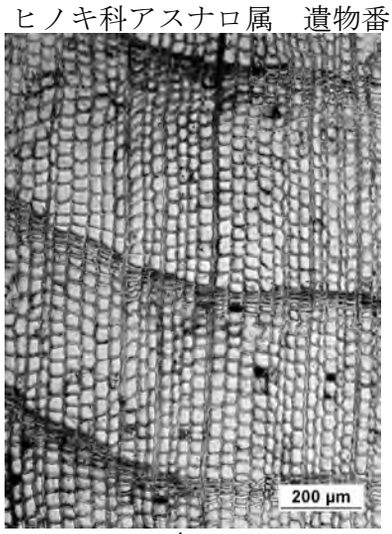
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1566

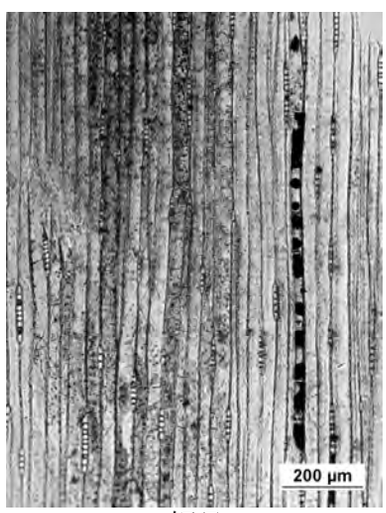




木口　　柾目　　板目

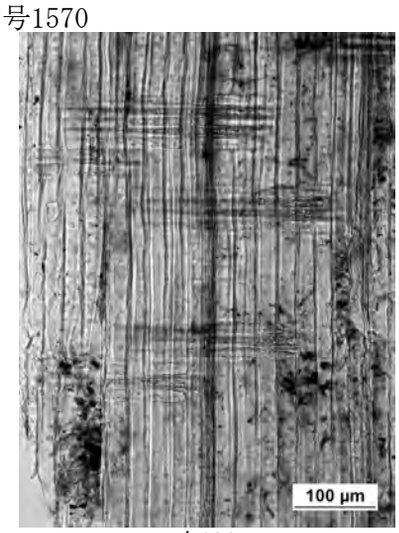
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1567





木口　　柾目　　板目

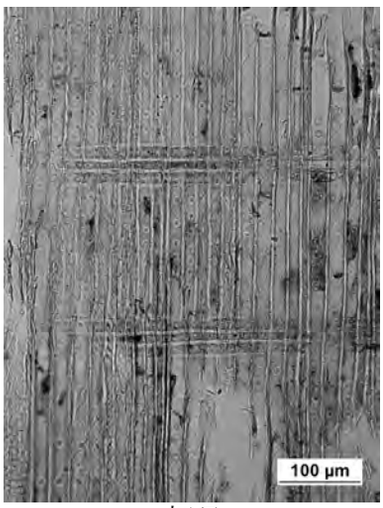
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1570

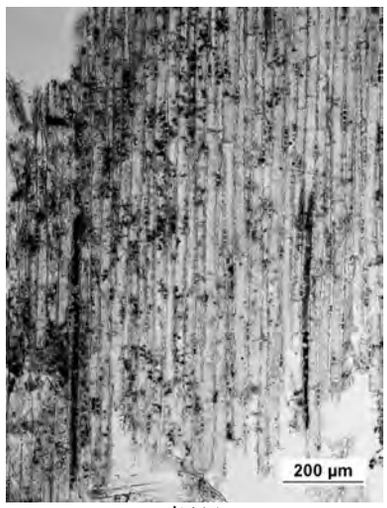


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1578

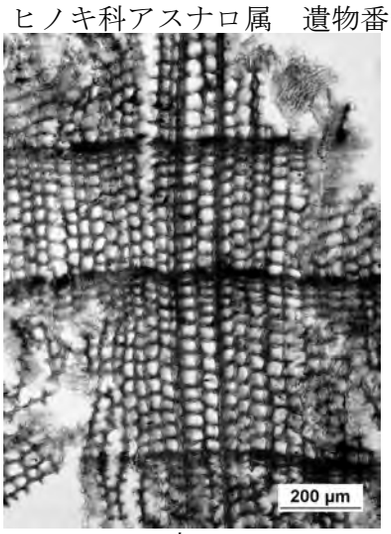
図版138　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（13）





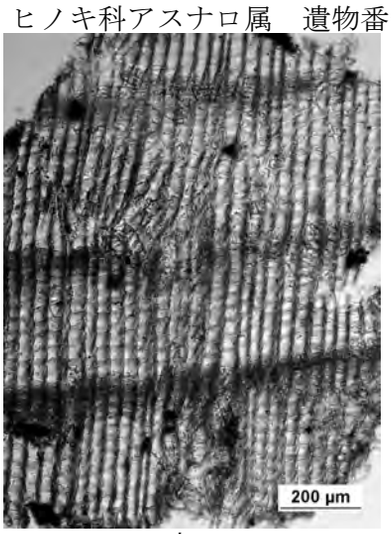
木口　　柾目　　板目

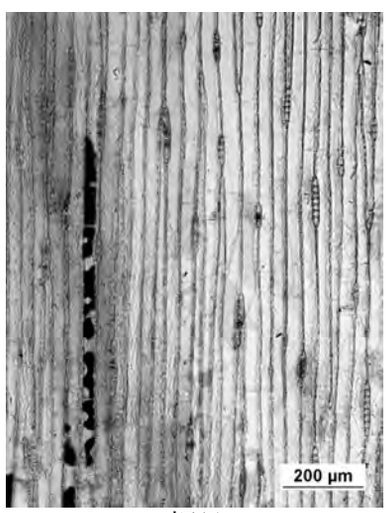
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1579



木口　　柾目　　板目

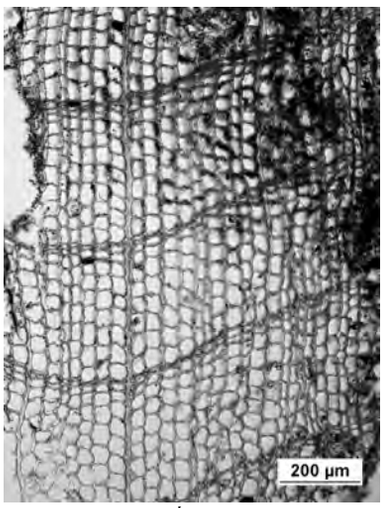
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1710

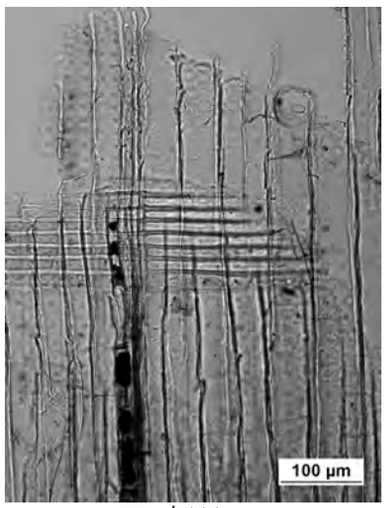


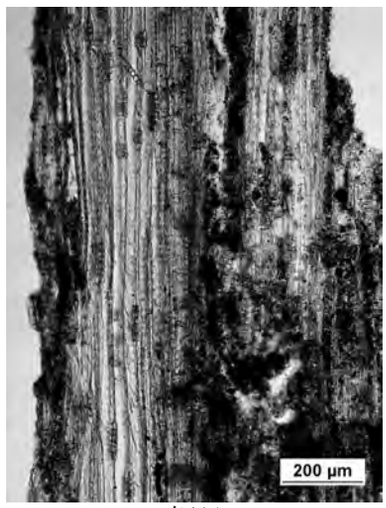


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1715

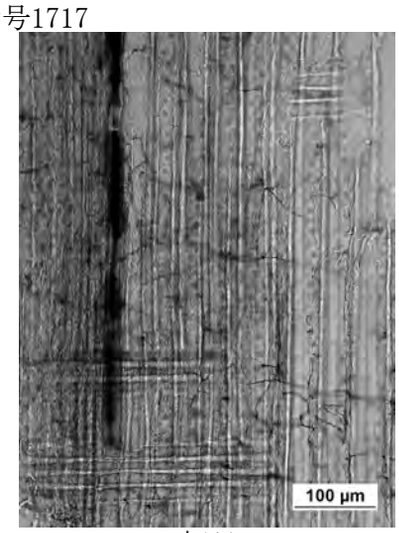






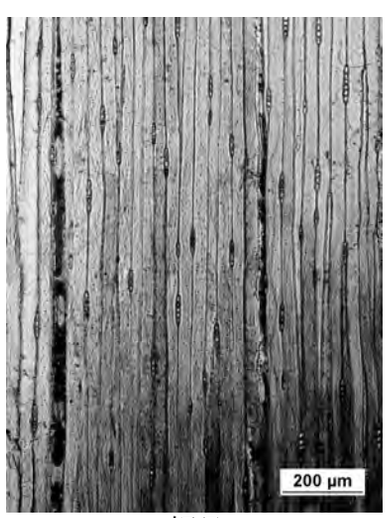
木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1717



木口　　柾目　　板目

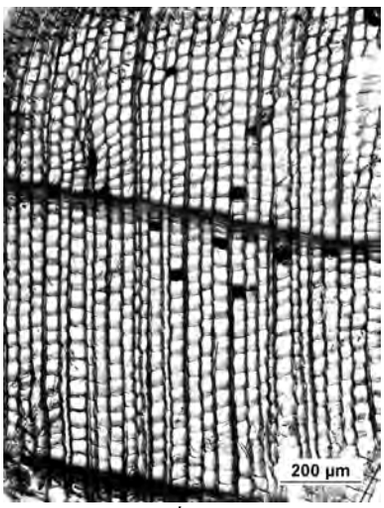
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1767

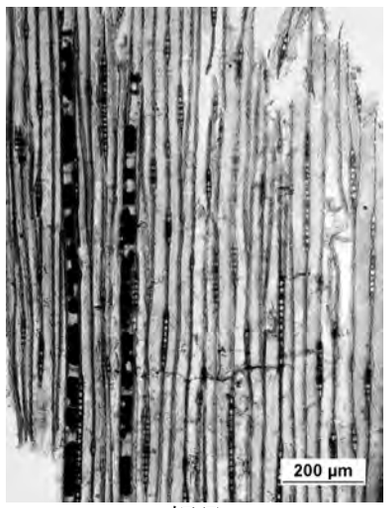


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1771

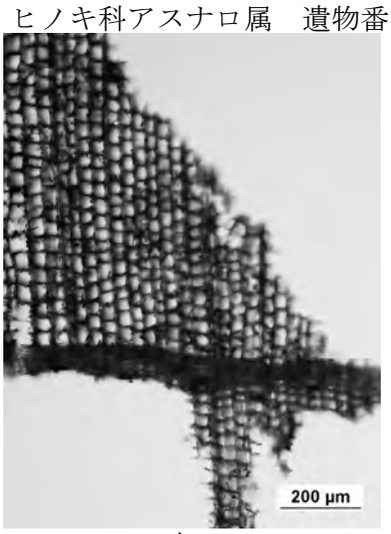
図版140　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（15）

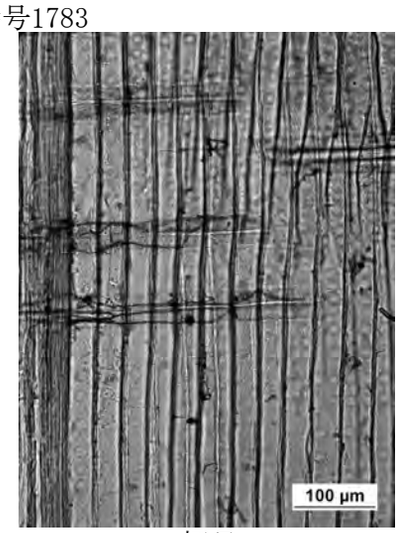




木口　　柾目　　板目

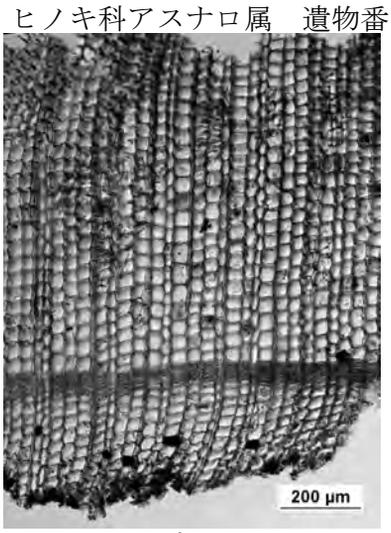
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1783

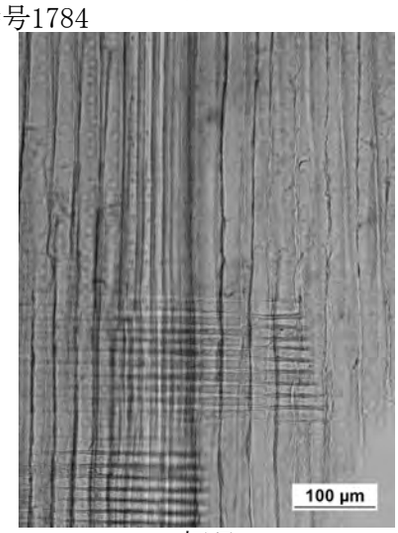




木口　　柾目　　板目

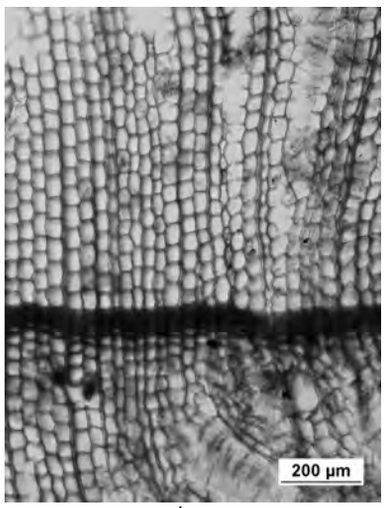
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1784

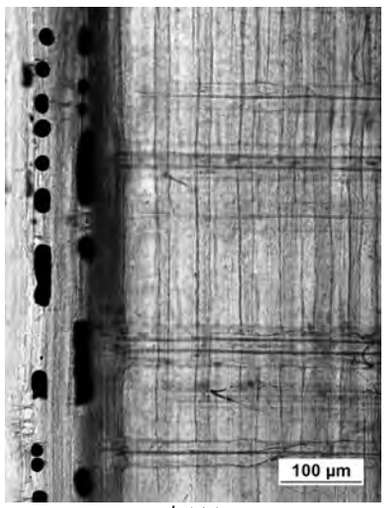


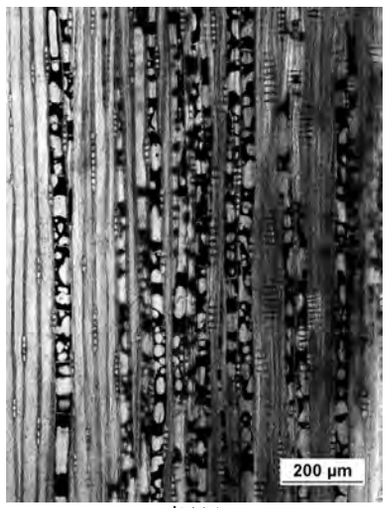


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1786

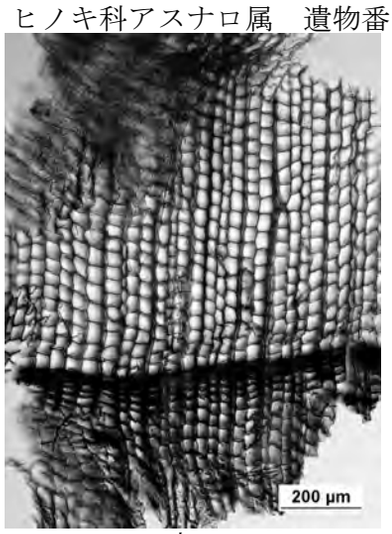






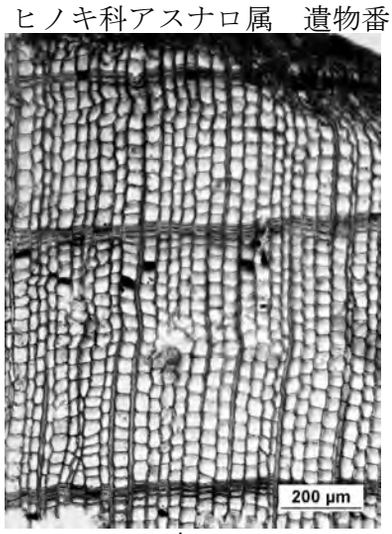
木口　　柾目　　板目

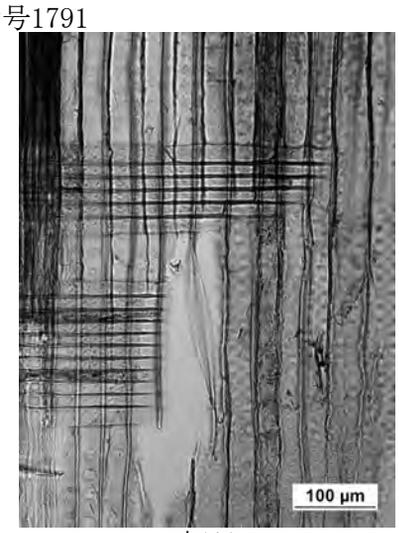
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1787



木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1791

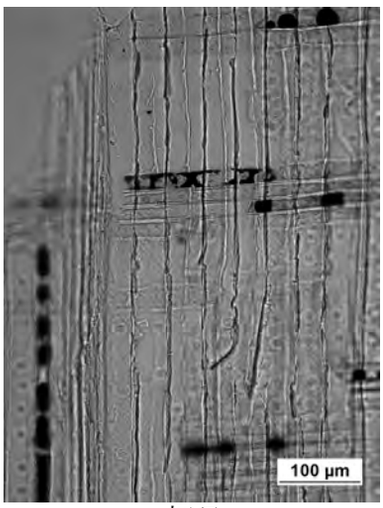


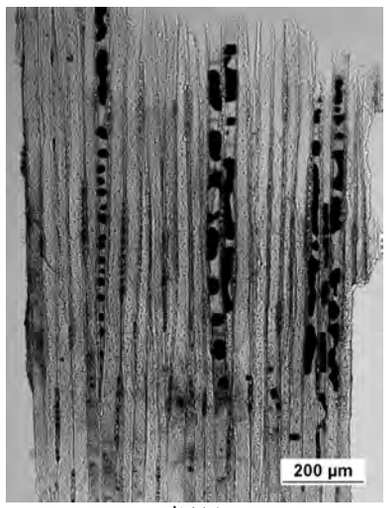


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1793

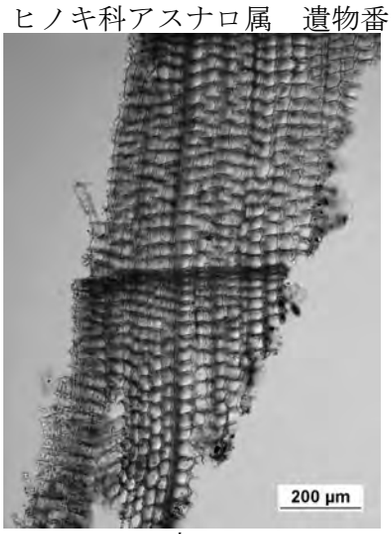
図版142　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（17）

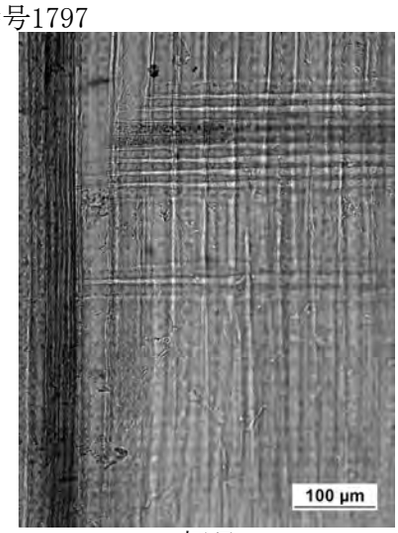


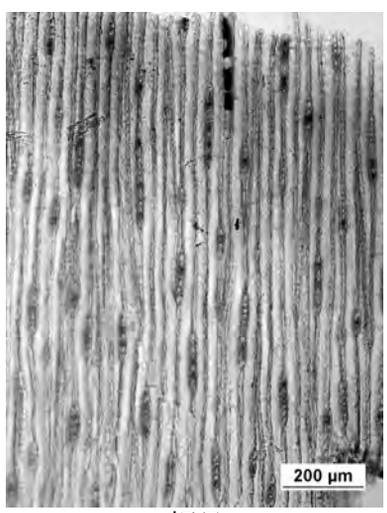


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1797

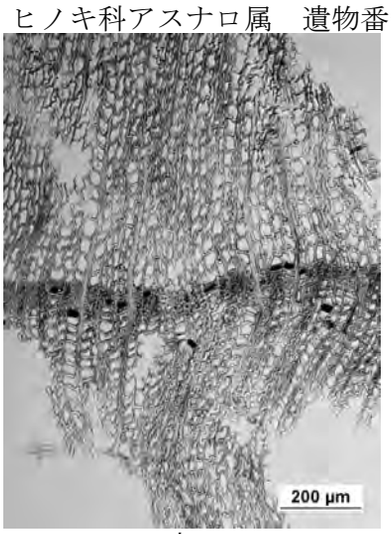


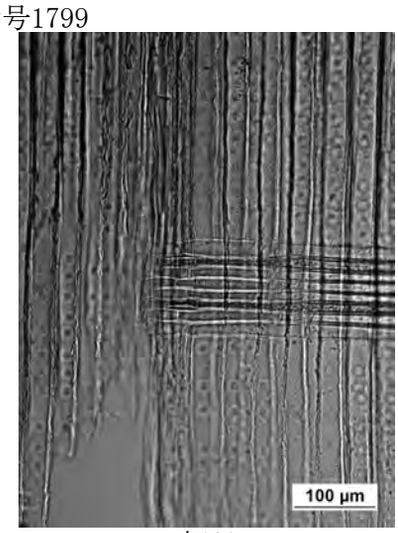




木口　　柾目　　板目

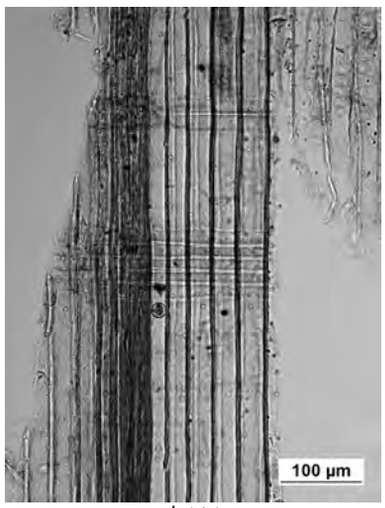
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1799





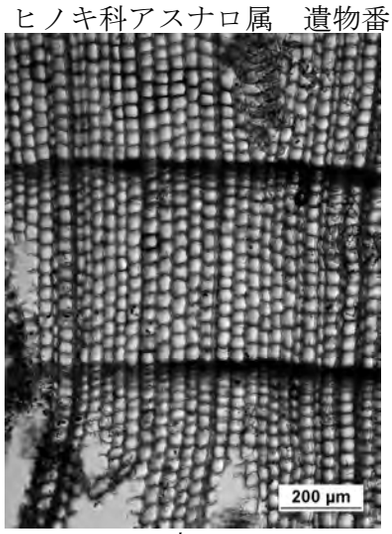
木口　　柾目　　板目

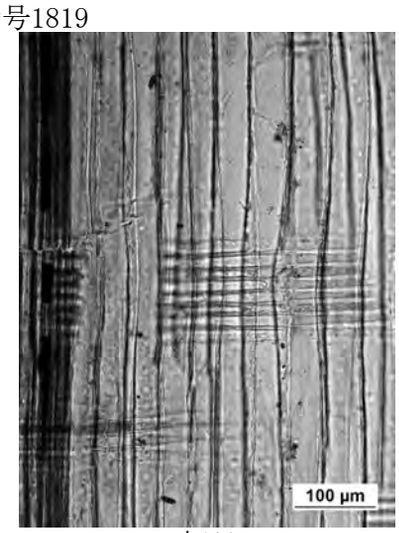
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1806

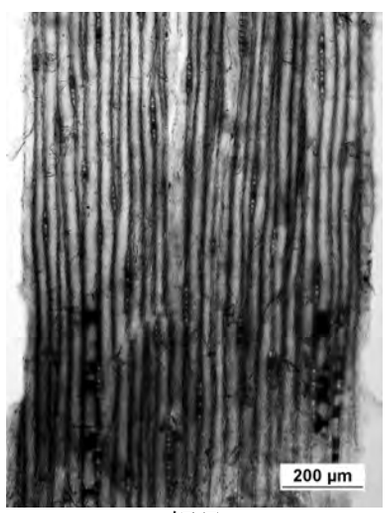


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1819

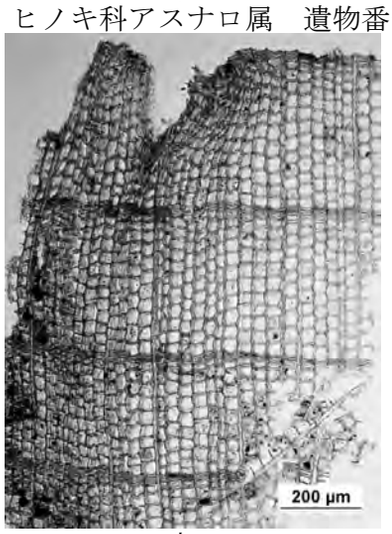


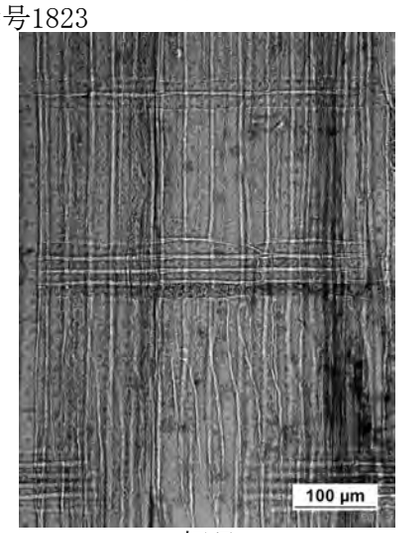




木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1823

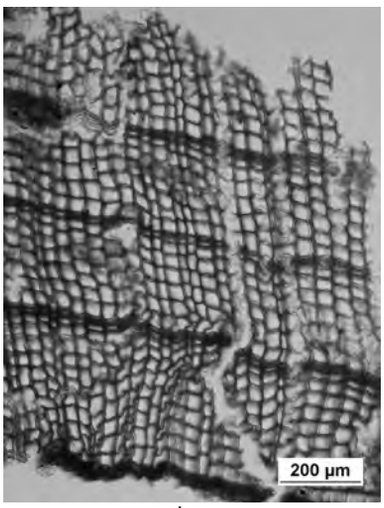


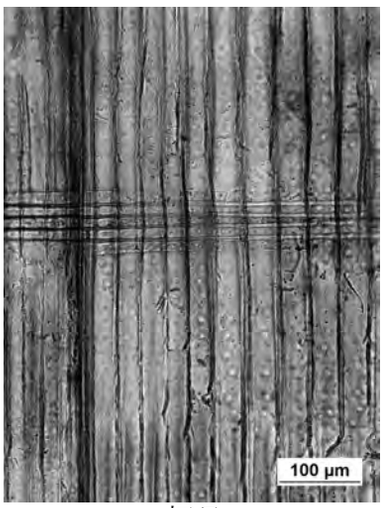


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1838

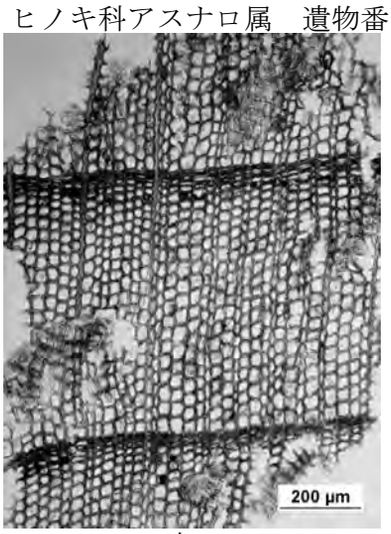
図版144　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（19）

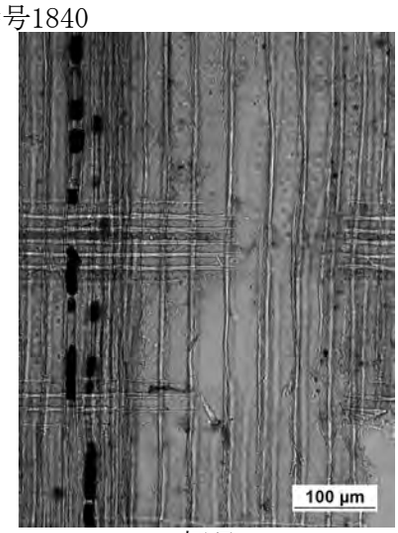




木口　　柾目　　板目

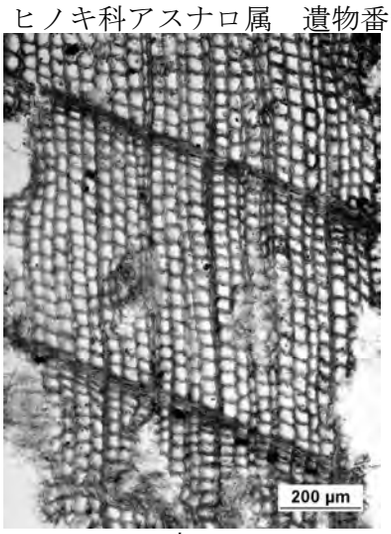
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1840

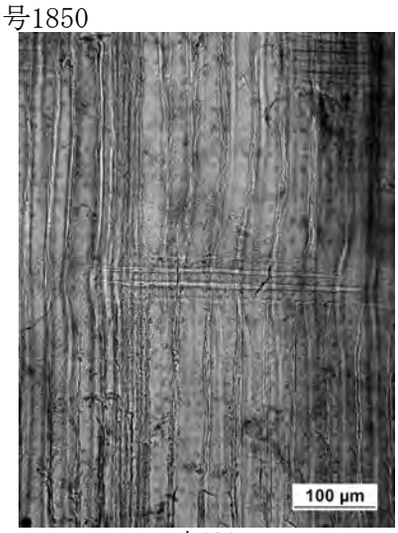




木口　　柾目　　板目

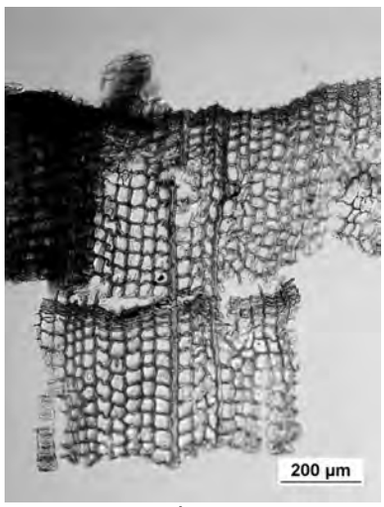
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1850

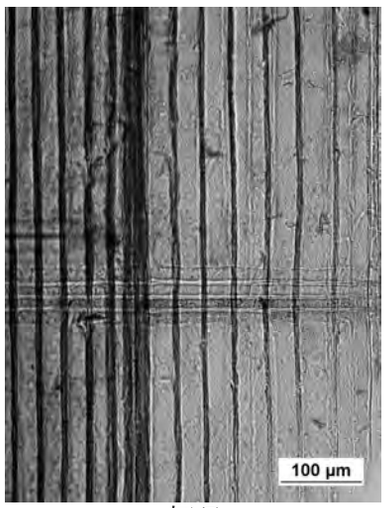


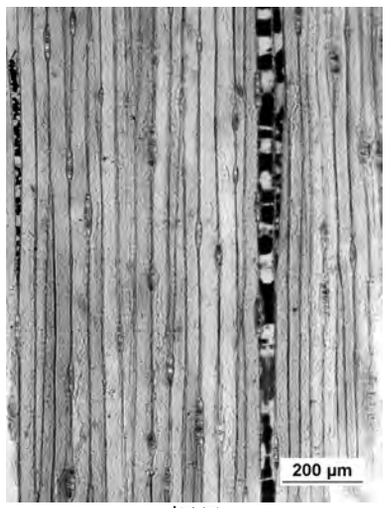


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1858

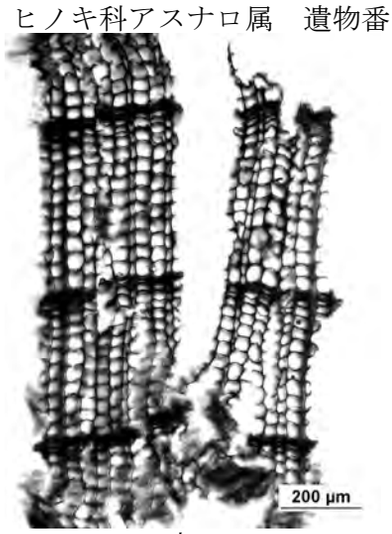


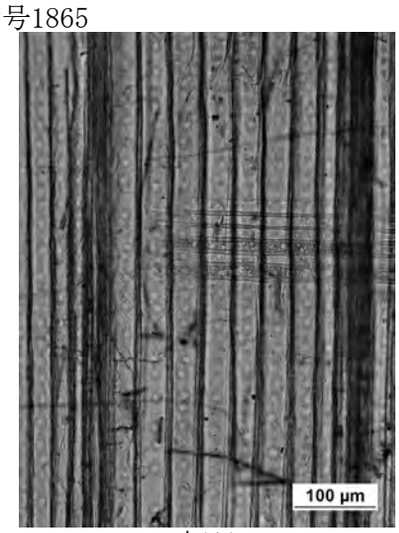




木口　　柾目　　板目

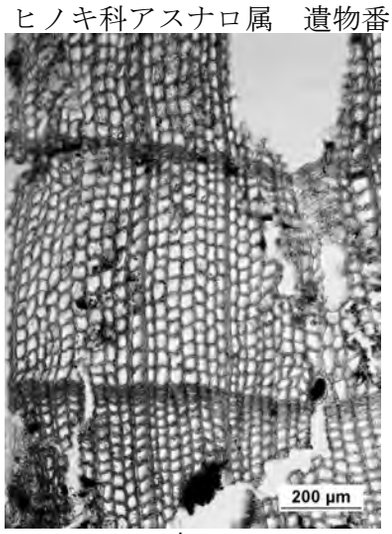
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1865





木口　　柾目　　板目

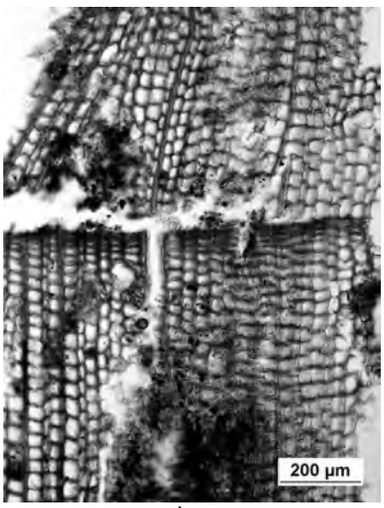
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1867

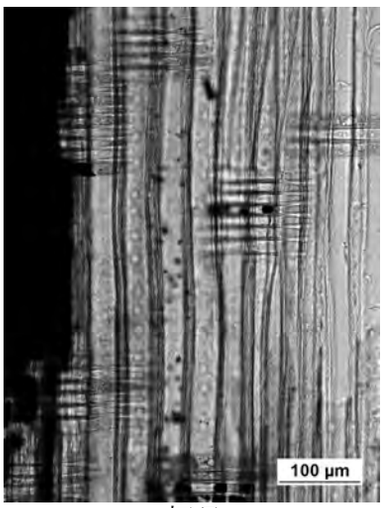


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1872

図版146　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（21）



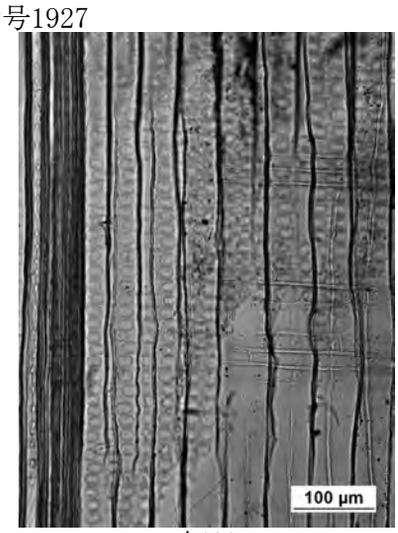


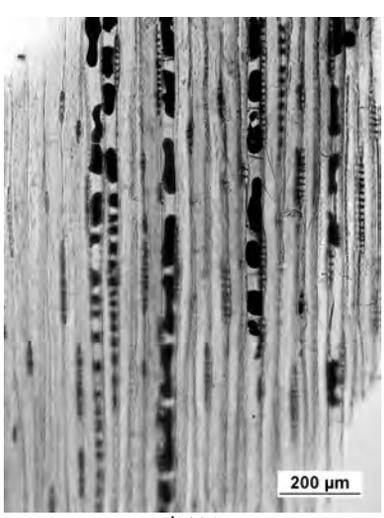
木口　　柾目　　板目

ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1879

木口　　柾目　　板目

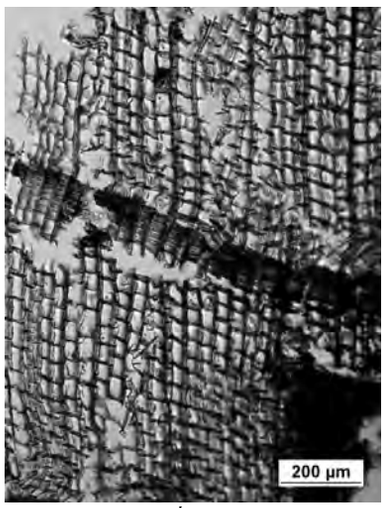
ヒノキ科アスナロ属　遺物番号1927

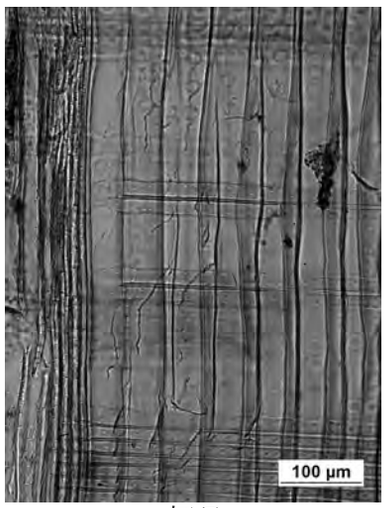




木口　　柾目　　板目

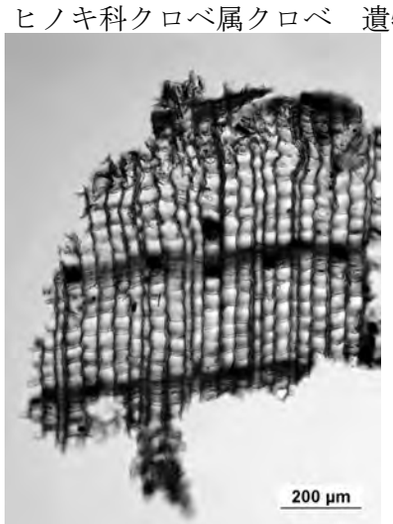
ヒノキ科クロベ属クロベ　遺物番号890

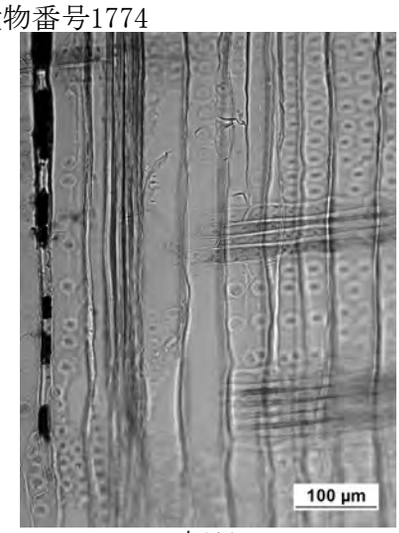


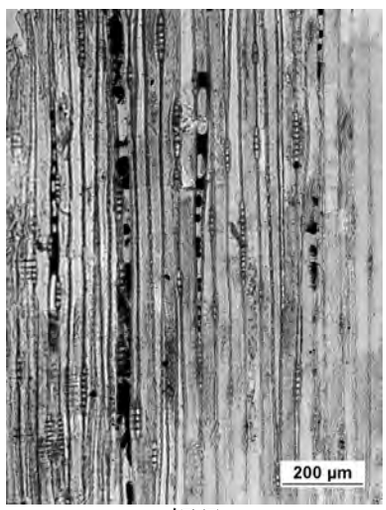


木口　　柾目　　板目

ヒノキ科クロベ属クロベ　遺物番号1774

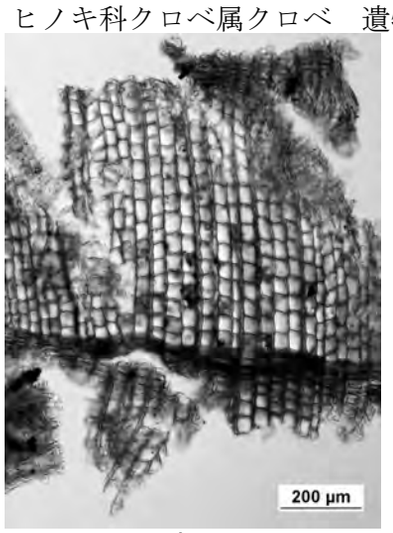






木口　　柾目　　板目

ヒノキ科クロベ属クロベ　遺物番号1896



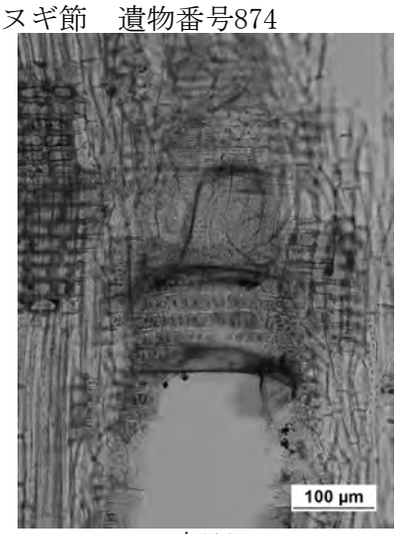
木口　　柾目　　板目

針葉樹　遺物番号1565（紡錘車の軸）

図版148　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（23）

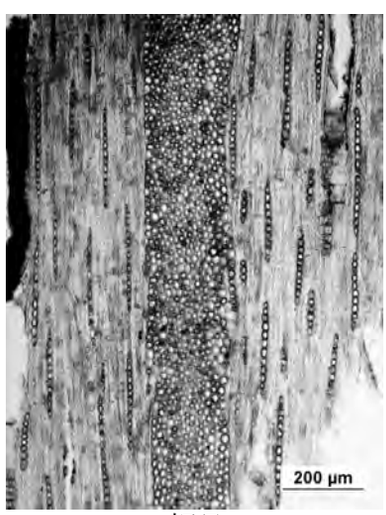
木口　　柾目　　板目

ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節　遺物番号874



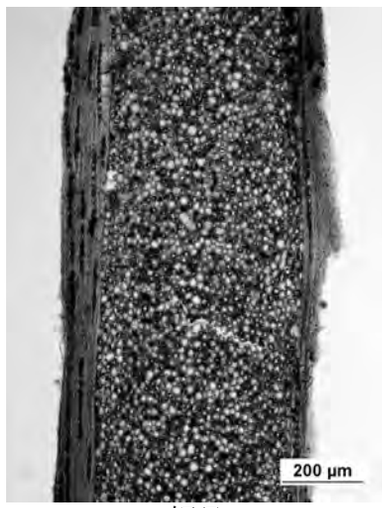
木口　　柾目　　板目

ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節　遺物番号1463



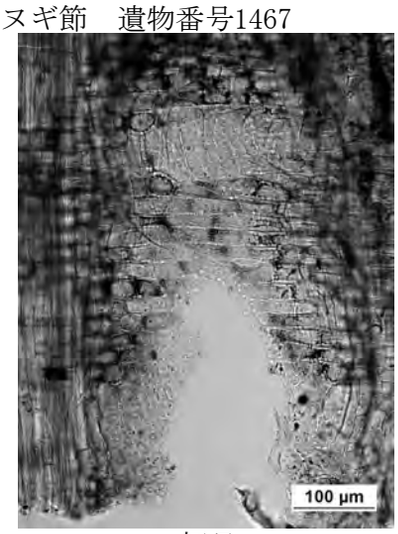
木口　　柾目　　板目

ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節　遺物番号1464



木口　　柾目　　板目

ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節　遺物番号1467



木口　　柾目　　板目

ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節　遺物番号1469

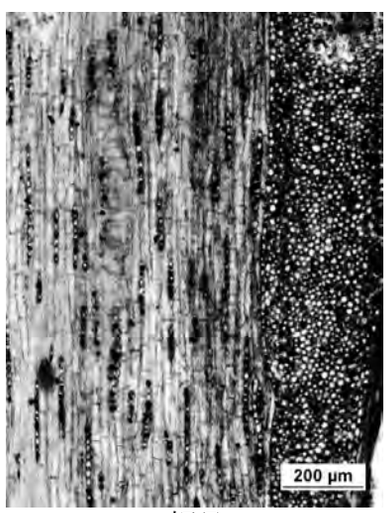
木口　　柾目　　板目

ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節　遺物番号1470

図版150　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（25）

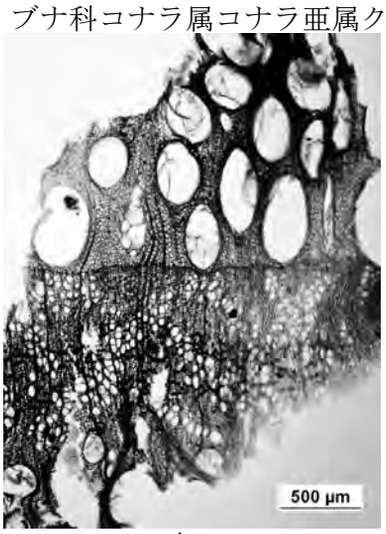
木口　　柾目　　板目

ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節　遺物番号1478



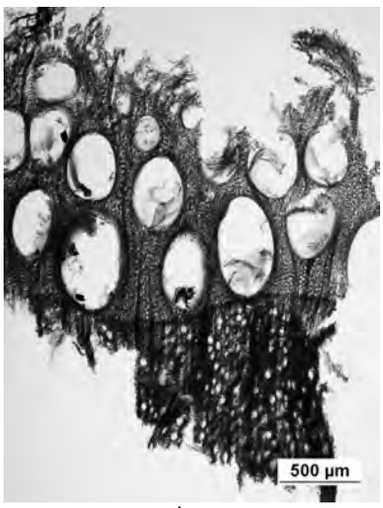
木口　　柾目　　板目

ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節　遺物番号1481



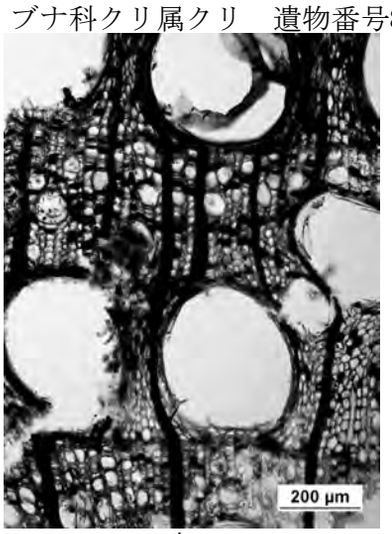
木口　　柾目　　板目

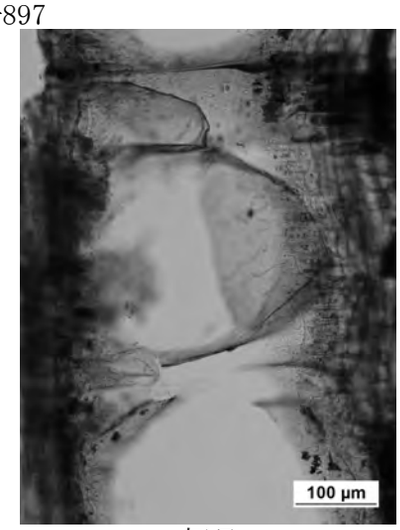
ブナ科クリ属クリ　遺物番号881



木口　　柾目　　板目

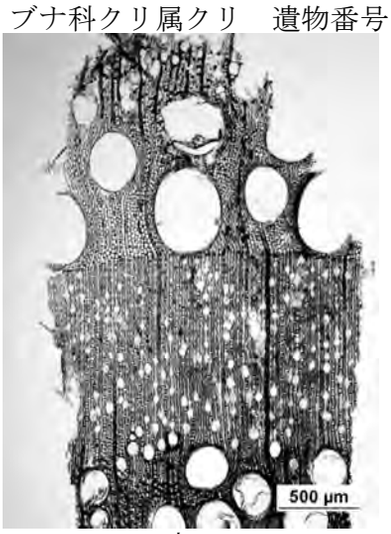
ブナ科クリ属クリ　遺物番号897

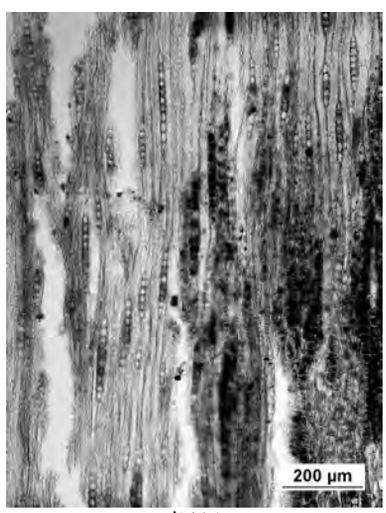




木口　　柾目　　板目

ブナ科クリ属クリ　遺物番号1788

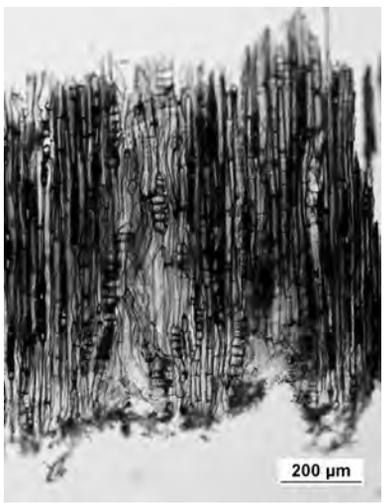




木口　　柾目　　板目

ブナ科クリ属クリ　遺物番号1796

図版152　平成20年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（27）

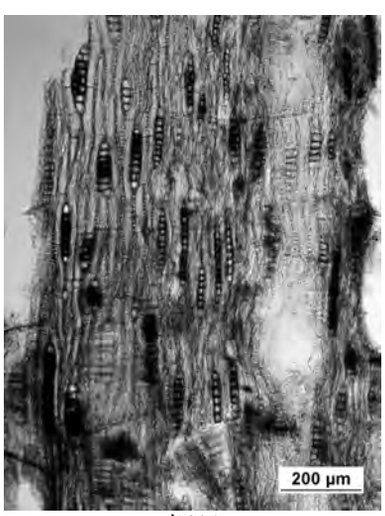


木口　　柾目　　板目

ブナ科クリ属クリ　遺物番号1805

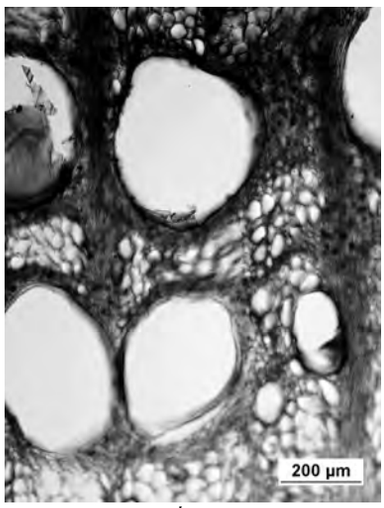
木口　　柾目　　板目

ブナ科クリ属クリ　遺物番号1860



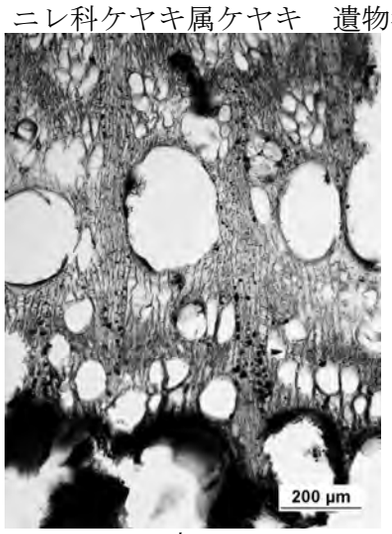
木口　　柾目　　板目

ブナ科クリ属クリ　遺物番号1897



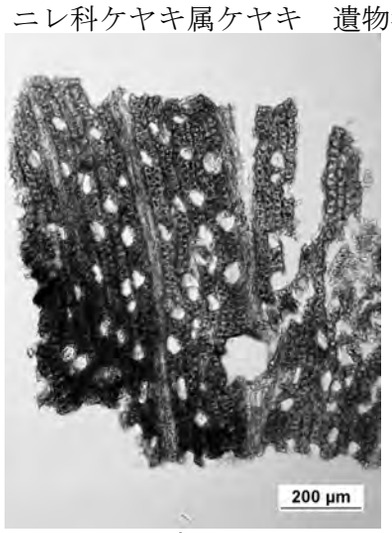
木口　　柾目　　板目

ニレ科ケヤキ属ケヤキ　遺物番号1488



木口　　柾目　　板目

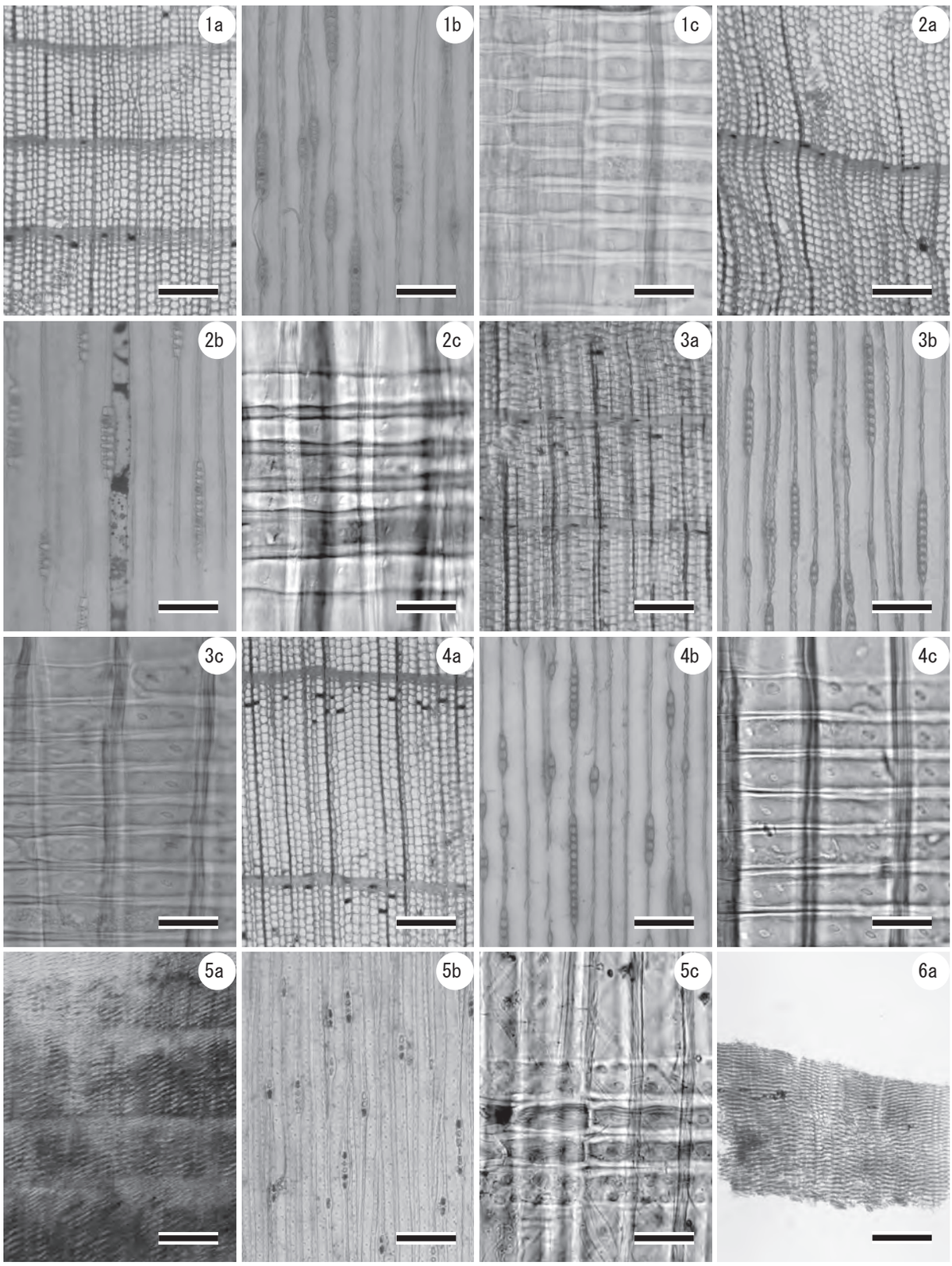
ニレ科ケヤキ属ケヤキ　遺物番号1493



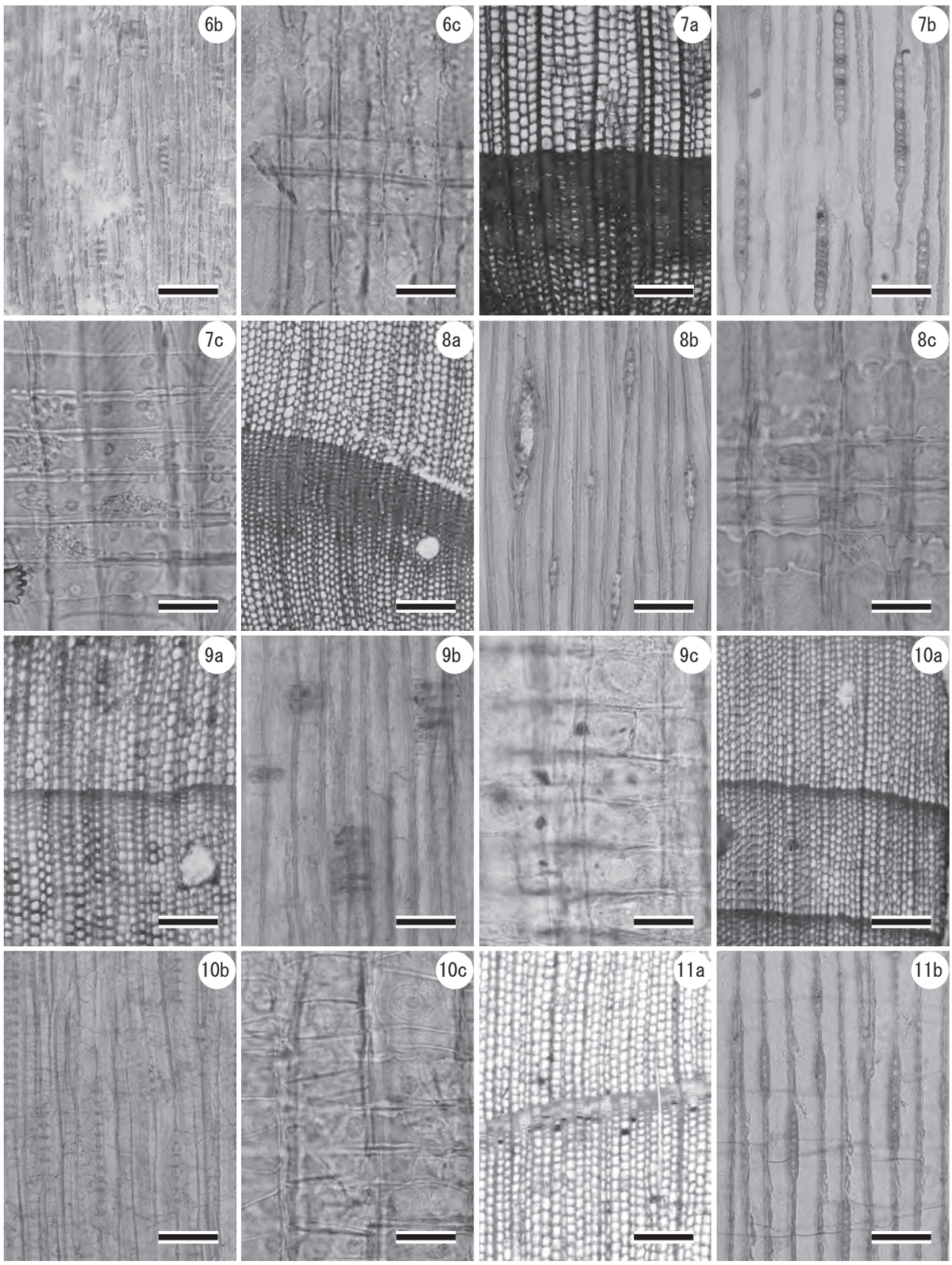
木口　　柾目　　板目

ミツバウツギ科ミツバウツギ属ミツバウツギ　遺物番号192

図版154　平成21年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（１）

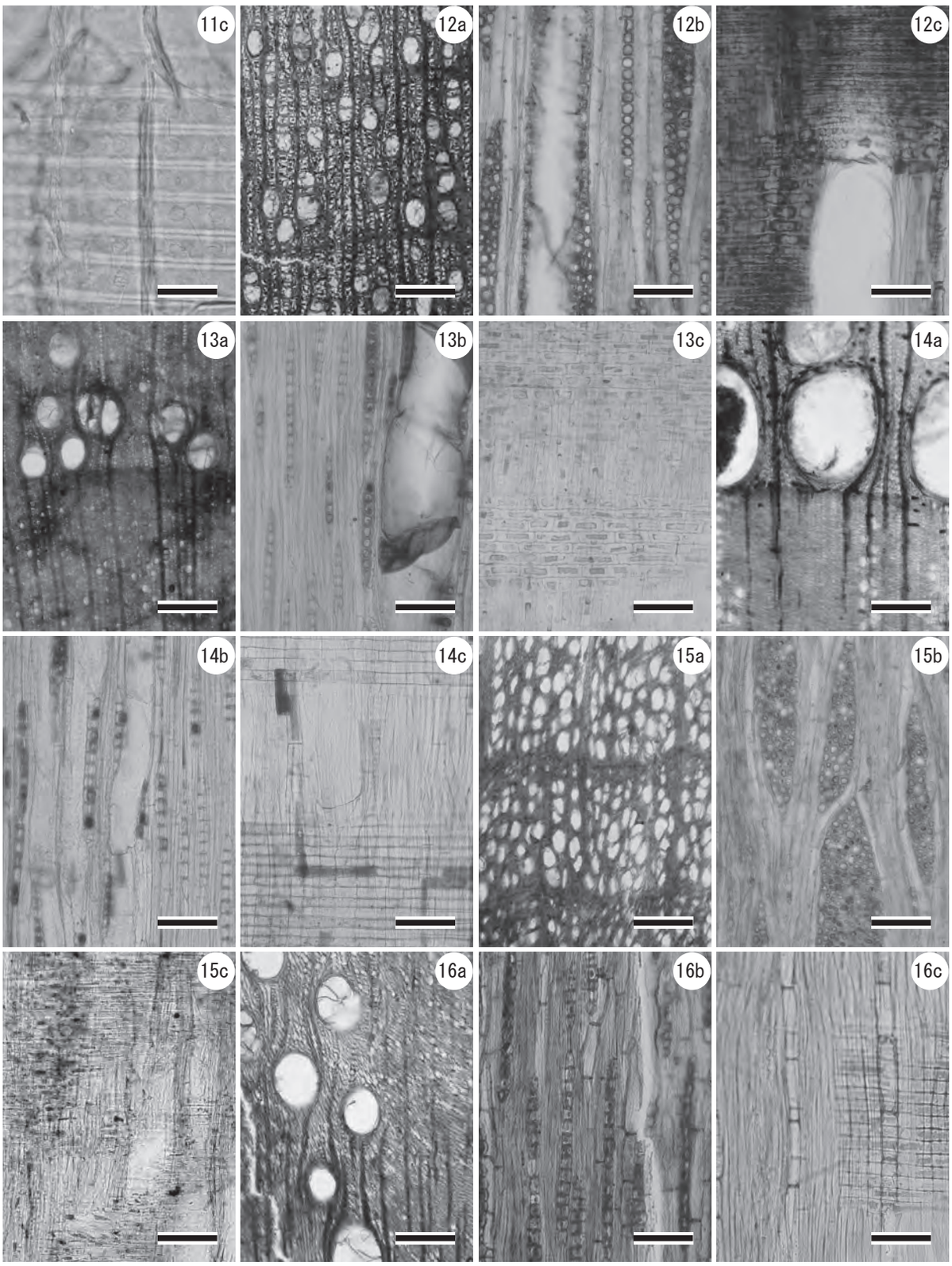


1a-1c. ヒノキ（遺物番号1910）　2a-2c. ヒノキ（遺物番号1811）　3a-3c. サワラ（遺物番号776）
4a-4c. サワラ（遺物番号803）　5a-5c. ネズコ（遺物番号729）　6a. ヒノキ科（遺物番号731）
a: 木口面（スケール=200 μm）　b: 板目面（スケール=100 μm）　c: 柾目面（スケール=25 μm）

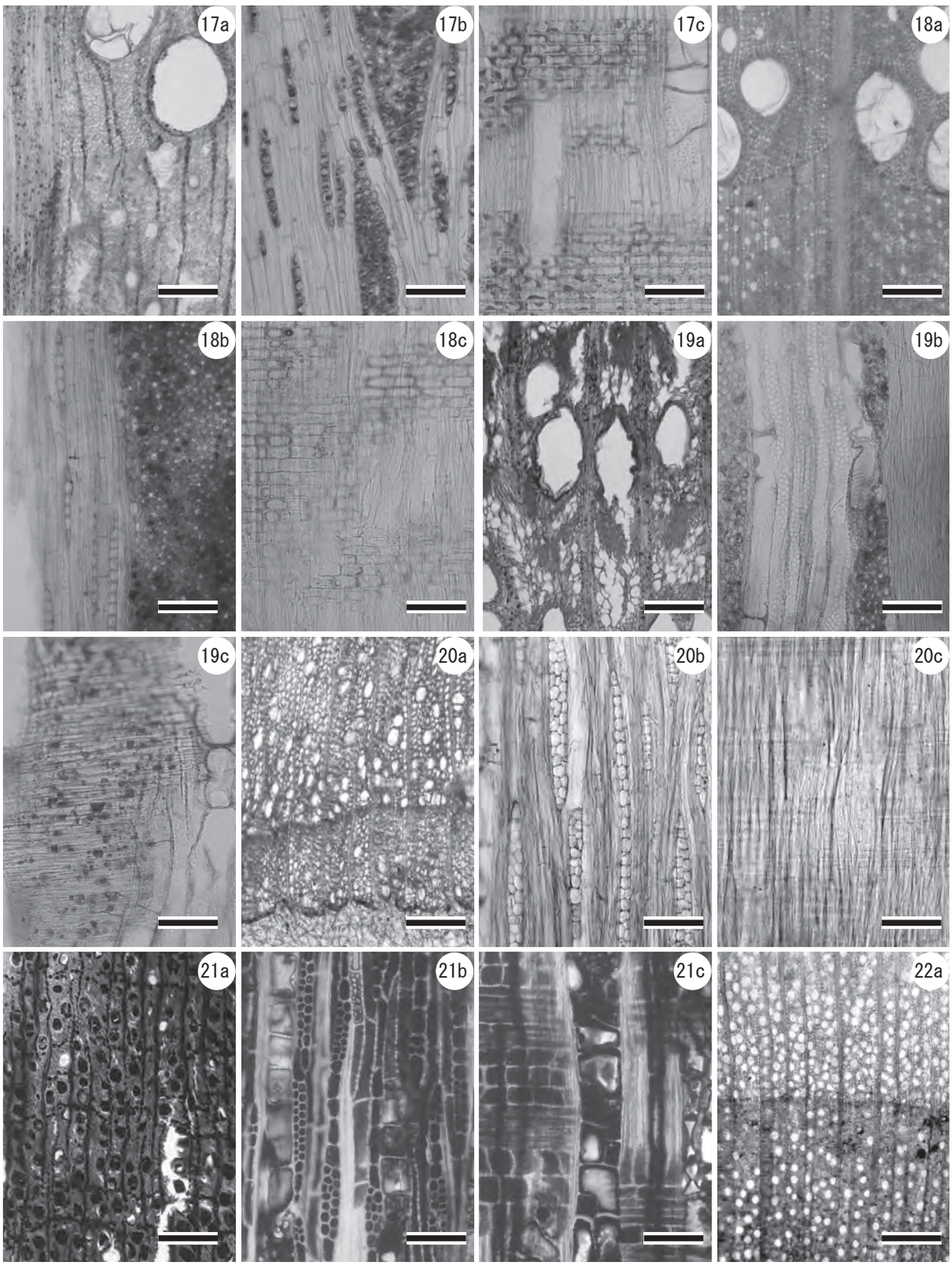


6b-6c. ヒノキ科（遺物番号731）　7a-7c. モミ属（遺物番号1890）　8a-8c. マツ属複維管束亜属（遺物番号541）
9a-9c. マツ属単維管束亜属（遺物番号1762）　10a-10c. カヤ（遺物番号1588）　11a-11b. スギ（遺物番号1804）
a: 木口面（スケール=200 μm）　b: 板目面（スケール=100 μm）　c: 柾目面（スケール=25 μm）

図版156　平成21年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（３）

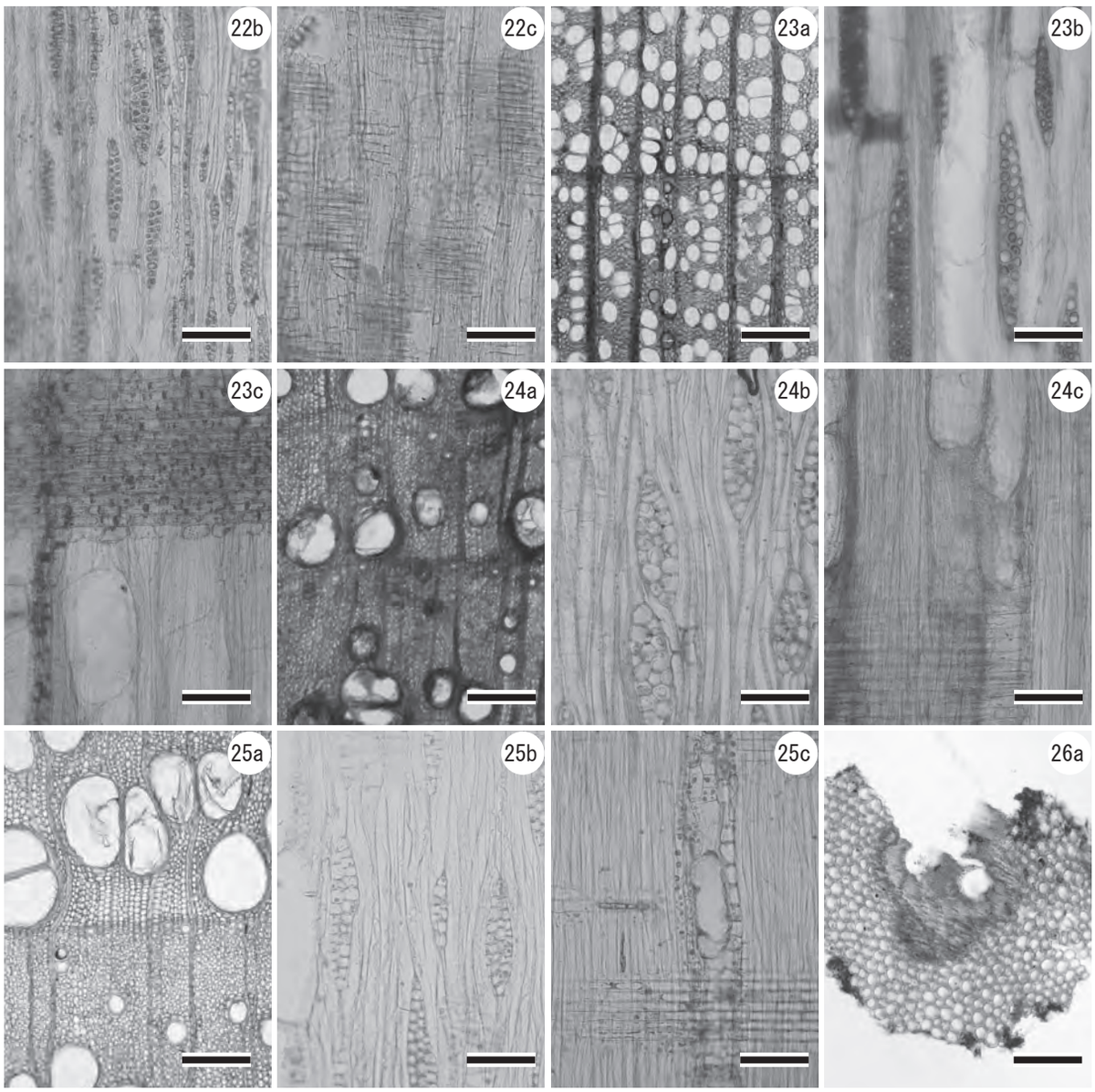


11c. ス ギ（遺物番号1804）　12a-12c. ア サ ダ（遺物番号1472）　13a-13c. ク リ（遺物番号539）
14a-14c. クリ（遺物番号1764）　15a-15c. ブナ属（遺物番号1491）　16a-16c. コナラ属アカガシ亜属（遺物番号1485）
a: 木口面（スケール=200 μm）b: 板目面（スケール=100 μm）　c: 柾目面（スケール=11:25 μm・12-16:100 μm）



17a-17c. コナラ属クヌギ節（遺物番号903）　18a-18c. コナラ属コナラ節（遺物番号540）
19a-19c. ケヤキ（遺物番号258）　20a-20c. モクレン属（遺物番号188）　21a-21c. イスノキ（遺物番号1563）
22a. ナシ亜科（遺物番号1761）
a: 木口面（スケール=200 μm）　b: 板目面（スケール=100 μm）　c: 柾目面（スケール=100 μm）

図版158　平成21年度樹種同定実施木器類の顕微鏡写真（５）



22b-22c. ナシ亜科（遺物番号1761）　23a-23c. サクラ属（遺物番号1746）　24a-24c. トネリコ属トネリコ節（遺物番号902）
25a-25c.　トネリコ属シオジ節（遺物番号1776）　26a. タケ亜科（遺物番号513）
a：木口面（スケール=200 μm）　b：板目面（スケール=100 μm）　c：柾目面（スケール=100 μm）

報　告　書　抄　録

ふりがな	のうちいせきしいちく
書名	野内遺跡Ｃ地区
副書名	
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第122集
編著者名	小淵忠司、野々田光則
編集機関	岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1-26-1　℡058-237-8550
発行年月日	2012年３月９日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
野内遺跡（のうちいせき） Ｃ地区（しいちく）	岐阜県（ぎふけん） 高山市（たかやまし） 上切町（かみぎりまち）	21203	09624	36° 09′ 54″	137° 13′ 43″	20050418 ～ 20051122 20060424 ～ 20060926	9,000㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野内遺跡 Ｃ地区	集落 田畑	古墳時代 平安時代	古墳時代水田跡　30 竪穴住居跡　1 古代水田跡　26 掘立柱建物跡　2	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、木器類	古墳時代水田跡区域から木製農具等が出土。古代水田跡区域から土器類・木器類が多量に出土。

要約	野内遺跡は縄文時代から近世までの複合遺跡である。今回、調査を行ったＣ地区では古墳時代と古代の水田跡・集落跡を検出した。古墳時代では、ナスビ形鍬をはじめとする木製農具が飛騨地域で初めて出土したことが特筆される。出土した古墳時代初頭の土師器には東海系、北陸系、信州系の個体が混在しており、周辺諸地域との活発な交流を窺うことができる。古代については、平安時代前半かそれにやや先立つ時期に水路の開削が行われ、水田が開かれたことを確認した。水田跡・水路跡からは曲物容器・杓子・箸・火付け木・馬形など多様な木器類が出土し、集落における森林資源活用の具体像を示すことができた。土器類には多量の墨書土器・硯・転用硯のほか京都産緑釉陶器がみられ、当遺跡の集落・水田が、公的な性格を帯びた生産拠点区域の一角を占める存在であった可能性を指摘することができる。

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第122集

野内遺跡Ｃ地区

（第２分冊）

2012年３月９日

編集・発行　岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印　　刷　新日本法規出版株式会社